

I 国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するために
とるべき措置

1 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

1-(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承

1-(1)-② 有形文化財の収集等

1-(1)-②-1 収蔵品一覧表

(単位：件) 令和2年3月31日現在

	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館			
	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	
合計	131,191	135	1,002	119,871	89	646	8,130	29	200	1,911	13	114	1,279	4	42	
絵画	13,756	35	218	11,191	21	104	2,124	9	60	305	4	44	136	1	10	
書跡	3,533	37	174	1,891	14	60	1,376	17	78	151	5	29	115	1	7	
彫刻	1,437	1	49	1,112	0	24	149	0	3	151	1	16	25	0	6	
建築	78	0	2	21	0	0	49	0	1	5	0	0	3	0	1	
金工	17,417	3	61	16,426	1	17	601	2	31	165	0	11	225	0	2	
刀剣	3,490	21	57	3,464	19	57				16	0	0	10	2	0	
陶磁	4,498	0	21	2,963	0	13	1,348	0	3	81	0	0	106	0	5	
漆工	4,762	6	31	3,951	4	19	529	0	3	106	2	5	176	0	4	
染織	4,873	2	29	3,772	0	20	959	1	8	94	1	1	48	0	0	
考古	30,354	5	76	28,621	5	55	699	0	11	736	0	8	298	0	2	
民族資料	1,375	0	0	1,264	0	0	0	0	0	101	0	0	10	0	0	
歴史資料	6,669	0	12	6,249	0	5	296	0	2	0	0	0	124	0	5	
和書	17,560	0	2	17,560	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
写真資料	2,267	0	2	2,267	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
その他	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	
東洋	絵画	709	4	31	709	4	31									
	書跡	1,714	10	13	1,714	10	13									
	彫刻	812	0	20	812	0	20									
	金工	1,041	0	0	1,041	0	0									
	陶磁	3,057	0	11	3,057	0	11									
	漆工	529	0	4	529	0	4									
	染織	609	0	1	609	0	1									
	考古	5,951	0	2	5,951	0	2									
	民族	3,555	0	0	3,555	0	0									
法隆寺献納宝物	324	11	184	324	11	184										
黒田記念館収蔵品	818	0	2	818	0	2										
準歴史資料(含和書)	0	0	0	0	0	0										

* 東京国立博物館は、列品管理規程による「東洋関係の列品」あり

京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館は、東洋の作品も「日本」に含む

* 列品管理規程改正により、新たに「写真資料」が追加され、東京国立博物館の列品「その他」は「写真資料」に変更した。

* 列品に編入されていない資料については、「準歴史資料(含和書)」の項目にするし、列品化整理中の資料と分けて表示している。

* 東京国立博物館、京都国立博物館では、国宝・重要文化財の数は文化庁の指定件数に合わせている。

1-(1)-②-1 (参考)
【奈良文化財研究所】

○保管及び所蔵文化財・資料概要 (主なもの)

保管及び所蔵文化財・資料名	数
[文化遺産部]	
国宝・重要文化財建造物保存図	約30,100枚
国宝・重要文化財建造物指摺本	約26,000枚
国宝・重要文化財建造物写真乾板	約32,200枚
北浦定政関係資料 (重要文化財)	約1,100点
棚田嘉十郎関係資料	26点
関野貞関係資料	54点
菅原大三郎関係資料	7箱
森道資料	約4,500点
村岡正資料	約3,000点
小林剛関係資料	約38箱
牛川喜幸関係資料	2,927点
塚原家寄贈資料 (歴史資料)	3箱
[都城発掘調査部 (平城地区)]	
平城宮跡出土木簡 (国宝)	3,184点
興福寺旧境内土庫 (一乗院震殿跡下層) 出土品 (重要文化財)	一括
平城宮・京出土土器・土製品	31,083箱
平城宮・京出土木製品・金属製品・石製品	35,479箱
平城宮・京出土瓦類	1,004,263箱
平城宮・京出土木簡	252,747点
塚原家寄贈資料 (考古資料)	7箱
[都城発掘調査部 (飛鳥・藤原地区)]	
軒丸瓦・軒平瓦	約36,872点
丸瓦・平瓦 土嚢袋	約167,847袋
丸瓦・平瓦 整理箱	約40,343箱
土器 整理箱	約16,792箱
土製品	約15,056点
木器・木製品	約34,323点
木簡	約35,323点
建築部材	約2,990点
金属製品	約19,947点
石器・石製品	約14,536点
漏刻復元模型	1点
幢幡復元模型 (台付き)	一式
飛鳥大仏頭部複製 (模刻)	1点
藤ノ木古墳塼復元模型	1点
富本銭杖銭復元模型	一式
基盤復元模型	1点
鉄釜製造土坑復元模型	1点
[飛鳥資料館]	
高松塚古墳出土品 (海獣葡萄鏡 銀製大刀金具 棺金具 ガラス小玉漆塗り木棺) (重要文化財)	一式
須弥山石	1点
石人像	1点
飛鳥寺塔跡出土舍利荘殿具	一式
飛鳥寺出土瓦類	一式
山田寺跡出土品 (重要文化財)	一括
和田麩寺鳥尾 (都城発掘調査部 (飛鳥・藤原地区) 所屬)	1点
川原寺出土水波紋石碑	2点
岡出土車石	8点
飛鳥各地出土瓦類	一式
川原寺裏山出土三尊佛仏	2点
飛鳥川原宮出土唐瓦敷	1点
高松塚古墳壁面模写 (前田青邨、平山郁夫等)	3面
高松塚古墳人物復元衣装	一式
石上神宮七枝刀レプリカ	1点
水落遺跡遺構1/20模型	1点
猿石模刻	一式
亀石模刻	1点
須弥山石復元模刻	1点
石人像復元模刻	1点
出水酒船石模刻	2点
阿武山古墳出土 玉枕 冠帽 復元模型	3点
川原寺伽藍1/50模型	1点
山田寺金堂復元	1点
飛鳥京復元模型	1点
山田寺発掘遺構1/100模型	1点
石舞台古墳1/20模型	1点
飛鳥寺発掘遺構1/100模型	1点
石のカラト古墳1/20模型	1点
野中寺銅造弥勒菩薩半伽像レプリカ	1点
銅造摩耶夫人及天人像レプリカ	4点
威奈大村骨蔵器レプリカ	1点
長谷寺法華説相図レプリカ	1点
諸陵周垣成就記並諸陵図譜	1点
鼓銅図録	1点
高松塚古墳木棺構造	1点
八釣マキト5号古墳石室	1点
十二支拓本 (表装済み・収納箱あり)	一式
キトラ古墳模型	1点
山東省済南市解放橋北唐墓石棺 青龍・白虎・小口面拓本	各1点
近藤千尋関連資料	1式

令和2年3月31日現在

保管及び所蔵文化財・資料名	数
武人復原	1点
山田寺灯籠復原	1点
具注歴木簡レプリカ	1点
天皇木簡レプリカ	1式
壬申の乱シオラマ	一式
牽牛子塚古墳ミニシオラマ	1点
キトラ古墳出土品金銅製銀座金具レプリカ	2点
キトラ古墳出土品銀鍍付六花形飾金具レプリカ	2点
キトラ古墳出土品大刀・銀製鞘尻金具レプリカ	2点
キトラ古墳出土品大刀・銀装把レプリカ	1点
キトラ古墳出土品鉄地銀張象嵌帯執金具レプリカ	3点
キトラ古墳出土品琥珀玉レプリカ	4点
キトラ古墳出土品金銅製銀座金具復元品	10点
キトラ古墳出土品銅釘復元品	一括
キトラ古墳出土品銀鍍付六花形飾金具復元品	10点
キトラ古墳出土品円環棺金具復元品	10点
飛鳥池遺跡出土施釉陶器復元品	3点
銀治工房風景想定復元図	1点
銅造観音菩薩立像 (夢違観音) 複製品	1体
隅田八幡宮人物画像鏡複製品	1点
山田寺仏頭複製品	1点
金銅小野毛人墓誌複製品	1点
筑前国嶋郡川辺里大宝2年戸籍残簡複製品	2点
人頭石 (光永寺) 複製品	1点
髯淵寺銅造観音菩薩立像複製品	1点
重要文化財岡勝寺銅鑄造模型 (下道依依母婦人骨蔵器)	1点
四十八体仏如来坐像複製	1点
丙寅年銘菩薩半伽像複製品	1具
於美阿志神社土塔婆のうち供養具	一括
牽牛子塚古墳出土品	一括
マルコ山古墳出土品	一式
高松塚古墳壁面漆喰印刷複製	一式
飛鳥池遺跡出土施釉陶器復元品	3点一式
飛鳥池遺跡出土木簡複製品	13点
暗文土師器復元作品 (脇田宗孝氏制作)	5点
一町長法寺押出仏複製品	1点
飛鳥寺塔跡出土 蛇行状鉄器複製品	1点
飛鳥寺塔跡出土 馬鈴複製品	1点
扶桑略記 巻二十一～二十八	7冊
高松塚古墳石室 原寸模型	1台
高松塚古墳石室 1/20模型	1台
[埋蔵文化センター]	
埼玉県真福寺貝塚資料	一式
岡山県福田貝塚資料	一式
埼玉県上福岡貝塚資料	一式
神奈川県戸田遺跡資料	一式
神奈川県子母口貝塚	一式
神奈川県大口坂貝塚資料	一式
能登縄文資料 (15遺跡)	一式
千葉県曾谷貝塚資料	一式
長野県石小屋遺跡資料	一式
山形県蛭沢洞窟資料	一式
東京都小沢貝塚資料	一式
茨城県広畑貝塚資料	一式
中国・朝鮮瓦磚資料	一式
岡山地方陶棺資料	一式
下総国分寺・尼寺資料	一式
関東地方加曾利B式資料	一式
岩手県足沢遺跡資料	一式
茨城県浮島貝塚資料	一式
千葉県幸田貝塚資料	一式
滋賀県安土遺跡資料	一式
岡山県黒土遺跡資料	一式
神奈川県保土ヶ谷貝塚資料	一式
千葉県姥山貝塚資料	一式
宮城県川下り・響き資料	一式
大木崩貝塚	一式
東貝塚	一式
室浜貝塚	一式
福浦島貝塚	一式
里浜貝塚	一式
東北縄文晩期末資料	一式
東北各地発見縄文資料	一式
北海道資料	一式
発見地不詳縄文資料	一式
発見地不詳須恵器資料	一式
発見地不詳石器・石斧資料	一式
愛知県西滋賀貝塚資料	一式
愛知県吉胡貝塚資料	一式
茨城県前浦遺跡資料	一式
関東地方埴輪資料	一式
静岡県登呂遺跡資料	一式
発見地不詳須恵器資料	一式
発見地不詳石器・石斧資料	一式
愛知県西滋賀貝塚資料	一式
茨城県前浦遺跡資料	一式
関東地方埴輪資料	一式
現生動物標本	一式
年輪年代学用木材標本	一式

1-(1)-② -2(参考)

収蔵品・寄託品件数合計(過去5か年)

(単位:件) 令和2年3月31日現在

		平成27年度			平成28年度			平成29年度			平成30年度			令和元年度		
		計	国宝	重文												
収蔵品・ 寄託品 合計	国立博物館 計	138,897	333	2,380	139,582	327	2,172	140,448	330	2,193	142,680	332	2,180	143,576	329	2,180
	東京国立博物館	120,004	142	892	120,267	143	894	120,569	144	903	122,194	144	897	122,462	141	891
	京都国立博物館	13,644	119	1,003	13,983	114	818	14,212	115	822	14,509	116	812	14,650	117	815
	奈良国立博物館	3,839	67	439	3,844	65	411	3,855	66	417	3,882	66	418	3,885	65	420
	九州国立博物館	1,410	5	46	1,488	5	49	1,812	5	51	2,095	6	53	2,579	6	54
収蔵品	国立博物館 計	126,872	131	963	127,455	132	983	128,208	134	997	130,211	135	994	131,191	135	1,002
	東京国立博物館	116,932	87	634	117,192	88	636	117,460	89	643	119,064	89	644	119,871	89	646
	京都国立博物館	7,532	28	183	7,794	28	198	7,977	29	202	8,075	29	196	8,130	29	200
	奈良国立博物館	1,883	13	112	1,886	13	112	1,893	13	113	1,908	13	113	1,911	13	114
	九州国立博物館	525	3	34	583	3	37	878	3	39	1,164	4	41	1,279	4	42
寄託品	国立博物館 計	12,025	202	1,417	12,127	195	1,189	12,240	196	1,196	12,469	197	1,186	12,385	194	1,178
	東京国立博物館	3,072	55	258	3,075	55	258	3,109	55	260	3,130	55	253	2,591	52	245
	京都国立博物館	6,112	91	820	6,189	86	620	6,235	86	620	6,434	87	616	6,520	88	615
	奈良国立博物館	1,956	54	327	1,958	52	299	1,962	53	304	1,974	53	305	1,974	52	306
	九州国立博物館	885	2	12	905	2	12	934	2	12	931	2	12	1,300	2	12

1-(1)-②-3 令和元年度新収品一覧表

(単位：件)

令和2年3月31日現在

	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館			
	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	
合計	980			807			55			3			115			
計	87	125	768	11	28	768	24	31	0	3	0	0	49	66	0	
絵画	31	9	0	3	1	0	22	7	0	0	0	0	6	1	0	
書跡	2	8	0	0	6	0	0	2	0	1	0	0	1	0	0	
彫刻	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	
建築	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
金工	3	12	0	0	4	0	1	8	0	1	0	0	1	0	0	
刀剣	0	1	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	
陶磁	1	11	0	0	3	0	1	3	0	0	0	0	0	5	0	
漆工	1	8	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	7	0	
染織	3	7	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0	3	0	0	
考古	34	10	0	0	3	0	0	3	0	0	0	0	34	4	0	
民族資料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
歴史資料	3	50	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3	49	0	
和書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
写真資料	0	0	767	0	0	767	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
東洋	絵画	3	1	0	3	1	0	/								
	書跡	0	0	0	0	0	0									
	彫刻	4	0	0	4	0	0									
	金工	0	1	0	0	1	0									
	陶磁	0	1	0	0	1	0									
	漆工	0	0	0	0	0	0									
	染織	0	0	0	0	0	0									
	考古	0	4	0	0	4	0									
	民族	0	1	0	0	1	0									
法隆寺献納宝物	0	0	1	0	0	1	/									
黒田記念館収蔵品	1	1	0	1	1	0										

* 東京国立博物館は、列品管理規程による「東洋関係の列品」あり

* 列品管理規程改正により、新たに「写真資料」が追加され、東京国立博物館の列品「その他」は「写真資料」に変更した。

付表・文化財収集件数の推移

5年間の新収品一覧表

(単位：件)

	平成27年度			平成28年度			平成29年度			平成30年度			令和元年度		
	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入
合計	1,106			525			754			2,005			980		
小計	43	563	500	63	318	144	64	518	172	154	348	1,503	87	125	768
絵画	14	10	0	13	36	0	18	17	5	8	22	0	31	9	0
書跡	5	29	0	7	42	0	8	47	2	3	50	0	2	8	0
彫刻	0	2	0	1	3	0	5	2	0	2	3	0	1	0	0
建築	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
金工	5	48	0	1	32	0	3	253	8	3	21	0	3	12	0
刀剣	0	11	0	0	2	0	0	0	10	1	0	0	0	1	0
陶磁	5	211	0	6	143	0	10	123	5	15	44	0	1	11	0
漆工	3	135	0	2	7	0	2	12	93	4	23	0	1	8	0
染織	2	4	0	4	8	0	1	7	47	30	21	0	3	7	0
考古	0	11	0	4	6	4	11	18	2	81	120	2	34	10	0
民族資料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
歴史資料	0	16	500	17	8	134	4	2	0	6	1	0	3	50	0
和書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
写真資料	/			/			/			/			0	0	767
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,500	0	0	0	0
東洋	絵画	0	0	0	0	4	0	1	0	0	15	0	3	1	0
	書跡	0	0	0	1	0	0	2	0	0	18	0	0	0	0
	彫刻	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0
	金工	1	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	1	0
	陶磁	0	5	0	1	0	0	2	2	0	1	0	0	1	0
	漆工	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	染織	8	2	0	6	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
	考古	0	48	0	0	0	5	0	11	0	3	0	0	4	0
	民族	0	22	0	0	27	0	0	21	0	0	0	0	1	0
法隆寺献納宝物	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1	
黒田記念館収蔵品	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	

1-(1)-②-4 令和元年度新収品一覧

【東京国立博物館】(計39件)

(1) 購入 (11件)

<絵画> (3件)

1 名称	重要文化財 浜松図屏風 (はまつずびょうぶ)	品 質	紙本着色
作 者 等	伝土佐光重筆	員 数	6曲1双
時 代	室町時代・15世紀	寸 法 等	本紙 各 縦160.4cm 横355.4cm
作品概要	屏風装。6曲1双の大画面を一つの連続したフレームとして、雄渾な浜辺の景とそこに生じる松を描く。右左隻の天地三分の二以上を海の水が占め、その手前の海岸線に大きく屈曲する背の高い松と岩を配す。山型を重ねた波はリズムカルに配され、海原には漁をする舟の姿も確認できる。下地に雲母を掃き、雲や霞に金銀の切箔や砂子を撒くなど、室町時代やまと絵屏風の典型的な技法を用いる。従来、里見家本「浜松図屏風」と呼ばれてきた、現存最古級の「浜松図屏風」である。昭和二十年後半に見いだされ、その出現により室町時代やまと絵「再評価」のきっかけとなった作品である。		

2 名称	重要美術品 山水人物図屏風 (さんすいじんぶつずびょうぶ)	品 質	紙本墨画淡彩
作 者 等	伝賢江祥啓 (生没年不詳) 筆	員 数	4曲1双
時 代	室町時代・16世紀	寸 法 等	本紙各 縦78.4cm 横195.6cm
作品概要	屏風装。4曲1双の中屏風。向かって右隻には、梅花の咲く汀に高士 (林和靖か) と従者二名、また水辺には船上で釣りをする高士を描く。左隻には、松樹の下で菊花に囲まれて酒を嗜む高士 (陶淵明か) と従者、さらに酒肴を運ぶ二名の姿を描く。画面に款印はないものの、整理された岩皺、芦や樹木の描写、特徴的な形態の遠山、藍や代赭を多用する色彩感覚など、いずれも関東水墨画の中心的画人である賢江祥啓 (生没年不詳) の画風にきわめて近似する。昭和47年 (1972) に神奈川県立博物館 (現・神奈川県立歴史博物館) で開催された特別展「鎌倉の水墨画―画僧祥啓の周辺―」に出陳されて以降、長らく所在不明であった。		

3 名称	葡萄栗鼠図 (ぶどうりすず)	品 質	紙本墨画
作 者 等	元賀 (生没年不詳) 筆	員 数	1幅
時 代	室町時代・16世紀	寸 法 等	本紙 縦47.8cm 横28.2cm
作品概要	掛幅装、牙軸。画面上部に葡萄の葉と房を表し、下部には斜めに横切る枝茎と、葡萄の実をくわえて見上げる栗鼠を描く。葡萄・栗鼠ともに多産の象徴であり、そうした吉祥画として制作されたものとみられる。葡萄の実や葉は没骨で表すのに対し、栗鼠は細線を駆使して描くなど、随所に対比的な表現がみられ、また骸骨のような枝茎の奇態が印象的な作品である。画風や表現の比較により、朝鮮王朝時代中期頃の葡萄図との関係が指摘されている。山口県立美術館所蔵の元賀筆「葡萄図」と元来一対をなしていた画幅である。		

<東洋絵画> (3件)

4 名称	如来像 (によらいぞう)	品 質	土壁彩色
作 者 等		員 数	1面
時 代	6~7世紀	寸 法 等	高17.0cm 幅12.0cm 奥行5.5cm
作品概要	如来坐像1尊を描いた壁画の断片。如来は頭の後ろに頭光、身体の後ろに身光をそれぞれ表わす。着衣の形式は通肩である。両手は腹部の前で禪定印を結ぶ。坐勢は結跏趺坐である。壁の下地層にはササが残っているほか、レンガの上に塗ったであろう痕跡が認められる。本作品は下地層がかなり厚いことから、おそらくホータンの平地に建てられた寺院、しかもかなり大きな建造物の壁面の一部であったと考えられる。		

5 名称	菩薩像 (ぼさつぞう)	品 質	土壁彩色
作 者 等		員 数	1面
時 代	6~7世紀	寸 法 等	高17.0cm 幅13.5cm
作品概要	菩薩2尊を描いた壁画の断片。右側の菩薩は頭の後ろに光背を表わす。両手で器物を持って前に差し出し、蓮の上に坐す。左側の菩薩も右側の菩薩と同様に、頭の後ろに光背を表わし、両手で器物を持って前に差し出す。ただし下半身は欠損する。おそらく本作品は、ホータンの平地に建てられた寺院の壁面の一部を構成していたと考えられる。		

6 名称	蓮華 (れんげ)	品 質	土壁彩色
作 者 等		員 数	1面
時 代	7~8世紀	寸 法 等	高18.5cm 幅22.3cm
作品概要	蓮華を描いた壁画の断片。蓮華の左右両側に線が引かれていることから、装飾文様の一部であったと考えられる。おそらく本作品は、ホータンの平地に建てられた寺院の壁面の一部を構成していたと考えられる。		

<東洋彫刻> (4件)

7 名称	象 (ぞう)	品 質	ストウッコ
作 者 等		員 数	1個
時 代	6世紀	寸 法 等	高17.0cm 幅11.0cm 奥行5.8cm
作品概要	正面向きの象を表わしたストウッコの断片。象の左耳、前脚を欠損する。ホータン出土の本作品は、大谷探検隊がクチャ地方のクムトラ石窟で採取した象形装飾 (TC-506-2) に類似する。おそらく作品は、仏堂などに安置された仏像の台座に貼り付けられていたものと考えられる。		

8 名称	飛天像 (ひてんぞう)	品 質	ストウッコ
作 者 等		員 数	1個
時 代	6世紀	寸 法 等	高13.3cm 幅10.0cm 奥行4.0cm
作品概要	飛天を表わしたストウッコの断片。飛天は頭の後ろに光背を表わす。右腕、左前腕は欠損する。本作品は、大谷探検隊がホータンで採取したストウッコ製の「飛天上半身像」 (TC-501-3) と同様のものであるといえる。おそらく本作品は、仏堂内の壁体上方に貼り付けられていたものと考えられる。		

9 名称	天部像 (てんぶぞう)	品質	ストウツコ、彩色
作者等		員数	1個
時代	6~7世紀	寸法等	高12.0cm 幅10.5cm 奥行3.5cm
作品概要	蓮華化生した姿を表わしたストウツコの断片。頭に宝冠を戴き、両手で長い瓔珞の両端をつまむ。本作品は、大谷探検隊がホータンで採取したストウツコ製の「月天像」(TG-501-1)、「蓮華化生像」(TG-501-2)などと図像学的にも類似するとともに、彩色の残りもよい。おそらく本作品は、仏堂内の壁面に貼り付けられていたものと考えられる。		

10 名称	連珠文装飾 (れんじゅもんそうしよく)	品質	ストウツコ、彩色
作者等		員数	1個
時代	6~7世紀	寸法等	高8.2cm 幅10.5cm 奥行1.8cm
作品概要	連珠文装飾を表わしたストウツコの断片。表面に赤、緑、青などの彩色を施す。おそらく本作品は、仏堂内の壁面の際、あるいは仏像の台座などに貼り付けられていたと考えられる。		

<黒田記念館収蔵品>(1件)

11 名称	佐野昭肖像 (さのあきらしょうぞう)	品質	カンヴァス・油彩
作者等	黒田清輝 (1866~1924) 筆	員数	1面
時代	明治32年(1899)	寸法等	縦40.2cm 横32.3cm
作品概要	黒田清輝と親交の深かった彫刻家の佐野昭 (1865~1955) の肖像である。佐野は工部美術学校で彫刻を学んだ後、宮内省内匠寮の片山東熊に師事し、明治28年には内匠寮の技手として採用、東宮御所 (現、迎賓館赤坂離宮) の彫刻装飾等を担当する。一方で白馬会に参加し、中心メンバーであった黒田清輝らと公私にわたり親交を結んだ。 作品左上には「明治三十二年一月五日/駿州静浦保養館ニ於テ写ス 黒田清輝」とあるが、黒田の日記にも明治32年の正月は佐野らと沼津の静浦で迎え、佐野の肖像画を手がけたことが記されている。旅先で制作された小品ということもあり、写真で伝えられる佐野の風貌をよく捉えながらも、細部まで丹念に描きこまれたものではないが、親しい人物を感興に任せてのびやかな筆致で描き出している点で、当時の洋画界に清新な作風をもたらした黒田の持ち味が発揮された作といえる。 額縁は佐野がこの作品のためにフランスから取り寄せたものであるという話が伝わっている。ただ、下辺中央にある「S. KURODA」と記された装飾プレートは後補であろう。額裏面左には「清輝」と記されたシールが貼付。四隅の止め金具と裏蓋は近年の新調で、裏蓋には東京美術倶楽部鑑定委員会発行の鑑定証書 (平成12年5月25日付) が添付されている。		

(2) 寄贈 (28件)

<絵画>(1件)

1 名称	髪 (かみ)	品質	絹本着色
作者等	池田蕉園 (1886~1917) 筆	員数	2曲1隻
時代	明治44年(1911)	寸法等	本紙 縦157.4cm 横164.8cm 総寸 縦178.8cm 横183.2cm
作品概要	屏風装。髪の様子を合わせ鏡で確認する振袖を着た若い女性と、その手伝いをしているとみられる小袖をきた年増の女性を描く。若い女性は勝山髷に結いながら鉄漿、引き眉はしておらず、前髪の櫛のところに赤いリボン状の飾りをつけ、袖の長い華やかな振袖を着、背後には絞り模様のある白い着物を無造作に掛けた衣箱が描かれているので、婚礼前の少女が事前に婚礼衣装や髷の合わせを行う期待感に満ちた幸せなひと時を描いたものとも考えられる。		

<書跡>(6件)

2 名称	和歌 (わか)	品質	彩箋墨書
作者等	尾上柴舟 (1876~1957) 筆	員数	1幅
時代	昭和時代・20世紀	寸法等	本紙 縦26.8cm 横39.5cm
作品概要	掛幅装。『古今和歌集』『春』上下から4首選んで認めた書である。		

3 名称	書状(長尾雨山宛) (しよじょう (ながおうざんあて))	品質	紙本墨書
作者等	岡倉天心 (1862~1913) 筆	員数	1通・1幅
時代	明治40年(1907)	寸法等	書簡本紙 縦24.5cm 横33.5cm 掛幅本紙 縦23.8cm 横32.5cm
作品概要	掛幅装。唐時代の詩人李白の「塞上曲」を踏まえ、岡倉天心が作詞した漢詩にたいして長尾雨山に批評を請うた書状と漢詩部分を掛幅に仕立てたものからなる。書状から明治40年2月雨山へ依頼をしていることがわかる。漢詩部分を掛幅装に仕立てたのは旧蔵者の安田鞆彦である。 長尾雨山(1864~1942)は、明治~昭和時代前期の漢学者、書家。五高、東京美術師などの教授を歴任。明治36年に上海へ渡航し教科書の編集にあたる。大正3年帰国、京都に住む。平安書道会副会長。没後に「中国書画話」が刊行された。		

4 名称	書状(丸山貫長宛) (しよじょう (まるやまかんちょうあて))	品質	紙本墨書
作者等	岡倉天心 (1862~1913) 筆	員数	3通
時代	明治25年(1892)~26年(1893)	寸法等	① 縦18.0cm 横145.5cm ② 縦18.5cm 横117.0cm ③ 縦18.5cm 横77.0cm
作品概要	いずれも岡倉天心(1863~1913)が丸山貫長(1843~1927)に宛てた書状である。 丸山貫長は豊科高家(とよしなたきべ)熊倉(現安曇野市)の生まれ。幼名を伊太郎、法名を公雄と称し、虎洞・虚心・堅海・精進山人などと号した。嘉永4年(1851)、父に従って江戸に出て浅草大護院道本について書を学ぶ。安政5年(1858)、穂高牧(現安曇野市)の真言宗満願寺で僧籍に入り、公忠和尚に従って4年間修行する。文久元年(1861)から明治12年(1879)までの19年間、大和の長谷寺で修学、主として能満院海如和尚に就いて研鑽する。 この間、明治7年には、長谷寺普門院住職となり、訓導を拝命。明治9年、廃仏毀釈のため廃寺となった満願寺を再興するため、観音講社を設立し再興に奔走。その後、室生寺住職17年間、同寺の文化財保存に尽力し、その後、大蔵寺住職となり、18年間勤め三等司教を拝命。また、法隆寺にて九面観音を摸刻したほか、『不二宗義真教興隆論』・『如意法幢』等の著述も残す。大正9年(1920)に、大阪府観音寺の国宝大随求菩薩像を五十余日かけて模写。昭和2年6月、84歳で死去。 岡倉天心との関係は、明治21年(1888)近畿地方社寺調査の際、天心一行が室生寺を訪ねた際に出会ったことがきっかけである。国の施策とはまったく別個に奈良の山中において文化財保護に取り組んでいた丸山貫長の行動に感銘、また仏道の師とも仰ぎ、終生親しく接した。		

5 名称	和歌（わか）	品 質	彩箋墨書
作者等	中山愛親（1741～1814）筆	員 数	1幅
時 代	江戸時代・18～19世紀	寸 法 等	本紙 縦32.1cm 横40.6cm
作品概要	掛幅装、牙軸。天には藍、地には紫の紙の繊維を雲形に漉き込んだ打曇紙に、濃いめの墨を長鋒の筆に染めて、古歌1首を和様の筆致で揮毫する。墨継ぎは1行目「百」、3行目「前」、4行目「阿」、6行目「春」、10行目「あ」の4度で、全11行からなる。この和歌は、平安末から鎌倉初期の天台座主で歌人の慈円（1155～1225）の作で、富士山の噴煙がたなびく春の曙の空を詠んだもの。正治2年（1200）後鳥羽院に指名された歌人が百首を詠進した『正治後度百首』の一首で、『古今和歌集』巻第一春歌上に収められる。その書は、漢字・仮名とも筆致は円運動を多用し、丸みを誇張した字形が連続する。球体が膨張したような字姿で和歌が揮毫されるが、最終の文字である「空」だけは書風が異なり、紙面全体を効果的に引締める。		

6 名称	燕（つばめ）	品 質	紙本墨書
作者等	手島右卿（1901～87）筆	員 数	1面
時 代	昭和35年（1960）	寸 法 等	本紙 縦70.0cm 横51.0cm
作品概要	額装。「燕」一文字を料紙全体を使って表現した、手島右卿の代表作といえる作品。手島右卿自身がこれについて次のように説明している。「つばめが飛びまわる流動的な感じを線の動きで出したもので、『つばめ返し』のような感じの線も出ていると思う。ムーヴメントが一番重きをおいた」（『現代の書道Ⅴ草書Ⅱ』1969年、講談社）。このように、文字の意味を視覚的形象で表現することを、手島右卿は「象書（しょうしょ）」と提唱した。		

7 名称	いろは屏風（いろはびょうぶ）	品 質	紙本墨書
作者等	貫名菘翁（1778～1863）筆	員 数	6曲1双
時 代	江戸時代・万延元年（1860）	寸 法 等	各扇寸法 縦130.8cm 横52.2cm 総寸 各隻 縦172.0cm 横405.0cm
作品概要	屏風装。いろは四十七文字を、1紙あたり1行4字を基本に、12枚の料紙に揮毫し、それらを各扇に貼りこんで一双の屏風に仕立てたもの。その書は、字形こそ平仮名だが、唐様書風に裏打ちされた漢字の線質で一貫する。連綿は「き」から「ゆ」への1箇所のみで、残りの平仮名はすべて単体で揮毫される。		

<金工>（4件）

8 名称	自在蝗置物（じざいいなごおきもの）	品 質	銀鍛造
作者等	高瀬好山（1869～1934）作	員 数	1個
時 代	大正～昭和時代・20世紀	寸 法 等	体長7.2cm
作品概要	銀鍛造、蝗の体、顔、足、羽などを銀板の鍛造で成形し、各部にややゆるぎを持たせて鎮留めする。高瀬好山は明治～昭和初期にかけて活動した金工家で、中でも銀・銅・真鍮・鉄などを用いて動物や昆虫などを写実的かつ動くように組み上げる「自在置物」の制作、プロデュース、及び輸出経営に力を注いだことで知られる。		

9 名称	蓬萊鏡（ほうらいきょう）	品 質	銅鑄造
作者等		員 数	1面
時 代	室町時代・15～16世紀	寸 法 等	径11.3cm 縁高1.1cm 縁幅0.35cm 重量360.0g
作品概要	銅鑄造、円形。直角式中縁。鏡背は中縁二重圏を設け、内外区にまたがり州浜、流水、2羽の鶴、松樹、竹樹、岩などのいわゆる蓬萊文を鑄表する。中央には向かって左を向く亀鈕を鑄表する。2羽の鶴の嘴と亀の口が接する。		

10 名称	蓬萊鏡（ほうらいきょう）	品 質	銅鑄造
作者等		員 数	1面
時 代	室町時代・16世紀	寸 法 等	径11.3cm 縁高1.3cm 縁幅0.3cm 重量481.0g
作品概要	銅鑄造、円形。直角式中縁。鏡背は細縁二重圏を設け、内外区にまたがり州浜、流水、2羽の鶴、松樹、竹樹、岩などのいわゆる蓬萊文を鑄表する。中央には向かって左を向く亀鈕を鑄表する。2羽の鶴の嘴と亀の口が接する。		

11 名称	杏葉紋双鶴柄鏡（ぎょうようもんそうかくえかがみ）	品 質	銅鑄造
作者等		員 数	1面
時 代	室町時代～安土桃山時代・16世紀	寸 法 等	鏡 径9.6cm 縁高0.4cm 縁幅0.25cm 柄 長11.6cm 幅1.7cm 重量181g
作品概要	銅鑄造、円形。直角式低縁の鏡の下部中央に柄が接する。鏡背は二重圏細縁を設け、内区中央に上向きの亀鈕、鈕の下部に相対する杏葉紋、上部に相対する2羽の鶴を鑄表する。2羽の鶴の嘴と亀の口が接する。柄の先端に円孔1個を開ける。		

<刀剣>（1件）

12 名称	太刀（たち）	品 質	鍛鉄製
作者等	綾小路定利	員 数	1口
時 代	鎌倉時代・13世紀	寸 法 等	刃長71.5cm 反2.0cm
作品概要	形状 鑄造、庵棟、身幅やや細く、腰反り高く、先伏しごころ、小鋒。腰元刃先、物打棟に切込がある。 地鉄 小板目、地沸・地景入り、沸映り淡く立つ。 刃文 小乱に小互の目交り、浅くのたれ、小沸つき、小足よく入り、打ちのけ頻りにかかり、匂口深く、佩裏うるむところがある。 帽子 表裏、のたれ込み、先焼詰ごころに小丸。 茎 磨上、先切、鑄目（新旧ともに）勝手下り、目釘孔2、佩表に「定利」の銘がある。		

<陶磁> (3件)

13 名称	錆地染付桃文皿 (さびじそめつけももんさら)	品 質	磁質
作者等	伊万里	員 数	1枚
時 代	江戸時代・17世紀	寸 法 等	高3.8cm 径17.7cm 高台径6.5cm
作品概要	磁胎。高さ約1.5cmの高台がつく円形の中皿。ろくろ成形で、底から口縁にむかってほぼ水平に広がり、口縁がわずかに外側に開いて細い鑄縁となっている。見込みの一部と、壘付をのぞいて全体に鉄の釉薬が掛けられる。見込みの掛け残し(白抜き)の部分には桃を表わし、染付で桃の実と葉の輪郭を描いて、透明釉が掛けられている。高台の内側にわずかな亀裂(窯疵)がある。		

14 名称	染付竹虎文大鉢 (そめつけたけとらもんおおばち)	品 質	磁質
作者等	伊万里	員 数	1口
時 代	江戸時代・17世紀	寸 法 等	高14.5cm 口径45.5cm 底径10.0cm
作品概要	磁胎。ろくろ成形で径の小さな底から口に向かって大きく鉢状に引き上げ、口近くで一度垂直に立ち上げたのち、口縁を外側に開いて鑄縁とする。口縁の端は小さく刻んだ形をとる。底は内側にくりぬかれた碁笥底の形で、底の周りに丸文を貼り付けた三つの小さな脚がつく。見込みと口縁、口縁下の立ち上がり部分内外に染付で文様が描かれ、壘付をのぞいて全体に透明釉がかけられている。見込みの文様は竹林と虎で、虎の視線の先には岩山と雉が器面いっぱい描きこまれる。		

15 名称	染付山水文大鉢 (そめつけさんすいもんおおばち)	品 質	磁質
作者等	伊万里	員 数	1口
時 代	江戸時代・17世紀	寸 法 等	高13.8cm 口径45.0cm 高台径12.5cm
作品概要	磁胎。ろくろ成形で径の小さな高台から口に向かって大きく鉢状に引き上げ、口縁を外側に開いて鑄縁としている。見込みと口縁、口縁下の立ち上がり部分に染付で文様が描かれ、外側の口縁下部には二重圈線が引かれる。壘付をのぞいて全体に透明釉がかけられている。見込みの文様は、高くそびえたつ岩山、山にかかる雲、帆かけ船の列など山水画を思わせる風景が器面いっぱい描きこまれる。		

<考古> (3件)

16 名称	の字状石製品 (のじょうせきせいひん)	品 質	石製(蛇紋岩)
作者等	新潟市西蒲区下木島出土	員 数	1個
時 代	縄文時代(前期~中期)・前4000~前2000年	寸 法 等	縦4.4cm 横4.4cm 厚0.3cm 重量7.9g 円環部 径1.6cm ;孔径0.2cm
作品概要	石製の装身具である。「の字状石製品」とは、平仮名の「の」の字に似ることから命名された。全面を研磨することで平滑に仕上げ、尾部は擦切によって作り出される。中央の孔は両面からの研磨によって穿孔されている。縄文時代前期末から中期初頭にかけて中部日本を中心に分布する。		

17 名称	甕龍鏡 (だりゅうきょう)	品 質	青銅製
作者等	新潟市 菖蒲塚古墳出土	員 数	1面
時 代	古墳時代・4世紀	寸 法 等	面径23.7cm
作品概要	古墳時代の倭鏡(日本列島製)。中心にある鈕座には珠文と櫛歯文が巡る。内区にある四体の神獣像は、棒状の巨を口にくわえた胴長の獣像とその上に乗った神像からなる。内区外周には半円方形帯が巡り、斜面には鋸歯文が施される。外区には内側から退化した表現の鳥文や雲文、素文が巡る。中国製の画文帯神獣鏡をモデルに作られた鏡であり、甕龍鏡の中でも大型で、比較的古い段階に作られた作品。類似する鏡として沖ノ島17号遺跡11号鏡がある。本鏡は畿内地域で製作され、地方首長へ贈与されたものである。		

18 名称	深鉢形土器 (ふかばちがたどき)	品 質	土製
作者等	新潟市布目出土	員 数	1個
時 代	縄文時代(前期)・前4000~前3000年	寸 法 等	高37.3cm 口径28.5cm
作品概要	北陸地方の縄文時代前期前葉に位置付けられる布目式土器の標識資料。底部は尖底をなし、胴部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる深鉢形土器である。口縁部は4単位の波状口縁をなす。口縁部上端と胴上半の突帯状の段に刻目文を巡らせ、地文には羽状縄文が全面に施される。胎土には植物繊維及び雲母や石英などの各種鉱物が混和剤として用いられている。		

<歴史資料> (1件)

19 名称	香道賤家梅 (こうどうしずがやのうめ)	品 質	紙本墨書・着色
作者等	牧文龍(生没年不詳)撰	員 数	15冊
時 代	江戸時代・18世紀	寸 法 等	縦24.4cm 横15.5cm
作品概要	袋綴装。 【各冊墨付丁数】(1)69丁(2)62丁(3)53丁(4)66丁(5)58丁(6)65丁(7)58丁(8)57丁(9)65丁(10)67丁(11)63丁(12)64丁(13)58丁(14)62丁(15)82丁。 香道に関する百科全書的な著作で、第1冊から第12冊までは諸流派で行われる各種の組香(香道の競技)の規則や立物など使用する道具類、勝負の記録方法などを詳述する。第13、14冊は香道具や組香に使われる立物を細密な着色で描く。第15冊は歴史上の香道の宗匠の伝記や著名な香木、香の調合の処方などの知識をまとめる。		

<東洋絵画> (1件)

20 名称	白色ターラー菩薩像 (しろいろたーらーぼさつぞう)	品質	綿本着色
作者等		員数	1幅
時代	清時代・19世紀	寸法等	本紙 縦45.0cm 横36.5cm 総寸 縦92.5cm 横56.5cm
作品概要	掛幅装 (軸亡失)。額に第三眼、両手足にそれぞれ目を表わすことから、描かれるのはターラー菩薩と知られる。左手は屈臂して蓮茎を執り、右手は垂下して掌を仰ぎ、与願印とする。条帛、天衣、裙を着け、蓮華座上で右脚を上にして結跏趺坐する。頭光と身光を表わす。画面上方には右左に日月と、これに対応するように二尊を表わすが、尊名は不明。エーカジャターとアショーカカーンタ・マーリーチー、赤色ターラーと緑色ターラー、二十一種ターラーのうち二尊である可能性がある。木綿地に顔料で描かれており、軸装のうえ全体を覆う保護布 (メンジ) を2枚かける。表装は清朝末ごろのものと思われ、清朝統治下の外モンゴル (現モンゴル国) で製作されたチベット仏教の軸装仏画 (タンカ) と考えられる。		

<東洋金工> (1件)

21 名称	五花鏡 (ごかきょう)	品質	銅鑄製
作者等		員数	1面
時代	高麗時代・11~12世紀	寸法等	径11.1cm 厚さ0.5cm
作品概要	五弁花形の青銅鏡で、鏡背の中央に小ぶりな平頭鈕を有する。鈕座は花卉状を呈する。鏡背は五花形の界線で内外区を分かち、内区には鈕を挟んだ対角上に鏡縁を地として立つ鴛鴦一對をあらわす。その合間には葉を茂らせた瑞花が展開する。外区には花卉ごとに独立した唐草文を配す。五花鏡は日本製の鏡に由来する鏡式である。本品は錆色の具合や類例から朝鮮半島由来と判断でき、類品の盛行時期から高麗時代の11世紀から12世紀と判断する。		

<東洋陶磁> (1件)

22 名称	五彩花鳥文大皿 (ごさいかちょうもんおおざら)	品質	磁製
作者等	中国・景德鎮窯	員数	1枚
時代	明時代・17世紀	寸法等	高6.1cm 口径35.0cm 高台径22.4cm
作品概要	硬質磁胎。丸みをもって浅く立ち上がった大皿。口縁を四分した上下の部分は直口形とし、左右は波形に表わし、口紅を施す。下絵付けの青花で見込みに二羽の雉と、笹、牡丹、躑躅らしき植物を描き、口縁下に四方襷や紗綾、渦文などを帯状に巡らす。裏面は梅などの樹木に鳥がとまる図がざっくりと配される。絵付けは手慣れた筆致であるが、細部は崩れて大雑な印象である。一方、赤、黄色、緑の上絵付けで隙間を埋めるように四方襷、鱗などの地文が細やかに配される。また、裏面の窯疵を緑の上絵具でなぞっている。高台内には青花で二重円を描き、内側に「大明嘉靖年製」と角福銘を配し、この二つの銘を赤で四角く囲んでいる。		

<東洋考古> (4件)

23 名称	銅鼓 (どうこ)	品質	青銅鑄造
作者等		員数	1個
時代	18~19世紀	寸法等	高52.5cm 面径65.5cm
作品概要	失蠟鑄造による青銅鼓。鼓面は円盤状で、光芒を中心に20本の三重突線が同心円状にめぐり、縁辺にはそれとは別に縄文をめぐらせる。突線の合間にはスタンプによる鳥文、魚文、円文、菱文、輪つなぎ文、波状文を配す。鼓面四方には抱接行動をとる三段重ねのカエルを配す。胴部は、三重突線により上、中、下位に分け、また疑似范線を四方にのける。左右に双耳をつける。器壁には円文、菱文、輪つなぎ文、波状文、綾杉文、羽文を配す。胴部の一側面には、樹木をあらわし鳥や果実を配する。樹木の中軸上に象と蝸牛を立体的にあらわす。本品は、形態からHeger Type III (西盟型) に分類される。同型式はミャンマー東北部から雲南省南西部、ラオス北部、タイ北部に分布する。なかでも象、蝸牛、樹木などの装飾は比較的新しい段階の銅鼓にみられる特徴である。		

24 名称	八禽鏡 (はちきんきょう)	品質	銅鑄製
作者等		員数	1面
時代	前漢~後漢時代・前1~後1世紀	寸法等	径8.6cm 厚さ0.3cm
作品概要	円盤形の鏡で、鏡面はわずかに凸面をなす。鏡背の中央に半球鈕を設ける。鈕座は線圈を有する幅射文をなし、内外に斜行櫛葉文帯をめぐらせる。その間を円座を有する乳4個で区画し、区画の間を細線により向かい合う鳥を2羽ずつ、鳥は鏡縁を天、鈕を地として計8羽を配する。鏡縁はやや熱く幅広で素文とする。これらの文様の鑄出は総じて精細さを欠き、踏み返し鏡とみられる。文様の盛行期と鈕座の特徴から前漢時代末、前1世紀頃を上限とする。		

25 名称	漆器片 (しっきへん)	品質	夾紵漆塗
作者等		員数	1個
時代	前漢時代・前1世紀	寸法等	縦4.3cm 横6.5cm
作品概要	夾紵胎に布着せとし、胴部外面と口縁の内外面とを黒漆塗り、胴部内面を朱漆塗りとする。湾曲の具合から、本来の形状は径18~21cm程度の円筒形の容器であることがわかる。外面には圈線、櫛歯文、雲気文を鏤刻する。文様構成と技法から、前漢時代・前1世紀頃の作とみられる。		

26 名称	古代エジプト資料 (こだいえいぶとしりょう)	品質	石製、土製ほか
作者等		員数	一括
時代	先王朝時代・前4千年紀~ローマ時代・3世紀頃	寸法等	
作品概要	古代エジプトの浮彫や彫像の断片、土器、石製品などで構成されるコレクションで、先王朝時代からローマ時代までの資料を含む。		

<東洋民族> (1件)

27 名称	バタク文書 (ばたくもんじょ)	品質	樹皮製
作者等	インドネシア、スマトラ島北部	員数	1帖
時代	20世紀前半	寸法等	縦6.5cm 横7.4cm 厚3.6cm
作品概要	インドネシアのスマトラ島北部のトバ湖周辺に居住するバタク族に由来する手稿本である。同民族はオーストロネシア語系のバタク語を話し、本品に記されている固有の文字をもつ。バタクの中の一族であるトバでは、祖先崇拜、アニミズム、シャーマニズムの伝統があり、ダトゥ (datu) と呼ばれる司祭やシバソ (sibaso) と呼ばれる女性のシャーマンによって儀礼が執り行われていた。本品は、こうしたトバ族による儀礼や呪術に関する知識や方法を記した、いわば「手引書」のような性格の文書である。本品はなめした樹皮を蛇腹状に折り畳んだもので、片手に収まるサイズである。外側のページには木の薄板が貼りつけられており、これが表紙となっている。折り畳まれた樹皮の両面に、黒色インクでバタク文字による文章が記され、所々に挿絵も見られる。文字が記されているページは56ページに及ぶ。		

<黒田記念館収蔵品> (1件)

28 名称	西洋婦人像 (せいようふじんぞう)	品質	カンヴァス・油彩
作者等	黒田清輝 (1866~1924) 筆	員数	1面
時代	明治25年 (1892)	寸法等	縦32.0cm 横24.6cm
作品概要	つば広の帽子を被った西洋婦人の半身を描く。明るい色彩を用い、顔貌部分を除けばラフな筆致でまとめられ、「外光派」と呼ばれた黒田清輝の作風をよく示している。画面左下に「Sèiki Kouroda / Grez 1892」のサインがあり、明治25年 (1892) に、フランス留学中の黒田が好んで滞在した小村グレー・シュル・ロワンで制作したことがわかる。隈元謙次郎氏の著書『黒田清輝』(日本経済新聞社、1966年)では、同年に黒田がサロン出品に向けて制作を試みた「夏図」の習作と位置づけられている。キャンバス裏面は裏蓋が施され、近年修復した跡が見られる。下方に日動画廊のラベル、また額裏面左上には昭和40年 (1965) にプリヂストン美術館で開催された「黒田清輝生誕百年記念展覧会」のラベル、右上には昭和55年 (1980) に北九州市立美術館で開催された「日本の洋画家による滞欧作展」のキャプションが貼付されている。		

(3) 編入 (768件)

<法隆寺献納宝物> (1件)

1 名称	裳残欠 (もざんけつ)	品質	絹製、夾纈、縹縹
作者等		員数	1腰
時代	奈良時代・8世紀	寸法等	縦101.4cm 横212.5cm
作品概要	女性の装束である裳の残欠。ただし、実際には伎楽の舞女のための装束と考えられる。白地白絹を裏地として、緑地目結文縹縹平絹を表地とする。さらに上層には緑地平絹と夾纈縹が重なる。裳の本体が四層もの裂で構成されることは考え難いので、緑地平絹と夾纈縹については褶 (ひらみ) である可能性が考えられる。また四層の裂を包み込むかたちで、上部には緑地平絹の腰帯がつき、同じ裂を用いた肩紐が縫製されている。正倉院にのこされる奈良時代の裳が、基本的に腰帯で身体に巻き付ける構造であることからすれば、肩紐がつく点は珍しいものと言える。		

<写真資料> (767件)

2 名称	写真資料 (しゃしんしりょう)	品質	鶏卵紙、ゼラチンシルバープリント、プラチナプリント等
作者等		員数	767件
時代	江戸~明治時代・19世紀	寸法等	
作品概要	767件の中には、東京国立博物館誕生の原点ともいえる湯島聖堂博覧会写真、19世紀に各国で開催された万国博覧会にかかる写真、江戸時代・文久年間に幕府から条約交渉のため渡欧した使節の肖像写真、近年(平成20年)、ガラス原板(奈良市所蔵)が重要文化財に指定された工藤利三郎撮影による「社寺建築写真帖」などが含まれる。		

【京都国立博物館】(計55件)

(1) 購入 (24件)

<絵画> (22件)

1 名称	百犬図 (ひゃっけんず)	品質	絹本着色
作者等	伊藤若冲	員数	1幅
時代	江戸時代 (18世紀)	寸法等	縦143.0cm、横84.4cm
作品概要	8世紀の京都画壇を代表する画家の一人、伊藤若冲 (1716~1800) による絹本着色の大幅である。多くの展覧会出品歴、書籍掲載歴があり、すでに若冲の代表的作品の一つとして広く知られている。本作のように一つのモチーフを数多く(本作の場合は59匹)描くこの種の作品は、基本的には「ものづくし」の趣向による吉祥画と見られ、多産・豊穡などを寓意すると考えられる。特に、犬の場合は多産や子孫繁栄の意味合いが強い。画面中央付近に「笑」の字とも見える毛並みをもつ犬が混じる点も、吉祥の意味合いを強めている。竹と犬を描く、いわゆる「一笑図」との関連も考えられよう。いずれにしても、本作が吉祥画としての側面をもつことは間違いない。		

2 名称	円山応挙関係資料 三井南家伝来 (まるやまおうきよかんけいしりょう みついなみなみけでんらい)	品質	紙本墨画ほか
作者等		員数	1括 (480件)
時代	江戸~昭和時代 (18~20世紀)	寸法等	
作品概要	三井南家に伝来した、円山応挙関係の資料一括である。現所蔵者が三井家から直接買い受けたものという。粉本・絵手本・図案集等計480件からなり、応挙および円山派の絵画制作にかかわる貴重な資料群である。大阪市立美術館で開催された応挙展 (2003年) をはじめ、すでにいくつかの展覧会に出品歴がある。三井家は応挙の有力なパトロンであり、本家だけでなく三井北家・南家とも応挙と関係があったが、本資料が伝来した経緯については必ずしも明らかではない。資料の内容や書き込み等から判断する限りでは、応挙に私淑し自らも絵筆を執った三井南家九代目当主高德 (1874~1937) が収集した資料が大部分を占めると見られ、高德の手になる模本類も多く含まれる。一部の模本には、円山派の画家山本桃谷など原本所蔵者も記されており、資料の収集や模写原本の借覧に際しては、同時代の円山派画家などさまざまなつてを頼ったものと思われる。高德模本には「千夜千枚」との印が捺されるものが多くあり、三井物産監査役等をつとめたかわら模写を日課として画技の習得に励んでいた様子がうかがえる。		

3 名称	金剛界曼荼羅三摩耶会図像（こんごうかいまんだらさまやえずぞう）	品 質	紙本白描
作者等		員 数	1巻
時 代	平安時代 天永三年（1112）	寸 法 等	縦30.1cm、横1007.5cm
作品概要	本品は金剛界曼荼羅三昧耶会の三昧耶形を列挙した図像で、非常に薄い楮打紙に諸処に乾性油を引いて図像を転写したものである。教王護国寺（東寺）宝菩提院旧蔵品で、奥書朱書から天永三年に円堂御本を写したものと知られる。十二世紀前半に遡及する紀年銘のある図像は稀少で、伝来が明瞭な点においても、基準作として極めて高い価値を有する。		

4 名称	十巻抄 観音下・天等下（じゅつかんしょう かのんげ・てんとうげ）	品 質	紙本淡彩・墨書
作者等		員 数	1巻
時 代	鎌倉時代 13世紀	寸 法 等	縦30.3cm、全長1226.0cm
作品概要	『十巻抄』は、平等房永厳あるいは勝定房恵什の撰になるとされる、平安時代末期に編纂された図像集である。原本は伝わらず、鎌倉時代に遡る写本が三種（醍醐寺、逸翁美術館、円通寺）重要文化財に指定され伝存する。本品は、教王護国寺（東寺）観智院に伝来したもので、逸翁美術館本、円通寺本を遡る十三世紀後半の作である。もとは十巻が完存し、図像も彩色が施された絵仏師の手になると考えられるもので、『十巻抄』の善本として知られていた。戦後に東寺から流出し、奈良国立博物館に仏頂等一卷・経法一卷、帝塚山大学博物館、ハーバード大学美術館等に分蔵が確認されている。史料的価値は上述の通りであるが、彩色図像として美術的価値も極めて高い。		

5 名称	宗宝僧正画稿一紙・宗果僧正画稿三紙（そうほうそうじょうがこういっし・そうごうそうじょうがこうさんし）	品 質	紙本白描
作者等		員 数	1幀
時 代	室町時代 15世紀	寸 法 等	①宗宝像縦22.9cm、横15.9cm、②宗果像（一）縦12.2cm、横11.5cm、③宗果像（二）縦23.3cm、横9.3cm、④宗果像（三）縦26.9cm、横10.0cm、⑤宗宝像附属題記縦15.4cm、横3.5cm、⑥宗果像（一）附属題記7.8cm、横1.9cm、⑦宗果像（二）附属題記8.8cm、横3.0cm、額総寸縦61.0cm、横46.0cm
作品概要	本品は、教王護国寺（東寺）観智院に伝来し、『東寺』（朝日新聞社、1958年）で初めて紹介されたもので、観智院蔵真言八祖像の箱から発見されたとされる。観智院四世宗宝・同五世宗果の肖像紙形で、現在は額装されている。その修正を重ねた様相から、宗宝・宗果の肖像と推測される。本図と一緒に収められていた観智院蔵真言八祖像の制作年代は、永享六年（一四三四）と判明しており、本図の制作年の大凡を傍証していると言える。宗宝・宗果の肖像としては、もっとも由緒の正しい作で、東寺観智院の歴史を考える上でも他に類のない貴重な遺品である。		

6 名称	金剛童子図像（こんごうどうしずぞう）	品 質	紙本白描
作者等		員 数	1巻
時 代	平安～鎌倉時代 12～13世紀	寸 法 等	縦20.9cm、全長308.1cm
作品概要	本品は、金剛童子という天台宗門派・三井寺系統で尊信された尊格をまとめたものであるが、教王護国寺（東寺）観智院旧蔵になる。楮打紙に墨線を引いた料紙に図像と所説を交互に記載するが、最初から墨線を引いた料紙を使用しており、図像は墨線の上に描かれる。また、図像部分には乾性油を引いた痕跡が残る。料紙の状況や図像の線描の質から、絵仏師に絵を描かせたのではなく、僧侶が図像と所説を交互に順次写していったものと思われる。蓋裏墨書に田山方南（1903～1980）が「平安時代所描」と記すが、制作年代は十二～十三世紀と見られる。当時における真言宗と天台宗との宗派を超えた図像蒐集活動を示す例として貴重な作品である。		

7 名称	烏枢瑟摩明王図像（うすさみょうおうずぞう）	品 質	紙本白描・墨書
作者等		員 数	1巻
時 代	鎌倉時代 13世紀	寸 法 等	縦26.6cm、全長490.4cm
作品概要	本品は、教王護国寺（東寺）観智院旧蔵で、烏枢瑟摩明王の諸図像十五図をまとめたものであるが、宇治経蔵本などの珍奇な図像が収録されていることから大正新脩大蔵経図像部第六巻に「烏枢瑟摩明王図像（一卷） 京都観智院蔵本」として収録されており、戦前から著名であった作品である。蓋裏墨書に田山方南が「平安時代所描」と記すが、表紙と本紙の継目裏に定円（花押）の署判があることから、鎌倉時代、十三世紀前半の作と見られる。定円は、明恵の弟子ともされており、観智院には他にも定円伝領本が複数存在しており、これらは勸修寺・実任の収集図像がもともになっているとされる。東寺観智院第十三世・賢實の修理奥書がある。伝来の判明する史料的価値の高い図像で、大正新脩大蔵経図像部掲載本の原本の情報が確認できるのは研究上重要な意義を有する。		

8 名称	大日経十二火神図像（だいにちきょうじゅうにかしんずぞう）	品 質	紙本淡彩
作者等	賢宝	員 数	1巻
時 代	南北朝時代 14世紀	寸 法 等	縦26.7cm、全長181.9cm
作品概要	本品は、教王護国寺（東寺）観智院旧蔵で、観智院二世・賢宝（1333～98）の自筆になる貴重な図像である。賢宝は、果宝、頼宝とともに東寺三宝といわれた当代随一の学僧であり、本品に筆者注記はないが、図像注記の文字から間違いないものと推定されている。『大日経』護摩品に説く護摩の真意義にかなう真実の十二火神を描いたもので、巻首第一智火・第二行満の二火神を失うほか、第九意生・第十一（経文不説）の二火神を失っている。他に類品が残されていない珍奇な図像であり、大正新脩大蔵経図像部第七巻に「大日経十二火神像（一卷） 京都東寺観智院蔵本」として収録されており、戦前から著名であった作品である。大正新脩大蔵経図像部掲載本の原本の情報が確認できるのは研究上重要な意義を有する。		

9 名称	理趣経十八会曼荼羅図（りしゅきょうじょうはちねまんだらず）	品 質	紙本白描、朱書
作者等		員 数	1巻
時 代	鎌倉時代 13世紀	寸 法 等	縦27.6cm、全長639.8cm
作品概要	本品は、教王護国寺（東寺）宝菩提院旧蔵で、宿紙に近い紙質に描かれていることから鎌倉時代初頭の作と考えられる。巻首に継紙（横16.5）があり、「惣録云 理趣経十八会曼荼羅十八禎 仁寂（下略）」三行の墨書は観智院二世・賢宝（1333～98）自筆とされる。巻首継紙墨書の述べるとおり、理趣経十八会曼荼羅を集成したもので、絵仏師の手になる優秀な作行きを示しており、鎌倉時代前期に遡る伝来の明確な図像として貴重なものである。		

10 名称	不動曼荼羅圖像断簡(ふどうまんだらざうだんかん)	品 質	各紙本白描
作者等		員 数	2幀
時 代	平安時代 12世紀	寸 法 等	①二重院構成 本紙縦50.5cm、横30.2cm ②一院構成 本紙縦53.6cm、横30.0cm
作品概要	本品は、教王護国寺(東寺)観智院旧蔵で、②本紙下部旧軸付紙との境界に「定円本(花押)」墨書、②本紙脇に短冊形(旧軸付紙切取、縦10.5、横2.0)貼込があり、そこに墨書「権少僧都經円(花押)」とある。定円は、明恵の弟子ともされ、經円は修理大夫高階経雅の子で遍智院成賢僧正の附法であり、勤修寺・実任(1097~1169)の収集圖像を歴代伝領した様をよく示している。大正新脩大蔵經圖像部第六卷に「不動曼荼羅(別項金剛童子圖像同巻) 京都観智院蔵本」として掲載されるもので、三図のうち中間図を欠失している。もともとは、大正新脩大蔵經圖像部第六卷に同じく収載される「金剛童子圖像一卷 長寛元年写 京都観智院蔵本」の後に継がれていたものである。金剛童子圖像に長寛元年(1163)の年記があり、本図もほぼ同時期の制作にあると考えられる。これらは、戦後に東寺から流出し、古美術商の手によって分割されたものが再蒐集されたもので、原態を失っているのは残念であるが、平安時代の基準作として重要な位置を占める作品である。		

11 名称	宝楼閣曼荼羅圖像断簡(ほうろうかくまんだらざうだんかん)	品 質	各紙本白描
作者等		員 数	2幀・1幅
時 代	平安時代 12世紀	寸 法 等	①一幀・巻首部 ②一幀 ③一幅・巻末部 ①縦29.5cm、横52.2cm、②縦29.9cm、横51.9cm、③縦28.6cm、横21.0cm
作品概要	本品は、教王護国寺(東寺)観智院旧蔵で、③巻末旧軸付紙との境界に「定円本(花押)/伝領之/権少僧都經円之」とある。定円は、明恵の弟子ともされ、經円は修理大夫高階経雅の子で遍智院成賢僧正の附法であり、勤修寺・実任の収集圖像を歴代伝領した様をよく示している。大正新脩大蔵經圖像部第五卷に「宝楼閣曼荼羅(一卷) 京都観智院蔵本」として掲載されるものであり、本来四紙からなり、①と②の間の一紙分を欠失している。これらは、戦後に東寺から流出し、古美術商の手によって分割されたものを再蒐集されたものである。宝楼閣曼荼羅の異伝を収集した圖像としても、また平安時代に遡る由緒の明確な優作としても貴重な作品である。		

12 名称	軍荼利明王圖像(ぐんだりみょうおうざう)	品 質	紙本白描
作者等		員 数	1幅
時 代	鎌倉時代 承久三年(1221)	寸 法 等	縦39.7cm、横28.0cm
作品概要	本品は、旧東寺伝来の圖像で、もとは五大明王を一巻としていたが、戦後分割され、諸家に分蔵されるに至ったと見られる。巻末と思われる大威徳明王圖像(個人蔵)に奥書「承久三年辛未八月」とあり、制作年代が判明する。ヴィナーヤカを脇侍とすることからもわかるように、非常に珍しい圖像であり、基準作としても貴重な圖像である。		

13 名称	降三世明王圖像(ごうさんぜみょうおうざう)	品 質	紙本白描
作者等		員 数	1幀
時 代	鎌倉時代 承久三年(1221)	寸 法 等	縦35.8cm、横27.3cm
作品概要	本品は、旧東寺伝来の圖像で、もとは五大明王を一巻としていたが、戦後分割され、諸家に分蔵されるに至ったと見られる。巻末と思われる大威徳明王圖像(個人蔵)に奥書「承久三年辛未八月」とあり、制作年代が判明する。足下の大自在天及び同祀の下に荷葉を敷くことからわかるように、非常に珍しい圖像であり、基準作としても貴重な圖像である。		

14 名称	十二神将真達羅大将圖像 定智原本(じゅうにしんしょうしんだらたいしょうざう じょうちげんぼん)	品 質	紙本白描
作者等		員 数	1幅
時 代	鎌倉時代 13世紀	寸 法 等	縦43.8cm、横32.2cm
作品概要	本品は、薬師如来の眷属である十二神将のうちの真達羅大将を描いたものである。かつて十二神将揃った形で高山寺に伝来し、その後、益田鈍翁(1848~1938)の所蔵となり、俗に「益田家本」と称され著名なものであったが、現在は諸家に分蔵されている。大村西崖『仏教圖像集古』「五本十二神将」巻頭に収載され、かつての姿を知ることができる。もともとはメクリの状態で高山寺に伝来したと見られ、鈍翁が軸装に改めたものと思われる。安底羅大将像(メトロポリタン美術館蔵)裏書に「長寛三歳五月十八日 定智本」とあり、また「唐本云々 以即都維那[定智(長覚房)、令摸畢云々] 月上院本 玄証(花押)」とあったとされ、その由緒が知られる。すなわち、長寛二年(一一六四)に絵師・定智が描いた図を圖像蒐集で知られる玄証(1146~1222)が写し、高野山月上院に所蔵された後、高山寺に移されたものである。色注があり、彩色本を写したものであったことがわかる。高山寺伝来の玄証収集圖像は「玄証本」と称されているが、その中にあって由緒がはっきりしている点で屈指の貴重な作品である。		

15 名称	日天子圖像(にってんしざう)	品 質	紙本白描
作者等		員 数	1幅
時 代	平安~鎌倉時代 12世紀	寸 法 等	縦54.1cm、横29.9cm
作品概要	本品は、画面中央上部裏に「高山寺」朱文長方印があることからわかるように、高山寺に伝来したもので、朝日新聞社創立者の村山龍平(香雪、1850~1933)の旧蔵になるものである。村山香雪は、高山寺圖像の流出に際し、まとまった収集をおこなっており、香雪美術館・村山家に現在もその多くが収蔵されているが、一部は戦後に整理されて村山家から流出している。本品もその一方で、表装・箱・ラベルは村山香雪の調製になる。ラベルには「玄証筆 日天子像」とあるが、玄証本か本図の情報からは確定できない。しかし、制作年代は平安~鎌倉時代であり、その可能性が高い。日天子という非常に珍しい圖像である点も貴重である。		

16 名称	地藏菩薩圖像 定智原本(じざうぼさつざう じょうちげんぼん)	品 質	紙本白描
作者等		員 数	1幅
時 代	鎌倉時代 13世紀	寸 法 等	縦52.5cm、横28.6cm
作品概要	宣字坐に半跏する地藏菩薩像を描く。画面上部裏に「高山寺」朱文長方印があり、高山寺伝来と確認される。画面右上隅に裏書墨書(切断し表裏反転のうゑ表装)があり、「百号 地藏菩薩像 定智筆写」とあることから、十二世紀に活躍が知られる絵師・定智筆の原本を写したものと判明し、定智の画蹟をうかがう貴重な遺品であると言える。「玄証本」と称される玄証(1146~1222)蒐集圖像の一環であった可能性が高く、制作年代も十三世紀の初頭に置かれるものである。本品は、鐘淵紡績株式会社社長を務めた武藤山治(1867~1934)旧蔵になることが同自筆蓋表墨書「伝定智筆 地藏尊之像」からも判明するが、武藤山治の収蔵選集図録である『聴松清鑿』にも「第五十七地藏菩薩図 定智筆 高山寺伝来」として掲出され、鍾愛の品だったことが知られる。優秀な線描から美術品としても高い価値を有する。		

17 名称	不動明王画像（ふどうみょうおうざう）	品 質	紙本白描
作者等		員 数	1幅
時 代	鎌倉時代 13世紀	寸 法 等	縦98.8cm、横45.3cm
作品概要	箱側ラベルに「高山寺 白描不動」とあるが、高山寺印は本図には確認されない。しかし、右上隅端裏書「百二号」とあり、この附番は高山寺旧蔵図像に見られることから、高山寺伝来品であることは間違いないと考えられる。下辺中央部に端裏書「不動尊」とある。制作年代は十三世紀前半に置かれるものである。		

18 名称	深沙大将画像（じんじゃだいじょうざう）	品 質	紙本白描
作者等		員 数	1幅
時 代	鎌倉時代 13世紀	寸 法 等	縦100.9cm、横50.7cm
作品概要	本品は、玄奘三蔵のインド行において流砂に出現して守護したという深沙大将を描く。画面裏に「高山寺」朱文長方印があることからわかるように高山寺に伝来したもので、端裏書墨書「深沙大王 七十五号 月上院」とあることから、玄証蒐集図像であったと考えられる。制作年代も鎌倉時代初期と考えられる。本図は、朝日新聞社創立者の村山龍平（香雪）の旧蔵になるものであり、表装・箱・ラベルは村山香雪の調製になる。由緒来歴の明確な玄証本の基準作として貴重な作品である。		

19 名称	十二天羅刹天画像 珍海様（じゅうにてんらさつてんざう ちんかいよう）	品 質	紙本白描
作者等		員 数	1幅
時 代	鎌倉時代 13世紀	寸 法 等	縦90.8cm、横49.1cm
作品概要	本図は、平安時代後期の画僧・珍海（1092～1151）の創案になると考えられる十二天図像のうちの羅刹天を写したものである。この十二天の図像形式が珍海に手になることは、重要文化財に指定されている旧反町家本（大阪市立博物館・東京国立博物館に分蔵）の画中注記から判明する。珍海は南都の画僧であるが、真言宗小野流と所縁が深く、小野流の灌頂儀礼の整備に際し、屏風の形式に適合するようこのような立像式十二天像を創案したと見られる。本品に色注が施されていることからわかるように、珍海の十二天は彩色本であった。本品は、裏面に「高山寺」朱文長方印が捺されていることからわかるように、高山寺に伝来し、もとは十二天完備していたと見られる。制作年代も旧反町家本とほとんど隔たらない十三世紀初頭の作と見られ、玄証本と証される玄証蒐集図像の一部をなしていたと推測される。本十二天図像は、当館に伊舎那天像（A甲786）が既に所蔵されている他、奈良国立博物館に帝釈天像が所蔵されている。もと村山香雪の旧蔵品で、表装・箱・ラベルは村山香雪の調製になる。旧反町家本に匹敵する珍海様十二天像の善本として高い価値を有する作品である。		

20 名称	文殊菩薩画像（もんじゅぼさつざう）	品 質	紙本白描
作者等		員 数	1幅
時 代	鎌倉時代 13世紀	寸 法 等	縦61.0cm、横53.0cm
作品概要	二重円光に蓮華座上に坐し、右手に三鈷剣、左手に梵篋を載せた開敷蓮華を執る文殊菩薩を描く。色注が施されていることから、彩色本を底本としていたと見られる。左上隅端裏書「文殊菩薩」とあり、十三世紀初頭の作と見られる。作品自体には他の情報はないが、本図は高山寺に伝来した玄証本と証される玄証蒐集図像の一部をなしていたと推測される。なぜなら、本図は村山香雪の旧蔵になり、表装・箱・ラベルは村山香雪の調製のなることが明らかだからである。香雪は高山寺図像をまとめて入手しており、本図もその一部と見るべきであり、箱側ラベル「玄証 文殊図（楕円ラベル）「番外二十三」もこれを傍証している。蓋表墨書「高山寺白描文殊菩薩」及び蓋裏墨書「昭和廿五年十月八日 吉原生」は、村山家からの流出後に記されたもので、香雪蒐集品の変遷を知る上で参考になる情報である。		

21 名称	別尊雑記 宝楼閣（べっそんざつき ほうろうかく）	品 質	紙本白描、墨書
作者等	不明	員 数	1巻
時 代	南北朝時代 14世紀	寸 法 等	縦28.9cm、全長722.4cm
作品概要	本品は、平安時代後期に心覚（1117～80）が編纂した『別尊雑記』の写本で、本奥書に「以正本私加点白六是也 竟空記之」とあることから、徳治三年（1308）竟空加点奥書原本を写した別尊雑記一具の零本であることが判明する。本品は日本画家の堂本印象（1891～1975）の旧蔵になる。徳治三年竟空加点奥書原本も現存が確認され、『思文閣古書資料目録』善本特集第十三集（通巻百七十三号、2001）に馬頭・十一面巻が掲出されている。この原本は、有力寺院に蔵されていたと見られ、本品と更に別系統になる写本が立命館ARC（藤井永観文庫）に観音巻が所蔵（eik2-0-82）されている。原本は竟空加点奥書を白緑で記し、その言葉通り白緑点を施しているが、本品等の諸写本は白緑を朱に変えて写しているのが特徴である。また、本品は朱書・朱点を施すが竟空加点本奥書を墨書で記すのに対し、藤井永観文庫本は朱書で記し、朱墨の階調も明るい点があり、制作年代も藤井永観文庫本が遡る。本品は、鎌倉時代の雰囲気をも十分に残した暢達な書体から原本をさほど下らない時期に写されたものと考えられ、十四世紀、南北朝時代の作と考えられる。中世における密教図像の伝写拡散過程を考察する上で興味深い史料であると言える。また、京都画壇の大立者であり収集家として知られた堂本印象を記念する遺品であり、鑑賞史の観点からも意義が高い作品である。		

22 名称	重要文化財 法華経巻第五（冊子）（ほけきょうかんだいご（さっし））	品 質	彩牋墨書
作者等	不明	員 数	1帖
時 代	平安時代 11世紀	寸 法 等	18.1×11.2cm
作品概要	『妙法蓮華経』巻第五「提婆達多品第十二」「勸持品第十三」「安樂行品第十四」「從地涌出品第十五」を華麗な料紙に書写した冊子。早くも昭和6年には旧国宝に指定された名品である。全40丁。もとは粘葉装であったが、現状は綴葉装とする。一部脱落・錯簡がある。料紙は北宋舶来と考えられる唐紙を用いており、その多くは纁・黄・白などの具引き地に、雲母摺りによって唐草文や花菱文などが表されている。平安貴族の法華経信仰と高い美意識が結合した装飾経ということができよう。特徴的な点は、宮廷風俗や女性を描く下絵が6図含まれていることである。いわゆる大和絵の技法で描かれた各図の主題は明らかでなく、歌絵か物語絵かなど議論が分かれている。なお、同時代の類品として『観普賢経冊子』（重文、五島美術館）が知られる。		

<金工> (1件)

23 名称	重要文化財 短刀 銘 長谷部国重 (たんとう めい はせべくにしげ)	品質	鉄、鍛造
作者等	長谷部国重	員数	1口
時代	南北朝時代 14世紀	寸法等	全長47.0cm 刃長37.3cm
作品概要	南北朝時代の京都で繁栄した刀工集団・長谷部派の名工、国重の手による短刀。 国重をはじめとする長谷部派は大和鍛冶をその祖に持ち、鎌倉時代後期に鎌倉に移住したのち、相州鍛冶の祖である新藤五国光の影響を受けたと考えられる。鎌倉幕府の崩壊後は京都に集住して信国派と並ぶ南北朝時代の山城鍛冶を代表する流派となった。国重は京都に移住後の同流派の実質的な初代で、弟の国信と共に多くの名品を遺している。国重は弟の国信に比して在銘の現存作例が短刀に偏重しているのが特徴で、しかもその数は極めて少ない。国重の代表的な作例としては福岡市博物館所蔵の国宝「刀 金象嵌銘長谷部国重本阿(花押) / 黒田筑前守(名物庄切長谷部)」がつとに名高いが、これすらも後年の鑑定家(本阿弥光徳)による極めの金象嵌銘であり、国重自身の銘ではない。		

<陶磁> (1件)

24 名称	色絵古製文食籠 (いろえこれつもんじきろう)	品質	施釉陶器
作者等	永樂和全	員数	1合
時代	江戸時代～明治時代 (19世紀)	寸法等	高6.8cm 口径28.7cm×28.5cm
作品概要	器の表面に布を押し当て、その上から絵付けして布の質感を表した団扇形の重箱である。布目はもともと装飾技法として生み出されたものではなく、型づくり成型の際に型から生地を外しやすくするために型に布を敷く成型技法のひとつで、器表に布目が残るのが特徴となっている。古くから行われている技法で、桃山時代の織部焼などでは布目の様子を装飾ととらえ、文様の一部に取り入れるなどされている。さて、本作は京焼の名工、永樂和全(1823-1869)の作である。永樂家は土風伊師として知られた家で、もとは西村姓を称した。永樂家では江戸時代の寛政年間(1789-1801)から文化文政年間(1804-1830)頃になると、上絵付けを施した鮮やかな色彩の京焼も流行することから、土風伊師だけでなく、施釉陶器の生産も行われるようになった。		

(2) 寄贈 (31件)

<絵画> (7件)

1 名称	岡本豊彦像 (おかもととよひこぞう)	品質	絹本着色
作者等	塩川文麟	員数	1幅
時代	江戸時代 19世紀	寸法等	103.0×42.5cm
作品概要	四糸派の画家岡本豊彦の肖像で、代々岡本家に伝わった。袴姿に脇差をさして端坐する姿を描く。この画像は、門人らが豊彦の月命日に参集した際に掛けたとする。岡本家の伝えによると文麟の描いた豊彦像はもう一点あり、そちらは竹内栖風が所蔵していたというが現在の所在は不明。現在知られる豊彦の肖像はこの一点しかなく、伝来が確かな点でも貴重な作である。		

2 名称	七星如意輪観音像 (しちせいによりんかんのんぞう)	品質	絹本着色
作者等	不明	員数	1幅
時代	南北朝時代 十四世紀	寸法等	縦121.7cm 横55.9cm
作品概要	如意輪観音と北斗七星との信仰を融合させた不空訳とされる『七星如意輪秘密要經』に依拠する尊格。しかし、通常は中央に輪宝を配した曼荼羅構成をとるが、本図では六臂如意輪観音に上部に北斗七星を配し、下部に諸童子を描く。このような表現をとる七星如意輪像では現存最古の作であり、日本中世の仏教信仰を考える上で重要な位置を占める。		

3 名称	山水図屏風 (さんすいずびょうぶ)	品質	紙本金地墨画
作者等	鶴澤探索	員数	6曲1双
時代	江戸時代 18世紀	寸法等	各160.8×352.2cm
作品概要	総金地の画面に水墨で山水人物を描く作品。探索の画風は幅広いが、本作は探幽に始まる典型的な江戸狩野様式を継承している。瀟湘八景を思わせるモチーフも散見はされるが、全体として特定の画題をあらわしたものではないと見られる。法眼に叙された明和6年(1769)41歳以降の作。		

4 名称	山水長巻模本 (さんすいちょうかんもほん)	品質	紙本墨画淡彩
作者等	山岡山泉	員数	1幅
時代	昭和時代 20世紀	寸法等	37.5×1619.4cm
作品概要	国宝「四季山水図巻(山水長巻)」の模本。45歳で会社を退職後、絵画を習い始めた山岡山泉は専ら古画の模写を行うようになる。特に雪舟には深く傾倒したことが知られ、なかでも毛利家に許され直接原本にあたった「四季山水図巻(山水長巻)」の模写は10点を数える。本作はこれまで知られていなかった1点。		

5 名称	関羽図 (かんうず)	品質	絹本着色
作者等	長澤蘆雪	員数	1幅
時代	江戸時代 18世紀	寸法等	98.5×35.4cm
作品概要	馬上で青龍刀を抱える関羽を描く。筆者についてはなお慎重な検討が必要だが、長澤家伝来の下絵に全く同一図様のものがあり、資料的にも興味深い。賛は公卿の高辻胤長による。		

6 名称	龍虎図 (りゅうこず)	品質	絹本墨画
作者等	狩野惟信	員数	1幅
時代	江戸時代 18世紀	寸法等	118.8×46.2cm
作品概要	対峙する龍虎を水墨で描く作。様式的には探幽以降の江戸狩野の典型を示すもので、墨のにじみやぼかしを用いた虎の縞模様、渦巻く雲の表現には手際の良さを見せる。落款から、惟信が法眼に叙された天明元年(1781)以降、法眼に叙される寛政6年(1794)までの作とわかる。		

7 名称	免税図扇面（めんぜいずせんめん）	品質	紙本墨画淡彩
作者等	伝王式丹題	員数	1幀
時代	中国・清時代（18世紀）	寸法等	縦17.2cm 上弦49.0cm 下弦20.8cm
作品概要	清時代に繁栄した揚州の市場の賑わいを描いた図に「免税図」と題した四言詩が記された扇面。題詩の筆者とされる王式丹（1645～1718）は字を方若、号を楼村といい、江蘇宝応の人。康熙42年（1703）の状元（科挙の最終試験の殿試での第一位）である。本詩は日照不足などによる市場の低迷にたいする免税の施策を讃えた内容である。ただし、王の詩集『樓村詩集』には収録されておらず、書写された文字にも震えなどがみられることから、伝称作品の可能性が考えられる。とはいえ、清時代の社会文化をうかがう資料として活用が期待されよう。		

<書跡>（2件）

8 名称	十牛図第九返本還源題辞并頌（じゅうぎゅうずだいくへんぽんかんげんだいじならびにじゅ）	品質	紙本墨書
作者等	伝夢窓疎石筆	員数	1幅
時代	江戸時代（17世紀）	寸法等	縦33.3cm 横47.3cm
作品概要	十牛図は、禪の修行過程を牧牛になぞらえ、10の図と頌により表現したもの。本幅はそのうち第9図（返本還源）の題辞と頌で、署判はないが、筆者を夢窓疎石（1275～1351）と伝える。たしかに、夢窓は観応元年（1350）8月、光厳・光明天皇をむかえた天龍寺において、十牛図の頌を講説するなど、関係性は皆無ではない。しかし、「臨幸私記」（重要文化財、鹿王院蔵）をはじめ、夢窓の基準作と比較して自筆とみなすのは難しく、後世に写されたと考えるほうが妥当である。虎林中度ら天龍寺僧3名による寛文11年（1671）11月日付の極書が附属しており、墨蹟の受容史という観点からは面白い作品といえる。		

9 名称	行書雲林詩（ぎょうしょうりんし）	品質	紙本墨書
作者等	于右任	員数	1幅
時代	中国・中華民国時代（20世紀）	寸法等	縦153.6cm 横41.1cm
作品概要	清末の革命に参じ、中華民国の国民政府では長らく監察院院長をつとめた政治家の于右任（名は伯循、陝西三原の人、1879～1964）による行書幅。中国書写の改革を目指し「標準草書」を提唱した書家としても知られた于ののびやかな字姿をみせる典型的な作例で、落款は1920年代のものに似ている。中国末尾に「雲林詩」とあるように、書写されているのは元の四大家の一人、倪瓚（号は雲林、江蘇無錫の人、1301～1374）が詠んだ「舟過梁溪」（『清閨閣全集』巻七収録）である。		

<金工>（8件）

10 名称	短刀 銘日州住信濃守国廣作／天正十九年二月吉日（たんとう めいにっしゅうじゅうしなののかみくにひろさく／てんしょうじゅうきゅうねんにがつきちじつ）	品質	鉄 鍛造
作者等	堀川国広	員数	1口
時代	室町時代・天正十九年	寸法等	全長45.2cm、刃長33.9cm、反り0.5cm
作品概要	桃山時代の新刀期を代表する名工・堀川国広の「天正打ち」と呼ばれる時代の作品。刀身に彫られた大黒天の彫刻と天正十九年の年紀が非常に重要な基準作。		

11 名称	短刀 銘山城国幡枝寓朝尊（たんとう めいやましろのくにはたえだぐうちょうそん）	品質	鉄 鍛造
作者等	南海太郎朝尊	員数	1口
時代	江戸時代・19世紀	寸法等	全長28.9cm、刃長21.0cm、反り0.3cm
作品概要	高知出身の刀工である南海太郎朝尊が京都・幡枝八幡宮周辺に居住していた時期の作品。		

12 名称	短刀 銘為資光作 刀身銘やきたちはさやにをさめてますらをの／ころますますとくへかりけり 正三位有功造并詠（たんとう めいすけみつのためつくるとうしんめいやきたちはさやにをさめてますらをの／ころますますとくへかりけり しょうさんみありことつくるならびによむ）	品質	鉄 鍛造
作者等	千種有功	員数	1口
時代	江戸時代・19世紀	寸法等	全長50.8cm、刃長37.6cm、反り0.6cm
作品概要	公卿で歌人としても高名な千種有功が自身の和歌を刀身に彫刻した作品。		

13 名称	短刀 銘石見大掾藤原国助（たんとう めいいわみだいじょうふじわらのくにすけ）	品質	鉄 鍛造
作者等	石見大掾国助	員数	1口
時代	桃山時代・17世紀	寸法等	全長50.4cm、刃長37.1cm、反り0.8cm
作品概要	石見大掾国助は兄である河内守国助とともに堀川国広の門下となり、伊勢や神戸で活動した刀工。本作は石見大掾国助の作品の中でも優れた出来栄の物である。		

14 名称	短刀 銘国昌（たんとうめいくにまさ）	品質	鉄 鍛造
作者等	国昌	員数	1口
時代	桃山時代・17世紀	寸法等	全長31.9cm、刃長22.9cm、反り無し
作品概要	国昌は堀川国広の工房を支えた門人の一人で、自身の名前による作品は極めて少ない。堀川工房の実態を解き明かすうえで貴重な作例である。		

15 名称	脇差 銘国徳（わきざし めいくにのり）	品質	鉄 鍛造
作者等	国徳	員数	1口
時代	桃山時代・17世紀	寸法等	全長60.1cm、刃長47.9cm、反り1.4cm
作品概要	国徳は堀川国広の工房を支えた門人の一人で、自身の名前による作品は極めて少ない。堀川工房の実態を解き明かすうえで貴重な作例である。		

16 名称	脇差 銘国時 (わきざし めいくにとき)	品質	鉄 鍛造
作者等	国時	員数	1口
時代	桃山時代・17世紀	寸法等	全長70.9cm、刃長56.6cm、反り1.5cm
作品概要	国時は堀川国広の工房を支えた門人の一人で、自身の名前による作品は極めて少ない。堀川工房の実態を解き明かすうえで貴重な作例である。		

17 名称	脇差 銘平安城藤原弘幸 (わきざし めいへいあんじょうふじわらのひろゆき)	品質	鉄 鍛造
作者等	弘幸	員数	1口
時代	桃山時代・17世紀	寸法等	全長65.2cm、刃長51.8cm、反り1.4cm
作品概要	弘幸は堀川国広の工房を支えた門人の一人で、自身の名前による作品は極めて少ない。堀川工房の実態を解き明かすうえで貴重な作例である。		

<陶磁> (3件)

18 名称	信楽壺 (しがらきつぼ)	品質	焼締陶器
作者等		員数	1口
時代	室町時代 15世紀	寸法等	高47.0cm 口径14.7×15.8cm 底径13.7×13.7cm 胴径41.5cm
作品概要	信楽焼の壺である。口縁部や全体の形状から、室町時代(15世紀)に作られたものと考えられる。窯の中での焼成中に灰を被り、それが溶けて肩部から胴裾に向かって軸流れがみられる。口縁部に欠損がみられるものの、釉や器表の発色も良い。箱書によれば、大正から昭和時代に活躍した、映画監督の清水宏の旧蔵品である。		

19 名称	色絵貼花果宝尽文双耳瓶 (いろえちょうかかほうじんもんそうじびん)	品質	色絵磁器
作者等		員数	1口
時代	中国・清時代 19-20世紀	寸法等	高46.3cm 口径17.7×17.9cm 高台径17.3cm 胴径21.0cm
作品概要	鮮やかな色調の釉薬を多用し、器面全体に花や果実、宝尽の文様を描いたり、貼り付けるなどした耳付きの瓶である。印などはみられないが、形状や色調などから、清時代末の光緒年間(1875-1908)以降に民窯において作られたものと考えられる。		

20 名称	色絵金彩楼台形香炉 (いろえきんさいろうたいけいこうろ)	品質	施釉陶器
作者等		員数	1基
時代	江戸時代 18~19世紀	寸法等	総高34.0cm
作品概要	赤、青、緑の釉薬を基調とし、そこに金彩を用いて彩りをみせる楼台形の香炉である。京焼の呼び名の一つである、いわゆる古清水と呼ばれる色絵陶器の作品である。古清水は飲食器に限らず、人形や団扇、瓢箪、青銅器に至るまで多種多様な形状を模した作品が作られており、本作もそういった作品の一つといえる。		

<漆工> (1件)

21 名称	句入富士蒔絵盆 (くいりふじまきえぼん)	品質	木製 挽物製 漆塗り 蒔絵
作者等	中山胡民製	員数	1枚
時代	明治元年 (一八六八)	寸法等	径24.0cm 高2.4cm
作品概要	大坂の豪商、十代鴻池善右衛門(炉粹、1841~1920)が、明治元年の遷都の折に道中勘定役として東京行を無事に果たしたことを記念して、江戸の蒔絵師、中山胡民(1870没)に注文し、近親者や交流のあった数寄者に配った盆。東海道の富士を金銀青金の薄肉高蒔絵で表す。当館には先に数寄者用20枚のうち一枚が廣海家から寄贈されている。そちらには句はなく、作者銘があり、共箱に「東京土産」とある。その附属の書付によれば、親族用20枚は贖入りである。本品には、作者銘もなく、後添えの箱しかないが、廣海家の書付のとおり、金平蒔絵で「月花をさそい合けり／都鳥／炉粹」の句が記されている。当館の調査と展示によって胡民製と判る品であり、そのために寄贈を受けた。		

<染織> (7件)

22 名称	白繻子地瑞花鳥丸文様繻子坎肩 (しろしゆすじずいはなとりまもんようぬいかんけん)	品質	絹地 刺繻
作者等		員数	1領
時代	中国 清時代 19~20世紀	寸法等	丈38.2cm 肩巾30.4cm 裾巾47.8cm
作品概要	刺繻の坎肩。法量からみておそらく子ども用であろう。坎肩とは、袖のない上半身だけの衣服。内周は白繻子地で、花喰鶴、鴛鴦、鶺鴒の三つの丸文を主文様とし、その周りに蘭、牡丹、水仙などの花と蝶を散らす。刺繻の技法は平繻と金糸駒繻が主に用いられ、縹・浅葱・萌葱濃淡・灰・茶・紅の濃淡・鶺・濃茶絹糸と金糸を使用する。内周と外周の境には、リボン状の飾りを付す。外周は紺繻子地で、縁に白と桃色の組紐状の飾りと、白いリボン状の飾りを付し、縁を浅葱の繻子地でくるむ。首元に五個、両脇に各二個のボタンが付く。裏地は紅平繻。		

23 名称	納戸紋紗地桃丸文様繻子坎肩 (なんどもんしゃじももまるもんようぬいかんけん)	品質	絹地 刺繻
作者等		員数	1領
時代	中国 清時代 19~20世紀	寸法等	丈41.5cm 肩巾29.5cm 裾巾57.0cm
作品概要	刺繻の坎肩。法量からみておそらく子ども用であろう。坎肩とは、袖のない上半身だけの衣服。内周は花文様を織り出した納戸色の文紗で、蝙蝠と桃、銭を組み合わせた丸文三つを主文様とし、その周囲に椿、仏手柑、葡萄、瑞花などを散らす。刺繻の技法は平繻と金糸駒繻、相良繻を用い、紅の濃淡三種、橙、萌葱の濃淡、黄、白絹糸と金糸を使用する。内周と外周の境には、黄色のリボン状の飾りをめぐらす。外周には、瑞花雑宝唐草文様の繻子地浮織の生地を用い、縁を黒の繻子地で縁取る。首元と右脇に各二個のボタンが付く。裏地なし。		

24 名称	花色繻子地貝桶文様繻子掛袷紗 (はないろしゆすじかいおけもんようぬいかけふくさ)	品質	絹地 刺繻
作者等		員数	1枚
時代	江戸時代 嘉永7年 (1854)	寸法等	縦81.5cm 横69.5cm
作品概要	進物に掛ける袷仕立ての掛袷紗。四隅に桃色の絹房がつく。表地は繻子地。華やかな青地に貝桶一對を刺繻によってあらわす。裏地は赤縮繻。量紙が付属し、嘉永7年11月に高谷家が新調したとの墨書がある。三室町にあった高谷家は白生地商の分家。		

25 名称	紺織子地亀文様繡掛袱紗（こんしゅすじかめもんようぬいかけふくさ）	品 質	絹地刺繡
作者等		員 数	1枚
時 代	江戸時代 19世紀	寸 法 等	縦75.0cm 横68.8cm
作品概要	進物に掛ける袷仕立ての掛袱紗。四隅に水色に金糸を混ぜた絹房がつく。表地は織子地。深い紺地に、水中に遊ぶ五匹の石亀を刺繡によってあらわす。裏地は赤縮緬。畳紙が付属し、高谷いとの実家である遠藤家の逸品であることが分かる。遠藤家は京都二条城の近くで両替商を営んでいた豪商。		

26 名称	赤縮緬地小槌風文様繡掛袱紗（あかちりめんこづちねずみもんようぬいかけふくさ）	品 質	絹地 染・刺繡
作者等		員 数	1枚
時 代	明治～大正時代 19世紀	寸 法 等	縦77.5cm 横67.0cm
作品概要	進物に掛ける袷仕立ての掛袱紗。四隅に水色の絹房がつく。表地は紋縮緬地。鮮やかな赤い地色に小槌の周りで遊ぶ二匹の白鼠が主に刺繡によってあらわされるが、そのうちの一匹は白上げによる染め分けで表現される。裏地は萌葱地に五七桐を白上げりであらわした平絹。下絵が付属し、美大卒の画家で、後に芸能評論家として知られた高谷仙外（伸・1896～1966）筆かもしれない。		

27 名称	赤木綿地洋花文様銅版更紗掛袱紗（あかもめんじょうかもんようどうばんさらさかけふくさ）	品 質	木綿地染
作者等		員 数	1枚
時 代	江戸～明治時代 19世紀	寸 法 等	縦79.0cm 横77.0cm
作品概要	進物に掛ける袷仕立ての掛袱紗。表地はヨーロッパ製の木綿地の銅版更紗。鮮やかな赤い地色に白・黄・桃・萌葱で、中央に大きな団花文を置き、その四隅に花東文をあしらひ、外周を連続する花東文で埋める。裏地は塩瀬。		

28 名称	市松人形（いちまつにんぎょう）	品 質	人形：桐塑彩色 衣裳：絹地 染
作者等		員 数	1軀
時 代	明治時代 19世紀	寸 法 等	高67.0cm
作品概要	着せ替えのできる男子人形。濃鼠地と紺地の二種類の型友禅染の振袖、紅地に鹿の子絞りの帽子と涎掛が付属。「四条口小路 吉田喜三郎」との包紙とともに、蓋表に「男人形 位登」と墨書された桐箱に入る。高谷いと（1865～1942）遺愛品。		

<考古> (3件)

29 名称	均整唐草文軒平瓦（きんせいからくさもんのきひらかわら）	品 質	土製瓦質
作者等		員 数	1点
時 代	奈良時代（8世紀）	寸 法 等	長41.0cm、瓦当幅27.0cm、瓦当高6.4cm
作品概要	奈良時代後半の東大寺系の均整唐草文軒平瓦。完形。灰黒色。出土値は不詳だが、寄贈者の父親が瓦工事業者だったために昭和の時代に奈良で仕事をしていたため、ある寺院からもらったものという。完形を保つ奈良時代の瓦であり、展示効果が高いもの。		

30 名称	小型菊文瓦（こがたきくもんがわら）	品 質	土製瓦質
作者等		員 数	3点
時 代	江戸時代末～明治時代	寸 法 等	①長23.2cm、径11.5cm ②長9.5cm、径9.0cm ③長9.2cm、径7.2cm
作品概要	いずれも黒色燻焼きの軒丸瓦。①と②は十六弁の菊文、③は八弁の菊文である。近世末～近代の京都の瓦。御所に関わるものであろう。展示にはまだ不向きであるが、資料として研究できるもの。		

31 名称	丸瓦破片（まるがわらはへん）	品 質	土製瓦質
作者等		員 数	1点
時 代	奈良時代	寸 法 等	残存長10.5cm 残存幅10.0cm
作品概要	凹面側に布目があり、焼成が灰白色で硬質であるので、奈良時代にさかのぼる丸瓦と判断した。出土値は不明だが奈良県内の古寺での採集品か。小破片ではあるが、研究資料となりうる遺物。		

【奈良国立博物館】 (計3件)

(1) 購入 (3件)

<彫刻> (1件)

1 名称	木造二十八部衆立像のうち 迦楼羅王、五部浄居天、毘沙門天、毘楼博叉天（もくぞうにじゅうはちぶしゅうりゅうりゅうぞうのうち かるらおう、こぶじょうごてん、びしゃもんでん、びるばくしゃてん）	品 質	木造、彩色（現状古色塗り）
作者等		員 数	4軀
時 代	鎌倉時代（13世紀）	寸 法 等	[迦楼羅王] 総高61.8cm 像高53.5cm [五部浄居天] 総高62.8cm 像高55.5cm [毘沙門天] 総高62.7cm 像高55.2cm [毘楼博叉天] 総高61.8cm 像高53.4cm
作品概要	4軀いずれも像高・作風が近く、一具の二十八部衆像であったと考えられる。各像とも自然な姿勢をとり、甲や衣の表現は的確であり、仏師の優れた技量がうかがえる。鎌倉時代中期（13世紀半ば）頃に遡る作品と推定され、京都・妙法院（三十三間堂）の二十八部衆像に近い大変貴重な作例と判断される。		

<書跡> (1件)

2 名称	南都寺社古文書・古記録等 (なんとしじゃこもんじよ・こきろくとう)	品 質	紙本墨書
作 者 等		員 数	22通
時 代	奈良時代～室町時代 (8～15世紀)	寸 法 等	縦25.6cm～32.3cm 横16.4cm～53cm
作品概要	東大寺や春日大社周辺に伝来した古文書・古記録の一群で、奈良市内の石崎家の旧蔵品。二曲一隻の屏風に貼られて伝来したもの。東京大学史料編纂所により明治37年に調査され、『平安遺文』や『鎌倉遺文』、『大日本史料』などにも本文書が収録されている。古くは天平勝宝2年(750)の摂津職関連の断簡があり、正倉院文書との関連が注目される。また長久4年(1043)の「藤原実遠解」は東大寺領黒田庄経営に関わる学史的にも有名な文書を含んでいる。最新の文書でも長享元年(1487)年の春日大社造替に関わる記録である。南都の地域史のみならず、我が国の古代・中世史料として第一級の価値をもつと判断される。		

<工芸> (1件)

3 名称	熊野三所権現懸仏 (くまのさんしょごんげんかけほとけ)	品 質	銅造 鍍金 鍍錫
作 者 等		員 数	1面
時 代	鎌倉時代 (13世紀)	寸 法 等	径32.7cm
作品概要	一枚の円板に阿弥陀如来、千手観音、薬師如来の三尊の半肉彫像を貼り付けた懸仏。三尊はそれぞれ熊野本宮、熊野那智社、熊野新宮の本地仏である。鏡板を木胎とせず銅板作りとし、天蓋や華瓶を付属せず、また銀座に獅嚙を採用しない点などは初期の懸仏の特徴を備えている。また仏像の表情や肉取、光背などの表現より、本品は13世紀半ばから後半頃の作と推定される。中世の熊野信仰に関わる工芸遺品としてきわめて貴重である。		

【九州国立博物館】(115件)

(1) 購入 (49件)

<絵画> (6件)

1 名称	釈迦三尊図 (しゃかさんぞんず)	品 質	絹本着色
作 者 等	伝顔輝筆	員 数	3幅
時 代	中国 元時代・13-14世紀	寸 法 等	本紙：各 縦135.5 横77.2 表装：各 縦233.0 横99.1 軸長107.4
作品概要	岩上の草座に坐す釈迦牟尼、蹲る青い獅子に乗る文殊菩薩、同じく白象に座す普賢菩薩を3幅に描く。長髪を垂らし体毛を蓄える尊容は特異で、原色の濃彩と肉身の隈取りにも特徴があり、全体的に粗野で奇異な印象を与える。一方で、各尊の朱衣を金泥文様で丁寧に埋め尽くし、文殊の梵篋に『円覚経』の経文を忠実に筆写するなど、本図には大胆なデフォルメと緻密な細部が意識的に並存する。図像学的にみれば、本図のような草座の釈迦は近年、夏安吾本尊の可能性が指摘されており、仏教文化史上、極めて重要である。中国・元時代を代表する仏教絵画として著名で、日本における中国美術の受容史を理解する上でも意義の大きい作品である。京都・鹿王院旧蔵。		

2 名称	天神飛梅図 (てんじんとびうめず)	品 質	紙本着色
作 者 等	狩野山雪筆	員 数	1幅
時 代	江戸時代・17世紀	寸 法 等	本紙：縦102.5 横29.1 表具：縦191.8 横40.8 軸長46.2
作品概要	菅原道真は、愛し育てた紅梅に「東風吹かば匂い起こせよ梅の花、主なしとて春な忘れそ」と詠み、別れを惜しみつつ京を離れる。悲しむ梅は、後を追いたい気持ちが極まって飛び発ち、一夜にして主人の住む大宰府に降り立った。この飛梅伝説を視覚化したユニークな作品。絶妙の位置に飛梅が描かれる。強い意志を秘めた表情、切れ長でつりあがった眼は「怒り天神」の伝統を引きつつ、山雪の人物画の特徴をしめす。いきいきとした精悍な表情は秀逸。筆者山雪は、江戸初期、京都の狩野派の優れた絵師で、個性的な画風から「奇想の系譜」に位置づけられる。その数少ない日本画題作品としても貴重であり、山雪の人物画の魅力を伝える傑作である。		

3 名称	猛虎図 (もうこず)	品 質	絹本着色
作 者 等	土方稲嶺筆	員 数	1幅
時 代	江戸時代・享和3年(1803)	寸 法 等	本紙：縦181.0 横98.3 表具：縦248.0 横116.6 軸長：125.2
作品概要	こちらに歩み寄る虎一頭、松樹に憩う二羽の鶺鴒(かささぎ)。中国・朝鮮半島でも描かれた「鶺鴒虎図(じゃっこず)」で、鶺鴒は吉兆のしるしとされる。すみずみにいたる圧倒的な毛描きによって、猛虎は迫真的に表現されている。場所によって毛足の長さを変化させ、所々に胡粉を交えキラリと光る硬い毛を表現するなど質感描写が見事。享保16年(1731)、長崎に来航した中国人画家、沈南蘋の新しい写生画風「南蘋流」は、以降の日本絵画に画期的な影響を及ぼす。その南蘋流をもとに自らの画風を確立した土方稲嶺(1741～1801)は、近年ことに注目を集めている。その稲嶺が63歳時に描いた新出の大作であり、南蘋画風を消化し自らの画に高めた傑作である。		

4 名称	ブレンク像 (ぶれんくぞう)	品 質	絹本墨画金泥
作 者 等	石川大浪筆	員 数	1幅
時 代	江戸時代・19世紀	寸 法 等	本紙：縦128.8 横55.5 表具：縦190.0 横66.8 軸長72.2
作品概要	オーストリアの外科医でとくに西洋眼科学の権威ブレンク(1735～1807)の肖像画。画の下1行目の大字が像主名で「JOSEPH JACOB PLNCK」。その下に4行にわたりオランダ語で像主の説明がなされる。一番下の朱印は、石川大浪「ISIKAWA」のモノグラム。筆者の石川大浪(1765～1817)は、幕臣、旗本で、杉田玄白、前野良沢、大槻玄沢ら蘭学者と交わり、洋風画で名をあらわす。重要文化財「杉田玄白像」(早稲田大学図書館)の筆者としても知られる。その近年見出された優品で、舶来された洋書の挿画をもとにしつつ、金のボタン以外は墨のみで陰影をほどこしながら皮膚や衣服の起伏を質感ゆたかに描き、迫真的な表現を実現している。		

5 名称	桃花雉子図 (とうかきじず)	品 質	紙本墨画
作者等	狩野山楽筆・龍岩瑞頭賛	員 数	1幅
時 代	安土桃山-江戸時代・17世紀初頭	寸 法 等	本紙：縦112.1 横50.0 表具：縦205.0 横63.5 軸長68.8
作品概要	季節は春。桃の花咲き誇り、岩下に蒲公英や葎が顔をみせ、草が優しい風に揺らぐ。奥には雪解けの水が勢いよく流れ、番の雉子が奇岩上に羽を休める。桃の枝は、先へ先へと伸び、生命力旺盛な動勢をしめす。画面下から上へS字状の動線を構図の軸とし、墨の濃淡の繊細な使い分けによって、優美な画面を生み出している。作者狩野山楽 (1559-1635) は、狩野永徳の桃山文化様式を唯一引き継いだ巨匠。賛者の龍岩瑞頭 (1560-1636) は、3度妙心寺住持となった禅僧で山楽と同時代人。時代の躍動的な空気を見事に表した優品である。かつて山楽の基準作として注目されていた作品だが、第二次世界大戦後、所在不明となり、近年、再発見された。		

6 名称	牡丹図 (ぼたんず)	品 質	絹本着色
作者等	小田野直武筆	員 数	1幅
時 代	江戸時代・18世紀	寸 法 等	本紙：縦42.0 横57.5 表具：縦133.0 横68.0 軸長76.3
作品概要	紅白の牡丹を対角線上に配置。陰影による立体感、波打つ葉の柔らかな質感など即物描写は抜群、匂うような花卉描写は見事で、日本の画材で油絵のような表現を実現している。筆者小田野直武 (1749-80) は秋田藩士で、藩の招いた平賀源内 (1728-79) から洋画を習う。江戸では杉田玄白 (1733-1817) から蘭学者とも交流し、『解体新書』の挿絵を担当。蘭癖の藩主、佐竹曙山 (1748-85) ・義躬 (1749-1800) らに洋画技法を教え、秋田蘭画の創始者となった。31歳で夭折。日本で最も早く西洋画法による逼真的な絵画を描いた史的意義はきわめて大きい。直武の洋風画制作は1773~80年のわずか7年。数少ないその現存作として、きわめて貴重な優品である。		

<書跡> (1件)

7 名称	富士画賛「富士の根の」 (ふじがさん ふじのねの)	品 質	紙本墨画・墨書
作者等	烏丸光広筆・賛	員 数	1幅
時 代	江戸時代・17世紀	寸 法 等	本紙：縦33.9 横48.2 表具：縦120.8 横62.8 軸長67.2
作品概要	烏丸光広 (1579-1638) による墨画と和歌賛。中央に富士山とその麓にたなびく雲・霞を淡墨で素早く描き、その左右に富士の自詠を一首書き付ける。料紙全体における富士山と文字の配置、変化する墨色が見事である。烏丸光広は、安土桃山時代から江戸時代前期の公卿、歌人であり、この時代の“三筆”本阿弥光悦 (1558-1637) ・近衛信尹 (1565-1614) ・松花堂昭乗 (1584-1639) とならび称される能書でもある。その教養と豪放な性格で徳川家康や秀忠に厚遇され、朝廷と江戸幕府との調停役を務めたことから、たびたび東海道を行き来した。その際に富士山を実見しており、紀行文「東行記」(東京国立博物館所蔵、B-2749) をはじめ富士山を題とした画賛の作例も複数知られている。釈文「富士の根の／雪も霞も／たち消て／白きを後の／今朝の空哉 光広」		

<金工> (1件)

8 名称	龍頭金具 (りゅうとうかなぐ)	品 質	鐵形鑄造
作者等	タイ	員 数	1本
時 代	タイ スコータイ時代・15世紀	寸 法 等	総高84.5 茎長18.2
作品概要	鉄製の心棒を軸とした鐵形鑄造による青銅製の裝飾金具。青銅部分は弓なりに曲線を描く龍形の神獣ナーガをかたどったもので、東南アジアのタイにおいてはスコータイ時代、アユタヤー時代の作例として類品が確認されており、王室儀礼用に用いられたものと考えられている。芯材に緩やかに湾曲させた鉄芯を用い青銅部が非常に薄づくりであることなど、当時の鑄造技術の高さを理解することができる一品である。		

<漆工> (1件)

9 名称	花鳥蒔絵螺鈿聖龕 (かちょうまきえらでんせいがん)	品 質	木製漆塗
作者等		員 数	1基
時 代	安土桃山-江戸時代・16-17世紀	寸 法 等	高67.5 幅27.5 奥行13.5
作品概要	頭頂部に三角形の破風を設けた大型の聖龕である。観音開の扉表には土坡から伸びる桜、椿等に鳥を、蓋裏には菊、桔梗を描き、破風内には唐草を描く。破風の下と基台は連弁と唐草を表わす。また龕の正面にはアーチ状の開口を設けて、花瓶、連弁文、幾何学文等で縁取る。内部には頭光と星、唐草文を描く。空間を埋め尽くすような文様構成や平蒔絵を基調に螺鈿や針塗を交えた技法はいわゆる南蛮漆器に共通しているが、大型で複雑な構造や、内外面に施された入念な加飾からは特別な注文品であったことがうかがえる。絵画を収めた聖龕は、重文「花鳥蒔絵螺鈿聖龕」(九州国立博物館所蔵) など国内外に伝存するものの、立体像を収めるこの種の聖龕は稀少で、まことに貴重である。		

<染織> (3件)

10 名称	カシミア・ショール 赤地ペイズリー棕櫚文様綴織縫い合わせ (かしみや・しょーる あかじべいずりーしゅるもんようつづれおりぬいあわせ)	品 質	毛、2/2綾組織綴織 (一部双糸)
作者等	カシミア地方	員 数	1枚
時 代	19世紀	寸 法 等	縦145.0 横305.0
作品概要	カシミア山羊の毛で織られた長方形のショール。中心に黒い円形の裂をはぎ合わせ、枝葉を広げたアブラヤシ様の文様とペイズリー文様を配し、その周囲には蛇行する滑らかな曲線が表わされる。全体の織地は赤い基布を中心に緑色、水色、茶色地に大小さまざまな文様を綴織した裂地をはぎ合わせている。本品に表わされた蛇行する曲線や棕櫚文様などは、西洋人の好みがかがえ、ペイズリー文様はシク期 (19世紀前半) のものに比べると胴部の膨らみが少ないことなどから、ドグラ期 (19世紀後半) の制作と考えられる。		

11 名称	カシミア・ショール 赤緞地立木ペイズリー文様綴織縫い合わせ (かしみや・しょーる あかしまじちきべいずりーもんようつづれおりぬいあわせ)	品 質	毛、2/2綾組織綴織 (一部双糸)
作者等	カシミア地方	員 数	1枚
時 代	19世紀	寸 法 等	縦144.0 横330.0
作品概要	カシミア山羊の毛で織られた長方形のショール。横方向に8段の矩形を設け、区画内に幹をくねらせた立木文様、ペイズリー文様、蛇行した曲線、花唐草文様等が織り出されている。対角線上中心には白地に棘状の突起をもった団子繫ぎ状の文様を織り出す。本品のようにペイズリー文様が長く引き伸ばされて流線状となりゼンマイ形のペイズリー文様や、中心に鉤爪状の輪郭を呈するねじれまがった形に配するものは、ドグラ期 (19世紀後半) の作例に見られる。全体に綴織技術が精巧であり、それぞれの裂地のはぎ合わせ処理も繊細な1枚である。		

12 名称	カシミヤ・ショール 赤地ペイズリー花唐草文様綴織刺繍縫い合わせ (かしみや・しょーる あかじべいずりーはなからくさもんようつづれおりししゅうぬいあわせ)	品 質	毛、2/2綾組織綴織 (一部双糸)
作者等	カシミール地方	員 数	1枚
時 代	19世紀	寸 法 等	縦171.0 横176.0
作品概要	正方形のショールの中心に黒い星形の布地を置く。正方形八等分線が文様の基礎となり、先端が萐草のように枝分かれした複雑なペイズリー文や曲線を隙間なく埋め尽くす。織地は赤い基布を中心とし、赤色の経糸に黒色、緑色、水色、黄色などの緯糸で文様を織り出す。本品のように正方形八等分線が文様の骨組みとなり、中心に黒い花型モチーフを配する文様構成は、19世紀後半の特徴といえる。正方形ショールは、ヨーロッパで1925年頃から流行した細いウエストを強調するロマンティックスタイルのドレスにあわせて、三角にたたんで羽織られたという。		

<考古> (34件)

13 名称	響銅王子形水瓶 (きょうどうおうじがたすいびょう)	品 質	蓋付の王子形 (卵形・橢形) 水瓶
作者等	中国	員 数	1合
時 代	中国 唐時代・7-8世紀	寸 法 等	高20.3 胴径8.0
作品概要	蓋付の王子形水瓶で、身の口に蓋が被さる。身は丸みを帯びた卵形の胴部に外反りの台脚、および細長い頸部がつく。台脚内面のやや下よりの部位には、平底がある。平底は別作りの円板を接合した「嵌め底」であると考えられる。底部外面には七重の同心円を刻む。中心から数えて5番目と6番目の同心円間に「法静」の2文字を行書で刻す。底部内面では中心から少しはずれた箇所に、柱状のパーツ「嵌め金」がわずかに突出する。蓋は中央が甲盛り状に隆起し、その頂部には宝珠形の鈕がある。蓋の内面は中央から分厚い板状の舌状部が突出し、そこにピンセット状金具を鉋で留める。ピンセット状金具は2本の細長い板金からなる。		

14 名称	礫器 (れつき)	品 質	珪岩製の片刃礫器
作者等	伝北西アフリカ サハラ砂漠出土	員 数	1個
時 代	旧石器時代・180万年前-80万年前	寸 法 等	長12.2 幅9.0 厚6.8
作品概要	初期人類が使用した石器。表面は砂漠の砂に揉まれたため角が少し取れている。500万年前以降のアフリカ大陸においてサルからヒトへと進化していった人類は、300万年前に石器を作り出した。石器の製作と使用は脳や身体の発達を促し、人類の進化に大きな影響を与えた。初期の石器は、本品のような亜角礫・亜円礫の一端を直線状に粗く打ち欠いて刃部を作り出した簡単なもので、礫器と呼ばれる。		

15 名称	握斧 (あくふ)	品 質	珪岩製
作者等	伝北アフリカ サハラ砂漠北西出土	員 数	1個
時 代	旧石器時代・120万年前-50万年前	寸 法 等	長17.8 幅9.0 厚6.0
作品概要	初期人類が使用した石器。500万年前以降のアフリカ大陸においてサルからヒトへと進化していった人類は、300万年前に石器を作り出した。石器の製作と使用は脳や身体の発達を促し、人類の進化に大きな影響を与えた。本品のような粗い両面加工による両側に刃部を持つ尖頭形の石器は握斧と呼ばれ、初期の石器である礫器に後続するものである。		

16 名称	石斧 (せきふ)	品 質	頁岩製
作者等	伝福島県河沼郡旧日橋村出土	員 数	1個
時 代	旧石器時代～縄文時代・14000年前-10000年前	寸 法 等	長29.4 幅10.5 厚3.9
作品概要	後期旧石器時代終末期～縄文時代草創期の大型石斧である。刃部を一部欠く。全面が粗く研磨され剥離面の凹凸は残っており、未完成品の可能性もある。この時代の大型石斧を持つ文化は、シベリア・極東ロシア地域から伝わったと言われる。大型石斧は祭祀具と考えられ、弥生時代の青銅器の祭祀化現象を考える上でも興味深いものである。本体裏面には「明治四十五年夏／本郡日橋村地内／小川中／ヨリ／発見／ス／紫水」の墨書がある。土門拳(1909-1990)旧蔵。		

17 名称	大珠 (たいしゅ)	品 質	翡翠製
作者等	千葉県成田市名古屋屋出土	員 数	1個
時 代	縄文時代・5000年前-4000年前	寸 法 等	長6.5 幅3.5 厚2.0
作品概要	縄文時代中期の東日本を中心に分布する翡翠製の大型大珠。翡翠は、新潟県糸魚川産と推定される。短冊形で、穿孔は中央上寄りに総体片面から行なわれ、側面は定角式磨製石斧を思わせる平坦で面取りのある形状をなす。縄文時代中期～後期の日本列島では、大珠と呼ばれる細長い形態の緑色石材製垂飾が流行したが、本品はその一例である。		

18 名称	深鉢形土器 (ふかばちがたどき)	品 質	土製
作者等		員 数	1口
時 代	縄文時代・5000年前-4000年前	寸 法 等	直径59.0 高59.5
作品概要	縄文時代中期の東関東地方を中心に分布する土器。大型で均整の取れた姿で、口縁部には棘を持つ渦巻文、胴部には縄文が施される。この時期の日本列島では新潟の火焰型土器をはじめとする過剰に装飾された土器が各地で大流行したが、本品はその一例である。		

19 名称	有孔球状土製品 (ゆうこうきゅうじょうどせいひん)	品 質	土製
作者等		員 数	1個
時 代	縄文時代・4000年前-3000年前	寸 法 等	短径4.5 長径4.7 長5.8
作品概要	球形で中央に孔のある土製品。孔を中心に両端に沈線による文様が施されている。縄文時代後晩期の北陸地方や関東地方を中心に分布し、類品は九州北部でも出土している。		

20 名称	勾玉（まがたま）	品質	翡翠製
作者等		員数	1個
時代	縄文時代・4000年前-2300年前	寸法等	長2.7 幅2.6 厚2.2
作品概要	複数条の刻みを持つD字形に近い歪な形態の勾玉。獸形勾玉と呼ばれる。縄文時代後晩期の東日本を中心に分布し、九州にも分布する形態。翡翠は、新潟県糸魚川産と推定される。弥生時代の北部九州の首長も好んだ形態の勾玉である。		

21 名称	勾玉（まがたま）	品質	翡翠製
作者等	伝青森県南部出土	員数	1個
時代	縄文時代・4000年前-2300年前	寸法等	長3.0 幅1.8 厚0.7
作品概要	頭部に刻みを持つ整った形態の勾玉。定形勾玉と呼ばれる。縄文時代後晩期の東日本を中心に分布し、九州にも分布する形態。翡翠は、新潟県糸魚川産と推定される。弥生時代の北部九州の首長も好んだ形態の勾玉である。		

22 名称	骨角器（こっかくぎ）	品質	カメの骨製、サメの骨製、シカの骨製、シカの角製、イノシシの牙製、ヒトの歯
作者等	1. 千葉県銚子市 余山貝塚出土、35. 岩手県陸前高田市 瀬沢貝塚出土、53. 伝茨城県稲敷市 椎塚貝塚出土、他は出土地不明	員数	53個
時代	縄文時代・4000年前-2300年前	寸法等	1: 長4.0 幅1.3 厚1.6 28: 長7.3 幅1.1 厚0.5 2: 長2.5 幅2.4 厚1.0 29: 長5.0 幅1.2 厚0.6 3: 長14.2 幅1.4 厚0.6 30: 長3.8 幅1.5 厚0.7 4: 長13.3 幅0.6 厚0.6 31: 長7.7 幅1.5 厚0.8 5: 長12.2 幅0.7 厚0.6 32: 長7.6 幅1.0 厚0.7 6: 長11.9 幅0.9 厚0.5 33: 長5.2 幅0.7 厚0.6 7: 長7.8 幅0.7 厚0.5 34: 長3.5 幅0.6 厚0.3 8: 長7.0 幅0.6 厚0.4 35: 長6.7 幅2.0 厚0.5 9: 長6.9 幅0.5 厚0.5 36: 長5.9 幅1.0 厚0.6 10: 長5.0 幅0.5 厚0.5 37: 長4.8 幅1.0 厚0.9 11: 長4.7 幅0.5 厚0.4 38: 長7.5 幅2.7 厚0.7 12: 長2.8 幅0.4 厚0.4 39: 長7.3 幅2.4 厚0.7 13: 長14.5 幅1.0 厚0.8 40: 長2.8 幅1.1 厚0.5 14: 長12.6 幅1.2 厚0.6 41: 長5.8 幅1.4 厚0.7 15: 長8.1 幅1.0 厚0.5 42: 長5.7 幅1.0 厚0.7 16: 長7.1 幅1.2 厚0.6 43: 長4.2 幅1.0 厚0.4 17: 長6.7 幅0.9 厚0.5 44: 長5.6 幅0.8 厚0.6 18: 長6.6 幅1.0 厚0.4 45: 長4.5 幅0.8 厚0.5 19: 長6.5 幅0.9 厚0.5 46: 長4.0 幅0.8 厚0.6 20: 長6.6 幅1.2 厚0.4 47: 長3.9 幅1.1 厚0.6 21: 長5.6 幅1.1 厚0.6 48: 長3.8 幅0.7 厚0.4 22: 長4.9 幅0.5 厚0.3 49: 長4.1 幅0.7 厚0.3 23: 長4.1 幅0.8 厚0.5 50: 長15.7 幅2.8 厚1.5 24: 長8.9 幅0.9 厚0.4 51: 長10.0 幅5.3 厚2.1 25: 長6.9 幅1.3 厚0.4 52: 長7.6 幅1.5 厚1.3 26: 長6.6 幅1.7 厚0.5 53: 長2.6 幅1.0 厚0.6 27: 長8.0 幅1.7 厚0.7
作品概要	骨角器は、貝塚でしか遺存しない貴重なもので、装身具と利器の多様性や食料資源の多様性などを知ることができる。1・2は垂飾、3～12は斧、13～23はヤス状刺突具、24～33は逆刺付刺突具 34は逆刺 35は有孔組合式刺突具 36・37は釣針、38～40は磨製刃器、41～49は鏃、50～52は鹿角片、53は歯である。		

23 名称	石剣（せっけん）	品質	粘板岩製
作者等	伝新潟県出土	員数	2本
時代	縄文時代・3000年前-2300年前	寸法等	1: 長径3.1 短径2.4 長56.9 2: 長径2.5 短径2.0 長27.2
作品概要	縄文時代晩期の東北地方を中心に分布する石剣。1は完存、2は先端側3分の1程度が残る。剣状で、沈線と敲打で表現された区が特徴的である。全面に漆状の黒色物質が薄っすら付着している。縄文時代の石棒類は、その起源を先行する骨刀類に求める見解が多いものの、中国東北部やシベリアで出土する青銅製刀子・短剣に求める見解もあり、今後の研究が注目される。箱蓋表貼紙には「霹靂礎」、箱蓋裏には「越後蒲原郡古鷹ノ里ノ武埴姓都知多庫（朱文方印）「埴」」の墨書がある。		

24 名称	土偶（どぐう）	品質	土製
作者等	伝青森県つがる市木造亀ヶ岡出土	員数	1軀
時代	縄文時代・3000年前-2300年前	寸法等	高17.8 幅13.4 厚6.3
作品概要	縄文時代晩期の東北地方を中心に分布する亀ヶ岡文化の土偶。雪眼鏡（遮光器）を掛けたような眼部表現から、遮光器土偶と呼ばれる。本品は中空で、下半身は別個体の遮光器土偶のものが近時修理で接合されている。上半身はバランスが良く、精緻な文様と丁寧な黒色磨研により見事な造形美を見せる。亀ヶ岡文化では祭祀具や工芸技術が発達し、多様な形態を持つ精巧な作りの土器、土製品、石製品が多数製作された。本品はそうした亀ヶ岡文化の特徴をよく示す品である。それらの一部は九州にも伝わり、弥生文化の成立にも大きな影響を与えた。		

25 名称	土偶（どぐう）	品質	土製
作者等		員数	1軀
時代	縄文時代・3000年前-2300年前	寸法等	高9.5 幅13.3 厚6.2
作品概要	縄文時代晩期の関東地方を中心に分布する土偶。顔面が木菟に似ることから、木菟土偶と呼ばれる。木菟土偶は中実で作られることが多く、本品のような中空のものは数が少ない。中空の木菟土偶は、同時期の東北地方を中心に分布する中空の遮光器土偶の影響を受けて成立したといわれており、両地域の交流を物語る品である。		

26 名称	石器（せっき）	品質	1：独鈷状石器。安山岩製 2：磨製石斧。緑色片岩製。
作者等	伝福島県南会津郡下郷町 五百地遺跡出土	員数	2個
時代	弥生時代・前4世紀-後1世紀	寸法等	1：縦20.5 横3.7 高2.9 2：縦8.2 横4.8 高1.8
作品概要	弥生時代前半期の独鈷状石器と磨製石斧。独鈷状石器には中央部に赤色顔料が付着する。弥生時代には、縄文系と呼ばれる縄文時代に系譜が辿れる石器・石製品が出土することがある。それらには地域性があり、近畿地方以北では独鈷状石器が、近畿地方では石棒が、九州地方では刻みや器体長軸方向の穿孔のある翡翠製垂飾が出土する。磨製石斧は、やや片刃状を呈するため、縄文時代の北海道で顕著に見られる片刃石斧の影響を受けたものである可能性がある。		

27 名称	壺形土器（つぼがたどき）	品質	土製
作者等		員数	1口
時代	続縄文時代・前2世紀-後1世紀	寸法等	最大径26.0、口径11.5、拵部径8.0、底径8.0、高33.2
作品概要	続縄文時代前半期の北海道西部を中心に分布する土器。胴部中央付近に最大径のある壺型の器形や胴部に施された縦方向の縄文が特徴的である。続縄文時代とは、北海道において縄文時代に続く時代で、本州以南の弥生時代・古墳時代に並行する時代を指す。寒冷のため稲作が行なわれず、縄文時代から続く狩猟採集漁業を生業としながら鉄器が使用されていた。続縄文時代の資料は、日本列島における文化の多様性を知る上で貴重である。		

28 名称	深鉢形土器（ふかばちがたどき）	品質	土製
作者等	伝北海道北見地方出土	員数	1口
時代	続縄文時代・前2世紀-後3世紀	寸法等	最大径24.0、底径7.2、高27.0
作品概要	続縄文時代前半期の北海道東部を中心に分布する土器。口縁部から胴部上半の貼付文や胴部に施された縦方向の縄文が特徴的である。続縄文時代とは、北海道において縄文時代に続く時代で、本州以南の弥生時代・古墳時代に並行する時代を指す。寒冷のため稲作が行なわれず、縄文時代から続く狩猟採集漁業を生業としながら鉄器が使用されていた。続縄文時代の資料は、日本列島における文化の多様性を知る上で貴重である。		

29 名称	取手付長頸瓶（とってつきちょうけいへい）	品質	ガラス製
作者等	イラン	員数	1口
時代	サーサーン朝・5-7世紀	寸法等	口径2.0 胴径8.0 底径8.0 総高15.5
作品概要	型吹きガラス技法で作られた薄褐色でほぼ透明の瓶。隆さが低く銀化した円筒形の胴部には、7角形の断面を持つ細長い頸部が取り付けられている。頸部にはほとんど銀化が見られない。頸部及び胴部には、幾何学的な文様が刻まれている。頸部口縁部近くと胴部上面は取手で繋がれている。取手上部に取り付けられた丸みを帯びたラクダのような装飾は、同時代の金属製容器から影響を受けているものと思われる。こうした長頸容器は、バラ油と蒸留水との混合物を濾過した化粧水の種類であるバラ水用と考えられる。		

30 名称	取手付瓶（とってつきへい）	品質	ガラス製容器
作者等	イラン	員数	1口
時代	サーサーン朝-初期イスラム期・6-8世紀	寸法等	口径6.5 胴径11.5 底径6.0 総幅12.5 高15.0
作品概要	型吹きガラス技法で作られた薄緑色で透明の瓶。あまり銀化していない。突出した底部（高2.0cm）に丸みを帯びた胴部が載り、さらに頸部が口縁部に向かって少し広がっている。取手は胴部肩部と口縁部付近を繋いでいる。胴部には八弁花文が6回繰り返され、間には植物文が施されている。口縁近くの取手上部には、金属器の影響を受けたと思われる指止めが見られる。底面にはポンテ痕がある。型吹き装飾は、文様を施した金属やストウッコ製の割型に、熔けて柔らかくなったガラスたねを吹き込んで、型の凹凸を写し取る技術である。その後、宙吹き技法で息を吹き込み全体の形を整えている。		

31 名称	切子装飾小瓶（きりこそうしょくしょうへい）	品質	ガラス製
作者等	イラン	員数	1口
時代	イスラム時代・8-9世紀	寸法等	口径2.5 胴径5.5 底径2.6 高6.8
作品概要	吹きガラス技法で作られた短い頸付きの薄緑色で透明の小瓶。土中により、表面及び内面は著しく銀化しており、ほぼ全面白色不透明となっている。ほぼ球形を呈する胴部の底面は平たく研磨されており、ポンテ痕は見られない。頸部には縦長の楕円形切子が一段10個、胴部には4段にわたって円形切子（上から11、12、12、10個）が施されている。胴部の円形切子は切り合っていない。香油入れと考えられる。サーサーン朝期の碗に典型的な切子（カット）装飾だが、本作品の制作時期は少し下がるものと思われる。		

32 名称	吸角器（きゅうかくき）	品質	ガラス製
作者等	イラン	員数	1個
時代	アッパース朝・10世紀	寸法等	口径7.5 底径3.5 高8.5 総幅13.5
作品概要	吹きガラス技法で作られた薄緑色で透明の丸底コップで、胴部側面には斜め下方に向かって曲りながら徐々に細くなる管が取り付けられている。大きく割れているが、欠失部分はほとんどなく、復元済み。胴部に直線状の管が取り付けられた容器は、バラやアルコールの蒸留用の器具であるのに対し、曲がった管付きの容器は、皮膚に吸い付けて容器内部を陰圧とし、患者の身体から膿や悪血を吸い出す吸角器とみなされる。吸い玉あるいは吸い瓢（スイフバ）とも呼ばれる吸角器は、今日でも使われている医療器具である。		

33 名称	取手付瓶（とってつきへい）	品質	ガラス製
作者等	イラン	員数	1個
時代	サーサーン朝・10-11世紀	寸法等	口径3.0 胴径8.5 底径6.5 高12.5
作品概要	型吹きガラス技法で作られた薄緑色で透明の瓶。一部銀化している。絞った胴部頂部に頸部を接合しており、胴部頂部付近と頸部口縁部を指当てつきの細い取手で繋いでいる。口縁部に小さな欠失部がある。少し凹んだ底部にはポンテ痕あり。種やかな稜を持つ胴は12面体を呈し、型吹きガラス技法で作られた作品であることを示している。胴部と頸部の接合部分を絞っているのは、バラ水を室内で広範囲に振り撒くためと考えられる。本作品は、大変薄手で、軽く作られており、技術的にもすぐれている。		

34 名称	長頸瓶 (ちょうけいへい)	品質	ガラス製
作者等	イラン	員数	1口
時代	セルジューク朝・12-13世紀	寸法等	口径1.5 胴径10.0 底径6.0 高24.7 高1.0
作品概要	型吹きガラス技法で作られた薄緑色で透明の瓶。割型を用いて植物文を胴部に写し、細長い頸部下方に細い紐状のガラス線を巻き付けて装飾している。少し凹んだ底にはボンテ痕あり。バラ水は、バラ油と蒸留水の混合物を濾過して得られる化粧水の種類であり、身辺を清浄に保ち、部屋に撒水して客を歓迎したり、料理に用いるなど、さまざまな使い道がある。細長い頸部を持つフラスコ瓶で保存することが多く、本作品もそうした用途に使われていたものと思われる。中東のダマスカスは、バラ水の生産拠点として有名である。		

35 名称	多彩釉刻文鉢 (たさいゆうこくもんはち)	品質	陶器
作者等	イラン・ニシャプール	員数	1口
時代	アッバース朝・9世紀	寸法等	口径24.5 底径10.5 高7.5
作品概要	ゆるやかに外反する鉢で、赤褐色の胎土のほぼ全面に白化粧土を掛け、内面には植物文や幾何学文などを刻んでいる。そうした刻線にほぼ沿うような形で、緑色、紫色、黄土色などの絵の具で彩色し、底面近くにまで透明鉛釉を施し焼成している。底面はほぼ平滑に仕上げられている。複数の色を用い、比較的低温度で焼成した陶器で、釉が一方に流れているため少し傾けた状態で伏焼きされたことが分かる。黄土色・緑色・紫色・茶色などを用いる唐三彩と似ており、ペルシア三彩と呼ばれる。唐三彩は時代的に先行するのみならず、輸出用ではなく副葬品として作られてものであるところから、この種のペルシア三彩の発生と発展に貢献したのは、定期的に近い遼三彩と考えられる。		

36 名称	多彩鳥文鉢 (たさいとりもんはち)	品質	陶器
作者等	イラン・ジュルジャー	員数	1口
時代	サーマーン朝・10-11世紀	寸法等	口径19.5 底径7.5 高8.0
作品概要	淡紅色の胎土のほぼ全面に白化粧土を掛け、大きく開く器形を示す鉢。底面はほぼ平滑で、外面には彩色が見られない。白化粧土の上に、焦げ茶色、黄土色などの絵の具を塗り、その上から透明な鉛釉を施している。内面全体に、横向きの鳥を大きく描き、周囲には茎で繋がれた3つの花文を配している。鳥は、茎を啜えているようである。花の周りの連珠文は、この種の鳥文鉢でよく用いられるもので、本作品は多彩鳥文鉢の典型例といえる。大きく開いた器の内面に動物文を描くこのような多彩鉢は、類品多数が見つかったカスピ海沿岸近くのサーリーにちなみ、「サーリー手」と呼ばれる。窯址は未発見のままであるが、実際の生産地はジュルジャーと考えられている。		

37 名称	ラスター彩人物文平鉢 (らすたーさいじんぶつもんひらばち)	品質	陶器
作者等	イラン・レイ	員数	1口
時代	セルジューク朝・12世紀	寸法等	口径19.0 底部径7.0 高5.5 底部高2.0
作品概要	茶褐色の胎土を用いた、高台から緩やかに外反し、肩の辺りからほぼ水平に広がる器形を持つ平鉢。器形を整えて白釉を掛けて焼成した後、銅などの酸化物を含む絵具で人物図などを描き、再度還元焼成したもの。その結果、ラスター彩と呼ばれる金属的な光沢を呈するようになった。見込み中央にある13葉の椀内に描かれた向かい合って坐る女性(?)2名は、ともに帽子をかぶり、両手を両膝に載せているようである。13葉の椀と肩内面近くの空間には、倣文字文が描かれている。肩部から外周部にかけては、文様帯2段がある。内側では縦線と幾何学文を繰り返すが、外側ではラスター彩の帯部分を鋭く尖ったものでひっかいて倣文字文を描いている。		

38 名称	ランプ (らんぷ)	品質	陶器
作者等	イラン・ゴルガン	員数	2個
時代	セルジューク朝・12世紀	寸法等	1: 青釉ランプ 底径8.0×9.0 高9.5 2: 緑釉ランプ 底径5.5×6.0 高8.3
作品概要	持ち運べる、取手と台付きのランプ2個; 1. 青釉ランプ。碗の口縁部は火を点す灯心を支えるために絞られている。台の屈曲する縁部は、いったん内側に折れ込んで再び立ち上がっており、碗は台中央にある徐々に細くなる支柱で固定されている。台口縁部と碗側面は取手によって繋がれている。2. 1とよく似た形だが緑釉を施したランプ。生活に不可欠なランプは、世界各地で、さまざまな形態と材質で作られてきた。本作品は、セルジューク朝のイランで広く使われていた台付きの青釉ランプと緑釉ランプである。トルコ石に似た空色を呈する青釉は、アルカリ釉と酸化炭焼成した銅の絵具による。		

39 名称	青釉取手付水注 (せいゆうとってつきすいちゅう)	品質	陶器
作者等	イラン・レイ	員数	1口
時代	セルジューク朝・12世紀	寸法等	口径3.0 胴径9.0 高台径5.2 高15.5 高台高1.0
作品概要	薄い灰白色の胎土を用い、12面取りの胴部に丸みを帯びた肩部が載り、先端が細く伸びた口縁部を持つ細い頸部へ連なる器形を示す水注。口縁部上部と肩部を取手が繋いでいる。全面に青釉が厚く掛けられており、一部は銀化している。アルカリ釉と酸化炭焼成した銅の絵具から生まれる、トルコ石色の釉薬の発色が美しい。実用品であり、装飾は突出した注口部分に限られている。		

40 名称	藍釉鑄文壺 (らんゆうしのぎもんこ)	品質	陶器
作者等	イラン・ゴルガン	員数	1口
時代	セルジューク朝・12世紀	寸法等	口径8.5 胴径13.0 高台径8.5 高18.5 高台高1.7
作品概要	藍釉を内部を含む全面に掛けた壺。高台から大きく開き、角度を変えて少し外反する胴部は、肩部から内側に折れこみ、太く短い頸部を支えている。縦に伸びる鑄文を繰り返す胴部以下には釉が見られない。肩部には、型押し文が繰り返されている。肩及び頸部根元には圈線が巡っている。酸化コバルトによる紺色の発色が美しい。明代に青花(染付)用にイスラム圏から輸入されたコバルトを青膏と呼ぶ。		

41 名称	ラスター彩取手付水注 (らすたーさいとってつきすいちゅう)	品質	陶器
作者等	イラン・カシャー	員数	1口
時代	セルジューク朝・12-13世紀	寸法等	胴径8.0 底部径5.0 高16.0 底部高1.0
作品概要	高台から緩やかに立ち上がり肩部で折れ曲がる大振り胴部の、太く短い頸部がのった水注。頸部口縁部には上方に伸びる注口が作られ、頸部下方には突帯が巡っている。取手は、頸部上部と肩部を繋いでいる。白釉は、高台近くに垂れ落ちているほど厚く、内部を除く全面に掛けられている。胴部には、太・細線と唐草とともに鳥2羽が繰り返されている。頸部には、円文の花文と唐草文を描く。最初の焼成後、酸化金属の絵具で模様を描き、再度還元焼成することで、ラスター彩と呼ばれる金属的な光沢を呈するようになった。鳥の嘴のような注口を持つ水注は、同時代の金属器の姿を写したもので、当時の金属使用禁止令に応えたものとされる。		

42 名称	ラスター彩十字型タイル（らすたーさいじゅうじがたたいる）	品 質	陶器
作者等	イラン・カシャー	員 数	1枚
時代	イル・ハーン朝・13世紀	寸法等	縦21.6 横20.7 厚1.7
作品概要	三角形の頂点を持つラスター彩十字型タイル。十字の中央には、立ち止まって後を振り返る様子の動物の姿が横向きにあらわされている。身体には斑点があり、長い尻尾と長い耳が見られる。足下には植物が生えており、残る空間も植物文で埋め尽くされている。白釉で全面を覆って焼成後、酸化金属の絵具で動物や植物文を描き、再度還元焼成することで、ラスター彩と呼ばれる金属的な光沢を呈するようになった。この種の十字型タイルは、八稜星形タイルをモスクや宮殿の壁に貼り付けた際にできる隙間を埋めるために大量に作られた。カシャーは、セルジューク朝期のラスター彩タイルの生産地として有名である。		

43 名称	ラスター彩人物瑞鳥文星型タイル（らすたーさいじんぶつずいちょうもんほしがたたいる）	品 質	陶器
作者等	イラン・カシャー	員 数	1枚
時代	イル・ハーン朝・13世紀	寸法等	縦21.0 横21.0 厚2.0
作品概要	正方形を45度ずらして重ねた八稜星形のラスター彩タイル。八稜画面外周の白い区画には倣文字文が、また八角形内部には左手の坐る人物と右手の頭をもたげた瑞鳥（鳳凰）が向かい合わせに描かれている。人物は左手を膝に置き、右手には持物を取っている。周囲の草花などは、天国を連想させる庭園の表現と思われる。一部の輪郭線や大きな植物の茎などは藍色で描かれている。白釉で全面を覆って焼成後、酸化金属の絵具で動物や植物文を描き、再度還元焼成することで、ラスター彩と呼ばれる金属的な光沢を呈するようになった。この種のタイルは、セルジューク朝期以降、王宮、モスクなどの建築物の内外装に盛んに用いられた。		

44 名称	ラスター彩龍文タイル（らすたーさいりゅうもんたいる）	品 質	陶器
作者等	イラン・カシャー	員 数	1枚
時代	イル・ハーン朝・13世紀	寸法等	縦29.0 横29.0 厚2.0
作品概要	ほぼ方形で、主文に龍を描くラスター彩タイル。植物文や龍の身体などの文様を盛り上げて表現している。方形画面のうち、上から4分の1ほどは植物文の、また一番下には二重円文の細い装飾帯が描かれている。残る部分には、振り向きながら大きく口を開けて火を吐く、横向きに龍が大きく描かれている。全面に白釉を掛けて焼成してから金属の酸化物の絵具で地の部分や龍の身体を覆う鱗を描き、再度還元焼成することで、ラスター彩と呼ばれる金属的な輝きを呈するようになった。モンゴル系のイル・ハーン朝が成立したため、ラスター彩タイルに中国独自の文様（龍や鳳凰など）が表現されるようになった。文化交流の生き証人としてきわめて貴重である。		

45 名称	藍釉鳥文星型タイル（らんゆうとりもんほしがたいる）	品 質	陶器
作者等	イラン・カシャー	員 数	1枚
時代	イル・ハーン朝・13世紀	寸法等	縦20.0 横20.0 厚1.5
作品概要	正方形を45度ずらして重ねた八稜星形タイル。植物やソデグロゾルと思われる鳥3羽を多少盛り上げて表現している。灰色の鳥の羽や花の細部を、灰色の細い線で描いている。藍釉を背景に描かれていた鳥の体勢は変化に富んでおり、中国からの影響が認められよう。この種の八稜星形タイルは、先端が三角形の十字型タイルと組み合わせて用いられ、王宮やモスクなどの建築物の内外面を飾った。カシャーは、セルジューク朝期のラスター彩タイルの生産地として有名である。		

46 名称	緑釉取手付長頸壺（りよくゆうとってつきちようけいこ）	品 質	陶器
作者等	イラン・ニシャプール	員 数	1口
時代	イル・ハーン朝・13世紀	寸法等	口径4.5 胴径16.0 高台径8.0 高32.0 高台高1.5
作品概要	赤褐色の胎土で成形した長頸壺。高台に量感溢れる洋梨型の胴部が載り、撫で肩の頂点から細長い頸部が少し広がりがりながら立ち上がっている。頸部上端は、液体を注ぎやすいよう少し内側に屈曲している。指止めを持つ取手は、肩部と頸部中程を繋いでいる。頸部と取手の接部すぐ下には、突帯が見られる。頸部から肩部にかけて、また底部近くには輪文が繰り返されている。高台にかかるほど厚手の緑釉が全面に掛けられ、さらに茶褐色と濃い緑色の絵具が釉薬に溶け込んでいる。頸部根元と取手の一部は候補と見られるほか、高台は一部欠失している。充実した器形は、中国陶磁からの影響を示している。		

<歴史資料> (3件)

47 名称	オルテリウス『世界の舞台』（おるてりうす せかいのぶたい）	品 質	紙本銅版、手彩色
作者等	アブラハム・オルテリウス編	員 数	1冊
時代	アントウェルペン・1579年刊	寸法等	縦42.3 横29.2 高6.3
作品概要	『世界の舞台』（Theatrum Orbis Terrarum）は、大航海時代の成果をもとに、アントウェルペン（現ベルギー）出身の地理学者・地図作者のアブラハム・オルテリウスが編集した世界最初の地図帳。本品は1579年のラテン語版で、93葉115種の地図が収録される。1579年版の特筆すべき点は3点あり、まず1点目は歴史地図3図とブレマイオス『地理学』所載の地名リストを追加したことである。2点目はそれまでの版になかったオルテリウスの肖像画が掲載されたことである。3点目はこの版以降、プランタン印刷所で印刷・販売されたことである。1579年版の発行部数は不詳だが、100部ほどだったと推測される。近代的な世界地図帳（アトラス）の嚆矢であり、商人や航海者による世界地図の需要に応えたものでもある本品は、ヨーロッパとアジアとの邂逅を示す優品であると考えられる。		

48 名称	今川了俊自筆書状（いまがわりようしゅんじひつしよじょう）	品 質	紙本墨書
作者等	今川了俊筆	員 数	1幅
時代	南北朝時代・永和2年(1376)	寸法等	本紙：縦27.6 横52.4 表装：縦118.0 横54.4 軸長59.7
作品概要	本品は永和2年(1376)2月19日付、松浦党の一派である佐志氏に宛てた、今川貞世（了俊）の自筆書状。永和2年に松浦党の一派であった波田武が南朝方に翻ったため、家臣の中賀野義員（生没年不詳）に兵をつけて肥前・黒川に派遣したが、軍勢が少なかったため、佐志氏に対して、松浦党の有浦氏に援軍をつけるように依頼したもの。本文書は了俊自筆の書状で、南北朝期の九州の模様を伝える史料として貴重である。中廻しの裂は京都国立博物館所蔵「前田家伝来名物裂」の「変り蜀江文様黄緞」と同類のものであり、格調高い。和歌や連歌を嗜み、紀行文などを著した文化人としての側面も持つ了俊の自筆書状として、本品は茶席の掛物として使用された可能性もある。		

49 名称	徳川家康黒印状（とくがわいえやすこくいんじょう）	品 質	紙本墨書
作 者 等		員 数	1幅
時 代	江戸時代・慶長10年(1605)–慶長19年(1614)	寸 法 等	本紙：縦20.8 横57.2 表装：縦102.5 横59.7 軸長64.6
作品概要	宗義智苑、徳川家康の黒印が捺された御内書。家康のもとに朝鮮人参と卓が届いたことへの返礼である。大正15年(1926)に宗伯爵家が朝鮮総督府朝鮮史編修会に無期限貸与したうちの徳川家康文書のうちの一つである。朝鮮史編修会が撮影したガラス乾板写真が韓国・国史編纂委員会に残っており、当時の装丁は江戸時代の装丁（卷子装）のままであったことが確認できる。本品は近代に流出してしまった宗家文書を構成する重要な一要素である。		

(2) 寄贈 (66件)

<絵画> (1件)

1 名称	花木図押絵貼屏風（かぼくずおしえはりびょうぶ）	品 質	紙本墨画
作 者 等	鶴亭筆	員 数	6曲1双
時 代	江戸時代・明和4年(1767)	寸 法 等	各図：縦133.0 横50.5 各隻：縦168.3 横380.0
作品概要	芭蕉、竹、蘭、松、菊、蘇鉄、梅、木蓮など、各扇にさまざまな花木を水墨で描く。筆者鶴亭（1722～85）は、江戸中期、長崎の黄檗宗聖福寺の僧。熊斐から沈南蘋の画法を学び、黄檗絵画の影響も受け独自のスタイルを確立。20歳代半ばに還俗し大坂へ移住し、京坂の黄檗僧、南画家たちと交流した。安永6年(1777)、宇治の万福寺紫雲院住持となったが数年後退き、諸国遍歴後、江戸で没。南蘋画風を関西に広めた点で、その絵画史的な意義は大きい。本屏風は鶴亭46歳時の作で、黒白の強烈な対比、シャープな形態、リズムカルな筆づかいなど、鶴亭の魅力が遺憾なく示されている。この種、水墨による花木の押絵貼屏風は、鶴亭から若冲へも影響した。		

<陶磁> (5件)

2 名称	白磁碗（はくじわん）	品 質	白磁
作 者 等	中国南部	員 数	1口
時 代	中国 北宋時代・11世紀	寸 法 等	口径16.2 高台径6.1 高5.7
作品概要	轆轤成形により、底部から外に開いて立ち上がり、そのまま太く厚めの玉縁状の口縁となる。やや幅広いの高台を削り出し、高台とその周辺を除いて全体にやや灰白色の釉薬をかける。胎土はやや荒く灰白色で、釉薬も灰緑色がかっているのが特徴。博多遺跡群など日本各地で出土する典型的な白磁碗の作例であり、北宋時代に日常の器として福建や広東など中国南部沿岸地域で大量に作られたものと考えられる。インドネシアで出土したと推定され、白磁碗が貿易陶磁器として日本のみならず、インドネシアでも普及していたことを示す貴重な遺例である。		

3 名称	青磁鑄蓮弁文碗（せいじしのぎれんべんもんわん）	品 質	青磁
作 者 等	中国・龍泉窯	員 数	1口
時 代	中国 南宋-元時代・13世紀	寸 法 等	口径16.1 高台径5.1 高5.5
作品概要	轆轤成形により、底部から外に開いて立ち上がり、そのまま口縁となる。外側に鑄蓮弁文を彫り出す。中国・南宋～元時代、12世紀後半から14世紀前半にかけて、日本の中国陶磁の輸入は爆発的なピークを迎えた。本作品のような蓮弁文を彫りあらわした青磁碗はその代表であり、13世紀前半に輸出が増加し、日本国内の遺跡から出土する中国陶磁の大部分を占め、太宰府や博多遺跡群からも出土している。同時期の龍泉窯の製品は日本のみならず世界中に普及しており、インドネシアで出土したと推測される本作品は、蓮弁文碗がインドネシアにも普及していたことを示す貴重な作例である。		

4 名称	緑釉鉄彩鉄線唐草文四耳壺（りよくゆうてっさいてっせんからくさもんしじこ）	品 質	陶器
作 者 等	唐津（武雄）	員 数	1口
時 代	江戸時代・17世紀中頃	寸 法 等	口径12.0 底径12.3 高27.7
作品概要	胴部に線彫りで唐草文を施し、鉄線花は印刻であらわす。口縁から腰までの外面全体に白化粧を施し、その上に緑釉をかけ、部分的に鉄釉を施す。肩には、三本の鑄を施した環状の耳を4つ付ける。本作品は1640年代-70年代に武雄領内で製作された壺で、「古武雄」とも呼ばれる。安土桃山時代を中心に日本の上層階級の器として需要のあった、中国・福建省近辺で焼かれた華南三彩壺を写したもので、相当量の伝世品が見られる。佐賀藩の御用茶師であった上林茶店に類似品が伝世しており、この手の耳付壺は茶壺として用いられた可能性が高い。17世紀に武雄地域で焼成され、市井に普及した唐津焼（武雄系）の伝世例として貴重である。		

5 名称	象嵌雲鶴文大皿（ぞうがらんうんかくもんおおざら）	品 質	陶器
作 者 等	唐津（御茶碗窯）	員 数	1枚
時 代	江戸時代・19世紀	寸 法 等	高10.3 口径46.7 底径17.6
作品概要	平らな底部よりゆったりと立ち上がり、そのまま外に大きく広がり口縁となる。見込の中央に二重の圈線を施し、その内側に雲・鶴文を印刻し黒色顔料を象嵌する。唐津焼は西日本を代表する陶器で、九州・山口に展開する朝鮮半島系の窯の中でも最も古い歴史を持つ。唐津藩は寛永年間(1624-44)より徳川幕府に唐津焼を献上しており、なかでも藩命により、享保19年(1734)から明治4年(1871)の廃藩まで、唐津・唐人町の御茶碗窯で作られた御用品を「献上唐津」と呼ぶ。本作品は、類品に比べて釉薬が白いように見受けられるが、印刻・象嵌などの装飾技法は唐津焼らしい特徴を示しており、献上唐津の製品と考えられる。類品の少ない献上唐津の大皿として貴重な作例である。		

6 名称	青花山水人物図詩文角皿（せいかさすいじんぶつずしぶんかくざら）	品 質	磁器
作 者 等	中国・景德鎮窯	員 数	1枚
時 代	中国 清時代・19世紀	寸 法 等	口径23.5×17.0 底径23.5×17.0 高1.5
作品概要	清時代に作られた青花磁器の角皿。板作りにより平らな底部を作り、高めの縁を四方に付けて角を面取りする。見込には呉須で山水図をあらわし、側面に「大學經一章」の一説を記す。景德鎮窯を中心として中国で作られた青花磁器は、15世紀に渡来して以降、食膳具あるいは懐石道具として頻りに用いられた。明末清初の動乱により中国磁器の生産と輸出が一時的に止むと、その間に伊万里焼が市場を席巻したが、江戸後期になると中国陶磁の人氣が再燃し、民間まで普及した。本作品には、箱蓋表に「唐焼角皿 文政十一初冬求之」と墨書があり、中国陶磁の人氣が復活していた文政11年(1828)までには渡来していたことが分かる。江戸後期に日本で需要のあった青花磁器の作例として貴重である。		

<漆工>7件

7-13 名称	平調切律管（ひょうじょうぎりりっかん）など	品 質	竹、象牙、革、紫檀、螺鈿
作 者 等	治貞力 など	員 数	7件
時 代	20世紀 など	寸 法 等	
作品概要	筑紫箏は筑紫箏曲または筑紫流箏曲と呼ばれ、安土桃山時代に雅楽の合奏曲である越天楽から誕生し、江戸時代に佐賀藩内で伝承されたとされる箏曲である。明治時代、大正時代にも、今泉千秋、野田聴松によって筑紫箏は受け継がれたものの、その後は消滅したと考えられた。しかし昭和になって、村井れいと井上ミナの2名が伝承者であることが判明した。村井、井上両氏は昭和32年(1957)に文化財保護委員会（現・文化庁）から「記録作成等の措置を講ずべき無形文化財（筑紫箏）の技芸者」として登録され、研究者やメディアから大いに注目を受けた。しかし、両氏とも伝承者を残さなかったため、筑紫箏の伝承者は消滅した。本コレクションは村井氏が残した資料群を中心としており、筑紫箏の曲譜だけでなく、筑紫箏の伝承の歴史を伝える資料も含んでいる。現在伝承者が不在になってしまった筑紫箏の歴史と、筑紫箏を残そうと奮闘した人々の活動を伝える資料である。 ※「18-66」と一括の資料である。		
	1 平調切律管	1点	
	2 琴柱頭	1点	
	3 律管	1点	
	4 律管	1点	
	5 つめ	9点	
	6 琴柱	13点	
	7 村井れい旧蔵箏「初雁」	1面	

<考古> (4件)

14 名称	三脚石器（さんきゃくせつき）	品 質	頁岩製
作 者 等	伝山形県米沢市広幡町成島出土	員 数	3個
時 代	縄文時代・5000年前-4000年前	寸 法 等	1：縦5.0 横4.7 厚1.5 2：縦4.0 横3.4 厚1.7 3：縦3.0 横2.7 厚1
作品概要	縄文時代中期～後期の東日本の日本海側で出土する特徴的な石器。同地域で出土する類似した形態の三角形土版・岩版との関係性が考えられる。		

15 名称	石棒（せきぼう）	品 質	粘板岩製
作 者 等	伝山形県北部出土	員 数	1本
時 代	縄文時代・4000年前-3000年前	寸 法 等	短径4.5 長径5.5 長37.5
作品概要	頭部側面の杵状線刻と1対の突起、頭部下方の鐮状装飾、体部に残る斜行する敲打痕を特徴とする石棒で、縄文時代後期の東日本を中心に分布するもの。半分程度を欠損する。縄文時代の石棒類は、その起源を先行する骨刀類に求める見解が多いものの、中国東北部やシベリアで出土する青銅製刀子・短剣に求める見解もあり、今後の研究が注目される石器である。		

16 名称	五鈴杏葉（ごれいぎょうよう）	品 質	青銅鑄造
作 者 等		員 数	1個
時 代	古墳時代・6世紀	寸 法 等	縦11.4 横8.5 高3.0
作品概要	青銅鑄造の鈴付杏葉。吊手孔に鉄製品の断片と鉄錆が付着しており、本来は吊手金具に装着されていたと判断できる。本体は剣菱形で内部の区画に小さな突起を鑄込む。本品は吊手の装着等の資料残存状況から見て、轡等の他馬具とともに馬装一括品として古墳に副葬されていたものと想定される。五鈴の補修は古墳から持ち出された後の近代以降の補修である。鈴付杏葉は古墳時代中期（5世紀）に日本列島に導入された後、古墳時代後期（6世紀）と通じて用いられた。馬形埴輪の装飾表現にも、鈴付馬具は多用されている。当該期の豪族は服装・武装等で「鈴」を多用する傾向にあり、本品も豪族所有品の一つと位置づけられる。		

17 名称	馬鈴（ばれい）	品 質	青銅鑄造
作 者 等	伝奈良県奈良市（大和国山辺郡丹波市エボ古墳（都介野人丸神社付近））出土	員 数	1個
時 代	古墳時代・6-7世紀	寸 法 等	直径9.0 高10.0
作品概要	直径9cmにもなる鑄造大型鈴で、丸に小型鈴を入れ込む二重構造。大型鈴の器面は稜線で区画され、十六面体の外形となる。頂部には「U」字形の紐がつき、表面は丁寧な面取りが施されている。紐下端の稜線は鮮明で、吊紐による顕著な使用痕跡は確認できない。後世の補修等もなく出土時の状態をほぼ保つことから、来歴のとおり、もともとは古墳に納められた副葬品であったと判断できる。他鉄製品の鑄が付着することから、他副葬品と接する形で墓室内に置かれていたと見られる。二重構造をもつ馬鈴の類例には、宮崎県・持田古墳群27号墳出土品があり、稀少ながら日本各地の豪族間で同様の馬鈴が保有されていたと見られる。		

<歴史資料> (49件)

18-66 名称	筑紫箏譜 乾（つくしろうふ けん）など	品 質	紙本墨書、紙本印刷、紙本ガリ版、アルバム装、紙本ペン書き、アルバム装、活字印刷
作 者 等	前川禮子写、野田聴松写、松井通昭筆、前川ユリ子写、佐賀県社会教育課 など	員 数	49件
時 代	明治、大正、昭和など	寸 法 等	
作品概要	筑紫箏は筑紫箏曲または筑紫流箏曲と呼ばれ、安土桃山時代に雅楽の合奏曲である越天楽から誕生し、江戸時代に佐賀藩内で伝承されたといわれる箏曲である。明治時代、大正時代にも、今泉千秋、野田聴松によって筑紫箏は受け継がれたものの、その後は消滅したと考えられた。しかし昭和になって、村井れいと井上ミナの2名が伝承者であることが判明した。村井、井上両氏は昭和32年(1957)に文化財保護委員会(現・文化庁)から「記録作成等の措置を講ずべき無形文化財(筑紫箏)の技芸者」として登録され、研究者やメディアから大いに注目を受けた。しかし、両氏とも伝授者を残さなかったため、筑紫箏の伝承者は消滅した。本コレクションは村井氏が残した資料群を中心としており、筑紫箏の曲譜だけでなく、筑紫箏の伝承の歴史を伝える資料も含んでいる。現在伝承者が不在になってしまった筑紫箏の歴史と、筑紫箏を残そうと奮闘した人々の活動を伝える資料である。		
	1 筑紫箏譜 乾	1点	
	2 筑紫箏譜 坤	1点	
	3 筑紫箏譜 奥	1点	
	4 筑紫箏譜 別曲	1点	
	5 倫説集	1点	
	6 筑紫箏曲譜	1点	
	7 筑紫箏秘曲	1点	
	8 筑紫口唱歌奥秘	1点	
	9 音律学抜書	1点	
	10 松響閣箏話	1点	
	11 筑紫流箏手附小伝	1点	
	12 松琴譜 筑紫箏奥詠八曲・五曲・附曲	1点	
	13 古曲筑紫箏話	1点	
	14 琴学大意 乾	1点	
	15 能支者の万津 完	1点	
	16 律調	1点	
	17 のちのしるしに	1点	
	18 秘調	1点	
	19 秘調	1点	
	20 音律調	1点	
	21 音律調	1点	
	22 音律調	1点	
	23 筑紫箏曲由来私考	1点	
	24 筑紫箏略話	1点	
	25 里舞勢津集	1点	
	26 筑紫箏譜	1点	
	27 筑紫箏研究資料・楽譜	1点	
	28 漢書律歴志日 禮楽論(上・下)	1点	
	29 古曲筑紫箏略話	1点	
	30 筑紫箏曲譜 上	1点	
	31 筑紫箏譜 乾	1点	
	32 筑紫箏譜 乾	1点	
	33 越天楽・梅の枝・四季の乱・乱曲	1点	
	34 秋夏の曲・花の筵・一名想失恋	1点	
	35 筑紫箏曲譜 坤	1点	
	36 帰雁・紅葉・鹿・雨夜曲・岩間波・雲井怨・小倉曲	1点	
	37 曲名なし	1点	
	38 筑紫箏・目録・社会教育課	1点	
	39 佐賀県における芸能調査	1点	
	40 筑紫箏曲新聞切抜	1点	
	41 佐賀県における発表会	1点	
	42 楽譜・浮雲・三夕・秋風辞・其ノ他	1点	
	43 第六回東洋音楽会大会	1点	
	44 アルバム	1点	
	45 雑(スクラップブック)	1点	
	46 筑紫箏譜略話	1点	
	47 新聞切抜	1点	
	48 新聞切抜	2点	
49 佐賀県における芸能調査	1点		

11-(1)-②-5 有形文化財（美術工芸品）に関する取組状況（文化財購入費）

令和2年3月31日

	令和元年度 合計金額（千円）	総件数	内訳					
			運営費交付金（千円）	件数	寄附金（千円）	件数	目的積立金（千円）	件数
国立文化財機構	1,224,836	87	1,004,836	86	220,000	1(2)	0	0
東京国立博物館*	279,200	11	169,200	11	110,000	(1)	0	0
京都国立博物館※	383,800	24	273,800	23	110,000	1(1)	0	0
奈良国立博物館	100,440	3	100,440	3	0	0	0	0
九州国立博物館	461,396	49	461,397	49	0	0	0	0

* 東京国立博物館購入1件分は運営費交付金と寄附金の両方を財源として購入した文化財のため、実際の文化財購入は11件となる。
 ※ 京都国立博物館購入中1件分は運営費交付金と文化財保存活用基金の両方を財源として購入した文化財のため、実際の文化財購入は24件となる。

1-(1)-②-6 寄託品一覽表

(単位: 件) 令和2年3月31日現在

	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館			
	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	
合計	12,385	194	1,178	2,591	52	245	6,520	88	615	1,974	52	306	1,300	2	12	
絵画	3,749	56	418	395	12	62	2,301	29	247	556	15	106	497	0	3	
書跡	1,657	68	266	366	9	28	877	42	199	359	16	36	55	1	3	
彫刻	824	8	187	135	2	39	262	1	63	419	5	83	8	0	2	
建築	5	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	2	0	0	
金工	992	14	85	133	5	18	559	2	36	207	7	30	93	0	1	
刀剣	258	8	57	227	8	48				16	0	9	15	0	0	
陶磁	1,453	1	7	114	0	2	1,025	1	4	8	0	0	306	0	1	
漆工	732	15	57	81	6	14	504	4	16	121	5	26	26	0	1	
染織	674	7	37	68	2	4	530	3	30	49	2	3	27	0	0	
考古	955	13	35	161	4	13	422	6	10	237	2	11	135	1	1	
民族資料	114	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	109	0	0	
歴史資料	67	0	12	1	0	0	37	0	10	2	0	2	27	0	0	
和書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
写真資料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
東洋	絵画	162	2	14	162	2	14									
	書跡	24	1	0	24	1	0									
	彫刻	11	0	0	11	0	0									
	金工	2	0	1	2	0	1									
	陶磁	166	1	1	166	1	1									
	漆工	28	0	1	28	0	1									
	染織	9	0	0	9	0	0									
	考古	487	0	0	487	0	0									
	民族	3	0	0	3	0	0									
	異国記念館収蔵品	13	0	0	13	0	0									

* 東京国立博物館は、列品管理規程による「東洋関係」あり。京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館は、東洋の寄託品も「日本」に含む。
 * 列品管理規程改正により、新たに「写真資料」が追加され、東京国立博物館の列品「その他」は「写真資料」に変更した。
 * 東京国立博物館では、国宝・重要文化財の数は文化庁の指定件数に合わせている。

1-(1)-②-7 寄託品増減表

(単位: 件) 令和2年3月31日現在

	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館							
	元年度		計	元年度		計	元年度		計	元年度		計	元年度		計					
	計	新規		返却	計		新規	返却		計	新規		返却	計		新規	返却			
合計	12,469	618	702	12,385	3,130	29	568	2,591	6,434	149	63	6,520	1,974	8	8	1,974	931	432	63	1,300
絵画	3,438	447	136	3,749	481	6	92	395	2,251	90	40	2,301	555	2	1	556	151	349	3	497
書跡	1,690	54	87	1,657	393	6	33	366	876	6	5	877	359	0	0	359	62	42	49	55
彫刻	927	12	115	824	240	5	110	135	264	1	3	262	418	3	2	419	5	3	0	8
建築	5	0	0	5	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	0	2	0	0	0	2
金工	993	11	12	992	134	4	5	133	554	7	2	559	212	0	5	207	93	0	0	93
刀剣	262	0	4	258	231	0	4	227				16	0	0	16	15	0	0	15	
陶磁	1,421	57	25	1,453	128	3	17	114	1,001	31	7	1,025	8	0	0	8	284	23	1	306
漆工	741	10	19	732	92	1	12	81	495	9	0	504	121	0	0	121	33	0	7	26
染織	895	3	224	674	286	0	218	68	533	3	6	530	49	0	0	49	27	0	0	27
考古	943	17	5	955	162	1	2	161	420	2	0	422	236	1	0	237	125	13	3	135
民族資料	114	0	0	114	5	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	109	0	0	0	109
歴史資料	67	4	4	67	5	0	4	1	37	0	0	37	0	2	0	2	25	2	0	27
和書	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
写真資料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋	絵画	184	2	24	162	184	2	24	162											
	書跡	39	0	15	24	39	0	15	24											
	彫刻	31	1	21	11	31	1	21	11											
	金工	6	0	4	2	6	0	4	2											
	陶磁	170	0	4	166	170	0	4	166											
	漆工	30	0	2	28	30	0	2	28											
	染織	9	0	0	9	9	0	0	9											
	考古	488	0	1	487	488	0	1	487											
	民族	3	0	0	3	3	0	0	3											
	異国記念館収蔵品	13	0	0	13	13	0	0	13											

1-(1)-②-8 登録美術品一覽表

(単位: 件) 令和2年3月31日現在

	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文
合計	32	0	4	30	0	4	0	0	0	0	0	0	2	0	0
絵画	7	0	4	7	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0
書跡	18	0	0	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
彫刻	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
陶磁	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
染織	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
金工	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋	絵画			1	0	0	0	0	0						
	陶磁	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
歴史資料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
複合資料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0

1-(1)-③ 有形文化財の管理・保存・修理等

1-(1)-③-1 各収蔵庫、展示場の温湿度

【東京国立博物館】

会場等		空調実施時間	温度(年間)	湿度(年間)
本館	展示会場	09:00~17:00	14~28℃	29~77%
	収蔵庫	09:30~17:00	16~26℃	31~73%
平成館	展示会場	09:00~17:00	21~31℃	40~66%
	収蔵庫	09:30~17:00	22~30℃	48~72%
東洋館	展示会場	09:30~17:00	21~31℃	39~58%
	収蔵庫	09:30~17:00	12~29℃	44~66%
法隆寺宝物館	展示会場	24時間運転	22~23℃	53~59%
	収蔵庫	24時間運転	23~24℃	52~55%
黒田記念館	展示会場	24時間運転	17~24℃	38~74%
	収蔵庫	24時間運転	22~24℃	53~58%

【京都国立博物館】

会場等		空調実施時間	温度(年間)	湿度(年間)
明治古都館	展示会場	休止中		
	収蔵庫	8:30~17:30	18~25℃	50~60%
平成知新館	展示会場	8:40~17:20	19~25℃	50~65%
	収蔵庫	8:40~17:20	20~25℃	55~60%
北収蔵庫		9:00~17:30	18~25℃	50~60%
東収蔵庫		9:00~17:30	18~25℃	50~60%
文化財保存修理所		8:30~17:30	20~25℃	50~65%

【奈良国立博物館】

会場等		空調実施時間	温度(年間)			湿度(年間)
			冬	夏	中	
なら仏像館	展示会場	24時間運転	20±2℃	24±2℃	22±2℃	60±5%
青銅器館	展示会場	24時間運転	20±2℃	24±2℃	22±2℃	60±5%
西新館	展示会場	24時間運転	20±2℃	24±2℃	22±2℃	60±5%
東新館	展示会場	24時間運転	20±2℃	24±2℃	22±2℃	60±5%
	収蔵庫	24時間運転	20±1℃	22±1℃	21±1℃	60±2%
地下回廊	収蔵庫	24時間運転	20±1℃	22±1℃	21±1℃	60±2%

【九州国立博物館】

会場等	空調実施時間	温度(年間)	湿度(年間)
3階展示会場	8:00~19:00	22~26℃	55±5%
4階展示会場	7:00~21:00	22~26℃	55±5%
収蔵庫	8:40~21:30	22~24℃	材質別に50±2%、55±2%、60±2%

1-(1)-③-2 収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数(収蔵品写真(フィルム)等のデジタル化件数)

東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
画像	487件	画像	5,333件	画像	3,001件	九州国立博物館	
和古書・漢籍	20,916件			文字	4,465件	(完了)	
洋古書	5,559件						

令和2年3月31日現在

1-(1)-③-3 保存カルテ作成件数

【東京国立博物館】

令和2年3月31日現在

合計		1,574		
計	列品貸与時	本格修理調査時	応急修理時	
	740	80	754	
絵画	170	5	186	
書跡	16	1	50	
彫刻	52	0	3	
建築	0	0	0	
金工	83	0	8	
刀剣	25	59	0	
陶磁	45	1	3	
漆工	37	0	0	
染織	21	0	29	
考古	99	6	4	
歴史資料	34	0	14	
民族資料	0	0	6	
和書	21	0	137	
写真資料	33	0	122	
東洋	絵画	20	2	92
	書跡	5	3	17
	彫刻	1	0	1
	金工	0	0	0
	陶磁	25	1	0
	漆工	2	0	0
	染織	0	1	10
	考古	12	1	2
民族	0	0	2	
法隆寺献納宝物	0	0	0	
その他（黒田舎）	39	0	68	

【京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館】

計	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
	217	107	96
絵画	59	32	7
書跡	11	5	1
彫刻	7	12	1
建築	0	0	0
金工	}	5	6
刀剣		0	1
陶磁	21	0	0
漆工	20	4	1
染織	15	1	1
考古	57	34	12
民族資料	0	0	2
歴史資料	12	9	4
和書	0	0	0
写真資料	0	0	0
その他	0	5	60

1-(1)-③-4 本格修理件数

令和2年3月31日現在

	計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
合計	75	24	12	8	31
絵画	13	5	2	2	4
書跡	7	2	3	1	1
彫刻	3	0	0	2	1
建築	0	0	0	0	0
金工	9	1	2	0	6
刀剣	1	0	-	0	1
陶磁	1	1	0	0	0
漆工	2	0	0	1	1
染織	3	1	0	1	1
考古	23	6	5	1	11
民族資料	2	0	0	0	2
歴史資料	3	0	0	0	3
和書	0	0	0	0	0
写真資料	0	0	0	0	0
東洋	絵画	2	2		
	書跡	3	3		
	彫刻	0	0		
	金工	0	0		
	陶磁	1	1		
	漆工	0	0		
	染織	1	1		
	考古	1	1		
	民族	0	0		
法隆寺献納宝物	0	0			
黒田記念館収蔵品	0	0			
館史資料(収蔵品外)	0	0			

1-(1)-③-5 修理概況

【東京国立博物館】(計24件)

<絵画> (5件)

1 列品番号	A-1	品 質	絹本着色
名 称	普賢菩薩像(ふげんぼさつぞう)	員 数	1幅
時 代	平安時代	寸 法 等	縦159.1 横74.5
年代世紀	12c	施工会社	㈱半田九清堂
修理内容	1. 表装を解体する。2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。3. 旧裏打ち紙を除去し、本紙の欠損部に補紙を施す。4. 新規裏打ちを行ない、折れ伏せを入れる。5. 新規補紙部分に補彩を施す。6. 表装裂は、中廻し、一文字、風帯は修理して再使用、他の総縁、軸首は新調し、掛幅装に仕立てる。7. 桐製太巻、包裂、桐製二重箱、帙を新調する。(元年度は3の途中まで、2年度は5の途中まで)		

2 列品番号	A-1155	品 質	紙本墨画着色
名 称	扇面雑画(せんめんざつが)	員 数	60面のうち15面
時 代	江戸時代	寸 法 等	36.5×63.8
年代世紀	18~19c	施工会社	㈱半田九清堂
修理内容	1. 本紙を取り外す。2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。3. 本紙裏面に付着した銀箔紙を除去し、増裏打ち紙を除去する。4. 新規裏打ちを行う。5. 中性紙ボードで落とし込みのマットを作製し、保管する。(元年度は2まで)		

3 列品番号	A-11090	品 質	紙本着色
名 称	月次風俗図屏風(つきなみふうぞくずびょうぶ)	員 数	8曲1隻
時 代	室町時代	寸 法 等	総寸 縦114.2 横301.0; 本紙 第1扇 41.8×61.4, 第2扇 42.2×61.0, 第3扇 40.3×61.1, 第4扇 42.0×61.3, 第5扇 42.1×61.9, 第6扇 40.3×61.8, 第7扇 39.9×61.5, 第8扇 40.1×61.7
年代世紀	16c	施工会社	㈱岡墨光堂
修理内容	1. 表装を解体する。2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。3. 旧裏打ち紙を除去し、本紙の欠損部に補紙を施す。4. 新規裏打ちを行う。5. 新調した骨木地に下張りを施し、いずれも新調した襲木、表装裂地、裏貼裂で屏風装に仕立てる。(元年度は1の途中まで、2年度は4の途中まで)		

4 列品番号	A-12453	品 質	紙本着色
名 称	渡唐天神図(ととうてんじんず)	員 数	1幅
時 代	室町時代	寸 法 等	本紙 縦78.5 横28.0
年代世紀	15c	施工会社	㈱修護
修理内容	1. 表装を解体する。2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。3. 旧裏打ち紙を除去する。4. 本紙の欠損部に補紙を施し、新規裏打ち、折れ伏せを入れる。5. 新規補紙部分に補彩を施す。6. 表装裂(上下のみ新調)、軸首を修理して再使用し、掛幅装(三段表具)に仕立てる。7. 桐製太巻、包裂、桐製保存箱を新調する。		

5 列品番号	A-12454	品 質	紙本着色
名 称	渡唐天神図(ととうてんじんず)	員 数	1幅
時 代	室町時代	寸 法 等	本紙 縦79.3 横27.3
年代世紀	16c	施工会社	㈱修護
修理内容	1. 表装を解体する。2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。3. 旧裏打ち紙を除去する。4. 本紙の欠損部に補紙を施し、新規裏打ち、折れ伏せを入れる。5. 新規補紙部分に補彩を施す。6. 表装裂、軸首を修理して再使用し、掛幅装(三段表具)に仕立てる。7. 桐製太巻、包裂、桐製保存箱(墨書のある旧箱蓋板は新調箱底に納める)を新調する。		

<東洋絵画> (2件)

6 列品番号	TA-355	品 質	絹本墨画淡彩
名 称	雛雀図(すうじゃくず)	員 数	1幅
時 代	南宋時代	寸 法 等	21.6×22.5
年代世紀	13c	施工会社	㈱修護
修理内容	1. 表装を解体する。2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。3. 旧裏打ち紙を除去し、本紙の欠損部に補紙を施す。4. 新規裏打ちを行い、折れ伏せを入れる。5. 新規補紙部分には補彩を施す。6. 表装裂、軸首は再使用し、掛幅装に仕立てる。7. 桐製太巻添軸、桐製二重箱、中性紙布貼帙を新調して収納する。(元年度は3の途中まで)		

7 列品番号	TA-694	品 質	紙本墨画淡彩
名 称	五馬図巻	員 数	1巻
時 代	北宋時代	寸 法 等	本紙 縦27.8 長さ256.5
年代世紀	11c	施工会社	㈱岡墨光堂
修理内容	1. 表装を解体する。2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。3. 旧裏打ち紙を除去し、現状の補紙は検討の上処置する。4. 新規裏打ちを行い、折れ伏せを入れる。5. 題簽・見返し・隔水・巻き込み紙・天地表装紙は補修の上再使用、爪、軸首も再使用する。紐は新調し、表紙は復元新調して卷子装に仕立てる。6. 桐製太巻芯・桐材印籠箱を新調する。旧箱・旧八双をまとめて中性紙保管箱に収納し、作品を収めた収納箱と並置する外箱を新調し、中性紙布貼帙にまとめて収納する。(元年度は2まで、2年度は4まで)		

<書跡> (2件)

8 列品番号	B-3178	品 質	紙本墨書
名 称	医心方(いしんぼう)	員 数	30巻、1冊

時代	平安時代～江戸時代	寸法等	
年代世紀	12c～17c	施工会社	保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー、榎修護、榎半田九清堂
修理内容	1. 表装を解体する。2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。3. 旧裏打紙および旧補紙を除去するが、補筆のある旧補紙は残す。4. 本紙の欠損部に補紙を施す。5. 傷みの著しい巻頭などは、必要に応じて新規裏打ちを行ない、折れ伏せを入れる。6. 表紙、軸首は修理して再使用し、卷子装に仕立てる。7. 包裂、桐製保存箱を新調する。(27年度から28年度にかけて1. 2巻、1. 冊、それ以後は年度ごとに6巻ずつ仕上げる。)		

9 列品番号	B-3493	品質	彩箋墨書
名称	色紙華嚴経断簡(泉福寺経)(しきしけごんきょうだんかん(せんぶくじきょう))	員数	1枚
時代	平安時代	寸法等	本紙 縦24.0 横50.0
年代世紀	12c	施工会社	榎坂田墨珠堂
修理内容	1. 剥落止めを施し、汚れを除去する。2. 旧裏打紙を除去し、本紙の欠損部に補紙を施す。3. 新規裏打ちを行ない、折れ伏せを入れる。4. 新規補紙部分に補彩を施す。5. 台紙、表装裂、軸首を新調し、三段表具の掛幅装に仕立てる。6. 桐製太巻添え軸、包裂、桐製印箱を新調する。(元年は3の途中まで)		

<東洋書跡>(3件)

10 列品番号	TB-1458	品質	紙本墨書
名称	行書三帖巻(ぎょうしよさんじょうかん)	員数	1巻
時代	北宋時代	寸法等	(1) 叔臨帖: 縦24.5 横29.6 (2) 李太師帖: 縦26.0 横34.5 (3) 張李明帖: 縦25.8 横31.3
年代世紀	11c～12c	施工会社	榎岡墨光堂
修理内容	1. 表装を解体する。2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。3. 旧裏打紙を除去し、本紙欠損部に補紙を施す。4. 新規裏打ちを行い、折れ伏せを入れる。5. 見返し、紐、コハゼ、軸首は補修の上再使用し、新調した表紙にて卷子装に仕立てる。6. 桐製太巻添え軸、桐製保存箱を新調して収納する。(元年度は2まで、2年度は4まで)		

11 列品番号	TB-1701	品質	紙本墨書
名称	行草書五言古詩軸(ぎょうそうしよごごんこしじく)	員数	1幅
時代	元時代	寸法等	縦28.0 横83.2
年代世紀	14世紀	施工会社	榎修護
修理内容	1. 表装を解体する。2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。3. 旧裏打紙を除去し、本紙の欠損部に補紙を施す。4. 新規裏打ちを行ない、折れ伏せを入れる。5. 新規補紙部分に補彩を施す。6. 表装裂の中廻し、一文字、風帯、軸首は修理して再使用、上下は新調し、掛幅装に仕立てる。7. 桐製太巻、包裂、桐製二重箱を新調する。		

12 列品番号	TB-1706	品質	紙本墨書
名称	楷書八言聯(かいしよはちごんれん)	員数	2幅
時代	清時代	寸法等	各 縦188.0 横36.0
年代世紀	同治4年(1865)	施工会社	株式会社 光影堂
修理内容	1. 表装を解体する。2. 剥落止めを施し、汚れを除去する。3. 旧裏打紙を除去し、本紙欠損部に補紙を施す。4. 新規裏打ちを行い、折れ伏せを入れる。5. 新規補紙部分には補彩を施す。6. 軸首裂は再使用するほか、表装裂は新調し、掛幅装に仕立てる。7. 桐製太巻添え軸、桐製保存箱を新調し、収納する。(元年度は2まで)		

<金工>(1件)

13 列品番号	E-14365	品質	鉄製
名称	経筒(きょうづつ)	員数	5合
時代	鎌倉時代～室町時代	寸法等	① 蓋口径6.2 蓋高1.5 筒身径6.5 筒身高10.8 ; ② 蓋口径6.2 蓋高0.4 筒身径6.5 筒身高10.5 ; ③ 蓋口径6.2 蓋高0.4 筒身径6.4 筒身高11.0 ; ④ 蓋口径5.3 蓋高2.5 筒身径6.5 筒身高11.2 ; ⑤ 蓋口径6.2 蓋高0.3 筒身径6.5 筒身高11.3
年代世紀	14c～16c	施工会社	榎東都文化財保存研究所
修理内容	1. クリーニングする。2. 脱塩処理する。3. 強化する。4. 欠失部分のうち、可能な部分のみ補填・復元する。5. 補填箇所には補彩する。		

<陶磁>(1件)

14 列品番号	G-125	品質	
名称	色絵金襴手双鳳文飾壺(いろえきんらんでそうほうもんかざりつぼ)	員数	1合
時代		寸法等	通蓋高46.4 高39.5 口径23.2 胴径34.8
年代世紀	明治25年(1892)	施工会社	ますぶち工房
修理内容	1. 破損部をクリーニングする。2. 接合する。3. 欠失部を補填・整形する。4. 補填部に補彩を施す。		

<東洋陶磁>(1件)

15 列品番号	TG-2003	品質	陶製
名称	白釉黒地白花牡丹文枕(はくゆうくろじはくかぼたんもんまくら)	員数	1個
時代	北宋時代	寸法等	高19.3 長径29.5 短径27.0
年代世紀	12c	施工会社	東京藝術大学
修理内容	1. クリーニングする。2. 解体する。3. 接合する。4. 破損箇所の強化を行なう。5. 除去した旧補填部の充填を行なう。6. 補填部の補彩を行なう。7. 保存箱を新調する。(元年度は2の途中まで)		

〈染織〉(1件)

16 列品番号	X-55-20120531-005(伝来未詳品)(今後正式に登録予定)	品 質	絹製、平絹
名 称	袍残欠	員 数	1領
時 代	奈良時代	寸 法 等	丈134 衿142.0
年代世紀	8c	施工会社	独立行政法人国立文化財機構 東京国立博物館 沢田むつ代、三田寛之
修理内容	1. 仮貼りされている和紙からはがす。2. 部分ごとに解体する。3. 加湿のうえで仕立て前の一枚裂の状態に展開する。4. 襷紙にて裏打ちする。5. 本来の仕立てに従って組み立てる。6. 展示台を兼ねた保存箱を作製する。		

〈東洋染織〉(1件)

17 列品番号	TI-421	品 質	絹製、羅・緯絲
名 称	九条袷袋 紫地唐草文様印金／草花文様緯絲(くじょうけさ むらさきじからくさもんよういんきん/くさばなもんようこくし)	員 数	1肩
時 代	元～明時代	寸 法 等	長231.5 幅:右端 101.5 中央89.8 左端92.0
年代世紀	14c	施工会社	㈱半田九清堂
修理内容	1. 解体する。2. 表面に付着した汚れを除去する。3. 旧裏打紙を除去し、新規裏打ちを行う。4. 補修絹を加工し、欠損部に補絹を行う。5. 裏地補強用の裂を染め、全面に留めつける。6. 芯地を新調し、本体裂を部位ごとに留め付け、表地を仕立てる。7. 紐、紐座を補修し、元の位置に留め付ける。8. 表地と裏地を合わせ、全体を仕立てる。9. 中性紙製収納箱を作製し、袷袋を収める。(元年度は4の途中まで)		

〈考古〉(6件)

18 列品番号	J-5621	品 質	土製
名 称	埴輪 頭巾を被る男子(はにわ ずきんをかぶるだんし)	員 数	土製
時 代	古墳時代	寸 法 等	高77.1cm
年代世紀	6c	施工会社	㈱東都文化財保存研究所
修理内容	1. 解体する。2. クリーニングする。3. 強化する。4. 欠失部を補填し、復元する。5. 補填個所に補彩を施す。		

19 列品番号	J-8897	品 質	鉄製、金銅製
名 称	方頭大刀(ほうとうたち)	員 数	1口
時 代	奈良時代	寸 法 等	刀身(残存長) 45.5 ; 刀身(残存幅) 3.5 ; 柄(残存長) 12.5 ; 柄(残存幅) 3.5
年代世紀	8c	施工会社	公益財団法人 元興寺文化財研究所
修理内容	1. クリーニングする。2. 脱塩処理をする。3. 樹脂含浸による補強をする。4. 接合する。5. 補強個所の補彩を施す。6. 安定台(展示台)を作成する。(元年度は2の途中まで)		

20 列品番号	J-8898	品 質	鉄製
名 称	鉄板(てついた)	員 数	1枚
時 代	奈良時代	寸 法 等	縦(残存) 31 ; 横(残存) 16 ; 厚(最大) 3
年代世紀	8世紀	施工会社	公益財団法人 元興寺文化財研究所
修理内容	1. クリーニングする。2. 脱塩処理をする。3. 樹脂含浸による補強をする。4. 接合する。5. 補強個所の補彩を施す。6. 安定台(展示台)を作成する。(元年度は2の途中まで)		

21 列品番号	J-20254	品 質	土製
名 称	壺形土器(つぼがたどき)	員 数	1個
時 代	弥生時代(後期)	寸 法 等	高21.5 胴径12.6 底径7.4
年代世紀	1c~3c	施工会社	㈱東都文化財保存研究所
修理内容	1. 解体する。2. クリーニングする。3. 強化・接合する。4. 欠失部を補填し、復元する。5. 補填個所に補彩する。		

22 列品番号	J-36876	品 質	土製
名 称	猪形土製品(いのしがたどせいひん)	員 数	1個
時 代	縄文時代(後～晩期)	寸 法 等	高3 長7.2 幅2.9
年代世紀	前2000～前400年	施工会社	㈱東都文化財保存研究所
修理内容	1. クリーニングする。2. 欠失部分(左耳・四肢)を補填、復元する。3. 補填箇所に補彩する。		

23 列品番号	J-38899-1	品 質	土製
名 称	土師器 二重口縁壺(はじきにじゅうこうえんつぼ)	員 数	1個
時 代	古墳時代	寸 法 等	口径21.5 現存高28.5 胴径28.0
年代世紀	3c~4c	施工会社	蔭山 隆司
修理内容	1. 接合する。2. 欠失部分を補填、復元する。3. 補填箇所に補彩する。		

〈東洋考古〉(1件)

24 列品番号	TJ-4317	品 質	鉄製鍛造
名 称	鉄(はさみ)	員 数	1個
時 代	三国時代(新羅)	寸 法 等	推定復原長15cm、幅6cm(刃部:長7.5cm 環部:横6cm)
年代世紀	6c初頭	施工会社	㈱東都文化財保存研究所

修理内容	1. 旧接合部を除去する。 2. クリーニングする。 3. 脱塩及び強化処理をする。 4. 接合、補填をする。 5. 補填箇所にも補彩を施す。 6. 展示台を作成する。(元年度は3の途中まで)
------	--

【京都国立博物館】 (計12件)

<絵画> (2件)

1 名称	天保九如図・四季草花図屏風(てんぼうきゅうじよず・しきそうかすびょうぶ)	員数	6曲1双
時代	江戸時代(18世紀)	寸法等	160.4×363.6cm/172.0×375.6cm
品質	紙本着色/紙本金地着色	施工会社	株式会社松鶴堂
修理内容	<ul style="list-style-type: none"> ・損傷を調査し、記録する。 ・危険箇所の剥落止めを行う。 ・屏風装を解装し、下地から本紙を取り外す。 ・剥落止めおよびクリーニングを行う。 ・彩色部分には有機系絵具が多用されていることから、水の使用は最小限に止める。 ・欠失部への補紙等、本紙の補修を行う。 ・「天保九如図」と「四季草花図」をそれぞれ独立した屏風装として仕上げる。「天保九如図」は金具を再使用して取り付け、「四季草花図」は金具を新調する。 ・補彩ののち写真撮影を行う。 		

2 名称	阿弥陀八大菩薩図(あみだはちだいぼさつず)	員数	1幅
時代	朝鮮王朝時代(16世紀)	寸法等	縦148.2cm 横159.4cm
品質	絹本着色	施工会社	株式会社松鶴堂
修理内容	<ul style="list-style-type: none"> ・写真撮影を行い、本紙の状態を調査する。 ・解体に先立ち、本紙表面の汚れを除去する。 ・本紙と表装裂地を取り外し、旧肌裏紙以外の裏打紙を除去する。 ・本紙の汚れを除去する。 ・絵具層の剥落止を行う。 ・本紙の肌裏紙を除去する。 ・本紙の欠損部分には、本紙と組成の近い補修絹を入れる。 ・各種裏打を施し、折れ伏せを入れる。 ・補修絹には補彩を施すが、違和感なく鑑賞できる処置とする。 ・掛幅装に仕立てる。表装裂地や軸首などは新調する。 ・桐太巻添軸、桐屋郎箱を新調し、納入する。 ・修理後の記録をとり、報告書を作成する。 		

<書跡> (3件)

3 名称	重要文化財 大手鑑(八十葉) (おおてかがみ(はちじゅうよう))	員数	1帖
時代	奈良~室町時代(8~16世紀)	寸法等	縦44.6cm、横60.8cm
品質	両面折帖装	施工会社	株式会社松鶴堂
修理内容	<ul style="list-style-type: none"> ・修理前に本紙現状の写真撮影を行い、本紙表面及び損傷状況、装丁の調査・記録を行う。 ・墨、朱、金銀泥、顔料等の耐久性を確認し、必要に応じて膠水による剥落止めを施す。 ・各本紙を画帖本体から取り外し、現在の肌裏紙を除去する。 ・旧補修紙等を取り除く。 ・各本紙の損傷状況に応じてクリーニングを行い、経年による酸化物等の汚れを除去する。 ・解装後に本紙の材質、折目痕等の痕跡、裏面の状況等に応じて本紙補修を施す。 ・本紙に美濃紙による肌裏打ちを施し、仮張り乾燥を行う。 ・鳥の子紙を貼り合わせて画帖台紙を作製する。 ・画帖台紙に本紙を貼り込む。 ・二つ折りにした画帖台紙の一面を貼り合わせ、互い違いに開くように連結する。 ・向かい合う本紙同士の擦れを軽減するため、台紙のノドを除く三方に覆輪を取り付ける。 ・見返しの金箔台紙を再用する。 ・新たに表紙を作製する。 ・表紙裂は金欄にて新調し、金具は現在のものを再用する。 ・画帖台紙に見返し及び表紙を取付け、元通りの画帖仕立てとする。 ・桐製の保存箱及び包裂を新調し、画帖を収納する。 ・修理後に写真撮影を行う。 ・修理報告書を作成する。(28年度より4か年事業) 		

4 名称	古文書(三通)(こもんじよ(さんつう))	員数	1巻
時代	平安時代 承和14年(847)、天安元年(857)、貞観7年(865)	寸法等	第1通:縦28.8cm 横49.3cm、第2通:縦29.4cm 横45.0cm、第3通:縦28.2cm 横43.2cm
品質	紙本墨書	施工会社	株式会社松鶴堂
修理内容	<ul style="list-style-type: none"> ・本紙の状態等を調査、記録し、写真撮影を行う。 ・巻子の継ぎ目を外し、1紙ずつ状態に解装する。 ・墨が不安定な部分には、剥落止めをほどこす。 ・本紙の欠失箇所には、同質の補修紙を作製のうえ、補填する。 ・本紙の脆弱な箇所に補強及び裏打ちをほどこす。 ・中性紙製のフォルダと保存箱を新調する。 ・処置の完了した本紙を、フォルダに収め、重ねて保存箱に収納する。 		

5 名称	和歌扇面(わかせんめん)	員数	4幅
時代	江戸時代(19世紀)	寸法等	辺14.7cm 上弦41.7cm 下弦21.5cm
品質	紙本墨書	施工会社	株式会社光影堂
修理内容	<ul style="list-style-type: none"> ・写真撮影を行い、本紙の現状を調査する。 ・解体に先立ち、本紙表面の汚れを除去する。 ・本紙を下地から取り外し、旧肌裏紙以外の裏打紙を除去する。 ・本紙の汚れを除去する。 ・墨層の剥落止を行う。 ・本紙の旧肌裏紙を除去する。 ・本紙欠失箇所及び周囲に、本紙繊維に類似した補修紙にて補紙を施す。 ・各種裏打を施す。 ・中性紙ボードにてマットを作成する。 ・中性紙の帙を作成し、修理完了の本紙及びマットを収納する。 ・修理後の記録をとり、報告書を作成する。 		

<金工> (2件)

6 名称	槍 銘奥州白川臣手柄山正繁ノ享和元年二月日	員数	1口
時代	江戸時代・享和元年(1801)	寸法等	刃長21.2cm
品質	鉄・鍛造	施工会社	玉置美術刀剣研磨処
修理内容	<ul style="list-style-type: none"> 刀身を研磨し、白鞘を分解して内部の清掃をおこなう。刀身の研磨は現状が古い時代の差込研であるため、同じく差込研にて行う。差込研は現在の研磨技法の中では非主流の古式技法であるが、文化財保存の観点からこの研磨方法を選択する。 研磨作業前と作業後に、記録写真の撮影ないし押形の製作を行い、報告書を提出する。 		

7 名称	刀 銘奥州白川臣手柄山正繁ノ享和元年二月日	員数	1口
時代	江戸時代・享和元年(1801)	寸法等	刃長69.8cm
品質	鉄・鍛造	施工会社	玉置美術刀剣研磨処
修理内容	<ul style="list-style-type: none"> 刀身を研磨し、白鞘を分解して内部の清掃をおこなう。刀身の研磨は現状が古い時代の金肌拭いで仕上げてあるため、本来の刃文とは異なる刃文になっている。よって本来の刃文の確認が容易な差込研にて行う。差込研は現在の研磨技法の中では非主流の古式技法であるが、文化財保存の観点からこの研磨方法を選択する。 研磨作業前と作業後に、記録写真の撮影ないし押形の製作を行い、報告書を提出する。 		

<考古> (5件)

8 名称	短甲 (京都府相楽郡和東町 原山古墳出土) (たんこう きょうとふさがらぐんわづかちょう はらやまこふんしゅつど)	員数	1個
時代	古墳時代中期 (5世紀)	寸法等	全高44.5cm、全幅45.5cm、くびれ幅31.5cm、現存裾幅35.5cm、【右前胴】高35.5cm、引合板幅3.0cm、【左前胴】現存高33.0cm、引合板幅3.5cm、【蝶番】一辺2.5cm
品質	鉄製	施工会社	公財) 元興寺文化財研究所
修理内容	①修理前に現状調査を行い、修理前および修理途中の写真(デジタル)撮影、および現状を記録(寸法・損傷状態等)する。②着手に先立ち、本体および破片表面の付着物に注意して汚れ等を除去し、現状記録を追加する。③本体欠損部の旧修理補填材(石膏等)を取り外し、除去する。④本体および破片の旧修理補填材(泥・接着剤等)を除去する。⑤本体および破片の接合関係調査を行い、仮接合する。⑥本体および破片にアクリル系樹脂を樹脂含浸して強化する。⑦本体および破片をアクリル系樹脂で接着する。⑧欠失部をエポキシ系樹脂等で補填・補強して復原する。⑨補填部の内外面に、周囲の色調に合わせた顔料を補彩して仕上げる。⑩展示・保管時に、安全な姿勢を保つ安定台を安全な方法(3D等)を用いて製作する。⑪修理後の写真(デジタル)撮影を行い、修理経過・使用材料等の記録をまとめた報告書を作成する。 ※2ヶ年継続: 令和元年度は、工程⑦まで。		

9 名称	西宮山古墳 土師器 埴 (にしみややまこふん はじき つぼ)	員数	1個
時代	古墳時代 (6世紀)	寸法等	口径11.2cm、胴径13.5cm、高12.3cm
品質	土師質	施工会社	元興寺文化財研究所
修理内容	① 着事前および修理途中に、現状調査(寸法・損傷状態等)を行い、写真(デジタル)撮影画像と共に記録する。② ③に先立ち、表面の付着物に注意して泥・汚れ等を除去し、現状記録を追加する。③ 本体および破片の旧修理材料(接着剤等)を除去し、解体する。④ 本体および破片をクリーニングする。⑤ 本体および破片の接合関係を調査し、仮接合して歪み等を点検する。⑥ 本体および破片をアクリル系樹脂を用いて、⑦と共に歪み調整しながら、接着する。⑦ 欠失部をエポキシ系樹脂等を用いて補填・補強し、復原する。⑧ 補填部は内外面に周囲の色調に合わせた顔料で、違和感ないように補彩して仕上げる。⑨ 修理後の写真(デジタル)撮影を行い、修理経過・使用材料等の記録をまとめた報告書を作成する。		

10 名称	西宮山古墳 須恵器 高杯④ (にしみややまこふん すえき たかつき)	員数	1個
時代	古墳時代 (6世紀)	寸法等	口径9.6cm、脚径8.8cm、高12.5cm
品質	陶質	施工会社	(株) 東都文化財保存研究所
修理内容	① 着事前および修理途中に、現状調査(寸法・損傷状態等)を行い、写真(デジタル)撮影画像と共に記録する。② ③に先立ち、表面の付着物に注意して泥・汚れ等を除去し、現状記録を追加する。③ 本体および破片の旧修理材料(接着剤等)を除去し、解体する。④ 本体および破片をクリーニングする。⑤ 本体および破片の接合関係を調査し、仮接合して歪み等を点検する。⑥ 本体および破片をアクリル系樹脂を用いて、⑦と共に歪み調整しながら、接着する。⑦ 欠失部をエポキシ系樹脂等を用いて補填・補強し、復原する。⑧ 補填部は内外面に周囲の色調に合わせた顔料で、違和感ないように補彩して仕上げる。⑨ 修理後の写真(デジタル)撮影を行い、修理経過・使用材料等の記録をまとめた報告書を作成する。		

11 名称	西宮山古墳 須恵器 杯蓋①、④、⑬ (にしみややまこふん すえき つきふた)	員数	3個
時代	古墳時代 (6世紀)	寸法等	①直径11.8cm、口径11.3cm、高4.8cm、④口径15.0cm、高4.7cm、⑬口径15.0cm、高4.7cm
品質	陶質	施工会社	(株) 東都文化財保存研究所
修理内容	① 着事前および修理途中に、現状調査(寸法・損傷状態等)を行い、写真(デジタル)撮影画像と共に記録する。② ③に先立ち、表面の付着物に注意して泥・汚れ等を除去し、現状記録を追加する。③ 本体および破片の旧修理材料(接着剤等)を除去し、解体する。④ 本体および破片をクリーニングする。⑤ 本体および破片の接合関係を調査し、仮接合して歪み等を点検する。⑥ 本体および破片をアクリル系樹脂を用いて、⑦と共に歪み調整しながら、接着する。⑦ 欠失部をエポキシ系樹脂等を用いて補填・補強し、復原する。⑧ 補填部は内外面に周囲の色調に合わせた顔料で、違和感ないように補彩して仕上げる。⑨ 修理後の写真(デジタル)撮影を行い、修理経過・使用材料等の記録をまとめた報告書を作成する。		

12 名称	西宮山古墳 須恵器 杯身⑨ (にしみややまこふん すえき つきみ)	員数	1個
時代	古墳時代 (6世紀)	寸法等	直径15.3cm、口径12.8cm、高4.0cm
品質	陶質	施工会社	(株) 東都文化財保存研究所
修理内容	① 着事前および修理途中に、現状調査(寸法・損傷状態等)を行い、写真(デジタル)撮影画像と共に記録する。② ③に先立ち、表面の付着物に注意して泥・汚れ等を除去し、現状記録を追加する。③ 本体および破片の旧修理材料(接着剤等)を除去し、解体する。④ 本体および破片をクリーニングする。⑤ 本体および破片の接合関係を調査し、仮接合して歪み等を点検する。⑥ 本体および破片をアクリル系樹脂を用いて、⑦と共に歪み調整しながら、接着する。⑦ 欠失部をエポキシ系樹脂等を用いて補填・補強し、復原する。⑧ 補填部は内外面に周囲の色調に合わせた顔料で、違和感ないように補彩して仕上げる。⑨ 修理後の写真(デジタル)撮影を行い、修理経過・使用材料等の記録をまとめた報告書を作成する。		

【奈良国立博物館】 (計8件)

<絵画> (2件)

1 名称	絹本着色道宣律師像 (けんぼんちやくしよくどうせん りっしぞう)	員数	1幅
時代	鎌倉時代 14世紀	寸法等	縦112.5cm 横56.2cm
品質	絹本着色	施工会社	(株) 文化財保存
修理内容	解体修理。本紙料絹の欠失・折れなどを改善するため、表装を解体し、裏打紙を全て取り替える本格修理を行う。はじめに損傷地図を作成し、現在の状態を明らかにした上で、乾式肌上げ法により肌裏紙を除去する。濾過水を用いて汚れを除去し、黴の痕跡箇所については状態を観察した上で、必要に応じてエタノールによる殺菌処理を行う。クリーニング後、剥落止めを行い、本紙の欠失部分には電子線劣化絹で補填する。折れ伏せを施し、新調した肌裏紙をあてる。新たな補絹箇所には地色補彩を施す。表装はすべて新調し、現在の袋明表具から二段仏表具に改装する。太巻添軸、桐印籠箱、四方帙を新調する。旧箱内の附属品は旧箱に納入したままにする。(継続2か年事業のうち第2年目)		
指定	重要文化財		

2 名称	絹本着色聖徳太子絵伝 (けんぼんちやくしよくしやうとくだいしえでん)	員数	2幅
時代	鎌倉時代 14世紀	寸法等	(第1幅)縦157.8cm 横86.5cm (第2幅)縦157.2cm 横86.7cm
品質	絹本着色	施工会社	(株) 文化財保存

修理内容	解体修理。本紙料絹の欠失や折れ、裏打紙の劣化などの構造的な不具合を改善するために、表装を解体し裏打紙を全て取り替える本格修理を行う。表装解体後、濾過水の噴霧によるクリーニングを施し、乾式肌上げ法によって旧肌裏紙を除去。膠着力の低下した絵具層に、膠などの接着剤を用いて剥落止めを行う。旧補絹を全て除去した後、欠失箇所に本紙料絹の織り組織に合わせた電子線劣化絹を新たに補い、補填箇所に地色補彩を行う。横折れを軽減するために裏面から薄襷紙のごく細い帯を貼り付けて補強する折れ伏せを施し、本紙料絹の色調に合わせて新調した裏打紙（肌裏紙・中裏紙・増裏紙・総裏紙）をあてる。表装裂は全て新調して二段仏表具に仕立てる。上下軸・啄木・桐製太巻添軸も新調。桐製印籠箱を新調し、旧箱蓋と旧上巻絹の墨書を本紙とともに収納。（継続3か年事業のうち第1年目）
------	--

<彫刻> (2件)

3 名称	木造毘沙門天立像（もくぞうびしゃもんでんりゅうぞう）	員数	1軀
時代	鎌倉時代（13世紀）	寸法等	像高55.0cm
品質	木造	施工会社	（公財）美術院
修理内容	本格修理。（1）首柄または首柄穴にヒノキの薄板を接着して頭部の①を元に戻し、尊容を整える。（2）亡失している持物の戟を新補する。（3）右鎧袖背面、持物の宝塔の相輪、岩座より下方の亡失箇所については補わない。（4）脊上にかかる襦袢の亡失箇所は、形状を検討のうえ、ヒノキ材で補作する。（5）彩色の浮きについては、樹脂等で剥落止めを行う。（1か年事業）		

4 名称	木造伎楽面 力士（もくぞうぎがくめん りきし）	員数	1軀
時代	鎌倉時代（13世紀）	寸法等	縦34.0cm 横19.5cm
品質	木造	施工会社	（公財）美術院
修理内容	（1）埃を筆等で除去する。（2）漆層の浮き上がりは、樹脂等で剥落止めを行う。（3）頭頂の隙間や左縁辺の割れおよび欠失箇所は、調査のうえ、必要があれば樹脂等で接着する。（4）髻の新補は行わない。（1か年事業）		

<書跡> (1件)

5 名称	天永二年十一月二十一日東大寺注進状案（てんえいにねんじゅういちがつにじゅういちにちとうだいじちゅうしんじょうあん）	員数	1通
時代	平安時代（12世紀）	寸法等	縦28.8cm 長97.4cm
品質	紙本墨書	施工会社	（株）文化財保存
修理内容	修理前に十分な調査を行う。初めに表面に付着する埃等をドライクリーニングで除去した上で、墨・朱印に剥落止めを施す。汚れが広がりそうな箇所のみ、少量の水分を与え汚れを除去する。紙継ぎを外した後、損傷箇所周囲の折れ部分に加湿して形状を整える。なお、伝来過程でついた皺や料紙本来の凸凹を残すため、全体に水分を入れるクリーニング、プレスは行わない。料紙の紙質調査に基づき、適切な補修紙を作成する。欠失箇所に補修紙を補填し、料紙を適切に継ぎ直す。新たに八双・紐をつけた覆表紙を作製し、中性紙製巻芯に巻き取った上で覆表紙をかける。中性紙製保存箱を新たに作製する。（1か年事業）		

<漆工> (1件)

6 名称	金銅装山伏発（こんどうそうやまぶしおい）	員数	1背
時代	室町時代（15～16世紀）	寸法等	発：幅55.3cm 奥行27.5cm 高76.3cm 五仏：像高10.7～11.2cm
品質	発：木製 漆塗 金銅装 五仏：木造 漆箔 玉眼	施工会社	北村工房
修理内容	①発本体は全体にクリーニングを行い、上段の扉は外して、割損部に刻苧漆を充填して補強する。欠失した端喰の復元は行わない。木地接合部に生じた亀裂は、破損の進行が危惧される箇所に刻苧漆を充填して補強する。虫蝕部は、状況に応じてアクリル系樹脂や刻苧漆を充填して補強する。帖木の欠損部は補わず、刻苧漆等で形状を整える。脚部の木地損傷部分は、刻苧漆で形状を整える。金具の歪みやめくれは修整する。欠失した棚板は、ヒノキ材で補作し、色調を合わせて仕上げる。なお、刻苧漆による処置を行った箇所は、表面を研磨するなどして周囲と調和するように仕上げる。鉾や釘の欠失は、損傷移行に至らない場合は現状のままとし、補足は必要最小限とする。②扉絵は、ドライクリーニング、剥落止めを行った上で、全面に養生貼りした後、加湿して扉板より外す。取り外した扉絵は、濾過水を使用したクリーニング、欠失箇所の補填と裏打ちを行い、扉板に細かく浮け張りを行った後に、貼り戻す。基本的に料紙の皺は伸ばさず、現状を維持する。また補彩も行わない。③五仏は埃を除去した上で、樹脂等を用いて漆箔の剥落止めを行う。金具類は折れ・歪みを修整する。なお、欠失部の補填は行わない。また胸部の釘痕は現状のままとし、胸飾の補足も行わないものとする。動揺する光背はいったん取り外し、取り付け部の調整を行った上で復位する。台座や指先、髻などの欠失部は、必要に応じて樹脂等で補強・修整するが、基本的に補足は行わず現状のままとする。台座蓮弁の割損箇所は、樹脂等で接着するが、欠失の補足は行わない。光背の接着痕は有機溶剤等で除去する。なお、別保存する光背の残欠は形状不適合のため復位しない。補修箇所には全て古色を施す。下水板付の保存箱を作製し、五仏を収める。なお、①～③のいずれの工程においても、事前に十分な調査を行い、事後には修理前・中・後を記録した報告書を作成する。（2か年事業のうち第1年目）		

<染織> (1件)

7 名称	刺繻種子地藏菩薩像（ししゅうしじょうぼさつぞう）	員数	1幅
時代	南北朝～室町時代（14～15世紀）	寸法等	縦45.3cm 横34.0cm
品質	絹本刺繻・著色	施工会社	（株）文化財保存
修理内容	表装を解体し、裏打紙を取り替える解体修理を行う。十分現況の調査した上で、軸装を解体し肌裏紙以外の裏打紙を除去する。濾過水を用いて汚れを溶かし出して除去し、剥落止めを行った上で、表打ちを施し、透過台に張り込む。乾式肌上げ法によって肌裏紙と補修紙を除去し、本紙欠失箇所に電子線劣化絹を裏面から新たに補う。肌裏打ちを行った後、繻糸の乱れを整え、必要に応じて極細い繻糸で縫い綴じ、その後増裏打ちを行う。折れの強い部分は、極細く切った襷紙を用いて折れ伏せを施し補強する。新調した表装裂を用いて二段仏表具の形式に付け廻しをし、中裏打ち、総裏打ちを行って表装を仕上げる。補絹箇所には表から補彩を施す。端喰金具は歪みを調整して再使用し、軸首も再使用して装着する。啄木、上下軸は新調し、軸装の形式に仕立てる。巻きの負担を軽減するため太巻添軸を新調し、それに伴って保存箱も新調し、桐印籠箱と裂貼り帙を作製する。（1か年事業）		

<考古> (1件)

8 名 称	埴製枕・金銅製龍文帯金具 (五條猫塚古墳出土) (はにせいまくら・こんどうせいりゅうもんおびかなぐ ごじょうねこづかこふんしゅつど)	員 数	9点
時 代	古墳時代 (5世紀)	寸 法 等	埴製枕: 縦24.1cm 横30.9cm 高15.1cm 金銅製龍文帯金具: 縦4.8~2.5cm 横6.0~4.1cm
品 質	埴製枕: 土製 素焼き 赤彩 金銅製龍文帯金具: 銅板製 鍍金	施工会社	(公財)元興寺文化財研究所
修理内容	埴製枕: ①処理前の状態を写真撮影、X線撮影、肉眼観察等で記録。②古い接合の解体、有機溶剤等による洗浄を行う。③素焼きの表面保護に適切な合成樹脂等の含浸・塗布による強化処理。④再接合、欠損部の復元・補填、補彩等を行う。 金銅製龍文帯金具: ①処理前の状態を写真撮影、肉眼・顕微鏡観察および蛍光X線等の分析により有機物の状態把握と性質解明。②銅錆や鉄錆、土等のクリーニング。③樹脂含浸・塗布による強化処理、防錆処理を行う。④破断部分の強化処理。可能な部分は復元も試みる。⑤保管箱の作成。以上の修理物件に関して、処理中に使用した薬剤名や写真記録、作業工程、費やした時間等の修理に関する情報を整理し、修理報告書を作成する。(1か年事業)		

【九州国立博物館】 (計31件)

<絵画> (4件)

1 名 称	花鳥図巻 (かちょうずかん)	員 数	1巻
時 代	中国 清時代・康熙51年(1712)	寸 法 等	縦35.6cm 横919.5cm
品 質	絹本着色卷子装	施工会社	株式会社岡墨光堂
修理内容	1. 解体 本紙に装着されている表紙、軸巻き、軸木を取り外す。本紙同士の紙継ぎを外す。2. 洗浄 本作品は、水溶性の顔料を多用しているとかがえるため、水を用いた汚れ除去は行わない。但し、埃を払い、虫糞除去などのドライクリーニングは行う。3. 接合・組立 表紙裂と見返し料紙はそれぞれ補修を行い、新調した竹製八双を取付けて元の表紙に組み立てる。新調した軸木に元の軸首を取付ける。新規に軸巻絹を製作する。表紙、本紙、軸巻絹を繋ぎ合わせ、軸木を付け、新調した紐を付けて卷子装に仕上げる。4. 強化・整形 絵具層に膠水溶液にて剥落止を施す。但し、耐水性が低い絵具層については行わない。肌裏紙を取り替え、更に3層の裏打ちを施して、柔軟で強度のある仕上がりにする。5. 補填 本紙料紙の欠失箇所、電子線劣化絹にて補填する。6. 補彩 補填を行った箇所に、周囲と調和する補彩を施す。7. 収納等 太巻添軸を新調する。元の箱に枕を取り付け、新調した包裂に包み納入する。元年度は4の途中以降を施工。(30年度より、2か年継続事業)		

2 名 称	渡海羅漢図巻 (とかいらかんずかん)	員 数	1幅
時 代	画: 中国 明時代・17世紀 賛: 寛文6、7年(1666-67) 跋: 天和3年(1686)9月9日	寸 法 等	縦 29.8cm 全長 1309.5cm 紙数 35紙
品 質	羅漢図: 紙本着色、題・賛・跋: 紙本墨書、象牙軸	施工会社	修理工房 幸匠株式会社
修理内容	1. 解体 本紙や装丁状況を観察し、寸法、損傷状態を写真や記録に詳細に留め、絵具層の調査や紙質検査を行ってあらゆる情報について記録を行った後、本紙に負担がかからないように卷子装を解体し、本紙の継ぎを全て取り外す。2. 強化・整形 膠着力の低下と、表面の擦れにより不安定になっている墨及び彩色絵具に、珉膠水溶液 0.5~3%を用い、剥落止めを行う。膠水溶液を塗布する際にも必要最低限に留め、膠による光沢などが出ないように細心の注意を払い行う。3. 洗浄 筆や刷毛などによるドライクリーニングを行った後、本紙下に吸収紙を敷き、濾過水を画面表面に噴霧して汚れを吸収紙に移動させる方法にて、汚れの除去を行う。クリーニングによって現状の作品の風合いを損なわないようにすること、以降の作業において抱えている汚れによりシミや際付きを起こさないことを前提とし、過剰なクリーニングは行わない。4. 強化・整形 再度、墨、彩色絵具に免膠水溶液 0.5~3%を用い、剥落止めを行う。5. 解体 肌裏紙の糊浮きが著しいため、湿りを与えずに肌裏紙を除去する。湿りを与えずに除去できない部分にのみ、必要最小限の湿りを与えて除去を行う。6. 補填 本紙と同質の繊維による補修紙を準備・調整し、自社で炊いた小麦澱粉糊(新糊)を用いて本紙の裏面より欠失箇所を補修を行う。本紙と補修紙の重なりによる凹凸が最小限になるように補修紙の糊代部を削って補修を行う。7. 強化・整形 本紙の色調に合わせて天然染料にて染色した薄美濃紙を、新糊を用いて新たに肌裏打ちを行う。8. 接合・組立 美晒紙にて古糊(新糊を10年間涼暗所で保管した糊)を用いて増裏打ちを行う。増裏打ち後、折れの発生していた箇所及び今後折れが発生する恐れがある箇所に、薄美濃紙にて新糊を用いて折れ伏せを施す。新調の表紙裂及び天地裂、見返しを薄美濃紙にて新糊を用いて肌裏打ちを行う。仮張り後、表紙裂と見返しを合わせる。本紙を継ぎ、新調した天地裂地を付け廻しする。椿と雁皮の混合紙を用い、新糊と布海苔抽出液の混合糊にて総裏打ちを行う。9. 補彩 本紙の持っている地色を基本として行い、それに加え現在の経年劣化した本紙料紙の状態を加味した色合いも考慮して補彩を施す。最終的な調整として、所有者と協議の上、欠失部(補紙を施した箇所)周辺の状態にも応じ、鑑賞を行う上で支障のないように微調整を行う。10. 接合・組立 軸首は再使用、軸巻紙、中軸、八双、紐は新調し、卷子装に仕立てる。11. 収納等 今後の新たな折れや損傷の進行を防ぐ為に、桐製太巻添軸を新調し、巻子を太く巻き保存する。桐屋郎中箱・漆塗桐台差紐付外箱を新調し、羽二重の包裂に包み納入する。 元年度は8の以降を施工。(30年度より、2か年継続事業)		
所蔵者	福岡・千眼寺		

3 名 称	渡唐天神像 (とどうてんじんぞう)	員 数	1幅
時 代	明時代・16世紀	寸 法 等	本紙: 縦58.3cm 横29.8cm 表装: 縦139.4cm 横42.2cm 軸長47.8cm
品 質	絹本着色、掛軸装、木製漆塗軸	施工会社	修理工房 幸匠株式会社
修理内容	1. 解体 本紙や装丁状況を観察し、寸法、損傷状態を写真や記録に詳細に留め、彩色の調査、料紙の調査、料紙の調査等あらゆる情報について記録を行った後、本紙に負担がかからないように掛軸装を解体し、少量の湿りにて肌裏紙以外の旧裏打ち紙を除去する。2. 強化・整形 クリーニングで水を使用するにあたり、不安定な彩色層が移動する恐れがあることから、膠着力が低下し、表面の擦れにより不安定になっている彩色層に、必要に応じて免膠水溶液1~3%を用いて剥落止めを行う。膠水溶液の塗布は効果を確認し、必要に応じて繰り返し行うが、クリーニングに耐えられる必要最低限に留め、膠による汚れの移動、際付きによるシミや、光沢などが出ないように細心の注意を払い行う。3. 洗浄 筆や刷毛などによるドライクリーニングを行った後、吸収紙上に本紙を載せ、濾過水を画面表面に噴霧し、本紙下に敷いた吸収紙に汚れを移動させる方法にて汚れの除去を行う。クリーニングによって微かな表現がより良く見えるようになること、以降の作業において抱えている汚れによりシミや際付きを起こさないことを前提とし、過剰なクリーニングは行わない。4. 強化・整形 クリーニング後、絵具層の膠着力のテストを行い、必要に応じて免膠水溶液1~3%を用い、再度剥落止めを行う。5. 解体 旧補絹の大半は表面より本紙料紙の上から施されているため、協議にて除去が決定した旧補絹を表面養生を行う前に除去する。旧補絹を除去した後、梅の花表現に使われている臙脂部分がにじまないようにシクロドカンを用いて防水加工を施す。その後、常温で抽出した布海苔水溶液にて本紙表面に3層の養生を施して本紙料紙を固定し、裏面より最小限の湿りにて除去を行う乾式肌上げ法で丁寧かつ慎重に肌裏紙を除去した後、裏面から施された旧補絹を除去する。6. 補填 本紙欠失箇所と本紙の周囲に本紙と同組織の電子線劣化絹を選定し、本紙料紙の色合いを考慮した下染めを施し、裏面より補絹を行う。7. 強化・整形 本紙の色調に合わせて天然染料にて染色した薄美濃紙を、自社で炊いた小麦澱粉糊(新糊)を用いて新たに肌裏打ちを行う。8. 接合・組立 肌裏打ち後、肌裏紙と同様に天然染料を用いて染色した美晒紙にて古糊(新糊を10年程度涼暗所で保管した糊)を用いて増裏打ちを行う。その後、折れの発生していた箇所及び今後折れが発生する恐れがある箇所に、薄美濃紙にて新糊を用いて折れ伏せを施す。新調した表装裂地は、薄美濃紙にて新糊を用いて肌裏打ちを行った後、美晒紙にて古糊を用いて増裏打ちを行う。仮張り後、新糊と古糊の混合糊を用いて本紙と裂との付け廻しを行う。本紙と裂の付け廻し後、掛軸装全体のバランスを整えるために、美晒紙にて古糊を用いて中裏打ちを行う。中裏打ち後、一段目には上巻絹を用い、二段目以降は宇陀紙を用い、古糊にて総裏打ちを行う。9. 補彩 現在の経年変化した料紙の色合いを踏まえて補彩を施す。欠失部(補絹箇所)周辺の状態も考慮し、鑑賞を行う上で支障のないよう所有者と協議の上で最終的な微調整を行う。10. 接合・組立 軸首、上下軸木、啄木等を新調し、掛軸装に仕立てる。11. 収納等 今後の新たな折れ・絵具層や料紙の損傷の進行を防ぐ為に、桐製太巻添軸を新調し、掛軸を太く巻き保存する。新調した羽二重の包裂に本紙を包み、桐屋郎箱を新調し納める。		

4 名 称	宗義調像（そうよししげぞう）	員 数	1幅
時 代	安土桃山～江戸時代・16～17世紀	寸 法 等	本紙：縦75.2cm 横45.6cm 表具：縦160.8cm 横58.9cm 軸張64.2cm
品 質	紙本着色、掛軸装（三段表具）、軸首プラスチック製	施工会社	修理工房 宰匠株式会社
修理内容	<p>1.解体 本紙や装丁状況を観察し、寸法、損傷状態を写真や記録に詳細に留め、紙質検査や絵具の調査等を行ってあらゆる情報の記録を行った後、本紙に負担がかからないように掛軸装を解体し、少量の湿りにて肌裏紙以外の旧裏打ち紙を除去する。2.強化・整形 クリーニングで水を使用するにあたり、不安定な絵具層が移動する恐れがあることから、膠着力が低下し、表面の擦れにより不安定になっている絵具層に、必要に応じて免膠水溶液1～3%を用いて剥落止めを行う。膠水溶液の塗布は効果を確認し、必要に応じて繰り返し行うが、クリーニングに耐えられる必要最低限に留め、膠による汚れの移動、際付きによるシミや、光沢などが出ないように細心の注意を払い行う。3.洗浄 筆や刷毛などによるドライクリーニングを行った後、吸取紙上に本紙を載せ、濾過水を画面表面に噴霧し、本紙下に敷いた吸取紙に汚れを移動させる方法にて汚れの除去を行う。クリーニングによって微かな表現がより良く見えるようになること、以降の作業において抱えている汚れによりシミや際付きを起こさないことを前提とし、過剰なクリーニングは行わない。4.強化・整形 クリーニング後、絵具層の膠着力のテストを行い、必要に応じて免膠水溶液1～3%を用い、再度剥落止めを行う。5.解体 常温で抽出した布海苔水溶液にて本紙表面に3層の養生を施して本紙紙を固定し、裏面より最小限の湿りにて除去を行う乾式肌上げ法での肌裏紙除去を丁寧かつ慎重に行う。6.補填 本紙と同質の繊維による補修紙を準備・調整し、裏面より欠失箇所へ補修を行う。本紙と補修紙の重なりによる凹凸が最小限になるように補修紙の糊代部分を削って補修する。7.強化・整形 本紙の色調に合わせて天然染料にて染色した薄美濃紙を、自社で炊いた小麦澱粉糊（新糊）を用いて新たに肌裏打ちを行う。8.接合・組立 肌裏打ち後、肌裏紙と同様に天然染料を用いて染色した美洒紙にて古糊（新糊を10年程度涼暗所で保管したもの）を用いて増裏打ちを行う。その後、折れへの発生していた箇所及び今後折れが発生する恐れがある箇所に、薄美濃紙にて新糊を用いて折れ伏せを施す。新調した表装裂地は、薄美濃紙にて新糊を用いて肌裏打ちを行った後、美洒紙にて古糊を用いて増裏打ちを行う。仮張り後、新糊と古糊の混合糊を用いて本紙と裂との付け直しを行う。本紙と裂の付け直し後、掛軸装全体のバランスを整えるために、美洒紙にて古糊を用いて中裏打ちを行う。中裏打ち後、一段目には上巻絹を用い、2段目以降は宇陀紙を用い、古糊にて総裏打ちを行う。9.補彩 現在の経年変化した料紙の色合いを踏まえて補彩を施す。欠失部（補紙箇所）周辺の状態も考慮し、鑑賞を行う上で支障のないよう所有者と協議の上で最終的な微調整を行う。10.接合・組立 軸首、上下軸木、啄木等を新調し、掛軸装に仕立てる。11.収納等 今後の新たな折れ・絵具層や料紙の損傷の進行を防ぐ為に、桐製太巻添軸を新調し、掛軸を太く巻き保存する。新調した羽二重の包装に本紙を包み、桐屋郎箱を新調し納める。</p>		

<書跡> (1件)

5 名 称	重要文化財 鷹尾神社大宮司家文書 (たかおじんじやだいぐうじけもんじょ)	員 数	93点
時 代	鎌倉～室町時代 13-16世紀	寸 法 等	(1)縦27.5cm横35.5cm (2)縦25.6cm横33.5cm (3)縦21.5横24.0cm (4)縦26.1cm横39.0cm (5)縦23.5cm横32.7cm (6)縦30.3cm横34.2cm (7)縦29.7cm横36.9cm (8)縦32.2cm横57.8cm (9)縦30.0cm横171.0cm (10)縦32.2cm横48.3cm (11)縦28.5cm横43.1cm (12)縦28.1cm横71.5cm (13)縦31.2cm横94.4cm (14)縦33.2cm横52.6cm (15)縦28.0cm横39.5cm (16)縦30.7cm横90.6cm (17)縦27.2cm横72.2cm (18)縦24.0cm横60.3cm (19)縦24.5cm横26.7cm (20)縦28.5cm横33.2cm (21)縦28.0cm横38.2cm (22)縦30.5cm横44.9cm (23)縦27.9cm横45.7cm (24)縦26.8cm横72.5cm (25)縦27.6cm横41.2cm (26)縦31.7cm横104.4cm (27)縦32.1cm横102.3cm (28)縦30.5cm横43.3cm (29)縦25.9cm横142.0cm (30)縦26.8cm横35.2cm (31)縦27.2cm横110.3cm (32)縦29.9cm横41.9cm (33)縦29.6cm横37.1cm (34)縦31.7cm横51.3cm (35)縦29.5cm横40.8cm (36)縦26.2cm横69.4cm (37)縦21.0cm横31.0cm (38)縦25.8cm横32.1cm (39)縦28.8cm横44.5cm (40)縦30.3cm横189.4cm (41)縦32.6cm横155.4cm (42)縦30.5cm横232.8cm (43)縦26.9cm横35.0cm (44)縦28.4cm横46.1cm (45)縦28.2cm横32.3cm (46)縦31.8cm横117.2cm (47)縦31.8cm横117.2cm (48)縦27.5cm横30.0cm (49)縦30.0cm横36.8cm (50)縦27.2cm横36.6cm (51)縦28.5cm横38.5cm (52)縦28.5cm横40.0cm (53)縦26.5cm横43.8cm (54)縦29.8cm横44.1cm (55)縦29.8cm横43.3cm (56)縦30.2cm横111.7cm (57)縦46.9cm横43.0cm (58)縦28.2cm横31.9cm (59)縦27.4cm横36.8cm (60)縦31.9cm横44.8cm (61)縦29.3cm横37.9cm (62)縦28.0cm横46.5cm (63)縦32.5cm横38.8cm (64)縦25.5cm横30.0cm (65)縦23.4cm横46.3cm (66)縦26.8cm横29.1cm (67)縦27.5cm横34.0cm (68)縦29.0cm横38.0cm (69)縦29.2cm横26.8cm (70)縦15.0cm横39.5cm (71)縦25.6cm横34.1cm (72)縦26.6cm横76.7cm (73)縦26.2cm横39.4cm (74)縦25.1cm横39.9cm (75)縦22.4cm横43.9cm (76)縦23.4cm横43.9cm (77)縦28.6cm横109.2cm (78)縦19.2cm横39.4cm (79)縦24.0cm横37.2cm (80)縦38.5cm横55.8cm (81)縦27.7cm横123.1cm (82)縦31.0cm横80.5cm (83)縦27.0cm横37.2cm (84)縦29.7cm横250.6cm (85)縦27.9cm横227.9cm (86)縦23.6cm横108.3cm (87)縦21.4cm横120.6cm (88)縦20.5cm横74.6cm (89)縦29.2cm横98.2cm (90)縦29.8cm横979.0cm (91)縦24.6cm横19.1cm (92)縦26.6cm横16.5cm (93)縦27.0cm横76.0cm (94)縦27.0cm横19.0cm
品 質	紙本墨書	施工会社	修理工房 宰匠株式会社
修理内容	<p>1.解体 本紙や装丁状況を観察し、寸法、損傷状態を写真や記録に詳細に留め、紙質検査や本紙のあらゆる情報について記録を行う。額装のものについては装丁を解体する。2.洗浄 筆や刷毛などによるドライクリーニングを行い、本紙に堆積した埃や塵を除去する。3.強化・整形（剥落止め） 墨の膠着力のテストを行い、必要に応じて膠水溶液を用いて剥落止めを行う。効果を確認し、必要に応じて都度繰り返し行う。膠水溶液を塗布する際にもその量は必要最小限に留め、膠による光沢などが出ないようにする等細心の注意を払い行う。4.強化・整形（フラットニング） 折れや破損によって収縮した本紙を伸ばし、繊維の毛羽立ちを押さえ、あばれや皺を改善することで本紙を安全に扱えるようにするために、ゴアテックスを用いて軽い湿りを与えて軽い圧をかけ、平らに整える。5.解体 必要最小限の湿りを与え、裏打ち紙や旧補修・補強紙等を除去する。除去の際には所有者や関係各所と協議の上で行う。6.補填 各本紙の紙質・状態に合わせて手漉きにて補修紙を製作し、欠失箇所に手漉きにて補修を施す。堅帳については、漉き嵌めによる補修を、紙数が多い続紙についてはDIIPS法（象嵌式）による補修を施す。7.強化・整形（裏打ち） 強度的に裏打ちが必要なものについては、所有者や関係各所との協議を行った上で裏打ちを行う。8.接合・組立 続紙については、所有者や関係各所との協議を行った上で、糊離れが生じていた紙継ぎ箇所を新糊を用いて適正な位置に継ぎ直す。冊子については、新調した紙嚙りを用い、元の形態に綴じ直す。9.収納等 堅紙（額装を解体した一紙を含む）、折紙、続紙、堅帳については、本紙を積紙にて包み、新調した桐製奩箱に収納し、油単を新調する。元年度は6の途中から施工（30年度より、3か年継続事業）。</p>		
所蔵者	個人蔵		

<彫刻> (1件)

6 名 称	如来坐像 (によらいざどう)	員 数	1 軀
時 代	平安時代・12世紀	寸 法 等	像高137.0cm 髪際高117.0cm 膝張112.5cm 膝奥89.0cm 付属品 台座:木製箱形礼盤1(幅107.5cm 奥行91.8cm 高18.3cm)
品 質	桧材・寄木造・漆箔仕上げ (現状素地古色)	施工会社	美術院
修理内容	1.解体 本身は矧ぎ目に打たれた後補の鉄釘や鉄鎚を抜きすべて解体する。台座は天板のみを解体する。2.洗浄 埃除去工程。筆・刷毛等で丁寧に埃を掃き取り、舞い上がった埃はクリーナーで吸い取り除去する。塵埃や汚れは精製水で除去する。3.接合・組立 接合工程。台座框の緩む箇所は矧ぎ目に膠を差し入れて接合するが、強度が必要な際はエポキシ系樹脂を用いて接合する。台座天板は隙間に桧材の薄板を差し入れて膠で接合する組み上げ工程。本鉢の目違いや傾きなどを修整しながら、膠と麦漆 (必要に応じて点付) を用いて各矧ぎ目を接合し組み上げる。接合部表面や鏝を埋め込んだ箇所は木屎漆を充填した後削り整える。4.強化・整形 剥落止め工程。台座漆層の浮き上がりは状況に応じて、メチルセルロースにアクリル樹脂エマルジョン (商品名プライマル AC2235) を混合したものを用いるか、水溶性アクリル樹脂 (商品名バインダー17) で下処置した後アクリル樹脂エマルジョン (商品名プライマルAC2235) を用いるかのどちらかの方法により剥落止めを行う。台座白下地彩色の浮き上がりは膠で剥落止めを行う。材質強化工程。本鉢の虫蝕朽損や鼠害により劣化した木質部はアクリル樹脂 (商品名パラロイドB72 溶剤メチルエチルケトン) を含浸して材質強化を行う。彫刻面の欠損部で木質の朽損がある場合は上記と同様にアクリル樹脂を用いて材質強化を行うが、朽損が少ない場合は材質強化を行わず、桧材を膠で貼り付けて木屎漆で整形を行うか、あるいは木屎漆のみで整形を行う。台座天板の朽損箇所は本鉢と同様にアクリル樹脂 (商品名商品名パラロイドB72溶剤メチルエチルケトン) を含浸して材質強化を行う。隙間・亀裂箇所処置工程。台座天板の矧ぎ目の隙間や框の亀裂箇所は、広い箇所には桧材を差し入れ、狭い箇所にはブチラール樹脂 (商品名デンカブチラール溶剤ブチラールアルコール+エチルアルコール) に砥の粉と顔料を混合したものを用いて隙間や亀裂を埋める。5.補填 虫蝕処置工程。本鉢の虫蝕孔はブチラール樹脂 (商品名デンカブチラール溶剤ブチラールアルコール+エチルアルコール) に砥の粉と顔料を混合し、セロファン紙で作った三角錐型容器に詰め充填する。虫蝕朽損及び鼠害により彫刻面が欠損している箇所は、損傷移行を防止する範囲で、桧材や木屎漆で整形する (すべて埋めずに虫損箇所を残す)。補足工程。本鉢後頭部上方の亡失する矧ぎ材及び両手先を桧材で補足する。形状不適合な右脇衲衣遊離部は修整して形状を整えるか、新たに補足するかを協議の上行う。白毫を桧材で新補する。台座の天板の欠損部を桧材で補足する。構造補強工程。台座が像の荷重に耐えられるよう桧材で中枠等の内部構造を新補し、天板の落ち込みを戻し、像を安定して安置できるようにする。6.補彩 古色工程。新たに補足する箇所 (白毫・後頭部上方矧ぎ材・両手先) を周囲に合わせて、漆・水干絵具・アクリル絵具を用いて古色を施す。解体後接合する矧ぎ目表面は、木屎漆で表面を整え、錆漆で下地を行い、上記と同様の古色を施す。古色修整工程。過去の修理において施された古色の変色部について、精製水を用いて綿棒等で一旦除去し、新たに漆・水干絵具・アクリル絵具を用いて修整を行う。漆塗工程。台座天板の欠損部や矧ぎ目処置を行った箇所及び台座礼盤座右前柱の表面が剥落する箇所は、下地として木屎漆で整形し、漆塗を施す。7.収納等 保存台の製作等は行わない。		

<金工> (6件)

7 名 称	雲杜若の図真形釜 (みぞれかきつばたのずしんなりか)	員 数	1口
時 代	安土桃山時代・16世紀後半	寸 法 等	蓋径11.8cm 口径11.7cm 最大径21.6cm 総高15.2cm
品 質	鉄・鑄造	施工会社	八木鑄金
修理内容	1.釜の赤錆は竹筴や籐(ササラ)による除去。2.煮上げしながらタンニン液による錆止め処置を行う。3.替蓋は弱酸性、弱塩基性による液体で中和させ、その後色調合わせを行う。		

8 名 称	霞真形釜 (あられしんなりがま)	員 数	1口
時 代	室町時代後期・16世紀	寸 法 等	蓋径10.2cm 口径10.2cm 最大径20.6cm 総高16.0cm
品 質	鉄・鑄造	施工会社	八木鑄金
修理内容	1.釜の鏝羽、胴部、金漆のひび割れ部分に漆を局部的に染み込ませ、乾燥後、金漆で繕いを行う。2.鏝羽裏の過度に盛られた金漆を、展示の際見えない程度に電動軸付砥石で研磨し除去する。3.鏝羽、胴部、真底の赤錆は竹筴や籐(ササラ)による除去後、煮上げしながらタンニン液による錆止め処置を行う。4.替蓋は弱酸性、弱塩基性による液体で中和させ、その後色調合わせを行う。		

9 名 称	梅の図平釜 (うめのずひらがま)	員 数	1口
時 代	江戸時代前期・17世紀	寸 法 等	蓋径(蓋なし) 口径14.3cm 最大径27.5cm 総高11.7cm
品 質	鉄・鑄造	施工会社	八木鑄金
修理内容	1.釜の赤錆は竹筴や籐(ササラ)による除去。2.煮上げしながらタンニン液による錆止め処置を行う。3.金漆の劣化は、漆を局部的に染み込ませて乾燥後、金漆で繕いを行い色調合わせを行う。4.釜外部、直羽上部の真鍮製縁についてはそのままの状態を残す。5.蓋を唐金蓋で新調する。		

10 名 称	黒木(東柴)釜 (くろき(たばしば)がま)	員 数	1口
時 代	安土桃山時代・16世紀後半	寸 法 等	蓋径12.3cm 口径12.4cm 最大径26.5cm 総高20.4cm
品 質	鉄・鑄造	施工会社	八木鑄金
修理内容	1.釜の赤錆は竹筴や籐(ササラ)による除去。2.煮上げしながらタンニン液による錆止め処置を行う。3.底側面の金漆の割れと剥離は、漆を割れ部分に浸透させ乾燥。4.金漆にて繕い色調合わせを行う。		

11 名 称	鳥居宝珠の図鬮口釜 (とりいほうじゆのずこしきぐちがま)	員 数	1口
時 代	安土桃山時代・16世紀後半	寸 法 等	蓋径12.3cm 口径12.1cm 最大径26.8cm 総高18.8cm
品 質	鉄・鑄造	施工会社	八木鑄金
修理内容	1.釜の赤錆は竹筴や籐(ササラ)による除去。2.煮上げしながらタンニン液による錆止め処置を行う。3.真底の藁と同化した赤錆は、腐食が進行しえぐれている場合には金漆にて繕い色調合わせを行う。		

12 名 称	桐紋撫肩釜 (きりもんながたかま)	員 数	1口
時 代	安土桃山時代・16世紀後半	寸 法 等	蓋径(鉄蓋)12.2cm(唐金蓋)12.0cm 口径12.2cm 最大径26.3cm 総高16.3cm
品 質	鉄・鑄造	施工会社	八木鑄金
修理内容	1.釜、共蓋の赤錆は竹筴や籐(ササラ)による除去。2.煮上げしながらタンニン液による錆止め処置を行う。3.替蓋は弱酸性、弱塩基性による液体で中和させ、その後色調合わせを行う。		

<刀剣> (1件)

13 名称	脇差 銘備州長船康永、応永卅一年二月日 (わきざし めいびしゅうおさふねやすなが、 おうえいさんじゅういちねんにがっつ)	員数	1口
時代	室町時代・応永31年(1424年)	寸法等	刃長45.6cm 反0.7cm
品質	鉄・鍛造	施工会社	小宮光敏
修理内容	1.改正砥で錆を取り、姿(形)を直す。2.改正砥の砥石目を名倉砥の砥石目にする。3.名倉砥の砥石目を内曇砥の砥石目にする。(この時に刃文が見えてくる) 4.内曇砥の砥石目を刃艶砥で整える。(刃艶砥は内曇砥を薄くして和紙を漆で裏張りしたもの) 5.地艶砥で地鉄を整える。(地艶砥は鳴滝砥を薄くして和紙を漆で裏張りしたもの) 6.刃取りを行う。(刃文にかかった地艶砥の砥石目を刃艶砥の砥石目に戻す) 7.差込み拭いかけ。(磁鉄銹を細かい粉末にして油で溶いたもの) 8.ナルメを行う。(切先の仕上げ) 9.錆地・棟を鉄の棒で磨く。		

<漆工> (1件)

14 名称	花鳥螺鈿筆筒 (かちょうらでんたんす)	員数	1基
時代	江戸時代・19世紀	寸法等	高142.3cm×縦42.0cm×横63.1cm
品質	木製漆塗	施工会社	(同) 大西漆芸修復スタジオ
修理内容	1.解体 筆筒の扉が開閉の際に下部で擦れている、螺鈿の金具を取り外す。2.洗浄 クリーニング作業では、漆塗膜に傷が入らないように柔らかい毛棒で塵や汚れを払い落とす。漆塗膜に付着しているカビ汚れは、柔らかい木綿布や綿棒に極少量の水分を与えたもので少しずつ拭き取りながら除去作業を行う。必要に応じ弱いアルコールを使用した除去も行うが、高濃度での使用は行わない事とする。カビ汚れの下には、漆塗膜上に時代を感じさせる経年の汚れが残されていることから、必要以上にクリーニング作業は行わない事とする。過去の補修で塗られた黒色塗料は、溶剤を使用しながら柔らかい木綿布や綿棒で拭き取り、可能な限り除去を行う。ただし、螺鈿下に入り込んだ黒色塗料は除去が不可能なため現状のままとする。3.接合 木地構造の安定処置では、亀裂箇所へ充填接着剤に調合した漆塗を溶剤で希釈して含浸し、構造の安定処置を行う。剥離塗膜の接着では、塗膜接着剤に調合した漆塗を溶剤で希釈して含浸し、圧着固定を行い塗膜の安定処置を行う。螺鈿の剥離箇所には、10%濃度の膠水を用いて剥離下に含浸し、圧着固定を行い螺鈿の安定処置を行う。4.強化・整形 筆筒を受ける甲板の隅金具が当たり木地が露出している箇所に生漆を含浸し強化する。5.補填 亀裂部と欠損部に刻苧の充填を行い形態の復元を行う。刻苧箇所に錆漆下地を付けて表面肌を整え、欠損部と周辺漆塗膜との段差を緩和させる。また、触手による再剥落を防止するため、塗膜下に極少量の錆漆下地を付ける。6.補彩 補填部分に漆固めを実施し、作品に合わせ色と質感を整える。7.組立 取り外していた扉は、開閉時に下部が擦れない位置で取り付けて仕上げる。その際、マイナスネジ頭の釘は再利用するか、オリジナルの釘に合わせて親補するか担当者として協議をする必要がある。そのため、事前調査としてX線CT調査結果や解体時の状況、再利用が可能な耐久性であるのか検討した上で、担当者と相談して決定をする。8.台脚上面には、筆筒設置時の損傷を回避するため養生板の新調を行う。扉の開閉時に、抽出の金具と扉裏が当たらないように薄紙や布を抽出上段から垂らして打損が生じないようにする。8.修理報告書 修理前・修理途中・修理後の画像、損傷状況、処置内容、使用材料、新知見等を掲載する。元年度は本体部分を施工。(30年度より、2か年継続事業)。		

<染織> (1件)

15 名称	前田家伝来名物裂帖 (まえただけでんらいめいぶつぎれちょう)	員数	1冊
時代	中国 元～明時代 (13～17世紀)	寸法等	縦110.5cm 横 49.0cm 厚 3.0cm
品質	雲母引き台紙 20枚を糸綴じた冊子	施工会社	株式会社岡屋光堂
修理内容	1.解体に耐えられないと判断した雲母の浮き箇所に、剥落止めの処置を施す。台紙を表、中、裏の3層に剥がし、糸綴じ部分と中層を残し表裏それぞれをノド部分から切り離す。ただし、構造的に困難であると判明した場合は、糸綴じを切り台紙を表裏2倍に剥がす。2.解体前に、表面的な埃を、柔らかい刷毛か筆で裂を傷めないよう慎重に払う。3.台紙を表、裏に剥がし分離した後、補強のために新調した1mm厚程度の台紙と貼り合わせる。新調する台紙は現状と同じ大きさで、厚みのある堵紙(江洲栄貴製)を数枚貼り合わせて、薄くても軽拵で強度のあるものにする。それぞれを貼り合わせる糊は、小麦澱粉糊に布海苔を混合してやや柔軟性のある仕上がりにする。裂や金糸などの浮きは、糊差しにて止める。印金や雲母の剥離は、膠水溶液や布海苔にて部分的な剥落止めを行う。4.38面の台紙を引出し1段に1面ずつ入れる桐製筆筒を製作する。ただし、筆筒は9段のものとして10段のものを2倍ずつ作り、収納庫の棚に収納出来るようにする。台紙を引出しに収納する際には、染色品の保護に使用されている、酸とアルカリを含まないノンパッファー紙(製品名:ピュアガード)を台紙表面全体に被せる。元年度は4以降を施工。(29年度より、3か年継続事業)。		

<考古> (11件)

16 名称	埴輪 馬 (はにわ うま)	員数	1点
時代	古墳時代・6世紀	寸法等	総高94.0、幅32.0、体長93.0 cm
品質	土製	施工会社	株式会社芸匠
修理内容	1.解体 資料の現状を把握し、接合面を確認しながら、接着剤や石膏による修理部分をデザインカッターやリユウター、アセトンや注射器、綿棒やブラシ等を用いて解体し、クリーニングを行う。2.強化・整形 必要に応じて脆弱部分にパラロイドB72(アセトン希釈:5%程度)を塗布し、樹脂による強化を行う(接合断面や接地面は全て)。表面も必要に応じて行うが、その際は表面の光沢を出来る限り抑える様に注意する。3.接合・組立 3-1エポキシ系接着剤(ハイスーパー5)で破片を大まかに接合後、隙間や復元部分をエポキシ樹脂アラルダイトXNR-6504主剤、XNI-1-6504:硬化剤)、パラロイドB72(溶剤アセトン)とマイクロバルーン及び顔料(個体の基本色)を混合したものを使用して、仕上げの充填成形を行うこの段階で部位ごとに幾つかのパーツに仕上げる。3-2大まかなパーツの接合作業完了後同様に部位のパーツを接合しながら、まず馬の下半分の接合を行い、脚のバランスを調整しながら仕上げる。次に上半分の接合を行い(バランスによっては頭部の接合は最終段階とする)、完了後下部と上部を接合して作業を完了させる 4.補填 組立完了後、全体の接合部分の隙間や復元部分をエポキシ樹脂(アラルダイトXNR-6504主剤、XNI-1-6504:硬化剤)、パラロイドB72(溶剤アセトン)とマイクロバルーン及び顔料(個体の基本色)を混合したものを使用して、仕上げの充填成形を行う。5.補彩色 修理部分に、違和感がない様にアクリル絵具で補彩色を施す。6.収納等(安定台製作)馬の下半分の接合・復元完了後、現地に資料取りを行い安定台座を製作する。安定台座天板に足に合わせた落とし込みと突起を設けて、四本の脚がずれない様にする。埴輪の移動や展示も台に載せたまま行える様に、指掛けとサラシの固定部分を兼ねた隙間を設ける。材質は木製とし、脚受の部分はエポキシ樹脂やシリコン、ウレタン等を用いて脚を安全に固定する。仕上げは展示にも耐えられる様に、ウレタン塗装の艶消し仕上げとする。元年度は3-2以降施工。(30年度より、2か年継続事業)。		

17 名称	長胴異形壺形土器 (ちょうどういかたつぼがたどき)	員数	1点
時代	縄文時代・前1000年-前400年	寸法等	高33.2cm 直径6.8cm
品質	土製	施工会社	株式会社芸匠
修理内容	1.綿棒やブラシ等で、そのまましくはアセトン等の溶剤を用いてクリーニングを行う。2.口縁部の破断面にアクリル樹脂(パラロイドB72、アセトン希釈:5%程度)を塗布し、樹脂による破断面の保護と強化を行う。3.破断面にエポキシ樹脂(主剤:アラルダイトXNR-6504、硬化剤:XNH-6504)を用いて口縁形状を復元成形し、アクリル樹脂(パラロイドB72、アセトン希釈)とマイクロバルーン及び顔料(個体の基本色)を混合したものを使用して、仕上げの充填成形を行う。復元形状は残存部分を参考にする。4.復元部分に、違和感がない様にアクリル絵具で補彩を施す。5.元の収納箱に納入する。6.損傷状況、処置内容、使用材料、新知見、画像等を記載した修理報告書作成する。		

18 名称	注口土器（ちゆうこうどき）	員数	1点
時代	縄文時代・前2000年～前1000年	寸法等	高29.6cm 口径11.0cm 最大幅25.4cm 底径5.0cm
品質	土製	施工会社	株式会社芸匠
修理内容	1. 綿棒やブラシ等で、そのままもしくはアセトン等の溶剤を用いクリーニングを行う。この際、内部の泥を落とさないように注意する。2. 破断面にアクリル樹脂（パラロイドB72、アセトン希釈：5%程度）を塗布し、樹脂による破断面の保護と強化を行う。3. 破断面にエポキシ樹脂（主剤：アラルダイトXNR - 6504、硬化剤：XNH-6504）を用いて形状を復元成形し、アクリル樹脂（パラロイドB72、アセトン希釈）とマイクロバルーン及び顔料（個体の基本色）を混合したものを使用して、仕上げの充填成形を行う。復元形状は残存部分を参考にする。4. 修理部分に、違和感がない様にアクリル絵具で補彩を施す。5. 元の収納箱に納入する。6. 損傷状況、処置内容、使用材料、新知見、画像等を記載した修理報告書作成する。		

19 名称	三角柱状土製品（さんかくちゆうじょうどせいひん）	員数	1点
時代	縄文時代・前3000年～前2000年	寸法等	縦7.0cm 横6.0cm 高4.2cm
品質	土製	施工会社	株式会社芸匠
修理内容	1. 綿棒やブラシ等で、そのままもしくはアセトン等の溶剤を用いクリーニングをおこなう。この際黒いススを落とさない様に注意する。2. 破断面にアクリル樹脂（パラロイドB72、アセトン希釈：5%程度）を塗布し、樹脂による破断面の保護と強化をおこなう。3. 破断面にエポキシ樹脂（主剤：アラルダイトXNR - 6504、硬化剤：XNH-6504）を用いて形状を復元成形し、アクリル樹脂（パラロイドB72、アセトン希釈）とマイクロバルーン及び顔料（個体の基本色）を混合したものを使用して、仕上げの充填成形をおこなう。復元形状は残存部分を参考にする。4. 修理部分に、違和感がない様にアクリル絵具で補彩を施す。5. 元の収納箱に納入する。6. 損傷状況、処置内容、使用材料、新知見、画像等を記載した修理報告書作成する。		

20 名称	鐿形土製品（たくがたどせいひん）	員数	1点
時代	縄文時代・前2000年～前1000年	寸法等	直径4.5cm 高5.3cm
品質	土製	施工会社	株式会社芸匠
修理内容	1. 綿棒やブラシ等で、そのままもしくはアセトン等の溶剤を用いクリーニングを行う。2. 破断面にアクリル樹脂（パラロイドB72、アセトン希釈：5%程度）を塗布し、樹脂による破断面の保護と強化を行う。3. 破断面にエポキシ樹脂（主剤：アラルダイトXNR - 6504、硬化剤：XNH-6504）を用いて形状を復元成形し、アクリル樹脂（パラロイドB72、アセトン希釈）とマイクロバルーン及び顔料（個体の基本色）を混合したものを使用して、仕上げの充填成形を行う。復元形状は残存部分を参考にする。4. 修理部分に、違和感がない様にアクリル絵具で補彩を施す。5. 元の収納箱に納入する。6. 損傷状況、処置内容、使用材料、新知見、画像等を記載した修理報告書作成する。		

21 名称	鉢形土器（はちがたどき）	員数	1点
時代	縄文時代・1万年前～6000年前	寸法等	直径14.0cm 高12.0cm
品質	土製	施工会社	株式会社芸匠
修理内容	1. 綿棒やブラシ等で、そのままもしくはアセトン等の溶剤を用いクリーニングを行う。2. 破断面にアクリル樹脂（パラロイドB72、アセトン希釈：5%程度）を塗布し、樹脂による破断面の保護と強化を行う。3. 破断面にエポキシ樹脂（主剤：アラルダイトXNR - 6504、硬化剤：XNH-6504）を用いて形状を復元成形し、アクリル樹脂（パラロイドB72、アセトン希釈）とマイクロバルーン及び顔料（個体の基本色）を混合したものを使用して、仕上げの充填成形を行う。復元形状は残存部分を参考にする。4. 修理部分に、違和感がない様にアクリル絵具で補彩を施す。5. 元の収納箱に納入する。6. 損傷状況、処置内容、使用材料、新知見、画像等を記載した修理報告書作成する。		

22 名称	浅鉢形土器（あさばちがたどき）	員数	1点
時代	縄文時代・5000年前～4000年前	寸法等	最大径57.0cm 底部径10.5cm 内面段部径39.5cm 高24.0cm
品質	土製	施工会社	株式会社芸匠
修理内容	1. 過去の修理の補填材や接着剤をデザインカッターやリュウターなどを用いた機械的方法、あるいはアセトンなどの溶剤を使用して取り除き解体する。状況によっては完全に解体できない可能性も考えられる。次に、接合面などのクリーニングを行う。2. 破断面にアクリル樹脂（パラロイドB72、アセトン希釈：5%程度）を塗布し、樹脂による破断面の保護と強化を行う。表面も必要に応じて樹脂強化を行うが、その際は表面の光沢を出来る限り抑える様に注意する。3. エポキシ系接着剤（ハイスーパー5）で破片を大まかに接合後、隙間や欠損部分をエポキシ樹脂（主剤：アラルダイトXNR - 6504、硬化剤：XNH-6504）を用いて形状を復元成形し、アクリル樹脂（パラロイドB72、アセトン希釈）とマイクロバルーン及び顔料（個体の基本色）を混合した接着剤を使用して、仕上げの充填成形を行う。復元形状は残存部分を参考にする。4. 修理部分に、違和感がない様にアクリル絵具で補彩を施す。5. 元の保存箱に納入する。6. 損傷状況、処置内容、使用材料、新知見、画像等を記載した修理報告書作成する。		

23 名称	腰飾（こしかざり）	員数	1点
時代	縄文時代・3000年前～2300年前	寸法等	縦15.5cm 横10.0cm 高2.0cm
品質	土製	施工会社	株式会社芸匠
修理内容	1. 過去の修理の補填材や接着剤をデザインカッターやリュウターなどを用いた機械的方法、あるいはアセトンなどの溶剤を使用して取り除き解体する。次に、接合面などのクリーニングを行う。2. 破断面にアクリル樹脂（パラロイドB72、アセトン希釈：5%程度）を塗布し、樹脂による破断面の保護と強化を行う。表面も必要に応じて樹脂強化を行うが、その際は表面の光沢を出来る限り抑える様に注意する。3. エポキシ系接着剤（ハイスーパー5）で破片を大まかに接合後、隙間や欠損部分をエポキシ樹脂（主剤：アラルダイトXNR - 6504、硬化剤：XNH-6504）を用いて形状を復元成形し、アクリル樹脂（パラロイドB72、アセトン希釈）とマイクロバルーン及び顔料（個体の基本色）を混合した接着剤を使用して、仕上げの充填成形を行う。復元形状は残存部分を参考にする。4. 修理部分に、違和感がない様にアクリル絵具で補彩を施す。5. 元の収納箱に納入する。6. 損傷状況、処置内容、使用材料、新知見、画像等を記載した修理報告書作成する。		

24 名称	腰飾（こしかざり）	員数	1点
時代	縄文時代・3000年前～2300年前	寸法等	縦6.9cm 横3.3cm 高1.4cm
品質	土製	施工会社	株式会社芸匠
修理内容	1. 綿棒やブラシ等で、そのままもしくはアセトン等の溶剤を用いクリーニングを行う。2. 破断面にアクリル樹脂（パラロイドB72、アセトン希釈：5%程度）を塗布し、樹脂による破断面の保護と強化を行う。表面も必要に応じて樹脂強化を行うが、その際は表面の光沢を出来る限り抑える様に注意する。3. 破断面にエポキシ樹脂（主剤：アラルダイトXNR - 6504、硬化剤：XNH-6504）を用いて形状を復元成形し、アクリル樹脂（パラロイドB72、アセトン希釈）とマイクロバルーン及び顔料（個体の基本色）を混合したものを使用して、仕上げの充填成形を行う。復元形状は残存部分を参考にする。4. 修理部分に、違和感がない様にアクリル絵具で補彩を施す。5. 元の収納箱に納入する。6. 損傷状況、処置内容、使用材料、新知見、画像等を記載した修理報告書作成する。		

25 名称	鍍金鳥形鎮子（ときんとりがたちんし）	員数	2個
時代	中国 前漢時代・紀元前2世紀-紀元前1世紀	寸法等	1：奥行7.5cm 幅5.9cm 高5.0cm 2：奥行6.8cm 幅5.0cm 高4.7cm
品質	土製焼成（埴製）	施工会社	株式会社芸匠
修理内容	1.刷毛等を用いて、慎重に表面に付着している砂土などを除去する。有機溶剤（エタノール、キシレン、酢酸エチル混合液）を用い、表面の汚れを除去する。2.鍍金部分はアクリル樹脂（TOA インクラック等）を塗布し、保護措置を行う。3.純水を定期的に交換しながら、採取した水の陰イオンがイオンメータで測定し0ppmに近くなるまで脱塩処理を行う（実施については協議・検討する）。4.ベンゾトリアゾールのエタノール溶液に含浸し防錆処置を行う。含浸後は十分に乾燥させる。常圧含浸、乾燥作業を繰り返す。含浸後、光沢を調整する。5.脱塩後に発生した錆等のクリーニング作業を行う。6.アクリル樹脂（TOA インクラック等）を含浸させる。含浸後十分に乾燥する。7.亀裂箇所をアクリル樹脂（パロロイドB72等）で充填補強後、エポキシ樹脂の充填を行う。8.違和感がないように、修理箇所にあクリル絵具で補彩を施す。9.元の収納箱に納入する。10.損傷状況、処置内容、使用材料、新知見、画像等を記載した修理報告書を作成する。		

26 名称	三角形土版（さんかっけいどばん）	員数	1点
時代	縄文時代・5000年前～4000年前	寸法等	縦5.2cm 横4.7cm 高2.5cm
品質	土製	施工会社	株式会社芸匠
修理内容	1.綿棒やブラシ等で、そのままもしくはアセトン等の溶剤を用いクリーニングを行う。2.破断面にアクリル樹脂（パロロイドB72、アセトン希釈：5%程度）を塗布し、樹脂による破断面の保護と強化を行う。3.破断面にエポキシ樹脂（主剤：アラルダイトXNR-6504、硬化剤：XNH-6504）を用いて形状を復元成形し、アクリル樹脂（パロロイドB72、アセトン希釈）とマイクロバルーン及び顔料（個体の基本色）を混合したものを使用して、仕上げの充填成形を行う。復元形状は残存部分を参考にする。4.修理部分に、違和感がない様にアクリル絵具で補彩色を施す。5.元の収納箱に納入する。6.損傷状況、処置内容、使用材料、新知見、画像等を記載した修理報告書を作成する。		

<民俗資料> (2件)

27 名称	龍神図（りゅうじんず）	員数	1点
時代	19～20世紀	寸法等	縦66.8cm 横45.5cm
品質	紙本着色	施工会社	修理工房 宰匠株式会社
修理内容	1.墨・絵具層の剥落止め、強化を膠水溶液にて行う。2.濾過水（オルガノ製活性炭及びコットンフィルターを使用し、水道水中のゴミや塩素・鉄分を取り除いた水）を表面から噴霧し、本紙下に敷いた吸収紙に汚れを移動させる方法で本紙のクリーニングを行う。3.汚れの除去後、再度膠水溶液にて絵具層の剥落止めを行う。4.裏面からの最小限の湿りにて旧肌裏紙を全て除去する。5.本紙の色調に合わせた染薄美濃紙にて新糊を用いて、新たに肌裏を打つ。6.美濃紙にて古糊を用い、増裏を打つ。7.折れ箇所及び今後折れが発生すると思われる箇所に、美濃紙にて新糊を用いて折れ伏せを施す。8.表装裂地を新調し、肌裏打ちと増裏打ちを行う。9.本紙と表装裂地とを掛軸装の形に付け廻しする。10.美濃紙に古糊を用いて中裏打ちを行い、仮張りをする。11.宇陀紙に古糊を用いて総裏打ちを行い、仮張りして十分に乾燥する。12.補修を施した箇所に本紙基調色にて補彩を施す。13.新調した軸首・上下軸木・啄木・吊環等を取り付け、掛軸装に仕立てる。14.桐太巻添軸・桐印籠箱を新調し、本紙を包装に包んで納入する。15.損傷状況、処置内容、使用材料、新知見、画像等を記載した修理報告書を作成する。		

28 名称	土瓶（どびん）	員数	1点
時代	19世紀	寸法等	蓋：高2.6cm 径14.7cm 身：高22.2cm 口径13.2cm 幅22.6cm
品質	粘土	施工会社	株式会社芸匠
修理内容	1.過去の修理の補填材や接着剤をデザインカッターやリユウターなどを用いた機械的方法、あるいはアセトンなどの溶剤を使用して取り除き解体する。状況によっては完全に解体できない可能性も考えられる。次に、接合面などのクリーニングを行う。2.破断面にアクリル樹脂（パロロイドB72、アセトン希釈：5%程度）を塗布し、樹脂による破断面の保護と強化を行う。3.エポキシ系接着剤（ハイスパー5）で破片をだまかに接合後、隙間や欠損部分をエポキシ樹脂（主剤：アラルダイトXNR-6504、硬化剤：XNH-6504）を用いて形状を復元成形し、アクリル樹脂（パロロイドB72、アセトン希釈）とマイクロバルーン及び顔料（個体の基本色）を混合した接着剤を使用して、仕上げの充填成形を行う。復元形状は残存部分を参考にする。4.修理部分に、違和感がない様にアクリル絵具で補彩を施す。5.元の収納箱に納入する。6.損傷状況、処置内容、使用材料、新知見、画像等を記載した修理報告書を作成する。		

<歴史資料> (3件)

29 名称	重要文化財 対馬宗家関係資料 （つしまそうけかんけいしりょう）	員数	19箱1～7巻
時代	江戸時代・18世紀	寸法等	本紙 縦18.0-34.5 cm 横45.5-56.9 cm
品質	紙本着書	施工会社	修理工房 宰匠株式会社
修理内容	1.解体 本紙や装丁状況を観察し、寸法、損傷状態を写真や記録に詳細に留め、紙質検査や本紙のあらゆる情報について記録を行った後、本紙に負担が掛からないように卷子装を解体する。2.洗浄 筆や刷毛などによるドライクリーニングを行う。本紙下に吸収紙を敷き、濾過水を画面表面に噴霧し、汚れを吸収紙に移動させる方法にて汚れの除去を行う。その際、現状の作品の風合いを損なわないようにするため、以降の作業において抱えている汚れにより染みや際付きを起こさないことを前提として、過剰なクリーニングは行わず、必要最小限の水の量によるクリーニングに留めることとする。3.強化・整形（剥落止め） 墨の膠着力のテストを行い、必要に応じて免膠水溶液1～2%を用いて剥落止めを行う。都度効果を確認し、必要に応じて繰り返し行う。膠水溶液を塗布する際にもその墨は必要最低限に留め、膠による光沢などが出ないように細心の注意を払う。4.解体 必要最小限の湿りを与え、裏打紙を除去する。5.補填 本紙の紙質、状態に合わせた補修紙を作製し本紙欠失箇所に補修を行う。補修紙の作製はDIIPS法にて作製する。6.強化・整形（裏打ち） 薄美濃紙にて、自社で炊いた小麦澱粉糊（新糊）を用いて新たに肌裏打ちを行う。7.接合・組立 肌裏打ち後、本紙の厚みや硬さが異なり、厚み調整が必要な場合は美濃紙にて古糊を用いて増裏打ちを行う。折れの発生していた箇所及び今後折れが発生する可能性がある箇所に、薄美濃紙にて新糊を用いて折れ伏せを施す。樁と雁皮の混合紙を用い新糊と布海苔の混合糊を用いて総裏打ちを行い、仮張りし十分に乾燥させる。復元新調した表紙裂地は薄美濃紙にて新糊を用いて肌裏打ちを行った後、仮張り後、新糊と布海苔の混合糊を用いて表紙裂と見返し（再使用）を貼り合わせる。元の通り継ぎ合わせた本紙と表紙見返しを継ぎ合わせ、再使用した軸首・八双・中軸・紐等を取り付けて卷子装に仕立てる。8.収納等。今後の新たな折れや損傷の進行を防ぐために、桐太巻添軸を新調して卷子を太く巻き、新調したウコン染めの包装に本紙を包み、保存する。元年度は巻5～7の3巻を施工。（30年度より、2か年継続事業）。		

30 名 称	広開土王碑拓本（こうかいどおうひたくほん）	員 数	4面
時 代	（採拓）昭和9年頃（1934年） （原碑）朝鮮・三国時代・414年	寸 法 等	第1面：上半分縦264.3cm 横148.0cm 下半分縦275.0cm 横145.0cm 第2面：縦528.0cm 横122.0cm 第3面：縦532.0cm 横178.0cm 第4面：縦530.0cm 横120.0cm
品 質	拓本 折り畳み	施工会社	修理工房 宰匠株式会社
修理内容	<p>1.解体 本紙を観察し、寸法、損傷状態を写真や記録に詳細に留め、紙質検査紙のあらゆる情報について記録を行う。2.強化・整形（剥落止め） 膠着力の低下や、表面の擦れにより不安定になっている墨に、免膠水溶液1~2%を用いて剥落止めを行う。膠水溶液を塗布する際、その量は必要最小限に留め、膠による光沢などが出ないように細心の注意を払い行う。3.洗浄 筆や刷毛などによるドライクリーニングを行う。その後、本紙下に吸取紙を敷き、濾過水（水道水をポリプロピレン及び活性炭フィルターに通し、水道水中の細かなゴミや塩素・鉄分を取り除いた水。以下同）を画面表面に噴霧し、汚れを吸取紙に移動させる方法にて汚れの除去を行う。その際、現状の作品の風合いを損なわないようにするため、過剰なクリーニングは行わず、以降の作業において抱えている汚れによりシミや際付きを起こさないことを前提とする。4.強化・整形（剥落止め） 再度、墨に免膠水溶液1~2%を用い、剥落止めを行う。5.補填（補修） 本紙と同質の繊維による補修紙を準備・調整し、小麦澱粉糊（新糊）を用いて欠失箇所の補修を行う。また、補修紙を用いて本紙の四方周囲に足し紙をする。補修紙は、本紙と補修紙の重なりによる凹凸が最小限になるように補修紙の糊代部分を削り、補修を行う。また、料紙の継ぎ及び旧補填箇所の重なりも最小限になるよう極力削り、平滑にする。6.強化・整形 本紙の色調に合わせ天然染料にて染色した薄美濃紙にて、新糊を用いて新たに肌裏打ちを行う。7.接合・組立 肌裏打ち後、美洒紙にて古糊（新糊を10年程度涼暗所で保管した糊）を用いて増裏打ちを行う。増裏打ち後、折れの発生していた箇所及び今後折れが発生する恐れがある箇所に、薄美濃紙にて新糊を用いて折れ伏せを施す。折れ伏せ後、もう一層増裏打ちを行う。表装裂地を新調し、薄美濃紙にて新糊を用いて肌裏打ちを行った後、美洒紙にて古糊を用いて増裏打ちを行う。仮張り後、新糊と古糊の混合糊を用いて本紙と裂を付け直し、袋表装の形に仕立てる。8.強化・整形 本紙と裂の付け直し後、掛軸装全体のバランスを整えるために、美洒紙にて古糊を用いて中裏打ちを2層行う。中裏打ち後、宇陀紙を用い、古糊にて総裏打ちを行う。9.接合・組立 軸首、上下軸木、啄木、打込銀等を新調し、掛軸装に仕立てる。10.収納等 新調した4幅入り中性紙箱に納入する。元年度は第2面を施工（30年度より、4か年継続事業）。</p>		

31 名 称	小早川隆景書状（こばやかわたかかげしょじょう）	員 数	1幅
時 代	室町時代・永禄12年（1569）	寸 法 等	本紙（前半部分）：縦13.0cm 横39.0cm 本紙（後半部分）：縦13.0cm 横38.6cm 表装：縦146.5cm 横58.0cm 軸長63.5cm
品 質	紙本墨書 掛幅装	施工会社	修理工房 宰匠株式会社
修理内容	<p>1.墨の剥落止め、強化を膠水溶液にて行う。2.上下軸木を取り外し、表装の解体を行う。3.濾過水（オルガノ製活性炭及びコットンフィルターを使用し、水道水中のゴミや塩素・鉄分を取り除いた水）を用い、本紙のクリーニングを行う。4.汚れの除去後、再度墨書の剥落止めを行う。5.裏面からの最小限の湿りにて旧肌裏紙を除去する。6.本紙と同質の補修紙を作成し、本紙裏面より損傷箇所の補修を行う。7.表向きに変更されている本紙部分を元の形に戻し、本紙を続紙の状態に継ぎ合わせて仕上げる。8.仮巻芯、桐印籠箱を新調し本紙を納入する。8.損傷状況、仮置内容、使用材料、新知見、画像等を記載した修理報告書を作成する。</p>		

1-(1)-③-6 文化財修理データのデータベース化件数

令和2年3月31日現在

	計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館
合計	264	19	171 (5,337)	74 (1,020)
絵画	125	4	87 (2,214)	34 (358)
書跡	45	1	38 (1,197)	6 (203)
彫刻	43	0	19 (1,384)	24 (289)
建築	0	0	0 (15)	0 (1)
金工	0	0	0 (2)	0 (4)
刀剣	102	0	-	0 (0)
陶磁	0	0	0 (1)	0 (0)
漆工	8	0	0 (39)	8 (109)
染織	9	3	4 (194)	2 (21)
考古	6	5	1 (16)	0 (0)
民族資料	2	1	1 (5)	0 (2)
歴史資料	18	0	18 (227)	0 (31)
和書	1	1	0 (0)	0 (0)
写真資料	33	0	-	0 (0)
その他	3	0	3 (43)	0 (2)
東洋	絵画	0	/	/
	書跡	0		
	彫刻	0		
	金工	1		
	陶磁	0		
	漆工	1		
	染織	0		
	考古	0		
民族	2	2		
法隆寺献納宝物	0	0		
黒田記念館収蔵品	0	0		
館史資料(収蔵品外)	2	2		

※ 東京国立博物館は、列品管理規程による「旧東洋課所掌分」あり。

※ 記載の件数は当年度新規入力件数、（ ）内は当年度までの新規入力件数の累計。

※ 京都国立博物館の（ ）内の記載については、24年度統計表まで、追加・更新件数を含む当年度のデータ入力の件数を記載していたが、25年度以降上記に統一している。

1-(2) 展覧事業

1-(2)-① 平常展

1-(2)-② 特別展等

1-(2)-①・②-1 来館者数推移（入館料別）（過去5か年（後述の資料に記載） ◎共通資料a-①

1-(2)-①・②-2 来館者数推移（展覧会別）（過去5か年（後述の資料に記載） ◎共通資料a-②

1-(2)-①・②-3 平常展・特別展・海外展（後述の資料に記載） ◎共通資料a-③

1-(2)-①-4 平常展の展示替件数（後述の資料に記載） ◎共通資料a-③

1-(2)-①-5 平常展の展示総件数（後述の資料に記載） ◎共通資料a-③

1-(2)-①-6 平常展来館者アンケート（後述の資料に記載） ◎共通資料e

1-(2)-②-7 特別展来館者アンケート（後述の資料に記載） ◎共通資料e

1-(2)-③ 観覧環境の向上等

1-(2)-③-1 観覧環境に関する来館者アンケート（後述の資料に記載） ◎共通資料e

1-(2)-③-2 多言語表記に関する外国人アンケート（後述の資料に記載） ◎共通資料e

1-(2)-③-3 バリアフリー施設・設備の設置状況

令和2年3月31日現在

	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
トイレ(多目的トイレ、車いす対応)	14か所 (本館5、平成館2、東洋館1、法隆寺宝物館1、資料館1、黒田記念館2、表慶館2(要介添え))	8か所 (平成知新館4、明治古都館1、南門施設1(乳児ベッド併設)、屋外トイレ1、文化財保存修理所1)	3か所 (東新館1、地下回廊2)	9か所 (本体建物6、屋外3)
エレベータ(手すり、押しボタン、車いす対応)	10基 (本館1、平成館1、東洋館4、法隆寺宝物館1、黒田記念館2、表慶館1)	6基 (平成知新館4、東収蔵庫1) 昇降装置1基 (旧管理棟1)	4基 (なら仏像館1、なら仏像館附属棟1、東新館1、西新館1)	2基 (本体建物)
スロープ	5か所 (本館、東洋館、法隆寺宝物館、表慶館、黒田記念館)	4か所 (平成知新館1、明治古都館1、南門施設1、文化財保存修理所1)	3か所 (なら仏像館1、なら仏像館附属棟1、西新館1)	1か所 (通用口)
ハンディキャップ優先駐車	2台	3台	2台	23台
車椅子	28台 (正門・正門プラザ4、本館4、東洋館2、平成館15、法隆寺宝物館2、資料館1)	13台 (検札4、平成知新館7、倉庫保管2)	16台	28台
乳幼児用設備	○ベビーカー 2台 ○ベビーシート 15か所 ○ベビーチェア 12か所 ○授乳室 1か所	○ベビーカー 8台 ○ベビーシート 12か所 ○ベビーチェア 11か所 ○授乳室 2か所	○ベビーシート 2か所 ○ベビーキープ 1か所 ○おむつ交換台 1か所	○ベビーカー 10台 ○ベビーシート 15か所 ○ベビーチェア 6か所 ○幼児用補助便座 6か所 ○授乳室 1か所
自動扉	61台(多目的トイレ含む)	33台(多目的トイレ含む)	13台	19台(多目的トイレ含む)
元年度整備事項	平成館和式便器を洋式便器(温水洗浄便座付)に更新した。		地図やビクトグラム等を利用して館外誘導サインをよりわかりやすい内容に更新した。また、あわせて4言語(日・英・中・韓)による表記を進めた。	ビクトグラムやユニバーサルデザインを取り入れた外国人や障がい者にもわかりやすい館内案内看板を作成した。また、以前より要望があった繫体字を追加した5言語(日・英・中(簡・繁)・韓)表記とした。

1-(2)-③-4 音声ガイド実施状況

令和2年3月31日現在

東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
元年度計(台) :	334,164台	元年度計(台) :	50,191台	元年度計(台) :	67,512台	元年度計(台) :	69,176台
・特別展「御即位30年記念「両陛下と文化交流—日本美を伝える—」(31.4.2~4.29)」	7,977台	・時宗二祖上人七百年御遠忌記念特別展「国宝—運聖絵と時宗の名宝」(日、英、中、韓)	7,298台	・特別展「国宝の殿堂 藤田美術館展—曜変天目茶碗と仏教美術のきらめき—」	16,003台	・特別展「京都 大報恩寺 快慶・定慶のみほとけ」	6,587台
・特別展「国宝 東寺—空海と仏像變茶羅」(31.4.1~6.2)」	107,598台	うち日本語版	5,717台	うち日本語版	14,633台	うち日本語版	6,433台
特別展「美を紡ぐ 日本美術の名品—雪舟、永徳から光琳、北斎まで—」	14,871台	うち英語版	312台	うち英語版	157台	うち英語版	39台
特別展「三国志」	91,321台	うち中国語版	1,204台	うち中国語版	1,191台	うち中国語版	90台
御即位記念特別展「正倉院の世界—皇室がまもり伝えた美—」	82,352台	うち韓国語版	65台	うち韓国語版	22台	うち韓国語版	25台
特別展「人、神、自然—ザ・アール・サーニ・コレクションの名品が語る古代世界—」	-	・特別展「流転100年 佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」(日、英、中、韓)	27,385台	・「御即位記念 第71回正倉院展」	43,746台	・特別展「室町將軍—戦乱と美の足利十五代—」	17,624台
日本書紀成立1300年 特別展「出雲と大和」	30,045台	うち日本語版	25,637台	うち日本語版・一般向け	40,243台	うち日本語版	17,362台
		うち英語版	433台	うち日本語版・子供向け(東大寺博士版)	1,217台	うち英語版	83台
		うち中国語版	1,267台	うち英語版・一般向け	224台	うち中国語版	150台
		うち韓国語版	48台	うち中国語版・一般向け	2,020台	うち韓国語版	29台
(参考) 30年度ダウンロード件数		名品ギャラリー(平常展)	15,508台	うち韓国語版・一般向け	42台	・日中文化交流協定締結40周年記念特別展「三国志」	29,536台
・「トーハクナビ」		うち日本語版	6,463台	特別展「毘沙門天—北方鎮護のカミ—」	1,921台	うち日本語版	24,840台
Android版	4,080件	うち英語版	877台	うち日本語版	1,838台	うち英語版	133台
iOS版	12,953件	うち中国語版	8,011台	うち英語版	21台	うち中国語版	348台
アプリ端末貸出(日英)	12,307件	うち韓国語版	157台	うち中国語版	62台	うち韓国語版	41台
音声ガイド貸出(中韓)	18,655件			うち韓国語版	0台	うちコーエー版	4,174台
・「法隆寺宝物館30分ナビ」iOSアプリ	0件			・なら仏像館名品展	5,842台	・特別展「ルネユイグのまなざし フランス絵画の精華—大様式の形成と変容—」	6,239台
				うち日本語版	2,687台	うち日本語版	6,179台
				うち英語版	490台	うち英語版	24台
				うち中国語版	2,634台	うち中国語版	24台
				うち韓国語版	31台	うち韓国語版	12台
						・文化交流展示	9,190台
						うち日本語版	1,796台
						うち英語版	2,447台
						うち中国語版	3,197台
						うち韓国語版	1,750台

1-(2)-③-5 展示テーマ毎にその時代背景等を説明した外国語パネル等の設置

令和2年3月31日現在

東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
100%	100%	100%	100%
137件(外国語)	50件(外国語)	93件(外国語)	172件(外国語)
137件(日本語)	50件(日本語)	93件(日本語)	172件(日本語)

パネル等（パネルと同内容の配布資料・音声ガイドを含む）

【東京国立博物館】計137件(外国語)/137件(日本語)

- ・総合文化展（特集を除く） 99件(外国語) / 99件(日本語) 含国宝室
- ・特集 28件(外国語) / 28件(日本語)
- ・黒田記念館 10件(外国語) / 10件(日本語)

【京都国立博物館】計50件(外国語)/ 50件(日本語)

- ・名品ギャラリー（特集展示等を除く） 31件(外国語) / 31件(日本語)
- ・特集展示「新収品展」 1件(外国語) / 1件(日本語)
- ・特集展示「赤ってじつはどんな色？」 1件(外国語) / 1件(日本語)
- ・ICOM京都大会開催記念特別企画「京博寄託の名宝」 13件(外国語) / 13件(日本語)
- ・特集展示「子づくし—干支を愛でる—」 1件(外国語) / 1件(日本語)
- ・特集展示「神像と獅子・狛犬」 1件(外国語) / 1件(日本語)
- ・特集展示「京都御所障壁画 紫宸殿」 1件(外国語) / 1件(日本語)
- ・特集展示「雛まつりと人形」 1件(外国語) / 1件(日本語)

※26年9月より導入した4言語（日・英・中・韓）の音声ガイドを引き続き提供した。

【奈良国立博物館】計93件(外国語)/93件(日本語)

- ・名品展（珠玉の仏たち） 7件(外国語) / 7件(日本語) *1, *2
- ・名品展（珠玉の仏教美術） 4件(外国語) / 4件(日本語) *2
- ・名品展（青銅器館） 12件(外国語) / 12件(日本語)
- ・わくわくびじゅつギャラリー「いのりの世界のどうぶつえん」 11件(外国語) / 11件(日本語) *2
- ・特別陳列「法徳寺の仏像—近代を旅した仏たち—」 1件(外国語) / 1件(日本語) *2
- ・特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」 5件(外国語) / 5件(日本語) *2
- ・特別陳列「重要文化財 法隆寺金堂壁画写真ガラス原板—文化財写真の軌跡—」 8件(外国語) / 8件(日本語) *2
- ・特集展示「新たに修理された文化財」 9件(外国語) / 9件(日本語) *2(一部)
- ・特別陳列「お水取り」 3件(外国語) / 3件(日本語) *2
- ・模型展示「仏像の手の形（印相）」 9件(外国語) / 9件(日本語)
- ・模型展示「仏像の制作過程」 14件(外国語) / 14件(日本語)
- ・パネル展示「奈良国立博物館の概要」 3件(外国語) / 3件(日本語) *3
- ・パネル展示「奈良国立博物館の歴史」 3件(外国語) / 3件(日本語) *3
- ・パネル展示「仏像の見方」 4件(外国語) / 4件(日本語) *3

*1 28年4月よりなら仏像館において3言語（英・中・韓）の音声ガイドを提供。29年10月より日本語音声ガイドを追加提供した。

*2 日・英・中・韓の4言語を併記

*3 日・英・仏・中・韓の5言語を併記

【九州国立博物館】計 172 件(外国語)/ 172 件(日本語)

- ・文化交流展示（特集展示を除く） 131件(外国語)/131件(日本語)
- ・文化交流展示 特集展示等 41件(外国語)/ 41件(日本語)
 - うち「館蔵名品展 更紗 生命の花咲く布」 7件(外国語)/ 7件(日本語)
 - 「住友財団修復助成 30年記念 文化財よ、永遠に」 5件(外国語)/ 5件(日本語)
 - 「版経東漸～対馬がつなぐ仏の教え～」 4件(外国語)/ 4件(日本語)
 - 「縄文王国やまなし」 12件(外国語)/ 12件(日本語)
 - 「新春特別公開 徳川美術館所蔵 国宝 初音の調度」 7件(外国語)/ 7件(日本語)
 - 「刀剣ことはじめ —刀剣ワールド財団と九博の名刀—」 6件(外国語)/ 6件(日本語)
- ・4言語（日・英・中・韓）音声ガイドを提供した。

1-(3) 教育・普及活動等

1-(3)-① 教育活動の充実

1-(3)-①-1 学習機会の提供（過去5か年）

令和2年3月31日現在

	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
○講演会等の回数					
東京国立博物館					
講演会等 実施回数	146回	160回	125回	93回	97回
講演会等 参加者数	18,080人	21,453人	21,692人	12,206人	11,691人
①講演会	23回	32回	26回	23回	20回
	6,023人	9,153人	6,999人	6,249人	6,051人
アンケート結果	89.00%	88.00%	88.09%	86.16%	84.89%
(内訳)					
・月例講演会等	12回	12回	12回	12回	10回
	2,369人	2,793人	2,716人	2,822人	2,630人
アンケート結果	94.00%	88.80%	89.57%	89.57%	84.75%
・記念講演会	9回	14回	7回	7回	7回
	3,005人	5,048人	2,589人	2,189人	2,591人
アンケート結果	93.00%	83.00%	84.45%	85.24%	84.19%
・シンポジウム	1回	2回(3日)	3回	1回	2回
	284人	579人	920人	250人	575人
アンケート結果	1	—	83%	—	—
・テーマ別講演会	1回	1回	0回	3回	1回
	365人	210人	0人	988人	255人
アンケート結果	86.00%	94.00%	—	84.20%	93.46%
・その他講演会	0回	3回	4回	0回	0回
	0人	523人	774人	0人	0人
アンケート結果	0.00%	92.00%	—	—	—
②列品解説（ギャラリートーク等）	120回	125回	96回	64回	71回
	11,669人	11,123人	14,026人	5,108人	4,791人
③連続講座	1回(3日)	1回(3日)	1回(2日)	1回(2日)	1回(2日)
	352人	947人	551人	728人	645人
アンケート結果	97.00%	96.80%	89.00%	88.50%	92.93%
④公開講座	2回	2回	2回	5回	5回
	36人	230人	116人	121人	204人
アンケート結果	98.00%	100.00%	96.49%	100.00%	100.00%
京都国立博物館					
講演会等 実施回数	39回	45回	32回	37回	28回
講演会等 参加者数	4,845人	5,132人	4,014人	4,357人	3,285人
①土曜講座	32回	38回	22回	19回	13回
	3,721人	4,123人	2,433人	1,969人	1,211人
アンケート結果	83%	82%	83%	80%	85%
②記念講演会	1回	1回	4回	12回	9回
	200人	190人	800人	1,884人	1,465人
アンケート結果	—	—	86%	80%	81%
③夏期講座	1回(3日)	1回(3日)	1回(2日)	1回(2日)	1回(2日)
	206人	210人	212人	198人	201人
アンケート結果	80%	94%	90%	90%	78%
④社会科教員のための向上講座	1回	1回	1回	1回	1回
	91人	69人	49人	39人	50人
⑤ギャラリートーク・シンポジウム等	4回	4回	4回	4回	3回
	627人	540人	520人	267人	358人
奈良国立博物館					
講演会等 実施回数	28回	26回	26回	27回	25回
講演会等 参加者数	3,974人	3,518人	3,437人	3,569人	3,261人
①特別展等講座	15回	13回	13回	14回	13回
	2,123人	1,972人	2,141人	1,853人	1,838人
アンケート結果	79%	87%	91%	88%	92%
②夏季講座	1回(3日)	1回(3日)	1回(3日)	1回(3日)	1回(3日)
	609人	555人	525人	478人	386人
アンケート結果	95%	89%	91%	95%	94%
③サントーク	12回	12回	12回	12回	11回
	1,242人	991人	771人	1,238人	1,037人
アンケート結果	85%	88%	87%	88%	92%
九州国立博物館					
講演会等 実施回数	87回	77回	84回	80回	69回
講演会等 参加者数	6,212人	5,369人	6,024人	4,491人	4,862人
①特別展記念講演会	3回	3回	2回	2回	6回
	710人	675人	359人	150人	1,336人
アンケート結果	—	—	—	—	—
②講演及びシンポジウム	38回	25回	26回	16回	16回
	4,096人	3,293人	3,521人	2,166人	2,033人
アンケート結果	—	—	—	—	—
③ミュージアムトーク	46回	49回	56回	62回	47回
	1,406人	1,401人	2,144人	2,175人	1,493人
○キャンパスメンバーズ					
東京国立博物館	48校	52校	53校	56校	60校
京都国立博物館	29校	27校	29校	32校	32校
奈良国立博物館	27校	25校	27校	29校	27校
九州国立博物館	25校	25校	25校	23校	23校

1-(3)-①-2 講座・講演会等の開催実績

	東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
	回数計	97回	回数計	28回	回数計	25回	回数計	69回
回数・人数※1	参加者計	11,691人	参加者計	3,285人	参加者計	3,261人	参加者計	4,862人
	講演会	20回 6,051人	土曜講座	13回 1,211人	特別展等講座	15回 1,838人	特別展記念講演会	6回 1,336人
	列品解説 (ギャラリー・トーク等)	71回 4,791人	記念講演会	9回 1,465人	夏季講座	1回 386人	講演及びシンポジウム	16回 2,033人
	連続講座 (2日間)	1回 645人	夏期講座 (2日間)	1回 201人	サンデートーク	11回 1,037人	ミュージアムトーク	47回 1,493人
	公開講座	5回 204人	社会科教員のための向上講座	1回 50人				
			セミナー・シンポジウム等	3回 358人				
	その他展示に関連するイベント	52回 12,604人	その他展示に関連するイベント	— —	その他展示に関連するイベント	15回 1,073人	その他展示に関連するイベント	31回 14,615人

※1実施事業のうち、参加者数をカウントしていない、又は当該事業を実施した建物の入館者数のみ把握しているものについては、合計値に参加者数を計上していない。(実施回数は計上している。)

【東京国立博物館】

1) 講演会	20回	6,051人
①月例講演会	10回	2,630人

	開催日	テーマ	講師等	参加者数	“良い”の割合
1	4月6日	国宝「花下遊楽図屏風」を読み解く	高橋真作(絵画・彫刻室研究員)	324人	87.59%
2	5月25日	密教の仏たち	西木政統(貸与特別観覧室研究員)	392人	87.18%
3	6月22日	日本のよらい	佐藤寛介(工芸室研究員)	250人	93.75%
4	7月20日	東洋館で「三国志の時代」を考える	谷豊信(特任研究員)	379人	89.54%
5	8月24日	文殊菩薩と春日若宮の美術	増田政史(絵画・彫刻室研究員)	313人	79.14%
6	9月28日	アジア美術に見える愛の表現	勝木言一郎(東洋室長)	218人	84.80%
7	10月5日	焼き締め茶陶の美	横山梓(保存修復室研究員)	174人	82.80%
8	11月30日	江戸時代の美術に見る東西交流	鷲頭桂(絵画・彫刻室主任研究員)	193人	77.64%
9	12月14日	日本における中国書画の愛好	六人部克典(登録室研究員)	156人	60.50%
10	1月11日	能面の造形と魅力	川岸瀬里(教育普及室研究員)	231人	89.57%

※11、12は新型コロナウイルス感染予防・拡散防止のため中止。

11	2月22日	東アジアの宮廷文化	猪熊兼樹(特別展室長)	0人	0.00%
12	3月7日	装飾古墳の人類史	河野一隆(調査研究課長)	0人	0.00%

②記念講演会

7回 2,591人

	開催日	テーマ	講師等	参加者数	“良い”の割合
1	4月27日	東寺の歴史と真言密教の至宝	新見康子(東寺文化財保護課長)	372人	86.75%
2	5月11日	東寺と仏像曼荼羅	丸山士郎(広報室長)	380人	78.89%
3	7月13日	リアル三国志の世界	市元壘(東洋室主任研究員)	353人	81.52%
4	7月27日	三国志から見た邪馬台国	渡邊義浩(早稲田大学理事・文学部教授、大隈記念早稲田佐賀学園理事長)	384人	89.47%
5	10月20日	正倉院をまもる	西川明彦(宮内庁正倉院事務所長)	364人	91.94%
6	11月17日	正倉院宝物研究の最前線	猪熊兼樹(特別展室長) 三田覚之(工芸室研究員)	347人	88.20%
7	1月18日	古代の出雲と大和ー「日本書紀」成立1300年	佐藤信(東京大学名誉教授)	391人	73.37%

※8、9は新型コロナウイルス感染予防・拡散防止のため中止。

8	3月21日	法隆寺金堂壁画と写した人々	瀬谷愛(保存修復室長)	0人	0.00%
9	3月28日	百済観音の世界	三田覚之(工芸室研究員)	0人	0.00%

③シンポジウム

2回 575人

	開催日	テーマ	講師等	参加者数	“良い”の割合
1	10月19日	文化財よ、永遠に—文化財修理の最前線	司会・MC：今津節生（奈良大学文学部文化財学科教授） 講師：三輪嘉六（前九州国立博物館館長）、根立研介（京都大学文学研究科教授）、有賀祥隆（東京藝術大学客員教授）、陰山修（公益財団法人美術院所長）、半田昌規（株式会社半田九清堂代表取締役社長）、小松大秀（公益財団法人永青文庫館長）、室瀬和美（漆芸家・重要無形文化財保持者）、ウエダ・ターニャ（ボストン美術館修復士）	261人	92.92%
2	2月1日	国際シンポジウム 展示室で語る「日本美術」		314人	-

④テーマ別講演会

1回 255人

	実施日	テーマ	講師等	参加者数	“良い”の割合
1	2月8日	連携講演会「文徳明とその時代」	鍋島稲子（台東区立書道博物館主任研究員）、富田淳（学芸企画部長）	255人	93.46%

⑤その他講演会

0人

2) 列品解説（ギャラリートーク等） 71回 4,791人

①ギャラリートーク

32回 3,038人

	開催日	テーマ	講師等	参加者数
1	4月2日	絵画に咲く桜	大橋美織（絵画・彫刻室研究員）	90人
2	4月16日	特集「平成31年 新指定国宝・重要文化財」への招待（書跡）	藤田励夫（文化庁 主任文化財調査官）	62人
3	4月19日	建安21年の神獣鏡	市元壘（東洋室主任研究員）	79人
4	4月23日	特集「平成31年 新指定国宝・重要文化財」への招待（彫刻）	奥健夫（文化庁 主任文化財調査官）	210人
5	4月26日	特集「平成31年 新指定国宝・重要文化財」への招待（絵画・工芸）	綿田稔（文化庁 文化財調査官） 伊東哲夫（文化庁 文化財調査官）	66人
6	5月18日（2回）	国際博物館の日記念ガイダンス「トーハクへようこそ」	阿部楓子（教育講座室アソシエイトフェロー）	114人
7	5月28日	顔壺に込められた弥生人の願い	井上洋一（副館長）	159人
8	5月31日	装飾古墳鑑賞入門	河野一隆（調査研究課長）	169人
9	6月18日	奈良・長谷寺の難陀龍王立像	浅見龍介（企画課長）	240人
10	6月28日	レンズの向こうの博物館	酒井晶（情報管理室アソシエイトフェロー）	58人
11	7月2日	当館所蔵の沖繩のやきもの	三笠景子（特別展室主任研究員）	113人
12	7月23日	邪馬台国時代の土器	山本亮（特別展室研究員）	121人
13	8月4日	日本のよろいのお話	酒井元樹（教育普及室主任研究員）	52人
14	8月4日	日本の文字のお話	丸山猶計（登録室長）	55人
15	8月4日	土にうめられたたからものお話	伊藤信二（博物館教育課長）	45人
16	8月6日	日本のよろい！	酒井元樹（教育普及室主任研究員）	88人
17	8月9日	アイヌの暮らし	飯田茂雄（考古室研究員）	91人
18	8月20日	縄文土器の大きさ	井出浩正（教育講座室長）	102人
19	9月3日	信玄の弟・武田遺選軒とその作品	沖松健次郎（絵画・彫刻室長）	73人
20	10月29日	平家納経（模本）の世界	恵美千鶴子（百五十年史編纂室長）	106人
21	11月1日	国宝「聖徳太子絵伝」—微笑みの太子に出会う—	沖松健次郎（絵画・彫刻室長）、高木結美（文化財活用センター企画担当専門職）	160人
22	11月3日	「中国絵画主題と日本禅僧的生活空間」中国の画題と日本の禅宗寺院	武瀧瀧（国際交流室アソシエイトフェロー）	32人
23	11月3日	「Journey through the Floating World」浮世の旅	フランク・ウィットカム（国際交流室アソシエイトフェロー）	55人
24	11月19日	木で造られた日本の彫刻の保存と修理	野中昭美（保存修復室研究員）	120人
25	11月26日	ボランティア活動を始める前に、知っておきたいこと	鈴木みどり（ボランティア室長）	17人
26	12月3日	正倉院の幡	澤田むつ代（客員研究員）	76人
27	1月21日	大黒天と鼠	河野正訓（考古室研究員）	130人
28	1月28日	狩野永敬『十二月花鳥図屏風』	遠藤栄子（百五十年史編纂室主任研究員）	77人
29	1月31日	旧石器の狩猟具	飯田茂雄（考古室研究員）	82人
30	2月4日	文徳明と明時代の書画	六人部克典（登録室研究員）	121人
31	2月18日	帝室技芸員 三代清風与平	今井敦（博物館情報課長）	75人
32	2月28日	江戸の書にみる人情	丸山猶計（登録室長）	0人
33	3月17日	器に咲く桜	今井敦（博物館情報課長）	0人
34	3月24日	仏教絵画に描かれた桜	沖松健次郎（絵画・彫刻室長）	0人
35	3月31日	博物館でお花見を 鑑賞ガイド	阿部楓子（教育講座室アソシエイトフェロー）	0人

※32、33、34、35は新型コロナウイルス感染予防・拡散防止のため中止。

②特別展開連ギャラリートーク

2回 345人

	開催日	テーマ・講師等	講師等	参加者数
1	11月12日	古代オリエントの工芸品	小野塚拓造（平常展調整室研究員）	244人
2	12月10日	古代世界の工芸品の細部に迫る	小野塚拓造（平常展調整室研究員）	101人

③東京藝術大学大学院インターンシップによるギャラリートーク

37回 1,408人

	実施日	回数	テーマ	氏名	参加者
1	12月5日、1月24日、2月13日、2月18日、2月20日	5回	ヴィンツェンツォ・ラガーザの『日本の婦人像』	小梨貞子	101人
2	1月7日、1月8日、1月16日、1月21日、1月30日、2月2日	6回	雪村の「鷹山水図屏風」の画面構成について	笹尾梨良	248人
3	1月9日、1月11日、1月25日、2月4日、2月8日、2月12日	6回	宝慶寺石仏龕のかたちとその意味	中西希	364人
4	1月12日、1月18日、1月22日、1月23日、1月28日、1月29日	6回	「雪中群鷄」にみる渡辺省亭の洋風表現	榎本佳	206人
5	1月15日、1月19日、1月26日、2月1日、2月6日、2月9日	6回	「十二ヶ月花鳥図屏風」の魅力	内田夏帆	223人
6	1月17日	1回	青木繁が描きだした神話画「日本武尊」	柯輝煌	40人
7	1月31日、2月5日、2月21日	3回	「子日蒔絵棚」にみる光悦の意匠	泉山真悠	83人
8	2月14日、2月16日、2月19日、2月23日	4回	宮川香山と明治の「日本」	橋詰果歩	143人

3) 連続講座 2日間（計1回） 1回 645人

	開催日	テーマ・講師等	参加者数	“良い”の割合
1	1月24日～25日	連続講座「出雲と大和」 第1講「弥生絵画を鑑賞する一近畿と山陰地方の弥生絵画の比較を通して」講師：橋本裕行（奈良県立橿原考古学研究所 企画部企画課長） 第2講「最新技術で眺める大和の古墳」講師：西藤清秀（奈良県立橿原考古学研究所 技術アドバイザー） 第3講「仏教の伝来と仏像の造像」講師：血井舞（平常展調整室長） 第4講「古代出雲における青銅器の特質」講師：増田浩太（島根県立古代出雲歴史博物館 専門学芸員） 第5講「日本海文化としての出雲の古墳時代—考古学から見た地域王国論—」講師：河野一隆（調査研究課長） 第6講「出雲大社巨大本殿と古代出雲世界」講師：松尾充晶（島根県立古代出雲歴史博物館）	645人	92.93%

4) 公開講座 5回 204人

	開催日	テーマ・講師等	参加者数	会場
1	8月26日～27日 8月29日～30日	教育連携事業「博物館学講座」 8月26日 「東京国立博物館について・課題説明」教育講座室 「博物館の来館者対応」 武田卓（総務課来館者支援担当） 「博物館の展示デザイン」 矢野賢一（デザイン室長） 「博物館教育論」 藤田千織（教育普及室長） 8月27日 「展示見学・『課題』取り組み」 教育講座室 「文化財の撮影」 藤瀬雄輔（登録室）、西川夏永（登録室） 「博物館の出版」 松尾美貴（出版企画室長） 「博物館の広報」 小島佳（広報室） 8月29日 「『課題』取り組み」 教育講座室、木下史青（上席研究員） 「博物館の文化財をとりまく各種事務」 丸山猶計（登録室長） 「博物館の保存と修理」 荒木臣紀（調査分析室長） 「絵画作品について」 沖松健次郎（絵画・彫刻室長） 「実習 作品の取り扱い・展示」 絵画・彫刻室、教育講座室 8月30日 「『課題』取り組み」 教育講座室、木下史青（上席研究員） 「博物館の調査研究」 河野一隆（調査研究課長） 「博物館のボランティア活動」 鈴木みどり（ボランティア室長） 「『課題』取り組み」 教育講座室、木下史青（上席研究員） 「発表・質疑応答・『課題』講評」 教育講座室、木下史青（上席研究員）	38人	平成館小講堂、本館地下みどりのライオン（教育普及スペース）他
2	8月28日	教育連携事業「博物館セミナー」 「博物館の運営」 竹之内勝典（総務課長） 「総合文化展の仕組み」 血井舞（平常展調整室長） 「特別展の仕組み」 猪熊兼樹（特別展室長） 「博物館の情報アーカイブと活用」 田良島哲（特任研究員） 「博物館の教育普及活動」 伊藤信二（博物館教育課長） 「博物館の国際交流」 楊鋭（国際交流室長） 「博物館の文化財活用」 小林牧（文化財活用センター副センター長）	166人	平成館大講堂

5) その他展示に関連する事業 52回 12,064人

	実施日	内容	会場	参加者数
1	4月10日（2回） 4月17日（2回）	記念公演「真言声明 —東寺の音と共に—」 出演：東寺真言宗 僧侶	平成館大講堂	1,505人
2	5月12日	国際博物館の日記念ツアー「上野の山で動物めぐり～ツノのある動物～」	恩賜上野動物園、国立科学博物館、東京国立博物館	38人
3	9月10日	博物館でアジアの旅 スペシャルツアー 「愛を探す旅—添乗員はトーハク研究員—『工芸に表現された愛』」 添乗員：猪熊兼樹（特別展室長）、小野塚拓造（平常展調整室研究員）、三笠景子（特別展室主任研究員）	東洋館ミュージアムシアター、東洋館3室、東洋館10室	195人
4	9月20日（2回） 9月21日（2回）	博物館でアジアの旅 インドネシアの伝統芸能「ジャワの影絵芝居 ワン・クリ」出演：スマリール	表慶館1階	366人
5	9月28日（3回）	博物館でアジアの旅 マットでリラックスヨガ in 表慶館 講師：渡辺美保	表慶館1階	50人

6	10月4日 (3回)	博物館でアジアの旅 気軽に椅子ヨガ in 東洋館 講師：渡辺美保	東洋館1室	63人
7	10月8日	博物館でアジアの旅 スペシャルツアー 「愛を探す旅—添乗員はトーハク研究員—『絵画に表現された愛』」 添乗員：勝木言一郎 (東洋室長)、植松瑞希 (出版企画室研究員)、市元豊 (東洋室主任研究員)	東洋館ミュージアムシアター、東洋館8室、東洋館5室	204人
9	7月17日～9月1日 (15回)	日本文化との出会い よろい体験	本館特別4室	365人
10	10月8日～10月20日 (11回)	日本文化との出会い 書体験	本館2階ラウンジ	1,466人
11	11月3日	日本文化との出会い 留学生のためのきもの体験	本館地下みどりのライオン	40人
12	11月24日	おとなのためのワークショップ「屏風体験！」	応挙館	21人
13	12月14日	おとなのためのワークショップ「友禅染に挑戦」	本館地下みどりのライオン	13人
14	1月2日、3日 (2回)	博物館で初もうで「2020鼠草紙すごろく」カレンダー/ワークシート配布	本館2階便殿前	6,900人
15	1月15日 (2回)	記念公演「雅楽・石見神楽」 出演：おやさと雅楽会、江津市石見神楽連絡協議会	平成館大講堂	741人
16	1月25日 (2回)	日本文化との出会い 浮世絵の摺り実演	本館地下みどりのライオン	97人

※17～19は新型コロナウイルス感染予防・拡散防止のため中止。

17	2月29日	おとなワークショップ「ひいな遊び—立雛を作ろう!—」	本館地下みどりのライオン	0人
18	3月27日	バックヤードツアー「保存と修理の現場へ行こう」	本館地下みどりのライオン、X線CT室、実験室、修理室2、修理室3、平成館企画展示室	0人
19	3月29日 (2回)	日本文化との出会い 浮世絵の摺り実演	本館地下みどりのライオン	0人

【京都国立博物館】

1) 土曜講座

13回

1,211人

特別展覧会関連などの講座

	開催日	テーマ	講師	参加者数
1	7月6日	重要文化財 太刀 銘 国吉 (号 小夜左庵国吉) について—鎌倉時代前期の山城鍛冶再考—	主任研究員 末兼俊彦	125人
2	7月13日	赤ってじつはどんな色?	研究員 安部真里奈	116人
3	7月20日	鳥取・兵庫の原始・古代文化—山陰と山陽の交流点—	主任研究員 古谷毅	53人
4	8月3日	海を渡った扇—橋本雅邦最後の大作—	研究員 福士雄也	75人
5	8月24日	寄託制度と博物館	主任研究員 吳孟晋	133人
6	9月14日	モノから聞こえる物語—「唐鏡」はどこから来たのか—	教育室長 永島明子	122人
7	1月11日	三十三間堂の仏像	連携協力室長 浅瀨毅	122人
8	1月18日	動物埴輪はなぜ造られたか—動物と古墳時代の人々—	主任研究員 古谷毅	69人
9	1月25日	江戸時代後期、御所造営にともなう賢聖障子の製作過程	帝京大学准教授 鎌田純子	84人
10	2月1日	おそろべきねずみたち	教育室長 永島明子	104人
11	2月8日	京都国立博物館の過去・現在・未来 II	館長 佐々木丞平	110人
12	2月15日	近世陶磁器の彩色材料	保存科学室長 降幡順子	44人
13	2月22日	近世の画家のスケッチ	研究員 福士雄也	54人

※新型コロナウイルス感染予防・拡散防止のため、2年2月29日、3月7日、3月14日、3月21日の土曜講座は中止。

2) 記念講演会

9回

1,465人

	実施日	テーマ	講師	参加者数(人)
1	4月13日	時宗教団の変遷	大正大学専任講師 長澤昌幸	115人
2	4月27日	一邨・真教の念仏思想	時宗教学研究所 顧問 (兼真光寺 住職) 長島尚道	121人
3	5月11日	国宝 一邨聖絵—旅と風景、その魅力と謎—	研究員 井並林太郎	171人
4	5月18日	時宗のみほとけ—阿弥陀と祖師像を中心に—	連携協力室長 浅瀨毅	110人
5	5月25日	一邨聖絵に見る聖性と熊野信仰	遊行寺宝物館 館長 遠山元浩	190人
6	10月13日	冷泉家の歴史と文化 —冷泉流歌道をめぐって—	冷泉家時雨亭文庫 理事長 (兼京都美術工芸大学 学長) 冷泉為人	168人
7	10月19日	歌仙絵の成立と展開—佐竹本への道のり—	東京国立博物館 主任研究員 土屋貴裕	190人
8	11月2日	歌仙絵の最高峰—佐竹本三十六歌仙絵の表現と情緒—	研究員 井並林太郎	200人

9	11月16日	佐竹本三十六歌仙絵への想い	研究員 降矢哲男	200人
---	--------	---------------	----------	------

3) 夏期講座 1回 201人

	開講日	テーマ	講師	参加者数(人)
1	7月26日	第1講 木のほとけ	連携協力室長 浅湊毅	201人
		第2講 オランダの風土と絵画 —平坦な大地と光の魅力—	京都市芸術大学 准教授 深谷訓子	
		第3講 巡礼・遊行・観光	学芸部長 朝賀浩	
	7月27日	第1講 中世社境内の風景 —絵画・縁起絵・参詣遊楽図—	大和文華館 学芸部長 泉万里	
		第2講 仏典にみる自然 —蝶と鳥の意味するもの—	研究員 上杉智英	
		第3講 モネの庭と日本人の自然観	京都産業大学 准教授 エマニュエル マレス	

4) 社会科教員のための向上講座 1回 50人

	開講日	テーマ	講師	参加者数(人)
1	8月20日	講義「特別企画<京博寄託の名宝>鑑賞ポイント」	主任研究員 呉孟晋	50人

5) ギャラリートーク・シンポジウム等 3回 358人

	開講日	テーマ・講師	参加者数(人)
1	4月20日	研究発表と座談会 「一漣聖絵と遊行上人縁起絵」 京都国立博物館企画室研究員 井並林太郎 他	121人
2	8月4日 (2回実施)	特集展示「赤ってじつはどんな色？」ギャラリー・トーク 研究員 安部真里奈	54人
3	2月11日	ICOM京都大会2019開催記念シンポジウム 日本のミュージアムの未来 ICOM京都大会を振り返る-成果と課題- 国立民族学博物館長 吉田憲司 他	183人

※キャンパスメンバーズ限定講演会については1-(3)-①-4 大学生・大学院生を対象とした教育事業 に記載。

※新型コロナウイルス感染予防・拡大防止のため、2年2月23日に予定していたICOM京都大会2019開催記念シンポジウム「日本のミュージアムの未来 ICOM京都大会の成果を生かす-今後の博物館制度-」は中止となった。

【奈良国立博物館】

1) 特別展等講座 13回 1,838人

	開催日	事業名称等	講師	参加者数
1	4月20日	「藤田傳三郎と藤田美術館 伝統と未来」	藤田美術館館長 藤田清	190人
2	5月11日	「国宝 曜変天目茶碗の謎にせまる」	大阪市立東洋陶磁美術館 学芸課長代理 小林仁	194人
3	5月25日	「藤田美術館の仏教美術コレクション」	学芸部情報サービス室長 岩井共二	127人
4	7月27日	親子講座「どうぶつえんのわくわくガイド」	学芸部主任研究員 中川あや	88人
5	8月24日	「近代を旅した仏たち—奈良ゆかりの仏像を中心に—」	学芸部主任研究員 山口隆介	146人
6	11月2日	「正倉院に伝わる作り物をめぐって—仮山残欠を中心に—」	学芸部工芸考古室長 清水健	141人
7	11月3日	「即位と正倉院宝物」 ①「正倉院宝物と御即位関係品」 ②「赤漆文欄木御厨子をめぐって」 ③「宮廷と正倉院宝物—唐文化との関わり—」 ④パネルディスカッション	①元宮内庁正倉院事務所長 米田雄介 ②宮内庁正倉院事務所主任研究官 佐々田悠 ③奈良国立博物館長 松本伸之 ④米田雄介、佐々田悠、松本伸之、 学芸部長 内藤栄	214人
8	11月4日	「遺愛とその輝き」	高志の国文学館館長 中西進	155人
9	11月9日	「正倉院の風鐸—金銅鎮鐸について—」	宮内庁正倉院事務所保存課調査室員 細川晋太郎	117人
10	12月21日	「春日大社にまつわる絵師たち」	学芸部主任研究員 北澤菜月	33人
11	1月11日	「文化財写真の軌跡—150年のあゆみ—」	学芸部資料室長 宮崎幹子	114人
12	2月11日	「不退の行法、東大寺修二会（お水取り）」	東大寺長老 北河原公敬	125人
13	2月15日	「毘沙門天の源流を探る—インドからガンダーラ・西域へ—」	名古屋大学/龍谷大学 名誉教授 宮治昭	194人
14	2月29日	「唐宋時代の毘沙門天像—王朝の守護神—」	奈良女子大学文学部准教授 佐藤有希子	臨時休館のため開催せず

15	3月14日	「日本における毘沙門天像の展開」	学芸部 上席研究員 岩田茂樹	臨時休館のため開催せず
----	-------	------------------	----------------	-------------

2) 夏季講座 第48回 「仏教美術にみる動物のすがた」

1回 386人

	開講日	テーマ	講師	参加者数
1	8月21日	「原始・古代の祈りと動物造形」	学芸部主任研究員 中川あや	386人
		「正倉院宝物とシルクロードの動物意匠」	学芸部列品室長 吉澤悟	
		「八部衆像にみられる動物表現」	金沢美術工芸大学准教授 水野さや	
	8月22日	「十二支と美術」	早稲田大学文学学術院教授 川瀬由照	
		「師子と狛犬」	和歌山県立博物館長 伊東史朗	
		「涅槃図と動物たち—仏画の中の突破り—」	京都国立博物館保存修理指導室長 大原嘉豊	
	8月23日	「密教図像の動物たち」	大和文華館学芸員 古川攝一	
		「神使の信仰と造形」	学芸部工芸考古室長 清水健	

3) サンデートーク

11回 1,037人

	実施日	テーマ	解説者	参加者数(人)
1	4月21日	「仏像の『かざり』をめぐる」	学芸部研究員 三本周作	129人
2	5月19日	「古代寺院の堂内荘厳」	学芸部アソシエイトフェロー 萩谷みどり	123人
3	6月16日	「古神宝の世界」	学芸部工芸考古室長 清水健	66人
4	7月21日	「再び、空海の舎利信仰の源流について—スリランカから東寺まで—」	学芸部長 内藤栄	139人
5	8月18日	「文化財を科学するVI」	学芸部保存修理指導室長 鳥越俊行	89人
6	9月15日	「平安時代の寺社参詣」	学芸部主任研究員 齋木涼子	106人
7	10月13日	「第7回 茶室・八窓庵をのぞいてみませんか」	学芸部列品室長 吉澤悟	32人
8	11月24日	「東大寺戒壇院厨子扉絵をめぐる—追憶の天平仏画」	学芸部教育室長 谷口耕生	64人
9	12月15日	「古写真と仏像研究」	学芸部主任研究員 山口隆介	113人
10	1月19日	「室町時代の“公務員”？—幕府官僚の実態に迫る」	学芸部アソシエイトフェロー 佐藤稜介	80人
11	2月16日	「鏡を楽しむ」	学芸部主任研究員 中川あや	96人
12	3月15日	「旧帝国奈良博物館本館と片山東熊—日本人建築家と日本近代建築の誕生—」	学芸部資料室長 宮崎幹子	臨時休館のため開催せず

4) その他展示に関連するイベント

15回 1,073人

	実施日	内容	会場	参加者
1	5月5日	藤田美術展関連イベント「オリジナル絵巻を作ろう」	地下回廊	31人
2	5月19日	藤田美術展関連イベント「親子向け抹茶体験ワークショップ」	地下回廊	42人
3	5月26日	藤田美術展関連イベント「囉変天目茶碗モチーフのアクセサリー作り」	会議室	27人
4	7月13日	いのりの世界のどうぶつえん関連イベント 奈良博<->奈文研 シャトルバス運行	敷地内	267人
5	7月26日	「夏休みファミリー新聞教室」ではがき新聞づくり	講堂・展示室	50人
6	7月27日	親子講座「どうぶつえんのわくわくガイド」	講堂	88人
7	8月17日	絵本づくりワークショップ「とびだす!うごく!いのりの世界のどうぶつ」	地下回廊	37人
8	10月26日~11月14日	正倉院展短歌コンクール受賞作品展示	地下回廊	-
9	10月27日	正倉院展親子鑑賞会	講堂・展示室	135人
10	12月18日~1月13日	春日若宮おん祭で使用される備品の展示	展示室	-
11	1月9日	文化財保存修理所特別公開	講堂・文化財保存修理所	148人
12	1月11日	奈良文化クワスター事業 春日大社、奈良国立博物館連携シンポジウム「最古の刀—日本刀成立の謎に迫る」	館外	200人
13	2月4日~2月26日	毘沙門天関連展示 オンラインゲーム「なむあみだ仏!!—蓮台UTENA—」のキャラクター等身大パネル展示	地下回廊	-
14	2月4日~2月26日	お水取り展 修二会お松明展示	展示室	-
15	2月8日	お水取り「講話」と「現地解説」の会	講堂・展示室	48人

16	3月4日	お水取り展鑑賞とお松明	講堂	臨時休館のため開催せず
----	------	-------------	----	-------------

【九州国立博物館】

善

1) 特別展記念講演会 6回 1,336人

	開催日	事業名称等	講師	参加者数
1	4月27日	特別展「京都 大報恩寺 快慶・定慶のみほとけ」 「鎌倉彫刻の巨匠 運慶・快慶とその次世代の仏師たち」	東京国立博物館 皿井 舞	120人
2	5月25日	特別展「京都 大報恩寺 快慶・定慶のみほとけ」 「千本釈迦堂・大報恩寺の歴史」	千本釈迦堂大報恩寺住職 菊入諒如	160人
3	7月14日	特別展「室町将軍-戦乱と美の足利十五代-」 「室町将軍家の東アジア外交」	北海道大学准教授 橋本雄	202人
4	8月3日	特別展「室町将軍-戦乱と美の足利十五代-」 「室町将軍家の再評価」	国際日本文化研究センター助教 呉座勇一	301人
5	12月14日	特別展「三国志」記念特別講演会 「曹操高陵墓と考古学的発見と研究」 「三国志の時代と卑呼の鏡」	河南省文物考古研究院第一研究室副主任 潘偉斌 九州大学大学院人文科学研究院准教授 辻田淳一郎	306人
6	2年2月9日	特別展「ルネ・ユイグのまなざし フランス絵画の精華」 記念講演会「フランス絵画の栄光—古典主義からロマン主義まで」	美術評論家・美術史家、大原美術館館長 高階秀爾	247人

2) 講演及びシンポジウム等 16回 2,033人

	開催日	事業名称等	講師	参加者数
1	5月6日	新元号記念特別企画「令和」関連特別講演会 「梅花の宴～遠の朝廷の文華～」 主催者挨拶 特別講演会「梅花の宴～遠の朝廷の文華～」 特別対談「曲水の宴と蘭亭序」 特別企画「令和」、万葉歌碑のご案内	館長 島谷弘幸 太宰府発見塾塾長 森 弘子 太宰府発見塾塾長 森 弘子・館長 島谷弘幸 展示課研究員 小嶋 篤	120人
2	6月29日	九州国立博物館が貴賓館にやって来る！歴史講座「更紗～生命の花咲く布」『令和』と旅人～遠の朝廷 大宰府より～	展示課研究員 小嶋 篤	37人
3	7月20日	特別展「室町将軍-戦乱と美の足利十五代-」 リレー講座 「足利十五代-ムロマチックな男たち-」 「名刀乱舞！足利将軍」	展示課主任研究員 一瀬 智 京都国立博物館主任研究員 末兼俊彦	230人
4	8月4日	2019年全国高校全国高等学校歴史学フォーラム 「近代以降の紙幣の変遷とその背景を探る」 「鴨沂高校とその周辺から考える歴史～モノから史料に～」 「長崎県壱岐市大久保遺跡の研究～縄文時代晩期貝殻粉混和土器に関する一考察～」 「雑誌『ひだびと』で江馬修は何をめざしたのか」 「土器の文様について～この線描けるかな～」 「目には見えない、人々の「祈り」を明らかにする～桐生市における文献調査とフィールドワーク～」 「野馬土手～相馬の「万里の長城」～」	福岡県立糸島高等学校（歴史部） 京都府立鴨沂高等学校（京都文化コース） 長崎県立壱岐高等学校（東アジア歴史中国語コース） 岐阜県立関高等学校（地域研究部・文芸部） 奈良県立橿原高等学校（考古学研究所） 群馬県立桐生高等学校（地歴部） 福島県立相馬高等学校（郷土部）	300人
5	8月10日	アクロス・文化学び塾 「室町将軍15代の武と美」	展示課主任研究員 一瀬 智	76人
6	8月11日	華道家元池坊次期家元による特別講演会・デモンストラーション	華道家元池坊次期家元 池坊専好	271人
7	8月12日	特別展「室町将軍-戦乱と美の足利十五代-」 開催記念 シンポジウム 京都・等持院 歴代足利将軍像の謎に迫る 「等持院像の位置づけ」 「等持院像の調査報告」 「足利将軍の仏事について-等持院・等持寺を中心に-」 「室町将軍の身体観—画像と彫像の比較分析—」	京都大学 根津研介 展示課長 楠井隆志 立命館大学 大田壮一郎 東京大学 高岸 輝	254人
8	8月31日	九州国立博物館が貴賓館にやって来る！歴史講座「更紗～生命の花咲く布」	学芸部文化財課長 原田あゆみ	18人
9	9月28日	特集展示「文化財よ、永遠に」講演会 「修理、果てしなき挑戦」 【開会挨拶】 「住友財団の助成について」 「住友財団の意義と歴史」 「修理の意義について—所蔵者の立場から—」 「梅林寺・楊柳観音菩薩像の修理について」 「百按司墓木棺の修理について」 「千光寺・千手観音立像の修理について」 【閉会挨拶】	館長 島谷弘幸 公益財団法人住友財団 養 康久 前九州国立博物館長 三輪嘉六 梅林寺老師 東海大玄 国宝修理装演師連盟理事 藤井良昭 元興寺文化財研究所 雨森久晃 浦仏刻所 浦 敬學 学芸部長 小泉惠英	80人
10	10月6日	九博ふるさとセミナー 「令和 と共に歩む 第1弾」 講演「筑紫・大伴・大伴部」	展示課研究員 小嶋 篤	73人

11	10月20日	ここまで分かった“リアル三国志” - 新発見の考古資料から読み解く -	学芸部企画課特別展室主任研究員 川村佳男	238人
12	11月9日、10日	特集展示「版経東漸～対馬がつなぐ仏の教え～」開催記念講演会【対馬講演】 「中世日朝関係のなかの大蔵経—贈物としての経典」 「対馬のさまざまな版経—渡来の地・継承の地—」 九州国立博物館展覧会「版経東漸～対馬がつなぐ仏の教え～」の見どころ	京都府立大学 横内裕人 東京大学史料編纂所 須田牧子 長崎県立対馬歴史民俗資料館 瓜生 翠 学芸部文化財課資料登録室研究員 松浦晃佑	40人
13	11月17日	特集展示「版経東漸～対馬がつなぐ仏の教え～」開催記念講演会【九博講演】 「経典調査10年の歩み—対馬の宝を守るために—」 「宋元時代の大蔵経—対馬所在本を中心に—」 「対馬の版経の学術的意義—特に高麗の大蔵経を中心として—」 「中世日朝関係における大蔵経輸入」 「反響当然!?「版経東漸～対馬がつなぐ仏の教え～」の魅力と楽しみ方」	京都府立大学 京都府立大学 京都大学人文科学研究所 梶浦 晋 佛教学部 馬場久幸 東京大学史料編纂所 須田牧子 学芸部文化財課資料登録室研究員 松浦晃佑	80人
14	11月19日	令和 元年度文化財防災ネットワーク推進事業セミナー 「不動産文化財と動産文化財の防災—現状の課題と今後の連携に向けて—」 開会挨拶 【講演①】福岡県における歴史的建造物等の保護と防災への取り組み 【講演②】熊本地震における被災歴史的建造物復旧支援の取り組み—建築士会の活動を通じて— 【トークセッション】 司会 パネリスト 閉会挨拶	文化財防災ネットワーク推進室長 岡田健 福岡県教育庁文化財保護課 課長技術補佐 田上稔 (公社)熊本県建築士会まちづくり委員会 委員長 山川満清 学芸部長 小泉恵英 熊本県教育庁文化財課 主幹 豊田理絵 奈良文化財研究所 埋蔵文化財センター長 高妻洋成 福岡県教育庁文化財保護課 課長技術補佐 田上稔 (公社)熊本県建築士会まちづくり委員会 委員長 山川満清 学芸部博物館科学課長 木川りか	41人
15	11月30日	特集展示「縄文王国やまなし」関連講演会 日本遺産「星降る中部高地の縄文世界」 「山梨県の縄文世界」 「長野県の縄文世界」 「中部高地の黒曜石の世界」	山梨県韮崎市教育委員会 間間俊明 長野県富士見町井戸尻考古館館長 小松隆史 長野県茅野市尖石縄文考古館学芸員 山科 哲	25人
16	2年1月18日	連携公開講座「西の都・大宰府と沖ノ島 東の都・齋宮と伊勢神宮～地域祭祀の成り立ちと律令祭祀への変質～」 各遺跡紹介「東の都・齋宮と齋王」 「西の都・大宰府」 基調報告「王権祭祀から律令祭祀へ」 報告1「考古資料からみた齋宮・伊勢神宮の成立」 報告2「考古資料からみた宗像君と沖ノ島祭祀」 シンポジウム コーディネーター	齋宮歴史博物館調査研究課 山中由紀子 九州歴史資料館文化財調査室 吉田東明 愛知教育大学名誉教授 西宮秀紀 齋宮歴史博物館調査研究課 宮原佑治 展示課研究員 小嶋 篤 九州歴史資料館学芸調査室 酒井芳司	150人
17	2年2月23日	九州国立博物館「大宰府学」事業シンポジウム「大宰府前夜—筑紫の大宰と豪族—」 基調講演「金銀装大刀と豪族」 「家紋大刀と刀装具の世界」 「筑紫の豪族の馬装」 「九州北部の豪族と筑紫大宰」 パネルディスカッション 「筑紫の大宰と豪族」	鳥根県松江北高等学校 大谷晃二 展示課 小嶋 篤 古賀市教育委員会 西 幸子 九州歴史資料館 酒井芳司	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止
18	2年3月8日	特別展「ルネ・ユイグのまなざし フランス絵画の精華」講演会	エコール・ド・ルーヴル出身 小柳由紀子	同上
19	2年3月13日	特別展「ルネ・ユイグのまなざし フランス絵画の精華」講演会	九州大学言語文化研究院准教授 倉片健作	同上
20	2年3月15日	特別展「ルネ・ユイグのまなざし フランス絵画の精華」講演会	ソルボンヌ大学考古学博士 グザヴィエ・ミシエル田中	同上

3) ミュージアムトーク

47回 参加者総数 1,493人

・担当研究員数 延べ 37人 ※うち夜間開催分は 678人

・事業内容 文化交流展示室にて担当の研究員が作品に関する解説を行った。

(原則として第1、3、5火曜日の15時より15～30分間、夜のミュージアムトークは原則として第2、4土曜日の18時より15～30分間)

	開催日	テーマ	解説者	参加者数(人)
1	4月2日	埴輪の輪	展示課研究員 小嶋 篤	30人
2	4月13日	夜のミュージアム・トーク 速報! きゅーはくに入った東洋考古の宝物	学芸部企画課特別展室主任研究員 川村佳男	8人
3	4月16日	長崎青貝細工と広東漆器	学芸部文化財課資料登録室長 川畑 憲子	25人

4	4月27日	夜のミュージアム・トーク 文化財たちのかいてきなお部屋	学芸部博物館科学課環境保全室主任研究員 秋山純子	20人
5	4月30日	海底に残る蒙古襲来の現場	交流課主任研究員 今井涼子	55人
6	5月11日	夜のミュージアム・トーク 石器作りの道具	学芸部博物館科学課保存修復室長 志賀智史	20人
7	5月14日	「鎖国」の誕生	学芸部企画課特別展室研究員 松浦晃佑	20人
8	5月25日	夜のミュージアム・トーク 仏像のレプリカをさわってみよう！	展示課長 楠井隆志	25人
9	5月28日	手話と仏像	学芸部企画課アソシエイトフェロー 大澤 信	75人
10	6月8日	夜のミュージアム・トーク 金の技にせまる！	学芸部企画課アソシエイトフェロー 大澤 信	30人
11	6月11日	北へと広がる、弥生文化	学芸部企画課特別展室研修生 無津呂健太郎	30人
12	6月22日	夜のミュージアム・トーク 水面に丸木舟を浮かべて	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー 小川香葉恵	15人
13	6月25日	お坊さんと水墨画	学芸部文化財課資料管理室主任研究員 畑 靖紀	25人
14	7月2日	倭人、戈をつくる	展示課主任研究員 小澤佳憲	25人
15	7月13日	百済のレンガ つくりかたとつかいかた	学芸部企画課長 白井克也	25人
16	7月17日	夜のミュージアム・トーク 海賊船を探せ！	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー 佐々木蘭貞	25人
17	7月27日	夜のミュージアム・トーク 文化財を食べるムシ	学芸部博物館科学課長 木川りか	20人
18	7月30日	館蔵名品展「更紗 生命の花咲く布」～更紗でたどる東西交流史～	学芸部文化財課長 原田あゆみ	50人
19	8月10日	夜のミュージアム・トーク 仏像の手に秘められた物語	学芸部企画課アソシエイトフェロー 大澤 信	25人
20	8月13日	重要文化財になった異色の辞令書	展示課主任研究員 一瀬 智	20人
21	8月24日	夜のミュージアム・トーク 木材の中にひそむ虫をさがす	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー 渡辺祐基	30人
22	8月27日	18世紀、京の絵画がおもしろい	学芸部文化財課主任研究員 山下善也	30人
23	9月3日	世界を旅した布、更紗	学芸部企画課アソシエイトフェロー 森原有寿子	30人
24	9月14日	夜のミュージアム・トーク 文化財長もちのひみつ	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー 大橋有佳	25人
25	9月18日	よみがえった文化財	学芸部文化財課資料登録室主任研究員 森貴久美子	30人
26	9月28日	夜のミュージアム・トーク 手話通訳付きミュージアムトーク	学芸部文化財課長 原田あゆみ 学芸部企画課アソシエイトフェロー	80人
27	10月1日	三国志の時代の武器と馬具	学芸部企画課特別展室主任研究員 川村佳男	30人
28	10月12日	夜のミュージアム・トーク 文化財のお医者さん	学芸部文化財課資料登録室主任研究員 森貴久美子	25人
29	10月16日	三国志の時代の武器と馬具	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー 佐々木蘭貞	35人
30	10月26日	夜のミュージアム・トーク なんで？どうして？土偶のなぜ	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー 小川香葉恵	25人
31	10月29日	プレミアムミュージアムトーク 縄文王国やまなし	釈迦堂遺跡博物館学芸員 一瀬一浩	50人
32	11月9日	夜のミュージアム・トーク 縄文土器の作り方	学芸部博物館科学課保存修復室長 志賀智史	50人
33	11月12日	北斎の日新除魔図	学芸部文化財課主任研究員 山下善也	20人
34	11月23日	夜のミュージアム・トーク 遣唐使船が運んだもの	展示課主任研究員 齋部麻矢	25人
35	11月26日	描かれた異国の人びと	学芸部文化財課資料管理室主任研究員 畑 靖紀	20人
36	11月30日	夜のミュージアム・トーク プレミアムミュージアムトーク 大切なお経を未来に伝えるために	学芸部文化財課資料登録室研究員 松浦晃佑 修理工房宰匠株式会社 代表取締役 藤井良昭	25人
37	12月3日	長崎の関帝信仰	展示課長 楠井隆志	35人
38	12月14日	夜のミュージアム・トーク 日本人はお経コレクターだった!?	学芸部文化財課資料登録室研究員 松浦晃佑	30人
39	12月17日	大宰大貳 平清盛と大内義隆	展示課主任研究員 一瀬 智	20人
40	1月11日	夜のミュージアム・トーク 刀剣ことはじめ	学芸部企画課特別展室研究員 望月規史	70人
41	1月15日	国宝 初音の調度について	学芸部文化財課資料登録室長 川畑 憲子	60人
42	1月25日	夜のミュージアム・トーク 木材の中にひそむ虫をさがす パート2	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー 渡辺祐基	60人
43	1月28日	古墳時代への誘い	展示課研究員 小嶋 篤	20人
44	2月8日	夜のミュージアム・トーク 金属の色 いろいろ～古い鏡の不思議～	学芸部博物館科学課環境保全室主任研究員 秋山純子	25人
45	2月11日	棋聖戦開催記念 遣唐使・吉備真備と囲碁	学芸部企画課アソシエイトフェロー 大澤 信	35人
46	2月22日	夜のミュージアム・トーク アジアのやきもの 時空の旅	展示課主任研究員 小澤佳憲	20人
47	2月26日	「はらのむし」誕生ヒストリー	学芸部文化財課アソシエイトフェロー 樋笠逸人	20人
48	3月3日	「本物」の文化財とは？	学芸部博物館科学課長 木川りか	新型コロナウイルス感染 拡大防止のため中止
49	3月14日	夜のミュージアム・トーク ペンダントをつけたつば	学芸部企画課長 白井克也	同上
50	3月17日	文化交流展のたのしみかた	学芸部特任研究員 臺信祐爾	同上
51	3月28日	夜のミュージアム・トーク 考古学者のお道具箱	学芸部企画課研修生 無津呂健太郎	同上
52	3月31日	日本の中の小さな異国－出島と唐人屋敷－	交流課主任研究員 今井涼子	同上

4) その他展示に関連するイベント

31回 14,615人

	展覧会名等	期間	内容	会場	参加者数 (人)	備考
1	文化交流展	5月1日	新元号「令和」揮毫大会「元号を書いてみよう！」	エントランス	720人	
2		5月3日	きゅーはくで楽しく！ わく☆わくワークショップ 「令和」の古代文字フレームをつくろう！	研修室	80人	
3		5月4日、5日	「きゅーはく号」体験イベント 韓服を着てみよう！	屋外	—	
4		7月21日	トレジャーハンターみっちーとDr. ランディ のきゅーはくディスカバー 「タイムマシンにのって」	ミュージアムホール	110人	
5		8月6日～10月14日	びじゅチューン！きゅーはくなりきり美術館	文化交流展示室、他	—	
6		8月10日	特集展示「更紗 生命の花咲く布」関連イベント 茜染めワークショップ	研修室	20人	
7		9月14日	修復の現場お見せします！特別公開『博物館 科学・文化財保存修復施設』	バックヤード、修復施設等	53人	
8		9月25日	特集展示「更紗 生命の花咲く布」記念イベント ～インドの風～神祕の舞とシタール演奏	4階文化交流展示室および屋外、他	100人	
9		10月5日	ワークショップ「修理のヒミツにふれてみよう！」	研修室	25人	
10		11月30日～12月1日	特集展示「縄文王国やまなし」関連イベント 日本遺産「星降る中部高地の縄文世界」 【体験イベント】 ・黒曜石にさわってみよう ・縄文服を着てみよう ・縄文土器の拓本カードを作ろう	エントランス	475人	
11		12月1日	特集展示「縄文王国やまなし」関連イベント 映画「縄文にハマる人々」無料上映会&トークイベント	ミュージアムホール	142人	
12		2年1月19日、2月9日	ワークショップ&実演公開「刀剣を見て触れて 体感してみよう！」 〈体験〉五寸釘でペーパーナイフ作成、鏝型 チャームへの銀象嵌体験、刀剣の研磨体験、 刀の重さ体験 〈実演公開〉研磨実演、象嵌実演など	研修室	338人	
13		2年2月4日～2月9日	「刀剣ことはじめ」関連ブース 菊池氏発祥950年 第4回菊池一族と延寿鍛冶 展～日本の名刀展～PRブース	エントランス	—	
14		2年3月7日	きゅーはく女子考古部presents 古代の宴へようこそ！	ミュージアムホール		新型コロナウイルス感染予防拡 散防止のため閉 館により中止
15	特別 定展 「大 報恩 寺」快	4/23～5/6	グッズ1000円以上お買い上げの方限定 「六観音しおり」プレゼント	グッズショップ	—	
16		4/26～6/15までの金曜 日・土曜日（16日間）	プレゼント企画 夜間開館×特別展「京都 大報恩寺 快慶・定慶のみほとけ」梅が枝餅 引換券プレゼント！	展示室入口	1,684人	
17		5月26日	都 大報恩寺 快慶・定慶のみほとけ」記念 第14回さいふごま大会	ミュージアムホール	40人	
18	特別展 「室 町将 軍― 戦乱 と美 の足 利十 五代―」	7月13日	おっきいこんのすけ撮影会	エントランスホール	—	
19		7月13日～9月1日	刀剣勇士・大般若長光の等身大パネル設置	エントランスホール	—	
20		7/13～8/31までの金曜 日・土曜日および7/24、 7/25（17日間）	プレゼント企画 夜間開館×特別展「室町将 軍―戦乱と美の足利十五代―」梅が枝餅引換 券プレゼント！	展示室入口	2,935人	
21		7月15日	九州国立博物館杯 特別展「室町將軍」記念 第15回さいふごま大会	ミュージアムホール	50人	
22		7月19日、8月7日	実践！勘合貿易ワークショップ～あなたは貿易 できるか？～	研修室	10人	
23		8月1日、28日	視覚に障害をお持ちの方に向けた特別展観覧 ツアー	ミュージアムホール、特別展示室	25人	

24	日中文化交流協定締結40周年記念 特別展「三国志」	9月22日	九州国立博物館特別展「三国志」開催記念 第6回ミュージカル寄席 ミュージカル落語「三国志」	ミュージアムホール	256人	
25		10/4～12/21までの金曜日・土曜日および1/3、1/4（26日間）	【プレゼント企画】夜間開館×特別展「三国志」梅ヶ枝餅引換券&カプセルトイ引換券をプレゼント！	展示室入口	4,614人	
26		10月14日	井上涼 なりきり美術館&三国志コンサート	ミュージアムホール	581人	
27		10月27日	九州国立博物館杯 日中文化交流協定締結40周年記念特別展「三国志」記念 第16回さいふごま大会	ミュージアムホール	80人	
28		11月22日、12月14日	特別展「三国志」夜間開館イベント「三国志ナイトミュージアム 英雄(ヒーロー)現る!! ~もしも、卑弥呼の使者が曹操に出会ったら~」【手話通訳付き!】	特別展示室	700人	
29		11月23日	日中文化交流協定締結40周年記念 特別展「三国志」関連イベント「夜な夜な三国志」「夜な夜な大合戦」「夜な夜なMY缶バッジ」「今夜だけは。。。プレミアム生ガイド#呉」「孔明の危機?! 三国志的イルミネーション」「来場者プレゼント」	ミュージアムホール、エントランス、屋外、特別展示室入口、等	400人	
30		12月5日、12月11日	視覚に障害をお持ちの方に向けた特別展「三国志」観覧ツアー	特別展示室	30人	
31	特別展「ルネ・ユイグの形成と変容」大様式のフランス絵画の精華	2年2月7日～2月22日までの金曜・土曜日（6日間）	プレゼント企画 夜間開館×特別展「フランス絵画の精華」梅ヶ枝餅引換券をプレゼント！	特別展示室入口	1,147人	
32		2年2月22日	古楽器が奏でるフランス・バロック音楽のひととき	ミュージアムホール	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止	
33		2年3月1日	特別展「フランス絵画の精華」記念 第17回さいふごま大会	ミュージアムホール	同上	
34		2年3月3日～15日	フランス・スタンド	エントランス	同上	

1-(3)-①-3 児童生徒を対象とした教育普及事業

	東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
回数・人数 ※1 ※2	回数計	876回	回数計	447回	回数計	68回	回数計	2,053回
	参加者計	367,301人	参加者計	95,957人	参加者計	2,531人	参加者計	13,909人
	体験型プログラム等	671回 360,572人	体験型プログラム等	429回 94,743人	体験型プログラム等	33回 363人	体験型プログラム等	1,933回 4,047人
	学校との連携事業	205回 6,729人	学校との連携事業	18回 1,214人	学校との連携事業	35回 2,168人	学校との連携事業	120回 9,862人
	児童生徒を対象とした刊行物	6件 477,000部	児童生徒を対象とした刊行物	3件 35,000部	児童生徒を対象とした刊行物	3件 82,500部	児童生徒を対象とした刊行物	2件 120,000部
児童生徒を対象とした音声ガイド	— —	児童生徒を対象とした音声ガイド	— —	児童生徒を対象とした音声ガイド	1件 1,217台	児童生徒を対象とした音声ガイド	— —	

※1一定期間通して実施した事業については、期間の日数=回数としてカウントする

※2実施事業のうち、参加者数をカウントしていない、又は当該事業を実施した建物の入館者数のみ把握しているものについては、合計値に参加者数を計上していない。(実施回数は計上している。)

【東京国立博物館】

1) 体験型プログラム等

671回 360,572人

①ハンズオン展示等

552回 209,471人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備考
1	通年	総合文化展(東洋館)関連「アジアの古い体験」	東洋館6室	276回	54,230人	実際に体験した人数
2	通年	総合文化展(本館)「トーハクでデザイン」「トーハクで〇〇ができるまで」「トーハクで国宝をさぐる」「トーハクをまわそう」	本館19室	276回	155,241人	実際に体験した人数

②ワークショップ

20回 1,229人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備考
1	4月14日	ファミリーワークショップ「からだ動くエビを作ってみよう」	本館地下教育普及スペース	1回	18人	
2	7月13日、14日	ファミリーツアー「トーハク劇場へようこそ！考古展示室編」	平成館考古展示室	2回	49人	7/13：22名 7/14：27名
3	7月13日、14日	子どもツアー「トーハク劇場へようこそ！考古展示室編」	平成館考古展示室	2回	43人	7/13：16名 7/14：27名
4	8月4日	みんなでつくる貼り交ぜびょうぶ(ぬりえ)	本館2階ラウンジ	1回	672人	キッズデーイベントとして実施
5	8月4日	紙芝居「ぶんぶく茶釜」	本館2階4室	2回	110人	①30名 ②80名 キッズデーイベントとして実施
6	8月4日	紙芝居「じごくのそうべえ」	本館2階2室	2回	105人	①上巻：70名 ②下巻：35名 キッズデーイベントとして実施
7	8月4日	見学ガイドアプリ「学校版トーハクナビ」貸出サービス	本館2階	1回	60人	キッズデーイベントとして実施
8	8月20日、9月7日	ファミリーワークショップ「おどし体験！」	本館地下教育普及スペース	3回	50人	①8/20：16名 ②9/7 AM：14名 ③9/7 PM：20名
9	11月24日	ファミリーワークショップ「屏風体験！」	本館地下教育普及スペース、応挙館	1回	29人	
10	11月30日、12月1日	ファミリーツアー「トーハク劇場へようこそ！法隆寺宝物館編」	法隆寺宝物館	2回	40人	11/30：20名 12/1：20名
11	11月30日、12月1日	子どもツアー「トーハク劇場へようこそ！法隆寺宝物館編」	法隆寺宝物館	2回	39人	11/30：17名 12/1：22名
12	12月14日	ファミリーワークショップ「友禅染に挑戦」	本館地下教育普及スペース	1回	14人	
13	2月29日	ファミリーワークショップ「ひいな遊び—立雛を作ろう!—」	本館地下教育普及スペース	1回	人	※新型コロナウイルス感染予防・拡散防止のため中止
14	3月27日、28日、29日、30日、31日	桜ワークショップ「春らんまん 桜ぬりえ」	本館2階ラウンジ	0回	人	※新型コロナウイルス感染予防・拡散防止のため中止

③その他の体験型プログラム

— 回 — 人

④児童生徒を対象とした展示

98回 144,733人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備考
1	4月16日～5月26日	特集「親と子のギャラリー ツノのある動物」	平成館企画展示室	37回	—	通常の展示室のため、人数のカウントを行っていない
2	7月17日～9月23日	特集「親と子のギャラリー 日本のよろい！」 （「日本文化体験 日本のよろい！」と合同）	本館特別5室、特別4室	61回	144,733人	

⑤児童生徒を対象とした鑑賞会

1回 5,139人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備考
1	8月4日	トーハクキッズデー	本館、平成館考古展示室	1回	5,139人	未就学児から中学生までの入館者数を計数

2) 学校との連携事業

205回 6,729人

①スクールプログラム、来館学校団体等への対応

178回 6,086人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備考
1	通年	スクールプログラム	本館地下教育普及スペース、大講堂、展示室等	174回	6,049人	174校
2	5月17日、10月28日、12月17日、2月13日	盲学校のためのスクールプログラム	本館地下教育普及スペース、展示室等	4回	37人	4校

②出前授業等

— 回 — 人

③職場体験

24回 76人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備考
1	通年	職場体験の受け入れ	本館、東洋館ほか	24回	76人	24校、延べ65日

④教員を対象とした研修

3回 567人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備考
1	7月26日	「スクールプログラム」教員研修＋特別展「三国志」教員研修	大講堂	1回	242人	
2	10月3日	東京都教職員研修センター 専門性向上研修（社会科）	本館地下教育普及スペースほか	1回	18人	東京都の小中高社会科教員を対象にした研修への協力
3	1月17日	特別展「出雲と大和」教員研修	大講堂	1回	307人	

⑤その他の学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力に基づいた事業

— 回 — 人

3) 児童生徒を対象とした刊行物、音声ガイドの制作

①刊行物 6件 477,000部

	名 称	発行部数	備考
1	特別展「国宝 東寺—空海と仏像曼荼羅」ジュニアガイド	90,000部	
2	日中文化交流協定締結40周年記念 特別展「三国志」ジュニアガイド	200,000部	
3	御即位記念特別展「正倉院の世界—皇室がまもり伝えた美—」ジュニアガイド	50,000部	
4	日本書紀成立1300年 特別展「出雲と大和」ジュニアガイド	50,000部	
5	親と子のギャラリー「日本のよろい！」ワークシート	80,000部	
6	博物館に初もうで カレンダー付きワークシート	7,000部	

②音声ガイド — 件 — 台

③その他メディア — 件 — 台

【京都国立博物館】

1) 体験型プログラム等

429回 94,743人

①ハンズオン展示等

319回 45,477人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備考
1	通年	さわって発見！ミュージアム・カート	京都国立博物館 平成知新館	113回	45,477人	参加者は概算。年始を除く名品ギャラリー開室日の毎日実施。新型コロナウイルス感染予防・拡大防止のための臨時休館にともない、2月27日から3月22日のミュージアム・カートは中止となった。
2	通年	デジタル絵巻	京都国立博物館 平成知新館	206回	—	開館日の毎日、参加者数カウント不可。新型コロナウイルス感染予防・拡大防止のための臨時休館にともない、2月27日から3月22日のデジタル絵巻公開は中止となった。

*新型コロナウイルス感染拡大予防・拡散防止のため、2年2月27日から3月22日のミュージアム・カートは中止となった。

②ワークショップ

92回 9,971人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備考
1	4月13日～6月9日の開館日	一遍さんを探そう！～さわって楽しむ絵巻物～	京都国立博物館 平成知新館	51回	3,896人	特別展「国宝 一遍聖絵と時宗の名宝」関連ワークショップ
2	11月9日・10日	スタンプでうちわをデザインしよう！	国立淡路青少年交流の家	2回	363人	「ミュージアム・キッズ！全国フェア in あわじ」（こども☆ひかりプロジェクト主催）
3	10月12日～11月24日の開館日	顔を描こう！～和歌で感じる歌仙のころ～	京都国立博物館 平成知新館	37回	5,662人	特別展「流転100年 佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」関連ワークショップ ※10/12、10/13は台風接近により活動休止。11/18は臨時開館になったため、臨時活動を行った。
4	11月23日・24日	スタンプでバッグをデザイン！	羽生水郷公園	2回	50人	参加者は概算 「世界キャラクターさみっとin羽生」（世界キャラクターさみっとin羽生実行委員会主催）

③その他の体験型プログラム

10回 60人

1	4月14日 7月13日	トラりん登場！	奈良国立博物館	2回	—	奈良博の特別展「国宝の殿堂 藤田美術展 曜変天目茶碗と仏教美術のきらめき」及びわくわくびじゅつギャラリー「いのりの世界のどうぶつえん」に合わせ出張した。参加者数カウント不可
2	6月16日	トラりん登場！	京都府立植物園	1回	—	当館の特集展示「赤ってじつはどんな色？」にちなんで京都府立植物園で赤い花を探しながら博物館の紹介をした。参加者数カウント不可
3	6月22日 3月1日	トラりん登場！	京都市青少年科学センター	2回	—	当館の特集展示「赤ってじつはどんな色？」及び「謎まつりと人形」にちなんで京都市青少年科学センターで博物館の紹介をした。参加者数カウント不可
4	7月27日	トラりん登場！	京都市動物園	1回	—	当館の特集展示「赤ってじつはどんな色？」にちなんで京都市動物園で赤い動物を探しながら博物館の紹介をした。参加者数カウント不可
5	8月10日	トラりんといっしょ☆発見！化石ツアー	京都国立博物館 平成知新館	1回	60人	平成知新館壁面の化石を子供を中心とした参加者と探すツアーを実施した。講師は京都市青少年科学センターから招聘した。
6	11月10日	トラりん登場！	国立淡路青少年交流の家	3回	—	「ミュージアムキッズ！全国フェア2019」（こども☆ひかりプロジェクト主催）にて、当館の紹介を実施した。参加者数カウント不可

④児童生徒を対象とした展示

1回 38,963人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備考
1	7月2日～8月12日	特集展示「赤ってじつはどんな色？」	京都国立博物館 平成知新館	1回	38,963人	参加者は当該期間の入館者数

⑤児童生徒を対象とした鑑賞会

7回 272人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備考
1	8月4日（2回実施）	特集展示「赤ってじつはどんな色？」ギャラリートーク	研究員 安部真里奈	2回	54人	特集展示「謎とき美術！最初の一步」関連イベント
2	8月26日	記者体験in京都国立博物館	京都国立博物館 平成知新館	1回	134人	京都市立中学校の生徒（美術部員）を招き、国宝や重要文化財を鑑賞し、作品に対する考えや感想等を記事にまとめる「記者体験」を行った。 講師：京都国立博物館 文化財ソムリエ 主催：京都市教育委員会・京都市中学校美術科教育研究会
3	9月7日（4回実施）	KYOTO博物館子どもフォーラム「文化財に親しむ授業スペシャル！」	京都国立博物館 平成知新館	4回	84人	I COM京都大会を記念し、当館で開催されるKYOTO博物館子どもフォーラム（主催：KYOTO博物館子どもフォーラム実行委員会）のプログラムの一つとして、「文化財に親しむ授業スペシャル！」を実施。 講師：京都国立博物館 文化財ソムリエ

2) 学校との連携事業

18回 1,214人

① スクールプログラム、来館学校団体等への対応

7回 328人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備考
1	5月16日	京都府立福知山高等学校附属中学校	京都国立博物館	1回	44人	博物館の仕事紹介、特別展「国宝 一邇聖絵と時宗の名宝」解説、自由観覧
2	5月17日	静岡県駿東郡長泉町立北中学校	京都国立博物館	1回	3人	博物館の歴史、特別展「国宝 一邇聖絵と時宗の名宝」解説、自由観覧
3	9月11日	京都市立八瀬小学校	京都国立博物館	1回	11人	名品ギャラリー解説、自由観覧
4	10月19日	京都府立鴨沂高等学校	京都国立博物館	1回	16人	絵巻の鑑賞ポイント解説と取り扱い体験
5	11月12日	滋賀県立守山高等学校	京都国立博物館	1回	1人	博物館の仕事に関するインタビュー対応
6	11月19日	京都市立嵐山東小学校	京都国立博物館	1回	1人	博物館の仕事に関するインタビュー対応
7	1月10日	大谷高等学校	京都国立博物館	1回	252人	名品ギャラリー解説、自由観覧

② 出前授業等

7回 683人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備考
1	6月3日～5日	文化財に親しむ授業 京都市立京都御池中学校 9年生	京都市立京都御池中学校	1回	240人	教材：尾形光琳筆「八橋図屏風」(複製)、講師：文化財ソムリエ
2	7月19日	文化財に親しむ授業 京都市立砂川小学校 6年生	京都市立砂川小学校	1回	80人	教材：依屋宗達筆「風神雷神図屏風」(複製)、講師：文化財ソムリエ
3	9月12日	文化財に親しむ授業 京都市立大藪小学校 6年生	京都市立大藪小学校	1回	70人	教材：依屋宗達筆「風神雷神図屏風」(複製)、講師：文化財ソムリエ
4	10月3日	文化財に親しむ授業 京都市立春日野小学校 6年生	京都市立春日野小学校	1回	50人	教材：依屋宗達筆「風神雷神図屏風」(複製)、講師：文化財ソムリエ
5	10月25日	文化財に親しむ授業 京都市立大塚小学校 6年生	京都市立大塚小学校	1回	103人	教材：依屋宗達筆「風神雷神図屏風」(複製)、講師：文化財ソムリエ
6	11月29日	文化財に親しむ授業 京都市立朱雀第四小学校 6年生	京都市立朱雀第四小学校	1回	40人	教材：依屋宗達筆「風神雷神図屏風」(複製)、講師：文化財ソムリエ
7	12月17日	文化財に親しむ授業 京都市立朱雀中学校 1年生	京都市立朱雀中学校	1回	100人	教材：依屋宗達筆「風神雷神図屏風」(複製)、講師：文化財ソムリエ

③ 職場体験

一回 一人

④ 教員を対象とした研修

2回 68人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備考
1	8月2日	文化財を教室に！ー複製を活用した事例紹介と交流会ー	京都国立博物館	1回	18人	発表者：南洋平（和歌山県立粉河高等学校）、松村祐花（文化財ソムリエ/京都女子大学）、東明日香（文化財ソムリエ/同志社大学）、安部真里奈（京都国立博物館 研究員）
2	8月20日	社会科教員のための向上講座（小）社会科授業実践力向上講座（中・高・総）社会科教員指導力向上講座	京都国立博物館	1回	50人	講義「特別企画〈京博寄託の名宝〉鑑賞ポイント」呉孟晋（京都国立博物館 主任研究員） 主催：京都市教育委員会・京都市小学校社会科教育研究会・京都市中学校教育研究会社会科部会

⑤ その他の学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力に基づいた事業

2回 135人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備考
1	11月12日	京都市立烏丸中学校 鑑賞の授業	京都市立烏丸中学校	1回	44人	教材：尾形光琳筆「八橋図屏風」(複製) 複製を活用した授業への助言・当日の補助を行った
2	12月9日	京都市立洛西中学校 鑑賞の授業	京都市立洛西中学校	1回	91人	教材：依屋宗達筆「風神雷神図屏風」(複製) 複製を活用した授業への助言・当日の補助を行った

3) 児童生徒を対象とした刊行物、音声ガイドの制作

① 刊行物

3 35,000部

	名称	発行部数	備考
1	特集展示「赤ってじつはどんな色？」関連ワークシート	18,000部	7月発行。観覧者（子ども～大人）対象。
2	博物館Dictionary No.215～220	12,000部	7月、8月、9月、1月、2月、3月発行。観覧者（子ども～大人）対象。220号は臨時休館となったため配架は出来なかったが、他の号と同様、公式ウェブサイトに掲載した。
3	平成知新館子どもガイド 第2版	5,000部	2015年に発行した「平成知新館子どもガイド」を第2版として一部内容を改訂して増刷した。

② 音声ガイド

一件 一台

③その他メディア 4件

	名 称	発行部数	備 考
1	虎BLOG	—	公式キャラクター「トラりん」のブログを活用し、展覧会やイベント等について親しみやすく紹介。
2	トラりんTwitter	—	公式キャラクター「トラりん」のTwitterを活用し、展覧会やイベント等について親しみやすく紹介。
3	トラりんFacebook	—	公式キャラクター「トラりん」のFacebookを活用し、展覧会やイベント等について親しみやすく紹介。
4	トラりんYouTube	—	公式キャラクター「トラりん」のYouTubeを活用し、展覧会やイベント等について親しみやすく紹介。

【奈良国立博物館】

1) 体験型プログラム等 33回 363人

①ハンズオン展示等 一回 一回

②ワークショップ 12回 228人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数(人)	備 考
1	5月5日	藤田美術展関連イベント「オリジナル絵巻を作ろう」	地下回廊	2回	31人	午前・午後1回ずつ実施
2	5月19日	藤田美術展関連イベント「親子向け抹茶体験ワークショップ」	地下回廊	2回	42人	午前・午後1回ずつ実施
3	5月26日	藤田美術展関連イベント「曜変天目茶碗モチーフのアクセサリ作り」	会議室	2回	27人	午前・午後1回ずつ実施
1	7月24日～25日	親子で学ぼう 奈良の仏像	講堂・展示室	2回	144人	
4	7月26日	「夏休みファミリー新聞教室」ではがき新聞づくり	講堂・展示室	1回	50人	
5	8月17日	絵本づくりワークショップ「とびだす!うごく!いのりの世界のどうぶつ」	地下回廊	2回	37人	午前・午後1回ずつ実施
6	2月11日	親子ワークショップ「チョコパンケーキを作って食べよう」	地下回廊	1回	41人	午前・午後1回ずつ実施

③その他の体験型プログラム 一回 一人

④児童生徒を対象とした展示 20回 一人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数(人)	備 考
1	10月26日～11月14日	正倉院展短歌コンクール受賞作品展示	地下回廊	20回	—	2018年度受賞作品を展示

⑤児童生徒を対象とした鑑賞会 1回 135人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数(人)	備 考
1	10月27日	御即位記念 第71回正倉院展 親子鑑賞会	講堂	1回	135人	

2) 学校との連携事業 35回 2,168人

①スクールプログラム、来館学校団体等への対応

10回 833人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備 考
1	5月～3月	学校プログラム	講堂・なら仏像館	10回	833人	ボランティアによるスライド学習、なら仏像館案内

②出前授業等 一回 一人

③職場体験 1回 3人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備 考
1	7月25日～7月26日	職場体験(奈良県立青翔中学校)	全館	1回	3人	

④教員を対象とした研修 一回 一人

⑤その他の学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力に基づいた事業

24回 1,332人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備 考
1	6月～1月	奈良市世界遺産学習	講堂・なら仏像館	24回	1,332人	ボランティアによるスライド学習、なら仏像館案内

3) 児童生徒を対象とした刊行物、音声ガイドの制作

①刊行物 3件 82,500部

	名 称	発行部数	備 考
1	特別展「国宝の殿堂 藤田美術館展 曜変天目茶碗と仏教美術のきらめき」のジュニアガイド「藤田でんざぶろうからの挑戦状」	22,000部	4月発行。観覧者(子ども～大人)対象。

2	わくわくびじゅつギャラリー「いのりの世界のどうぶつえん」のワークシート「なぞとき！いのりの世界のどうぶつえん」	42,500部	7月発行。観覧者（子ども～大人）対象。日本語・英語・中国語・韓国語の4言語でそれぞれ作成し、発行。日本語版は13,500部、英語版は7,000部、中国語版は19,000部、韓国語版は3,000部、それぞれ発行した。
3	わくわくびじゅつギャラリー「いのりの世界のどうぶつえん」のうちわ型クイズ式ワークシート	18,000部	7月発行。観覧者（子ども～大人）対象。

②音声ガイド 1件 1,217台

	名称	台数	備考
1	御即位記念 第71回正倉院展(日本版・子供向け)	1,217台	利用台数

③その他メディア 1件

【九州国立博物館】

1)体験型プログラム等 1,933回 4,047人

①ハンズオン展示（あじっば・あじ庵・あじぎやら）等
1,783回

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備考
1	3月5日～6月30日	針聞書の世界～はらのむしランキング～	あじぎやら	118回	—	展示日数
2	4月9日～9月16日	世界のゲーム	あじ庵	161回	—	展示日数
3	5月8日～2年3月31日	世界各国の帽子たち	あじっば	302回	—	展示日数
4	6月18日～12月15日	インドネシアの伝統芸能	ディスプレイ	181回	—	展示日数
5	7月2日～11月17日	世界の美しい入れものたち	あじぎやら	139回	—	展示日数
6	7月22日～11月17日	令和～太宰府の歌碑	あじぎやら	118回	—	展示日数
7	8月20日～2月2日	衣装体験～クバヤとカイン	あじ庵	166回	—	展示日数
8	10月1日～2年3月31日	日本屋台 ～伝統的な生活	あじっば	156回	—	展示日数
9	10月8日～2年3月31日	ウズヘキスタン屋台～シタールの響き	あじっば	149回	—	展示日数
10	11月19日～2年3月8日	お年玉切手の郷土人形	あじっば	110回	—	展示日数
11	12月17日～2年3月31日	刺繍の集い	ディスプレイ	104回	—	展示日数
12	2年2月4日～3月31日	お雛様かざりとさげもん	あじ庵	57回	—	展示日数
13	2年3月10日～3月31日	はらのむしの仲間たち	あじぎやら	22回	—	展示日数

1,783回

②ワークショップ 20回 1,096人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数(人)	備考
1	5月11日、9月29日、2年2月8日	なりきり学芸員体験	あじぎやら	6回	36人	小学校3年生以上(大人も可)、各回6人
2	6月9日	馬頭琴コンサート&ワークショップ	ミュージアムホール	1回	10人	小学生以上、10名
3	7月13日	ガムランワークショップ	ミュージアムホール	1回	28人	小学生以上、各回28名
4	7月19日、8月7日	実践！勘合貿易ワークショップ～あなたは貿易できるか？～	研修室	4回	33人	視覚障害者10名含む
5	7月27日、28日	行こうよ！あじっば夏祭り	ミュージアムホール	1回	940人	
6	8月4日	歴史学フォーラム ～グループディスカッション	ミュージアムホール	1回	19人	フォーラム参加生徒対象
7	8月10日、11月24日	なりきり考古学者体験	あじぎやら	6回	30人	小学校4年生以上(大人も可)、各回5人

20回

1,096人

③その他の体験型プログラム 36回 2,951人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数(人)	備考
1	5月3日、5月4日	きゅーはく夢広場(民族衣装体験)	九州国立博物館	2回	150人	
2	5月9日	きゅーはくきやらばん(古代衣装体験)	水巻町立伊左座小学校	1回	80人	
3	6月23日	きゅーはくきやらばん(民族楽器・衣装体験)	熊本県立装飾古墳館	1回	180人	
4	6月28日	きゅーはくきやらばん(古代文字スタンプづくり)	大野城市立大利小学校	1回	40人	

5	8月7日、8月7日	きゅーはくきやらばん(民族楽器体験)	福岡県庁	2回	40人	
6	10月14日	きゅーはくきやらばん(民族楽器・衣装体験)	長崎歴史文化博物館	1回	65人	
7	10月19日、20日	きゅーはくきやらばん(拓本作り)	横浜高島屋	2回	100人	
8	10月24日	きゅーはくきやらばん(民族楽器体験)	大野城市立下大利小学校	1回	60人	
9	10月28日	きゅーはくきやらばん(鬼瓦づくり)	大野城市立大野東小学校	1回	80人	
10	11月1日、2日	きゅーはくきやらばん(鬼瓦づくり)	兵庫県立考古博物館	1回	100人	
11	11月9日、10日	きゅーはくきやらばん(鬼瓦づくり)	国立淡路青少年交流の家	2回	180人	
12	11月9日	きゅーはくきやらばん(民族楽器体験)	宗像市立河東西小学校	1回	150人	
13	11月10日	紙芝居「まちこの冒険」	石人山・弘化谷古墳公園	2回	40人	きゅーはく女子考古部の活動
14	11月17日	きゅーはくきやらばん(民族楽器体験・鬼瓦作り)	朝倉市民センター	1回	100人	
15	11月22日、12月14日	三国志ナイトミュージアム「英雄(ヒーロー) 現る!!～もしも卑弥呼の使者が曹操に出会ったら～」	特別展室	6回	700人	
16	11月23日	きゅーはくきやらばん(民族衣装体験)	玄海少年自然の家	1回	156人	
17	11月24日	きゅーはくきやらばん(民族楽器・衣装体験)	なみきスクエア	1回	250人	
18	11月26日	きゅーはくきやらばん(古代文字スタンプ作り)	大野城市立大野小学校	1回	80人	
19	11月30日、12月1日	きゅーはくきやらばん(民族楽器体験・中国の展示)	九州芸文館	2回	100人	
20	12月2日	きゅーはくきやらばん(ウズベキスタンの帽子づくり、民族楽器・衣装・玩具体験)	久留米市立篠山小学校	1回	80人	
21	12月5日、12月11日	三国志視覚障害者向け観覧ツアー	特別展室	2回	30人	
22	12月7日	きゅーはくきやらばん(歴史体※鬼瓦・勘合等)	福岡市市民福祉プラザ	1回	80人	
23	2年1月12日、13日	きゅーはくきやらばん(民族楽器体験)	佐賀県立博物館・美術館	2回	110人	

④児童生徒を対象とした展示 94回

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数(人)	備考
1	4月23日～6月16日	特別展「京都 大報恩寺 快慶・定慶のみほとけ」わかりやすいパネル、展示、動画	展覧会会場	49回	—	開催日数
2	7月13日～9月1日	特別展「室町将軍-戦乱と美の足利15代」わかりやすいパネル、体験コーナー	展覧会会場	45回	—	開催日数

⑤児童生徒を対象とした鑑賞会 — 回 — 人

2) 学校との連携事業 120回 9,862人

①スクールプログラム、来館学校団体等への対応 40回 2,530人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備考
1	5月23日	田川市立田川中学校	研修室・文化交流展示室	1回	50人	
2	5月28日	新宮町立新宮中学校相島分校	研修室・文化交流展示室	1回	17人	
3	5月31日	田川市立金川中学校	研修室・文化交流展示室	1回	59人	
4	6月5日	久留米市立長門石小学校	研修室・文化交流展示室	1回	61人	
5	6月11日	大任町立今任小学校	研修室・文化交流展示室	1回	18人	
6	6月13日	春日市立白水小学校	ミュージアムホール・文化交流展示室	1回	95人	
7	6月14日	中間市立中間中学校	ミュージアムホール・文化交流展示室	1回	105人	
8	6月14日	柳川市立皿垣小学校・有明小学校	研修室・文化交流展示室	1回	28人	
9	6月18日	古賀市立舞の里小学校	研修室・文化交流展示室	1回	53人	
10	6月21日	久留米市立善導寺小学校	研修室・文化交流展示室	1回	66人	
11	6月21日	久留米市立青峰小学校	研修室・文化交流展示室	1回	26人	
12	6月26日	古賀市立花見小学校	研修室・文化交流展示室	1回	83人	

13	7月2日	飯塚市立穂波西中学校	ミュージアムホール・文化交流展示室	1回	130人	
14	7月9日	田川市立後藤寺中学校	研修室・文化交流展示室	1回	67人	
15	7月10日	直方市立感田小学校	ミュージアムホール・文化交流展示室	1回	124人	
16	7月17日	豊前市立角田小学校	研修室・文化交流展示室	1回	13人	
17	8月27日	八女市立黒木中学校	研修室・文化交流展示室	1回	6人	
18	8月30日	久留米市立櫛原中学校	研修室・文化交流展示室	1回	75人	
19	9月11日	直方市立上頓野小学校	研修室・文化交流展示室	1回	64人	
20	9月13日	みやま市立山川中学校	研修室・文化交流展示室	1回	45人	
21	9月20日	大川市立田口小学校	研修室・文化交流展示室	1回	47人	
22	10月24日	行橋市立行橋中学校	ミュージアムホール・文化交流展示室	1回	199人	
23	10月30日	大刀洗町立菊池小学校	研修室・文化交流展示室	1回	62人	
24	11月1日	飯塚市立鯉田小学校	研修室・文化交流展示室	1回	33人	
25	11月6日	芦屋町立芦屋東小学校	研修室・文化交流展示室	1回	28人	
26	11月15日	直方市立中泉小学校	研修室・文化交流展示室	1回	43人	
27	11月19日	太宰府市立国分小学校	ミュージアムホール・文化交流展示室	1回	110人	
28	11月20日	鞍手町立古月小学校	研修室・文化交流展示室	1回	19人	
29	11月27日	古賀市立千鳥小学校	研修室・文化交流展示室	1回	52人	
30	11月28日	行橋市立櫛市小学校	研修室・文化交流展示室	1回	36人	
31	12月4日	飯塚市立飯塚第二中学校	ミュージアムホール・文化交流展示室	1回	103人	
32	12月13日	行橋市立仲津中学校	研修室・文化交流展示室	1回	48人	
33	12月17日	うきは市立山春小学校	研修室・文化交流展示室	1回	19人	
34	2年1月10日	大任町立大任中学校	研修室・文化交流展示室	1回	49人	
35	2年1月15日	飯塚市立立岩小学校	ミュージアムホール・文化交流展示室	1回	140人	
36	2年1月17日	鞍手町立西川小学校	研修室・文化交流展示室	1回	15人	
37	2年1月23日	太宰府市立水城西小学校	ミュージアムホール・文化交流展示室	1回	160人	
38	2年1月24日	豊前市立八屋小学校	ミュージアムホール・文化交流展示室	1回	53人	
39	2年2月6日	太宰府市立太宰府東小学校	研修室・文化交流展示室	1回	72人	
40	2年2月19日	久留米市立西牟田小学校	研修室・文化交流展示室	1回	57人	
41	2年2月27日	筑紫野市立天拝中学校	ミュージアムホール・文化交流展示室		人	新型コロナウイルス感染予防・拡大防止のため中止

②出前授業等

5回 214人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備考
1	6月5日、6月19日	総合学習飛び梅タイム「歴史探訪コース」	太宰府中学校	2回	14人	
2	10月1日	博物館ガイダンス	ゆめさが大学佐賀校	1回	120人	
3	10月10日	博物館ガイダンス	ゆめさが大学鹿島校	1回	40人	
4	11月11日	博物館ガイダンス	ゆめさが大学唐津校	1回	40人	

③職場体験

17回 87人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備考
1	6月～11月 2年2月～3月	中学校等職場体験	全館	17回	87人	

④教員を対象とした研修

1回 13人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備考
1	8月2日	「先生のための博物館活用術！」	研修室、展示室	1回	13人	

⑤その他の学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力に基づいた事業

57回 7,018人

	開催日	事業名称等	開催場所	回数	参加者数	備考
1	12月18日～20日	高校生インターンシップ	会議室・あじっば・あじぎやら	1回	6人	
2	4月1日～2年3月31日	学校貸出キット「きゅうばっく」の貸し出し	—	56回	7,012人	93バック

①刊行物

2件 120,000部

	名 称	冊数	備 考
1	特別展「室町将軍—戦乱と美の足利十五代—」ワークシート	70,000部	
2	特別展「日中文化交流協定締結50周年記念 三国志」	50,000部	

②音声ガイド

— —

③その他メディア

— 件 — 回

1-(3)-①-4 大学生・大学院生を対象とした教育事業

令和2年3月31日現在

	東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
	インターンシ ップ	22人	インターンシ ップ	2人	インターンシ ップ	0人	インターンシ ップ	8人
	大学との連携講 座	1件 38人	大学との連携講 座	1件 6人	大学との連携講 座	2件 11人	大学との連携講 座	2件 128人
	見学対応	18回 374人	見学対応	2回 42人	見学対応	3回 106人	見学対応	2回 44人
	その他	1回 166人	その他	23回 349人	その他	一回 一人	その他	13回 250人

【東京国立博物館】

1) インターンシップ

22人

受入期間	7月3日～2年3月31日		
受入部署	学芸企画部／出版企画室、国際交流室、博物館教育課、教育普及室、教育講座室、ボラン ティア室、情報管理室 学芸研究部／考古室、保存修復課 総務部／総務課		
参加者数	22人	学校数	17大学／1専門学校
担当研究員数	4人		
事業内容	博物館学芸員を目指す学生の学習意欲の喚起、高い職業意識の育成を目的とした就業体験 プログラム。学生は受入部署において、10～30日間の活動を行った。		

2) 大学等との連携講座

1件

38人

期 間	8月26日～8月30日		
回 数	5回		
開催場所	平成館大講堂、平成館小講堂、本館地下みどりのライオン、本館2階会議室		
参加者数	38人	学校数	24大学／1専門学校
担当研究員数	3人		
事業内容	キャンパスメンバーズ校を対象とした教育連携事業「博物館学講座」を実施した。		

3) 見学対応

18回

374人

期 間	年間		
開催場所	全館対象		
参加者数	374人	学校数	17大学／1専門学校
担当研究員数	4人		
事業内容	鑑賞の支援及び、文化財・博物館への理解促進のため、大学生や大学院生、専門学校生を 対象に、東京国立博物館の展示や活動についてのガイダンスを実施した。		

4) その他

1回

166人

期 間	8月28日		
回 数	1回		
開催場所	平成館大講堂		
参加者数	166人	学校数	31大学／2専門学校
担当研究員数	2人		
事業内容	キャンパスメンバーズ校を対象とした教育連携事業「博物館セミナー」を実施した。		

【京都国立博物館】

1) インターンシップ

2人

受入期間	8月19日～8月30日、9月9日～9月20日		
受入部署			
参加者数	2人	学校数	2大学／0専門学校
担当研究員数	2人		
事業内容	文化財修復大学院生インターンシップ協議会より推薦を受けた学生について、国宝修理装 潢師連盟の協力を得て、文化財修復に関わる加盟大学院生2名のインターンを文化財保存 修理所にて受け入れた。11月16日には平成知新館4F研修室にて2名による報告会を行っ た。(出席者19名)		

2) 大学等との連携講座

1件

6人

内 容	京都大学大学院人間・環境学研究科の歴史文化社会論講座		
実施日	通年		
開催場所	京都国立博物館		

受入人数	6人
担当研究員数	4人

3) 見学対応 2回 42人

期 間	11月6日		
開催場所	京都国立博物館		
参加者数	25人	学校数	1大学 / 0専門学校
担当研究員数	1人		
事業内容	美術教育などを専門に学ぶ大学生・大学院生を対象に、当館の博物館教育活動の概要を解説した。		

4) その他 23回 349人

期 間	9月13日		
回 数	1		
開催場所	京都国立博物館 文化財保存修理所		
参加者数	15人	学校数	10大学 / 0専門学校
担当研究員数	2人		
事業内容	保存修復技術を専攻する大学院生のための研修会を実施した。実際の修理現場の見学・説明といった研修を行い、学生の意欲や目的意識の向上を図った。		

期 間	5月16日、5月23日、5月30日、6月20日、6月27日、7月4日、7月11日、8月29日、9月12日、9月19日、9月26日、10月10日、10月17日、11月7日、11月14日、12月5日、12月12日、1月9日、2月6日、2月20日		
回 数	20		
開催場所	京都国立博物館		
参加者数	19人	学校数	8大学 / 0専門学校
担当研究員数	3人		
事業内容	「文化財ソムリエに向けたスクーリング」 京都市内の小中学校で文化財の高精細複製品を用いた訪問授業を行う「文化財ソムリエ」養成のためのスクーリングを実施した。 参加者は、京都市内及びその周辺の大学で日本文化を専門に学ぶ大学生、大学院生。スクーリングでは、教材となる文化財の取り扱い方法や作品の専門的な知識について当館の研究員が解説をした。また、授業案の作成では文化財ソムリエ同士の主体的な議論を促し、必要に応じて助言をした。		

期 間	4月26日、11月1日		
回 数	2		
開催場所	京都国立博物館		
参加者数	203人	学校数	32大学 / 0専門学校
担当研究員数	1人		
事業内容	京都国立博物館キャンパスメンバーズ会員校の学生・教職員を対象とした特別展「国宝 一遍聖絵と時宗の名宝」、特別展「流転100年 佐竹本三十六歌仙と王朝の美」にかかる講演会を実施した。		

【奈良国立博物館】

1) インターンシップ 0人

2) 大学等との連携講座 2件 11人

内 容	奈良女子大学大学院人間文化研究科との連携講座		
実施日	前期、後期		
開催場所	奈良女子大学、奈良国立博物館		
受入人数	2人 (前期1人、後期1人)		
担当研究員数	1人		

内 容	神戸大学大学院人文学研究科との連携講座		
実施日	通年		
開催場所	奈良国立博物館		
受入人数	9人		
担当研究員数	2人		

3) 見学対応 3回 106人

期 間	年間		
開催場所	全館対象		
参加者数	106人	学校数	3大学／ 0専門学校
担当研究員数	3人		
事業内容	鑑賞の支援及び、文化財・博物館への理解促進のため、大学生や大学院生、専門学校生を対象に、奈良国立博物館の展示や活動についてのガイダンスを実施した。		

【九州国立博物館】

1) インターンシップ 8人

受入期間	8月19日～8月23日（5日間）		
受入部署	学芸部博物館科学課		
参加者数	8人	学校数	3大学／ 0専門学校
担当研究員数	5人		
事業内容	文化財修理の基本となる作業を体験できる貴重な機会を提供した。		

2) 大学等との連携講座 2件 128人

内 容	放送大学の面接授業		
実施日	12月5日、6日		
開催場所	九州国立博物館		
受入人数	38人		
担当研究員数	8人		

内 容	筑紫女学園大学アジア文化学科「体験－ミュージアムデ学ぶアジア」連携講座		
実施日	4月17日		
開催場所	筑紫女学園大学		
受入人数	90人		
担当研究員数	1人		

3) 見学対応 2回 44人

期 間	年間		
開催場所	全館対象		
参加者数	44人	学校数	2大学／ 0専門学校
担当研究員数	2人		
事業内容	当館の概要についての講義、展示室の解説等を実施した。		

4) その他 13回 250人

期 間	4月16日、23日、5月8日、5月14日、5月15日		
回 数	5回		
開催場所	筑紫女学園大学		
参加者数	200人	学校数	1大学／ 0専門学校
担当研究員数	1人		
事業内容	バックヤードツアー		

期 間	8月21日～9月2日（10日間）		
回 数	1回		
開催場所	全館		
参加者数	15人	学校数	11大学／ 0専門学校
担当研究員数	2人		
事業内容	博物館実習		

期 間	5月17日、6月7日、7月19日、8月23日、10月18日、12月20日、2年1月31日		
回 数	7回		
開催場所	九州国立博物館1階エントランス（オープンカフェ）		
参加者数	35人	学校数	1大学／ 0専門学校
担当研究員数	2人		
事業内容	カフェコンサート		

1-(3)-①-5 キャンパスメンバーズ

令和2年3月31日現在

東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
60校	32校 (※)	27校 (※)	23校

※うち京都国立博物館・奈良国立博物館共通加入23校

【東京国立博物館】

①加入校数 (60校)

	学校名	学生数	入会日	備考
1	桜美林大学	10,602人	20年4月1日	
2	武蔵野美術大学	8,039人	20年4月1日	
3	文化学園(文化学園大学、文化学園大学短期大学部、文化ファッション大学院大学、文化服装学院、文化外国語専門学校)	7,771人	20年4月1日	
4	東京学芸大学	6,318人	20年4月1日	
5	東京藝術大学	4,744人	20年4月1日	
6	東京大学	35,050人	20年4月1日	
7	お茶の水女子大学	3,498人	20年4月1日	
8	杉野学園(杉野服飾大学、杉野服飾大学短期大学部、杉野学園ドレスメーカー学院)	1,248人	20年4月1日	
9	大正大学	5,686人	20年4月1日	
10	東海大学	32,318人	20年4月1日	
11	青山学院大学・青山学院女子短期大学	22,690人	20年4月1日	
12	メイ・ウシヤマ学園(ハリウッド大学院大学、ハリウッド美容専門学校)	634人	20年4月1日	
13	多摩美術大学	5,377人	20年4月1日	
14	立教大学	23,492人	20年4月1日	
15	首都大学東京	9,760人	20年4月1日	
16	女子美術大学・女子美術大学短期大学部	3,786人	20年4月1日	
17	東京造形大学	1,977人	20年4月1日	
18	法政大学	40,097人	20年4月1日	
19	筑波大学	21,359人	20年4月1日	
20	昭和女子大学	6,605人	20年4月1日	
21	実践女子大学・実践女子短期大学	5,084人	20年5月1日	
22	東洋大学	34,449人	20年6月1日	
23	東洋美術学校	1,169人	20年6月1日	
24	日本大学(芸術学部・芸術学研究科)	4,902人	20年6月1日	
25	文教大学	9,730人	20年7月1日	
26	上智学院(上智大学、上智短期大学部、上智社会福祉専門学校)	16,987人	20年10月1日	
27	国際基督教大学	3,363人	21年4月1日	
28	学習院女子大学	1,985人	21年11月1日	
29	獨協大学	9,727人	22年4月1日	
30	学習院大学	10,783人	22年4月1日	
31	東京工業大学	11,402人	22年7月1日	
32	日本女子大学	8,461人	23年4月1日	
33	二松学舎大学	3,357人	23年5月1日	
34	東京家政大学・東京家政大学短期大学部	7,740人	23年6月1日	
35	神奈川大学	19,975人	24年6月1日	
36	日本工業大学	4,942人	24年7月1日	
37	東京女子大学	4,717人	24年8月1日	
38	尚美学園大学	2,928人	25年4月1日	
39	中央大学(文学部・文学研究科)	4,389人	25年6月1日	
40	麗澤大学	3,075人	25年6月1日	
41	慶応義塾大学	45,035人	25年8月1日	
42	共立女子大学・共立女子短期大学	6,062人	26年4月1日	
43	成城大学(文芸学部・文学研究科)	1,958人	26年4月1日	
44	日本文化大学	849人	27年4月1日	
45	鶴見大学(文学部・文学研究科)	1,501人	27年5月1日	
46	十文字学園女子大学	3,802人	27年6月1日	
47	早稲田大学	54,551人	27年6月1日	
48	東京外国語大学	4,697人	28年4月1日	
49	横浜国立大学	10,665人	28年4月1日	
50	國學院大学・國學院大学北海道短期大学部	12,328人	28年4月1日	
51	聖心女子大学	2,758人	28年5月1日	
52	津田塾大学	3,583人	29年8月1日	
53	清泉女子大学	2,008人	29年10月1日	
54	立正大学(文学部)	2,302人	30年4月1日	
55	東京国際大学・東京国際大学付属日本語学校	7,496人	30年4月1日	
56	明治大学(文学部・文学研究科)	3,917人	30年5月1日	
57	大妻女子大学・大妻女子大学短期大学部	7,889人	31年4月1日	
58	明星大学	9,097人	31年4月1日	
59	宝塚大学	997人	元年5月29日	
60	東洋英和女学院大学	2,726人	元年6月1日	

※キャンパスメンバーズ対象人数が学生+教員数のため、学生数には教員の人数も含む。

【京都国立博物館】

① 加入校数 (32校)

	学校名	学生数	入会日	入会内容	備考
1	学校法人 瓜生山学園	12,326人	18年6月1日	京博のみ	
2	帝塚山大学	3,546人	18年6月1日	奈良博との共通加入	
3	奈良女子大学	2,681人	18年6月1日	奈良博との共通加入	
4	嵯峨美術大学・嵯峨美術短期大学	992人	18年7月1日	奈良博との共通加入	
5	学校法人 京都女子学園	7,060人	18年7月1日	奈良博との共通加入	
6	京都精華大学	3,023人	18年7月1日	奈良博との共通加入	
7	京都橘大学	5,319人	18年7月1日	奈良博との共通加入	
8	龍谷大学	21,038人	18年7月1日	奈良博との共通加入	
9	成安造形大学	901人	18年8月1日	京博のみ	
10	京都大学	23,380人	18年9月1日	奈良博との共通加入	
11	近畿大学 文芸学部・総合文化研究科	2,191人	18年9月1日	奈良博との共通加入	
12	花園大学	1,798人	18年11月1日	京博のみ	
13	大谷大学	3,371人	18年12月1日	京博のみ	
14	佛教大学	15,313人	19年4月1日	奈良博との共通加入	
15	京都工芸繊維大学	4,038人	19年6月1日	奈良博との共通加入	
16	学校法人 同志社	40,013人	19年6月1日	奈良博との共通加入	
17	奈良大学	3,636人	19年6月1日	奈良博との共通加入	
18	奈良先端科学技術大学院大学	1,183人	19年12月1日	奈良博との共通加入	
19	就実大学 人文科学部	1,096人	20年4月1日	奈良博との共通加入	
20	京都教育大学	2,310人	20年7月1日	奈良博との共通加入	
21	京都市立芸術大学	1,070人	20年8月1日	京博のみ	
22	大阪大学	24,323人	20年12月1日	奈良博との共通加入	
23	京都外国語大学 京都外国語大学短期大学	4,697人	21年8月1日	奈良博との共通加入	
24	学校法人 関西大学	30,893人	23年6月1日	奈良博との共通加入	
25	京都府立大学	2,116人	23年7月1日	京博のみ	29年4月に一時退会、10月に再入会
26	学校法人 京都産業大学	14,949人	24年8月1日	京博のみ	
27	学校法人 立命館	40,715人	26年4月1日	奈良博との共通加入	
28	学校法人 二本松学院	2,430人	29年4月1日	京博のみ	
29	四天王寺大学 人文科学部	1,854人	29年5月1日	奈良博との共通加入	
30	学校法人 関西学院	27,769人	30年4月1日	奈良博との共通加入	
31	大手前大学	2,506人	30年6月1日	京博のみ	
32	大阪大谷大学	3,176人	30年11月1日	奈良博との共通加入	

【奈良国立博物館】

①加入校数 (27校)

	学校名	学生数	入会日	入会内容	備考
1	奈良教育大学	1,310人	18年4月4日	奈良博のみ	
2	帝塚山大学	3,546人	18年5月8日	京博との2館併用	
3	奈良女子大学	2,681人	18年5月15日	京博との2館併用	
4	嵯峨美術大学・嵯峨美術短期大学	992人	18年6月9日	京博との2館併用	
5	京都精華大学	3,023人	18年6月28日	京博との2館併用	
6	京都橘大学	5,319人	18年6月30日	京博との2館併用	
7	龍谷大学・龍谷大学短期大学部	21,038人	18年6月30日	京博との2館併用	
8	京都大学	23,380人	18年8月22日	京博との2館併用	
9	近畿大学文芸学部・近畿大学大学院総合文化研究科	2,191人	18年8月24日	京博との2館併用	
10	奈良佐保短期大学	284人	18年11月29日	奈良博のみ	
11	佛教大学	15,313人	19年4月1日	京博との2館併用	
12	奈良大学	3,636人	19年5月2日	京博との2館併用	
13	京都工芸繊維大学	4,038人	19年6月1日	京博との2館併用	
14	学校法人 同志社 (同志社大学、同志社女子大学、同志社高等学校、同志社香里高等学校、同志社女子高等学校、同志社国際高等学校)	40,013人	19年6月1日	京博との2館併用	
15	奈良先端科学技術大学院大学	1,138人	19年11月7日	京博との2館併用	
16	就実大学 人文科学部	1,096人	20年4月1日	京博との2館併用	
17	天理大学	3,232人	20年7月1日	奈良博のみ	
18	京都教育大学・京都教育大学附属高等学校	2,310人	20年7月1日	京博との2館併用	
19	大阪大学・大阪大学歯学部附属歯科技工士学校	24,323人	20年12月1日	京博との2館併用	
20	京都外国語大学・京都外国語短期大学	4,697人	21年8月1日	京博との2館併用	
21	関西大学・関西大学第一高等学校・関西大学北陽高等学校、 関西大学高等部	33,822人	23年6月1日	京博との2館併用	
22	奈良工業高等専門学校	1,097人	23年7月1日	奈良博のみ	
23	立命館大学	42,958人	26年4月1日	京博との2館併用	
24	京都女子大学	7,060人	29年4月1日	京博との2館併用	
25	四天王寺大学 人文・社会学部	1,854人	29年5月1日	京博との2館併用	
26	学校法人 関西学院	27,769人	30年4月1日	京博との2館併用	
27	大阪大谷大学	3,176人	30年11月1日	京博との2館併用	

②キャンパスメンバーズを対象とした事業

事業名：キャンパスメンバーズカード	
内 容	キャンパスメンバーズ加入大学の学生のレポート来館を促すことを目的にキャンパスメンバーズカードを作成、来館毎にスタンプを押印し、3回目と6回目に当館のオリジナルグッズを進呈するスタンプラリーを実施。8月17日に奈良教育大学と連携して展覧会に関連した親子向けのワークショップを実施。

【九州国立博物館】

① 加入校数 (23校)

	学校名	学生数	入会日	備考
1	九州産業大学	10,634人	19年4月1日	
2	久留米大学	7,219人	19年4月1日	
3	西南学院大学	8,561人	19年4月1日	
4	筑紫女学園大学	2,565人	19年4月1日	
5	福岡教育大学	3,000人	19年4月1日	
6	福岡大学	20,119人	19年4月1日	
7	九州産業大学造形短期大学部	308人	19年4月1日	
8	福岡女子短期大学	332人	19年4月1日	
9	久留米大学医学部附属臨床検査専門学校	129人	19年4月1日	
10	久留米大学附設高等学校	621人	19年4月1日	
11	西南学院高等学校	1,308人	19年4月1日	
12	筑紫女学園高等学校	1,513人	19年4月1日	
13	筑紫台高等学校	1,587人	19年4月1日	
14	福岡大学附属大濠高等学校	1,918人	19年4月1日	
15	福岡大学附属若葉高等学校	888人	19年4月1日	
16	放送大学福岡学習センター	2,508人	19年5月1日	
17	早稲田大学大学院情報生産システム研究科（北九州キャンパス）	411人	20年4月1日	
18	九州大学	18,973人	20年5月1日	
19	九州情報大学	440人	21年4月1日	
20	日本経済大学（福岡キャンパス）	2,083人	21年5月1日	
21	日本赤十字九州国際看護大学	464人	23年4月1日	
22	第一薬科大学	1,017人	27年4月1日	
23	福岡有朋高等専修学校	433人	29年4月1日	

1-(3)-①-6 「留学生の日」

館名・日程	内容	アンケート結果概要
<p>東京国立博物館</p> <p>11月3日(日・祝)</p> <p>9:30~21:00</p>	<p>○来館者数 16,216人 参加者数 444人《803人》 内 留学生 420人 同伴者 24人 ALT 0人</p> <p>・無料観覧(総合文化展のみ) ※「文化の日」のため総合文化展無料観覧</p> <p>・ボランティアによる英語ガイド 参加者数:393人 ・ボランティアによるガイドツアー 参加者数:491人 ・ギャラリートーク(中国語・英語) 参加者数:87人 ・留学生のための自分で着てみるきもの体験 参加者:40人 ・留学生のためのお茶体験 参加者:110人</p>	<p>・留学生アンケート回答者数20人 (回収率4.5%)</p> <p>・来館頻度:初めて75%、2回目以降20%</p> <p>・認知経路:ポスター55%、インターネット25% 他</p> <p>・出身国:中国40% 他</p> <p>・また博物館にきたいか:ぜひ来たい65%、来たい35%、たぶん来ない0%、来ない0%</p>
<p>京都国立博物館</p> <p>11月1日(金)</p> <p>9:30~20:00</p>	<p>○参加者数 38人《39人》 留学生 38人《39人》</p> <p>・特別展「流転100年 佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」観覧料を団体料金に割引 ・公式キャラクター「トラりん」ノベルティグッズプレゼント ・キャンパスメンバーズ対象講演会の開放</p>	<p>・留学生アンケート回答者数1人 (回収率2%)</p> <p>・来館頻度:来たことがある100%</p> <p>・「留学生の日」:初めて100%</p> <p>・認知経路:ポスター・チラシを見て100%、HPを見て100%、チラシをもらって100%、友人・教師0% 他0%</p> <p>・展示内容:とても良かった100%、良かった以下0%</p> <p>・出身国:中国</p>
<p>奈良国立博物館</p> <p>11月1日(金)</p> <p>9:00~18:00 (正倉院展会期中のため9:00開館)</p>	<p>○来館者数 12,175人《12,336人》 留学生 71人《109人》</p> <p>・「正倉院展」(特別展)及び「名品展」の無料観覧</p>	<p>・アンケート実施せず (正倉院展開催中につき実施困難のため)</p>
<p>九州国立博物館</p> <p>11月3日(日・祝)</p> <p>9:30~17:00</p>	<p>○来館者数 文化交流展(平常展) 1,867人《1,298人》 留学生 8人《22人》 留学生限定文化交流ツアーin九博参加者 18人</p> <p>※同伴者のカウントはなし</p> <p>・文化交流展(平常展)のみ無料観覧 ・留学生限定文化交流ツアーin九博</p>	<p>・留学生アンケート回答者数16人(回収率88%)</p> <p>・出身国:中国8人、台湾6人、カナダ1人、不明1人</p> <p>・来館回数:1回6人、2回4人、3回1人、4回1人、不明4人</p> <p>・認知経路(複数回答):チラシ・ポスター4人、ホームページ1人、学校から6人、友達から4人、ガイドブック3人、留学生イベントをきっかけに知った9人</p> <p>・満足度(文化交流ツアーin九博):とてもよかった16人</p> <p>・文化交流ツアーin九博の全体の流れやスタッフの対応:とてもよかった14人、よかった2人</p> <p>※アンケートは「留学生限定文化交流ツアーin九博」参加者のみから回収。</p>

* 来館者数、参加者数等:《 》内は平成30年度

1-(3)-①-7 ボランティア受入実績

(後述の資料に記載) ◎共通資料b

1-(3)-①-8 友の会・メンバーズパス等

1) 会員数

友の会 (29年4月1日改定)

令和2年3月31日現在

区分 館名	友の会会員数	(参考) 年会費
東京国立博物館	3,145 人	8,000 円
九州国立博物館	91 人	10,000 円

メンバーズプレミアムパス (29年4月1日より新設)

令和2年3月31日現在

区分 (年会費) 館名	会員数	一般 (5,000 円)	一般 (3,100 円)	学生 (3,500 円)	学生 (3,000 円)	学生 (2,100 円)	家族 (10,000 円)
東京国立博物館	15,816 人	15,467 人	-	349 人	-	-	-
奈良国立博物館 (奈良博プレミアムカード)	1,112 人	1,075 人	-	-	26 人	-	11 人
九州国立博物館	4,369 人	-	2,370 人	-	-	1,999 人	-

国立博物館メンバーズパス (4館共通/29年4月1日より新設) 令和2年3月31日現在

区分 (年会費) 館名	会員数	一般 (2,000 円)	学生 (1,000 円)
東京国立博物館	4,037 人	3,828 人	209 人
京都国立博物館	1,073 人	1,026 人	47 人
奈良国立博物館	245 人	222 人	23 人
九州国立博物館	46 人	42 人	4 人

2) 各種会員を対象とした事業

友の会会員を対象とした事業

【東京国立博物館】

特別展無料観覧券6枚贈呈、総合文化展招待券6枚贈呈、『東京国立博物館ニュース』、東大寺講演会開催案内送付、コンサートチケット割引、当館ミュージアムショップ・レストラン・カフェでの割引。

【九州国立博物館】

当館特別展観覧券8枚贈呈、季刊情報誌「アジアージュ」、特別展示ちらし、特別展連続講座等イベント案内送付、当館ミュージアムショップ・レストラン・カフェでの割引、入会時の記念品プレゼント。

メンバーズプレミアムパスを対象とした事業

【奈良国立博物館】(奈良博プレミアムカード)

- ①『奈良国立博物館だより』(年4回)の配布
- ②『奈良国立博物館展示案内』(年1回)の配布
- ③当館ミュージアムショップでの展覧会図録の割引
- ④当館レストランでの飲食料金の割引
- ⑤近隣他館の入館料金割引または無料
- ⑥当館研究員による解説付きの別鑑賞会を実施
 - ・4月17日(水) 特別展「国宝の殿堂 藤田美術館展」
特別鑑賞会 参加人数179人
 - ・10月29日(火) 特別展「第71回正倉院展」
特別鑑賞会 参加人数182人
 - ・2月12日(水) 特別展特別展「毘沙門天ー北方鎮護のカミー」
特別鑑賞会 参加人数166人

【九州国立博物館】

- ①当館特別展の無料観覧（計4回まで、うち同一展は2回まで）
- ②当館平常展の無料観覧

1-(3)-①-9 賛助会

1) 会員数

令和2年3月31日現在

館名	京都国立博物館			奈良国立博物館	九州国立博物館
	東京国立博物館	(一般社団法人 清風会)	(ミュージアム・ パートナー)		
件数	686件	513件	8件	102件	47件
内訳	プレミアム会員(個人):4人 特別会員(団体):21団体 特別会員(個人):15人 維持会員(団体):54団体 維持会員(個人):592人	賛助会員(団体):31団体 特別会員(団体):25団体 特別会員(個人):74人 普通会員(団体):21団体 普通会員(個人):362人	団体会員:7件 個人会員:1件	特別支援会員:4団体 特別会員:4団体 一般会員(団体):18団体 一般会員(個人):76人	プレミアム会員(個人):2人 特別会員(個人):4人 維持会員(個人):20人 プレミアム会員(団体):1団体 特別会員(団体):2団体 維持会員(団体):18団体

2) 賛助会員を対象とした事業

【東京国立博物館】

- ①当館総合文化展、特別展（維持会員および特別会員個人は展覧会毎に1回）の無料観覧
- ②各特別展開会式へのご招待
- ③各特別展につき1回の特別鑑賞会へのご招待
- ④『東京国立博物館ニュース』（年6回）の配布
- ⑤当館ミュージアムショップの商品の一部割引
- ⑥当館レストラン、カフェでの飲食料金の割引
- ⑦東大寺講演会開催案内送付
- ⑧コンサートチケットの割引

【京都国立博物館】

- ①『京都国立博物館だより』（年4回）の配布
- ②当館平常展（平成知新館名品ギャラリー）、特別展の無料観覧
- ③清風会が行う鑑賞会、見学会、会報に協力
- ④当館ミュージアムショップの商品の一部割引
- ⑤国際シンポジウム（年1回）案内の発送

【奈良国立博物館】

- ①当館平常展、特別展の無料観覧
- ②各特別展開会式へのご招待
- ③展覧会図録の1冊贈呈
- ④『奈良国立博物館カレンダー』（年1回）の贈呈
- ⑤『奈良国立博物館だより』（年4回）の配布
- ⑥当館ミュージアムショップでの展覧会図録の割引
- ⑦当館レストランでの飲食料金の割引
- ⑧当館研究員による解説付きの賛助会員特別鑑賞会を実施
 - ・4月16日（火） 特別展「国宝の殿堂 藤田美術館展」
特別鑑賞会 参加人数58人
 - ・10月28日（月） 特別展「第71回正倉院展」
特別鑑賞会 参加人数142人
 - ・2月4日（火） 特別展「毘沙門天ー北方鎮護のカミィー」
特別鑑賞会 参加人数34人

【九州国立博物館】

- ①当館文化交流展、特別展の無料観覧
- ②各特別展開会式へのご招待
- ③各特別展につき1回の特別鑑賞会へのご招待
- ④特別展図録の贈呈
- ⑤季刊情報誌『アジアージュ』（年4回）の配布
- ⑥当館駐車場無料利用
- ⑦当館施設利用料割引
- ⑧当館レストラン、カフェでの飲食料金の割引

1-(3)-①-10 渉外活動

令和2年3月31日現在

【東京国立博物館】

1) 会場提供 1件

	期間	種類 (イベント、 講演会等)	イベント等の概要	会場	出席者数 (人)	備考
1	11月26日 ～12月1日	展示会	台東区主催によるイベント(伝統工芸職人展)	平成館ラウンジ	4,814	

2) 館主催・協カイベント 26件

	期間	種類 (イベント、 講演会等)	イベント等の概要	会場	出席者数 (人)	備考
1	4月2日	音楽会	東京・春・音楽祭2019 桜の街の音楽会 坂東真奈実&黒川実咲	法隆寺宝物館	184	主催：東京・春・音楽祭実行委員会 協力：東京国立博物館
2	4月3日	音楽会	東京・春・音楽祭2019「東博でバッハ vol.45」石川滋	法隆寺宝物館	128	主催：東京・春・音楽祭実行委員会 協力：東京国立博物館
3	4月11日	音楽会	東京・春・音楽祭2019「東博でバッハ vol.46」上野通明	法隆寺宝物館	136	主催：東京・春・音楽祭実行委員会 協力：東京国立博物館
4	4月19日	講演会	東大寺講演会	平成館大講堂	295	主催：東京国立博物館、東大寺
5	4月27日	イベント	上野の森パレエホリデイ 野外シネマ	表慶館前	467	主催：文化庁、上野の森パレエ ホリデイ実行委員会
6	5月11日～12日	イベント	東京シシマイコレクション2020 プレ	本館前庭	2,215	主催：東京文化財研究所、日本芸 術文化振興会、東京国立博物館
7	6月16日	音楽会	東京国立博物館 初夏のコンサート	平成館ラウンジ	167	主催：東京国立博物館、サロン・ ド・ソネット
8	6月30日	イベント	初夏東博寄席	平成館大講堂	419	主催：東京国立博物館
9	7月26日～27日	イベント	トーハクBEER NIGHT!	平成館前庭	3,296	主催：東京国立博物館
10	8月4日	イベント	キッズデー 日本の楽器のコンサート	平成館大講堂	374	主催：東京国立博物館
11	8月31日	音楽会	クラリネットコンサート	平成館大講堂	602	主催：東京国立博物館、東京ク ラリネット・クワイアー
12	9月20日～21日	イベント	博物館で野外シネマ	本館前庭	5,678	主催：東京国立博物館
13	9月23日	音楽会	東京国立博物館 秋のコンサート	平成館ラウンジ	240	主催：東京国立博物館、サロ ン・ド・ソネット
14	10月11日	音楽会	Music Weeks in TOKYO まちなかコンサ ート	本館大階段	174	主催：東京文化会館他 共催：東京国立博物館他
15	10月31日～ 11月4日	イベント	創エネ・あかりパーク2019に伴うライトア ップ	本館前庭	—	主催：「創エネ・あかりパーク 2019」実行委員会 協力：東京国立博物館
16	11月13日	講演会	東大寺講演会	平成館大講堂	296	主催：東京国立博物館、東大寺
17	11月26日～ 12月1日	展示会	第16回台東区の伝統工芸職人展	平成館ラウンジ	4,814	主催：台東区 共催：東京国立博物館
18	12月6日～7日	音楽会	トーハクジャズフェスティバル	平成館ラウンジ 他	750	主催：東京国立博物館、大和ハウ ス工業株式会社
19	12月15日	音楽会	クリスマスコンサート	平成館ラウンジ	255	主催：東京国立博物館、サロン・ ド・ソネット
20	2年1月2日～3 日	イベント	和太鼓(湯島天神白梅太鼓)	本館前	3,089	主催：東京国立博物館
21	2年1月2日～3 日	イベント	獅子舞(葛西囃子中村社中)	本館前	2,289	主催：東京国立博物館
22	2年1月2日	イベント	寄席文字	平成館ラウンジ	120	主催：東京国立博物館
23	2年1月3日	イベント	クラリネット(ジュリアンズ)	平成館ラウンジ	854	主催：東京国立博物館
24	2年1月26日	イベント	新春東博寄席	平成館大講堂	350	主催：東京国立博物館
25	2年2月12日	音楽会	文化の杜の音めぐり	本館大階段	312	主催：上野文化の杜新構想実行委 員会
26	2年3月14日	イベント	「日本博」2020 オープニング・セレモニ ー 記念講演「月雪花にあそぶ—日本の音 と声と舞」	本館前庭	—	主催：文化庁、日本芸術文化振興 会

【京都国立博物館】

1) 会場提供 95 件

	期間	種類 (イベント、 講演会等)	イベント等の概要	会場	出席者 (人)	備考
1	4月1日、5日、 8日	研修会	従事者研修	研修室、会議室	40	
2	4月4日、10 日、13日、24日	茶道教室	茶道教室	茶室	5	
3	4月5日、12 日、19日、26 日、5月10日、 17日、24日、31 日、6月7日、14 日、21日、28 日、7月5日、12 日、19日	授業	授業「伝統芸術入門（茶道）」	茶室	17	
4	4月6日	茶席	茶席	茶室	7	
5	4月7～11日	イベント	化粧品会社発表会	明治古都館、平成知 新、技術資料参考館	119	
6	4月12日～6月9 日	イベント	特別展にかかる音声ガイドの貸出等	平成知新館	20	
7	4月12日～6月9 日	イベント	特別展にかかる物販・図録の販売等	平成知新館	20	
8	4月15日	鑑賞会	時宗展清浄光寺貸切鑑賞会	講堂、展示室	58	
9	4月18日	研修会	修理技術者資格制度 新任者研修	研修室	18	
10	4月20日	茶道教室	茶道教室	茶室	5	
11	4月21日	講演会	時宗展政田マリ講座	講堂	49	
12	4月24日	イベント	映像上映・演奏	講堂	30	
13	4月27日	コンサート	ヒジヤミュージッククラブコンサート	講堂	180	
14	4月27日、28日	茶席	茶会	茶室	50	
15	4月28日	コンサート	時宗展声明公演	講堂	204	
16	5月12日、16 日、19日、22日	茶道教室	茶道教室	茶室	5	
17	5月16日	審査	修理技術者資格制度 登録審査	研修室、会議室	12	
18	5月18日	茶席	茶席	茶室	30	
19	5月24日	研修会	損保ホールディングス企業研修	茶室、展示室	27	
20	5月26日	講演会	国際博物館の日・ICOM 京都大会 2019 開催 記念シンポジウム	講堂	200	
21	5月30日	茶道教室	茶道教室	茶室	9	
22	6月7日	講演会	日本結晶成長学会特別講演会	講堂	120	
23	6月11日	茶席	茶席	茶室	10	
24	6月12日、15日	茶道教室	茶道教室	茶室	12	
25	6月18日	研修会	全国消防長会東近畿支部予防業務研究会	講堂	145	
26	6月19日、23 日、26日	茶道教室	茶道教室	茶室	18	
27	6月21日	会議	京都市内博物館施設連絡協議会 総会	講堂	100	
28	6月25日	説明会	ICOM 京都大会出展者説明会	講堂	200	
29	6月28日	研修会	国宝修理装こう師連盟 加盟工房従業員に 対する講習会	講堂	120	
30	7月2日、11 日、19日	茶道教室	茶道教室	茶室	25	
31	7月14日	茶席	茶会	茶室	10	
32	7月15日、16日	イベント	京まふ 2019 実行委員会及び記者会見	明治古都館、大会議 室	150	

	期間	種類 (イベント、 講演会等)	イベント等の概要	会場	出席者 (人)	備考
33	7月22日	研修会	修理技術者資格制度 中・上級講習会	研修室、会議室	12	
34	7月26日	会議	修理技術者資格制度 試験準備委員会	研修室、会議室	12	
35	8月18日、19日	コンサート	「天体と音楽」テーマの科学・音楽コミュニケーション	講堂、接客室1、2	285	
36	8月26日	イベント	市立中学校美術部員「記者体験」	講堂、展示室	134	
37	8月31日	会議	ICOM-DRMC ワークショップ	会議室1、研修室	30	
38	9月1日	会議	ICOM-UMAC ワークショップ	会議室1、研修室	30	
39	9月1日	会議	ICOM COSTUME ミーティング	研修室	10	
40	9月1日～4日	イベント	京都の名宝×トッパンVR	講堂	1110	
41	9月1日～7日	イベント	臨時出張所開催（切手等販売所）	エントランスロビー	5	
42	9月2日	イベント	訪日外国人向けVR上映付きツアーのテスト実施	講堂	15	
43	9月5日、13日	茶道教室	茶道教室	茶室	16	
44	9月5日	会議	ICOMAM オフサイトミーティング	技術資料参考館	30	
45	9月5日	会議	ICOM-ICEE オフサイトミーティング	講堂	50	
46	9月7日	イベント	ICOM 京都大会閉会式	明治古都館、技術資料参考館	200	
47	9月7日	イベント	ICOM 京都大会閉会パーティー	庭園	1500	
48	9月15日、9月16日	茶席	お茶会の開催	茶室	60	
49	9月17日	研修会	社内研修	講堂	100	
50	9月19日～23日	イベント	海外ブランドの企画展	明治古都館、庭園、接客室	300	
51	9月19日、28日	茶席	茶道教室	茶室	12	
52	9月22日	茶席	茶席	茶室	5	
53	10月1日	資格試験	修理技術者資格制度 試験	研修室、会議室1、会議室2	23	
54	10月2日、4日	研修会	従事者研修	研修室、会議室	40	
55	10月4日、11日、18日、25日、11月8日、15日、22日、29日、12月6日、13日、20日、1月10日、17日、24日、31日	授業	授業「伝統芸術入門（茶道）Ⅱ」	茶室	17	
56	10月6日～11日	研修会	指定文化財 企画・展示セミナー	会議室1	30	
57	10月10日、17日、19日、23日	茶道教室	茶道教室	茶室	26	
58	10月11日～11月24日	イベント	特別展にかかる音声ガイドの貸出等	平成知新館	20	
59	10月11日～11月24日	イベント	特別展にかかる物販・図録の販売等	平成知新館	20	
60	10月15日	鑑賞会	協賛社特別鑑賞会	展示室、接客室2	2000	
61	10月20日	イベント	大阪ダイハツ優待店奥様のつどい貸切パーティー	グランドロビー、講堂	110	
62	10月21日、22日	茶席	雑誌「きものSalon」茶会	茶室	36	
63	10月21日～28日	イベント	展示商談会	明治古都館	360	
64	10月23日	講演会	日経名古屋支社主催 販売店主・ロータリークラブ観覧ツアー	講堂	50	
65	10月25日～27日	茶席	お茶会の開催	茶室	100	

	期間	種類 (イベント、 講演会等)	イベント等の概要	会場	出席者 (人)	備考
66	10月29日	講演会	展覧会講座の開催	研修室	10	
67	10月29日	講演会	講演会	講堂	50	
68	10月29日	講演会	京都新聞マーケティングフォーラム	講堂	30	
69	10月30日	鑑賞会	日経読者特別鑑賞会	展示室、接客室2	800	
70	10月31日	講演会	文化財保護に関する講演会	研修室	49	
71	11月2日	茶道教室	茶道教室	茶室	5	
72	11月5日	資格試験	修理技術者資格制度 試験	研修室、会議室1、 会議室2	23	
73	11月6日、14日	茶席	お茶会の開催	茶室	15	
74	11月6日、16日、17日、23日、24日	イベント	秋は夕暮れ企画	庭園	436	
75	11月7日	茶席	「わん・碗・ONE茶会」開催	茶室	50	
76	11月9日、10日	茶席	茶会	茶室	100	
77	11月13日	茶道教室	茶道教室	茶室	6	
78	11月20日	イベント	コンサート	講堂、接客室1	200	
79	11月22日	講演会	講演会	講堂	50	
80	11月27日	茶席	茶会	茶室	5	
81	11月29日、30日	研修会	修理技術者資格制度 講習会	研修室、会議室2	11	
82	12月1日	講演会	公開シンポジウム「文化財を考える」	講堂	210	
83	12月5日、7日	茶道教室	茶道教室	茶室	11	
84	12月8日	イベント	表彰式（京都景観賞京町家部門）	講堂	200	
85	12月14日	イベント	ドレスアップナイト	明治古都館、本館前 広場	100	
86	12月15日	講演会	天平会第850回例会・研修講演	講堂	50	
87	2年1月8日	研修会	河井寛次郎についての研究会	接客室1	8	
88	2年1月14日、1月18日、1月22日	茶道教室	茶道教室	茶室	18	
89	2年1月26日	茶席	茶会	茶室	40	
90	2年2月2日	講演会	副葬品学習講座	講堂	50	
91	2年2月8日	上映会	映像上映会	講堂	28	
92	2年2月15日	茶道教室	茶道教室	茶室	3	
93	2年2月16日	コンサート	アンサリーワンマンライブ	講堂	200	
94	2年2月24日	会議	ICOMに関係したシンポジウムの開催	講堂、接客室2	150	
95	2年3月11日	結婚式	結婚式	明治古都館	80	

2) 館主催・協力イベント 27件

	期間	種類 (イベント、 講演会等)	イベント等の概要	会場	出席者 (人)	備考
1	4月13日	講演会	記念講演会「時宗教団の変遷」	講堂	116	特別展「時宗二祖上人七百年御遠忌記念 国宝 一辺聖絵と時宗の名宝」関連イベント
2	4月24日	イベント	映像上映・演奏	講堂	30	主催：アジア・アメリカ現代音楽協会 後援：当館

	期間	種類 (イベント、 講演会等)	イベント等の概要	会場	出席者 (人)	備考
3	4月27日	講演会	記念講演会「一遍・真教の念仏思想」	講堂	121	特別展「時宗二祖上人七百年御遠忌記念 国宝 一遍聖絵と時宗の名宝」関連イベント
4	4月27日	コンサート	ヒジヤミュージッククラブコンサート	講堂	180	主催：Hijiya Music Club（京都国立博物館ミュージアムパートナー） 後援：当館
5	5月11日	講演会	記念講演会「国宝 一遍聖絵—旅と風景、その魅力と謎—」	講堂	171	特別展「時宗二祖上人七百年御遠忌記念 国宝 一遍聖絵と時宗の名宝」関連イベント
6	5月18日	講演会	記念講演会「時宗のみほとけ—阿弥陀と祖師像を中心に—」	講堂	110	特別展「時宗二祖上人七百年御遠忌記念 国宝 一遍聖絵と時宗の名宝」関連イベント
7	5月24日	イベント	京都・らくご博物館（春）	講堂	173	主催：当館 制作協力：米朝事務所
8	5月25日	講演会	記念講演会「一遍聖絵に見る聖性と熊野信仰」	講堂	190	特別展「時宗二祖上人七百年御遠忌記念 国宝 一遍聖絵と時宗の名宝」関連イベント
9	6月18日	研修会	全国消防長会東近畿支部予防業務研究会	講堂	145	主催：全国消防長会東近畿支部 共催：当館
10	8月9日	イベント	京都・らくご博物館（夏）	講堂	119	主催：当館 制作協力：米朝事務所
11	8月10日	イベント	トラりんといっしょ☆発見！化石ツアー	講堂、グランドロビー	60	主催：当館
12	8月18日、19日	コンサート	「天体と音楽」テーマの科学・音楽コミュニケーション	講堂、接客室1、接客室2	285	主催：「天体と音楽」実行委員会 後援：当館
13	8月20日	講座	講義「特別企画〈京博寄託の名宝〉鑑賞ポイント」	講堂	39	主催：京都市教育委員会・京都市小学校社会科教育研究会・京都市中学校教育研究会社会科部会・京都市立高等学校社会科研究会
14	8月26日	イベント	記者体験 in 京都国立博物館	講堂、展示室	134	主催：京都市教育委員会、京都市中学校美術科教育研究会 共催：当館
15	9月1日～4日	イベント	京都の名宝×トッパンVR	講堂	1,110	主催：凸版印刷株式会社 共催：当館
16	9月7日	イベント	KYOTO 博物館子どもフォーラム「文化財に親しむ授業スペシャル！」	グランドロビー、講堂、庭園	84	主催：KYOTO 博物館子どもフォーラム実行委員会（ICOM 京都大会 2019 京都推進委員会、京都府ミュージアムフォーラム、京都市内博物館施設連絡協議会、当館）
17	10月13日	講演会	開幕記念講演会「冷泉家の歴史と文化 — 冷泉流歌道をめぐって」	講堂	168	特別展「流転 100 年 佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」関連イベント
18	10月19日	講演会	記念講演会「歌仙絵の成立と展開 — 佐竹本への道のり—」	講堂	190	特別展「流転 100 年 佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」関連イベント
19	11月2日	講演会	記念講演会「歌仙絵の最高峰 — 佐竹本三十六歌仙絵の表現と情緒—」	講堂	200	特別展「流転 100 年 佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」関連イベント
20	11月8日、9日	イベント	十二単お服上げの再現—現代につながる王朝の美	講堂	754	主催：文化庁、独立行政法人日本芸術文化振興会、当館、日本経済新聞社、学校法人国際文化学園 国際文化理容美容専門学校 衣紋道東京道場
21	11月15日	イベント	京都・らくご博物館（秋）	講堂	113	主催：当館 制作協力：米朝事務所
22	11月16日	講演会	記念講演会「佐竹本三十六歌仙絵への想い」	講堂	200	特別展「流転 100 年 佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」関連イベント
23	11月20日	イベント	コンサート	講堂、接客室1	200	主催：Hijiya Music Club 後援：当館
24	12月1日	講演会	公開シンポジウム「文化財を考える」	講堂	210	主催：一般社団法人文化財保存修復学会 後援：当館
25	2年1月4日	イベント	新春能	講堂	393	主催：当館
26	2年1月12日	イベント	芸舞妓 春の舞	講堂	365	主催：当館
27	2年2月9日	イベント	トークイベント「いまひとたびの『風神雷神』 原田マハと京博の研究者たち」	講堂	180	主催：当館

【奈良国立博物館】

1) 会場提供 41 件

	期間	種類 (イベント、講演 会等)	イベント等の概要	会場	出席者(人)	備考
1	4月7日	茶会	茶会	茶室	114	茶道審和会 岸正博
2	4月11日	茶会	茶会	茶室	20	学茶会 黒川宗賢
3	4月15日、4月22日	貸切	藤田美術館展 貸切ギャラリートーク	新館	240	ジェイアール東海ツアーズ
4	4月15日、5月20日	貸切	藤田美術館展 藤田関係者貸切ツアー	新館	62	藤田美術館
5	毎週木曜日	講座・セミナー	一般教養講座開催のため 史跡探訪部講座開催のため	講堂	各回150 各回80 総合計5,000	奈良シニア大学 森田緑
6	5月15日	撮影	関西テレビ「よ〜いドン!」 水曜日コーナー	敷地内	—	(株)ブリッジ
7	5月17日	講座・セミナー	新入生合宿研修のため	講堂	40	京都府立大学文学部歴史学科 諫早直人
8	5月21日	撮影	ブライダル前撮り撮影	茶室	6	Wakana style + 峪口治恵
9	5月21日	撮影	ブライダル前撮り撮影	関野ホール	6	Wakana style + 峪口治恵
10	5月29日	講座・セミナー	施設見学のため	講堂	24	東京芸術大学美術研究科文化財保存学 土屋裕子
11	6月1日	貸切	藤田美術館展貸切鑑賞会	新館	36	クラブツーリズム
12	6月4日	ツアー	藤田美術館展ツアー	新館	27	淡交社
13	6月11日～13日	調査	交通量を把握するため一時使用	敷地内	1	中央コンサルタンツ㈱
14	6月22日	撮影	奈良テレビ「ゆうドキッ!」 「奈良をつくった偉人」	敷地内	—	C-core 清水真巳子
15	7月10日	イベント	クリーンアップならディアパーク2019	敷地内	—	奈良の鹿愛護会
16	7月25日	撮影	Webサイト「まいどなニュース」 「鹿だまり」の撮影	敷地内	1	(株)おふいす・ととも 國松珠実
17	8月2日	講座・セミナー	教員対象の研修	講堂	30	大阪府高等学校美術・工芸教育研究会 松村理身
18	8月4日	イベント	MASERATI MEETS NARA	敷地内	120	(株)ツアーアンドフォー
19	8月5日～14日	イベント	「なら燈花会」ろうそくやオブジェを設置	当館敷地	—	なら燈花会の会
20	8月17日	講義	集中講義	講堂	42	奈良女子大学
21	8月28日	講座・セミナー	日独学生青年リーダー交流事業の一環として職員との交流	講堂	40	国立曽爾青少年自然の家
22	8月29日	撮影	成人式前撮り	関野ホール	6	ブライダル着付け*百花*
23	9月1日	イベント	春日野音楽祭まちなかステージ	敷地内	—	春日野音楽祭実行委員会
24	9月9日	撮影	ウェディングフォト	関野ホール	6	Wakana style + 峪口治恵
25	10月2日～4日	茶会と撮影	茶会及び撮影	茶室	20	藤田美術館
26	10月26日	講座・セミナー	「行基誕生1351年記念シンポジウム」開催	関野ホール	150	(一社)近畿建設協会
27	10月26日～11月14日	キャンペーン	正倉院展図録、グッズ等の販売	西新館・地下回廊	—	(財)仏教美術協会
28	10月26日～11月14日	キャンペーン	休憩所及びフード・ドリンクの販売	新館西側敷地	—	㈲日本クリーンシステムズ
29	10月26日～11月14日	キャンペーン	奈良県特産品の物販	新館西側敷地	—	校倉な会
30	10月26日～11月14日	キャンペーン	奈良県特産品の物販	新館西側敷地	—	なら和み館
31	10月26日～11月14日	キャンペーン	郵便切手・はがき類の販売	新館西側敷地	—	奈良中央郵便局
32	11月2日	撮影	「歴史街道 わたしたにのまちの歴史と文化」番組撮影	敷地内	—	近畿ケーブルネットワーク放送事業部
33	11月6日	講座・セミナー	法華寺 講演	会議室	70	法華寺
34	11月20日、11月21日	茶会	茶会	茶室	30	学茶会 黒川賢成
35	11月22日	撮影	ウェディングフォト	茶室	6	Wakana style + 峪口治恵
36	11月30日	講座・セミナー	平成業師寺をめぐるシンポジウム開催のため	講堂	125	大阪大学文学研究科教授 藤岡穰
37	12月17日	敷地提供	春日若宮おん祭執行に係る敷地提供	敷地内	—	春日大社
38	2年1月12日	茶会	茶会	茶室	20	はっけい会 三木ひとみ
39	2年2月4日～6日	茶会	珠光茶会	茶室・展示室	87	珠光茶会実行委員会
40	2年2月8日～14日	イベント	なら瑠璃絵オブジェの設置	庭園	—	なら瑠璃絵実行委員会
41	2年2月15日、16日	イベント	ブライダルフェア、記念撮影	関野ホール	—	Wakana style + 峪口治恵

	期間	種類 (イベント、講演 会等)	イベント等の概要	会場	出席者(人)	備考
--	----	-----------------------	----------	----	--------	----

※以下は新型コロナウイルス感染予防・拡散防止のため中止

42	2年1月28日	敷地提供	小学生による、外国人観光客との交流及びインタビュー	敷地内	-	傘置小学校 新型コロナウイルス感染症対応のためキャンセル
43	3月1日~14日	ツアー	特別陳列「お水取り」 定期観光バスによる見学ツアー	展示室	-	奈良交通 臨時休館のため使用実績無し

2) 館主催・協カイベント 48件

	期間	種類 (イベント、講演会 等)	イベント等の概要	会場	出席者 (人)	備考
1	4月4日	法要	春季仏像供養	なら仏像館	100	
2	4月14日	イベント	京博マスコット「トラりん」グリーティング	敷地内	-	
3	4月14日、21日、5月12日	イベント	庭園ツアー (ボランティア室)	園地	150	
4	4月16日	鑑賞会	賛助会特別鑑賞会	講堂・展示室	58	
5	4月17日	鑑賞会	奈良博プレミアムカード会員特別鑑賞会	講堂・展示室	179	
6	4月30日	イベント	改元記念公演会「ようこそ新元号！～これまでの奈良博、これからの奈良博～」	講堂	249	
7	5月5日	イベント	藤田美術展関連イベント「オリジナル絵巻を作ろう」	地下回廊	31	
8	5月19日	イベント	藤田美術展関連イベント「親子向け抹茶体験ワークショップ」	地下回廊	42	
9	5月25日	イベント	Daiwa Sakura Aid FOR THE GENERATION FM802 番組公開収録	関野ホール	138	
10	5月25日	イベント	Daiwa Sakura Aid Presents 新元号制定記念コンサート	関野ホール	70	
11	5月26日	イベント	藤田美術展関連イベント「囉変天目茶碗モチーフのアクセサリー作り」	会議室	27	
12	6月17日~9月9日	展示	唐招提寺の蓮展示	敷地内の池	-	
13	7月6日	イベント	奈良とは何か?	講堂	125	奈良女子大学
14	7月13日	イベント	京博マスコット「トラりん」来訪	敷地内	-	
15	7月13日~9月8日	イベント	いのりの世界のどうぶつえん関連イベント 奈良博<->奈文研 シャトルバス運行	敷地内	267	
16	7月23日	法要	夏季仏像供養	なら仏像館	100	
17	7月26日	イベント	「夏休みファミリー新聞教室」ではがき新聞づくり	講堂・展示室	50	読売新聞奈良支局
18	7月27日	イベント	親子講座「どうぶつえんのわくわくガイド」	講堂	88	中川あや
19	8月9日、10日	イベント	Daiwa Sakura Aid Presents ジュスカグランペールコンサート	庭園	389	
20	8月17日	イベント	絵本づくりワークショップ「とびだす！うごく！いのりの世界のどうぶつ」	地下回廊	37	奈良教育大学大学院
21	9月1日	特別鑑賞	関西文化の日プラス	なら仏像館	279	
22	9月1日	イベント	英語落語	講堂	148	
23	10月2日	法要	秋季仏像供養	なら仏像館	100	
24	10月26日~11月14日	展示	正倉院展 法華寺御流のいけばな展示	西新館 1F ロビー	-	
25	10月26日~11月14日	イベント	正倉院展「あるくん奈良スタンプラリー」	地下回廊	-	
26	10月26日~11月14日	展示	正倉院展短歌コンクール受賞作品展示	地下回廊	-	主催：奈良国立博物館・読売新聞社・読売テレビ
27	10月26日~11月14日	茶席	正倉院展「野点のお茶席」	西新館南側ピロティ・庭園	16,000	結の会
28	10月27日	鑑賞会	正倉院展親子鑑賞会	講堂・展示室	135	主催：奈良国立博物館・読売新聞社
29	10月28日	鑑賞会	賛助会員特別鑑賞会	講堂	142	
30	10月29日	鑑賞会	プレミアムカード会員特別鑑賞会	講堂	182	

	期間	種類 (イベント、講演会等)	イベント等の概要	会場	出席者 (人)	備考
31	11月1日	特別観覧	留学生の日	展示室	71	
32	11月2日	イベント	FM COCOLO Daiwa Sakura Aid GO GO ゴンチチ公開録音	関野ホール	118	
33	11月23日、24日	特別鑑賞	関西文化の日	なら仏像館	2,561	
34	11月23日、24日	特別公開	庭園散策ツアー	庭園	2,333	
35	12月17日	茶会	おん祭「茶会」	茶室・庭園・西新館 南側ピロティ	89	主催：裏千家 泉本宗悠
36	12月18日～2年1月13日	展示	春日若宮おん祭で使用される備品の展示	展示室	—	
37	12月28日～2年3月1日	イベント	ゆかりの刀剣神社・博物館スタンプラリー	なら仏像館	—	主催：春日大社、読売新聞社
38	2年1月2日～5日	特別鑑賞	おん祭展 無料チラシ配布	春日大社境内	3,285	
39	2年1月9日	特別公開	文化財保存修理所特別公開	講堂・文化財保存修理所	148	
40	2年1月11日	イベント	奈良文化クラスター事業 春日大社、奈良国立博物館連携シンポジウム「最古の刀-日本刀成立の謎に迫る」	春日大社 感謝・共生の館	200	主催：春日大社、読売新聞社
41	2年1月22日	法要	冬季仏像供養	なら仏像館	100	
42	2年2月4日～3月22日	イベント	毘沙門天関連展示 オンラインゲーム「なむあみだ仏っ！-蓮台 UTENA-」のキャラクター等身大パネル展示	地下回廊	—	
43	2年2月4日	鑑賞会	賛助会員特別鑑賞会	講堂	34	
44	2年2月4日～3月22日	展示	お水取り展 修二会お松明展示	展示室	—	
45	2年2月8日	イベント	お水取り「講話」と「現地解説」の会	講堂、展示室	48	
46	2年2月11日	イベント	親子ワークショップ「チョコパンケーキを作って食べよう」	地下回廊	41	
47	2年2月12日	鑑賞会	プレミアムカード会員特別鑑賞会	講堂	166	
48	2年2月14日、15日	イベント	プライダルショー	敷地内	—	Wakana style + 峪口治恵

※以下は新型コロナウイルス感染予防・拡散防止のため中止

49	2年2月4日～6日	特別鑑賞	お水取り展 無料チラシ配布	東大寺境内	—	チラシ配布したが臨時休館のため使用実績無し
50	2年3月4日	講演・鑑賞鑑賞	お水取り展鑑賞とお松明	講堂・展示室	—	結の会 告知はしたが臨時休館のため開催せず
51	2年3月7日、8日	特別公開	仏教美術資料研究センター公開	仏教美術資料研究センター	—	告知はしたが臨時休館のため開催せず

【九州国立博物館】

1) 会場提供 10件 (イベント、講演会等)

	期間	種類 (イベント、講演会等)	イベント等の概要	会場	出席者 (人)	備考
1	4月21日	イベント	第15回太宰府門前真舞祭	研修室、和室、館外	900	主催：太宰府門前真舞祭実行委員会
2	8月1日	講演会	「足利將軍」内容講演会	研修室	40	主催：福岡県歴史研究会
3	10月19日、20日	イベント	市民茶会	茶室、和室、研修室	250	主催：太宰府茶道文化連盟
4	11月7日、8日	研究会	分子アーキテクトニクス研究会	ミュージアムホール、研修室、和室	50	主催：九州大学先端物質化学研究所 アルブレヒト研究室(分子アーキテクトニクス研究会)
5	11月8日～10日	展示会	令和モダン bonbon felt tina 展 展示販売会とワークショップ	研修室	150	主催：(有)ティナ・コーポレーション
6	11月15日	イベント	ふくおか文化ボランティアフォーラム 2019 「新しいボランティア像を追う！」	ミュージアムホール	100	主催：NPO 法人文化ボランティアとびうめの会
7	11月20日	イベント	特別展「三国志」事前レクチャー	ミュージアムホール	120	主催：公益財団法人佐世保地域文化事業財団
8	11月26日	イベント	新作ツアー発表会	研修室	20	主催：(株)ワールド航空サービス
9	12月13日	講演会	第2回講座「長崎における関帝信仰」	研修室	70	主催：博悠会
10	2年1月25日	イベント	有岡奈保 小池優介 デュオコンサート	ミュージアムホール	150	主催：個人

2) 館主催・協力イベント 153件

	期間	種類 (イベント、講演会等)	イベント等の概要	会場	出席者 (人)	備考
1	4月6日	イベント	第81回はじめての茶道体験	茶室	9	主催：九州国立博物館
2	4月6日	イベント	夜の博物館たんけん隊	館内	23	主催：九州国立博物館
3	4月6日、7日、13日、14日	イベント	ダンス・ザ・イフクノ太宰府ク ひびのこづえのコスチューム・アート が太宰府で踊る <「海の生きものをつくろう」ワークショップ>	研修室	200	主催：NPO 法人太宰府アートのたね
4	4月6日、7日、13日、14日	イベント	ダンス・ザ・イフクノ太宰府ク ひびのこづえのコスチューム・アート が太宰府で踊る <パフォーマンスプログラム>	ミュージアムホール	785	主催：NPO 法人太宰府アートのたね
5	4月20日	イベント	九州国立博物館 夜間開館2周年記念 九博応援大使 サラ・オレイン ミ ニ・コンサート	ミュージアムホール	350	主催：九州国立博物館
6	4月24日	式典	移動博物館車両 きゅーはく号 贈呈式	屋外	-	主催：九州国立博物館
7	4月27日	講演会	特別展「大報恩寺 快慶・定慶のみほとけ」 「鎌倉彫刻の巨匠 運慶・快慶とその次世代の仏師たち」	ミュージアムホール	120	主催：九州国立博物館
8	5月1日	イベント	新元号「令和」揮毫大会「元号を書いてみよう！」	エントランス	720	主催：九州国立博物館
9	5月3日	イベント	きゅーはくで楽しく！ わく☆わくワークショップ わくわく1 「令和」の古代文字フレームをつくろう！ わくわく2 マイチャームをつくろう！ わくわく3 古代文字のひらがなであそぼ	研修室	80	主催：九州国立博物館
10	5月4日	イベント	夜の博物館たんけん隊	館内	123	主催：九州国立博物館
11	5月4日、5日	イベント	きゅーはく夢ひろば 「きゅーはく夢ステージ」 「はらのむし夢ラリー」 「願いよかなえ！夢こいのぼり in 九博」 「オリジナルはらのむしうちわを作ろう！」	ミュージアムホール、他	880	主催：九州国立博物館
12	5月4日、5日	イベント	「きゅーはく号」体験イベント 韓服を着てみよう！	屋外	-	主催：九州国立博物館
13	5月6日	イベント	「あなたの知らない折り紙の世界」～ 一枚の折り紙が織りなす不思議～	エントランス	30	主催：九州国立博物館

	期間	種類 (イベント、 講演会等)	イベント等の概要	会場	出席者 (人)	備考
14	5月6日	講演会	新元号記念特別企画「令和」関連特別講演会 「梅花の宴～遠の朝廷の文華～」	ミュージアムホール	120	主催：九州国立博物館
15	5月11日	イベント	なりきり学芸員体験	あじっば	12	主催：九州国立博物館
16	5月17日	イベント	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	115	主催：九州国立博物館
17	5月24日	講演会	国立扶餘博物館・国立公州博物館研究者招聘記念講演会 『ふたつの百済-その歴史と文化-』	研修室	38	主催：九州国立博物館、九州国立博物館振興財団
18	5月25日	講演会	特別展「大報恩寺 快慶・定慶のみほとけ」記念講演会「千本釈迦堂・大報恩寺の歴史」	ミュージアムホール	160	主催：九州国立博物館
19	5月26日	イベント	第87回親子で茶道体験	茶室	54	主催：九州国立博物館
20	5月26日	イベント	九州国立博物館杯 特別展「京都 大報恩寺 快慶・定慶のみほとけ」記念 第14回さいふごま大会	ミュージアムホール	40	主催：九州国立博物館
21	5月31日	イベント	ライブペイントプロジェクト	エントランス	100	主催：九州国立博物館
22	6月1日	イベント	夜の博物館たんけん隊	館内	62	主催：九州国立博物館
23	6月1日	イベント	太宰府天満宮 九州国立博物館共催 花菖蒲コンサート 出演：川波幸恵（バンドネオン）	ミュージアムホール	440	主催：太宰府天満宮、九州国立博物館
24	6月1日	イベント	九博ホテル鑑賞会	北側散策路	200	主催：九州国立博物館
25	6月2日	イベント	太宰府天満宮 九州国立博物館共催 花菖蒲コンサート 出演：竜馬四重奏（ヴァイオリン、 笛、鼓）	ミュージアムホール	720	主催：太宰府天満宮、九州国立博物館
26	6月2日	イベント	第82回はじめての茶道体験	茶室	12	主催：九州国立博物館
27	6月7日	イベント	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	70	主催：九州国立博物館
28	6月8日	イベント	太宰府天満宮 九州国立博物館共催 花菖蒲コンサート 出演：佐藤和哉（篠笛）	ミュージアムホール	950	主催：太宰府天満宮、九州国立博物館
29	6月9日	イベント	太宰府天満宮 九州国立博物館共催 花菖蒲コンサート 出演：ドラン（モンゴル馬頭琴）	ミュージアムホール	600	主催：太宰府天満宮、九州国立博物館
30	6月9日	イベント	馬頭琴ワークショップ	ミュージアムホール	10	主催：九州国立博物館
31	6月25日～30日	イベント	上海・福岡友好書道聯展	エントランス	-	主催：九州国立博物館
32	7月6日	イベント	夜の博物館たんけん隊	館内	48	主催：九州国立博物館
33	7月13日	イベント	特別展「室町将軍-戦乱と美の足利十五代-」 おっかい こんのすけ撮影会	エントランスホール	-	主催：九州国立博物館
34	7月13日～ 9月1日	展示	特別展「室町将軍-戦乱と美の足利十五代-」 刀剣男士・大般若長光の等身大パネル 設置	エントランスホール	-	主催：九州国立博物館
35	7月13日	イベント	ガムランワークショップ ジャワのガムラン演奏体験～アジアの 青銅楽器の魅力～	ミュージアムホール	13	主催：九州国立博物館
36	7月14日	講演会	特別展「室町将軍-戦乱と美の足利十五代-」 記念講演会「室町将軍家の東アジア外交」	ミュージアムホール	202	主催：九州国立博物館
37	7月15日	イベント	九州国立博物館杯 特別展「室町将軍」記念 第15回さいふごま大会	ミュージアムホール	50	主催：九州国立博物館
38	7月19日	イベント	特別展「室町将軍-戦乱と美の足利十五代-」実践！ 勘合貿易ワークショップ～あなたは貿易できるか？～	研修室	2	主催：九州国立博物館
39	7月19日	イベント	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	130	主催：九州国立博物館
40	7月20日	講演会	特別展「室町将軍-戦乱と美の足利十五代-」リレー講座 「足利十五代-ムロマツチな男たち-」 「名刀乱舞！足利将軍」	ミュージアムホール	230	主催：九州国立博物館
41	7月20日	イベント	第8回スケッチナイト☆	文化交流展示室	19	主催：九州国立博物館
42	7月21日	イベント	トレジャーハンターみつちーとDr.ランディのきゅーはくディスカバー 「タイムマシンにのって」	ミュージアムホール	110	主催：九州国立博物館
43	7月23日	イベント	九博でアートを楽しもう展～九博で美と技を学ぶ～「水彩画」	研修室	62	主催：九州国立博物館

	期間	種類 (イベント、 講演会等)	イベント等の概要	会場	出席者 (人)	備考
44	7月24日	イベント	九博でアートを楽しもう展～九博で美と技を学ぶ～「パステル画」	研修室	51	主催：九州国立博物館
45	7月25日	イベント	九博でアートを楽しもう展～九博で美と技を学ぶ～「ボタニカルアート」	研修室	51	主催：九州国立博物館
46	7月26日	イベント	九博でアートを楽しもう展～九博で美と技を学ぶ～「日本画」	研修室	46	主催：九州国立博物館
47	7月27日	イベント	九博でアートを楽しもう展～九博で美と技を学ぶ～「テンペラ画」	研修室	51	主催：九州国立博物館
48	7月27日、28日	イベント	「いこうよ！あじっば夏祭り2019」	ミュージアムホール	940	主催：九州国立博物館
49	7月28日	イベント	九博でアートを楽しもう展～九博で美と技を学ぶ～「漫画(童画)」	研修室	53	主催：九州国立博物館
50	7月28日	イベント	第88回親子で茶道体験	茶室	55	主催：九州国立博物館
51	7月30日～8月4日	イベント	「菊池一族 - 室町将軍を悩ませた肥後もっこす -」パネル展	エントランス	-	主催：菊池市役所菊池一族プロモーション室
52	8月1日	イベント	特別展「室町将軍一戦乱と美の足利十五代」視覚に障害をお持ちの方に向けた特別観覧ツアー	ミュージアムホール、特別展示室	19	主催：九州国立博物館
53	8月3日	講演会	特別展「室町将軍一戦乱と美の足利十五代」記念講演会「室町将軍の再評価ー本当に弱かったのかー」	ミュージアムホール	301	主催：九州国立博物館
54	8月3日	イベント	夜の博物館たんけん隊	館内	32	主催：九州国立博物館
55	8月4日～7日	展示	博多祇園山笠「飾り山笠」展示関連	エントランス	-	主催：九州国立博物館
56	8月4日	イベント	日本の四季 夏だ！マイうちわを作ろう！	エントランス	50	主催：九州国立博物館
57	8月4日	シンポジウム	2019 全国高等学校 歴史学フォーラム	ミュージアムホール、研修室	300	主催：九州国立博物館
58	8月6日	イベント	井上涼さんとめぐるびじゅチューン！きゅーはくナイトミュージアム	文化交流展示室、他	台風のため中止	主催：九州国立博物館
59	8月7日	イベント	特別展「室町将軍一戦乱と美の足利十五代」実践！勘合貿易ワークショップ～あなたは貿易できるか？～	研修室	31	主催：九州国立博物館
60	8月6日～10月14日	イベント	びじゅチューン！きゅーはくなりきり美術館	文化交流展示室、他	-	主催：九州国立博物館
61	8月10日	イベント	なりきり考古学者体験【拓本体験】	あじっば	15	主催：九州国立博物館
62	8月10日	イベント	特集展示「更紗 生命の花咲く布」関連イベント茜染めワークショップ	研修室	20	主催：九州国立博物館
63	8月11日	イベント	きゅーはくで楽しく！わくわく☆ワークショップ	研修室	100	主催：九州国立博物館
64	8月11日	講演会	特別展「室町将軍一戦乱と美の足利十五代」華道家元池坊次期家元による特別講演会・デモンストレーション「いけばなにおける室町時代」	ミュージアムホール	271	主催：九州国立博物館
65	8月12日	シンポジウム	特別展「室町将軍一戦乱と美の足利十五代」開催記念シンポジウム「京都・等持院 歴代足利将軍像の謎に迫る」	ミュージアムホール	254	主催：九州国立博物館
66	8月17日、18日	イベント	吉野ヶ里 Days in 九博	ミュージアムホール	1,130	主催：佐賀県立博物館・美術館、海の中道海浜公園事務所(国営吉野ヶ里歴史公園)、吉野ヶ里歴史公園マネジメント共同体、吉野ヶ里公園管理センター
67	8月17日	イベント	令和 元年度留学生スペシャルイベント「茶室探訪 in 九博」	茶室、特別展示室、他	7	主催：九州国立博物館
68	8月23日	イベント	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	95	主催：九州国立博物館
69	8月24日	イベント	古代文字のひらがなであ・そ・ぼ！	エントランス	120	主催：九州国立博物館
70	8月24日	イベント	第89回親子で茶道体験	茶室	53	主催：九州国立博物館
71	8月27日～9月8日	展示	東九州神楽人の祭展 京築・庄内・高鍋神楽の魅力を紹介	エントランス	-	主催：京築連携アメニティ都市圏推進会議、神楽の里づくり推進協議会、大分県、宮崎県
72	8月28日	イベント	特別展「室町将軍一戦乱と美の足利十五代」視覚に障害をお持ちの方に向けた特別観覧ツアー	ミュージアムホール、特別展示室	6	主催：九州国立博物館
73	9月7日	イベント	夜の博物館たんけん隊	館内	23	主催：九州国立博物館

	期間	種類 (イベント、 講演会等)	イベント等の概要	会場	出席者 (人)	備考
74	9月7日、8日	イベント	東九州神楽人の祭展 神楽公演「京築神楽」「高鍋神楽」 「庄内神楽」「京築神楽」	ミュージアムホール	750	主催：京築連携アメニティ都市 圏推進会議、神楽の里づくり推 進協議会、大分県、宮崎県
75	9月7日、8日	イベント	神楽体験ワークショップ「御幣づく り」	研修室	30	主催：京築連携アメニティ都市 圏推進会議、神楽の里づくり推 進協議会、大分県、宮崎県
76	9月8日	イベント	東九州神楽人の祭展 神楽装束体験（庄内神楽）	エントランス	—	主催：京築連携アメニティ都市 圏推進会議、神楽の里づくり推 進協議会、大分県、宮崎県
77	9月14日	イベント	修復の現場お見せします！ 特別公開『博物館科学・文化財保存修 復施設』	バックヤード、修復 施設等	53	主催：九州国立博物館
78	9月14日	イベント	第83回はじめての茶道体験	茶室	12	主催：九州国立博物館
79	9月14日	イベント	ミュージアムコンサート オカリナ×秋のアンサンブル	ミュージアムホール	330	主催：九州国立博物館
80	9月22日	イベント	九州国立博物館特別展「三国志」開催 記念 第6回みゆーじあむ寄席 ミュージカル落語「三国志」	ミュージアムホール	256	主催：九州国立博物館
81	9月25日	イベント	4階文化交流展示室 特別無料観覧 with 「太宰府 古都の光」	4階文化交流展示室 および屋外、他	—	主催：太宰府ブランド創造協議 会事務局
82	9月25日	イベント	九州国立博物館文化交流特集展示 「更紗 生命の花咲く布」記念イベ ント ～インドの風～神秘の舞とシタール演 奏 プログラム1「インド舞踊パフォー マンス」 プログラム2「更紗トーク&オールラ イブパフォーマンス」 プログラム3「クリスタルボウルヒー リングパフォーマンス」	4階文化交流展示室 および屋外、他	100	主催：古都太宰府ナイトエリア 創出委員会、世界と繋がるクロ スロード太宰府推進事業実行委 員会
83	9月28日	講演会	特集展示「文化財よ、永遠に」講演会 「修理、果てしなき挑戦」	ミュージアムホール	80	主催：公益財団法人住友財団、 九州国立博物館
84	9月28日	イベント	特別展「室町将軍一戦乱と美の足利十 五代」視覚に障害をお持ちの方に向 けた特別展観覧ツアー	ミュージアムホー ル、特別展示室	6	主催：九州国立博物館
85	9月29日	イベント	なりきり学芸員体験	あじっば	12	主催：九州国立博物館
86	10月5日	イベント	ワークショップ「修理のヒミツにふれ てみよう！」	研修室	25	主催：九州国立博物館
87	10月5日	イベント	夜の博物館たんけん隊	館内	108	主催：九州国立博物館
88	10月11日	イベント	日比野克彦ワークショップ開催 ～太 宰府と海～	研修室	50	主催：NPO 法人太宰府アートのた ね
89	10月14日	イベント	びじゅチューン！なりきり美術館&三 国志コンサート	ミュージアムホール	581	主催：九州国立博物館
90	10月18日	イベント	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	90	主催：九州国立博物館
91	10月20日	講演会	日中文化交流協定締結40周年記念特別 展「三国志」関連 講演会「ここまで 分かった“リアル三国志” - 新発見の 考古資料から読み解く - 」	ミュージアムホール	238	主催：九州国立博物館
92	10月20日	イベント	折り紙イベント 日本の四季 月見うさぎをつくろう！	エントランス	50	主催：九州国立博物館
93	10月22日～ 11月4日	展示	山鹿の灯「灯笼展示」	エントランス	—	主催：九州国立博物館
94	10月23日	講演会	IPM セミナー	ミュージアムホール	100	主催：九州国立博物館
95	10月26日	イベント	山鹿の灯「山鹿灯笼 灯笼踊り」「八 千代座こども歌舞伎」	ミュージアムホール	350	主催：九州国立博物館
96	10月26日	イベント	山鹿の灯「山鹿灯笼く擬宝珠ランプ」製 作体験」	エントランス	30	主催：九州国立博物館
97	10月27日	イベント	第90回親子で茶道体験	茶室	60	主催：九州国立博物館
98	10月27日	イベント	九州国立博物館杯 日中文化交流協定 締結40周年記念特別展「三国志」記念 第16回さいふごま大会	ミュージアムホール	80	主催：九州国立博物館
99	11月2日	イベント	きゅーはくのみ森でネイチャービンゴ！ ～きゅーはくのみ森で秋めぐり～	館外（きゅーはくのみ 森）	15	主催：九州国立博物館
100	11月2日	イベント	夜の博物館たんけん隊	館内	77	主催：九州国立博物館

	期間	種類 (イベント、 講演会等)	イベント等の概要	会場	出席者 (人)	備考
101	11月3日	イベント	第10回留学生イベント 留学生向け「文化交流ツアーin九博 2019」 留学生限定イベント「マイ勾玉作り」	研修室、バックヤード他	18	主催：九州国立博物館
102	11月5日	イベント	醍醐の桜 植樹式	屋外	30	主催：九州国立博物館
103	11月6日	イベント	特集展示「縄文王国やまなし」開催観 光イベント	エントランス	—	主催：笛吹市・甲州市組合立釈 迦堂遺跡博物館
104	11月9日	イベント	きゅーはくミュージアムコンサート 「中国悠久の調べ」	ミュージアムホール	380	主催：九州国立博物館
105	11月10日	イベント	九博でアートを楽しもう展 「イラストレーター谷口親子トーク」	ミュージアムホール	100	主催：九州国立博物館
106	11月10日	イベント	第84回はじめての茶道体験	茶室	11	主催：九州国立博物館
107	11月17日	講演会	特集展示「版経東漸～対馬がつなぐ仏 の教え～」開催記念講演会	ミュージアムホール	80	主催：九州国立博物館
108	11月19日	講演会	令和 元年度文化財防災ネットワーク推 進事業セミナー「不動産文化財と動産 文化財の防災～現状の課題と今後の連 携に向けて～」	研修室	41	主催：九州国立博物館
109	11月19日 ～12月1日	展示	宮地嶽第52回光の道全国読書大会作品 展	エントランス	—	主催：宮地嶽光の道全国読書大 会実行委員会
110	11月22日、 12月14日	イベント	夜間開館イベント「三国志ナイトミュ ージアム～英雄(ヒーロー)現る!!」【手 話通訳付き!】	特別展示室	700	主催：九州国立博物館
111	11月23日	イベント	日中文化交流協定締結40周年記念特別 展「三国志」関連イベント 「夜な夜な三国志」	ミュージアムホー ル、エントランス、 他	400	主催：九州国立博物館
112	11月24日	イベント	実測体験 なりきり考古学者体験	あじっば	15	主催：九州国立博物館
113	11月24日	イベント	第3回 きゅーはくで楽しく! わくわく☆ワークショップ	研修室	80	主催：九州国立博物館
114	11月30日	講演会	特集展示「縄文王国やまなし」関連講 演会 日本遺産「星降る中部高地の縄文世 界」	ミュージアムホール	25	主催：甲信縄文文化発信・活性 化協議会
115	11月30日～ 12月1日	イベント	特集展示「縄文王国やまなし」関連イ ベント「黒曜石にさわってみよう」、 「縄文服を着てみよう」、「縄文土器 の拓本カードを作ろう」	エントランス	475	主催：甲信縄文文化発信・活性 化協議会
116	12月1日	イベント	映画「縄文にハマる人々」無料上映会 & トークイベント	ミュージアムホール	142	主催：九州国立博物館
117	12月5日、 12月11日	イベント	視覚に障害をお持ちの方に向けた 特別展「三国志」観覧ツアー	特別展示室	30	主催：九州国立博物館
118	12月6日、7日	展示	夜の九博☆ファンタジア 2019 「キラキラ博物館」	エントランス	—	主催：九州国立博物館
119	12月7日	イベント	夜の博物館たんけん隊	館内	24	主催：九州国立博物館
120	12月7日	イベント	夜の九博☆ファンタジア 2019 「Angelic ハンドベルコンサート/福岡 女学院大学ハンドベル部」「ミュージ アムゴスペルコンサート①/Sounds of DAZ」「ミュージアムゴスペルコンサ ート②/TEAM SURPRISE with HAKATA Sing For Joy」「夜の九博 X' mas コン サート/小林知加(アルバ)&永田望 (バイオリン)」	ミュージアムホール	350	主催：九州国立博物館
121	12月7日	イベント	夜の九博☆ファンタジア 2019 「スタンドグラスワークショップ」	研修室	50	主催：九州国立博物館
122	12月8日	イベント	古代文字のひらがなであ・そ・ぼ!	エントランス	93	主催：九州国立博物館
123	12月14日	講演会	日中文化交流協定締結40周年記念特別 展「三国志」記念特別講演会 「曹操高陵墓と考古学的発見と研究」 「三国志の時代と卑弥呼の鏡」	ミュージアムホール	306	主催：九州国立博物館
124	12月14日、15日	イベント	孫次風ワークショップ	エントランス	70	主催：九州国立博物館
125	12月20日	イベント	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	90	主催：九州国立博物館
126	12月22日	イベント	第91回親子で茶道体験	茶室	63	主催：九州国立博物館
127	12月22日	イベント	第7回みゅーじあむ寄席 年忘れ落語 会 「春風亭一之輔、三遊亭天どん二人 会」	ミュージアムホール	256	主催：九州国立博物館
128	2年1月1日～5日	イベント	きゅーはくニッポンの正月 刀剣オリジナルカレンダープレゼント	文化交流展示室	—	主催：九州国立博物館

	期間	種類 (イベント、 講演会等)	イベント等の概要	会場	出席者 (人)	備考
129	2年1月1日～13日	展示	きゅーはくニッポンの正月 「ニッポンの凧」	エントランス	—	主催：九州国立博物館
130	2年1月2日、3日	イベント	きゅーはくニッポンの正月 「九博で書初め」	エントランス	1,035	主催：九州国立博物館
131	2年1月2日、3日	イベント	きゅーはくニッポンの正月 ジャンボだるま落としに挑戦！	ミュージアムホール	149	主催：九州国立博物館
132	2年1月4日	イベント	夜の博物館たんけん隊	館内	23	主催：九州国立博物館
133	2年1月7日～13日	イベント	第4回MOA美術館児童作品展 in 九州 国立博物館	エントランス	—	主催：九州国立博物館
134	2年1月12日	イベント	第4回MOA美術館児童作品展 in 九州 国立博物館 表彰式 関連イベント①NPO法人太宰府ア ートのたね ジェルグラスとウインド スターをつくろう！②茶の湯を楽しもう	ミュージアムホ ール、他	180	主催：九州国立博物館
135	2年1月15日～26日	展示	第34回筑紫地区中学校美術展	エントランス	—	主催：筑紫地区中学校美術教育 研究会
136	2年1月15日～ 1月19日	展示	令和元年度 文化庁 地域と共働した 博物館創造活動支援事業 連携公開講座「西の都・大宰府と沖ノ 島 東の都・斎宮と伊勢神宮～地域祭祀 の成り立ちと律令祭祀への変質～」	ミュージアムホール	—	主催：斎宮歴史博物館
137	2年1月18日	講演会	令和元年度 文化庁 地域と共働した 博物館創造活動支援事業 連携公開講座「西の都・大宰府と沖ノ 島 東の都・斎宮と伊勢神宮～地域祭祀 の成り立ちと律令祭祀への変質～」	ミュージアムホール	150	主催：斎宮歴史博物館
138	2年1月19日、 2月9日	イベント	特集展示「刀剣ことはじめ」関連イ ベント ワークショップ&実演公開「刀剣を見 て触れて体感してみよう！」 〈体験〉五寸釘でペーパーナイフ作 成、鑄型チャームへの銀象嵌体験、刀 剣の研磨体験、刀の重さ体験 〈実演公開〉研磨実演、象嵌実演など	研修室	338	主催：九州国立博物館
139	2年1月25日	イベント	第85回はじめての茶道体験	茶室	11	主催：九州国立博物館
140	2年1月31日	イベント	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	90	主催：九州国立博物館
141	2年2月1日	イベント	第4回「きゅーはくで楽しく！わくわ く☆ワークショップ」	研修室	35	主催：九州国立博物館
142	2年2月1日	イベント	手話通訳付きバックヤードツアー	館内	70	主催：九州国立博物館
143	2年2月4日 ～2月9日	展示	菊池氏発祥950年第4回菊池一族と延 寿鍛冶展 PR ブース	エントランス	—	主催：菊池一族まつり実行委員 会（菊池観光協会）
144	2年2月5日、6日	イベント	広川町の工芸品PR及び販売	エントランス	—	主催：広川町観光協会
145	2年2月8日	イベント	なりきり学芸員体験	あじっば	3	主催：九州国立博物館
146	2年2月9日	講演会	特別展「ルネ・ユイグのまなざし フ ランス絵画の精華」 記念講演会「フランス絵画の栄光―古 典主義からロマン主義まで」	ミュージアムホール	247	主催：九州国立博物館
147	2年2月11日～16日	展示	九州女子大学 第52回卒業書作展	エントランス	—	主催：九州女子大学人間発達学 科人間基礎専攻
148	2年2月11日～24日	展示	アイヌ文化魅力発信プロジェクト	エントランス	—	主催：文化庁企画調整課
149	2年2月14日、15日	展示	第44期「棋聖戦」7番勝負第4局太宰 府対局	和室、ミュージアム ホール	130	主催：読売新聞東京本社棋聖戦 事務局
150	2年2月15日	イベント	第9回スケッチシナイト☆	文化交流展示室	16	主催：九州国立博物館
151	2年2月15日	イベント	「焼き物コースターを作ろう～印花に 挑戦！～」第1回【焼き物講座・装飾 体験「印花に挑戦！」】	研修室	23	主催：九州国立博物館
152	2年2月18日 ～3月1日	展示	令和元年度筑紫地区文化財写真展「ち くし再発見～ぶらり古墳めぐり～」	エントランス	—	主催：筑紫地区社会教育振興協 議会
153	2年2月24日	講座	ユニバーサルガイド養成プレセミナー	研修室	40	主催：世界と繋がるクロスロ ード太宰府推進事業実行委員会

※以下は新型コロナウイルス感染予防・拡散防止のため中止

154	2年2月22日	イベント	特別展「フランス絵画の精華」関連コ ンサート 古楽器が奏でるフランス・ バロック音楽のひとつ	ミュージアムホール	新型コロナウ イルス感 染症の感 染拡大防 止のため 中止	主催：九州国立博物館
-----	---------	------	--	-----------	--	------------

	期間	種類 (イベント、 講演会等)	イベント等の概要	会場	出席者 (人)	備考
155	2年2月23日	講演会	九州国立博物館「大宰府学研究」事業シンポジウム「大宰府前夜－筑紫の大宰と豪族－」	ミュージアムホール	同上	主催：九州国立博物館
156	2年2月26日	イベント	博多伝統芸能～博多芸妓の世界～	ミュージアムホール	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止	主催：公益財団法人九州国立博物館振興財団
157	2年2月29日	イベント	第92回親子で茶道体験	茶室	同上	主催：九州国立博物館
158	2年2月29日	イベント	第12回 九博子どもフェスタ～博物館って ともだちだ！～	ミュージアムホール、エントランス、研修室、展示室	同上	主催：九州国立博物館を愛する会、九州国立博物館ボランティア
159	2年3月1日	イベント	九州国立博物館杯 特別展「フランス絵画の精華」記念 第17回さいふごま大会	ミュージアムホール	同上	主催：九州国立博物館
160	2年3月3日～3月15日	イベント	特別展「フランス絵画の精華」関連イベント フランス・スタンド 展示：3/3(火)～3/15(日) 講演会：3/8(日)、13(金)、15(日) ワークショップ：3/8(日)、15(日)	エントランス、研修室	同上	主催：アンスティチュ・フランセ九州
161	2年3月6日	イベント	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	同上	主催：九州国立博物館
162	2年3月7日	イベント	きゅーはく女子考古部 presents 古代の宴へようこそ！	ミュージアムホール	同上	主催：九州国立博物館
163	2年3月7日	イベント	夜の博物館たんけん隊	館内	同上	主催：九州国立博物館
164	2年3月8日	イベント	第86回はじめての茶道体験	茶室	同上	主催：九州国立博物館
165	2年3月14日	イベント	「焼き物コースターを作ろう ～印花に挑戦！～」第2回【うわぐすり掛け体験・うわぐすりのお話】	研修室、交流サロン	同上	主催：九州国立博物館
166	2年3月20日、21日、22日、28日、29日	イベント	さくらまつりスタンプラリー	太宰府市内各所	同上	主催：古都太宰府ナイトエリア創出委員会、世界と繋がるクロスロード太宰府推進事業実行委員会
167	2年3月20日	イベント	「焼き物コースターを作ろう ～印花に挑戦！～」第3回【作品受取・お披露目会】	研修室、交流サロン	同上の理由により延期	主催：九州国立博物館
168	2年3月28日	イベント	太宰府・令和さくらまつり (1) 大伴旅人になりきろう！万葉衣装体験 (2) 万葉の世界を体験しよう！ (3) 桜コンサート♪	エントランス、ミュージアムホール、研修室他	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止	主催：古都太宰府ナイトエリア創出委員会、世界と繋がるクロスロード太宰府推進事業実行委員会

1-(3)-② 有形文化財に関する情報の発信と広報の充実

1-(3)-②-1 収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数（収蔵品写真（フィルム）等のデジタル化件数）

（前述の資料に記載）1-(1)-③-2 収蔵品等に関する資料等のデジタル化件数（収蔵品写真（フィルム）等のデジタル化件数）

1-(3)-②-2 収集した情報資料数（総数）

令和2年3月31日現在

	東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館		
	元年度新規	総数	元年度新規	総数	元年度新規	総数	元年度新規	総数	
写真原板(フィルム)	104件	323,877件	0件	257,681件	0件	361,503件	0件	23,622件	
デジタル撮影	13,943件	114,105件	5,990件	42,892件	4,752件	57,262件	2,100件	22,552件	
資料	模造	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	
	模写	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	
	その他	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	
	計	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	
図書	和書	3,821冊	212,589冊	2,650冊	153,456冊	2,027冊	91,902冊	2,708冊	190,837冊
	漢書	193冊	41,002冊	200冊	22,303冊	32冊	5,301冊	0冊	0冊
	洋書	253冊	14,795冊	113冊	4,762冊	48冊	2,037冊	40冊	2,785冊
	計	4,267冊	268,386冊	2,963冊	180,521冊	2,107冊	99,240冊	2,748冊	193,622冊
映画フィルム	0巻	0巻	0巻	0巻	0巻	30巻	0巻	0巻	
スライド	0本	0本	0本	26本	0本	21本	0本	0本	
	0コマ	0コマ	0コマ	2,779コマ	0コマ	2,192コマ	0コマ	12コマ	
マイクロフィルム	0巻	3,601巻	0巻	643巻	0巻	68巻	0巻	515巻	

*1 マイクロフィルムは劣化(ビネガーシンドローム)のため、30年度に59件を廃棄(デジタル化済)

*2 館外に別置システムに登録していなかった図書(70,312冊)も加えた。30年度に増えた和書は5,068冊、洋書は108冊の計5,176冊である。

東京国立博物館資料館の利用者数(過去5年間)

	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
利用者数	5,936人	4,730人	4,971人	4,616人	4,080人
閉架図書(閲覧)	4,521件	4,862件	4,905件	5,314件	4,649件
マイクロフィルム(閲覧)	399件	588件	502件	456件	398件
レファレンスサービス	4,006件	5,014件	4,861件	5,113件	5,152件
コピーサービス	25,395枚	30,818枚	30,066枚	33,832枚	27,286枚

※23年9月1日より、従来からの西門入館利用に加え、正門からの来館者に対し資料館東口からの利用を開始した。以後の利用者数はこれを含む。

1-(3)-②-3 特別観覧件数

申請件数

令和2年3月31日現在

区 分	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料
合 計	331	7	324	123	4	121	88	2	86	57	1	56	61	0	61
写 真 撮 影	85	3	82	2	1	5	28	1	27	25	1	24	26	0	26
映 画 撮 影							0	0	0		0	0	0	0	0
テ レ ビ 撮 影	5	4	1	3	3	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0
ビ デ オ 撮 影							0	0	0		0	0	1	0	1
模 写	16	0	16	6	0	6	3	0	3	2	0	2	4	0	4
模 造							1	0	1				0	0	0
熟 覧	277	0	277	162	0	162	55	0	55	30	0	30	30	0	30

点数

令和2年3月31日現在

区 分	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料
合 計	1,789	11	1,778	850	4	1,195	226	3	223	177	4	173	187	0	187
写 真 撮 影	230	6	224	18	1	17	73	1	72	62	4	58	77	0	77
映 画 撮 影							0	0	0	0	0	0	0	0	0
テ レ ビ 撮 影	6	5	1	3	3	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0
ビ デ オ 撮 影							0	0	0		0	0	1	0	1
模 写	23	0	23	6	0	6	3	0	3	2	0	2	11	0	11
模 造							1	0	1				0	0	0
熟 覧	1,530	0	1,530	823	0	1,172	147	0	147	113	0	113	98	0	98

1-(3)-②-4 画像利用件数（フィルムを含む）

申請件数

令和2年3月31日現在

区 分	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料
画 像 利 用	フ ィ ル ム での提供	モノクロ	0	0	0	(画像提供業務を外部へ委託)							0	0	0
		カラー	0	0	0								0	0	0
	デ ジ タ ル デ ー タ 提供	モノクロ	1,147	825	322		735	580	155	322	184	138	1	1	0
		カラー					89	60	29						
	プ リ ン ト での提供	モノクロ	74	66	8		72	66	6	2	0	2			
		カラー	2	0	2		0	0	0	2	0	2			
画 像 再 利 用		107	71	36					106	70	36	1	1	0	

点数

令和2年3月31日現在

区 分	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料
画 像 利 用	フ ィ ル ム での提供	モノクロ	0	0	0	(画像提供業務を外部へ委託)							0	0	0
		カラー	0	0	0								0	0	0
	デ ジ タ ル デ ー タ 提供	モノクロ	4,365	2,425	1,940		2,852	1,697	1,155	1,192	500	692	3	3	0
		カラー					318	225	93						
	プ リ ン ト での提供	モノクロ	170	104	66		116	104	12	54	0	54			
		カラー	118	0	118		0	0	0	118	0	118			
画 像 再 利 用		542	107	435					541	106	435	1	1	0	

1-(3)-②-5 広報実績一覧

【本部文化財活用センター】

・びじゅチューン! × きゅーはく なりきり美術館

会期	8月6日(火)～10月14日(月)
ターゲット	ファミリー層、小学生などの子どもとその親
重点項目	夏休みの家族向け媒体、インターネット媒体、映像技術系媒体
特記事項	キャノン(株)綴プロジェクトによる高精細複製品を活用。
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	チラシ約2000件、ポスター約100件、近隣小学校、施設等配布、館内配布
交通広告	—
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
「東京国立博物館ニュース」掲載	—
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	ぶんかつWEBでの紹介、ぶんかつSNSの情報発信(Twitter/Instagram)計20回、ぶんかつブログでの紹介計1回
その他	なりきり美術館フォトコンテストの開催
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	—
テレビ、ラジオ	LOVE FM 76.1エリアレポート、アフター6ジャンクション
雑誌	—
インターネットメディア	九州福岡おたくメディア、計量計測データバンク、Eテレウォッチング、ださいふなび、など
その他	—

・びじゅチューン! × TAD なりきり美術館

会期	8月10日(土)～10月20日(日)
ターゲット	ファミリー層、小学生などの子どもとその親
重点項目	夏休みの家族向け媒体、インターネット媒体、映像技術系媒体
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	チラシ約2000件、ポスター約100件、近隣小学校、施設等配布、館内配布
交通広告	—
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
「東京国立博物館ニュース」掲載	—
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	ぶんかつWEBでの紹介、ぶんかつSNSの情報発信(Twitter/Instagram)計20回、ぶんかつブログでの紹介計1回
その他	なりきり美術館フォトコンテストの開催
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	富山経済新聞
テレビ、ラジオ	NHKニュース(富山放送局)、アフター6ジャンクション
雑誌	—
インターネットメディア	Eテレウォッチング、金沢日和、金沢富山最新イベントお出かけ情報
その他	—

・伎楽面「呉女」・「迦楼羅」の復元模造完成

会期	10月8日(火)～11月24日(日)(27日間)
ターゲット	古美術愛好者、歴史愛好者、経済(トレンド・デジタル)関連
重点項目	インターネット媒体、映像技術系媒体
特記事項	東京国立博物館「総合文化展」および「正倉院の世界展」で初公開
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	—
交通広告	—

新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
「東京国立博物館ニュース」掲載	告知1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	ぶんかつWEBでの紹介、ぶんかつSNSの情報発信(Twitter/Instagram)計4回、ぶんかつブログ(前編/後編)での紹介計2回
その他	アットPressによるプレスリリース配信
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	—
テレビ、ラジオ	—
雑誌	—
インターネットメディア	zakzak、@nifty ビジネス、excite. ニュース、読売新聞オンライン、Infoseekニュースほか、計54媒体
その他	ニュースリリースリツイート150件

・8Kで文化財 国宝「聖徳太子絵伝」

会期	10月29日(火)～11月24日(日)(27日間)
ターゲット	古美術愛好者、歴史愛好者、経済(トレンド・デジタル)関連
重点項目	インターネット媒体、映像技術系媒体
特記事項	英語版コンテンツ初公開
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	館内で来館者に配布(チラシ)、国内の美術館・博物館、大学、マスコミ媒体等に送付
交通広告	上野駅・鶯谷駅へのB1ポスター掲出(4枠)
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
「東京国立博物館ニュース」掲載	告知1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	ぶんかつ・東博WEBサイトでの紹介、東博メールマガジン、ぶんかつ・東博SNS(Twitter/Instagram)の情報発信計6回、ぶんかつブログでの紹介
その他	アットPressによるプレスリリース配信
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	—
テレビ、ラジオ	—
雑誌	—
インターネットメディア	livedoor、グノシー、朝日新聞デジタル&M、LINEニュース、ロイター.co.jp、ほか、計67媒体
その他	SNS関連掲載約50件

・公開シンポジウム2019「複製がひらく文化財の未来」

会期	11月23日(土・祝)
ターゲット	一般の美術・歴史愛好者、経済(トレンド・デジタル)関連
重点項目	インターネット媒体、映像技術系媒体
特記事項	文化財活用センター公開シンポジウム初開催
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	館内で来館者に配布(チラシ)
交通広告	—
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
「東京国立博物館ニュース」掲載	—
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	ぶんかつWEBサイトでの紹介、ぶんかつSNS(Twitter/Instagram)の情報発信計4回
その他	アットPressによるプレスリリース配信
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	—
テレビ、ラジオ	—
雑誌	—

インターネットメディア	朝日新聞デジタル&M、読売新聞オンライン、ニコニコニュース、SankeiBiz、SANSPO.COM ほか、計55媒体
その他	SNS関連掲載約20件

【東京国立博物館】

(1) 総合文化展（平常展）

- ・「博物館でお花見を」

会期	3月12日(火)～4月7日(日) 27日間
ターゲット	一般の美術愛好家、訪日・在日外国人、若年層（学生など）
重点項目	マスコミおよびインターネット・スマートフォンサイトによる美術愛好家、訪日・在日外国人等への情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	871件発送(1都3県博物館・美術館・高校・中学・小学校(台東・墨田・文京)・ギャラリー・ホテル・旅館・カルチャーセンター等)
交通広告	交通広告(B1駅貼り)：JR(上野・鶯谷)、東京メトロ(表参道、銀座駅、六本木駅、新宿駅)、東急(中目黒駅、自由が丘駅、武蔵小杉駅、二子玉川駅) 交通広告(サイネージ)：東京駅八重洲北口、新宿駅東口、六本木駅、秋葉原駅
新聞・雑誌広告	朝日新聞(夕刊)2回、読売新聞(夕刊)2回、日本経済新聞(夕刊)、ジャパントイムズ2回、ジャパンニュース
テレビ広告	—
「東京国立博物館ニュース」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジン・SNSでの情報配信
その他	@Pressによるリリース配信、フェイスブックでのバナー広告を実施
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	朝日新聞、読売新聞、日本経済新聞、ジャパントイムズ、ジャパンニュース
テレビ、ラジオ	TBSラジオ「アフター6ジャンクション」、JCOMチャンネル、フジテレビ「もしもツアーズ」、日本テレビ「ぶらり途中下車の旅」
雑誌	うえの、びあ「おとなの桜旅」
インターネットメディア	レッツエンジョイ東京、ママともプラス ほか
その他	—

- ・特別企画「奈良大和四寺のみほとけ」

会期	6月18日(火)～9月23日(月・祝) 86日間
ターゲット	一般の美術愛好家、訪日・在日外国人、若年層（学生など）
重点項目	マスコミおよびインターネット・スマートフォンサイトによる美術愛好家、訪日・在日外国人等への情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	8件発送(室生寺：ポスター100枚・チラシ3000枚、長谷寺：ポスター500枚・チラシ6000枚、岡寺ポスター10枚・チラシ300枚、安倍文珠院10枚・チラシ500枚、奈良まほろば館チラシ1000枚)
交通広告	交通広告(B1駅貼り)：東急線(渋谷)、JR(上野・鶯谷・新宿・東京)、メトロ(上野、表参道・銀座・六本木・神保町・明治神宮・日本橋)、都営(浅草) 交通広告(サイネージ)：東JR上野駅
新聞・雑誌広告	朝日(朝刊)、読売(夕刊)、日経(朝刊)×3、OZTRIP、PEACH SELECT
テレビ広告	—
「東京国立博物館ニュース」掲載	告知1回、特集2回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事7回、メールマガジン・SNSでの情報配信
その他	講演会
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	日経新聞、朝日新聞、毎日新聞、東京新聞 ほか
テレビ、ラジオ	ぶらぶら美術博物館、ゆうがた5
雑誌	月刊うえの、美術の窓、サライ、散歩の達人、芸術新潮、婦人公論、和楽、新美術新聞、女性セブン ほか
インターネットメディア	WEB版美術手帖、OBIKAKE、モモサーパー、レッツエンジョイ、和楽WEB、Internet Museum、Walkerplus ほか
その他	—
③報道発表会	
実施日	—

人数等	—
④報道内覧会	
実施日	6月18日（火）
人数等	49媒体 69名

・親と子のギャラリー／日本文化体験 「日本のよろい！」

会期	7月17日（水）～9月23日（月・祝）69日間
ターゲット	ファミリー層、小学生などの子どもとその親、外国人
重点項目	夏休みの家族向け媒体、訪日観光客向け媒体、インターネット媒体
特記事項	—

①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	1094件（1都3県博物館・美術館・中学・小学校（台東・墨田・文京）、インターナショナルスクール、ホテル、大使館等）
交通広告	上野駅デジタルサイネージ
新聞・雑誌広告	訪日観光客向け日英併記ウェブサイト（LIVE JAPAN、TimeOutTokyo、att. JAPAN 各日英1ページずつ）、ジャパントゥタイムズ、Spotlight（ジャパントゥタイムズ折り込み媒体）、こども新聞、トーキョーブックマーク
テレビ広告	—
「東京国立博物館ニュース」掲載	告知1回、特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事1回、メールマガジン・SNSでの情報配信、@Pressによるリリース発信など
その他	ツイッター広告（@Press配信）、ツアー形式の報道向け体験会実施
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	教育家庭新聞
テレビ、ラジオ	テレビ：NHK、TOKYOMX/BS11、フジテレビ ラジオ：J-WAVE、NHKラジオ第二「ベトナム語／インドネシア語ニュース」
雑誌	ママともぶらす、Walker Plus、目の眼 ほか
インターネットメディア	JNTOウェブサイトおよびFacebook、サンケイリビング Living東京Web、モモモサーバー、チラシミュージアム、att. JAPAN Facebook
その他	—

・「博物館でアジアの旅」

会期	9月10日（火）～10月14日（月・祝）（35日間）
ターゲット	一般の東洋美術愛好家、訪日・在日外国人、若年層（学生など）
重点項目	一般のマスコミおよびインターネット・スマートフォンサイトによる情報提供
特記事項	—

①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	1199件（1都3県博物館・美術館、ギャラリー・画廊、高校（台東・墨田・文京）、インターナショナルスクール、大使館、専門学校（都内アート服飾系）、ホテル・旅館等）
交通広告	交通広告（B1駅貼り）：東京メトロ（表参道・日本橋駅・上野駅）、東急（渋谷駅・中目黒） 交通広告（サイネージ）：JR東日本（上野駅・東京駅）、東京メトロ（六本木駅・恵比寿駅・明治神宮前（原宿））、京成電鉄（京成上野駅）
新聞・雑誌広告	朝日新聞（夕刊）、ジャパントゥタイムズ、ジャパニューズ Peach SELECT東京'19（LCC機内誌）、OZ magazine TRIP秋'19
テレビ広告	—
「東京国立博物館ニュース」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	ツイッター・フェイスブックでの広告配信、当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事3回、メールマガジン・SNSでの情報配信、@Pressによる発信など。
その他	—
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	産経新聞、船橋よみうり
テレビ、ラジオ	ニュースたいとう
雑誌	うえの
インターネットメディア	インターネットミュージアム、ウェブ版美術手帖、レッツエンジョイ東京、Walkerplus、CONFORT、OBIKAKE、モモモサーバー
その他	—

・住友財団修復助成30年記念特別企画「文化財よ、永遠に」

会期	10月1日(火)～12月1日(日)(55日間)
ターゲット	一般の美術愛好家、訪日・在日外国人、若年層(学生など)
重点項目	マスコミおよびインターネット・スマートフォンサイトによる美術愛好家、訪日・在日外国人等への情報提供
特記事項	
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	1146件(1都3県博物館・美術館・高校・中学・小学校(台東・墨田・文京)・ギャラリー・ホテル・旅館・カルチャーセンター等)
交通広告	JR駅貼り(上野、鶯谷、東京、新宿)、上野駅サイネージ、メトロ(上野、表参道・六本木・神保町・明治神宮)、都営(浅草)、東急(渋谷)
新聞・雑誌広告	朝日新聞、読売新聞、日本経済新聞 各1回
テレビ広告	—
「東京国立博物館ニュース」掲載	告知1回、特集2回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事7回、メールマガジン・SNSでの情報配信 など。
その他	
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	読売新聞、日経新聞 ほか
テレビ、ラジオ	ぶらぶら美術博物館、日曜美術館
雑誌	月刊うえの、典藏、美術の窓、美術展ナビ、時空旅人、一個人、ぴあ ほか
インターネットメディア	confort、Walkerplus、レッツエンジョイ東京、OBIKAKE、ココシル上野 ほか
その他	—
③報道発表会	
実施日	3月18日(平成館大講堂)
人数等	38媒体 46名出席
④報道内覧会	
実施日	9月30日
人数等	51媒体 65名

・「博物館に初もうで」

会期	2020年1月2日(木)～1月26日(日)(23日間)
ターゲット	一般の美術愛好家、訪日・在日外国人、若年層(学生など)
重点項目	マスコミおよびインターネット・スマートフォンサイトによる美術愛好家、訪日・在日外国人等への情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	1,149件発送(1都3県博物館・美術館・高校・中学・小学校(台東・墨田・文京)・ギャラリー・ホテル・旅館・カルチャーセンター等)
交通広告	東京駅八重洲北・南北通路サイネージ、上野駅サイネージ、秋葉原セット(電気街口・中央改札・昭和通り)JR駅貼り(上野、鶯谷、秋葉原)東京メトロ・東急・京成・都営駅貼り(【メトロ】上野駅、表参道、六本木、日本橋、九段下、明治神宮前、根津、【都営】浅草、上野御徒町、【東急】二子玉川、自由が丘、【京成】京成上野)
新聞・雑誌広告	朝日新聞、読売新聞、ジャパンニュース各1回、ジャパントイムズ2回、Hanako
テレビ広告	
「東京国立博物館ニュース」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジン・SNSでの情報配信、@Pressによる発信 SNS広告など
その他	
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	読売新聞、産経新聞 ほか
テレビ、ラジオ	ひるまえほっと、ニュースたいとう ほか
雑誌	美術手帖、婦人画報、冬ぴあ ほか
インターネットメディア	ファッションプレス、美術手帖、モモサーパー、インターネットミュージアム、レッツエンジョイほか
その他	

(2) 特別展、共催展等

・特別展 御即位30年記念「両陛下と文化交流—日本美を伝える—」

会期	3月5日(火)～4月29日(月・祝) (56日間)
ターゲット	一般の美術愛好家
重点項目	マスコミ及び交通広告、新聞広告等による広く一般への情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約6000件(美術館、博物館、公立施設、大学、カルチャーセンター、和菓子協会等)に送付、館内配布
交通広告	JR東日本NSWボード(32駅、32面)、上野駅ホーム前ボード、東京メトロプラチナボード(15駅20面)、京成電鉄タイアップチラシ、京成電鉄中吊り、京成電鉄駅貼
新聞・雑誌広告	読売新聞、朝日新聞、日本経済新聞にて展開
テレビ広告	—
「東京国立博物館ニュース」掲載	告知2回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事2回、メールマガジンでの情報配信、SNS:当館ツイッター、フェイスブックでの情報発信 ほか
その他	—
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	読売新聞、毎日新聞、産経新聞など
テレビ、ラジオ	テレビ朝日「ワイドスクランブル」、日本テレビ「深層NEWS」
雑誌	サライ(小学館、3月号)、毎日が発見(毎日が発見、3月号)、時空旅人(三栄書房、3月号)、BRUTUS(マガジンハウス、3月号)、花saku(PR現代、3月号)、一個人(KKベストセラーズ、3月号)、究極漢字(コスミック出版、3月号)など
インターネットメディア	美術手帖(株式会社BTCompany)、ファッションプレス(株式会社カーリン)、レッツエンジョイ東京(株式会社ぐるなび)など
その他	—
③報道発表会	
実施日	2018年11月29日(木) 文部科学省記者会見室
人数等	—
④報道内覧会	
実施日	3月4日(月)
人数等	96人

・特別展「国宝 東寺—空海と仏像曼荼羅」

会期	3月26日(火)～6月2日(日) (69日間)
ターゲット	仏像ファン、日本文化・美術愛好家全般
重点項目	マスコミ及び交通広告、新聞広告等による広く一般への情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約6000件(美術館、博物館、公立施設、大学、カルチャーセンター等)に送付、館内配布
交通広告	JR 駅ボード、駅サイネージ JR上野駅 J・ADビジョン、JR山手線マルチビジョン、JR東日本ADビジョン、東京メトロボード、京王タイアップ広告、首都圏私鉄広告ボード、上野さくらテラス柱巻き広告、上野エリアフラッグ ほか
新聞・雑誌広告	朝日新聞、読売新聞 ほか
テレビ広告	NHK スポット枠
「東京国立博物館ニュース」掲載	告知3回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事8回、メールマガジンでの情報配信、公式ホームページ、共催者(東京国立博物館、読売新聞社、NHKプロモーション)ウェブサイトでの紹介 SNS:公式フェイスブック、ツイッター 当館ツイッター、フェイスブックでの情報発信 ほか
その他	外部での講演会
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	朝日新聞、東京新聞、読売新聞 ほか
テレビ、ラジオ	テレビ東京「新 美の巨人たち」、NHK「日曜美術館」本編、NHK「運慶特集」、フジテレビ「1hセンス」、BS日テレ「ぶらぶら美術博物館」、J-WAVE「GOOD NEIGHBORS」、FMヨコハマ「Lovely Day」 ほか
雑誌	一個人、宝島社MOOK、サライ、Discover Japan、芸術新潮、東洋経済、ELLE JAPON、BRUTUS、ぴあMOOK 空海と東寺、歴史人、ノジュール、発見上手、エクラ、BAILA、MyAge ほか
インターネットメディア	レッツエンジョイ東京、Ozmall、インターネットミュージアム、PRESIDENT Online、東洋経済オンライン、ダイヤモンド・オンライン、ファッションプレス ほか

その他	—
③報道発表会	
実施日	2018年10月17日（平成館大講堂）
人数等	58媒体 78名出席
④報道内覧会	
実施日	3月25日
人数等	141媒体 241名出席

・特別展「美を紡ぐ 日本美術の名品 ―雪舟、永徳から光琳、北斎まで―」

会期	5月3日（金・祝）～6月2日（日）（31日間）
ターゲット	一般の美術愛好家
重点項目	マスコミ及び交通広告、新聞広告等による広く一般への情報提供
特記事項	—

①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約6000件（美術館・博物館、東京都および神奈川、千葉、埼玉中学校、高校、近隣小学校、大学など）
交通広告	JR東日本NSWボード(32駅、32面)、上野駅ホーム前ボード、東京メトロUボードゴールド(17駅20面)、京成電鉄タイアップチラシ、京成電鉄中吊り、京成電鉄駅貼
新聞・雑誌広告	読売新聞、朝日新聞、日本経済新聞にて展開
テレビ広告	—
「東京国立博物館ニュース」掲載	2回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、ツイッター、フェイスブック、ブログ関連記事2回、メールマガジンでの情報配信、展覧会公式サイト
その他	—

②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	読売新聞、毎日新聞、地方紙ほか
テレビ、ラジオ	調布FM
雑誌	美術の窓(生活の友社、1月号)、時空旅人(三栄書房、3月号)、BRUTUS(マガジンハウス、3月号)、月刊うえの(5月号)、書道界(5月号)、月刊ギャラリー(5月号)、月刊美術(5月号)、週刊現代(4/15)ほか
インターネットメディア	美術手帖(株式会社BTCompany)、ファッションプレス(カーリン)、シニアコム、博物館美術館写真広報、コモレバwebほか
その他	—

③報道発表会	
実施日	2018年11月29日(木) 文部科学省記者会見室
人数等	

④報道内覧会	
実施日	5月8日(水)
人数等	95媒体114人

・日中文化交流協定締結40周年記念 特別展「三国志」

会期	7月9日（火）～9月16日（月・祝）（70日間）
ターゲット	中国考古・美術に興味のある層、三国志愛好家、中国歴史愛好家など
重点項目	マスコミ及び交通広告、新聞広告等による広く一般への情報提供
特記事項	—

①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約7300件(美術館、博物館、公立施設、大学、カルチャーセンター等)に送付、館内配布
交通広告	JR SWボード30駅、JR秋葉原駅ホーム前ボード1面、JR秋葉原駅エスカシート4面、JR山手線まど上チャンネル、JR山手線B3まど上ポスター、東京メトロプラチナボード10駅、東京メトロ日比谷線新型車両ドア横B3ポスター、私鉄5社フレコミボード 東急、小田急、京王、相鉄、京急の43駅 東急線ドア横B3ポスター、東急線横浜駅メガセット(ボード)、東武線東武日比谷線、東武半蔵門線ドア横B3ポスター、京王線駅貼りB1ポスター、京王線電車内中吊りB3ポスター、京王線新宿ステラボード、JR上野駅改札内アドビジョン、上野駅前「桜テラス」前柱巻き、上野のれん会ベナント
新聞・雑誌広告	読売新聞
テレビ広告	—
「東京国立博物館ニュース」掲載	告知3回

博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事14回、メールマガジンでの情報配信、公式ホームページ、共催者(東京国立博物館、NHKプロモーション、朝日新聞社)ウェブサイトでの紹介 SNS:公式フェイスブック、ツイッター 当館ツイッター、フェイスブック、インスタグラムでの情報発信ほか
その他	コーエーテクモゲームスのゲーム(三國志、三國無双シリーズ)・横山光輝の漫画・川本喜八郎の人形劇とコラボレーション、ツイッター、フェイスブックへ広告出稿、外部での講演会
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	朝日新聞、東京新聞、毎日小学生新聞、東洋経済日報、船橋よみうり、群馬東部よみうり、北総よみうり、陸奥新報、公明新聞、都政新聞、新美術新聞、日本教育新聞、ほか
テレビ、ラジオ	NHKBSプレミアム「三國志 特集番組」、NHKBSプレミアム「偉人たちの健康診断」、NHKEテレ「日曜美術館 アートシーン」、NHK総合「歴史秘話 ヒストリア」、BS日テレ「ぶらぶら美術・博物館」、J-WAVE、TBSラジオ、ほか
雑誌	美術展完全ガイド2019、日経おとなのOFF、美術の窓、2019美術展びあ、JTB Style、時空旅人、ユリイカ、「宝島社ムック 『史実 三國志』」、月刊「うえの」、Pen、週刊SPA!、週刊文春、芸術新潮、AERA、など多数
インターネットメディア	NHK NEWSWEB、ニコニコ生放送、アートアジェンダ、「好書好日」、歴人マガジン、美術手帖WEB、レッツエンジョイ東京、展玩、ダイヤモンドソサイエティ、モモモサーバー、ココシル、SPICE、インターネットミュージアム、アートの定理、和楽WEB、ロケットニュース、LINEニュース、チラシミュージアムなど多数
その他	—
③報道発表会	
実施日	2月20日(水)(平成館大講堂)
人数等	57媒体 95人出席
④報道内覧会	
実施日	7月8日(月) ※吉川晃司氏への取材会も実施
人数等	157媒体246名 ※吉川晃司氏取材会は22媒体33名

・御即位記念特別展「正倉院の世界—皇室がまもり伝えた美—」

会期	10月14日(月・祝)～11月24日(日)(42日間)
ターゲット	一般の美術愛好家
重点項目	マスコミ及び交通広告、新聞広告等による広く一般への情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約9000件(博物館・美術館・学校、ギャラリー、図書館等)
交通広告	JR NTボード1ハーフセット44駅50面(10/1～31)、東武日比谷線ドア横 B3ポスター200枚(10/12～11/11)、東武半蔵門線ドア横B3ポスター250枚(10/12～11/11)、京成タイアップ、広告列車貸切(9/20～11/24)ほか
新聞・雑誌広告	読売新聞、毎日新聞、日本経済新聞ほか
テレビ広告	—
「東京国立博物館ニュース」掲載	3回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事5回、メールマガジンでの情報配信、公式ホームページ、共催者(読売新聞社)ウェブサイトでの紹介
その他	ツイッター、フェイスブックへ広告出稿
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	読売新聞、毎日新聞、日本経済新聞 ほか
テレビ、ラジオ	BS日テレ「読売テレビ開局60年 正倉院の奇跡～守り継がれた天皇の倉」(10/19放送)、NHK総合 NHKスペシャル「天皇が創った至宝～正倉院宝物が伝える日本誕生～」(10/30放送)、NHK Eテレ「日曜美術館 アートシーン」(11/3放送)
雑誌	ノジュール(JTBパブリッシング、11月号)、典藏古美術(11月号)、ディスカバージャパン(エイ出版社、11月号)、pen(CCCメディアハウス、11月号)、皇室(扶桑社、11月号) ほか
インターネットメディア	ダイヤモンドオンライン、シネフィル、ここにしかない美術館、きものsalon、美術展ナビ、ぴあニュース、LINEチケットほか
その他	—
③報道発表会	
実施日	5月17日(水)
人数等	51媒体、77人
④報道内覧会	
実施日	10月13日(日)
人数等	111媒体、176人

・特別展「人、神、自然—ザ・アール・サーニ・コレクションの名品が語る古代世界—」

会期	11月6日(水)～2020年2月9日(日)(96日間)
ターゲット	日本美術ファン、考古ファン、海外美術ファン

重点項目	マスコミ及び交通広告、新聞広告等による広く一般への情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約120件(博物館・美術館・学校、ギャラリー、図書館等)
交通広告	JR SW1Aフル30駅30面(11/15~30)、東京メトロ 電飾看板20駅20面(11月上旬から1か月間)、東武日比谷線乗り入れドア横210枚(12/1~31)、東武半蔵門線乗り入れドア横200枚(11/5~12/4)、京王線交通広告タイアップ駅貼りB1ポスター100枚、中吊りB3ポスター970枚(11月~2020年1月中適宜掲出)ほか
新聞・雑誌広告	朝日新聞
テレビ広告	—
「東京国立博物館ニュース」掲載	3回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事2回、メールマガジンでの情報配信
その他	ツイッター、フェイスブック、ウェブサイトバナー広告出広
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	読売新聞、朝日新聞、日本経済新聞 ほか
テレビ、ラジオ	FM群馬「G★FORCE」
雑誌	アサヒカメラ(朝日新聞出版、11月号)、「毎日が発見」(毎日が発見、11月号)、「ムー」(学研プラス、12月号)、「美しいキモノ」(ハースト婦人画報社、冬号)、「一個人」(ベストラセラーズ、2020年1月号)ほか
インターネットメディア	OBIKAKE、ファッションプレス、モモモサーバー、個展ナビ、レッツエンジョイ東京 ほか
その他	ジャパントイムズ、Eye-Aiほか
③報道発表会	
実施日	—
人数等	—
④報道内覧会	
実施日	11月5日(火)
人数等	63人

・特別公開「高御座と御帳台」

会期	12月22日(日)~2020年1月19日(日) (29日間)
ターゲット	日本美術ファン
重点項目	ウェブサイト、チラシによる一般への情報提供。
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	—
交通広告	—
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
「東京国立博物館ニュース」掲載	1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	ウェブサイト及びツイッター、フェイスブック
その他	—
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	読売新聞、産経新聞、東京新聞ほか
テレビ、ラジオ	テレビ朝日ニュース、NHKニュース、日本テレビニュース、TBSニュース、フジテレビニュース、テレビ東京ニュース
雑誌	—
インターネットメディア	—
その他	—
③報道発表会	
実施日	—
人数等	—
④報道内覧会	
実施日	12月21日(土)
人数等	11媒体、25人出席

・日本書紀成立1300年 特別展「出雲と大和」

会期	2020年1月15日(水)～3月8日(日) (54日間)
ターゲット	日本美術ファン、歴史ファン、考古ファン
重点項目	マスコミ及び交通広告、新聞広告等による広く一般への情報提供。
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約6,000件(博物館・美術館・学校、ギャラリー、図書館等)
交通広告	JR NTボード(87駅94面)、ADビジョン東京駅セット(89面)、東京メトロ Uボードゴールド(17駅20面)、臨時集中張(1駅3面)、電飾看板(1駅1面) 私鉄(メトロ) フレコミボード(43駅43面)、ドアヨコ(B3 450枚) ほか
新聞・雑誌広告	読売新聞(1月7日 社告、1月12日 編集特集、1月15日 全5段広告) ほか
テレビ広告	—
「東京国立博物館ニュース」掲載	4回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事 9回、メールマガジンでの情報配信、公式ウェブサイト
その他	両県アンテナショップでのPR展開、両県観光PRおよび古代出雲歴博PRの着ぐるみグリーティング会、外部での講演会
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	奈良新聞、山陰中央新報、中国新聞、宗教新聞、読売新聞、島根日日新聞、中国新聞、共同通信 ほか
テレビ、ラジオ	BS日テレ「ぶらぶら美術・博物館」 ほか
雑誌	時空旅人、美術の窓、一個人、IMPRESSION GOLD、芸術新潮、医師協MATE、はれ予報、日経おとなのOFF、和楽 ほか
インターネットメディア	インターネットミュージアム、ウェブ版美術手帖、和楽WEB、レッツエンジョイ東京、地域新聞、シニアコム、OBIKAKE、博物館美術館写真広報、Libera、和テンション、WEBキャリア・ママ ほか
その他	—
③報道発表会	
実施日	6月4日 平成館大講堂
人数等	48媒体 70名出席
④報道内覧会	
実施日	2020年1月14日
人数等	—
種類	メディア名、件数等
新聞	読売新聞、毎日新聞、京都新聞 ほか45件
テレビ、ラジオ	KBS京都テレビ「きらきん!」、TBSラジオ「アフター6ジャンクション」 ほか2件
雑誌	一個人(KKベストセラーズ)、和楽(小学館)、美術の窓(生活の友社) ほか59件
インターネットメディア	Lmaga.jp(京阪神エルマガジン社)、京都で遊ぼうART(エグザム) ほか33件
その他	—

【京都国立博物館】

(1)名品ギャラリー(平常展)

・特集展示「新収品展」

会期	7月2日(火)～8月4日(日) (30日間)
ターゲット	一般の日本美術ファン、古美術ファン
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	—
交通広告	—
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
「京都国立博物館だより」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、トラりんブログ関連記事1回、メールマガジンでの情報配信 SNS:当館ツイッター、トラりんツイッター・フェイスブックでの情報発信
その他	—
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	—
テレビ、ラジオ	—

雑誌	プレシヤス（小学館）、四条56号（四条繁栄会） ほか計2件
インターネットメディア	京都観光Navi（京都市）
その他	—

・特集展示「赤ってじつはどんな色？」

会期	7月2日（火）～8月12日（日）（37日間）
ターゲット	小中学生および保護者、海外からの旅行者、一般の日本美術ファン
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	—
交通広告	—
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
「京都国立博物館だより」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、トラりんブログ関連記事1回・YouTube、メールマガジンでの情報配信 SNS:当館ツイッター、トラりんツイッター・フェイスブックでの情報発信
その他	トラりんによる出張PR（奈良博、京都府立植物園、京都市青少年科学センター、京都市動物園）
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	—
テレビ、ラジオ	—
雑誌	Kansai Walker（KADOKAWA）、yomiっこ（奈良ライフ） ほか計4件
インターネットメディア	京都で遊ぼうART（エグザム）、京都観光Navi（京都市）
その他	—

・特別企画「京博寄託の名宝—美を守り、美を伝える—」

会期	8月14日（水）～9月16日（月・祝）（30日間）
ターゲット	一般の日本美術ファン、古美術ファン、ICOM京都大会の参加者
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,668件（※博物館・美術館・学校（小・中・高・大）、図書館、ギャラリー等）
交通広告	京都駅地下東口フラッグ、京都市地下鉄車内広告（烏丸線）、サイネージ（大阪地下鉄梅田駅構内、阪急連絡通路、JR京都駅地下東口、京都市地下鉄四條駅）、駅貼り広告（京阪電車：七条駅、京橋駅、天満橋駅、淀屋橋駅）
新聞・雑誌広告	産経新聞（関東版、関西版4回）、京都新聞（番組欄全5段）
テレビ広告	—
「京都国立博物館だより」掲載	告知1回、特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、トラりんブログ関連記事3回、メールマガジンでの情報配信 SNS:当館ツイッター、トラりんツイッター・フェイスブックでの情報発信
その他	タクシー会社・ホテルコンシェルジュ等対象特別鑑賞会開催、トラりんによる出張PR（京都府立植物園、京都市青少年科学センター、京都市動物園、祇園祭後祭エコ屋台村、乾杯の夕べ（国立京都国際会館））
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	読売新聞、毎日新聞、京都新聞 ほか45件
テレビ、ラジオ	KBS京都テレビ「きらきん!」、TBSラジオ「アフター6ジャンクション」 ほか2件
雑誌	一個人（KKベストセラーズ）、和楽（小学館）、美術の窓（生活の友社） ほか59件
インターネットメディア	Lmaga.jp（京阪神エルマガジン社）、京都で遊ぼうART（エグザム） ほか33件
その他	—

・新春特集展示「子づくし—干支を愛でる—」

会期	2年1月2日（木）～2月2日（日）（28日間）
ターゲット	一般の日本美術ファン、年末年始の観光客
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	—
①広告・広報	

種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,668件（※博物館・美術館・学校（小・中・高・大）、図書館、ギャラリー等）
交通広告	駅貼り広告（京阪電車：七条駅、京橋駅、天満橋駅、淀屋橋駅）
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
「京都国立博物館だより」掲載	告知1回、特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、トラりんブログ関連記事1回、メールマガジンでの情報配信 SNS:当館ツイッター、トラりんツイッター・フェイスブックでの情報発信
その他	—

②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	—
テレビ、ラジオ	—
雑誌	Kansai Walker (KADOKAWA)、月刊書道界（藤樹社） ほか7件
インターネットメディア	ぴあアプリ（ぴあ）、京都観光Navi（京都市） ほか1件
その他	名鉄観光サービスツアーパンフレット ほか1件

・特集展示「京都御所障壁画 紫宸殿」

会期	2年1月2日（木）～2月2日（日）（28日間）
ターゲット	一般の日本美術ファン、京都ファン、皇室ファン
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	—

①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,668件（※博物館・美術館・学校（小・中・高・大）、図書館、ギャラリー等）
交通広告	—
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
「京都国立博物館だより」掲載	告知1回、特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、トラりんブログ関連記事1回、メールマガジンでの情報配信 SNS:当館ツイッター、トラりんツイッター・フェイスブックでの情報発信
その他	—

②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	—
テレビ、ラジオ	—
雑誌	関西・中国・四国じゃらん（じゃらん）、マイ奈良（アサコムニッセイシャ） ほか1件
インターネットメディア	ぴあアプリ（ぴあ）、京都観光Navi（京都市） ほか1件
その他	—

・特集展示「神像と獅子・狛犬」

会期	2年1月2日（木）～3月22日（日）（70日間）
ターゲット	一般の日本美術ファン、彫刻ファン、古美術ファン
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	—

①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,668件（※博物館・美術館・学校（小・中・高・大）、図書館、ギャラリー等）
交通広告	—
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
「京都国立博物館だより」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、トラりんブログ関連記事1回、メールマガジンでの情報配信 SNS:当館ツイッター、トラりんツイッター・フェイスブックでの情報発信
その他	—

②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	—

テレビ、ラジオ	—
雑誌	きょうの歳時記（エイブル）、マイ奈良（アサコムニッセイシャ）
インターネットメディア	ぴあアプリ（ぴあ）、京都観光Navi（京都市）
その他	—

・特集展示「雛まつりと人形」

会期	2年2月15日（土）～3月22日（日）（32日間）
ターゲット	一般の日本美術ファン、人形ファン
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	—
交通広告	—
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
「京都国立博物館だより」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、トラりんブログ関連記事1回、メールマガジンでの情報配信 SNS:当館ツイッター、トラりんツイッター・フェイスブックでの情報発信
その他	—
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	—
テレビ、ラジオ	—
雑誌	京都観光Navi冊子（京都市）、電車&ウォーク（JR西日本）
インターネットメディア	京都観光Navi（京都市）
その他	—

(2) 特別展覧会、共催展等

・特別展「国宝 一遍聖絵と時宗の名宝」

会期	4月13日（土）～6月9日（日）（51日間）
ターゲット	一般の日本美術ファン、絵巻ファン、歴史ファン
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約2,194件（※博物館・美術館・学校（小・中・高・大）、図書館、ギャラリー等）
交通広告	駅貼り広告（JR京都駅ほか京阪電車、阪急電車、京都市営地下鉄主要駅）、JR京都駅東改札バナー、JR京都駅サイネージ
新聞・雑誌広告	朝日新聞
テレビ広告	—
「京都国立博物館だより」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、トラりんブログ関連記事4回・YouTube、メールマガジンでの情報配信 SNS:当館ツイッター、トラりんフェイスブック・ツイッターでの情報発信
その他	タクシー会社対象特別鑑賞会開催、トラりんによる出張PR（奈良博、大学3校）
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	朝日新聞
テレビ、ラジオ	日曜美術館（NHK）
雑誌	芸術新潮（新潮社）、日経おとなのOFF（日経BP社） ほか152件
インターネットメディア	美術手帖Web版（BTCompany）、Lmaga.jp（京阪神エルマガジン社） ほか49件
その他	—
③報道発表会	
実施日	30年10月23日（火）
人数等	25媒体、47人出席（場所：大正大学）
③報道発表会	
実施日	30年12月17日（月）
人数等	12媒体、15人出席（場所：京都国立博物館）

④報道内覧会	
実施日	4月12日（金）
人数等	49媒体、58人出席

・特別展「流転100年 三十六歌仙絵と王朝の美」

会期	1年10月12日（土）～11月24日（日）（38日間）※10月12日は台風のため臨時休館、11月18日に臨時開館
ターゲット	一般の日本美術ファン、歴史ファン、茶道ファン、古典文学ファン
重点項目	広く一般のマスコミおよびSNSを通じた情報提供
特記事項	—

①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約2,155件（※博物館・美術館・学校（小・中・高・大）、図書館、ギャラリー等）
交通広告	駅貼り広告（JR大阪駅、JR京都駅ほか京阪電車、大阪市営地下鉄、京都市営地下鉄主要駅）、JR大阪駅サイネージ、JR京都駅東改札バナー、JR京都駅サイネージ
新聞・雑誌広告	日経新聞、京都新聞
テレビ広告	NHK2分ミニ、スポット
「京都国立博物館だより」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	WEB:当館ウェブサイトでの紹介、トラりんブログ関連記事3回・YouTube、メールマガジンでの情報配信、展覧会公式サイト・ツイッター、共催者（読売新聞社）ウェブサイトでの紹介 SNS:当館ツイッター、トラりんフェイスブック・ツイッターでの情報発信
その他	タクシー会社・ホテルコンシェルジュ等対象特別鑑賞会開催、京都国際マンガ・アニメフェアとの広報連携、トラりんによる出張PR（龍谷ミュージアム、西本願寺、ミュージアムキッズ！全国フェア、大学4校）

②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	日本経済新聞、京都新聞、毎日新聞、朝日新聞、中日新聞、東京新聞 ほか122件
テレビ、ラジオ	日曜美術館（NHK）、歴史秘話ヒストリア（NHK）、8K特集（NHK）、新・美の巨人たち（東京テレビ）ほか3件
雑誌	和楽（小学館）、婦人画報（ハースト婦人画報社）、なごみ（淡交社）、茶道雑誌（河原書店）、週刊文春（文藝春秋社） ほか109件
インターネットメディア	ニコニコ生放送（ドワンゴ）、サライjp（小学館） ほか64件
その他	50プラス（JR東海ツアーズ） ほか18件

③報道発表会	
実施日	30年2月15日（金）
人数等	54媒体、65人出席（場所：東京国立博物館 応挙館）

③報道発表会	
実施日	5月29日（水）
人数等	22媒体、36人出席（場所：京都国立博物館）

④報道内覧会	
実施日	10月11日（金）
人数等	58媒体、74人出席

【奈良国立博物館】

(1)名品展(平常展)

・名品展 「珠玉の仏たち」

会期	常時開催
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術（仏像）ファン、外国人観光客、小・中・高・大学生
重点項目	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術（仏像）ファン、外国人観光客、小・中・高・大学生向けに、マスメディアやSNSを通じた情報提供
特記事項	外国人向け音声ガイド（英・中・韓）、日本語音声ガイドは29年10月28日から導入

①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,700件 （博物館・美術館・学校（小・中・高・大）・ギャラリー・図書館・ホテル・旅館・観光・出版・旅行会社等）
交通広告	近鉄奈良駅デジタルサイネージ広告
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
「奈良国立博物館だより」掲載	—
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、ツイッター、メールマガジンでの紹介
その他	—
②メディア掲載等	

種類	メディア名、件数等
新聞	—
テレビ、ラジオ	—
雑誌	—
インターネットメディア	—
その他	—

・名品展 「珠玉の仏教美術」

会期	7月13日（土）～9月23日（月・祝）、12月7日（土）～2年1月13日（月・祝）
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術ファン、小・中・高・大学生
重点項目	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術ファン、小・中・高・大学生向けに一般のマスメディアやSNSを通じた情報提供
特記事項	—

①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,700件 (博物館・美術館・学校(小・中・高・大)・ギャラリー・図書館・ホテル・旅館・観光・出版・旅行会社等)
交通広告	—
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
「奈良国立博物館だより」掲載	—
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、ツイッター、メールマガジンでの紹介
その他	—
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	—
テレビ、ラジオ	—
雑誌	—
インターネットメディア	—
その他	—

・わくわくびじゅつギャラリー「いのりの世界のどうぶつえん」

会期	7月13日（土）～9月8日（日）（46日間）
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、仏像ファン、
重点項目	広く一般のマスメディアやSNSを通じた情報提供
特記事項	—

①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,700件 (博物館・美術館・学校(小・中・高・大)・ギャラリー・図書館・近隣商店街・ホテル・旅館・観光・出版・旅行会社等)
交通広告	—
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
「奈良国立博物館だより」掲載	紹介1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、ツイッター、メールマガジンでの紹介
その他	—
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	—
テレビ、ラジオ	—
雑誌	『美術の窓・アートコレクターズ』、『新美術新聞』、『月刊大和路ならら』6月号、『近鉄ニュース』7月号、『マイ奈良』8月号、『ならリビング』、『ぴあMOOK「世界の名画と日本の名品100」』、『yomiっこ』8月号
インターネットメディア	『ART AgendA アートアジェンダ』、『ホルベインアーティストナビ』、『ADC文化通信』、『花形文化通信』、『ウェブ版美術手帖』、『ARTことはじめ』
その他	『なら探検ミュージアム』 ほか

・特別陳列「法徳寺の仏像—近代を旅した仏たち—」

会期	7月13日（土）～9月8日（日）（46日間）
----	------------------------

ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、仏像ファン、
重点項目	広く一般のマスメディアやSNSを通じた情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,700件 (博物館・美術館・学校(小・中・高・大)・ギャラリー・図書館・近隣商店街・ホテル・旅館・観光・出版・旅行会社等)
交通広告	—
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
「奈良国立博物館だより」掲載	紹介1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、ツイッター、メールマガジンでの紹介
その他	—
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	—
テレビ、ラジオ	—
雑誌	『美術の窓・アートコレクターズ』、『新美術新聞』、『月刊大和路ならら』6月号、『近鉄ニュース』7月号、『マイ奈良』8月号、『ならリビング』、『ぴあMOOK「世界の名画と日本の名品100」』、『yomiっこ』8月号
インターネットメディア	『ホルベインアーティストナビ』『美術新聞』7/1号『奈良ぶら』『桜井市立埋蔵文化財センターHP』ほか
その他	『なら探検ミュージアム』ほか

・特別陳列「おん祭と春日信仰の美術 [特集] 春日大社にまつわる絵師たち」

会期	12月7日(土)～2年1月13日(月・祝)(33日間)
ターゲット	おん祭(12/17)前後および年末年始の春日大社参拝客、一般の歴史及び美術ファン、仏教美術ファン
重点項目	おん祭(12/17)前後および年末年始の春日大社参拝客、一般の歴史及び美術ファン、仏教美術ファン向けに一般のマスメディアやSNSを通じた情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,700件 (博物館・美術館・学校(小・中・高・大)・ギャラリー・図書館・近隣商店街・ホテル・旅館・観光・出版・旅行会社等)
交通広告	ポスター(近鉄、大阪メトロ)、チラシ(近鉄、関西国際空港)、デジタルサイネージ(JR奈良駅、関西国際空港)
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
「奈良国立博物館だより」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、ツイッター、メールマガジンでの紹介
その他	—
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	産経新聞
テレビ、ラジオ	—
雑誌	『美術の窓・アートコレクターズ』、『近くて、いい旅 電車&ウォーク』12月号、『マイ奈良』12月号、『近くて、いい旅 電車&ウォーク』12月号、『近鉄ニュース』12月号、『関西ウォーカー』26号ほか
インターネットメディア	『ART AgendA』、『JR西日本おでかけネット』、『じゃらんnet』、『Yahooロコ』、『YahooJapan』、『地球の歩き方』ほか
その他	—

・特別陳列「重要文化財 法隆寺金堂壁画写真ガラス原板 —文化財写真の軌跡—」

会期	12月7日(土)～2年1月13日(月・祝)(33日間)
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術ファン、歴史ファン、写真ファン
重点項目	広く一般のマスメディアやSNSを通じた情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等

ポスター・チラシ・DM送付	約1,700件 (博物館・美術館・学校(小・中・高・大)・ギャラリー・図書館・近隣商店街・ホテル・旅館・観光・出版・旅行会社等)
交通広告	ポスター(近鉄)、チラシ(近鉄、関西国際空港)、デジタルサイネージ(JR奈良駅、関西国際空港)
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
「奈良国立博物館だより」掲載	紹介1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、ツイッター、メールマガジンでの紹介
その他	—
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	産経新聞
テレビ、ラジオ	—
雑誌	『マイ奈良』12月号、『近くて、いい旅 電車&ウォーク』12月号
インターネットメディア	『あをによしなら旅ネット』、『ART AgendA』、『関西ぶんかなび』 ほか
その他	『なら探検ミュージアム』 ほか

・特別陳列「お水取り」

会期	2年2月4日(火)～3月22日(日)(45日間)
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、「お水取り」(お松明)を見に来る観光客。
重点項目	広く一般のマスメディアやSNSを通じた情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,700件 (博物館・美術館・学校(小・中・高・大)・ギャラリー・図書館・近隣商店街・ホテル・旅館・観光・出版・旅行会社等)
交通広告	ポスター(近鉄)、チラシ(近鉄、関西国際空港)、デジタルサイネージ(JR奈良駅、関西国際空港)
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
「奈良国立博物館だより」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、ツイッター、メールマガジンでの紹介
その他	—
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	毎日新聞、読売新聞 ほか
テレビ、ラジオ	—
雑誌	—
インターネットメディア	—
その他	—

(2) 特別展、共催展等

特別展「国宝の殿堂 藤田美術館展 曜変天目茶碗と仏教美術のきらめき」

会期	4月13日(土)～6月9日(日)(51日間)
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術ファン、茶道愛好家向けに、テレビや新聞など広く一般のマスメディアやSNSを通じた情報提供
重点項目	一般の歴史及び美術ファン、仏教美術ファン、茶道愛好家向けに、テレビや新聞など広く一般のマスメディアやSNSを通じた情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,700件 (博物館・美術館・学校(小・中・高・大)・ギャラリー・図書館・近隣商店街・ホテル・旅館・観光・出版・旅行会社等)
交通広告	交通広告:ポスター(JR西日本、大阪メトロ、近鉄、阪神電車、阪急電鉄、奈良交通(バスマスク))、チラシ(近鉄主要駅、関西国際空港)、デジタルサイネージ(梅田駅、JR奈良駅、関西国際空港)、近鉄奈良駅ステッカー ほか
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
「奈良国立博物館だより」掲載	特集1回

博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、ツイッター、メールマガジンでの紹介
その他	—
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	日本経済新聞、読売新聞、朝日新聞、産経新聞、奈良新聞 ほか
テレビ、ラジオ	『ごごナマ』『日曜美術館アートシーン』『ぐるっと関西おひるまえ』『NHKニュース』NHK、『Nキャス』奈良テレビ、『ラジオ深夜便』NHKラジオ
雑誌	『美術の窓・アートコレクターズ』ぴあMOOK『美術展ぴあ2019』『和楽』2・3月合併号『東京ウォーカー特別編集〜ごほうびLIFE〜Vol.2』『和楽』4・5月合併号、『美術の窓・アートコレクターズ4月号、関西シーン春号、AGORA 5月号、『典藏（台湾）』、『三聯生活週刊（北京）』
インターネットメディア	『和楽Web』、『奈良県観光公式サイト「あをによしなら旅ネット」』『ぱーぐる』3-4月号イベントページ、『Web日刊ぱーぐる』、『JR西日本』、『YahooJapan』、『じゃらんnet』、『地球の歩き方』、『ホルベインアーチストナビ』 ほか
その他	『近くて、いい旅 電車&ウォーク』JR西日本、『アサヒメイト』朝日友の会、『50プラス』JR東海ツアーズ、『なら探検ミュージアム』、『ホッと！HANSHIN』、『7びあ』、『ザ・淀川』、『yomiっこ』ほか
③報道発表会	
実施日	2月19日
人数等	36 媒体、46人出席（場所：東京記者クラブ）
実施日	2月27日
人数等	8媒体、8人出席（場所：当館講堂）
④報道内覧会	
実施日	4月12日
人数等	36媒体、48人出席

・特別展「御即位記記念 第71回正倉院展」

会期	10月26日（土）～11月14日（木）（20日間）
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、正倉院展のリピーター客
重点項目	一般の歴史及び美術ファン、正倉院展のリピーター客向けにテレビや新聞など広く一般のマスメディアやSNSを通じた情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,700件 （博物館・美術館・学校（小・中・高・大）・ギャラリー・図書館・近隣商店街・ホテル・旅館・観光・出版・旅行会社等）
交通広告	ポスター（JR西日本、JR大阪駅、JR京都駅、JR東京駅、JR名古屋駅、大阪メトロ、近鉄主要駅、京阪主要駅、東京メトロ主要駅、奈良交通、阪急電鉄、阪急梅田駅）、チラシ（JR大阪駅、近鉄主要駅、大阪メトロ、南海なんば駅、関西国際空港）、デジタルサイネージ（JR奈良駅、関西国際空港） ほか
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
「奈良国立博物館だより」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、ツイッター、メールマガジンでの紹介
その他	10月21日・23日放送MBSラジオ「ありがとう浜村淳です」生CM、映像広告：キャンパスメンバーズの大学
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	読売新聞、朝日新聞、毎日新聞、産経新聞、奈良新聞、中外日報 ほか
テレビ、ラジオ	『かんさい情報ネット ten!』『ウェークアップ! ぷらす』『情報ライブ ミヤネ屋』読売テレビ、『ならナビ』『NHKニュース』『日曜美術館』NHK、『ミント』毎日放送 ほか
雑誌	『月刊大和路ならら』7月号、『美術展』ぴあ2019-2020、『関西秋ウォーカー』、観光情報誌『ならり』秋号、『ノジュール』9月号、『阪急交通社会員誌 バスの旅』、『Kansai Scene Magazine』秋号、『月刊奈良』10月号、『エクラ』11月号、『月刊なごや』9月号、『マイ奈良』10月号、『ノジュール』11月号、『茶の湯』10月号、『歴史の旅人』、『週間朝日』、『マイタウン奈良』、『典藏古美術（台湾）』11月号、『英語版冊子 ODAIBAムック「皇室 The Imperial Family」』、『月刊目の眼』11月号、『関西冬ウォーカー』、『和楽』12・1月合併号、『関西ウォーカー』23号、『一個人』12月号、『るるぶドライブ関西ベストコース21』、『AERA』、『マイタウン奈良』、『マイ奈良』11月号、 ほか
インターネットメディア	『インターネットミュージアム』、『和楽Web』、『ART AgendA』、『クラブツーリズムHP』、『なら旅ネット』、『紡ぐJapan Art & Culture』、『南都銀行 観光ポータルサイト「ええ古都なら」』、『Japantravel』、『わたしは奈良派Webサイト』、『JR西日本おでかけネット』、『じゃらんnet』、『Yahooロコ』、『奈良ぶら』、『るるぶWeb』、『日刊webタウン情報ぱーぐる』、『奈良市観光協会公式HP』、『関西ぶんか考』、『JNTO「Visit Japan International」Facebook』、『Lmaga.jp』 ほか
その他	—

③報道発表会	
実施日	5月17日
人数等	17媒体、25人出席（場所：当館講堂）
実施日	8月8日
人数等	14媒体、27人出席（場所：当館講堂）
④報道内覧会	
実施日	10月25日
人数等	32媒体、75人出席

・特別展「毘沙門天 ー北方鎮護のカミー」

会期	2年2月4日（火）～3月22日（日）（42日間）
ターゲット	一般の歴史及び美術ファン、仏像ファン
重点項目	一般の歴史及び美術ファン、仏像ファン、テレビや新聞など広く一般のマスメディアやSNSを通じた情報提供
特記事項	—

①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,700件 （博物館・美術館・学校（小・中・高・大）・ギャラリー・図書館・近隣商店街・ホテル・旅館・観光・出版・旅行会社等）
交通広告	ポスター（JR西日本、大阪メトロ、近鉄、阪神電車、阪急電鉄）、チラシ（近鉄主要駅、関西国際空港）、デジタルサイネージ（JR奈良駅、関西国際空港）ほか
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
「奈良国立博物館だより」掲載	告知1回、特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイト、ツイッター、メールマガジンでの紹介
その他	—

②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	朝日新聞、産経新聞 ほか
テレビ、ラジオ	『ならナビ』NHK奈良放送局
雑誌	『芸術新潮』12月号、「和楽」2・3月、合併号『季節の旅』京都ホテルオークラ、『一個人』1月号、『日経おとなのOFF』『月刊なごや』『美術の窓・アートコレクターズ』2月号 『歴史の旅人』冬号、『新美術新聞「美術館ギャラリーガイド」』2月、『ホッと！HANSHIN』2月号、『茶の湯』令和2年2月号、『マイ奈良』2月号、『近鉄ニュース』2月号、『歴史街道』2020/3
インターネットメディア	『ART AgendA』、『Lmaga.jp』、『あをによしなら旅ネット』、『ARTLOGUE』、『関西ぶんかなび』、『ウェブ版「美術手帖」』、『ARTことはじめ』 ほか
その他	—

③報道発表会	
実施日	12月18日
人数等	4媒体、15人出席（場所：当館講堂）
④報道内覧会	
実施日	2年2月3日
人数等	21媒体、26人出席

【九州国立博物館】
(1)文化交流展（平常展）

・新収品展 Part1

会期	3月5日（火）～5月6日（月・休）（56日間）
ターゲット	一般の考古学ファン、土器等文化財に関心のある一般市民等
重点項目	当館季刊情報誌、SNSを通じた情報提供
特記事項	—

①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	—
交通広告	—
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
季刊情報誌「アジャーリュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、ツイッターでの情報発信
その他	—

②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	—
テレビ、ラジオ	—
雑誌	—
インターネットメディア	—
その他	—

・新元号記念特別企画 「令和」

会期	4月23日(火)～12月22日(日) (212日間)
ターゲット	一般の歴史ファン、元号ファン、万葉集ファン等
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	—

①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	—
交通広告	—
新聞・雑誌広告	毎日新聞、読売新聞
テレビ広告	—
季刊情報誌「アジアーヂュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、ツイッターでの情報発信
その他	JR長崎・鹿児島とのタイアップ、展示・イベントチラシ掲載

②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	毎日新聞、読売新聞、西日本新聞、産経新聞、聖教新聞
テレビ、ラジオ	TNC、RKB
雑誌	太宰府イベント情報、九州王国、女性自身、女性セブン、九州walker、旅と鉄道、るるぶ ほか
インターネットメディア	イベントバンク、フクオカーノ、TABICHANNEL、よかなび、ほか
その他	—

・新収品展 Part2

会期	6月4日(火)～7月15日(月・祝) (36日間)
ターゲット	一般の歴史ファン、陶磁器ファン、文化財に関心のある一般市民等
重点項目	当館季刊情報誌、SNSを通じた情報提供
特記事項	—

①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	—
交通広告	—
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
季刊情報誌「アジアーヂュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、ツイッターでの情報発信
その他	—

②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	—
テレビ、ラジオ	—
雑誌	—
インターネットメディア	—
その他	—

・特集展示 館蔵名品展「更紗 生命の花吹く布」

会期	7月30日(火)～10月20日(日) (72日間)
ターゲット	一般の歴史ファン、織物・染色ファン、手芸ファン、インテリアに興味のある一般市民等
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供

特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	69件（友の会会員等）
交通広告	バス停広告掲出
新聞・雑誌広告	毎日新聞、読売新聞
テレビ広告	—
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、ツイッター、インフルエンサーでの情報発信
その他	展示・イベントチラシ掲載、参道フラッグ掲出、アンテナショップ日除け幕設置、エントランスバナー設置
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	毎日新聞、読売新聞
テレビ、ラジオ	—
雑誌	太宰府イベント情報、九州王国、サンデー北九州 ほか
インターネットメディア	イベントバンク、フクオカーノ、だざいふなび、月刊いーみるほか
その他	—

・特集展示 住友財団修復助成30周年記念 文化財よ、永遠に

会期	9月10日(火)～11月4日(月・休) (49日間)
ターゲット	文化保護に関心のある一般市民、一般の歴史・考古学ファン、仏像・寺社仏閣ファン等
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,190件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・図書館・文化施設・太宰府市内公民館等）
交通広告	主要バス停シティスケープ、西鉄福岡駅、太宰府駅、西鉄車内中づり・動画
新聞・雑誌広告	毎日新聞、読売新聞、西日本新聞
テレビ広告	TVQ九州放送「太宰府九博散歩道」
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、ツイッターでの情報発信
その他	展示・イベントチラシ掲載、参道フラッグ掲出、アンテナショップ日除け幕設置、エントランスバナー設置
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	朝日新聞、読売新聞、毎日新聞、西日本新聞
テレビ、ラジオ	NHK、ケーブルステーション福岡、TV熊本
雑誌	太宰府イベント情報、九州王国 ほか
インターネットメディア	フクオカーノ、イベントバンク、ARTNE、よかなび、ファンファン福岡、イセバほか
その他	マスコミ内覧会開催7社出席

・特集展示 版経東漸～対馬がつなぐ仏の教え～

会期	10月29日(火)～12月22日(日) (48日間)
ターゲット	一般の歴史ファン、仏教文化ファン、対馬に関心のある一般市民等
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	67件（友の会会員等）
交通広告	主要バス停シティスケープ、西鉄福岡駅
新聞・雑誌広告	毎日新聞、読売新聞
テレビ広告	TVQ九州放送「太宰府九博散歩道」
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、ツイッターでの情報発信
その他	展示・イベントチラシ掲載、参道フラッグ掲出、エントランスバナー設置

②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	朝日新聞、長崎新聞
テレビ、ラジオ	NHK
雑誌	太宰府イベント情報、九州王国ほか
インターネットメディア	フクオカーノ、イベントバンクほか
その他	—

・特集展示 縄文王国やまなし

会期	10月29日(火)～12月22日(日) (48日間)
ターゲット	一般の歴史・考古学ファン、土器ファン、縄文文化に興味のある一般市民等
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	—

①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	67件 (友の会会員等)
交通広告	主要バス停シティスケープ、JR博多駅中心の23駅、西鉄福岡駅
新聞・雑誌広告	毎日新聞、読売新聞
テレビ広告	TVQ九州放送「太宰府九博散歩道」
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、ツイッターでの情報発信
その他	展示・イベントチラシ掲載、参道フラッグ掲出、アンテナショップ日除け幕設置、エントランスパナー設置

②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	毎日新聞、読売新聞、朝日新聞、西日本新聞
テレビ、ラジオ	NHK
雑誌	太宰府イベント情報、九州王国ほか
インターネットメディア	フクオカーノ、イベントバンク、インターネットミュージアム、日本旅行ほか
その他	—

・特集展示 徳川美術館所蔵 国宝 初音の調度

会期	2年1月1日(水・祝)～26日(日) (23日間)
ターゲット	一般の歴史ファン、漆工芸品ファン、太宰府天満宮参拝客等
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	—

①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	75件 (友の会会員等)
交通広告	JR博多駅デジタルサイネージ68面、JR博多駅中心の23駅、西鉄福岡駅、西鉄太宰府駅
新聞・雑誌広告	毎日新聞、読売新聞
テレビ広告	TVQ九州放送「太宰府九博散歩道」
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、ツイッターでの情報発信、webプレスリリース実施
その他	展示・イベントチラシ掲載、参道フラッグ掲出、アンテナショップ日除け幕設置、エントランスパナー設置

②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	毎日新聞、読売新聞、朝日新聞
テレビ、ラジオ	NHK
雑誌	太宰府イベント情報、九州王国ほか
インターネットメディア	現代ビジネス、東洋経済オンライン、ニコニコニュース、産経ニュース、トライシー、読売新聞オンライン、プレジデントオンライン、時事ドットコム、朝日新聞デジタル、フクオカーノ、イベントバンク、とれまがニュース、博多経済新聞、マピオンニュース等、約50社
その他	—

・特集展示 刀剣ことはじめ一刀剣ワールド財団と九博の名刀

会期	2年1月1日(水・祝)～2月24日(月・休) (48日間)
----	-------------------------------

ターゲット	一般の歴史ファン、刀剣ファン、太宰府天満宮参拝客等
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	75件（友の会会員等）
交通広告	JR博多駅デジタルサイネージ68面、JR博多駅中心の23駅、西鉄福岡駅、日鉄太宰府駅
新聞・雑誌広告	毎日新聞、読売新聞
テレビ広告	TVQ九州放送「太宰府九博散歩道」
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、ツイッターでの情報発信、webプレスリリース実施
その他	展示・イベントチラシ掲載、参道フラッグ掲出、アンテナショップ日除け幕設置、エントランスパナー設置、オリジナルグッズの制作・配布
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	毎日新聞、読売新聞、朝日新聞、西日本新聞
テレビ、ラジオ	TVQ九州放送
雑誌	太宰府イベント情報、九州王国ほか
インターネットメディア	現代ビジネス、東洋経済オンライン、ニコニコニュース、産経ニュース、トライシー、読売新聞オンライン、プレジデントオンライン、時事ドットコム、朝日新聞デジタル、フクオカーノ、イベントバンク、とれまがニュース、博多経済新聞、マピオンニュース等、約50社
その他	—

(2) 特別展、共催展等

- ・ 展覧会名：特別展「京都大報恩寺 快慶・定慶のみほとけ」

会期	4月23日(火)～6月16日(日) (49日間)
ターゲット	一般の歴史・考古学ファン、仏像ファン、仏教文化に関心のある一般市民等
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,190件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・図書館・文化施設・太宰府市内公民館等）
交通広告	JR博多駅、西鉄福岡駅・太宰府駅、ポスター車内（太宰府市コミュニティバス）
新聞・雑誌広告	読売新聞、西日本新聞
テレビ広告	KBC、FBS、TV山口・長崎・熊本、TVQ九州放送「太宰府九博散歩道」
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、ツイッターでの情報発信
その他	展示・イベントチラシ掲載、参道フラッグ掲出、福岡県庁デジタルサイネージ
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	西日本新聞、読売新聞、朝日新聞、熊本日日新聞、
テレビ、ラジオ	—
雑誌	太宰府イベント情報、九州王国、九州walker、ふくおか経済、グラフふくおか、いーみる、にしてつニュース、でかなび ほか
インターネットメディア	フクオカーノ、イベントバンク、インターネットミュージアム、アートアジェンダ、プラスフクオカ、じゃらん、アルトネ、ManabiJapanほか
その他	—
③報道発表会	
実施日	31年2月20日
人数等	5媒体、6人出席（場所：研修室）
④報道内覧会	
実施日	4月23日
人数等	13媒体、16人出席

- ・ 特別展「室町将軍一戦乱と美の足利十五代一」

会期	7月13日(土)～9月1日(日) (45日間)
ターゲット	一般の歴史ファン、美術ファン、日本美術ファン、茶道・華道関係者等
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	—

①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,260件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・図書館・文化施設・太宰府市内公民館等）
交通広告	主要バス停シティスケープ、西鉄電車・JR九州タイアップチラシ等、西鉄福岡駅・太宰府駅、ポスター車内（太宰府市コミュニティバス）
新聞・雑誌広告	西日本新聞、FUKUOKA NOW
テレビ広告	TVQ、TNC、TVQ九州放送「太宰府九博散歩道」
季刊情報誌「アジアーヂュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、ツイッターでの情報発信
その他	展示・イベントチラシ掲載、参道フラッグ掲出、福岡県庁及び天神中央公園デジタルサイネージ
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	西日本新聞、毎日新聞、朝日新聞、読売新聞、京都新聞、公明新聞
テレビ、ラジオ	TNC、TVQ、NHK
雑誌	太宰府イベント情報、九州王国、月刊いーみる、九州walker、芸術新潮、和楽、ぶんかる、月刊書道界、一個人、アートコレクターズ、ひととき、月刊絵手紙、茶の湯 ほか
インターネットメディア	フクオカーノ、イベントバンク、ふくおかサポートネット、イセバ、アートアジェンダ、よかなび、和楽、FukuokaNow、ARTNE、フクオカーノ、ここにしかない美術館、クラブオフ ほか
その他	—
③報道発表会	
実施日	2月27日
人数等	30媒体44人出席（場所：東京都千代田区 福扇華 半蔵門店）
実施日	5月9日
人数等	8媒体15人出席（場所：研修室）
④報道内覧会	
実施日	7月12日
人数等	12媒体、25人出席

・日中文化交流協定締結40周年記念 特別展「三国志」

会期	10月1日(火)～2年1月5日(日) (77日間)
ターゲット	一般の歴史ファン、中国歴史ファン、考古学ファン、ゲームファン等
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,240件（博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・図書館・文化施設・太宰府市内公民館等）
交通広告	主要バス停シティスケープ、西鉄電車・バスタイアップチラシ等、西鉄福岡駅・太宰府駅、JR博多駅、佐賀空港、ポスター車内（太宰府市コミュニティバス）
新聞・雑誌広告	西日本新聞、朝日新聞
テレビ広告	NHK、TVQ九州放送「太宰府九博散歩道」
季刊情報誌「アジアーヂュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、ツイッターでの情報発信
その他	展示・イベントチラシ掲載、参道フラッグ掲出、福岡県庁デジタルサイネージ、県内書店で三国志フェア
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	朝日新聞、西日本新聞、毎日新聞、宇部新報、地元新聞(日田市)
テレビ、ラジオ	NHK、TVQ、TNC
雑誌	太宰府イベント情報、九州王国、月刊いーみる、九州walker、リビング福岡、るるぶ、時空旅人、シティ情報Fukuoka、月刊ぶらざ大分、和楽、でかなび、遊人、FICF、くるめすたいる ほか
インターネットメディア	フクオカーノ、イベントバンク、インターネットミュージアム、ふくおかサポートネット、クラブオフ、アートアジェンダ、イセバ、よかなび、だざいふなび、美術手帖 ほか
その他	—
③報道発表会	
実施日	7月31日
人数等	12媒体、32人出席（場所：研修室）
④報道内覧会	
実施日	9月30日
人数等	12媒体、26人出席

・特別展「ルネ・ユイグのまなざし フランス絵画の精華 大様式の形成と変容」

会期	2年2月4日(火)～3月29日(日) (48日間)
ターゲット	西洋美術および絵画ファン等
重点項目	一般のマスメディア、SNSを通じた情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,300件(博物館・美術館・キャンパスメンバーズ・図書館・文化施設・太宰府市内公民館等) (予定)
交通広告	主要バス停シティスケープ、JR九州・西鉄電車・バスタイアップチラシ等、西鉄福岡駅・太宰府駅、ポスター車内(太宰府市コミュニティバス)
新聞・雑誌広告	西日本新聞・毎日新聞、聖教新聞、サンデー新聞
テレビ広告	KBC、yab、NCG、KAB、RKB、TOS、MRT、NHK、TVQ九州放送「太宰府九博散歩」
季刊情報誌「アジアージュ」掲載	特集1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報発信、ツイッターでの情報発信
その他	展示・イベントチラシ掲載、参道フラッグ掲出、福岡県庁デジタルサイネージ、書店・百貨店タイアップ
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	西日本新聞・読売新聞・毎日新聞、聖教新聞、サンデー新聞
テレビ、ラジオ	KBC、TVQ、TV熊本、LOVEFM
雑誌	太宰府イベント情報、九州王国、月刊いーみる、九州walker、リビング福岡、るるぶ、時空旅人、シティ情報Fukuoka、月刊ぶらざ大分、和楽、でかなび、西鉄旅行、美術展びあ ほか
インターネットメディア	フクオカーノ、イベントバンク、インターネットミュージアム、ふくおかサポートネット、クラブオフ、アートアジェンダ、イセバ、よかなび、だざいふなび、美術手帖 ほか
その他	—
③報道発表会	
実施日	10月30日
人数等	9媒体、14人出席(場所:研修室)
④報道内覧会	
実施日	2年2月3日
人数等	14媒体、38人出席

【平城宮跡資料館】

(1)平常展

会期	4月1日(月)～2年2月26日(水) (279日間)
ターゲット	平城宮跡訪問者、考古学愛好家
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	新型コロナウイルス対策のため2月27日～3月31日を臨時休館とした。
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	—
交通広告	—
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
広報刊行物掲載	奈文研ニュース展示紹介1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、SNSでの情報配信
その他	—
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	—
テレビ、ラジオ	—
雑誌	—
インターネットメディア	—
その他	—

(2) 特別展等

・特別企画展「高御座（たかみくら）－奈良朝の玉座－」

会期	4月27日（土）～6月2日（日）（33日間）
ターゲット	平城宮跡訪問者、考古学愛好家
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約600件（1都2府3県博物館・美術館・図書館・教育委員会・埋蔵文化財センター、県内高校・中学・小学校、ホテル・旅館、交通会社、新聞社等）
交通広告	—
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
広報刊行物掲載	奈文研ニュース告知1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、SNSでの情報配信
その他	—
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	奈良新聞 ほか
テレビ、ラジオ	—
雑誌	—
インターネットメディア	—
その他	—
③報道発表会	
実施日	4月26日
人数等	4媒体（場所：平城宮跡資料館展示室）
④報道内覧会	
実施日	—
人数等	—

・夏の子ども展示「ならのみやこのしよくぶつえん—土の中の花鳥風月—」

会期	7月20日（土）～9月1日（日）、9月5日（34日間）
ターゲット	高校生以下及びその家族
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約600件（1都2府3県博物館・美術館・図書館・教育委員会・埋蔵文化財センター、県内高校・中学・小学校、ホテル・旅館、交通会社、新聞社等）
交通広告	—
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
広報刊行物掲載	奈文研ニュース告知1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、SNSでの情報配信
その他	—
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	奈良新聞 ほか
テレビ、ラジオ	—
雑誌	—
インターネットメディア	—
その他	—
③報道発表会	
実施日	7月19日
人数等	3媒体（場所：平城宮跡資料館展示室）
④報道内覧会	

実施日	—
人数等	—

・秋期特別展「地下の正倉院展一年号と木簡ー」

会期	10月12日（土）～11月24日（日）（37日間）
ターゲット	木簡ファン、正倉院展愛好家
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約600件(1都2府3県博物館・美術館・図書館・教育委員会・埋蔵文化財センター、県内高校・中学・小学校、ホテル・旅館、交通会社、新聞社等)
交通広告	—
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
広報刊行物掲載	奈文研ニュース告知1回ほか
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、SNSでの情報配信
その他	—
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	読売新聞 ほか
テレビ、ラジオ	奈良テレビ ほか
雑誌	—
インターネットメディア	—
その他	—
③報道発表会	
実施日	10月11日
人数等	13媒体（場所：平城宮跡資料館展示室）
④報道内覧会	
実施日	—
人数等	—

・新春ミニ展示「平城京の子」

会期	2年1月4日（土）～26日（日）（20日間）
ターゲット	平城宮跡訪問者、考古学愛好家
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	—
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	—
交通広告	—
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
広報刊行物掲載	—
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、SNSでの情報配信
その他	—
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	—
テレビ、ラジオ	—
雑誌	—
インターネットメディア	—
その他	—
③報道発表会	
実施日	—
人数等	—

④報道内覧会	
実施日	—
人数等	—

・冬期企画展「発掘された平城 2019」

会期	2年2月1日（土）～26日（水）（22日間）
ターゲット	平城宮跡訪問者、考古学愛好家
重点項目	広く一般のマスコミを通じた情報提供
特記事項	新型コロナウイルス対策のため2月27日～3月29日を臨時休館とした。

①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約600件(1都2府3県博物館・美術館・図書館・教育委員会・埋蔵文化財センター、県内高校・中学・小学校、ホテル・旅館、交通会社、新聞社等)
交通広告	—
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
広報刊行物掲載	奈文研ニュース告知1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、SNSでの情報配信
その他	—

②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	奈良新聞 ほか
テレビ、ラジオ	—
雑誌	—
インターネットメディア	—
その他	—

③報道発表会	
実施日	2年1月31日
人数等	6媒体（場所：平城宮跡資料館展示室）

④報道内覧会	
実施日	—
人数等	—

【藤原宮跡資料室】

(1) 平常展

会期	4月1日（月）～2年2月26日（水）（322日間）
ターゲット	特別史跡藤原宮跡等見学者、香具山等周辺遺跡への訪問者
重点項目	飛鳥・藤原地域での発掘・調査研究の成果と遺跡理解の促進
特記事項	新聞・インターネットメディア等で展示紹介記事掲載 新型コロナウイルス対策のため2月27日～3月31日を臨時休館とした。

①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	—
交通広告	—
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
広報刊行物掲載	奈良県学習教材デジタルブック、旅行ガイドブック、奈良県ポータルサイト等に掲載
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	—
その他	橿原市観光案内所等にリーフレット配置

②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	—
テレビ、ラジオ	KCN番組取材への協力
雑誌	—
インターネットメディア	産経WEST、産経フォト、毎日新聞ニュース
その他	—

・速報展

- ①「埋（うず）もれた大宮びとの横顔―葉・まじない・庄園の木簡」
- ②飛鳥寺旧境内の調査（197-1・2・6次）飛鳥寺所用軒瓦、風鐸等
- ③藤原宮大極殿院の調査（第195・198次）大極殿院出土軒瓦・不明瓦製品等
- ④坂田寺SG100出土の瓦（石神遺跡第7次）
- ⑤石神遺跡土坑SK1244・1245出土土器（石神遺跡第7次）
- ⑥藤原宮外周帯の調査（第197-4次）藤原宮造営期の井戸および井戸枠の原寸大写真

【飛鳥資料館】

(1) 平常展

会期	4月1日（月）～2年2月26日（水）（277日間）
ターゲット	飛鳥を訪れる観光客、歴史・考古学の愛好家など
重点項目	ホームページ、SNSの更新頻度アップによる告知効果をあげる
特記事項	新型コロナウイルス対策のため2月27日～3月31日を臨時休館とした。
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	—
交通広告	—
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
広報刊行物掲載	—
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、SNSでの情報配信
その他	—
②メディア掲載等	
種類	メディア名、件数等
新聞	—
テレビ、ラジオ	—
雑誌	るるぶ奈良、奈良散策情報、Dokka!おでかけ探検隊、まっぶる情報、おしごとくはくぶつかん情報館、東海歴史散歩、ミュージアムカフェ ほか
インターネットメディア	あをによしなら旅ネット、日本政府観光局グローバルサイト、るるぶwebサイト、奈良のミュージアム
その他	—

(2) 特別展等

・春期特別展「骨ものがたり―環境考古学研究室のお仕事」

会期	4月23日（火）～6月30日（日）（61日間）
ターゲット	歴史・考古学愛好家など
重点項目	環境考古学研究室でおこなっている調査研究の活動を紹介し文化財への理解を深める
特記事項	
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,370件(47都道府県博物館・美術館・教育委員会・調査機関・寺社・図書館・大学、高校・中学・小学校(県内)・道の駅・ホテル・旅館、近隣観光施設等)
交通広告	近鉄沿線主要駅にチラシ配置
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
広報刊行物掲載	奈文研ニュース告知1回、文化庁広報誌ぶんかる「文化財のトピラ」
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事18回、メールマガジン・SNSでの情報配信
その他	—
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	朝日新聞、読売新聞、毎日新聞、産経新聞、奈良新聞、日経新聞ほか
テレビ、ラジオ	NHK奈良、奈良テレビ
雑誌	マイ奈良、月刊大和路ならら、ぱーぷる、広報あすか ほか
インターネットメディア	インターネットミュージアム、あをによしなら旅ネット、イベントバンク、チラシミュージアムほか
その他	榎原ナビプラザ
③報道発表会	
実施日	4月22日

人数等	7媒体（場所：飛鳥資料館展示室）
④報道内覧会	
実施日	—
人数等	—

・夏期企画展「第10回 写真コンテスト「飛鳥の古墳」」

会期	7月19日（金）～9月1日（日）（40日間）
ターゲット	歴史・考古学愛好家、写真愛好家、飛鳥を散策したい観光客、
重点項目	写真投稿サイト、写真雑誌、地域の写真サークル、高校・大学の写真部などへの情報提供
特記事項	
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約835件(47都道府県博物館・美術館・教育委員会・調査機関・寺社・図書館・大学、高校・中学・小学校(県内)・道の駅・ホテル・旅館、近隣観光施設等)
交通広告	近鉄沿線主要駅にチラシ配置
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	
広報刊行物掲載	奈文研ニュース告知1回
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事3回、SNSでの情報配信
その他	—
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	朝日新聞、読売新聞、毎日新聞、奈良新聞
テレビ、ラジオ	
雑誌	マイ奈良、広報あすか ほか
インターネットメディア	インターネットミュージアム、あをによしなら旅ネット、イベントバンク、チラシミュージアム、登竜門
その他	橿原ナビプラザ、ミグランス 橿原
③報道発表会	
実施日	—
人数等	—
④報道内覧会	
実施日	—
人数等	—

・秋期特別展「飛鳥—自然と人と」

会期	10月11日（金）～12月1日（日）（44日間）
ターゲット	地域住民、歴史・考古学愛好家など
重点項目	飛鳥における人と自然の関わりを通して、飛鳥の遺跡と文化財研究の魅力と成果を紹介
特記事項	
①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,425件(47都道府県博物館・美術館・教育委員会・調査機関・寺社・図書館・大学、高校・中学・小学校(県内)・道の駅・ホテル・旅館、近隣観光施設等)
交通広告	近鉄沿線主要駅にチラシ配置
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
広報刊行物掲載	奈文研ニュース告知1回、文化庁広報誌ぶんかる「文化財のトビラ」
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介、ブログ関連記事9回、SNSでの情報配信
その他	
②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	朝日新聞、読売新聞、毎日新聞、奈良新聞
テレビ、ラジオ	NHK奈良、NHKラジオ
雑誌	奈良のミュージアム、マイ奈良、広報あすか ほか
インターネットメディア	あをによしなら旅ネット、「ええ古都なら」、インターネットミュージアム、、イベントバンク ほか
その他	橿原ナビプラザ、ミグランス 橿原
③報道発表会	
実施日	—
人数等	—

④報道内覧会	
実施日	10月10日（水）～15日（火）の期間中に個別対応
人数等	4人

・冬期企画展 「飛鳥の考古学2019」

会期	2年1月24日（金）～2月26日（水）（29日間）
ターゲット	歴史・考古学愛好家など
重点項目	飛鳥・藤原地域での発掘・調査研究の成果と遺跡理解の促進
特記事項	新型コロナウイルス対策のため2月27日～3月15日を臨時休館とした。

①広告・広報	
種類	設置場所、件数等
ポスター・チラシ・DM送付	約1,420件(47都道府県博物館・美術館・教育委員会・調査機関・寺社・図書館・大学、高校・中学・小学校(県内)・道の駅・ホテル・旅館、近隣観光施設等)
交通広告	近鉄沿線主要駅にチラシ配置
新聞・雑誌広告	—
テレビ広告	—
広報刊行物掲載	
博物館ウェブサイト、SNSによる発信	当館ウェブサイトでの紹介
その他	—

②メディア掲載等	
種類	メディア名称、件数等
新聞	朝日新聞、産経新聞、奈良新聞
テレビ、ラジオ	
雑誌	マイ奈良、広報あすか ほか
インターネットメディア	インターネットミュージアム、イベントバンク、Dookkaa! おでかけ探検隊 ほか
その他	橿原ナビブラザ、ミグランス 橿原

③報道発表会	
実施日	2年1月23日
人数等	

④報道内覧会	
実施日	—
人数等	—

1-(3)-②-6 広報刊行物一覧

【本部】

刊行物名	発行部数	配布先
文化財活用センターパンフレット	3,000部	・視察者等に配布 ・マスコミ媒体（新聞・雑誌・放送局各社）、国内の美術館・博物館等に配布
2020年度東京国立博物館収蔵品貸与促進事業・2019年度東京国立博物館収蔵品（キリシタン関係遺品）貸与促進事業実施対象館募集告知チラシ	1,000部	・地方公共団体、国内の美術館・博物館等に送付及び配布

【東京国立博物館】

刊行物名	発行部数	配布先
東京国立博物館ニュース	隔月刊年6回 各50,000部	来館者、マスコミ媒体（新聞・雑誌・放送局各社）、定期郵送希望者、友の会・賛助会等会員、キャンパスメンバーズ会員校、国内外の美術館・博物館・大学・研究所等に送付
東京国立博物館「案内と地図」2020.3改訂	日本語 122,000部 英語 80,000部 中国語（簡体字） 24,500部 中国語（繁体字） 9,000部 韓国語 10,000部 フランス語 16,000部 スペイン語 10,000部 ドイツ語 7,500部	館内で来館者に無償配布 マスコミ媒体、大使館、学校、観光案内所等に送付

【京都国立博物館】

刊行物名	発行部数	配布先
京都国立博物館だより	202号（4・5・6月） 20,000部 203号（7・8・9月） 15,000部 204号（10・11・12月） 30,000部 205号（31年1・2・3月） 15,000部	観覧者、新聞・雑誌・放送局各社、学校・図書館・美術館・博物館ほか郵送希望者にも発送
Kyoto National Museum Letter	Vol.141（4・5・6月） 3,000部 Vol.142（7・8・9月） 3,000部 Vol.143（10・11・12月） 3,000部 Vol.144（31年1・2・3月） 3,000部	観覧者
京都国立博物館 平成知新館 展示案内増刷	中国語（簡体字） 10,000部 中国語（繁体字） 5,000部 韓国語 2,000部 フランス語 1,000部	観覧者
平成知新館子どもガイド 第2版	5,000部	観覧者（子ども）対象 2015年に発行した「平成知新館子どもガイド」を第2版として一部内容を改訂して増刷した
Kyoto National Museum Guide 2019	5,000部	観覧者、関係機関、ICOM京都大会2019参加者

【奈良国立博物館】

刊行物名	発行部数	配布先
奈良国立博物館だより（年4回）	春号 20,000部 夏号 20,000部 秋号 30,000部 冬号 20,000部	美術館・博物館・学校・研究所・郵送希望者等に発送 館内で来館者に配布
奈良国立博物館リーフレット	日本語版 40,000部 英語版 8,000部 フランス語版 2,000部 ドイツ語版 2,000部 中国語版（簡体字） 10,000部 中国語版（繁体字） 8,000部 韓国語版 2,000部 スペイン語版 2,000部	館内で来館者に配布
奈良国立博物館展示案内	35,000部	館内で来館者に配布

【九州国立博物館】

刊行物名	発行部数	配布先
九州国立博物館案内リーフレット	日本語版 40,000部 中国語版 7,000部 韓国語版 6,000部 英語版 7,000部 ドイツ語版 1,000部 フランス語版 1,000部 スペイン語版 1,000部 合計 63,000部	・館内で来館者に配布 ・学校関係、旅行会社等へ郵送
文化交流展示室案内マップ	日本語版 14,000部 合計 14,000部	・館内で来館者に配布 ・学校関係、旅行会社等へ郵送
九州国立博物館概要	日本語版 2,500部 中国語版 300部 韓国語版 300部 英語版 400部 合計 3,500部	・視察者等に配布 ・学校関係へ郵送
季刊情報誌「アジアージュ」	春(40)号 50,000部 夏(41)号 50,000部 秋(42)号 50,000部 冬(43)号 50,000部 合計 200,000部	・館内で来館者に配布 ・美術館・博物館、近隣文化施設、県内市町村 近隣大学、太宰府市、友の会会員等へ郵送
九州国立博物館の展示並びにイベントのご案内	毎月発行 各号16,500部	・館内で来館者に配布 ・郵便局、学校、図書館、ホテル、公共施設、道の駅等に配布
九州国立博物館 2019年間スケジュール	24,000部	・館内で来館者に配布 ・近隣駅、観光案内所等で配布
九州国立博物館 わくわく通信	年5回 総数 715,000枚	・近郊の小中学校に配布

1-(3)-②-7 ウェブサイトアクセス件数

(後述の資料に記載) ◎共通資料d

1-(5) 国内外の博物館活動への寄与

1-(5)-① 国内外の博物館等への有形文化財の貸与

1-(5)-①-1 国内外の博物館等への収蔵品・寄託品貸与件数

令和2年3月31日現在

	国立博物館計			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	計	国内	海外	計	国内	海外	計	国内	海外	計	国内	海外	計	国内	海外
貸与先件数	246	228	18	130	116	14	61	60	1	32	31	1	23	21	2
合計	1,488	1,388	100	954	864	90	348	347	1	136	133	3	50	44	6
絵画	416	410	6	215	210	5	135	134	1	55	55	0	11	11	0
書跡	46	45	1	16	15	1	22	22	0	7	7	0	1	1	0
彫刻	205	190	15	163	149	14	17	17	0	25	24	1	0	0	0
建築	13	13	0	12	12	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0
金工	90	86	4	56	53	3	27	27	0	7	6	1	0	0	0
刀剣	35	30	5	31	26	5	0	0	0	2	2	0	2	2	0
陶磁	91	64	27	58	36	22	27	27	0	0	0	0	6	1	5
漆工	66	63	3	32	30	2	21	21	0	11	10	1	2	2	0
染織	66	53	13	40	28	12	22	22	0	3	3	0	1	0	1
考古	243	229	14	135	121	14	61	61	0	25	25	0	22	22	0
民族資料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
歴史資料	39	39	0	18	18	0	16	16	0	1	1	0	4	4	0
和書	21	21	0	21	21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
写真資料	28	28	0	28	28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東 洋	絵画	20	20	0	20	20	0								
	書跡	5	3	2	5	3	2								
	彫刻	1	1	0	1	1	0								
	金工	4	2	2	4	2	2								
	陶磁	29	21	8	29	21	8								
	漆工	2	2	0	2	2	0								
	染織	0	0	0	0	0	0								
	考古	28	28	0	28	28	0								
	民族	0	0	0	0	0	0								
	法隆寺献納宝物	0	0	0	0	0	0								
黒田記念館収蔵品	40	40	0	40	40	0									

* 巡回展等で複数館に貸与する場合は、それぞれ館数と文化財件数をカウント。

付表・貸与件数の推移

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
貸与先件数	273	244	242	321	246	
合計	1,530	1,561	1,544	1,858	1,488	
絵画	432	560	454	586	416	
書跡	81	109	133	83	46	
彫刻	313	136	185	192	205	
建築	3	13	13	13	13	
金工	92	85	88	83	90	
刀剣	22	41	48	97	35	
陶磁	116	80	98	77	91	
漆工	54	99	114	58	66	
染織	48	72	54	89	66	
考古	201	193	211	214	243	
民族資料	37	23	2	36	0	
歴史資料	20	61	27	26	39	
和書	18	19	39	30	21	
写真資料	0	0	0	0	28	
東 洋	絵画	20	14	32	20	20
	書跡	7	18	7	28	5
	彫刻	6	3	6	12	1
	金工	0	0	0	48	4
	陶磁	13	8	20	44	29
	漆工	2	9	3	2	2
	染織	0	7	0	3	0
	考古	0	2	7	94	28
	民族	0	0	0	10	0
	法隆寺献納宝物	33	2	1	11	0
黒田記念館収蔵品	12	7	2	2	40	

* 東京国立博物館は、列品管理規程による「旧東洋課所掌分」あり。

1-(5)-①-2 国内外の博物館等への収蔵品・寄託品貸与先別件数

令和2年3月31日現在

○収蔵品

	国立博物館計		東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数
合計(国内+海外)	208	1,231	126	918	42	217	20	55	20	41
国内	191	1,135	113	830	41	216	19	54	18	35
国・国立	33	226	19	137	7	69	4	16	3	4
地方・公立	111	733	64	570	21	103	14	35	12	25
私立団体	47	176	30	123	13	44	1	3	3	6
海外	17	96	13	88	1	1	1	1	2	6

○寄託品

令和2年3月31日現在

	国立博物館計		東京国立博物館		京都国立博物館		奈良国立博物館		九州国立博物館	
	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数	貸与先件数	文化財件数
合計(国内+海外)	82	258	19	36	35	131	22	82	6	9
国内	80	254	18	34	35	131	21	80	6	9
国・国立	15	67	5	9	5	26	4	31	1	1
地方・公立	41	106	9	18	16	50	13	32	3	6
私立団体	24	81	4	7	14	55	4	17	2	2
海外	2	4	1	2	0	0	1	2	0	0

1-(5)-①-3 海外への列品貸与

令和2年3月31日現在

【東京国立博物館】 海外貸与先 14件 海外貸与文化財90件[うち寄託品2件]

	展覧会名称	申請者【会場】	期間	種別・員数
1	常設展示（長期貸与）	フランス国立ギメ美術館【フランス国立ギメ美術館（フランス共和国パリ市）】	平成14年1月1日～令和2年12月31日	東洋彫刻2件
2	「源氏物語の世界」展	メトロポリタン美術館	平成31年3月5日～6月16日	5件 絵画1, 書跡1, 漆工1, 染織2
3	「シルクロード国立博物館館蔵文物精品」展	中国国家博物館	平成31年4月20日～6月16日	12件 彫刻5, 陶磁2, 考古3, 東洋陶磁2
4	特別展「神—日本美術における神性の発見」	クリーブランド美術館	平成31年4月26日～6月17日	漆工1件
5	「日本美術に見る動物の姿 The Life of Animals in Japanese Art」展	独立行政法人国際交流基金【ナショナル・ギャラリー・オブ・アート（ワシントンD.C.）】	6月2日～8月18日	28件 絵画2, 彫刻5, 金工2, 刀剣5, 陶磁3, 染織8, 考古3
6	「アジア文明連合展覧会」	中国国家博物館	5月10日～8月20日	11件 絵画2, 彫刻1, 金工1, 陶磁3, 考古4
7	「十五世紀中期景德鎮磁器」展	上海博物館	5月28日～9月1日	東洋陶磁2件
8	「世界の龍泉：龍泉青磁とグローバルイゼーション」	故宮博物院 齋宮・景仁宮	7月15日～10月20日	8件 陶磁6, 東洋陶磁2
9	「日本美術に見る動物の姿 The Life of Animals in Japanese Art」展	独立行政法人国際交流基金【ロサンゼルス・カウンティ美術館】	9月22日～12月8日	3件 彫刻1, 陶磁2
10	「Nara: sacred images from early Japan(奈良—日本の信仰と美のはじまり)」	奈良県【大英博物館 三菱商事日本ギャラリー】	10月3日～11月24日	彫刻2件 [うち寄託2]
11	「世界の龍泉：龍泉青磁とグローバルイゼーション」	浙江省博物館 武林館区	11月15日～令和2年2月16日	8件 陶磁6, 東洋陶磁2
12	特別展「加耶本性—剣と弦」	大韓民国国立中央博物館	12月3日～令和2年2年3月1日	考古4件
13	特別展「須静観止—蘇州潘氏の収蔵」	蘇州博物館	12月20日～令和2年2年3月15日	東洋書跡2件
14	「Kimono: Kyoto to Catwalk」	ヴィクトリア&アルバート博物館	令和2年2月29日～6月21日	染織2件

【京都国立博物館】 海外貸与先1件 海外貸与文化財1件[うち寄託品0件]

	展覧会名称	申請者【会場】	貸与期間	種別・員数
1	「Where the Truth Lies: The Art of Qiu Ying」	ロサンゼルス・カウンティ美術【ロサンゼルス・カウンティ美術（アメリカ合衆国カリフォルニア州）】	2年1月21日～2年6月30日	絵画1件

【奈良国立博物館】 海外貸与先1件 海外貸与文化財3件[うち寄託品2件]

	展覧会名称	申請者【会場】	貸与期間	種別・員数（件）
1	「奈良—日本の信仰と美のはじまり」	奈良県【大英博物館（イギリス・ロンドン）】	9月11日～12月16日	彫刻1件 工芸2件

【九州国立博物館】 海外貸与先2件 海外貸与文化財6件[うち寄託品0件]

	展覧会名称	申請者【会場】	貸与期間	種別・員数（件）
1	特別展「朝鮮陶磁、肥前の色をまとう」	韓国国立晋州博物館【韓国国立晋州博物館】	9月10日～12月27日	陶磁5件
2	「KIMONO: KYOTO TO CATWALK」	英国ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館【英国ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館】	2年2月4日～2年10月23日	染織1件

1-(5)-①-4 考古の相互貸借実績

【東京国立博物館】

	貸与先名	期間	貸与件数（件）	借用件数（件）
1	松山市考古館	8月31日～31年3月29日	43	42
2	徳島市立考古資料館	8月31日～31年3月29日	26	18

【京都国立博物館】

	貸与先名	期間	貸与件数（件）	借用件数（件）
1	鳥取県立博物館	6月24日～令和2年3月31日	4（48点）	7
2	たつの市立龍野歴史文化資料館	6月24日～令和2年3月31日	37（279点）	5
3	兵庫県立考古博物館	6月24日～令和2年3月31日	1（1点）	7

【奈良国立博物館】

	貸与先名	期間	貸与件数 (件)	借用件数 (件)
1	京都府立山城郷土資料館	4月24日～2年3月31日	1 (266点)	3
2	大阪大学総合学術博物館	6月7日～2年4月下旬	7 (9点)	16
3	茨城県立歴史館	7月5日～2年4月下旬	2 (7点)	3 (4点)
4	群馬県立歴史博物館	8月5日～2年4月30日	1 (1点)	1 (17点)

1- (5) -①-5 収蔵品貸与促進事業

【東京国立博物館】

	貸与先名	展覧会名称	期間	貸与件数 (件)
1	三重県立美術館	「没後200年記念 増山雪齋展」	4月20日～6月16日	10
2	三内丸山遺跡センター	「あおもり土偶展」	7月20日～9月1日	5
3	高岡市美術館	企画展「明治金工の威風—高岡の名品、同時代の名工」	9月20日～10月20日	32
4	大分県立先哲史料館	RWC2019 記念・開館25周年記念「大分のキリスト教史」	9月21日～11月4日	17
5	千葉県立美術館	「令和元年度アート・コレクション+近代洋画の先駆者 浅井忠 11—ト—ハクの名画がやってきた!—」	2年1月28日～4月12日	7

(参考)

その他(収蔵品・寄託品以外)の貸与

【東京国立博物館】

	区分	貸与先	期間	貸与件数 (件)	貸与先件数 (件)
1	図書	富山県[立山博物館]	9月14日～11月4日	1	1
2	古写真・美写	奈良国立博物館	12月7日～2年1月13日	5	1

1-(5)-② 国内外の博物館等への援助・助言等

1-(5)-②-1 国内外の博物館への援助・助言等に関する取組状況

(専門的・技術的な援助・助言の件数、行政、公私立博物館等の各種委員会等の各種委員等への就任件数、依頼事項への対応件数等)

令和2年3月31日現在

計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
491 件	139 件	152 件	66 件	86 件
	本部文化財活用センター		文化財防災ネットワーク推進本部	
	107 件		9 件	

【本部文化財活用センター】107件 (内保存維持・管理にかかる指導・助言 68件)

	機 関	内 容	期 間	担 当 者
1	文化庁	古墳壁画の保存活用に関する検討会 委員	4月～2年3月	文化財活用センター副センター長 小林牧
2	東京都建設局公園緑地部	葛西臨海水族園事業計画検討会委員	4月～2年3月	文化財活用センター副センター長 小林牧
3	奈良県公園緑地課	飛鳥宮跡保存活用検討委員会 委員	4月～2年3月	文化財活用センター副センター長 小林牧
4	独立行政法人日本芸術文化振興会 大型文化催事準備チーム	「日本博（仮称）2020」に係る準備及び実施	4月～2年3月	文化財活用センター副センター長 小林牧
5	ADO全日本デパートメントストアーズ開発機構	リーダーシップ研修	5月24日	文化財活用センター副センター長 小林牧
6	文化庁	令和元年度ミュージアム・マネジメント研修講師	11月28日	文化財活用センター副センター長 小林牧
7	独立行政法人日本芸術文化振興会	特別展示「日本の伝統芸能」（仮称）会場デザイン・設計及び設営業務に関する企画選定委員会委員	9月～12月	文化財活用センター企画担当 松嶋雅人
8	内閣府	デジタルアーカイブ・ジャパン推進委員会 実務者検討委員会 構成員	9月5日～2年9月4日	文化財活用センターデジタル資源担当課長 今井敦
9	国立国会図書館	ジャパンサーチの連携促進に向けた説明会「ジャパンサーチ発信！～連携拡大に向けて」報告とパネルディスカッション参加	7月17日	文化財活用センターデジタル資源担当室長 村田良二
10	文化庁	令和元年度文化遺産・観光コンテンツバンク事業委託（海外広報・利活用環境整備）技術審査委員会委員	8月7日～2年3月	文化財活用センターデジタル資源担当室長 村田良二
11	学校法人大妻学院	大妻女子大学非常勤講師	4月1日～2年3月31日	文化財活用センター保存担当室長 吉田直人
12	一般社団法人文化財保存修復学会	文化財保存修復学会理事	4月～2年6月	文化財活用センター保存担当室長 吉田直人
13	一般社団法人文化財保存修復学会	文化財保存修復学会第41回大会実行委員会委員	4月～2年3月	文化財活用センター保存担当室長 吉田直人
14	文化庁	「収蔵庫収蔵棚一式」調達に係る仕様策定委員	4月～2年3月	文化財活用センター保存担当室長 吉田直人
15	一般社団法人文化財保存修復学会	文化財保存修復学会第41回大会打ち合わせ	5月17日	文化財活用センター保存担当室長 吉田直人
16	文化庁	公開承認施設担当者会議講師	6月20日	文化財活用センター保存担当室長 吉田直人
17	公益社団法人高知県文化財団	第2回学芸員専門研修講師	6月5日	文化財活用センター保存担当室長 吉田直人
18	文化庁	第11回指定文化財（美術工芸品）企画・展示セミナー講師	6月24日	文化財活用センター保存担当室長 吉田直人
19	一般社団法人文化財保存修復学会	文化財保存修復学会公開シンポジウム実行委員	8月～12月	文化財活用センター保存担当室長 吉田直人
20	公益財団法人文化財虫菌害研究所	総合調整委員会 委員	4月～2年3月	文化財活用センター保存担当室長 吉田直人
21	法隆寺	「法隆寺金堂壁画保存活用委員会」保存環境ワーキンググループ専門委員	4月～2年3月	文化財活用センター保存担当室長 吉田直人
22	人間文化研究機構 国文学研究資料館	2019年度アーカイブス・カレッジ講師	9月10日	文化財活用センター保存担当室長 吉田直人
23	公益財団法人文化財虫菌害研究所	第39回文化財防虫防菌処理実務講習会講師	10月10日	文化財活用センター保存担当室長 吉田直人
24	人間文化研究機構 国立民族学博物館	国際フォーラム「地域文化を活用するー地域振興、地域活性化に果たす役割」での発表及び意見交換	10月29日～11月1日	文化財活用センター保存担当室長 吉田直人

25	一般社団法人文化財保存修復学会	文化財保存修復学会第42回大会実行委員会委員	9月～3年3月	文化財活用センター保存担当室長 吉田直人
26	公益社団法人高知県文化財団	第3回学芸員専門研修講師	11月21日	文化財活用センター保存担当室長 吉田直人
27	一般社団法人文化財保存修復学会	文化財保存修復学会第42回大会実行委員会及び会場下見	12月19日、20日	文化財活用センター保存担当室長 吉田直人
28	一般社団法人文化財保存修復学会	文化財保存修復学会第42回大会プログラム作成委員	2年2月1日～3年1月31日	文化財活用センター保存担当室長 吉田直人
29	三重県総合博物館	三重県総合博物館研究協力者	4月～2年3月	文化財活用センター保存担当研究員 間瀬創
30	一般社団法人文化財保存修復学会	文化財保存修復学会理事	4月～2年3月	文化財活用センター保存担当研究員 間瀬創
31	一般社団法人文化財保存修復学会	文化財保存修復学会第41回大会打ち合わせ	5月16日～17日	文化財活用センター保存担当研究員 間瀬創
32	一般社団法人文化財保存修復学会	第10回文化遺産防災ネットワーク推進会議参加	5月29日	文化財活用センター保存担当研究員 間瀬創
33	一般社団法人文化財保存修復学会	文化財保存修復学会42回大会打ち合わせ	6月6日～7日	文化財活用センター保存担当研究員 間瀬創
34	公益財団法人文化財防虫防菌処理実務講習会講師	第39回文化財防虫防菌処理実務講習会講師	10月10日	文化財活用センター保存担当研究員 間瀬創
35	一般社団法人文化財保存修復学会	文化財保存修復学会公開シンポジウム実行委員	8月～12月	文化財活用センター保存担当研究員 間瀬創
36	一般社団法人文化財保存修復学会	文化財保存修復学会第42回大会実行委員会委員	9月～3年3月	文化財活用センター保存担当研究員 間瀬創
37	東京文化財研究所	第59号保存科学誌編集委員	12月2日～2年3月31日	文化財活用センター保存担当研究員 間瀬創
38	一般社団法人文化財保存修復学会	文化財保存修復学会第41回大会プログラム作成委員	2年2月1日～3年1月31日	文化財活用センター保存担当研究員 間瀬創
39	合同会社志事創業社	丸の内プラチナ大学 アートフルライフ・デザインコース講師	10月1日	文化財活用センター総務担当課長 樋口理央

・保存環境維持・管理に関する指導・助言 68件

40	朝来市埋蔵文化財センター	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	4月～5月	文化財活用センター保存担当室長 吉田直人
41	遠山記念館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	4月～5月	文化財活用センター保存担当室長 吉田直人
42	三重県立美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	4月～5月	文化財活用センター保存担当室長 吉田直人
43	肥後の里山ギャラリー	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	4月～5月	文化財活用センター保存担当室長 吉田直人
44	三内丸山遺跡センター	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	4月～6月	文化財活用センター保存担当室長 吉田直人
45	豊川市桜ヶ丘ミュージアム	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	4月～6月	文化財活用センター保存担当室長 吉田直人
46	佐川美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	4月～6月	文化財活用センター保存担当室長 吉田直人
47	秋田市立千秋美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	4月～6月	文化財活用センター保存担当室長 吉田直人
48	敦賀市立博物館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	5月～6月	文化財活用センター保存担当室長 吉田直人
49	姫路文学館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	4月～6月	文化財活用センター保存担当室長 吉田直人
50	高岡市美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	5月～7月	文化財活用センター保存担当研究員 間瀬創
51	春日大社国宝殿	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	4月～7月	文化財活用センター保存担当研究員 間瀬創
52	埼玉県立さきたま史跡の博物館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	4月～7月	文化財活用センター保存担当研究員 間瀬創
53	津山洋学資料館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	6月～7月	文化財活用センター保存担当室長 吉田直人
54	熊本博物館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	6月～7月	文化財活用センター保存担当室長 吉田直人
55	高知県立坂本龍馬記念館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	7月	文化財活用センター保存担当室長 吉田直人
56	松伯美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	5月～8月	文化財活用センター保存担当研究員 間瀬創
57	姫路市立美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	6月～8月	文化財活用センター保存担当室長 吉田直人
58	東京都庭園美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	7月～8月	文化財活用センター保存担当研究員 間瀬創
59	大田区立郷土博物館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	4月～8月	文化財活用センター保存担当室長 吉田直人
60	だて歴史文化ミュージアム	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	7月～9月	文化財活用センター保存担当室長 吉田直人
61	明治大学博物館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	8月～9月	文化財活用センター保存担当室長 吉田直人

62	京都国立近代美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	6月～9月	文化財活用センター保存担当 研究員 間瀬創
63	名古屋市美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	5月～9月	文化財活用センター保存担当 研究員 間瀬創
64	長崎歴史文化博物館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	8月～10月	文化財活用センター保存担当 室長 吉田直人
65	美浦村文化財センター	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	10月～11月	文化財活用センター保存担当 室長 吉田直人
66	タルイピアセンター(岐阜県垂井町)	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	9月～12月	文化財活用センター保存担当 研究員 間瀬創
67	千葉県立中央博物館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	11月～2年1月	文化財活用センター保存担当 研究員 間瀬創
68	刈谷市歴史博物館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	8月～2年2月	文化財活用センター保存担当 研究員 間瀬創
69	兵庫県立美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	11月～2年2月	文化財活用センター保存担当 室長 吉田直人
70	京都府立丹後郷土資料館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	2年1月～2月	文化財活用センター保存担当 研究員 間瀬創
71	東京都写真美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	2年1月～2月	文化財活用センター保存担当 室長 吉田直人
72	出雲弥生の森博物館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	2年1月～2月	文化財活用センター保存担当 研究員 間瀬創
73	大野城心のふるさと館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	8月～2年3月	文化財活用センター保存担当 室長 吉田直人
74	東京美術倶楽部	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	12月～継続中	文化財活用センター保存担当 研究員 間瀬創
75	十日町市博物館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	12月～継続中	文化財活用センター保存担当 研究員 間瀬創
76	石水博物館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	2年1月～継続中	文化財活用センター保存担当 研究員 間瀬創
77	泉屋博古館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	7月	文化財活用センター保存担当 室長 吉田直人
78	秋田県立近代美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	4月	文化財活用センター保存担当 室長 吉田直人
79	東京ステーションギャラリー	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	5月	文化財活用センター保存担当 室長 吉田直人
80	和歌山県立近代美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	6月	文化財活用センター保存担当 室長 吉田直人
81	安芸高田市歴史民俗博物館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	7月	文化財活用センター保存担当 室長 吉田直人
82	渋谷区立松涛美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	6月	文化財活用センター保存担当 室長 吉田直人
83	中之島香雪美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	8月	文化財活用センター保存担当 研究員 間瀬創
84	日光東照宮宝物館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	7月～8月	文化財活用センター保存担当 研究員 間瀬創
85	指宿市考古博物館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	7月～10月	文化財活用センター保存担当 研究員 間瀬創
86	筆の里工房	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	2年1月	文化財活用センター保存担当 室長 吉田直人
87	浜松市美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	10月～11月	文化財活用センター保存担当 研究員 間瀬創
88	比叡山国宝殿	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	3月～継続中	文化財活用センター保存担当 室長 吉田直人
89	青森県立美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	2年1月～継続中	文化財活用センター保存担当 研究員 間瀬創
90	京都市京セラ美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	12月～継続中	文化財活用センター保存担当 室長 吉田直人
91	明治神宮ミュージアム	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	12月～継続中	文化財活用センター保存担当 研究員 間瀬創
92	三菱一号館美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	2年2月～継続中	文化財活用センター保存担当 研究員 間瀬創
93	すみだ北斎美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	12月～継続中	文化財活用センター保存担当 研究員 間瀬創
94	足利市立美術館	文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による文化財の公開に係る保存環境調査協力	31年2月～4月	文化財活用センター保存担当 室長 吉田直人
95	あべのハルカス美術館	公開承認施設申請に係る保存環境調査	8月～継続中	文化財活用センター保存担当 研究員 間瀬創
96	新潟県立近代美術館	公開承認施設申請に係る保存環境調査	7月～継続中	文化財活用センター保存担当 室長 吉田直人
97	神奈川県立歴史博物館	公開承認施設申請に係る保存環境調査	7月～継続中	文化財活用センター保存担当 室長 吉田直人
98	青森県立郷土館	公開承認施設申請に係る保存環境調査	7月～8月	文化財活用センター保存担当 室長 吉田直人
99	高知県立歴史民俗資料館	公開承認施設申請に係る保存環境調査	7月～11月	文化財活用センター保存担当 室長 吉田直人
100	愛知県美術館	公開承認施設申請に係る保存環境調査	11月～2年3月	文化財活用センター保存担当 室長 吉田直人
101	豊橋市美術博物館	公開承認施設申請に係る保存環境調査	10月～継続中	文化財活用センター保存担当 研究員 間瀬創
102	藤沢市アトスペース	貸与促進事業応募募館の保存環境調査	8月	文化財活用センター保存担当 室長 吉田直人
103	千葉県立中央博物館	貸与促進事業応募募館の保存環境調査	10月～12月	文化財活用センター保存担当 研究員 間瀬創
104	高知県立歴史民俗資料館	貸与促進事業応募募館の保存環境調査	7月～11月	文化財活用センター保存担当 室長 吉田直人

105	古河歴史博物館	貸与促進事業応募館の保存環境調査	2年1月	文化財活用センター保存担当 室長 吉田直人、同研究員 間瀬創
106	出雲弥生の森博物館	貸与促進事業応募館の保存環境調査	12月～2年1月	文化財活用センター保存担当 研究員 間瀬創
107	土浦市立博物館	貸与促進事業応募館の保存環境調査	31年2月～継続中	文化財活用センター保存担当 室長 吉田直人

【東京国立博物館】139件

	機 関	内 容	期 間	担 当 者
1	独立行政法人国立美術館	多言語対応に関する助言及び視察対応	4月23日	副館長 井上洋一、企画課 国際交流室専門職 君波妙 子
2	澤田美喜記念館	彫刻の調査方法について	9月27日～12月13日	副館長 井上洋一、保存修 復課調査分析室長 荒木臣 紀
3	韓国国立中央博物館	博物館の広報活動に関する助言	9月25日	学芸企画部上席研究員 鬼 頭智美、広報室専門職 小 島佳、アソシエイトフェ ロー 江原香
4	国立民族学博物館	平成30年度「博物館学集中コース」研修講師	10月2日	学芸企画部上席研究員 鬼 頭智美
5	宗教法人 浅草寺	風雷神門の展示照明設備改修の仕様等に関する対応・助言	12月2日	学芸企画部上席研究員 木 下史青
6	鹿児島市立美術館	展示照明設備改修に向けての仕様等に関する相談への対 応・助言	10月18日	学芸企画部上席研究員 木 下史青
7	文化庁	第11回指定文化財（美術工芸品）企画・展示セミナー	10月9日	学芸企画部上席研究員 木 下史青
8	神宮の杜芸術祝祭実行委員会	明治神宮（宝物殿他会場）の展示に関する監修・助言	8月20日	学芸企画部上席研究員 木 下史青
9	新宿区立漱石山房記念館	展示照明設備の運用方法等に関する現地視察対応・助言	7月16日	学芸企画部上席研究員 木 下史青
10	福島県立博物館	『興福寺と会津 福島復興祈念展』の照明デザイン	6月6日、7月4日	学芸企画部上席研究員 木 下史青
11	神奈川県教育委員会	文化財保護審議会委員	4月1日～	企画課長 浅見龍介
12	アメリカ・ナショナルギャラリー（国際 交流基金）	共同キュレーター	4月1日～2年3月31日	企画課長 浅見龍介
13	文化庁	美術工芸品買取鑑査委員	7月29日	企画課長 浅見龍介
14	国立新美術館	「古典×現代2020 時空を超える日本のアート」古典監修	9月～	企画課長 浅見龍介
15	関市教育委員会	春日神社能面調査	11月8～10日	企画課長浅見龍介、博物館 教育課教育普及室研究員 川岸瀬里
16	九州国立博物館	寄贈予定能面調査	2年3月31日	企画課長 浅見龍介
17	大手前大学史学研究所	兵庫県加古川市行者塚古墳出土資料の整理報告に関する助 言	12月21日	企画課特別展室研究員 山 本亮
18	愛知県陶磁美術館	展示室改修及び展示ケース新設に関する助言	7月8日	企画課デザイン室長 矢野 賀一
19	岡山県立博物館、黒川設計事務所	展示室改修及び展示ケース新設に関する助言	7月25日	企画課デザイン室長 矢野 賀一
20	黒川設計事務所	展示室改修及び展示ケース新設に関する助言	12月17日	企画課デザイン室長 矢野 賀一
21	文化庁	「文化財多言語解説整備事業」 運営委託業務	4月1日～5日	企画課国際交流室長 楊銳
22	文化庁	「文化財多言語解説整備事業」 評価検証業務	4月1日～5日	企画課国際交流室長 楊銳
23	長野県立美術館	解説や案内などの多言語化対応	4月5日	企画課国際交流室長 楊銳
24	大倉集古館	出版・刊行物についての助言	4月15日、5月27日	企画課出版企画室長 松尾 美貴
25	日本工芸会	日本伝統工芸展第一次監査委員	8月7日	博物館教育課長 伊藤信二

26	奈良県まちづくり推進局平城宮跡事業推進室	ICT技術を用いた学校旅行への対応について	12月18日	博物館教育課教育普及室長 藤田千織
27	公益財団法人五島美術館	講演会「日本人好みの中国陶磁と明末の中国文化」	11月9日	博物館情報課長 今井敦
28	町田市立博物館	寄贈資料の個別評価	12月1日	博物館情報課長 今井敦
29	町田市立博物館	町田市立博物館運営委員	7月1日～3年6月30日	博物館情報課長 今井敦
30	情報科学技術協会	ISO/TC46/SC4 国内委員会	6月19日	博物館情報課情報管理室長 村田良二
31	東京大学	デジタルアーカイブ関係機関連絡会に参加	12月18日	博物館情報課情報管理室長 村田良二、主任研究員 阿児雄之
32	一般社団法人社会基盤情報流通推進協議会	アーバンデータチャレンジ実行委員	7月1日～2年3月31日	博物館情報課情報管理室主任研究員 阿児雄之
33	大阪市立図書館	所蔵資料のオープンデータ化	4月～2年3月	博物館情報課情報管理室主任研究員 阿児雄之
34	科研費基盤研究(A)「仏教学デジタル知識基盤の継承と発展」(代表:下田正弘)基盤構築班	シンポジウム「デジタル知識基盤におけるパブリックドメイン資料の利用条件をめぐって」での事例発表	2年1月17日	博物館情報課情報管理室主任研究員 阿児雄之
35	専門図書館協議会	全国研究会における著作権分科会(第3分科会)の企画提案・助言と司会	1月～6月21日	博物館情報課情報資料室専門職 山崎美和
36	大倉集古館	開館の広報についての助言	4月15日	広報室専門職 小島佳、宇野裕喜
37	セラミックアート美術館(仮称)	開館の広報についての助言	4月22日	広報室専門職 小島佳
38	サントリー美術館	リニューアル後の広報についての助言	11月21日	広報室専門職 小島佳
39	21_21 DESIGN SIGHT、上野の森美術館ほか都内美術館	コロナウイルス感染防止策の広報対応についての助言	2年2月24日	広報室専門職 小島佳
40	国立西洋美術館	展示紹介動画についての助言	2年3月18日	広報室専門職 小島佳
41	愛知県教育委員会	愛知県文化財保護審議会委員	4月1日～2年3月31日	東京国立博物館百五十年史 編纂室長 恵美千鶴子
42	埼玉県歴史と民俗の博物館	埼玉県資料評価委員	4月1日～2年3月31日	東京国立博物館百五十年史 編纂室長 恵美千鶴子
43	文部科学省	教科用図書検定調査審議会臨時委員	4月1日～2年3月31日	東京国立博物館百五十年史 編纂室長 恵美千鶴子
44	東京大学史料編纂所	共同研究員	4月1日～2年3月31日	東京国立博物館百五十年史 編纂室主任研究員 遠藤菜子
45	港区立郷土歴史館	「日本・オーストリア国交のはじまりー写真家が見た明治初期日本の姿ー」出品作品に関する助言	7月26日	東京国立博物館百五十年史 編纂室主任研究員 遠藤菜子
46	京都国立博物館	当館館史関係資料における佐竹本三十六歌仙絵についての言及に関する助言	9月19日	東京国立博物館百五十年史 編纂室主任研究員 遠藤菜子
47	ICOM京都大会2019組織委員会	ICOM京都大会運営委員	7月～2年3月31日	東京国立博物館百五十年史 編纂室主任研究員 遠藤菜子
48	ロイヤルオンタリオ博物館(カナダ)	明治期の東博とトロント博物館との物品交換に関する情報および資料提供	2年2月1日	東京国立博物館百五十年史 編纂室主任研究員 遠藤菜子
49	宮内庁三の丸尚蔵館	修理に掛かる企画競争審査委員	4月4日～2年3月31日	学芸研究部長 田沢裕賀
50	文化庁	登録美術品絵画・彫刻調査研究協力者	4月4日～2年3月31日	学芸研究部長 田沢裕賀
51	文化庁	文化審議会専門委員(文化財分科会)	4月6日～2年3月31日	学芸研究部長 田沢裕賀
52	公益財団法人千葉市教育振興財団	千葉市美術館評価委員会委員	6月13日～3年6月12日	学芸研究部長 田沢裕賀
53	西洋美術館	展覧会連携トークイベント講師	7月26日	学芸研究部長 田沢裕賀
54	新宿区立漱石山房記念館	特別展記念講演会講師	11月10日	学芸研究部長 田沢裕賀
55	新宿区	新宿区文化財保護審議会委員	12月1日～3年11月30日	学芸研究部長 田沢裕賀
56	文京区立森鷗外記念館	運営協議会委員	12月～3年12月	学芸研究部特任研究員 田良島 哲

57	独立行政法人日本スポーツ振興センター 秩父宮記念スポーツ博物館・図書館	秩父宮記念スポーツ博物館・図書館資料の価値づけ及び収集方針策定等ワーキンググループ委員（座長）	10月～2年10月	学芸研究部特任研究員 田良島 哲
58	広島県教育委員会	広島頼家関係資料調査指導委員会委員	4月1日～2年3月31日	列品管理課登録室長 丸山 猶計
59	(公財) 日本習字教育財団	学術研究助成審査委員	4月1日～2年3月31日	列品管理課登録室長 丸山 猶計
60	長崎県	長期貸与品の保存環境の確認及び現地指導	2年1月17日	列品管理課登録室長 丸山 猶計
61	蘇州博物館	展覧会「須静観止—清代蘇州潘氏の收藏—」への作品解説提供	9月30日	列品管理課登録室研究員 六人部克典
62	鎌倉市教育委員会	文化財審議委員	6月1日～	列品管理課平常展調整室長 皿井舞
63	仏教芸術学会	仏教芸術学会委員	29年6月～	列品管理課平常展調整室長 皿井舞
64	仏教芸術学会	論文の査読	元年～	列品管理課平常展調整室長 皿井舞
65	東北大学	集中講義	7月23日～26日	列品管理課平常展調整室長 皿井舞
66	文化庁	買取評価員	11月29日	列品管理課平常展調整室長 皿井舞
67	イラクズィー・カール大学	東京国立博物館所蔵のイラク出土資料、およびその展示について紹介、解説。	4月16日	列品管理課平常展調整室研究員 小野塚拓造
68	ダマスカス国立博物館	東京国立博物館の展示、特に作品の安全確保について情報共有	7月24日	列品管理課平常展調整室研究員 小野塚拓造
69	イラン国立博物館	東京国立博物館の展示、収蔵品の保管などについて紹介	11月29日	列品管理課平常展調整室研究員 小野塚拓造
70	イラクスレイマニエ国立博物館	東京国立博物館の展示、収蔵品の保管などについて紹介	12月10日	列品管理課平常展調整室研究員 小野塚拓造
71	千葉市教育委員会	千葉市指定文化財（金光院所蔵 両界曼荼羅図）の修理のための調査・助言	4月11日	調査研究課絵画・彫刻室長 沖松健次郎
72	文化庁	文化財購入に際しての価格評価	12月13日	調査研究課絵画・彫刻室長 沖松健次郎
73	泉屋博古館	ギャラリートーク「中国元明絵画と室町水墨」	9月28日	調査研究課絵画・彫刻室研究員 高橋真作、ほか外部研究者
74	墨田区教育委員会	墨田区登録有形文化財（絵画）調査	2年2月4日～5日	調査研究課絵画・彫刻室研究員 高橋真作
75	横浜市歴史博物館	臨済宗円覚寺派永田山寶林寺調査	2年2月25日	調査研究課絵画・彫刻室研究員 高橋真作
76	文化庁	調査員（文化財第一課）	4月14日～2年3月31日	調査研究課工芸室長 小山弓弦葉
77	文化庁	文化審議会専門委員	4月26日～2年3月31日	調査研究課工芸室長 小山弓弦葉
78	文化庁	美術工芸品買取審査会議の委員	7月29日～2年3月31日	調査研究課工芸室長 小山弓弦葉
79	公益社団法人日本工芸会	第66回日本伝統工芸展審査委員	7月31日、8月1日	調査研究課工芸室長 小山弓弦葉
80	東京文化財研究所	ワークショップ「染織品の保存と修復」講師（台北師範大学）	8月13日～8月15日	調査研究課工芸室長 小山弓弦葉
81	財団法人五島美術館	「美意識のトランジション」展展示指導	10月23日、11月18日	調査研究課工芸室長 小山弓弦葉
82	静岡県教育委員会	県指定文化財（浅間神社所蔵腹巻）の修理監督	12月5日	調査研究課工芸室長 小山弓弦葉
83	静嘉堂文庫美術館	備前刀—その歴史と魅力—	4月21日	調査研究課工芸室研究員 佐藤寛介
84	栃木県小山市	刀剣レプリカ製作に関連する調査研究	5月	調査研究課工芸室研究員 佐藤寛介
85	静岡県三嶋大社	『三嶋大社古神宝集合！』展 展示協力	7月	調査研究課工芸室研究員 佐藤寛介
86	九州国立博物館	『室町将軍』展 展示協力	7月	調査研究課工芸室研究員 佐藤寛介
87	大分県立美術館	『日本の美意識—刀剣と金工—』展 展示協力	9月	調査研究課工芸室研究員 佐藤寛介
88	文化庁	文化財買取協議会	9月30日	調査研究課工芸室研究員 佐藤寛介
89	岡山県瀬戸内市	文化財がひらく 瀬戸内市の未来	10月19日	調査研究課工芸室研究員 佐藤寛介
90	津山郷土博物館	津山藩主松平家伝来武器・武具の調査	12月27日	調査研究課工芸室研究員 佐藤寛介

91	岡山城天守閣	岡山城主ゆかりの名刀	2年1月18日	調査研究課工芸室研究員 佐藤寛介
92	岡山県瀬戸内市	瀬戸内市長船が生んだ日本刀の王者 備前刀	2年2月15日	調査研究課工芸室研究員 佐藤寛介
93	広島県尾道市	『尾道市史』編纂に伴う資料調査	2年3月17日～18日	調査研究課工芸室研究員 佐藤寛介
94	公益財団法人五島美術館	会員向け講演会	4月6日、5月4日、12月7日	調査研究課工芸室研究員 福島修
95	公益財団法人 遠山記念館	寄贈作品の評価	2年1月19日	調査研究課工芸室研究員 福島修
96	東京芸術大学大学美術館	漆工品の修理検討会議出席	2年1月28日	調査研究課工芸室研究員 福島修
97	国立アイヌ民族博物館設立準備室	展示検討委員会委員	7月16日～2年3月31日	調査研究課考古室長 品川 欣也
98	国立アイヌ民族博物館設立準備室	国立アイヌ博物館で行う特別展にかかる援助・助言	11月26日	調査研究課考古室長 品川 欣也
99	石壮里博物館(韓国)	石壮里博物館・特別展「海を越えた先史人たち」 展覧会 準備への助言	4月1日～5月31日	調査研究課考古室研究員 飯田茂雄
100	小平市役所	小平市文化財保護審議会委員	4月1日～2年3月31日	調査研究課東洋室長 勝木 言一郎
101	日本学術振興会	科学研究費委員会専門委員	12月1日～2年11月30日	調査研究課東洋室長 勝木 言一郎
102	中国国家文物局	2019年全国展覽策劃与实施培训班における講師	4月24日	調査研究課東洋室主任研究 員 市元壘
103	永青文庫	早春展「古代中国・オリエントの美術」出品文化財に係る 助言	9月6日、10月28日	調査研究課東洋室主任研究 員 市元壘
104	泉屋博古館	特別展「瑞獣伝来」関連文化財に係る助言	9月20日	調査研究課東洋室主任研究 員 市元壘
105	九州国立博物館	九博特別展「三国志」開催に係る展示協力	9月23日～9月28日	調査研究課東洋室主任研究 員 市元壘
106	韓国国立慶州博物館	2020年秋季特別展に係る助言	11月21日	調査研究課東洋室主任研究 員 市元壘
107	九州国立博物館	鉄鏡検討会実施に係る協力	12月16日	調査研究課東洋室主任研究 員 市元壘
108	日本相撲協会(相撲博物館)	温湿度計の機種選択について	4月	保存修復課調査分析室長 荒木臣紀
109	古代出雲歴史博物館	資料のデジタル化について	7月7日～9月24日	保存修復課調査分析室長 荒木臣紀
110	陸前高田市立博物館	紙資料の修復方法について	12月2日～12月5日	保存修復課調査分析室長 荒木臣紀
111	陸前高田市立博物館	被災ミュージアム再興事業「被災美術工芸資料安定化処置 方法の開発及び修理(漆工品)」	4月1日～2年3月31日	保存修復課調査分析室専門 職 宮田将寛、同保存修復 室研究員 野中昭美、同研 究補佐員 土屋良子、ほか 外部研究者
112	陸前高田市立博物館	被災ミュージアム再興事業「被災美術工芸資料安定化処置 方法の開発及び修理(市指定)」	4月1日～2年3月31日	保存修復課調査分析室専門 職 宮田将寛、同保存修復 室研究員 野中昭美、同研 究補佐員 土屋良子、ほか 外部研究者
113	文化庁・国立近代美術館	「十二の鷹」構造解析についての助言協力	5月9日～	保存修復課調査分析室専門 職 宮田将寛
114	東京芸術大学	CTスキャンデータから3Dデータ作製についての協力・助言	4月、8月	保存修復課調査分析室専門 職 宮田将寛
115	筑波大学	アフガニスタン出土塑像の構造について	2年1月20日	保存修復課調査分析室長荒 木臣紀、同専門職 宮田将 寛
116	東京国立近代美術館	鈴木長吉「十二の鷹」の科学的調査	2年3月9日	保存修復課調査分析室長荒 木臣紀、同専門職 宮田将 寛
117	島根県立 八雲立つ風土記の丘	埴輪に施されている過去の修理について	2年3月10日	保存修復課調査分析室長荒 木臣紀、同専門職 宮田将 寛
118	祐天寺 研究所	両面厨子の構造、使用されている彩色材料について	2年3月16日	保存修復課調査分析室長荒 木臣紀、同専門職 宮田将 寛
119	法隆寺	法隆寺金堂壁画保存活用委員会保存環境ワーキンググルー プ専門委員	4月1日～2年3月31日	保存修復課環境保存室長 和田浩
120	長崎県浦上教会	展示環境整備に関する助言	11月25日	保存修復課環境保存室長 和田浩
121	長崎県歴史文化博物館	展示環境整備に関する助言	4月1日～2年3月31日	保存修復課環境保存室長 和田浩
122	国立歴史民族学博物館	共同研究員(研究課題「博物館における持続可能な資料管理 および環境整備—保存科学の視点から」)	4月1日～2年3月31日	保存修復課環境保存室長 和田浩
123	東京都市社会教育課長会文化財部会	文化財防災に関する講演	7月18日	保存修復課環境保存室アソ シエイトフェロー 黄川田 翔

124	東京都市社会教育課長会文化財部会埋蔵文化財担当者連絡会	文化財防災に関する講演	9月26日	保存修復課環境保存室アシエイトフェロー 黄川田翔
125	茨城県博物館協会	文化財防災に関する講演	12月18日	保存修復課環境保存室アシエイトフェロー 黄川田翔
126	鎌倉市教育委員会	鎌倉市文化財専門委員会	28年6月1日～2年5月31日	保存修復課保存修復室長 瀬谷愛
127	法隆寺	法隆寺金堂壁画保存活用委員会・壁画ワーキンググループ・美術史班	5月～2年3月31日	保存修復課保存修復室長 瀬谷愛
128	公益財団法人日本博物館協会	博物館総合調査委員会	4月1日～2年3月31日	保存修復課保存修復室長 瀬谷愛
129	小田原市教育委員会（小田原市郷土文化館）	夢見遊山いたばし見聞楽講演会「松永耳庵の茶道具」	11月3日	保存修復課保存修復室研究員 横山梓
130	陸前高田市立博物館	被災ミュージアム再興事業「被災美術工芸資料修理（皮革資料）」	4月1日～2年3月31日	保存修復課保存修復室研究員 野中昭美、同研究補佐員 桜井彩、小関那央子、ほか外部研究者
131	福島県立博物館	水害損レスキューに使用する材料について	5月10～14日	保存修復課保存修復室研究員 野中昭美
132	NPO 文化財保存支援機構	「文化財の保存修復を目指す人のための実践コース」講習会のディスカッションへの登壇	11月16日	保存修復課保存修復室研究員 野中昭美
133	岩手県立美術館	陶磁器の修理方法に関して	11月29日	保存修復課保存修復室研究員 野中昭美
134	花巻市立博物館	陶器の修理に関して	12月17日～29日	保存修復課保存修復室研究員 野中昭美
135	東京藝術大学大学院 美術研究科 文化財保存学専攻 保存修復工芸室	保存修復のキャリアパスについての集中講義	2年1月15日	保存修復課保存修復室研究員 野中昭美
136	東北芸術工科大学	講座「絵画技法演習」における絵画技法に関する特別講義	12月7日、12月14日	保存修復課保存修復室アシエイトフェロー 大山龍顕
137	東京文化財研究所	和紙製造に関する調査協力 2-(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究内、「美術工芸品保存修理用具・原材料調査事業(②-5)」	2年3月10日～11日	保存修復課保存修復室アシエイトフェロー 大山龍顕
138	国立科学博物館	臨時売店運営事業者選定委員会委員	7月2日～	東京国立博物館 経理課長 数馬厚人
139	青山学院大学	「プロジェクトマネジメント論」特別講師	6月19日	東京国立博物館 総務課長 竹之内勝典

【京都国立博物館】152件

	機 関	内 容	期 間	担 当 者
1	文化庁	日本遺産審査委員会委員	4月1日～4月30日	学芸部連携協力室専門職 リンネマリサ
2	京都府埋蔵文化財調査研究センター	京都府埋蔵文化財調査研究センター評議員	4月～6月	館長 佐々木丞平
3	静岡市教育委員会	静岡市文化財保護審議会委員	4月～7月31日	学芸部連携協力室長 浅湊毅
4	京都商工会議所	「文化×知恵産業展」実行委員会オブザーバー	4月～9月5日	館長 佐々木丞平
5	佛教大学(通信学部)	非常勤講師(集中)	4月～9月30日	学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊
6	奈良国立博物館	奈良国立博物館文化財保存修理所運営委員会委員	4月～12月31日	学芸部長 朝賀浩
7	島根県教育委員会	島根県文化財保護審議会委員	4月～2年1月19日	学芸部企画室長 山川暁
8	越前市教育委員会	越前市文化財保護委員	4月～2年1月30日	学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊
9	ICOM日本委員会	ICOM京都大会2019組織委員会委員	4月～2年3月	館長 佐々木丞平
10	ICOM京都大会推進委員会	ICOM京都大会2019京都推進委員会委員	4月～2年3月	館長 佐々木丞平
11	宮内庁京都事務所	御所離宮懇談会委員	4月～2年3月	館長 佐々木丞平
12	企業メセナ協議会	審査委員長	4月～2年3月	館長 佐々木丞平
13	奈良国立博物館	奈良国立博物館評議員	4月～2年3月	館長 佐々木丞平
14	京都国立近代美術館	京都国立近代美術館評議員	4月～2年3月	館長 佐々木丞平
15	ICOM京都大会2019組織委員会	ICOM京都大会2019運営委員	4月～2年3月	副館長 栗原祐司 総務課専門職員 関谷泰弘 総務課総務・人事係長 三島貴雄 学芸部連携協力室専門職 リンネマリサ
16	人権ネットを活用した地域活性化事業実行委員会	「人権ネットを活用した地域活性化事業」実行委員会実行委員	4月～2年3月	副館長 栗原祐司
17	水平社博物館	人権ネットを活用した地域活性化事業実行委員会	4月～2年3月	副館長 栗原祐司
18	大阪市経済戦略局	大阪市地方独立行政法人大阪市博物館機構評価委員会委員	4月～2年3月	副館長 栗原祐司
19	京都大学大学院人間・環境学研究科	客員教授・客員准教授	4月～2年3月	学芸部上席研究員 宮川禎一 学芸部企画室長 山川暁 学芸部連携協力室長 浅湊毅 学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊
20	仏教美術研究上野記念財団	研究委員会委員	4月～2年3月	学芸部企画室長 山川暁 学芸部連携協力室長 浅湊毅 学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊
21	京都大学大学院文学研究科	非常勤講師	4月～2年3月	学芸部企画室アシエイトフェロー 趙ウニル

22	国宝修理装演師連盟	修理技術者資格制度委員会委員	4月～2年3月	学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊 学芸部美術室長 羽田聡
23	法隆寺	「法隆寺金堂壁画 保存活用委員会」壁画（美術史班） ワーキンググループ専門委員	4月～2年3月	学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊
24	護国院	紀三井寺参詣曼荼羅修理委員会専門委員	4月～2年3月	学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊
25	同志社女子大学	非常勤講師	4月～2年3月	学芸部保存科学室長 降幡 順子
26	法隆寺	「法隆寺金堂壁画 保存活用委員会」壁画（材料調査班） ワーキンググループ専門委員	4月～2年3月	学芸部保存科学室長 降幡 順子
27	近畿大学	非常勤講師	4月～2年3月	学芸部美術室長 羽田聡
28	花園大学	非常勤講師	4月～2年3月	学芸部美術室長 羽田聡
29	鶴見大学	非常勤講師	4月～2年3月	学芸部工芸室主任研究員 末兼俊彦
30	奈良大学	通信教育部指導教員	4月～2年3月	学芸部工芸室研究員 降矢 哲男
31	國學院大学	非常勤講師	4月～2年3月	学芸部考古室主任研究員 古谷毅
32	聖心女子大学	非常勤講師	4月～2年3月	学芸部考古室主任研究員 古谷毅
33	國學院大学博物館	客員教授	4月～2年3月	学芸部考古室主任研究員 古谷毅
34	野田市	野田市史編さん委員会専門委員	4月～2年3月	学芸部考古室主任研究員 古谷毅
35	祇園祭山鉾連合会	祇園祭山鉾装飾品等専門委員	4月～2年3月	学芸部企画室長 山川暁 学芸部連携協力室長 浅湊 毅
36	サントリー美術館	川鍋暁斎展引継の立ち会い	4月2日	学芸部保存修理指導室研究 員 福士雄也
37	大エジプト博物館合同保存修復プロジェクト	大エジプト博物館合同保存修復プロジェクト技術支援委員	4月3日～10月31日	副館長 栗原祐司
38	日本経済新聞社	奇想の系譜展 撤収作業立会い	4月8日～9日	学芸部保存修理指導室研究 員 福士雄也
39	MIHO MUSEUM	2019年春季特別展「国宝 曜変天目と破草鞋」における学 術講演	4月14日 4月29日	企画室長 山川暁 学芸部長 朝賀浩
40	京都造形芸術大学	非常勤講師	4月16日～7月23日	学芸部美術室研究員 福士 雄也
41	滋賀県教育委員会	滋賀県文化財保存活用大綱検討懇話会委員	5月10日～2年3月	学芸部企画室長 山川暁 学芸部連携協力室長 浅湊 毅
42	智積院智山専修学院	「仏画入門」講師	5月16, 31日	学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊
43	野崎家塩業歴史館	資料調査	5月21日～22日	学芸部教育室長 永島明子
44	artKYOYO準備委員会	artKYOYO準備委員会実行委員	5月27日～9月30日	館長 佐々木丞平
45	清風会	清風会理事	5月27日～2年3月	館長 佐々木丞平
46	滋賀県教育委員会	滋賀県文化財保護審議会委員	6月1日～2年3月	学芸部企画室長 山川暁
47	九州国立博物館	特別展「室町将軍－戦乱と美の足利十五代－」作品借用及 び・撤収	6月7日～9月1日	学芸部工芸室主任研究員 末兼俊彦
48	三菱財団	三菱財団理事	6月14日～2年3月	館長 佐々木丞平
49	京都古都文化保存協会	京都古都文化保存協会評議員	6月26日～2年3月	館長 佐々木丞平
50	アール・ブリュットネットワーク	アール・ブリュットネットワーク企画委員	7月1日～2年3月	副館長 栗原祐司
51	京都府教育委員会	京都府文化財保存活用大綱専門家会議委員	7月～12月31日	学芸部長 朝賀浩
52	草津市教育委員会	青花紙保存継承懇話会委員	7月～2年3月	学芸部企画室長 山川暁
53	朝日新聞大阪本社	第8回「メディアセッション京都」パネリスト	7月2日	館長 佐々木丞平
54	文化庁	「令和元年度全国博物館長会議(第26回)」における基調講 演	7月3日	館長 佐々木丞平
55	九州国立博物館	令和元年度九州国立博物館文化財保存修復施設運営委員会 出席	7月5日	学芸部長 朝賀浩
56	メトロポリタン美術館	「源氏物語展」作品返却協力	7月5日～7月11日	学芸部連携協力室専門職 リンネマリサ 学芸部企画室アソシエイト フェロー ヘルフェンベル ガーファビエン
57	野崎家塩業歴史館	資料調査	7月9～10日	学芸部教育室長 永島明子
58	京都文化博物館	「横山華山展」「池大川展」講演・ギャラリートーク	7月7、13日～8月18日	学芸部美術室研究員 森道 彦
59	多治見市陶器意匠研究所	特別講義講師	7月17日	学芸部工芸室研究員 降矢哲男
60	西日本新聞社	九州国立博物館特別展「室町将軍－戦乱と美の足利十五代 －」講師派遣	7月20日	学芸部工芸室主任研究員 末兼 俊彦
61	鬼北町教育委員会	町指定有形文化財等妙寺所蔵仏画等に係る調査指導	7月25日	学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊
62	東京大学近世貿易陶磁調査研究グループ	近世貿易陶磁調査グループ第13回勉強会	7月27日	学芸部工芸室研究員 降矢哲男
63	国宝修理装演師連盟	上級講習会における講義の講師	7月26日	学芸部長 朝賀浩
64	京都伝統工芸大学	日本美術史	7月29～30日	学芸部企画室長 山川暁
65	文化庁	文化財調査（仁和寺）	7月29日・8月2日	学芸部連携協力室研究員 上杉智英
66	丸亀市教育委員会	丸亀市史跡快天山古墳保存整備委員会委員	8月1日～2年3月	学芸部保存科学室長 降幡 順子
67	はびきの市民大学	古墳時代における山の祭祀と河内平野（百舌鳥・古市古墳 群をより深く知るための「世界遺産講座」）	8月2日	学芸部考古室主任研究員 古谷毅
68	滋賀県教育委員会	滋賀県文化財保護審議会の開催に伴う職員の派遣	8月2日	学芸部企画室長 山川暁

69	越前市教育長	文化財調査（陽願寺）	8月5日	学芸部美術室主任研究員 呉 孟晋
70	神戸大学	非常勤講師	8月17日～8月31日	学芸部保存科学室長 降幡 順子
71	国立歴史民俗博物館	「対馬宗家歴代肖像・墓塔研究会」第1回研究会	8月20～21日	学芸部長 朝賀浩
72	奈良国立博物館	夏期講座「仏教美術に見る動物のすがた」講師	8月22日	学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊
73	アジア水中考古学研究所	長崎県上対馬にて港遺構「矢櫃」の調査	8月24～27日	学芸部工芸室研究員 降矢 哲男
74	九州国立博物館	九州国立博物館特別展「室町将軍一戦乱と美の足利十五代 一」作品返却立ち合い	8月28日	学芸部企画室研究員 井並 林太郎
75	阿波市教育委員会	聖幢寺所蔵の涅槃図調査	8月28日	学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊
76	堂本印象美術館	展覧会「堂本印象 ほとけを描く ほとけを愛でる」講師	8月31日	学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊
77	花園大学歴史博物館	秋季企画展「東海の名刹奥山方広寺」図録作品解説執筆	9月	学芸部企画室アソシエイト フェロー 伊藤旭人
78	大阪市博物館機構	大阪歴史博物館館長会議委員	9月～12月31日	学芸部長 朝賀浩
79	読売新聞西部本社事業部	特別展「侍～もののふのびの系譜～」に係る職員の派遣	9月3～4日	学芸部工芸室主任研究員 末兼俊彦
80	大阪大谷大学	科学研究費補助金による研究遂行のための出張	9月9～10日	学芸部連携協力室研究員 上杉智英
81	九州国立博物館	九州国立博物館特別展「室町将軍一戦乱と美の足利十五代 一」作品返却立ち合い	9月10, 13, 19日	学芸部工芸室主任研究員 末兼俊彦
82	文化財保存修復学会	文化財保存修復学会公開シンポジウム実行委員	9月10日～2年3月	学芸部保存科学室長 降幡 順子 学芸部美術室研究員 森道 彦
83	(株)アマゾンラテルナ	作品輸送、貸与等業務	9月13日	学芸部工芸室研究員 降矢 哲男
84	大阪日本民芸館	秋季特別展にかかる資料の中国語訳	9月14日	学芸部企画室アソシエイト フェロー 周思敏
85	立命館大学歴史都市防災研究所	立命館大学ユネスコ・チェア「文化遺産と危機管理」国際 研修講師	9月16日	学芸部保存科学室アソシエ イトフェロー 中屋奈緒
86	東京国立博物館	科研調査	9月17～18日	学芸部連携協力室専門職 リンネマリサ
87	佛教大学	非常勤講師	9月20日～2年3月	学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊
88	たつの市立龍野歴史文化資料館	ミュージアムトーク「西宮古墳の出土遺物」	9月21日	学芸部考古室主任研究員 古谷毅
89	京都橘大学	非常勤講師	9月21日～2年3月	学芸部美術室研究員 福士 雄也
90	石川県立美術館	第5回修復工房セミナー講演	9月23日	学芸部長 朝賀浩
91	(株)NHKプラネット近畿総社	特別展「流転100年佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」講師	9月24～25日	学芸部工芸室研究員 降矢 哲男 学芸部企画室研究員 井並 林太郎
92	姫路市立美術館	「姫路市立美術館環境改善業務委託」公募型プロポーザル に係る審査	9月25日	学芸部長 朝賀浩
93	京都新聞COM	講演会等の講師	9月25日、10月10 日、10月21日	学芸部工芸室研究員 降矢 哲男
94	京都新聞COM	講演会等の講師	9月25日、10月17 日、10月29日	学芸部企画室研究員 井並 林太郎
95	京都国立近代美術館	京都国立近代美術館ニュース『視る』執筆	9月27日	学芸部企画室アソシエイト フェロー 趙ウニル
96	京都文化博物館	展示図録「道具と材料の職人譜」及びリーフレット「令和 の職人譜・文化財修理の道具と材料」の監修・助言	10月～11月	学芸部美術室研究員 森道 彦
97	日本芸術文化振興会	展示ケース等造作業務企画選定委員会委員	10月1日～12月31日	学芸部長 朝賀浩
98	京都大学大学院文学研究科	非常勤講師	10月1日～2年3月31 日	学芸部上席研究員 宮川禎 一
99	京都美術工芸大学	非常勤講師	10月1日～2年3月31 日	学芸部連携協力室長 浅湊 毅
100	全日本不動産協会高知県本部	第55回全国不動産会議高知県本部「記念講演」	10月3日	学芸部上席研究員 宮川禎 一
101	法隆寺	「法隆寺金堂壁画 保存活用委員会」アーカイブ・ワーキン グ・グループ	10月3日	学芸部列品管理室主任 岡 田愛
102	観光庁	分かりやすい多言語解説整備推進委員	10月3日～2年3月31 日	学芸部連携協力室専門職 リンネマリサ
103	公益財団法人京都鴨沂会	教養講座「埴輪と古墳時代の人々」講師	10月5日	学芸部考古室主任研究員 古谷毅
104	読売新聞西部本社	特別展「侍～もののふの美の系譜～」作品展示替え	10月6～7日	学芸部工芸室主任研究員 末兼俊彦
105	文化庁	第11回指定文化財（美術工芸品）企画・展示セミナー講師	10月7日	学芸部長 朝賀浩 学芸部上席研究員 宮川禎 一 学芸部列品管理室主任 岡 田愛
106	東京国立博物館	文化財情報資源の探索と発見のためのデータ連携に関する 研究	10月7～8日	総務課事業推進係主任 澁 谷完滋
107	文化庁	「文化財にかかる多言語解説案内板デザイン・表記等指針 制作委託業務」検討委員会委員	10月8日～2年2月28 日	学芸部連携協力室専門職 リンネマリサ
108	文化庁	国立アイヌ民族博物館における展示解説の多言語化の支援	10月8日～2年3月31 日	学芸部連携協力室専門職 リンネマリサ
109	京都新聞COM	特別展開連企画講師	10月10日	学芸部工芸室研究員 降矢 哲男

110	NHK文化センター京都支社	「流転100年佐竹本三十六歌仙絵の魅力と真実」講師	10月18日	学芸部企画室研究員 井並林太郎
111	國學院大學博物館	ミュージアムトーク「古墳時代の空間構造」講師	10月26日	学芸部考古室主任研究員 古谷毅
112	文化庁	漆工品分野における指定候補作品選定	10月24日	学芸部教育室長 永島明子
113	(株)NHKプラネット近畿総支社長	特別展「流転100年佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」講師	10月24日	学芸部工芸室研究員 降矢哲男 学芸部企画室研究員 井並林太郎
114	長谷ビル	京都市京セラ美術館ウェブサイト広報にかかる資料の中国語訳	10月26日	学芸部企画室アソシエイトフェロー 周思敏
115	東京国立博物館	収蔵品に関する共同研究（特別調査会「絵画」）	10月28～30日	学芸部長 朝賀浩 学芸部美術室主任研究員 呉孟晋 学芸部美術室研究員 福士雄也
116	NHK文化センター大阪総支	特別展『流転100年佐竹本三十六歌仙と王朝の美』講師	10月31日	学芸部企画室研究員 井並林太郎
117	森記念秋水美術館	森記念秋水美術館が所蔵する中国作品の調査・指導	10月31日	学芸部工芸室研究員 降矢哲男
118	正倉院	正倉院宝物模造品作製事前調査	11月6日～11月8日	学芸部保存科学室長 降幡順子
119	花園大学歴史博物館	第3回「恵林寺曝涼展（虫干し）」に関する業務	11月8日～10日	学芸部企画室アソシエイトフェロー 伊藤旭人
120	伝統技術伝承者協会	伝統技術材料・用具製作者の職業体験に関する一般・児童向けワークショップ（和紙・金工・組紐）	11月10日、11月17日、12月24日、12月22日	学芸部美術室研究員 森道彦
121	一般社団法人 清風会	見学会（陽明文庫）講演	11月15日	学芸部美術室長 羽田聡 学芸部連携協力室研究員 上杉智英
122	白山市立博物館	白山市立博物館特別講演会講師	11月17日	学芸部工芸室主任研究員 末兼俊彦
123	九州国立博物館	科学研究費助成事業（基盤研究B）「在欧日本仏教の包括的調査・デジタル化とそれそれぞれに基づくジャポニズムの総合研究」	11月17日～23日	学芸部工芸室主任研究員 末兼俊彦 列品管理室主任 岡田愛
124	九州国立博物館	令和元年度 独立行政法人国立文化財機構文化防災ネットワーク推進セミナー「不動産文化財と動産文化財の防災—現状と今後の連携にむけて—」	11月19日	学芸部長 朝賀浩
125	東京国立博物館	小山科研調査	11月22日	学芸部連携協力室専門職 リンネ・マリサ
126	静岡市	静岡市歴史文化施設建設に向けた、展示資料の製作に係る所蔵者との協議における指導及び助言	11月22日	学芸部連携協力室長 浅湊毅
127	文化庁	文化施設を中心とした文化観光の在り方に関する検討	11月25日、12月19日	学芸部連携協力室専門職 リンネ・マリサ
128	国宝修理装演師連盟代表	「修理技術者初級講習会」講師	11月29日	学芸部長 朝賀浩
129	鳥取県地域づくり推進部文化財局	令和元年度とっとり弥生の王国青谷かみじち遺跡土曜講座講師	11月30日	学芸部保存科学室長 降幡順子
130	伝統技術伝承者協会	「令和元年度 第9回研修会」講師	11月30日	学芸部美術室研究員 森道彦
131	兵庫県立考古博物館	兵庫県立考古博物館運営委員	12月1日～2年3月	副館長 栗原祐司
132	京都女子大学	「教養科目A（芸術と表現2）」講義	12月6日	学芸部連携協力室専門職 リンネ・マリサ
133	東京国立博物館	小山科研調査	12月8日～19日	学芸部連携協力室専門職 リンネ・マリサ
134	文化庁	文化財の買取評価	12月13日	学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊
135	京都造形芸術大学	歴史遺産Ⅱ-2（文化遺産学特論）非常勤講師	12月21日	学芸部企画室長 山川暁
136	杉野服飾大学	非常勤講師	12月21日～2年3月19日	総務課総務・人事係員 落合広倫
137	東京国立博物館	小山科研調査	2年1月25日～26日	学芸部連携協力室専門職 リンネ・マリサ
138	國學院大學	非常勤講師（集中）	2年1月25日～28日	副館長 栗原祐司
139	公益財団法人日本博物館協会	令和元年度研究協議会講師	2年1月31日	学芸部企画室アソシエイトフェロー 趙 ウニル

140	ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業実行委員会2019	国際シンポジウム出席	2年2月1日	副館長 栗原祐司
141	ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業実行委員会2019	国際シンポジウム及び日本美術専門家会議出席	2年2月1日～3日	学芸部連携協力室専門職 リンネ・マリサ
142	福井県教育庁	文化財調査	2年2月18日	学芸部保存科学室長 降幡順子
143	東国大学仏教文化研究院	シンポジウム発表	2年2月20日	学芸部連携協力室研究員 上杉智英
144	京都国立近代美術館	京都国立近代美術館企画審査委員（ホームページリニューアル）	2年2月21日	総務課事業部推進係主任 澁谷完滋
145	嘉麻市教育委員会	「掘ったバイ筑豊2019の古代史シンポジウム」講師	2年2月22日	学芸部考古室主任研究員 古谷毅
146	株式会社ジャッツ	JNTO主催 IME2020「国際会議主催者セミナー」講師	2年2月26日	副館長 栗原祐司
147	朝日新聞社	特別展「きもの KIMONO」協力	2年2月27日	学芸部連携協力室専門職 リンネマリサ
148	文化財活用センター	冬木小袖プロジェクト及び花下遊楽園プロジェクトマッピング展示にかかる広報	2年3月27日～28日	学芸部企画室アソシエイト フェロー 志賀優維 学芸部企画室アソシエイト フェロー 三浦由槻
149	九州歴史資料館	資料調査の指導協力	2年3月6日～7日	学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊
150	一般社団法人 清風会	見学会（飛鳥寺ほか）講演	2年3月8日	学芸部上席研究員 宮川禎一
151	東京国立博物館	日本染織コレクションの形成とその美術価値の確立に関する研究	2年3月10～20日	専門職 リンネマリサ
152	大阪大谷大学	科研協力	2年3月11日～12日	学芸部連携協力室研究員 上杉智英

【奈良国立博物館】66件

	機 関	内 容	期 間	担 当 者
1	奈良県	奈良県文化財保護審議会委員	4月～6月	学芸部長 内藤栄
2	アメリカ合衆国 クリーブランド美術館	クリーブランド美術館主催「神道」展に対し、集荷・展示・返却等協力	4月～8月	上席研究員 岩田茂樹 教育室長 谷口耕生 工芸考古室長 清水健 工芸考古室員 三本周作 列品室主任研究員 山口隆介
3	ICOM京都大会2019組織委員会	運営委員会委員として運営に協力	4月～2年3月	企画室アソシエイトフェロー 堀内しきぶ
4	奈良女子大学	非常勤講師	4月～2年3月	学芸部長 内藤栄
5	奈良女子大学	客員教授	4月～2年3月	企画室長 野尻忠
6	神戸大学	教授、准教授として講義	4月～2年3月	情報サービス室長 岩井共二 列品室長 吉澤悟
7	公益社団法人 日本工芸会	顧問	4月～2年3月	館長 松本伸之
8	大津市教育委員会	大津市文化財専門委員会委員	4月～2年3月	上席研究員 岩田茂樹
9	法隆寺	法隆寺金堂壁画 保存活用委員会 壁画(材料調査班)・ワーキンググループ専門委員	4月～2年3月	保存修理指導室長 鳥越俊行
10	法隆寺	法隆寺金堂壁画 保存活用委員会 壁画(美術史班)・ワーキンググループ専門委員	4月～2年3月	教育室長 谷口耕生
11	五條市教育委員会	五條市史編集委員	4月～2年3月	工芸考古室長 清水健
12	大学共同利用期間法人人間文化研究機構 国立民族学博物館	共同研究員として研究会へ出席	4月～2年3月	保存修理指導室長 鳥越俊行

13	公益財団法人 藤田美術館	所蔵品の保管に関する援助	4月～33年度	学芸部長 内藤栄 上席研究員 岩田茂樹 企画室長 野尻忠 列品室長 吉澤悟 保存修理指導室長 鳥越俊行 工芸考古室長 清水健 教育室長 谷口耕生 情報サービス室長 岩井共二 資料室長 宮崎幹子 情報サービス室主任研究員 北澤菜月 列品室主任研究員 山口隆介 美術室主任研究員 齋木涼子 教育室主任研究員 中川あや 工芸考古室員 三本周作 資料室主任 佐々木香輔
14	国立歴史民俗博物館	共同研究員（『聆涛閣集古帖』の総合資料学的研究）として、研究会に参加、助言	4月15日、6月29日、12月1日、2年3月6日	工芸考古室長 清水健
15	NHK大阪放送局	藤田美術館展 NHK公開講演会に講師として協力	5月8日～9日	情報サービス室長 岩井共二
16	公益財団法人 仏教美術研究上野記念財団	理事会に委員として出席し助言	5月9日、2年3月10日	館長 松本伸之
17	文化庁	X線回析装置 仕様策定委員会に出席、助言	5月13日	保存修理指導室長 鳥越俊行
18	奈良文化財研究所	三仏寺所蔵歴史資料の調査について協力	5月14日～15日	教育室主任研究員 中川あや
19	公益財団法人高梨学術奨励基金事務局	公益財団法人高梨学術奨励基金理事として会議に参加し、助言	5月21日、2年3月18日	館長 松本伸之
20	上海博物館	展覧会「鑑真和上と唐招提寺東山魁夷作品」に対し、集荷・展示・返却等協力	5月21日、6月26日～28日、12月6日～11日、2年1月11日～14日	学芸部長 内藤栄 企画室長 野尻忠 工芸考古室長 清水健
21	京都国立博物館	修理所運営委員会に委員として出席、助言	5月24日	学芸部長 内藤栄
22	東北歴史博物館	南都六大寺展の会議に出席、助言	5月29日、7月17日、9月20日、2年2月14日	学芸部長 内藤栄 列品室長 吉澤悟 情報サービス室長 岩井共二 教育室長 谷口耕生 工芸考古室長 清水健
23	京田辺市史編さん委員会	京田辺市史編さんに伴う仏像等美術工芸品調査協力	6月9日、6月29日	教育室長 谷口耕生 情報サービス室長 岩井共二 列品室主任研究員 山口隆介 資料室主任 佐々木香輔
24	東大寺総合文化センター	目録整備のための原本調査に協力	6月13日～14日、9月3日	美術室主任研究員 齋木涼子
25	一般財団法人 仏教美術協会	評議員として定時評議委員会に出席、助言	6月17日、2年3月16日	館長 松本伸之
26	長野県埋蔵文化財センター	小島・柳原遺跡群調査指導委員会委員として委員会に出席、助言	6月30日	学芸部長 内藤栄
27	公益財団法人日本博物館協会	参与として参与会に参加、助言	7月2日	館長 松本伸之
28	九州国立博物館	令和元年度九州国立博物館文化財保存修復施設運営委員会に委員として出席、助言	7月5日	学芸部長 内藤栄
29	中宮寺奉賛会	総会に出席、助言	7月5日	館長 松本伸之
30	宮内庁	正倉院懇談会会員として懇談会に出席、助言	7月10日	館長 松本伸之
31	法隆寺	講演「金銅仏の系譜—中国と日本—」第69回夏季大学	7月28日	館長 松本伸之
32	文化庁	仁和寺所蔵文化財調査に協力	7月29日、7月31日	企画室長 野尻忠 美術室主任研究員 齋木涼子
33	ユネスコ・アジア文化センター	文化遺産の保護に資する研修2019の講師として協力	8月5日	教育室主任研究員 中川あや
34	奈良女子大学	学芸員課程資格関連科目「博物館情報・メディア論」の講師として協力	8月17日	教育室主任研究員 中川あや

35	COMCOL(国際コレクション委員会)	ICOM Kyoto 2019 関連 COMCOL プレカンファレンス・オフサイトミーティングの企画・運営に協力	8月29日～31日、9月5日	企画室長 野尻忠 企画室アソシエイトフェロー 堀内しきぶ 情報サービス室アソシエイトフェロー ルイン メアリー 企画室 松本悠
36	東京国立博物館	法隆寺献納宝物に関する特別調査に協力	9月5日	情報サービス室主任研究員 北澤菜月
37	読売新聞社	正倉院フォーラム大阪の講師として協力	9月23日	館長 松本伸之
38	読売新聞社	正倉院フォーラム東京の講師として協力	9月29日	館長 松本伸之
39	法隆寺	法隆寺金堂壁画 保存活用委員会 アーカイブ・ワーキンググループ	9月30日～2年3月	資料室長 宮崎幹子 資料室主任 佐々木香輔
40	京都府立大学	非常勤講師	9月30日～2年3月	資料室長 宮崎幹子
41	京都美術工芸大学	正倉院展出前授業講師	10月1日	学芸部長 内藤栄
42	鳥根県教育庁文化財課	石見銀山遺跡科学調査指導会に出席し、科学調査に関して助言、指導	10月2日	保存修理指導室長 鳥越俊行
43	斎宮歴史博物館	特別展「東雲の斎王 大来皇女と壬申の乱」において、重要文化財の展示・撤収作業について援助、助言	10月3日、11月14日	上席研究員 岩田茂樹
44	名古屋市博物館	正倉院フォーラム名古屋での講演	10月5日	工芸考古室長 清水健
45	神戸市	神戸市文化財保護審議会への出席	10月8日	上席研究員 岩田茂樹
46	文化庁	国有文化財等(美術工芸品)保存修理事業協力者会議に出席、助言	10月16日	情報サービス室主任研究員 北澤菜月
47	文化庁	第9回文化財(美術工芸品)修理技術者講習会の講師として協力	10月21日	資料室主任 佐々木香輔
48	東京国立博物館	収蔵品に関する共同研究(特別調査会「絵画」)に協力	10月28日～30日	教育室長 谷口耕生 情報サービス室主任研究員 北澤菜月
49	五條市教育委員会	特別展「榮山寺」の展示・撤収について援助、助言	11月11日、12月13日	美術アソシエイトフェロー 萩谷みどり
50	愛知県教育委員会	愛知県文化財建造物担当者課題研修会の講師として協力	11月14日	保存修理指導室長 鳥越俊行
51	三重県教育委員会	三重県文化財講習会の講師として協力	11月27日	保存修理指導室長 鳥越俊行
52	文化庁	買取評価委員会に出席、助言	12月13日	教育室長 谷口耕生
53	上海博物館	講演会講師として協力	12月15日	館長 松本伸之
54	天理市教育委員会	天理市文化財保護審議会委員	11月～2年3月	教育室長 谷口耕生
55	法隆寺	法隆寺フォーラムの講師として協力	11月2日	館長 松本伸之
56	兵庫県立考古博物館	企画展「龍 翔ける！」関連講演会の講師として協力	12月7日	教育室主任研究員 中川あや
57	山口市教育委員会	山口市文化財審議会委員	2年1月～3月	情報サービス室長 岩井共二
58	国立アイヌ民族博物館	新設の博物館の環境並びに調査機器設置場所について調査・助言	2年1月25日	保存修理指導室長 鳥越俊行
59	ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業実行委員会2019	国際シンポジウム「展示室で語る『日本美術』」及び専門家会議に出席	2年1月31日～2月2日	資料室長 宮崎幹子 情報サービス室主任研究員 北澤菜月 企画室アソシエイトフェロー 堀内しきぶ 情報サービス室アソシエイトフェロー メアリールイン
60	川崎市市民ミュージアム	被災美術品等の救出及び一時保管等の作業援助	2年2月12日～14日、2月19日～21日、2月24日～26日	工芸考古室員 三本周作 保存修理指導室アソシエイトフェロー 佐藤稜介
61	上牧町、NHK奈良放送局	毘沙門天展 NHK公開講演会に講師として協力	2年2月24日	上席研究員 岩田茂樹
62	公益財団法人松柏美術財団	理事会に理事として出席し助言	2年3月11日	館長 松本伸之
63	文化庁	文化財用X線CTスキャナー 仕様策定委員会に出席、助言	2年3月18日～31日	保存修理指導室長 鳥越俊行
64	文化庁	収蔵庫収蔵棚 仕様策定委員会に出席、助言	2年3月18日～31日	保存修理指導室長 鳥越俊行
65	奈良女子大学	経営協議会委員として助言	2年3月26日	館長 松本伸之
66	仁和寺	仁和寺所蔵の文化財調査への協力	2年3月26日～27日	保存修理指導室アソシエイトフェロー 佐藤稜介

【九州国立博物館】86件

	機 関	内 容	期 間	担 当 者
1	公益財団法人福岡文化財団	評議員	4月1日～6月1日	館長 島谷弘幸
2	公益社団法人日本工芸会	顧問	4月1日～6月20日	館長 島谷弘幸
3	公益財団法人三重県文化振興財団	2019年度みえ文化芸術祭・第70回みえ県展・書部門審査員	4月1日～7月31日	館長 島谷弘幸
4	九州ベトナム友好協会	特別顧問	4月1日～8月31日	館長 島谷弘幸
5	文部科学省	文化審議会（文化功労者選考分科会）委員	4月1日～9月1日	館長 島谷弘幸
6	文部科学省	日本ユネスコ国内委員会委員	4月1日～11月30日	館長 島谷弘幸
7	高知城歴史博物館	研究顧問	4月1日～2年3月31日	館長 島谷弘幸
8	公益財団法人陽明文庫	理事	4月1日～2年3月31日	館長 島谷弘幸
9	西南学院大学博物館	協議会委員	4月1日～2年3月31日	館長 島谷弘幸
10	文化庁	文化審議会専門委員（文化財分科会）	4月1日～2年3月31日	館長 島谷弘幸
11	公益社団法人日本工芸会	日本伝統工芸展運営委員	4月1日～2年3月31日	館長 島谷弘幸
12	外務省	日米文化教育交流会議（カルコン）パネル委員	4月1日～2年3月31日	館長 島谷弘幸
13	一般財団法人公園財団	研究顧問	4月1日～2年3月31日	館長 島谷弘幸
14	立正大学	「立正大学ウズベキスタン学術交流プロジェクト」外部評価委員	4月1日～2年3月31日	館長 島谷弘幸
15	ICOM京都大会2019組織委員会	組織委員	4月1日～2年3月31日	館長 島谷弘幸
16	長崎県松浦市教育委員会	松浦市鷹島海底遺跡調査指導委員会委員	4月1日～2年3月31日	学芸部長 小泉恵英
17	公益財団法人大分芸術文化スポーツ振興財団	事業評価委員会委員	4月1日～2年3月31日	学芸部長 小泉恵英
18	福岡県立美術館	協議会委員	4月1日～2年3月31日	学芸部長 小泉恵英
19	熊本県	平成28年熊本地震被災文化財等復旧復興基金活用動産文化財検討委員会委員	4月1日～2年3月31日	学芸部長 小泉恵英
20	独立行政法人日本芸術文化振興会 大型文化催事準備チーム	独立行政法人日本芸術文化振興会 大型文化催事準備チーム連携員	4月1日～2年3月31日	学芸部長 小泉恵英
21	九州歴史資料館	協議会委員	4月1日～2年3月31日	学芸部博物館科学課長兼環境保全室長 木川りか
22	宇佐市教育委員会	宇佐市平和ミュージアム(仮称)建設準備委員会委員	4月1日～2年3月31日	学芸部博物館科学課長兼環境保全室長 木川りか
23	熊本市教育委員会	熊本博物館協議会委員	4月1日～2年3月31日	学芸部博物館科学課長兼環境保全室長 木川りか
24	公益財団法人文化財虫菌害研究所	総合的防除対策検討委員会委員	4月1日～2年3月31日	学芸部博物館科学課長兼環境保全室長 木川りか
25	公益財団法人文化財虫菌害研究所	文化財IPMコーディネータ委員会委員	4月1日～2年3月31日	学芸部博物館科学課長兼環境保全室長 木川りか
26	法隆寺	「法隆寺金堂壁画 保存活用委員会」保存環境ワーキング・グループ専門委員	4月1日～2年3月31日	学芸部博物館科学課長兼環境保全室長 木川りか
27	大学共同利用機関法人人間文化研究機構 国立民族学博物館	2019年度国立民族学博物館共同研究員	4月1日～2年3月31日	学芸部博物館科学課長兼環境保全室長 木川りか
28	独立行政法人日本芸術文化振興会 大型文化催事準備チーム	独立行政法人日本芸術文化振興会 大型文化催事準備チーム連携員	4月1日～2年3月31日	総務課長 國谷勝伸
29	太宰府天満宮	御本殿調査有識者会議委員	4月1日～17日	学芸部文化財課主任研究員 山下善也
30	一般社団法人文化財保存修復学会	理事	4月1日～2年3月31日	学芸部博物館科学課環境保全室主任研究員 秋山純子
31	福岡県教育庁教育総務部文化財保護課	福岡県銃砲等剣類登録審査会補助員	4月1日～2年3月31日	学芸部企画課特別展室研究員 望月規史
32	徳之島町教育委員会	徳之島町水中遺跡調査指導委員	4月1日～2年3月31日	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー 佐々木蘭貞
33	アート・ドキュメンテーション学会	2019年度年次大会実行委員会委員	4月1日～6月30日	本部文化財活用センターデジタル資源担当(併)九州国立博物館学芸部文化財課資料管理室 専門職 竹内俊貴
34	同上	アート・ドキュメンテーション学会役員(幹事)	4月1日～2年3月31日	同上
35	文化庁	「日本博」公募助成型事業の審査・評価委員会委員	4月5日～2年3月31日	館長 島谷弘幸
36	公益社団法人日本工芸会西部支部	第54回西部伝統工芸展審査委員	4月10日～4月11日	学芸部文化財課長 原田あゆみ

37	日本芸術文化振興会	「日本博」主催・共催事業に関する審査・評価委員会委員	4月15日～2年3月31日	館長 島谷弘幸
38	一般社団法人文化財保存修復学会	一般社団法人文化財保存修復学会第41回大会実行委員	4月22日～2年3月31日	学芸部博物館科学課環境保全室主任研究員 秋山純子
39	東京国立博物館	東京国立博物館百五十年史に関わる調査・打合せ	5月8日	学芸部特任研究員 臺信祐爾
40	東京文化財研究所	第2回湿度制御温風処理に関する専門家研究集会	5月9日	学芸部博物館科学課長兼環境保全室長 木川りか
41	東京国立博物館	東京国立博物館百五十年史に関わる調査・打合せ	5月16日～17日	学芸部企画課長 白井克也
42	大野城心のふるさと館	講師	5月19日	学芸部企画課特別展室研究員 望月規史
43	文化庁	技術審査委員	5月22日～31日	学芸部博物館科学課保存修復室長 志賀智史
44	大学共同利用法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館	展示プロジェクト委員	6月1日～2年3月31日	学芸部企画課長 白井克也
45	福岡県教育庁教育総務部文化財保護課	福岡県文化財保護審議会専門委員	6月18日～2年3月31日	学芸部文化財課長 原田あゆみ
46	同上	同上	6月18日～2年3月31日	学芸部文化財課資料登録室長 川畑憲子
47	福岡市博物館	協議会委員	7月1日～2年3月31日	館長 島谷弘幸
48	大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館	国立歴史民俗博物館資料保存環境検討委員会委員	7月1日～2年3月31日	学芸部博物館科学課長兼環境保全室長 木川りか
49	文化遺産国際協力コンソーシアム	第33回西アジア分科会	7月5日	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー 佐々木蘭貞
50	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団	金井下新田遺跡出土の赤色顔料に関する指導・助言	7月11日～12日、11月19日～20日	学芸部博物館科学課保存修復室長 志賀智史
51	上ノ国町教育委員会	水中遺跡の推進にかかる現地指導	7月24日～8月1日、10月5日～7日	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー 佐々木蘭貞
52	福岡県教育庁教育総務部文化財保護課	福岡県文化財保護審議会臨時専門委員	7月25日～2年3月31日	学芸部博物館科学課長兼環境保全室長 木川りか
53	一般財団法人沖縄美ら島財団	絵画分野第1回表装ワーキング会議	7月26日	学芸部文化財課資料登録室主任研究員 森實久美子
54	クリーブランド美術館	クリーブランド美術館主催特別展「神道」展にかかる作品返却・輸送の同行	7月30日～8月1日	学芸部文化財課資料登録室主任研究員 森實久美子
55	公益財団法人日展	第6回 日展審査員	8月1日～12月31日	館長 島谷弘幸
56	文化庁	博物館振興に関する検討委員会委員	8月5日～2年3月31日	館長 島谷弘幸
57	九州産業大学	講師	8月26日	学芸部博物館科学課長兼環境保全室長 木川りか
58	奈良文化財研究所	考古学・文化財データサイエンス研究集会	9月10日～11日	本部文化財活用センターデジタル資源担当(併)九州国立博物館学芸部文化財課 専門職 竹内俊貴
59	大分県立歴史博物館	協議会委員	9月11日～2年3月31日	学芸部文化財課長 原田あゆみ
60	福岡県伝統的工芸品振興協議会	第43回福岡県伝統的工芸品展審査委員	9月13日	学芸部長 小泉惠英
61	一般社団法人文化財保存修復学会	一般社団法人文化財保存修復学会 第42回大会実行委員	9月19日～2年3月31日	学芸部博物館科学課環境保全室主任研究員 秋山純子
62	対馬市	対馬博物館の展示業務にかかる指導・調査	10月4日～5日	学芸部企画課特別展室研究員 望月規史
63	同上	同上	10月4日～5日	学芸部企画課アソシエイトフェロー 大澤信
64	オランダ文化遺産庁	ファンポッセ号調査プロジェクトについての会議	10月7日～9日	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー 佐々木蘭貞
65	日本文化財科学会	日本文化財科学会第37回大会実行委員会委員	10月9日～2年3月31日	学芸部博物館科学課長兼環境保全室長 木川りか
66	福岡市美術館	美術資料収集審査員	10月22日～2年3月31日	学芸部文化財課長 原田あゆみ
67	東京国立博物館	収蔵品に関する共同研究(特別調査会「書跡」)	10月23日～24日	学芸部文化財課研究員 松浦晃佑
68	同上	同上	10月23日～25日	学芸部文化財課アソシエイトフェロー 樋笠逸人
69	福岡県	新・福岡県立美術館建設地選定委員会委員	10月23日～2年3月31日	学芸部長 小泉惠英
70	武雄市教育委員会	武雄鍋島家洋学関係資料策定委員会委員	10月25日～2年3月31日	学芸部博物館科学課保存修復室長 志賀智史
71	東京国立博物館	収蔵品に関する共同研究(特別調査会「絵画」)	10月28日～30日	学芸部文化財課資料管理室主任研究員 畑靖紀
72	同上	同上	10月28日～30日	学芸部文化財課主任研究員 山下善也
73	西之表市教育委員会	鉄製品等保存保護処理業務にかかる指導助言	10月31日～11月2日	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー 佐々木蘭貞
74	日田市教育委員会	講師	11月1日	学芸部博物館科学課保存修復室長 志賀智史
75	文化庁	文化施設を中心とした文化観光の在り方に関する検討会議委員	11月14日～2年3月31日	館長 島谷弘幸
76	岡山市立オリエント美術館	資料選択評価委員	11月22日	学芸部特任研究員 臺信祐爾
77	福岡市文化財活性化実行委員会(福岡市経済観光文化局文化財活用課)	展示解説員	12月15日	学芸部文化財課資料登録室主任研究員 森實久美子

78	福岡市別府小学校	講師	12月19日	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー 佐々木蘭貞
79	特定非営利活動法人文化財保存支援機構	講師	2年1月18日	学芸部企画課アソシエイトフェロー 桑原有寿子
80	上海博物館	講師	2年1月19日～20日	館長 島谷弘幸
81	早稲田大学総合研究機構文化財総合調査研究所	国別セッション(タイ)の司会進行	2年1月23日～25日	学芸部文化財課長 原田あゆみ
82	ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業実行委員会2019	国際シンポジウム及び日本美術専門家会議	2年1月31日～2月2日	学芸部企画課アソシエイトフェロー 桑原有寿子
83	福井県立美術館	美術資料審査・評価委員会審査委員	2年2月1日	学芸部文化財課主任研究員 山下善也
84	伊仙町	伊仙町水中遺跡調査指導委員	2年2月1日～3月31日	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー 佐々木蘭貞
85	出雲市	講師	2年2月11日	学芸部博物館科学課保存修復室長 志賀智史
86	文化庁	「日本博」公募助成型事業の審査・評価委員会委員(国際的文化フェスティバル展開推進事業(長期開催型))	2年2月13日～3月31日	館長 島谷弘幸

【文化財防災ネットワーク推進室】9件

1	静岡県	第1回静岡県文化財保護審議会大綱策定部会 静岡県文化財保護審議会委員(臨時委員)	7月18日	文化財防災ネットワーク推進室長 岡田 健
2	法隆寺管長	法隆寺金堂壁画 保存活用委員会 壁画ワーキンググループ専門委員	7月23日	文化財防災ネットワーク推進室長 岡田 健
3	日本建築家協会	JIA文化財修復塾 近畿支部 現地講習1「文化遺産の防災について」講師	8月25日	文化財防災ネットワーク推進室長 岡田 健
4	大分県	令和元年度第1回大分県文化財保存活用大綱策定委員会 大分県文化財保存活用大綱策定委員	9月10日	文化財防災ネットワーク推進室長 岡田 健
5	立命館大学歴史都市防災研究所	立命館大学ユネスコ・チェア「歴史的建造物に付属する動産文化遺産の価値」講師	9月11日	文化財防災ネットワーク推進室長 岡田 健
6	川崎市市民ミュージアム(台風19号により被災)	救出活動及び受援体制の構築、作品等の救出、洗浄と乾燥といった応急処置、一時保管など一連の作業を効率的に行うための指導助言	10月16日～2年3月12日	文化財防災ネットワーク推進室長 岡田 健 他
7	文化庁、岩手県	世界遺産平泉の拡張(柳の御所遺跡)に関する国際専門家会議	11月22日	文化財防災ネットワーク推進室長 岡田 健
8	国立国会図書館	第30回保存フォーラム「収蔵資料の防災一日頃の備え・災害対応・連携協力」にて講演	12月19日	文化財防災ネットワーク推進室長 岡田 健
9	大分県市町村会議(県埋文センター)	地域の防災体制構築に関する講演	2年2月6日	文化財防災ネットワーク推進室長 岡田 健

2-(3) 文化遺産保護に関する国際協働

2-(3)-① 文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進

2-(3)-①-1 文化遺産保護の国際協働に関する取組状況

(文化遺産保護に関する国際情報の収集等事業の実施件数、諸外国における文化遺産の保存・修復に関する研修・ワークショップ等の満足度)

令和2年3月31日現在

計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
6件	3件	3件

【東京文化財研究所】3件

	研修・ワークショップ	実施時期	対象者	日数(日)	回数(回)	満足度(%)	備考
1	アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業：研修、ワークショップ	10月1日～19日	アルメニア・染織文化遺産保存修復専門家	19	2	-	
		11月24日～30日	イラン国立博物館、文化財保存専門家	7			
2	国際研修「紙の保存と修復」：日本国内研修	9月9日～27日	文化遺産保護の学芸員及び保存修復専門家	19	1	100	
3	国際研修「International Course on Paper Conservation in Latin America」：メキシコ研修	10月30日～11月13日	文化遺産保護の学芸員及び保存修復専門家	15	1	100	

【奈良文化財研究所】3件

	研修・ワークショップ	実施時期	対象者	日数	回数	満足度(%)	適用
1	ACCUの実施する文化遺産の保護に資する研修2019(集団研修)「木造建造物の保存と修復」	9月4日～10月3日	アジア太平洋地域の政府機関、大学、研究所などに勤務し、文化遺産の管理、保護、修復に携わっているもの	30	1	-	
2	ACCUの実施する文化遺産の保護に資する研修2019(個別テーマ研修)「博物館収蔵品の記録と保存活用」	7月24日～8月7日	キルギス、タジキスタン、ウズベキスタンの専門家	15	1	-	
3	ACCUの実施する文化遺産の保護に資する「文化遺産ワークショップ」(カンボジアで開催)	11月19日～11月25日	カンボジア人の専門家	7	1	-	

2-(3)-①-2 文化遺産保護の国際協働に関する取組状況(諸外国の研究機関等との共同研究等の実施件数)

【東京文化財研究所】0件

【奈良文化財研究所】3件

	名称	機関名	備考
1	学術交流に関する協定書	カザフスタン、ホッジ・アフメダ・ヤサウイ記念国際カザフ・トルコ大学	
2	学術交流に関する協定書	カザフスタン、マルگران記念考古学研究所	
3	学術交流に関する協定書	タジキスタン、科学アカデミー歴史学考古学民族学研究所	

2-(3)-② アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究

2-(3)-②-1 アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する取組状況（刊行物件数）

（後述の資料に記載） ◎共通資料c-⑥

2-(3)-②-2 アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する取組状況（国際会議等開催件数）

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】11件

令和2年3月31日現在

	研修・ワークショップ	実施時期	対象者	日数 (日間)	回数 (回)	摘要
1	「アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する調査研究」 研究機関との組織的連携による研究情報の持続的 収集事業 2019年度第一回ワーキンググループ会合	6月26日～27日	東南アジア地域の専門家、 研究者	2日	1	文化庁受託経費 運営費交付金
2	IRCI研究データベース改善のためのワーキンググ ループ会合	7月22日～23日	ミャンマー大学の専門家、 無形文化遺産の専門家	2日	1	文化庁受託経費 運営費交付金
3	Working Group Session for Study of Emergency Protection of Intangible Cultural Heritage in Conflict-Affected Countries in Asia	7月31日～8月3 日	アフガニスタンの専門家、 研究者	4日	1	文化財保存活用基金
4	Monitoring for Multi-disciplinary study on intangible cultural heritage's contribution to sustainable development: Focusing on education The Philippines	10月7日～8日	フィリピン専門家、研究者	2日	1	ユネスコ活動費補助金 運営費交付金
5	Monitoring for Multi-disciplinary study on intangible cultural heritage's contribution to sustainable development: Focusing on education Viet Nam	10月24日～25日	ベトナム専門家、研究者	2日	1	ユネスコ活動費補助金 運営費交付金
6	第八回アジア太平洋無形文化遺産研究センター運 営理事会	11月11日	IRCI運営理事	1日	1	文化庁受託経費
7	「無形文化遺産の持続可能な開発への貢献に関す る複合領域的研究 - 教育を題材として」事業国 際ワークショップ	11月28日～29日	フィリピン、ベトナム、日 本、インドネシア、バングラ デシュ、キルギス共和国、マ レーシアの専門家、研究者	2日	1	ユネスコ活動費補助金 運営費交付金
8	国際研究者フォーラム 無形文化遺産研究の展望－持続可能な社会にむけ て	12月17日～18日	アジア太平洋地域の無形文化 遺産研究者、専門家	2日	1	文化庁受託経費
9	IRCI Discussion on the Study of Emergency Protection of Intangible Cultural Heritage in Afghanistan	12月24日～25日	アフガニスタンの専門家	2日	1	文化財保存活用基金
10	「アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に 関する調査研究」 研究機関との組織的連携による研究情報の持続的 収集事業 2019年度第二回ワーキンググループ会合	2月4日～5日	東南アジア、南アジア地域の 専門家、研究者	2日	1	文化庁受託経費 運営費交付金
11	IRCI Working Group Session for Study of Emergency Protection of Intangible Cultural Heritage in Conflict-Affected Countries in Asia (Bamiyan, Afghanistan)	3月10日～13日	アフガニスタンの専門家、 研究者	4日	1	文化財保存活用基金

2-(3)-②-3 研究交流実績一覧

（後述の資料に記載） ◎共通資料c-①

2-(3)-②-4 調査研究テーマ一覧

（後述の資料に記載） ◎共通資料c-②

2-(3)-②-5 学会、研究会等発表実績一覧

（後述の資料に記載） ◎共通資料c-③

2-(3)-②-6 シンポジウム開催実績一覧

（後述の資料に記載） ◎共通資料c-④

2-(3)-②-7 論文等発表実績一覧

（後述の資料に記載） ◎共通資料c-⑤

2-(3)-②-8 調査研究刊行物一覧

（後述の資料に記載） ◎共通資料c-⑥

2-(3)-②-9 ウェブサイトアクセス件数

（後述の資料に記載） ◎共通資料d

2-(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用

2-(4)-① 文化財情報基盤の整備・充実

2-(4)-①-1 図書、雑誌等の公開に関する取組状況

令和2年3月31日

		東京文化財研究所			奈良文化財研究所		
資料閲覧室・図書資料室の開室日数（日）		125日			198日		
資料閲覧室・図書資料室の利用者数（人）		988人			278人		
		30年度末	元年度追加	元年度末	30年度末	31年度追加	31年度末
文化財に関する 資料・図書の 受入件総数（件）	図書	121,599件	2,630件	124,229件	368,440件	8,967件	377,407件
	雑誌	164,256件	2,720件	166,976件	99,644件	2,972件	102,616件
	その他（図録・ 報告書等）	44,814件	1,355件	46,169件	17,016件	3,213件	20,229件*
	計	330,669件	6,705件	337,374件	468,084件	11,939件	480,023件

* 奈良文化財研究所においては、その他（図録・報告書等）は図書に含む。

2-(4)-①-2 文化財に関するデータベースの状況

令和2年3月31日

	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
文化財に関するデータベースの公開件数（件）	30件	17件
データベースのデータ件数（件）	1,288,551件	1,348,102件
データベース等へのアクセス件数（件）	2,989,314件	16,652,307件
（ホームページへのアクセス件数（件））	2,985,796件	953,883件

2-(4)-② 調査研究成果の発信

2-(4)-②-1 調査研究刊行物一覧

(後述の資料に記載) ◎共通資料c-⑥

2-(4)-②-2 講演会等の開催実績

【東京文化財研究所】

2件

323人

令和2年3月31日

No.	名称	開催日	開催場所	主催	事業内容	来場者数	備考
1	第53回オープンレクチャー「かたちからの道、かたちへの道」	11月1～2日	東京文化財研究所	東京文化財研究所	美術史研究の成果を一般に公表する講座を開催した。	151人	
2	第14回無形民俗文化財研究協議会「無形文化遺産の新たな活用を求めて」	12月20日	東京文化財研究所	東京文化財研究所	ユネスコ無形文化遺産に関する研究協議会を開催した。	172人	

【奈良文化財研究所】

13件

3,315人

No.	名称	開催日	開催場所	主催	事業内容	来場者数	備考
1	平城宮大極殿院地区の発掘調査(平城第612次)現地説明会	6月7日	奈良市佐紀町669 ほか発掘調査現場	奈良文化財研究所	平城宮大極殿院地区の発掘調査(平城第612次)の現地説明会を開催した。	180人	
2	平城宮東方官衙地区の発掘調査(平城第615次)現地説明会	9月29日	奈良市佐紀町1118 ほか発掘調査現場	奈良文化財研究所	平城宮東方官衙地区の発掘調査(平城第615次)現地説明会を開催した。	892人	
3	藤原宮大極殿院の発掘調査(飛鳥藤原第200次)現地説明会	10月6日	橿原市高殿町	奈良文化財研究所	藤原宮大極殿院の発掘調査(飛鳥藤原第200次)現地説明会を開催した。	971人	
4	第124回公開講演会	6月15日	平城宮跡資料館 講堂	奈良文化財研究所	一般の方々を対象に、奈良文化財研究所の調査研究成果について、講演を行った。	149人	
5	第11回東京講演会「奈良の都、平城の謎を探る」	10月5日	有楽町朝日ホール	奈良文化財研究所	東京で、奈良文化財研究所の調査研究についての講演会を開催した。	464人	
6	第125回公開講演会	11月9日	平城宮跡資料館 講堂	奈良文化財研究所	一般の方々を対象に、奈良文化財研究所の調査研究成果について、講演を行った。	150人	
7	第1回 報告書データベース作成に関する説明会	10月11日	佐賀県立生涯学習センター アバンセ	奈良文化財研究所	全国遺跡報告総覧の実務について、地方公共団体およびその関係機関、法人等調査組織、大学等の埋蔵文化財担当職員等を対象に行った。	80人	
8	第2回 報告書データベース作成に関する説明会	11月21日	新潟県埋蔵文化財センター	奈良文化財研究所	全国遺跡報告総覧の実務について、地方公共団体およびその関係機関、法人等調査組織、大学等の埋蔵文化財担当職員等を対象に行った。	80人	
9	第3回 報告書データベース作成に関する説明会	12月4日	広島県立総合体育館	奈良文化財研究所	全国遺跡報告総覧の実務について、地方公共団体およびその関係機関、法人等調査組織、大学等の埋蔵文化財担当職員等を対象に行った。	60人	
10	第4回 報告書データベース作成に関する説明会	2年2月4日	愛知県生涯学習推進センター	奈良文化財研究所	全国遺跡報告総覧の実務について、地方公共団体およびその関係機関、法人等調査組織、大学等の埋蔵文化財担当職員等を対象に行った。	60人	

11	第5回 報告書データベース作成に関する説明会	2年2月17日	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	全国遺跡報告総覧の実務について、地方公共団体およびその関係機関、法人等調査組織、大学等の埋蔵文化財担当職員等を対象に行った。	100人	
12	第23回古代官衙・集落研究集会「灯明皿と官衙・集落・寺院」	12月13日～14日	奈良文化財研究所	奈良文化財研究所		104人	
13	国際セミナー「カザフスタンの考古遺物の調査・記録・保存」	2年1月20日	奈良文化財研究所 本庁舎2階 大会議室	文化庁・奈良文化財研究所	本セミナーは、2019年度文化庁委託文化遺産国際協力拠点交流事業「カザフスタンにおける考古遺物の調査・記録・保存に関する技術移転を目的とした拠点交流事業」の成果の一部である。	25人	

2-(4)-②-3 シンポジウム開催実績一覧

(後述の資料に記載) ◎共通資料c-④

2-(4)-②-4 ウェブサイトアクセス件数

(後述の資料に記載) ◎共通資料d

2-(4)-②-5 学術情報リポジトリ等によるウェブサイトにおける論文等の公開件数

令和2年3月31日

	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
学術情報リポジトリ等によるウェブサイトにおける論文等の公開件数(件)	3,634件	5,572件

2-(4)-③ 展示公開施設の充実

2-(4)-③-1 来館者数推移(入館料別) (過去5か年)

(後述の資料に記載) ◎共通資料a-①

2-(4)-③-2 来館者数推移(展覧会別) (過去5か年)

(後述の資料に記載) ◎共通資料a-②

2-(4)-③-3 平常展・特別展・海外展

(後述の資料に記載) ◎共通資料a-③

2-(5) 地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等

2-(5)-① 文化財に関する研修の実施

2-(5)-①-1 文化財に関する研修の実施実績

【東京文化財研究所】

1件

受講者 31人

No.	研修課程	研修期間	日数 (日)	研修対象	研修内容	参加者 数	満足度	研修成果 の 活用実績	備考
1	博物館・美術館等の保存担当学芸員研修	7月8日 ～19日	9	博物館・美術館等の文化財の保存担当者	文化財の保存科学の基礎と実践上の諸問題についての講義と実習	31人	100%	100%	

【奈良文化財研究所】

14件

受講者 199人

No.	研修課程	研修期間	日数 (日)	研修対象※	研修内容	参加者 数	満足度	研修成果 の 活用実績	備考
1	建築遺構調査課程	6月10日 ～14日	5	地方公共団体の文化財担当職員※	発掘調査で検出される建築遺構や出土建築部材に関して必要な、上部構造の専門的知識や発掘方法などについての研修	8人	100%	100%	
2	建造物保存活用基礎課程	7月1日 ～5日	5	地方公共団体の文化財担当職員※	古文書・歴史資料の調査・管理等を担当する立場にあるが、当該分野に関する専門的教育を受けたことのない地方公共団体等の文化財担当者を対象に、基礎的知識の習得を目指す研修	20人	100%	100%	
3	堆積・地質学基礎課程	9月17日 ～20日	4	地方公共団体の文化財担当職員※	近現代建築の価値の理解、その保存方法および活用方法について、理念、制度、修理、耐震対策、管理、活用等の面から講義をおこない、近現代建築の保存に取り込む自治体担当者としての必要な知識の習得を目指す研修	32人	100%	100%	
4	遺跡GIS課程	9月24日 ～27日	4	地方公共団体の文化財担当職員※	木質文化財を調査する際に必要となる木材科学、年代学、保存科学などの科学的な基礎知識を習得し、担当現場に生かすことを目指す研修	8人	100%	100%	
5	出土木器調査課程	9月30日 ～10月4日	5	地方公共団体の文化財担当職員※	遺跡等の発掘調査で必要とされる、地層・基礎土木・土壌等に関する基礎的な専門知識や調査技術、さらにそれらに根ざした環境復原方法の習得を目指す研修	4人	100%	100%	
6	保存科学Ⅱ（有機質遺物）課程	10月15日 ～24日	8	地方公共団体の文化財担当職員※	文化的景観の保護にこれから取り組む担当者を対象に、文化的景観の歴史・概念、保護制度、調査手法及び保存計画立案等についての基礎知識を習得することを目的とする研修	11人	100%	100%	
7	文化財三次元計測課程	11月18日 ～22日	5	地方公共団体の文化財担当職員※	遺跡・遺物の正確な記録を取る方法と、情報の保存活用手法としてのGISやデータベースの利用に関する専門知識と技術を習得し、遺跡情報の公開・利活用を目指す研修	12人	100%	100%	
8	文化財写真課程	11月25日 ～12月5日	9	地方公共団体の文化財担当職員※	低湿地遺跡の発掘調査から報告書作成までについて必要な知識を習得することを目的とする研修	11人	100%	100%	
9	報告書編集基礎課程	12月5日 ～12日	6	地方公共団体の文化財担当職員※	本課程では、金属製遺物の劣化現象に対する理解を深め、保存処理および処理前後の環境調整が劣化の抑制にもたらす効果について、保存処理工程および処理に係る劣化状態調査の実習と講義を交えて学ぶ研修	24人	100%	100%	

10	報告書デジタル作成課程	12月12日 ～19日	6	地方公共団体の文化財担当職員 ※	文化財の記録の中核をなす記録写真撮影について、様々な文化財写真分野の基礎知識と、デジタル写真を中心とした実習による実技を習得できる研修	13人	100%	100%	
11	文化財デジタルアーカイブ課程	2年1月20日 ～24日	5	地方公共団体の文化財担当職員 ※	文化財調査記録に必要な不可欠な報告書出版について、記述内容の意義や記述記録の基礎知識を習得するための研修	18人	100%	100%	
12	史跡保存活用計画策定課程	2年2月3日 ～7日	5	地方公共団体の文化財担当職員 ※	報告書出版に必要な編集やコンテンツ制作の技術について、デジタル編集を中心に据えた実習で、技術を習得することを目的とした研修	16人	100%	100%	
13	文化財防災・減災課程	2年2月12日 ～14日	3	地方公共団体の文化財担当職員 ※	座学・隣地講義を通して史跡の整備計画について基本的知識を吸収し、基本構想・基本計画の立案演習を行う研修	12人	100%	100%	
14	保存科学Ⅴ（材質・構造調査）課程	2年2月18日 ～21日	4	地方公共団体の文化財担当職員 ※	木簡・墨書土器・漆紙文書など、出土文字資料の調査のための実践的な技術や知識の習得を目的とする研修	10人	100%	100%	

※地域の中核となる地方公共団体の文化財担当職員若しくはこれに準ずる者

【文化財防災ネットワーク推進本部】 3件 受講者 83人

No.	研修課程	研修期間	日数 (日)	研修対象	研修内容	参加者 数	満足度	研修成果 の 活用実績	備考
1	文化財等防災ネットワーク研修	11月6日 ～7日	2	地方公共団体の文化財担当職員、博物館・美術館等の学芸員	1日目：講義3件「文化財防災ネットワークについて」「水損紙資料の微生物被害と応急処置」「被災した民俗資料の応急処置」、2日目：被災した写真資料の応急処置・講義2件「水損紙資料のレスキュー①」紙資料の水洗と乾燥(実習)「水損紙資料のレスキュー②」泥落とし、水損書籍の対処(実習)、意見交換	16人	100%	100%	会場：奈良文化財研究所
2	文化財防災ネットワーク推進事業セミナー「不動産文化財と動産文化財の防災-現状の課題と今後の連携に向けて-	11月19日	1	都道府県及び市町村等の文化財担当者、博物館・美術館等の学芸員	講演にて行政と建築士会の日常的な関りや、熊本地震時の建築士会の具体的な活動事例の紹介、トークセッションでは、建造物等の不動産文化財関係者と動産文化財関係者の間の文化財防災における連携体制構築の可能性について、講師やパネリストとの意見交換。	41人	100%	100%	会場：九州国立博物館
3	文化財防災に関する研修「北海道内の文化財防災を考える」	12月19日	1	地方公共団体の文化財担当職員、博物館・美術館等の学芸員	「北海道内の文化財防災を考える」をテーマに東日本大震災の事例、道内における過去の事例や取り組み等について取り上げ、参加者相互による討議を深め、ネットワークの形成や防災対策の強化を目指す。	26人	100%	100%	会場：北海道立近代美術館

2-(5)-② 文化財に関する協力・助言等

2-(5)-②-1 専門的・技術的な援助・助言の取組状況

(行政、公私立博物館等の各種委員等への就任件数、依頼事項への対応件数等)

令和2年3月31日現在

計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	本部 文化財活用センター
609件	184件	291件	134件

【東京文化財研究所】 184件

	プロジェクト名称	件数
1	文化財の収集、保管に関する指導助言	24件
2	無形文化遺産に関する助言	32件
3	文化財の虫菌害に関する調査・助言	41件
4	文化財の修復及び整備に関する調査・助言	42件
5	文化財の材質・構造に関する調査・助言	20件
6	美術館・博物館等の環境調査と援助・助言	25団体

【奈良文化財研究所】 291件

	プロジェクト名称	件数
1	地方公共団体等が行う史跡の整備、復原事業等に関する技術的助言	238件
2	地方公共団体が行う飛鳥・藤原地区の発掘調査への指導・助言	10件
3	地方公共団体等が行う平城地区の発掘調査等への援助・助言	32件
4	地震・水害等により被災した文化財の復旧に関する調査研究	11件

【本部文化財活用センター】 134件

	プロジェクト名称	件数
1	文化財の保存環境に関する相談対応・助言、協力	134件

2-(5)-③ 平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力

2-(5)-③-1 ボランティア受入実績 (後述の資料に記載) ◎共通資料b

2-(5)-⑤ 文化財等の防災・救援等への寄与

2-(5)-⑤-1 研究交流実績一覧 (後述の資料に記載) ◎共通資料c-①1)・3)

2-(5)-⑤-2 シンポジウム開催実績一覧 (後述の資料に記載) ◎共通資料c-④)

2-(5)-⑤-3 ウェブサイトアクセス件数 (後述の資料に記載) ◎共通資料d

Ⅱ 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 業務改善の取組

1-(5) 一般管理費の削減

1-(5)-① 施設の有効利用件数

令和2年3月31日現在

○件数

(単位：件)

		国立文化財機構 計	博物館				文化財研究所			
			計	東京国立 博物館	京都国立 博物館	奈良国立 博物館	九州国立 博物館	計	東京文化 財研究所	奈良文化 財研究所
合 計	総件数	1,740	1,391	674	196	166	349	349	125	224
	うち有償	808	782	457	164	84	77	26	7	19
	うち無償	932	609	223	32	82	272	323	118	205
茶室	総件数	180	180	101	32	26	21			
	うち有償	115	115	58	32	15	10			
	うち無償	65	65	43	0	11	11			
講堂等 (講堂、会議 室、研修室)	総件数	940	606	258	45	63	240	334	125	209
	うち有償	228	213	78	21	48	66	15	7	8
	うち無償	712	393	180	24	15	174	319	118	201
その他 (左記以外の 建物、敷地)	総件数	196	181	29	18	73	55	15	0	15
	うち有償	82	71	29	14	21	1	11	0	11
	うち無償	114	110	0	4	52	54	4	0	4
撮影利用	総件数	424	424	286	101	4	33	0	0	0
	うち有償	383	383	286	97	0	0	0	0	0
	うち無償	41	41	0	4	4	33	0	0	0

○有償利用の利用金額

(単位：千円)

	国立文化財機構 計	博物館				文化財研究所			
		計	東京国立 博物館	京都国立 博物館	奈良国立 博物館	九州国立 博物館	計	東京文化 財研究所	奈良文化 財研究所
合 計	135,908	133,937	104,903	26,614	925	775	1,971	465	1,506
茶室	5,518	5,518	4,140	1,079	180	119			
講堂等 (講堂、会議室、研修室)	8,417	7,823	5,882	1,107	349	485	594	465	129
その他 (左記以外の建物、敷地)	100,922	99,545	76,323	21,935	396	171	1,377	0	1,377
撮影利用	21,051	21,051	18,558	2,493	0	0	0	0	0

※アジア太平洋無形文化遺産研究センターは、堺市博物館の施設の一部を使用しているため、外部利用は行っていない。

◎共通資料

a 展示

a-① 来館者数推移（入館料別）（過去5カ年）

令和2年3月31日現在

年 度		27	28	29	30	元		
国立文化財機構	平常展	総来館者数	4,146,847	3,810,178	4,875,133	3,977,125	4,358,044	
		計	1,536,565	1,577,811	1,736,421	1,706,401	1,753,198	
		有料	一般	636,504	653,711	778,185	747,422	713,037
			大学生	76,590	71,850	76,093	73,196	66,176
			小・中・高生	0	0	159	0	0
		友の会	139,076	152,643	185,553	192,482	189,313	
		無料	一般(黒田含む)	107,574	108,272	107,824	116,321	78,584
	小・中・高・大生		176,248	183,375	206,900	204,691	193,984	
	招待者等		400,573	407,960	381,707	372,289	512,104	
	特別展	計	2,610,282	2,232,367	3,138,712	2,270,724	2,604,846	
		有料	一般	1,678,816	1,404,313	2,049,172	1,510,156	1,721,359
			高・大生	113,109	76,242	105,410	112,381	91,077
			小・中生	34,820	31,337	29,312	22,558	26,793
		友の会	66,016	56,725	56,008	22,245	20,405	
無料		小・中生・一般	122,894	82,184	98,848	91,328	94,201	
		招待者等	594,627	581,566	799,962	512,056	651,011	
	計	1,994,508	1,907,647	2,569,585	2,142,960	2,588,632		
東京都立博物館	平常展	総来館者数	1,994,508	1,907,647	2,569,585	2,142,960	2,588,632	
		計	747,944	761,709	1,030,180	989,508	1,030,652	
		有料	一般	383,579	381,817	525,037	478,770	435,389
			大学生	42,528	41,159	48,052	43,486	37,542
			小・中・高生	—	—	—	—	—
		友の会	108,147	119,573	160,739	172,646	170,236	
		無料	高校生	27,108	24,623	32,714	27,701	21,911
	小・中生		52,386	55,176	70,686	66,933	62,703	
	招待者等		87,619	101,677	143,888	145,696	258,794	
	黒田記念館(無料)	46,577	37,684	49,064	54,276	44,077		
	特別展	計	1,246,564	1,145,938	1,539,405	1,153,452	1,557,980	
		有料	一般	811,089	733,704	995,261	764,691	1,038,356
			高・大生	61,790	36,115	41,210	54,270	51,783
			小・中生	—	—	—	—	—
友の会		11,889	10,714	11,684	1,988	1,642		
無料		小・中生	51,547	26,992	20,051	37,968	37,024	
		招待者等	310,249	338,413	471,199	294,535	429,175	
	計	653,336	384,340	941,931	477,884	376,061		
京都国立博物館	平常展	総来館者数	653,336	384,340	941,931	477,884	376,061	
		計	205,526	186,162	136,862	146,314	158,664	
		有料	一般	124,229	110,054	80,789	87,013	95,014
			大学生	21,478	14,192	12,016	13,028	12,370
			小・中・高生	—	—	—	—	—
		友の会	15,234	15,248	9,341	7,058	6,552	
		無料	高校生	15,261	10,773	13,069	14,608	14,943
	小・中生		—	—	—	—	—	
	招待者等		29,324	35,895	21,647	24,607	29,785	
	庭園開放	計	1,699	11,417	15,676	11,168	13,908	
		有料	一般	825	5,572	8,082	6,114	7,688
			大学生	—	—	—	—	—
			小・中・高生	—	—	—	—	—
		友の会	93	635	505	196	256	
無料		大学生	56	1,040	436	362	689	
		高校生	235	2,117	2,777	1,638	1,815	
	小・中生	—	—	—	—	—		
招待者等	490	2,053	3,876	2,858	3,460			
特別展	計	446,111	186,761	789,393	320,402	203,489		
	有料	一般	306,503	109,451	579,728	227,508	130,145	
		高・大生	18,021	8,885	31,654	29,472	10,227	
		小・中生	—	—	—	—	—	
	友の会	19,001	10,511	13,192	3,166	3,291		
	無料	小・中生	7,803	7,233	17,566	10,023	6,240	
		招待者等	94,783	50,681	147,253	50,233	53,586	
計		455,859	449,322	549,211	527,786	612,755		
奈良国立博物館	平常展	総来館者数	455,859	449,322	549,211	527,786	612,755	
		計	95,208	145,676	135,776	140,829	160,869	
		有料	一般	30,165	63,886	60,294	63,675	75,109
			大学生	3,204	7,431	6,518	6,534	7,981
			小・中・高生	0	0	159	0	0
		友の会	3,957	5,290	4,250	3,196	3,414	
		無料	小・中・高生	18,221	31,133	28,257	28,492	34,407
	招待者等		39,661	37,936	36,298	38,932	39,958	
	計		360,651	303,646	413,435	386,957	451,886	
	特別展	計	267,663	219,776	298,133	284,723	342,015	
		有料	一般	13,852	12,674	17,109	15,684	14,385
			高・大生	9,843	7,685	11,792	13,443	11,045
			小・中生	16,265	15,750	16,058	3,901	2,970
		友の会	—	202	420	269	0	
無料		小・中生	0	202	420	269	0	
		招待者等	53,028	47,559	69,923	68,937	81,471	
	計	884,128	922,468	668,269	700,391	674,277		
九州国立博物館	平常展	総来館者数	884,128	922,468	668,269	700,391	674,277	
		計	412,621	393,590	350,848	349,114	348,563	
		有料	一般	93,457	89,006	101,029	109,272	97,786
			大学生	9,072	8,766	9,259	9,950	8,068
			小・中・高生	—	—	—	—	—
		友の会	11,645	11,897	10,718	9,386	8,855	
		無料	高校生	26,765	23,788	22,730	28,868	24,056
	小・中生		34,381	33,435	34,789	34,730	32,905	
	招待者等		237,301	226,698	172,329	156,908	176,893	
	特別展	計	471,507	528,878	317,421	351,277	325,714	
		有料	一般	283,603	333,172	168,511	226,615	205,067
			高・大生	18,463	17,722	14,820	12,369	14,180
			小・中生	24,977	23,652	17,520	9,115	15,748
		友の会	18,861	19,750	15,074	13,190	12,502	
無料		招待者等	125,603	134,582	101,496	89,988	78,217	
		計	105,334	102,053	104,279	90,558	71,408	
	平常展	無料	50,064	62,210	50,598	53,775	26,562	
特別展		55,270	39,843	53,681	36,783	44,846		
藤原宮跡資料館	平常展	10,933	8,378	8,162	8,270	7,945		
	特別展	10,933	8,378	8,162	8,270	7,945		
飛鳥資料館	平常展	総来館者数	42,749	35,970	33,696	29,276	26,966	
		計	12,570	8,669	8,319	7,423	6,035	
		有料	一般	4,249	3,376	2,954	2,578	2,051
			大学生	308	302	254	198	215
			小・中・高生	1,835	1,290	1,442	1,359	555
		招待者等	6,178	3,701	3,669	3,288	3,214	
		特別展	計	30,179	27,301	25,377	21,853	20,931
	有料		一般	9,958	8,210	7,539	6,619	5,776
			大学生	983	846	617	586	502
			小・中・高生	8,274	7,914	7,130	6,285	6,091
	無料		招待者等	10,964	10,331	10,091	8,363	8,562

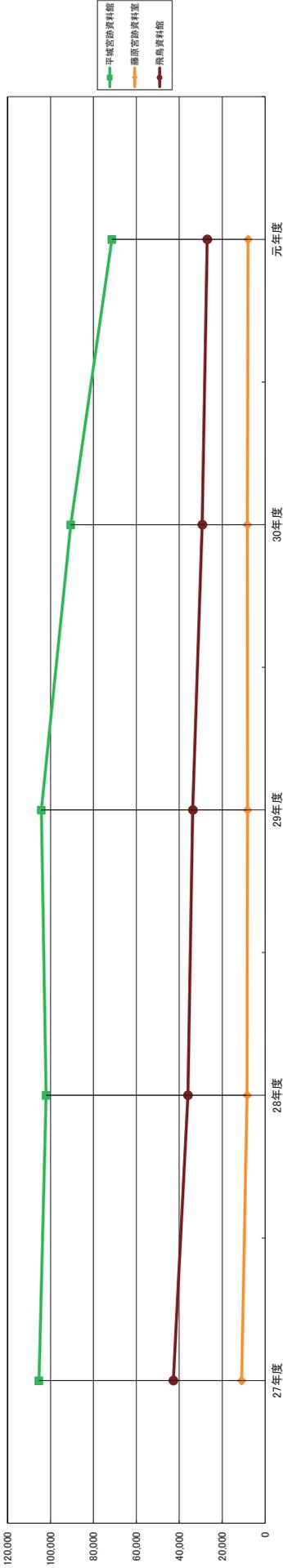
※飛鳥資料館特別展有料高校生入場者数は、料外(25)のみ有料(大学生)に含み、それ以外は無料(小・中・高生)に含む。

※京都国立博物館における平常展、庭園開放については高校生以下の区別せず。

※京都国立博物館における庭園開放は、平常展に含む。

独立行政法人国立文化財機構 展覧会別来館者数(平成27～令和元年度)

2) 研究発表公開施設



施設	27年度		28年度		29年度		30年度		元年度	
	総合計	平常展のみ来館者								
計	159,016	73,567	146,137	79,257	148,401	79,257	128,104	69,468	108,319	40,542
平常展のみ来館者	85,449	85,449	67,144	67,144	67,144	67,144	58,536	58,536	65,777	65,777
特別(共催)展計	105,834	105,834	102,653	102,653	102,653	102,653	90,558	90,558	71,408	71,408
平常展のみ来館者	50,064	50,064	62,210	62,210	53,588	53,588	53,719	53,719	26,562	26,562
特別(共催)展計	55,270	55,270	39,843	39,843	39,843	39,843	36,783	36,783	44,846	44,846
ロビー展示「震災復興調査とその支援」	※1	※1	※1	※1	※1	※1	※1	※1	※1	※1
夏のこと展示「ナント!おもしろい?平城京!!」	18,108	18,108	9,532	9,532	9,532	9,532	9,270	9,270	9,270	9,270
秋期特別展「地下の正倉院展 逸酒司本館の世界」	16,830	16,830	17,653	17,653	17,653	17,653	15,853	15,853	15,853	15,853
秋期特別展「地下の正倉院展 逸酒司本館の世界」	10,003	10,003	12,658	12,658	12,658	12,658	11,725	11,725	11,725	11,725
秋期特別展「地下の正倉院展 逸酒司本館の世界」	10,329	10,329	14,841	14,841	14,841	14,841	14,841	14,841	14,841	14,841
秋期特別展「地下の正倉院展 逸酒司本館の世界」	10,933	10,933	8,378	8,378	8,378	8,378	8,270	8,270	8,270	8,270
秋期特別展「地下の正倉院展 逸酒司本館の世界」	10,933	10,933	8,378	8,378	8,378	8,378	8,270	8,270	8,270	8,270
秋期特別展「地下の正倉院展 逸酒司本館の世界」	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
秋期特別展「地下の正倉院展 逸酒司本館の世界」	42,749	42,749	35,970	35,970	35,970	35,970	29,276	29,276	29,276	29,276
秋期特別展「地下の正倉院展 逸酒司本館の世界」	12,570	12,570	8,669	8,669	8,669	8,669	7,423	7,423	7,423	7,423
秋期特別展「地下の正倉院展 逸酒司本館の世界」	30,179	30,179	27,301	27,301	27,301	27,301	21,853	21,853	20,931	20,931
秋期特別展「地下の正倉院展 逸酒司本館の世界」	10,725	10,725	9,974	9,974	9,974	9,974	8,816	8,816	8,816	8,816
秋期特別展「地下の正倉院展 逸酒司本館の世界」	4,088	4,088	3,383	3,383	3,383	3,383	2,428	2,428	2,428	2,428
秋期特別展「地下の正倉院展 逸酒司本館の世界」	12,862	12,862	9,373	9,373	9,373	9,373	7,492	7,492	7,492	7,492
秋期特別展「地下の正倉院展 逸酒司本館の世界」	2,504	2,504	4,571	4,571	4,571	4,571	3,117	3,117	3,117	3,117

※1 平常展の一部として実施

a-③ 平常展・特別展・海外展

【東京国立博物館】

(1) 総合文化展（平常展）

①開館日数 311 日間（平常展のみの開館日数 89 日間）

②会 場

- (1)本館 1階、2階
- (2)東洋館 1階、2階、3階、4階、5階
- (3)法隆寺宝物館 1階、2階
- (4)平成館 1階
- (5)黒田記念館

③展示総件数 9,267件（うち国宝 376件、重要文化財 795件）

- (1)本館・平成館企画展示室 4,081件（うち国宝 271件、重要文化財 348件）
- (2)東洋館 2,920件（うち国宝 4件、重要文化財 87件）
- (3)法隆寺宝物館 374件（うち国宝 11件、重要文化財 183件）
- (4)平成館考古展示室 1,746件（うち国宝 90件、重要文化財 162件）
- (5)黒田記念館 146件（うち国宝 0件、重要文化財 15件）

④展示替件数 5,813 件 ・ 展示替回数 延べ452 回

⑤入場料金

黒田記念館以外 一般620円、大学生410円

黒田記念館 無料

⑥特集 全18件（●国宝、◎重要文化財、○重要美術品）

※新型コロナウイルス蔓延防止策として、2月26日～6月1日まで臨時休館。、2件の特集については3月27日をもって中止となり、さらに2件の特集については未公開のまま中止となった。

場所	名称	会期	陳列件数(うち指定品件数)
平成館 企画展示室	親と子のギャラリー ツノのある動物	4月16日～5月26日	37件
<p><主な作品> 蓮華葡萄彫犀角杯、春日鹿曼荼羅図、自在龍置物、風神雷神図(模本)</p> <p>動物をテーマとした特集「親と子のギャラリー」は、例年、東京都恩賜上野動物園と国立科学博物館との三館園連携企画として行っており、今年が13回目となる。当館は、春の行楽やゴールデンウィークで博物館を訪れるファミリー層を対象に、美術鑑賞の楽しさ・面白さを伝えることを目的とした展示を担当した。</p> <p>今回の三館園のテーマは「ツノのある動物」であり、当館ではシカやウシ、サイなどの実在の動物に加えて、龍や麒麟などのツノのある空想上の動物を対象とした。本来ツノは外敵から身を守ったり、雄同士の戦いをするため武器として使用されるが、ツノの生えていない人間は、ツノに神聖さや畏怖の念を抱き、ツノのある動物を神使として霊獣視したり、空想上の瑞獣をツノが生えた姿で想像した。今回は、第1部「『ツノ』を見比べよう！」で実在のツノのある動物をモチーフにした作品を紹介し、人間がツノのある動物に出会い、美術・工芸・考古の諸作品にどのように表現してきたのかを見比べ、人の手を経たツノへの興味を喚起させる。続く第2部「『ツノ』が〇〇に大変身！」では、実在の動物のツノを素材にした工芸品と、ツノのある想像上の動物をモチーフにした作品を紹介し、人間と人間が想像した空想の動物との多様な関係を文化的に説明した。また子どもの目線に近いところで理解を促すため、二館園の協力を得て、補助的な解説パネルの作成を行うほか、題箋等においては作品名称を一般向けの名称と子ども用の名称を併記した。</p> <p>教育関連事業として、本展のリーフレットを作成するほか、5月18日の国際博物館の日を記念した三館園をめぐるツアー「上野の山で動物めぐり」を三館園共同で開催した。</p>			
東洋館 5室	中国の青磁—蒐集と研究の軌跡	4月23日～7月15日	29件(重文2件)
<p><主な作品> 青磁盤、青磁牡丹唐草文大瓶、青磁蓮弁文盤、青磁花卉文水指、青磁尊形瓶、越窯址採集陶片</p> <p>本特集は、東京国立博物館が収蔵する中国青磁をとりあげた。収集の歴史をたどると、1930年代より熱を帯びた陶磁器研究の展開と軌を一とする流れをみることができ、とくに宋代官窯研究においては東博が中心となって収集と研究が行われてきたことがわかる。これまでとりあげられることがなかった明治の博物館草創期の収蔵品にも注目しながら、東博の中国青磁の収集とその意義を紹介した。また、5のケースでは坂本五郎氏旧蔵の金襴手など近年新たにコレクションに加わった名品を、関連の館蔵品とあわせて紹介した。</p>			
平成館 企画展示室	平成30年度 新収品	6月4日～7月15日	72件
<p><主な作品> 阿弥陀如来立像、内裏雛(芥子雛、束帯・十二単姿)、蘭亭春禊図扇面、行書七言律詩扇面、ガルダ形飾り金具、緋襪向付</p> <p>平成30年度に新たに収蔵品に加わった文化財のうち、寄贈分を展示した。新収品を通じ、当館のもっとも重要な事業のひとつに位置づけられる「文化財の収集」について、その成果と意義を紹介した。</p>			
本館 14室	やちむん—沖繩のやきもの	6月25日～9月16日	19件
<p><主な作品> カラカラ（色絵線刻格子文水注）、ユシピン（緑釉瓢形瓶）、セージャラ（色絵牡丹文小皿）、チューカー（色絵蟹文水注）、蓋マカイ（五彩瓜蝶文蓋付碗・粉彩鹿鶴文蓋付碗）</p>			

本特集では、東京国立博物館が所蔵する沖縄のやきものをとりあげた。東博では、明治18年(1885)に沖縄県より購入したものや個人から寄贈を受けたものなど、およそ20件にのぼる沖縄のやきものを収蔵している。その中心となるのは、那覇の中心部に位置する壺屋において色絵(上焼)生産が隆盛した19世紀の優品である。これらをまとめて紹介するのは初めてとなった。さらに、近年の修理によって実態が明らかになった中国清朝官窯の貴重な作例と、その琉球伝世の意義も紹介した。

本館	親と子のギャラリー 日本よろい!	7月17日 ~ 9月23日	25件(重美1件)
特別4室・5室	(日本文化体験「日本よろい!」と合同開催)		

<主な作品>
○金小札紅糸中白威腹巻、甲冑製作見本十 草摺三、甲冑製作見本十一 立挙一

日本の甲冑は、皮革、金属、染織、漆などが総合的に用いられた工芸品である。しかし、使用される技術が複雑なため、理解を困難なものにしている。そこで、特別5室での本特集では現代に作られた甲冑の製作工程を示した製作見本と、室町時代から江戸時代の甲冑を同時に展示し、わが国で高度に発達した工芸技術の様相を具体的に紹介する。ファミリー層を対象とした特集「親と子のギャラリー」シリーズの一環として、図解なども用いた平易な解説やワークシートやハンズオン展示などの鑑賞補助ツールを活用した。また、特別4室を同名(日本よろい!)の日本文化体験スペースとし、甲冑を着用した武士が描かれた高精細複製の屏風や、現代に作られたさわれる兜やよろいのハンズオン展示、曜日を限ったよろい着用体験コーナーなどを設け、来館者の日本文化理解を促した。

本館	焼き締め茶陶の美—備前・信楽・伊賀・丹波—	9月18日 ~ 12月8日	22件(重文1件)
14室			

<主な作品>
◎一重口水指 銘 柴庵、耳付水指、耳付花入、播座花入

釉薬が掛けられない焼き締め陶は、平安時代末以来、壺、甕、播鉢といった日用の器として、日本各地の窯で量産された。室町時代後期にまず備前、信楽が国産の陶器としては初めて茶席に取り入れられ、続く安土桃山時代から江戸時代初期にかけて、茶陶としての創意が加えられたさまざまな作品が作られた。備前、信楽、伊賀、丹波で焼かれた焼き締めの茶陶を特集し、産地による個性の違いや、時代による作風の変遷をご覧いただいた。

本館	平安時代の書之美—春敬の眼—	10月1日 ~ 11月17日	27件(重文1件、重美4件)
特別1室			

<主な作品>
○大式三位集断簡(端白切)、◎書状

平安時代の書の研究は、同時代から始まり各時代で行われてきたが、とくに明治時代以降には、筆者や書法に関して格段に研究が進んだ。その中で、現代につながる研究の基礎を作ったのが、昭和から平成にかけて書家としても活躍した飯島春敬(1906~96)である。春敬は書の収集もしており、亡くなった後もまとめて伝えられ、現存する個人コレクションとしては当代随一ともいえるほどのものである。

本特集では、以前より寄託されている春敬のコレクションを中心に、当館の平安時代の書を合わせて、春敬の研究テーマに沿って構成した。春敬の眼を通して、平安時代の書之美をご紹介します。

平成館	天皇と宮中儀礼	10月8日 ~ 1月19日	35件(国宝2件、重文3件)
企画展示室			

<主な作品>
高御座図、●延喜式 巻七(甲)、●延喜式 巻七(乙)、悠紀屏風 明和元年度正月・二月帖、主基屏風 明和元年度三月・四月帖、悠紀屏風 文政元年度七月・八月帖、主基屏風 文政元年度十一月・十二月帖、◎源氏物語「行幸」、◎敵島御幸記並高倉院昇霞記(金沢文庫本)、◎熊野懐紙、賢聖障子屏風、大宋屏風、年中行事図屏風、年中行事図屏風

天皇を中心とする宮廷社会では様々な儀式や行事が執り行なわれてきた。こうした儀式や行事の多くは平安時代に発達し、華やかな様相を整えた。鎌倉時代以降、宮廷の衰微とともに儀式、行事も衰退・断絶したが、江戸時代になると再び復興されるに至り、江戸時代末まで行なわれた。

宮廷で行なわれる儀式や行事は、年中行事と臨時行事に分けられる。年中行事とは毎年繰り返して行なわれる行事のことで、臨時行事とは天皇の即位や大嘗祭など、その都度行なわれる儀式のことである。こうした儀式・行事は過去の先例を重視したため、絵画作品や歴史資料など、多くの記録に残されてきた。

本特集は、平成から令和への御譲位、御即位により注目の集まる天皇と宮中儀礼を、「即位礼と大嘗祭」、「悠紀主基屏風」、「御所を飾る絵画」、「年中行事」、「行幸と行幸」の5つのテーマによって紹介した。とりわけ平安時代以降、天皇が即位後に行なう大嘗祭では、その都度、悠紀主基屏風が連綿として作成されてきたが、今回展示する明和元年度の屏風は現存最古のもので、極めて貴重な作品である。本特集は、一般には接することの少ない様々な宮中の儀式、行事を知るきっかけとなった。

本館	平家納経模本の世界—益田本と大倉本—	10月22日 ~ 12月8日	22件
15室			

<主な作品>
平家納経 嚴王品 第二十七(模本) 益田本、平家納経 嚴王品 第二十七(模本) 大倉本

大正から昭和にかけて田中親美(1875~1975)が制作した「平家納経」(原本:国宝、広島・嚴島神社蔵)の模本は、原本そっくりで作られた精巧な複製本である。当館には、益田鈍翁旧蔵の一組33巻(益田本と呼ぶ)と松永耳庵旧蔵の1巻(松永本と呼ぶ)が伝わっており、現在、大倉倉古館蔵の一組33巻(大倉本と呼ぶ)の寄託も受けている。

先年、益田本と大倉本の比較調査を実施したところ、さまざまな相違点を確認でき、その原因を追究しているところである。本特集では、益田本と大倉本を並べて展示し、比較研究の成果をひろく公開した。

東洋館	中国書画精華—日本における愛好の歴史	10月29日 ~ 12月25日	51件(国宝4件、重文19、重美4件)
8室			

<主な作品>
◎洞山渡水図軸、◎竹塘宿雁図軸、◎枯木図軸、◎四睡図軸、◎寒山拾得図軸、◎史記卷第二十九河渠書第七残巻、行書王史二氏墓誌銘稿巻、行書与林道人尺牘、●禪院額字「旃檀林」、●無隠元庵あて法語

恒例となった中国書画の名品展を開催した。我が国に舶載された中国の書画は、日本美術にも大きな影響を与えながら、日本独自の美意識に基づく鑑賞法で大切に伝えられてきた。日本における中国書画愛好の歴史をたどりながら中国書画名品の魅力を紹介した。

本館	近世日本と外国文化	11月19日 ~ 12月25日	23件(重文7件)
特別2室			

<主な作品>
桔梗蝶楓鹿時絵螺鈿龕 聖ステファノの殉教、磔刑図、◎エラスムス立像、◎天正遣欧使節記、◎地球図

<p>日本と西洋との本格的な交流は16世紀半ばに始まった。江戸時代も、いわゆる「鎖国」という幕府の統制下に置かれながら外国との通商関係が続けられ、日本にもたらされた西洋の情報や技術は、わが国で新たな文化をうみだす原動力となった。</p> <p>本特集では、はじめに、近世に先立つ中世末期に日本に伝わったキリスト教にちなむ文物—油彩画、銅版画や羽根モザイクなどを展示した。次に、旧教（カトリック）国であったスペイン、ポルトガルに代わり来日した新教（プロテスタント）国・オランダゆかりの品として、エラスムス像や西洋鍼路図を紹介した。最後に、乾隆帝に仕えたイエズス会宣教師で画家のカスティリオーネによる下絵に基づく清朝版画や、同修道会宣教師マテオ・リッチ作「坤世万国全図」（万暦30年・1602）を基にした屏風などを通して、近世日本にはヨーロッパの情報が中国などを介したルートからも流入していたことを紹介した。</p>			
平成館	生誕550年記念 文徵明とその時代	1月2日～3月1日	77件(重文3件・重美2件)
企画展示室			
<p><主な作品> 草書千字文巻、◎四万山水図軸、初夏山斎図軸、山水図巻、行書遊天池詩巻、楷書離騷九歌巻、楷書前後出師表巻、行草書千字文巻、草書宋之間詩巻</p> <p>明時代の中期を代表する文人、文徵明(1470～1559)は、沈周のあとを受けて蘇州の芸苑(呉派)を主導し、90歳の長寿を全うした。古典に根差した精緻で気品に満ちた書画は一世を風靡し、後世にも大きな影響を与え、中国の書画史上において確固たる位置を占める。</p> <p>令和2年(2020)は文徵明の生誕550年にあたることから、あらためて文徵明に焦点をあて、呉派をはじめとする明時代の中期に活躍した諸家の書画とともにその功績を顕彰した。台東区立書道博物館との連携企画第17弾。</p>			
本館	博物館に初もうで 子・鼠・ねずみ	1月2日～26日	55件(重文1件)
特別1・2室			
<p><主な作品> 鼠草紙、大黒天立像、◎鼠志野鶴鶴文鉢、諸獣図、鼠蒔絵印籠</p> <p>令和2年(2020)の干支である子年(ねどし)に因み、「鼠」を主題とした特集展示を行なった。暦や方角を示す十二支は古代中国に成立し、十二種類の動物としてのイメージと結びつきながら、中国だけでなくその周辺地域まで広まった。本展示では、鼠に関する美術工芸品、歴史史料や考古資料を当館所蔵品より厳選し、「十二支の鼠」、「大黒天と鼠」、「さまざまな鼠色」など、複数のテーマにわけて紹介した。</p>			
本館	伝説の面打ちたち	1月2日～2月24日	23件(重文2件)
14室			
<p><主な作品> ◎能面 三番叟(黒色尉)、◎能面 伝山姥、能面 増女</p> <p>「伝説上の面打ちの作」とされる能面は多く伝わるが、あくまでも伝承として理解され、その造形的特徴と伝承作者との関係性に目が向くことは少ない。同じ伝承作者の作品を比較すると、その伝承作者の造形的特徴と認識されてきたものをさぐる糸口となるだろう。作者の信憑性は不明だが、当館に収蔵する伝説の面打ちの作とされる能面を並べ、比較した。</p> <p>CT調査によって得られた知見もあわせて紹介した。</p>			
平成館	朝鮮王朝の宮廷文化	2月4日～3月15日 ※新型コロナウイルス蔓延防止の東博閉館により、2月27日をもって中止	52件(重文3件)
企画展示室			
<p><主な作品> 宮廷儀式図屏風、団領(文官服)、◎雲龍金描朱漆箱、鳳凰長生螺鈿二層筆筒、唐衣、鳥獸華角貼箱</p> <p>朝鮮王朝の調度や服飾を展示し、宮廷人や両班の生活文化を紹介する特集展示。14世紀に建国された朝鮮は、首都を開京(現在の開城)から漢陽(現在のソウル)に遷し、景福宮・昌徳宮・昌慶宮などの宮廷を造営した。朝鮮の宮廷においては、中国の宮廷文化を受容しながら、朝鮮半島の生活様式に適した宮殿・調度・服飾などを形成して、独自の宮廷文化が開花した。ここでは宮廷ゆかりの調度や服飾とともに、宮廷人を輩出した両班が用いた生活用具をも併せて展示し、朝鮮の宮廷における生活文化を紹介した。</p>			
本館	特集おひなさまと日本の人形	2月26日～3月22日 ※新型コロナウイルス蔓延防止の東博閉館により、2月27日をもって中止	105件
14室			
<p><主な作品> 厨子棚、黒棚、書棚、三揃、古今雛、享保雛、古式次郎左衛門雛、衣裳人形 吉弥、内裏雛(芥子雛、束帯・十二単姿)</p> <p>3月3日は桃の節供。雛祭にちなんで恒例となった特集を行う。今年は、前川富士子氏寄贈の雛飾りと日比谷家伝来の古今雛を中心に展示した。特に前川氏寄贈の雛飾りは江戸時代の江戸で作られた細密雛道具の優品であり、江戸の雛文化の頂点を示す作品が一堂に展示される貴重な機会であった。また天児・這子や立雛によって、雛人形の発展を概観するとともに、当館所蔵の衣裳人形の優品を展示することで、オリンピックイヤーでもあることから、日本の人形文化を海外にも発信するに相応しい内容とした。これらの作品を通じ、繊細で美しく、そしてかわいらしいものを尊び、高い技術を駆使して作品を作り上げてきた日本の美意識を、華やかに楽しく伝えた。</p>			
本館	東京国立博物館コレクションの保存と修理	3月24日～4月26日 ※新型コロナウイルス蔓延防止の東博閉館により、開催中止	9件
14室			
<p><主な作品> 四季花鳥図巻、愛染明王像、十二間星兜鉢、単鳳環頭大刀</p> <p>本特集では、東京国立博物館が手がける保存と修理の成果をより分かりやすく紹介するため、近年に解体を含む根本的な修理を終えた絵画、考古、歴史資料、陶磁などさまざまな分野から、形態、技法が異なる作品を取り上げることが計画していた。作品とともに修理過程で得られた情報もパネルなどを用いて公開し、博物館が担う文化財修理の役割を広く理解していただくねらいがあった。</p> <p>本年度は、本格修理完了品として「四季花鳥図巻」「愛染明王像」や「十二間星兜鉢」など9件を展示予定であった。</p>			
本館	法隆寺と聖徳太子—法隆寺研究の近代	3月24日～5月10日 ※新型コロナウイルス蔓延防止の東博閉館により、開催中止	13件(重文1件)
14室			
<p><主な作品> ◎菩薩半跏像、観音菩薩立像(九面観音)(模造)、聖徳太子二王子像(模本)</p>			

法隆寺の創建に密接にかかわった聖徳太子と法隆寺の宝物を、当館に所蔵される明治期の模写・模造を取り上げながら紹介することを計画した。江戸時代・19世紀、松平定信が中心となって編纂された各種宝物の図版集『集古十種』の刊行や出開帳の際に写し取られた狩野派による模本集成など、博物学的な関心などから寺社の宝物に対する悉皆的な情報収集が行われた。明治時代に入り、美術の制度が成立していく中で、あらためて全国の寺社の悉皆調査が行われることになる。当館所蔵の模写・模造は、江戸時代から明治時代にかけて行われた宝物の情報収集の営みを跡付ける資料であり、また明治時代の模写・模造は日本近代美術の発展の基礎となった作品としても位置付けられる。

本展では、特に法隆寺に伝わる宝物の模写・模造に焦点を当て、あまり展示されない収蔵品の積極的な活用を目指した。同時期に本館特別5及び4室で開催される特別展「法隆寺金堂壁画と百済観音」をあわせて鑑賞していただくことにより、日本における文化財の保存と活用の歴史に対する理解をよりいっそう深めることを目指した。

展覧会名	特別展 御即位30年記念「両陛下と文化交流 日本美を伝える」
会 期	3月5日（火）～4月29日（月）（50日間）
会 場	東京国立博物館 本館特別4・5室
主 催	東京国立博物館、文化庁、読売新聞社
特別協賛	キヤノン、サントリーホールディングス、資生堂、JR東日本、積水ハウス、高島屋、日本たばこ産業、野村ホールディングス、三井不動産、三菱地所、明治ホールディングス
協 賛	JTB、竹中工務店、成田国際空港、日本郵政グループ、三井住友銀行、三菱重工業、三菱商事
作品件数	18件
来館者数	122,764人(目標50,000人、達成率：245.5%)
入場料金	一般1,100円、大学生700円、高校生400円、中学生以下無料
アンケート結果 満足度	88.3%
担当研究員数	2名
展覧会の内容	宮内庁が所管する皇室ゆかりの作品の中から、上皇陛下が御即位の儀式に際して、東山魁夷、高山辰雄が平成2年（1990）に制作した「悠紀・主基地方風俗歌屏風」や、上皇上皇后両陛下が外国御訪問の際にご紹介された作品、上皇后陛下と御養蚕に係る作品などを展示した。
講演会等	なし

展覧会名	特別展「国宝 東寺—空海と仏像曼荼羅」
会 期	3月26日（火）～6月2日（日）（62日間）
会 場	東京国立博物館 平成館
主 催	東京国立博物館、読売新聞社、NHK、NHKプロモーション
特別協賛	大和証券グループ
協 賛	NISSHA
作品件数	110件
来館者数	463,991人(目標200,000人、達成率232%)
入場料金	一般1600円(1400円/1300円)、大学生1200円(1000円/900円)、高校生900円(700円/600円)、中学生以下無料
アンケート結果 満足度	81%
担当研究員数	4人
展覧会の内容	東寺(教王護国寺)は、平安京遷都に伴って、王城鎮護の官寺として西寺とともに建立され、中国から密教を持ち帰った空海がその根本道場とした。密教は造形作品を重視することから東寺にも多くの優れた文化財が伝わる。本展では、講堂安置の21体の仏像からなる立体曼荼羅のうち、史上最多となる国宝11体、重文4体、合計15体を出品したほか、彫刻、絵画、書跡、工芸など密教美術の最高峰を展示した。
講演会等	記念講演会「東寺の歴史と真言密教の至宝」新見康子(東寺文化財保護課長)4月27日(土) 372名 記念講演会「東寺と仏像曼荼羅」丸山士郎(東京国立博物館広報室長)5月11日(土) 380名

展覧会名	特別展「美を紡ぐ 日本美術の名品 雪舟、永徳から光琳、北斎まで」
会 期	5月3日（金）～6月2日（日）（27日間）
会 場	東京国立博物館 平成館
主 催	東京国立博物館、文化庁、読売新聞社
協 力	宮内庁
特別協賛	キヤノン、サントリーホールディングス、資生堂、JR東日本、積水ハウス、高島屋、日本たばこ産業、野村ホールディングス、三井不動産、三菱地所、明治ホールディングス
協 賛	JTB、竹中工務店、成田国際空港、日本郵政グループ、三井住友銀行、三菱重工業、三菱商事
作品件数	37件
来館者数	106,593人(目標50,000人、達成率213.2%)
入場料金	一般1,100円(1,000円)、大学生700円(600円)、高校生400円(300円)中学生以下無料
アンケート結果 満足度	89.4%
担当研究員数	2人
展覧会の内容	「日本美を守り伝える『紡ぐプロジェクト』—皇室の至宝・国宝プロジェクト—」の一環として開催した特別展であり、皇室ゆかりの名品である狩野永徳筆「唐獅子図屏風」と、永徳最晩年の作である国宝「檜図屏風」を、同時公開するのに加えて、雪舟、尾形光琳、葛飾北斎らの名品を一堂に紹介した。
講演会等	なし

展覧会名	日中文化交流協定締結40周年特別展「三国志」
会 期	17月9日（火）～9月16日（月）（62日間）
会 場	東京国立博物館 平成館

主 催	東京国立博物館、中国文物交流中心、NHK、NHKプロモーション、朝日新聞社
後 援	外務省、中国国家文物局、中国大使館
協 賛	大日本印刷、三井住友海上火災保険、三井物産
協 力	飯田市川本喜八郎人形美術館、 コーエーテクモゲームス、日本航空、光プロダクション
作品件数	162件
来館者数	337,639名（目標120,000人、達成率：281.4%）
入場料金	一般1,600円（1,300円）、大学生1,200（900円）、高校生900（600円）
アンケート結果 満足度	85.1%
担当研究員数	2名
展覧会の内容	中国国内18の直轄市・省・自治区から三国志ゆかりの文物を集めた大型展。プロローグで後世に語り継がれた物語性の強い三国志の世界を紹介し、続く第1章～第5章、エピソードにかけて漢時代から西晋時代の出土文物により三国志の時代の実像を明らかにする。三国志の時代の出土文物を中心とする展覧会は本邦初であり、中国においても前例がない。
講演会等	記念講演会「リアル三国志の世界」（市元壘 東京国立博物館東洋室主任研究員）7月13日 353名 記念講演会「三国志から見た邪馬台国」（渡邊義浩 早稲田大学文学部教授）7月27日 384名

展覧会名	特別展「人、神、自然—アール・サーニ コレクションの名品が語る古代の世界—」
会 期	11月6日（水）～2年2月9日（日）（77日間）
会 場	東京国立博物館 東洋館3室
主 催	東京国立博物館、NHK、NHKプロモーション
作品件数	117件
来館者数	139,737名（目標60,000人、達成率：91.6%）
入場料金	一般620円、大学生410円、高校生以下及び満18歳未満、満70歳以上は無料
アンケート結果 満足度	91.6%
担当研究員数	2名
展覧会の内容	カタル国国王の王族であるシェイク・ハマド・ビン・アブドラ・アール・サーニ殿下が収集されたザ・アール・サーニ・コレクションの中から、世界各地の古代文化が生み出した工芸品117件を厳選して紹介した。古代の人々は、自分たち自身をどのように表現したのか、神々や死後の世界、自然界をどのように認識したのか、「人」「神」「自然」の3つの展示テーマを設定して、古代の美術工芸品に投影された、当時の人々の意識や世界観に迫った。
講演会等	ギャラリートーク「古代オリエントの工芸品」（小野塚拓造 平常展調整室研究員）11月12日 244名 ギャラリートーク「古代世界の工芸品の細部に迫る」（小野塚拓造 東京国立博物館平常展調整室研究員）12月10日 101名

展覧会名	御即位記念特別展「正倉院の世界—皇室がまもり伝えた美—」
会 期	10月14日（月）～11月24日（日）（37日間）
会 場	東京国立博物館平成館
主 催	東京国立博物館、読売新聞社、NHK、NHKプロモーション
協 賛	岩谷産業、大和ハウス工業、凸版印刷、丸一鋼管
作品件数	116件
来館者数	362,076名（目標200,000人、達成率：181.0%）
入場料金	一般1,700円、大学生1,100円、高校生700円
アンケート結果 満足度	85.1%
担当研究員数	3名
展覧会の内容	本展は、天皇の勅封によって嚴重にまもられてきた正倉院宝物を中心に、東京国立博物館が所蔵する法隆寺献納宝物などを合わせて展示し、古代の日本の国際色豊かな文化を紹介する展覧会である。また、本展では明治時代以降の正倉院宝物に関する保存・修理・調査・復元模造などの活動についても光を当て、正倉院宝物が現代までもまもり伝えられてきた様子を紹介する。
講演会等	記念講演会「正倉院をまもる」（西川明彦 宮内庁正倉院事務所長）10月20日 364名 記念講演会「正倉院宝物研究の最前線」（猪熊兼樹 東京国立博物館特別展室長、三田覚之 東京国立博物館（当館 工芸室研究員）11月17日 347名

展覧会名	日本書紀成立1300年 特別展「出雲と大和」
会 期	令和2年1月15日（水）～3月8日（日）（47日間）*新型コロナウイルス蔓延防止のため臨時休館（2年2月27日～3月8日）
会 場	東京国立博物館 平成館
主 催	東京国立博物館、奈良県、島根県、NHK、NHKプロモーション、読売新聞社
後 援	文化庁
作品件数	175件
来館者数	136,054名（目標150,000人、達成率：90.7%）
入場料金	一般1600円、大学生1200円、高校生900円、中学生以下無料
アンケート結果 満足度	85.9%
担当研究員数	3名
展覧会の内容	日本書紀編纂1300年を記念して島根県・奈良県・東博が共同で開催する特別展。国譲り神話で重要な役割を果たした島根県と奈良県ゆかりの名品を通して、古代日本成立の背景や特質を紹介した。本展のきっかけとなった日本書紀をはじめ、古代史を語る上で欠くことのできない荒神谷遺跡出土の銅剣・銅矛・銅鐸や石上神宮に伝わる七支刀などを展示した。

講演会等	記念講演会「古代の出雲と大和—『日本書紀』成立1300年」（佐藤信 東京大学名誉教授）1月18日 391名。 連続講座「出雲と大和」①（奈良県立橿原考古学研究所 企画部企画課長 橋本裕行、西藤清秀（同研究所 技術アドバイザー）、皿井舞（東京国立博物館 平常展調整室長）1月24日 連続講座「出雲と大和」②（増田浩太 島根県立古代出雲歴史博物館専門学芸員、河野一隆 東京国立博物館 調査研究課長、松尾充晶 島根県古代文化センター専門研究員）1月25日 ①、②併せて645名
------	--

展覧会名	特別公開「高御座と御帳台」
会 期	令和元年12月22日（日）～令和2年1月19日（日）（19日間）
会 場	東京国立博物館 本館特別4室・特別5室
主 催	東京国立博物館、内閣府、宮内庁
作品件数	5件
担当研究員数	2人
来館者数	204,801人
展覧会の内容	10月22日、天皇陛下が即位を公に宣明されるとともに、その即位を内外の代表がことほぐ儀式として、皇居の宮殿において、即位礼正殿の儀が行われた。この度の特別公開では、即位礼正殿の儀で用いられた高御座・御帳台と威儀物を一般参観に供するとともに、即位の礼の諸儀式の写真と、装束姿を再現する人形を展示した。
講演会等	なし

【京都国立博物館】

(1) 平常展(名品ギャラリー)

- ①開館日数 295日(名品ギャラリー開館日数：122日、特別展(一遍聖絵)開館日数：58日、特別展(佐竹本)開館日数：44日、庭園のみ開館日数：71日)
- ②展示総件数 1147件
- ③展示替件数 1140件
- ④入場料金 一般520円、大学生260円 ※庭園のみ開館時は一般260円
- ⑤特集展示等：全7件
- ※新型コロナウイルス蔓延防止策として、2月27日～6月1日まで臨時休館。

	名称	会期	陳列件数(うち指定品件数)
特集展示	赤ってじつはどんな色?	7月2日～8月12日	18件(うち重要文化財3件)
特集展示	新収品展	7月2日～8月4日	67件(うち重要文化財1件、重要美術品2件)
特別企画	京博寄託の名宝—美を守り、美を伝える—	8月14日～9月16日	139件(うち国宝36件、重要文化財59件、重要美術品2件)
新春特集展示	子づくし—干支を愛でる—	2020年1月2日～2月2日	16件(うち重要文化財2件)
特集展示	京都御所障壁画 紫宸殿	2020年1月2日～2月2日	1件
特集展示	神像と獅子・狛犬	2020年1月2日～3月22日	13件(うち重要文化財8件)
特集展示	雛まつりと人形	2020年2月15日～3月22日	45件

(2) 特別展、共催展等

展覧会名	時宗二祖上人七百年御遠忌記念特別展「国宝 一遍聖絵と時宗の名宝」
会 期	4月13日(土)～6月9日(日)(58日間)
会 場	平成知新館
主 催	京都国立博物館、朝日新聞社、時宗、時宗総本山清浄光寺(遊行寺)
協 賛	京阪ホールディングス、竹中工務店
協 力	公益財団法人佛教美術研究上野記念財団、日本香堂、楽浪文化財修理所
作品件数	162件(うち国宝4件、重要文化財38件、重要美術品2件)
来館者数	66,678人(目標来館者数70000人・達成率95.3%)
入場料金	一般1,500円、大学生1,200円、高校生900円
アンケート結果 満足度	満足度77.4%
講演会等	・記念講演会 4月13日「時宗教団の変遷」講師：長澤 昌幸 氏(大正大学専任講師) 4月27日「一遍・真教の念仏思想」講師：長島 尚道 氏(時宗教学研究所顧問/真光寺住職) 5月11日「国宝 一遍聖絵—旅と風景、その魅力と謎—」講師：井並 林太郎(京都国立博物館 研究員) 5月18日「時宗のみほとけ—阿弥陀と祖師像を中心に—」講師：浅湫 毅(京都国立博物館 連携協力室長) 5月25日「一遍聖絵に見る聖性と熊野信仰」講師：遠山 元浩 氏(遊行寺宝物館長)

展覧会名	特別展「流転100年 佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」
会 期	10月12日(土)～11月24日(日)(44日間)
会 場	平成知新館
主 催	京都国立博物館、日本経済新聞社、NHK京都放送局、NHKブラネット近畿、京都新聞
後 援	京都府教育委員会、京都市教育委員会、京都市観光協会
協 賛	岩谷産業、松栄堂、損保ジャパン日本興亜、ダイキン工業、竹中工務店、NISSHA、三井物産、三井不動産
協 力	大光電機
作品件数	137件(うち国宝5件、重要文化財61件、重要美術品4件)
来館者数	136,811人(目標来館者数80000人・達成率171.0%)
入場料金	一般1,600円、大学生1,200円、高校生700円
アンケート結果 満足度	満足度82.8%

講演会等	<ul style="list-style-type: none"> 記念講演会 <ul style="list-style-type: none"> 10月13日「冷泉家の歴史と文化—冷泉流歌道をめぐって—」 講師：冷泉 為人 氏（冷泉家時雨亭文庫理事長・京都美術工芸大学学長） 10月19日「歌仙絵の成立と展開—佐竹本への道のり—」講師：土屋 貴裕 氏（東京国立博物館 主任研究員） 11月 2日「歌仙絵の最高峰—佐竹本三十六歌仙絵の表現と情緒—」講師：井並 林太郎（京都国立博物館 研究員） 11月 4日「巡る美 変わる美—流転する日本文化—」講師：彬子女王殿下 11月16日「佐竹本三十六歌仙絵への想い」講師：降矢 哲男（京都国立博物館 研究員）
------	--

【奈良国立博物館】

(1) 名品展（平常展）

- ①開館日数：292日（名品展のみの開館日数：201日）
- ②展示総件数：461件
- ③展示替件数：239件
- ④入場料金：一般 520円 大学生 260円
- ⑤特別陳列等：全233件

名品展

- 珠玉の仏たち（なら仏像館）153件
- 珠玉の仏教美術（西新館）175件
- 特集展示「新たに修理された文化財」（西新館）11件
- 中国古代青銅器（青銅器館）124件

※新型コロナウイルス蔓延防止策として、2月26日～6月1日まで臨時休館。

特別陳列

	名称	会期	陳列件数（うち指定品件数）
わくわくびじゅつギャラリー	いのりの世界のどうぶつえん	7月13日～9月8日	65件（国宝5件、重要文化財18件）
特別陳列	法徳寺の仏像—近代を旅した仏たち—	7月13日～9月8日	7件
特別陳列	おん祭と春日信仰の美術—特集 春日大社にまつわる絵師たち—	12月7日～2年1月13日	52件（国宝1件、重要文化財4件）
特別陳列	重要文化財 法隆寺金堂壁画写真ガラス原板—文化財写真の軌跡—	12月7日～2年1月13日	41件（重要文化財8件）
特別陳列	お水取り	2年2月4日～3月22日	68件（重要文化財20件）

(2) 特別展、共催展等

展覧会名	特別展「国宝の殿堂 藤田美術館展—曜変天目茶碗と仏教美術のきらめき—」
会 期	4月13日（土）～6月9日（日）（51日間）
会 場	奈良国立博物館 東新館・西新館
主 催	奈良国立博物館、朝日新聞社、NHK奈良放送局、NHKプラネット近畿
特別協賛	—
協 賛	ダイキン工業、大成建設、ライブアートブックス
特別協力	藤田美術館
協 力	日本香堂、藤田観光、仏教美術協会
作品件数	128件（うち国宝9件、重要文化財53件）□
来館者数	158,078人（目標来館者数 50,000人・達成率 316.2%）
入場料金	一般1,500円、高校・大学生1,000円、小・中学生500円
アンケート結果 満足度	89.3%
担当研究員数	2名
展覧会の内容	大阪・藤田美術館の所蔵品から、奈良ゆかりの仏教美術や絵巻・茶道具など名品の数々を紹介した。藤田美術館が所蔵する、国宝9件、重要文化財53件をすべて展示し、国宝・曜変天目茶碗を中心とした茶道具、茶掛けなどの墨蹟、仏教説話画、仏像、仏画、仏教工芸、經典、仮面、能装束、工芸、考古資料など多彩なコレクションを通じて、コレクションを創始した藤田傳三郎の功績を紹介した。
講演会等	<ul style="list-style-type: none"> ○公開講座 <ul style="list-style-type: none"> 3回 参加者数合計 511人 <ul style="list-style-type: none"> 4月20日（土）「藤田傳三郎と藤田美術館 伝統と未来」藤田清（藤田美術館館長）/ 参加者数 190人 5月11日（土）「国宝 曜変天目茶碗の謎にせまる」小林仁（大阪市立東洋陶磁美術館学芸課長代理）/ 参加者数 194人 5月25日（土）「藤田美術館の仏教美術コレクション」岩井共二（情報サービス室長）/ 参加者数 127人 ○展覧会関連イベント <ul style="list-style-type: none"> 3回 参加者数合計 100人 <ul style="list-style-type: none"> 5月5日（日・祝）「オリジナル絵巻を作ろう」/ 参加者数 31人 5月19日（日）「親子向け抹茶体験ワークショップ」/ 参加者数 42人 5月26日（日）「曜変天目茶碗モチーフのアクセサリー作り」/ 参加者数 27人

展覧会名	御即位記念 第71回正倉院展
会 期	10月26日（土）～11月14日（木）（20日間）
会 場	奈良国立博物館 東新館・西新館
主 催	奈良国立博物館
特別協賛	—
協 賛	岩谷産業、NTT西日本、関西電気保安協会、京都美術工芸大学、近畿日本鉄道、JR東海、JR西日本、シオノギヘル

	スケア、ダイキン工業、大和ハウス工業、中西金属工業、丸一鋼管、大和農園
特別協力	読売新聞社
協 力	NHK奈良放送局、奈良テレビ放送、日本香堂、仏教美術協会、ミネルヴァ書房、読売テレビ
作品件数	41件口
来館者数	277,133人(目標来館者数180,000人・達成率 154.0%)
入場料金	一般1,100円、高校・大学生700円、小・中学生400円
アンケート結果 満足度	87.4%
担当研究員数	2名
展覧会の内容	8世紀の東アジア文化の至宝である正倉院宝物41件を公開する。
講演会等	<p>○特別講演会 1回 参加者数合計 155人 11月4日(月・祝)「遺愛とその輝き」中西進(高志の国文学館 館長)/参加者数 155人</p> <p>○公開講座 2回 参加者数合計 258人 11月2日(土)「正倉院に伝わる作り物をめぐって—仮山残欠を中心に—」清水健(工芸考古室長)/参加者数 141人 11月9日(土)「正倉院の風鐸—金銅鎮鐸について—」細川晋太郎(宮内庁正倉院事務所保存課調査室員)/参加者数 117人</p> <p>○シンポジウム 1回 参加者数合計 214人 11月3日(日・祝)正倉院学術シンポジウム2019「即位と正倉院宝物」/参加者数 214人</p> <p>○展覧会関連イベント 2回 参加者数合計 135人及び自由参加 10月26日(土)~11月14日(木)正倉院展短歌コンクール受賞作品展示 /参加者数 -人 10月27日(日)第71回正倉院展親子鑑賞会 /参加者数 135人</p>

展覧会名	特別展「毘沙門天 —北方鎮護のカミ—」
期 間	2年2月4日(火)~3月22日(日)(42日間) ※新型コロナウイルス蔓延防止のため臨時休館(2年2月27日~3月22日)
会 場	奈良国立博物館 東新館・西新館第1室
主 催	奈良国立博物館、朝日新聞社、NHK奈良放送局、NHKプラネット近畿、文化庁、独立行政法人日本芸術文化振興会
特別協賛	—
協 賛	ライブアートボックス
特別協力	—
協 力	日本香堂、仏教美術協会
作品件数	37件(うち国宝2件、重要文化財18件)口
来館者数	16,675人(目標来館者数50,000人・達成率 33.4%)
入場料金	一般1,500円、高校・大学生1000円、小・中学生500円
アンケート結果 満足度	97.5%
担当研究員数	3名
展覧会の内容	四天王の中で北方を守護するカミである多聞天は、「毘沙門天」として単独の像として造像、信仰され、四天王のなかでも特別の存在として扱われてきた。本展では、日本において多彩な展開を遂げた毘沙門天像のなかから、選りすぐりの優品を展示し、近年新発見された作品やそれらに関する知見をまじえつつ、毘沙門天像の魅力を紹介した。
講演会等	<p>○公開講座 1回 参加者数合計 194人 2年2月15日「毘沙門天の源流を探る—インドからガンダーラ・西域へ—」宮治昭(名古屋大学/龍谷大学 名誉教授)</p>

【九州国立博物館】

(1)文化交流展(平常展)

- ①開館日数:279日(うち平常展のみ開館日数89日)*新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため臨時休館(2020/2/27~3/31(29日間))
- ②展示総件数:1,894件(うち国宝64件、重要文化財285件)
- ③展示替件数:1,641件
- ④入場料金:一般430円、大学生130円
- ⑤特集展示・特別公開等:全8件

展示名称	新収品展 Part1				
開催期間	3月5日(火)~ 5月6日(月・休)	開催場所	文化交流展示室 第3室	陳列件数(うち 指定品件数)	75件
内容	平成30年度に阿形邦三氏より寄贈された作品を中心に、考古分野の名品を公開した。				
展示名称	新収品展 Part2				
開催期間	6月4日(火)~ 7月15日(月・祝)	開催場所	文化交流展示室 第11室	陳列件数(うち 指定品件数)	26件
内容	平成30年度に新たに当館の所蔵となった新収品の中から、選りすぐった作品を公開した。				
展示名称	特集展示 館蔵名品展「更紗 生命の花咲く布」				
開催期間	7月30日(火)~ 10月20日(日)	開催場所	文化交流展示室 第9室	陳列件数(うち 指定品件数)	56件
内容	大航海時代の文化交流の中で生まれた各国好みの多様な更紗を紹介し、当館が積極的に収集してきた更紗の名品を公開した。				
展示名称	特集展示 住友財団修復助成30年記念「文化財よ、永遠に」				
開催期間	9月10日(火)~ 11月4日(月・休)	開催場所	文化交流展示室 基本展示室5テーマ、第11室	陳列件数(うち 指定品件数)	38件(うち国宝3件、重文16件)

内容	住友財団が助成を開始してから30年を迎えることを記念し、その助成によって修理された九州・沖縄の文化財を公開した。				
展示名称	特集展示 版経東漸～対馬がつなぐ仏の教え～				
開催期間	10月29日(火)～ 12月22日(日)	開催場所	文化交流展示室 第9室	陳列件数(うち 指定品件数)	34件(うち重文16件)
内容	対馬で守り継がれてきた渡来版経や、現在は対馬島外で保管されている対馬ゆかりの渡来版経を公開した。				
展示名称	特集展示 縄文王国やまなし				
開催期間	10月29日(火)～ 12月22日(日)	開催場所	文化交流展示室 第3室	陳列件数(うち 指定品件数)	56件(うち重文39件)
内容	重要文化財釈迦堂遺跡出土品を中心に山梨県から出土した縄文時代の最盛期の品々を一堂に公開した。				
展示名称	特集展示 刀剣ことはじめ - 刀剣ワールド財団と九博の名刀 -				
開催期間	2年1月1日(水・祝)～ 2年2月24日(月・休)	開催場所	文化交流展示室 第9室	陳列件数(うち 指定品件数)	16件(うち国宝2件、重文6件)
内容	刀剣ワールド財団の所蔵品の数々を、九博がこれまで収集してきた代表的な刀剣とともに公開した。				
展示名称	新春特別公開 徳川美術館所蔵 国宝 初音の調度				
開催期間	2年1月1日(水・祝)～ 2年1月26日(日)	開催場所	文化交流展示室 第11室	陳列件数(うち 指定品件数)	35件(うち国宝3件)
内容	徳川美術館に所蔵される国宝「初音の調度」のうち、乱箱、長文箱、短冊箱の3件と、同じ『源氏物語』をモチーフとした絵画や、盛岡藩主南部家ゆかりの婚礼調度も合わせて公開した。				

(2) 特別展、共催展等

展覧会名	特別展「京都 大報恩寺 快慶・定慶のみほとけ」			
会 期	4月23日(火)～6月16日(日) (49日間)			
会 場	九州国立博物館 特別展示室			
主 催	九州国立博物館・福岡県、大報恩寺、読売新聞社			
作品件数	15件(うち、重要文化財7件)			
来館者数	53,524人(目標来館者数70,000人・達成率76.5%)			
入場料金	一般1,600円、高大生1,000円、小中生600円			
アンケート結果 満足度	84.6%			
講演会等	2回 参加者合計 280人			
	講演会			
	期日	講演会名	所属・講師	参加者
	4月27日	記念講演会「鎌倉彫刻の巨匠 運慶・快慶とその次世代の仏師たち」	東京国立博物館主任研究員 皿井 舞	120人
	5月25日	記念講演会「千本釈迦堂・大報恩寺の歴史」	千本釈迦堂大報恩寺住職 菊入諒如	160人
	イベント等			
	期日	イベント名		参加者
	5月26日	九州国立博物館杯 特別展「京都 大報恩寺 快慶・定慶のみほとけ」記念 第14回さいふごま大会		40人
	4月26日～ 6月15日まで の金曜・土曜 日(16日間)	プレゼント企画 夜間開館 × 特別展「京都 大報恩寺 快慶・定慶のみほとけ」 梅ヶ枝餅引換券をプレゼント!		1,684人

展覧会名	特別展「室町将軍 - 戦乱と美の足利十五代 -」			
会 期	7月13日(土)～9月1日(日) (45日間)			
会 場	九州国立博物館 特別展示室			
主 催	九州国立博物館・福岡県、西日本新聞社、TVQ九州放送、テレビ西日本			
作品件数	134件(うち、国宝14件、重要文化財71件)			
来館者数	86,399人(目標来館者数40,000人・達成率216.0%)			
入場料金	一般1,600円、高大生1,000円、小中生600円			
アンケート結果 満足度	87.9%			
講演会等	6回 参加者合計 1,334人			
	講演会			
	期日	講演会名	所属・講師	参加者
	7月14日	記念講演会「室町将軍家の東アジア外交」	北海道大学准教授 橋本雄	202人
	7月20日	リレー講座 「足利十五代-ムロマチックな男たち-」 リレー講座 「名刀乱舞! 足利将軍」	展示課主任研究員 一瀬 智 京都国立博物館主任研究員 末兼俊彦	230人
	8月3日	記念講演会「室町将軍家の再評価 - 本当に弱かったのか? -」	国際日本文化研究センター助教 呉座勇一	301人
	8月10日	アクロス・文化学び塾「室町将軍15代の武と美」	展示課主任研究員 一瀬 智	76人

8月11日	華道家元池坊次期家元による特別講演会・デモンストレーション「いけばなにおける室町時代」	華道家元池坊次期家元 池坊専好	271人
8月12日	特別展「室町将軍一戦乱と美の足利十五代」開催記念シンポジウム「京都・等持院 歴代足利将軍像の謎に迫る」	京都大学 根津研介 展示課長 楠井隆志 立命館大学 大田壮一郎 東京大学 高岸 輝	254人
イベント等			
期日	イベント名		参加者
7月13日	おっきい このすけ撮影会		—
7月13日 ～9月1日	刀剣男士・大般若長光の等身大パネル設置		—
7月15日	九州国立博物館杯 特別展「室町将軍」記念第15回さいふごま大会		50人
7月19日、 8月7日	実践！勤合貿易ワークショップ～あなたは貿易できるか？～		10人
8月1日、 8月28日	視覚に障害をお持ちの方に向けた特別展 観覧ツアー		25人
7月13日～8 月31日ま での金曜・土 曜日および 7月24日、25 日(17日間)	プレゼント企画 夜間開館×特別展「室町将軍一戦乱と美の足利十五代」 梅が枝餅引換券プレゼント！		2,935人

展覧会名	日中文化交流協定締結40周年記念 特別展「三国志」		
会 期	10月1日(火)～2年1月5日(日) (77日間)		
会 場	九州国立博物館 特別展示室		
主 催	九州国立博物館・福岡県、中国文物交流中心、NHK 福岡放送局、NHK プラネット九州、西日本新聞社、朝日新聞社		
作品件数	161 件		
来館者数	140,155 人(目標来館者数 70,000 人・達成率 200.2%)		
入場料金	一般 1,600 円、高大生 1,000 円、小中生 600 円		
アンケート結果 満足度	78.0%		
講演会等	2回 参加者合計 544人		
	講演会		
10月20日	講演会「ここまで分かった“リアル三国志” - 新発見の考古資料から読み解く -」	学芸部企画課主任研究員 川村佳男	238人
12月14日	特別展「三国志」記念特別講演会 「曹操高陵墓と考古学的発見と研究」 「三国志の時代と卑弥呼の鏡」	河南省文物考古研究院第一研究室副主任 潘偉斌 九州大学大学院人文科学研究院准教授 辻田淳一郎	306人
イベント等			
期日	イベント名		参加者
9月22日	九州国立博物館特別展「三国志」開催記念 第6回ミュージカル寄席 ミュージカル落語「三国志」		256人
10月14日	井上涼 びじゅチューン！なりきり美術館&三国志コンサート		581人
10月27日	九州国立博物館杯 日中文化交流協定締結40周年記念特別展「三国志」記念 第16回さいふごま大会		80人
11月22日、 12月14日	特別展「三国志」夜間開館イベント「三国志ナイトミュージアム 英雄(ヒーロー)現る!! ～ もしも、卑弥呼の使者が曹操に出会ったら～」【手話通訳付き！】		700人
11月23日	日中文化交流協定締結40周年記念 特別展「三国志」関連イベント「夜な夜な三国志」 「夜な夜な大合戦」、「夜な夜なMY缶バッジ」、「今夜だけは。。。プレミアム生ガイド #呉」、「孔明の危機?! 三国志的イルミネーション」、「来場者プレゼント」		400人
12月5日、 12月11日	視覚に障害をお持ちの方に向けた特別展「三国志」観覧ツアー		30人
10月4日～ 12月21日ま での金曜・土 曜日、1 月3日、4日 (26日間)	プレゼント企画 夜間開館×特別展「三国志」 梅ヶ枝餅引換券&カプセルトイ引換券をプレゼント！		4,614人

展覧会名	特別展「ルネ・ユイグのまなざし フランス絵画の精華 大様式の形成と変容」		
会 期	2年2月4日(火)～3月29日(日) (20日間) *新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため臨時休館 (2020/2/27～3/29)		
会 場	九州国立博物館 特別展示室		
主 催	九州国立博物館・福岡県、東京富士美術館、西日本新聞社、毎日新聞社、九州朝日放送		
作品件数	86件		
来館者数	45,636人(目標来館者数60,000人・達成率76.1%)		
入場料金	一般1,600円、高大生900円、小中生500円		
アンケート結果 満足度	85.4%		
講演会等	1回 参加者合計 247人		
	講座		
	期日	講座名	所属・講師
	2年2月9日	記念講演会「フランス絵画の栄光 - 古典主義からロマン主義まで」	美術評論家・美術史家大原美術館館長 高階秀爾
	2年3月8日	特別展「ルネ・ユイグのまなざし フランス絵画の精華」 講演会	エコール・ド・ルーヴル出身 小柳由紀子
	2年3月13日	特別展「ルネ・ユイグのまなざし フランス絵画の精華」 講演会	九州大学言語文化研究院准教授 倉片健作
	2年3月15日	特別展「ルネ・ユイグのまなざし フランス絵画の精華」 講演会	ソルボンヌ大学考古学博士 グザヴィエ・ミシェル田中
	イベント等		
	期日	イベント名	参加者
	2年2月22日	古楽器が奏でるフランス・バロック音楽のひとつ	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
	2年3月1日	特別展「フランス絵画の精華」 記念 第17回さいふごま大会	同上
	2年3月3日～15日	フランス・スタンド	同上
	2年2月7日～2月22日 までの金曜・土曜日 (6日間)	プレゼント企画 夜間開館×特別展「フランス絵画の精華」 梅ヶ枝餅引換券をプレゼント!	1,147人

【平城宮跡資料館】

(1) 平常展

- ①開館日数：307日（平常展のみの開館日数：128日）
- ②展示総件数：560件
- ③展示替回数：0回
- ④入場料金：無料
- ⑤平常展のみの来館者数：26,562人

※新型コロナウイルス蔓延防止策として、2月27日～6月1日まで臨時休館。

(2) 特別展、企画展等：5件

展覧会名	春期企画展(こども展示)「高御座(たかみくら)―奈良朝の玉座―」		
会 期	4月27日(土)～6月2日(日) (33日間)	会 場	平城宮跡資料館 企画展示室
主 催	奈良文化財研究所	陳列件数(うち指定品数)	14件(0件)
来館者数	14,456人	入場料金	無料
講演会等	第一次大極殿における幢幡特別公開(4月27日～2年1月5日)		

展覧会名	夏期企画展(こども展示)「ならのみやこのしよくぶつえん」		
会 期	7月20日(土)～9月1日(日)、9月5日 (39日間)	会 場	平城宮跡資料館 企画展示室
主 催	奈良文化財研究所	陳列件数(うち指定品数)	100件(0件)
来館者数	9,162人	入場料金	無料
講演会等	ギャラリートーク2回・ワークショップ2回、参加者数合計270人		

展覧会名	秋期特別展「地下の正倉院展 一年号と木簡―」		
会 期	10月12日(土)～11月24日(日) (37日間)	会 場	平城宮跡資料館 企画展示室
主 催	奈良文化財研究所	陳列件数(うち指定品数)	76件(国宝12件)
来館者数	13,257人	入場料金	無料
講演会等	ギャラリートーク3回・参加者数合計203人		

展覧会名	新春ミニ展示「平城京の子」		
会 期	2年1月4日(土)～26日(日) (20日間)	会 場	平城宮跡資料館 入口ロビー
主 催	奈良文化財研究所	陳列件数(うち指定品数)	1件(0件)
来館者数	4,456人	入場料金	無料
講演会等	なし		

展覧会名	冬期企画展「発掘された平城 2019」		
会 期	2年2月1日(土)～3月29日(日) (22日間)	会 場	平城宮跡資料館 入口ロビー
主 催	奈良文化財研究所	陳列件数(うち指定品数)	59件(0件)
来館者数	3,515人	入場料金	無料
講演会等	ギャラリートーク2回・参加者数合計48人		

【藤原宮跡資料室】

(1) 平常展

- ①開館日数：357日
- ②展示総件数：534件
- ③展示替回数：2回
- ④入場料金：無料
- ⑤特集陳列等：6件
- ⑥平常展来館者数：7,002人

※新型コロナウイルス蔓延防止策として、2月27日～6月1日まで臨時休館。

名称	会期	陳列件数(うち指定品件数)
【特集陳列】 「埋(うず)もれた大宮びとの横顔―葉・まじない・庄園の木簡」	4月8日～26日	木簡21点
飛鳥寺旧境内の調査(197-1・2・6次)	7月1日～12月27日	飛鳥寺所用軒瓦11点、風鐸1点等
藤原宮大極殿院の調査(第195・198次)	7月1日～12月27日	大極殿院出土軒瓦3点・不明瓦製品6点
坂田寺SG100出土の瓦(石神遺跡第7次)	7月1日～12月27日	坂田寺出土瓦8点、鷗尾1点
石神遺跡土坑SK1244・1245出土土器(石神遺跡第7次)	7月1日～12月27日	石神遺跡出土土器19点
藤原宮外周帯の調査(第197-4次)	7月1日～12月27日	藤原宮造営期の井戸及び井戸枠の原寸大写真2点

【飛鳥資料館】

(1) 平常展

- ①開館日数：307日(平常展のみの開館日数：116日)
- ②展示総件数：136件
- ③展示替回数：2回
- ④入場料金：一般270円(170円) 大学生130円(60円) 高校生及び18歳未満、65歳以上は無料 ※()は20名以上の団体
- ⑤平常展のみの来館者数：4,676人

※新型コロナウイルス蔓延防止策として、2月27日～6月1日まで臨時休館。

(2) 特別展、企画展等：4件

展覧会名	春期特別展「骨ものがたりー環境考古学の研究室のお仕事」		
会 期	4月23日(水)～6月30日(日) (61日間)	会 場	飛鳥資料館 特別展示室
主 催	奈良文化財研究所	陳列件数(うち指定品数)	200点(0件)
来館者数	10,024人		
入場料金	一般270円(170円) 大学生130円(60円) 高校生及び18歳未満、65歳以上は無料※()は20名以上の団体		
講演会	イベント「体験！研究員のお仕事」3回 参加者数合計126人、「研究員を展示！」4回 参加者数合計742人		

展覧会名	夏期企画展「第10回写真コンテスト作品展「あすかの古墳」」		
会 期	7月19日(金)～9月1日(日) (40日間)	会 場	飛鳥資料館 特別展示室
主 催	奈良文化財研究所	陳列件数(うち指定品数)	114点(0件)
来館者数	3,070人		
入場料金	一般270円(170円) 大学生130円(60円) 高校生及び18歳未満、65歳以上は無料※()は20名以上の団体		
講演会	-		

展覧会名	秋期特別展「飛鳥ー自然と人とー」		
会 期	10月11日(金)～12月1日(日) (44日)	会 場	飛鳥資料館 特別展示室
主 催	奈良文化財研究所	陳列件数(うち指定品数)	31件(0件)
来館者数	6,506人		
入場料金	一般270円(170円) 大学生130円(60円) 高校生及び18歳未満、65歳以上は無料※()は20名以上の団体		
講演会	イベント「飛鳥の森を探る」参加者数15人、「ふるさと飛鳥を語る」参加者数37人		

展覧会名	冬期企画展「飛鳥の考古学2019」		
会 期	2020年1月24日(金)～3月15日(日) (45日)	会 場	飛鳥資料館 特別展示室
主 催	奈良文化財研究所	陳列件数(うち指定品数)	350点(0件)
来館者数	1,331人		
入場料金	一般270円(170円) 大学生130円(60円) 高校生及び18歳未満、65歳以上は無料※()は20名以上の団体		
講演会	-		

b ボランティア受入実績

1 受入人数

令和2年3月31日現在

国立文化財機構計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	奈良文化財研究所
1,025人	159人	255人	150人	274人	148人

2 活動内容

【東京国立博物館】 計159人

種別 (登録人数)	概要
生涯学習ボランティア (151人)	<p>1) 各種教育普及事業の補助活動の充実を図る</p> <p>【教育普及事業の補助】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクールプログラム「はじめての東博」実施 (通年) ・学校向けワークショップ補助 (通年) ・ファミリー向けワークショップ補助 (通年) ・一般向けワークショップ補助 (通年) ・工程見本展示鑑賞補助 (通年) ・ギャラリートーク、各種講演会、イベント事業の実施補助 (通年) ・教育普及事業の告知(「本日の博物館」シール貼替え・通年) ・東洋館オアシス「アジアの占い体験」実施 (通年) ・本館19室みどりのライオン体験コーナー実施 (通年) ・日本文化体験補助 (通年) <p>【保存修復事業の補助 (平成31年度は休止)】</p> <p>【館内案内】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本館 1階エントランス、2階、17室 (通年実施) ・多言語案内・手話の告知バッジによる来館者の案内・誘導 (通年) <p>【資料印刷・作成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・点字パンフレットの印刷 (通年) ・東洋館オアシススタンプ台紙の印刷 (通年) ・たんけんマップの作成・印刷 (通年) <p>【職場体験実施活動補助】</p> <p>受入数：24校 生徒数：76人 (中学、高校合計数)</p> <p>【障がい者対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バリアフリー対応班の発足 (42人) ・東京国立博物館紹介パンフレットの点訳版作成 (17冊) ・博物館案内・各ガイドにおける聴覚障がい者対応のためのコミュニケーションボードの使用 (通年) ・触知図を使用した館内案内 (通年) ・盲学校のためのスクールプログラムの実施 (通年) <p>【各種連携事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「キッズデー」(8月4日)内プログラム アートスタジオ、考古展示室ガイド、東洋館ツアー、法隆寺宝物館ガイド、ワークショップ補助、キッズコーナー補助、館内案内、体験コーナー ・「留学生の日」(11月3日)内プログラム 考古展示室ガイド、彫刻ガイド、陶磁ガイド、本館ハイライトツアー、刀剣・武士の装いツアー、英語ガイド、浮世絵ガイド (中国語) 実施、館内案内、体験コーナー ・「博物館でアジアの旅」(9月10日～10月14日)内プログラム たてもの散歩ツアー、彫刻ガイド、考古展示室ガイド、東洋館ツアー、樹木ツアー、本館ハイライトツアー、館内案内、体験コーナー (特に東洋館オアシスの実施) ・「博物館でお花見を」(平成31年4月1日～7日)内プログラム。令和2年3月10日～31日のプログラムは、新型コロナウイルス拡大防止のため中止 樹木ツアー、本館ハイライトツアー、館内案内、体験コーナー <p>【ボランティアデー開催】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア募集説明会、ボランティアによる活動紹介ツアー、ボランティア質問コーナー、撮影コーナー、樹木ツアー、本館ハイライトツアー、たてもの散歩ツアー、東洋館ツアー、英語ガイド、近代の美術ガイド、庭園茶室ツアー、法隆寺宝物館ガイド、アートスタジオ、浮世絵ガイド、お茶会、彫刻ガイド、陶磁ガイド、考古展示室ガイド、刀剣・武士の装いツアー、通常活動の実施。(12月7・8日) <p>2) 来館者参加型ガイドツアー等の実施 266回9,921人 自主企画プログラム (予約ガイド、各種連携事業、留学生の日、ボランティアデーにおける対応を含む。一日複数回実施の場合は、延べ回数、令和2年2月27日～3月31日のプログラムは、新型コロナウイルス拡大防止のため中止。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・樹木ツアー 15回404人参加 ・浮世絵ガイド 11回582人 ・浮世絵 (中国語) ガイド 1回35人 ・本館ハイライトツアー 27回1,235人

種別 (登録人数)	概要
	<ul style="list-style-type: none"> ・法隆寺宝物館ガイド 24回1,166人 ・考古展示室ガイド 25回1,020人 ・考古ガイド(東洋館) 2回87人 ・陶磁ガイド 12回430人 ・庭園茶室ツアー 10回176人 ・お茶会 20回300人 ・彫刻ガイド 22回1,385人 ・彫刻ガイド(東洋館) 1回35人 ・英語ガイド 21回674人(留学生の日の定点ガイド含む) ・アートスタジオ 8回222人 ・たてもの散歩ツアー 14回418人 ・近代の美術ガイド 10回378人 ・東洋館ツアー 25回773人 ・刀剣・武士の装いツアー 12回440人 ・ボランティア活動紹介ツアー 6回161人
東京藝術大学大学院インターンシップ (8人)	<p>東京藝術大学との連携事業。トーク検討会、原稿作成、リハーサルののち、各自6回ずつギャラリートークを実施予定だったが、新型コロナウイルスの拡大防止のため、2月26日以降は中止。学生にとっては研究の一助になり、ギャラリートークは学内発表とは違う貴重な経験になった。来館者にとっても展示作品についての理解を深めるきっかけとなった。</p> <p>【ギャラリートーク(研究発表)班】8人</p> <p>総合文化展展示作品に関するギャラリートークを展示室で行った。【計37回1,408人】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「ヴィンツェンツォ・ラゲーザの『日本の婦人像』」 5回101人 「雪村の『鷹山水図屏風』の画面構成について」 6回248人 「宝慶寺石仏龕のかたちとその意味」 6回364人 「『雪中群鳥』にみる渡辺省亭の洋風表現」 6回206人 「『十二ヶ月花鳥図屏風』の魅力」 6回223人 「青木繁が描きだした神話画『日本武尊』」 1回40人 「宮川香山と明治の『日本』」 4回143人 「『子日蒔絵棚』にみる光悦の意匠」 3回83人 <p>※「東京藝術大学大学院インターンシップ」は、従前との比較のため、ボランティア数の内数として計上している。従前の「東京芸術大学学生ボランティア」を25年4月より名称変更し、現在は「1(3)①3」大学との連携事業等の実施」の事業である。詳細は処理番号1313Aを参照。</p>

【生涯学習ボランティアに対する研修の実施】 計42回

- ・新規ボランティア研修 3回
- ・基本活動関連研修 13回
- ・活動紹介ツアー研修 5回
- ・バリアフリー班研修 5回
- ・イベント班研修 1回
- ・ワークショップ班研修 2回
- ・スクールプログラム班研修 11回
- ・自主企画グループ研修 2回

【生涯学習ボランティアに対する解説会の実施】(以下の展示等につき実施) 計3回

- ・特別展「国宝 東寺 空海と仏像曼荼羅」
- ・特別展「三国志」
- ・特別展「出雲と大和」

【京都国立博物館】 計255人

種別 (登録人数)	概要
京博ナビゲーター (201人)	<p>京博ナビゲーター(ボランティア)が、下記の活動を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミュージアム・カートやレファレンス・コーナーにおける活動(年始を除く名品ギャラリー開室日毎日、113日、概算45,477人) ・特別展「国宝 一遍聖絵と時宗の名宝」関連ワークショップ「一遍さんを探そう!～さわって楽しむ絵巻物～」(51日、3,896人参加) ・特別展「流転100年 佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」関連ワークショップ「顔を描こう!～和歌で感じる歌仙のこころ～」(37日、5,662人参加) ・教育普及活動の補助(夏期講座) <p>そのほか、京博ナビゲーターを対象とした研修会(4日)、活動の意欲向上と相互に交流を深めることを目的とした感謝会(1日)を実施した。</p>
調査・研究支援ボランティア(22人)	各研究員の指導のもと、調査・研究支援ボランティアが収蔵品調査及び社寺調査の補助を行った。
文化財ソムリエ(21人)	<p>「文化財ソムリエ」として登録している大学生・大学院生が、当館研究員によるスクーリング(20回)を受け、下記の活動を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京都市内の小中学校への訪問授業(7回・683人) ・記者体験in京都国立博物館(1回・134人) ・KYOTO博物館子どもフォーラム「文化財に親しむ授業スペシャル!」(1回・84人) ・「文化財を教室に!～複製を活用した事例紹介と交流会～」での事例発表(1回)
京都・らくご博物館学生ボランティア(11人)	当館主催で定期的に開催する「京都・らくご博物館」において、京都女子大学落語研究会の有志が運営に協力した。

【奈良国立博物館】 計150人

種 別 (登録人数)	概 要
世界遺産グループ(47人)	<p>【世界遺産学習】</p> <p>奈良市の公立小学校5年生の受け入れ 24校 1,332人</p> <p>【学校団体案内】</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学生、中学生、高校生の受け入れ 10校 833人 <p>【イベント補助】</p> <ul style="list-style-type: none"> 奈良市教育委員会との共催イベント「親子で学ぼう 奈良の仏像」 2回 66組144人参加 <p>【その他の活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> わくわくびじゅつギャラリー「いのりの世界のどうぶつえん」の展示室内における質問対応等 295回
解説グループ(56人)	<p>【展示案内等の活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> 青銅器館のデスクでの質問対応と解説 通年 (520回) なら仏像館のデスクでの質問対応と解説 通年 (1,106回) 西新館名品展のデスクでの質問対応と解説 170回 なら仏像館定時ツアー解説 通年 (494回) わくわくびじゅつギャラリー「いのりの世界のどうぶつえん」の展示室内における質問対応等 31回 特別陳列「お水取り」ミニツアー解説 →中止
サポートグループ (47人)	<p>【教育普及事業の補助】</p> <ul style="list-style-type: none"> 公開講座の受付 10回 特別講演会の受付 1回 サンデートークの受付 11回 夏季講座の受付 3日 <p>【イベントの補助】</p> <ul style="list-style-type: none"> イベント 改元記念特別講演会「ようこそ新元号！～これまでの奈良博 これからの奈良博～」受付と補助 1回 親と子のワークショップ「オリジナル絵巻を作ろう」 受付と補助 1回 イベント「親子茶会」 受付と補助 1回 親子ワークショップ「曜変天目茶碗モチーフのアクセサリ作り」 受付と補助 1回 親子講座「どうぶつえんのわくわくガイド」 受付と補助 1回 絵本づくりワークショップ「とびだす！うごく！いのりの世界のどうぶつ」 受付と補助 1回 アンケート調査 受付と補助 14回 イベント「英語落語 in奈良国立博物館」 受付と補助 1回 第71回正倉院展親子鑑賞会 受付と補助 1回 「文化財保存修理所特別公開」受付と補助 1回 お水取り「講話」と「現地解説」の会 受付と補助 1回 <p>【館及びボランティア室の業務の補助】</p> <ul style="list-style-type: none"> 夏季講座の配布資料袋詰め作業 1回 正倉院学術シンポジウムの配布資料袋詰め作業 1回 ボランティア対象の各種研修等の受付 14回 <p>【交流チームの活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> 元年度ボランティア親睦会 1回 庭園ツアー体験会 1回 世界遺産学習体験会の実施 1回 <p>【庭園チームの活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> 春の庭園案内ガイドの実施 計3日 庭園入場者数 1,548人 秋の庭園案内ガイド実施 計2日 庭園入場者数 2,333人 仏教美術資料研究センター案内ガイドの実施 →中止 <p>【通信誌チームの活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ボランティア通信誌「ブリッジ」発行 3回

【ボランティアに対する研修の実施】 計14回

- ・名品展研修 10回
- ・特別展、特別陳列、特集展示の研修 4回

【グループ別の勉強会の実施】計31回

- ・世界遺産グループ 8回
- ・解説グループ 14回
- ・サポートグループ 9回

【各グループ共通の活動】

- ・第71回正倉院展・講堂ボランティア解説 20日 89回

【九州国立博物館】 計274人

種 別 (登録人数)	概 要
展示解説ボランティア(62人)	文化交流展示室での案内、並びに展示室内及び展示室入口において来館者の質問や案内依頼等に対応。展示案内は予約団体(一般・学校)、当日受付(個人・グループ)に対応。
教育普及ボランティア(33人)	「あじっば」で来館者への対応。 参加体験型のものづくり教室などを企画・実施。 来館者と展示物を介して交流し、体験を通してアジアの文化を伝える。

種 別 (登録人数)	概 要
館内案内日本語ボランティア(26人)	館内の概要・施設案内(ガイド)およびバックヤードツアーの案内。 館内案内は予約団体(一般・学生)、及び当日来館者に対応。 バックヤードツアーも毎週火・金曜は予約団体のみ、日曜は当日受付で実施。
館内案内外国語ボランティア(61人)	英語・韓国語・中国語での館内の概要・施設案内(ガイド)及びバックヤードツアーの案内。
環境ボランティア(26人)	IPM(総合的有害生物管理)活動に関する支援。
イベントボランティア(3人)	ボランティア主催イベントの企画・立案・実施。
資料整理ボランティア(17人)	郷土人形(土人形)の調書の作成・データ化。 あじぎやらでの郷土人形の企画展示。
サポートボランティア(11人)	ボランティア広報紙の作成(年4回)やボランティアイベント等の活動をサポート。 他部会との交流や、他館ボランティアとの交流の企画・立案・実施。
学生ボランティア(5人)	高校生・大学生によるイベントの企画・実施。
フィールドボランティア(12人)	博物館周辺の自然環境(山林及び水辺、遊歩道)の保全。
手話ボランティアグループ(18人)	地域のボランティアグループにより構成。聴覚障がいのある来館者の対応。

・この他博物館周辺の環境整備グループとして35人が活動(NPO法人「九州国立博物館を愛する会」所属のためボランティアには含まない)。
(研修)全体研修 12回、部会別研修 35回、グループ研修 72回
(対応来館者数) 展示解説(6,192人)、館内案内(7,193人)、バックヤードツアー(2,293人)

【奈良文化財研究所】 計148人

種 別 (登録人数)	概 要
解説ボランティア(148人)	平城宮跡資料館、遺構展示館、復原建物等の案内・解説

・各種ボランティアに対する学習会等
平城宮跡資料館企画展・特別展の展示研修 16回
解説ボランティア向け現地説明会 2回
解説ボランティア勉強会 5回

c 調査研究

c-① 研究交流実績一覧

1) 海外研究者招聘・受入実績（延べ人数）

令和2年3月31日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
332 人	73 人	55 人	3 人	12 人	3 人
	文化財研究所計	東京文化財研究所		奈良文化財研究所	
	170 人	22 人		148 人	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター	文化財防災ネットワーク推進本部			
	89 人	0 人			

【東京国立博物館】延べ 55人

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
1	王 卓然	中国	中国文物交流中心・プロジェクト担当	特別展「アジア文明連合展覧会」にかかる作品輸送	4月21日～4月25日
2	陸 明華	中国	上海博物館・陶磁部研究館員	特別展「十五世紀中期景德鎮陶器展」にかかる作品輸送	5月20日～5月23日
3	金 靖之	中国	上海博物館・展示部館員	特別展「十五世紀中期景德鎮陶器展」にかかる作品輸送	同上
4	陶 蘇衛	中国	蘇州博物館・副館長	日本・中国間の文化交流及び博物館展示技術に関する情報の交換、協力関係の推進のため	5月21日～5月24日
5	茅 艶	中国	蘇州博物館・副館長 研究館員	日本・中国間の文化交流及び博物館展示技術に関する情報の交換、協力関係の推進のため	同上
6	楊 芸	中国	蘇州博物館・展示設計部主任 副研究館員	日本・中国間の文化交流及び博物館展示技術に関する情報の交換、協力関係の推進のため	同上
7	沈 曉峰	中国	蘇州博物館・信息技术部副主任 副研究館員	日本・中国間の文化交流及び博物館展示技術に関する情報の交換、協力関係の推進のため	同上
8	張 涵	中国	故宮博物院・器物部館員	特別展「天下龍泉—龍泉青磁与全球化」にかかる作品輸送	6月30日～7月4日
9	王 娟	中国	故宮博物院・文物管理处館員	特別展「天下龍泉—龍泉青磁与全球化」にかかる作品輸送	同上
10	鄭 美娟	韓国	国立中央博物館・学芸研究室アジア部学芸員	東京国立博物館・大韓民国国立中央博物館間の学術交流のため	7月29日～8月11日
11	丁 鵬勃	中国	国家博物館・科学研究管理处処長	東京国立博物館・中国国家博物館間の人的交流および学術交流推進のため	8月17日～8月22日
12	王 建平	中国	国家博物館・文保院副院長	東京国立博物館・中国国家博物館間の人的交流および学術交流推進のため	同上
13	張 潤平	中国	国家博物館・藏品保管部研究館員	東京国立博物館・中国国家博物館間の人的交流および学術交流推進のため	同上
14	王 志強	中国	国家博物館・科学研究管理处副研究館員	東京国立博物館・中国国家博物館間の人的交流および学術交流推進のため	同上
15	王 洪敏	中国	国家博物館・科学研究管理处研究館員	東京国立博物館・中国国家博物館間の人的交流および学術交流推進のため	同上
16	劉 文濤	中国	南京博物院・副院長	東京国立博物館・南京博物院間の人的交流および学術交流推進のため	9月4日～9月6日
17	張 楽	中国	南京博物院・陳列芸術研究所副主任	東京国立博物館・南京博物院間の人的交流および学術交流推進のため	同上
18	蘆 小慧	中国	南京博物院・文化創意部	東京国立博物館・南京博物院間の人的交流および学術交流推進のため	同上
19	韋 剛	中国	上海博物館・展示部館員	特別展「十五世紀中期景德鎮陶器展」にかかる作品輸送	9月4日～9月7日
20	馮 澤洲	中国	上海博物館・陶磁部研究館員	特別展「十五世紀中期景德鎮陶器展」にかかる作品輸送	同上
21	沈 瓊華	中国	浙江省博物館・陶磁部主任研究館員	特別展「天下龍泉—龍泉青磁与全球化」にかかる事前調査	9月23日～9月27日
22	江 嶼	中国	浙江省博物館・陶磁部文博館員	特別展「天下龍泉—龍泉青磁与全球化」にかかる事前調査	同上
23	李 賢珠	韓国	国立中央博物館・教育文化交流団 文化交流広報課 広報専門経歴官	東京国立博物館・大韓民国国立中央博物館間の学術交流のため	9月24日～10月5日
24	Trần Thị Thúy Ngân	ベトナム	ベトナム国立歴史博物館・国際協力部	特別企画「文化財よ、永遠に」作品輸送・展示作業のため	9月25日～10月1日
25	Nguyễn Sỹ Nam	ベトナム	ベトナム国立歴史博物館・保管部	特別企画「文化財よ、永遠に」作品輸送・撤収作業のため	11月24日～11月27日
26	Aaron Rio	アメリカ	メトロポリタン美術館・日本美術担当学芸員	第6回北米・欧州ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業	2年1月31日～2月6日
27	Anne Nishimura Morse	アメリカ	ボストン美術館・ウィリアム・アンド・ヘレン・パウンズ・シニア・キュレーター（日本美術）	第6回北米・欧州ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業	同上
28	Rosina Buckland	カナダ	ロイヤルオンタリオ博物館・日本美術、文化担当学芸員	第6回北米・欧州ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業	同上

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
29	Frank Feltens	アメリカ	フリーア美術館・日本美術担当学芸員	第6回北米・欧州ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業	同上
30	Andreas Marks	アメリカ	ミネアポリス美術館・メアリー・グリッグス・パーク日本・韓国美術学芸部長、クラーク日本美術センター館長	第6回北米・欧州ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業	2年1月31日～2月3日
31	Laura Allen	アメリカ	サンフランシスコ・アジア美術館・学芸部長・キュレーター（日本美術）	第6回北米・欧州ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業	同上
32	Stephen Salel	アメリカ	ホノルル美術館・ロバート・F.ランジ財団日本美術キュレーター	第6回北米・欧州ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業	2年1月31日～2月6日
33	Sinéad Vilbar	アメリカ	クリーブランド美術館・日本美術学芸員	第6回北米・欧州ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業	同上
34	Khanh Trinh	スイス	リートベルク美術館・日本・韓国美術担当学芸員	第6回北米・欧州ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業	2年1月31日～2月3日
35	Rupert Faulkner	イギリス	ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館・東洋部日本美術担当主任学芸員	第6回北米・欧州ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業	2年1月31日～2月6日
36	Menno Fitski	オランダ	アムステルダム国立美術館・アジア部長	第6回北米・欧州ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業	同上
37	Ainura Yusupova	ロシア	プーシキン美術館・東洋絵画主任学芸員	第6回北米・欧州ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業	同上
38	Wibke Schrape	ドイツ	ハンブルク美術工芸博物館・東アジア課長	第6回北米・欧州ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業	同上
39	Daan Kok	オランダ	国立民族学博物館（ライデン）・学芸員（日本・韓国）	第6回北米・欧州ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業	同上
40	Tim Clark	イギリス	大英博物館・名誉研究員	第6回北米・欧州ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業	2年1月31日～2月3日
41	Elizaveta Vaneian	ロシア	プーシキン美術館・古代東洋美術部リサーチフェロー	第6回北米・欧州ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業	2年1月31日～2月6日
42	Nadejda Maykova	ロシア	クンсткаメラ（サンクトペテルブルク）・列品管理課長	第6回北米・欧州ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業	同上
43	Kate Newnham	イギリス	ブリストル市立美術館・シニアキュレーター（視覚芸術）	第6回北米・欧州ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業	同上
44	Greg Irvine	イギリス	ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館・東洋部日本美術担当主任学芸員	第6回北米・欧州ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業	同上
45	Bas Verberk	ドイツ	東亜美術館（ケルン）・日本美術担当学芸員	第6回北米・欧州ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業	同上
46	Cora Würmell	ドイツ	ドレスデン博物館・東アジア陶磁担当学芸員	第6回北米・欧州ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業	同上
47	Mio Wakita-Elis	オーストラリア	オーストラリア応用美術館・アジア美術担当学芸員	第6回北米・欧州ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業	同上
48	Karwin Cheung	スコットランド	スコットランド国立博物館・アシスタントキュレーター（東・中央アジア）	第6回北米・欧州ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業	同上
49	Alban von Stockhausen	スイス	ベルン歴史博物館・民俗コレクション担当学芸員	第6回北米・欧州ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業	同上
50	Shinoda Yayoi	アメリカ	ネルソン・アトキンス美術館・学芸アシスタント（東アジア美術）	第6回北米・欧州ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業	同上
51	Rhiannon Paget	アメリカ	ジョン・アンド・メープル・リングリング・ミュージアム・オブ・アート（フロリダ州）・アジア美術担当学芸員	第6回北米・欧州ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業	同上
52	Mary Redfern	アイルランド	チェスター・ピーティ・東洋美術担当学芸員	第6回北米・欧州ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業	同上
53	Manuela Moscatiello	フランス	チェルヌスキ美術館・日本美術担当	第6回北米・欧州ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業	同上
54	Gwen Adams	カナダ	ロイヤルオンタリオ博物館・所蔵品取扱担当者（アジア）	第6回北米・欧州ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業	同上
55	Hollis Goodall	アメリカ	ロサンゼルス・カウンティ美術館・キュレーター（日本美術）	第6回北米・欧州ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業	同上

【京都国立博物館】 3人

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
1	メアリー・レウィン	アメリカ	カルフォルニア大学バークレー校東洋美術史博士後期課程	特別研究員として	4月1日～5月17日
2	趙 豊	中国	中国国立シルク博物館長	学術交流のため	8月25日～8月31日
3	ロバート・ミンツ	アメリカ	サンフランシスコ・アジア美術館副館長	連携に関する打合せ	9月7日

【奈良国立博物館】 延べ 12人

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
1	翟 紅志	中国	河南博物院 院長補佐	博物館における文化財の調査研究及び保存・展示の協力関係を推進するため	5月7日～5月21日
2	常 国富	同上	河南博物院 総務課長	同上	同上
3	黄 銀順	韓国	国立慶州博物館 学芸研究官	文化財の調査及び研究交流	5月24日～8月20日

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
4	褚 暁波	中国	上海市文化と旅游局副局長 上海市文物局副局長	博物館における文化財の調査研究及び保存・展示等の協力関係を推進するため	8月29日～9月2日
5	欧 暁川	同上	上海市文化と旅游局 文物保護管理处副処長	同上	同上
6	趙 恬君	同上	上海市文化と旅游局 博物館管理处主任科員	同上	同上
7	李 峰	同上	上海博物館 副館長	同上	同上
8	徐 立芸	同上	上海博物館 文化交流弁公室副主任	同上	同上
9	孔 寧	同上	上海博物館 館務秘書	同上	同上
10	閔 丙贊	韓国	国立慶州博物館 館長	第71回正倉院展視察並びに当館職員との意見交換のため	10月24日～10月26日
11	沈 承煥	同上	国立慶州博物館 企画運営課長	同上	同上
12	Robert Singer	アメリカ	ロサンゼルスカウンティ・ミュージアム日本館 館長	作品輸送の随伴、開梱立ち会い	12月16日～12月21日

【九州国立博物館】 延べ 3人

	氏名	国名	所属機関・役職	用務	期間
1	金 東完	韓国	国立公州博物館学芸研究士	学術文化交流協定に基づく研究者等の交流	5月23日～6月5日
2	鄭 炫	同上	国立扶餘博物館学芸研究士	同上	同上
3	潘偉斌	中国	河南省文物考古研究所	国際シンポジウム 特別展「三国志」記念特別講演会、「鉄鏡検討会」のため	12月13日～17日

【東京文化財研究所】 延べ 22人

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
1	Aranzazu Blat Burgues	カタル 国籍 (スペイン)	カタル博物館イスラム美術館	ICCROM国際研修「紙の保存と修復」参加のため。	9月8日～9月27日
2	Mariia Borysenko	ウクライナ	The National Conservation Area "St. Sophia of Kiev" 国立保存修復所"St. Sophia of Kiev" 科学修復部	同上	同上
3	Claudia Giostrella	イタリア	文化財・文化活動省 ピサ及びリヴォルノ県考古学・美術・景観監督局	同上	同上
4	Rosaleen Hill	カナダ	クイーンズ大学	同上	同上
5	Lindsey Hobbs	アメリカ	ニューヨーク市立公文書館	同上	同上
6	Kate Hughes	オーストラリア	ニューサウスウェールズ州立図書館	同上	同上
7	Yuyang Liu	香港	香港大学図書館	同上	同上
8	Clodagh Neligan	アイルランド	ダブリン大学トリニティカレッジ図書館	同上	同上
9	Matthias Sotiras	イギリス 国籍 (フランス)	大英博物館	同上	同上
10	Kristina Virro	エストニア	タルトゥ大学図書館	同上	同上
11	Ubaldo Cesareo	イタリア	アーカイブズ・書籍資料保存修復中央研究所	佐藤科研「DNA塩基配列情報に基づく文化財害虫の新規データベース構築」の研究遂行のための研究協力。	7月30日～8月12日
12	Yeshi Samdrup	ブータン	ブータン政府内務文化省 文化局 遺産保存課	「ブータンの歴史的建造物保存活用に関する拠点交流事業 第1回専門家会議」参加、発表のため。	6月23日～6月28日
13	Pema Wangchuk	ブータン	同上	同上	6月23日～6月28日
14	Firas Dadoukh	シリア	シリア・アラブ共和国 古物博物館総局	シリア人専門家研修(歴史的都市および建築物の復興に向けた調査計画手法)参加のため。	7月23日～8月6日
15	Muad Ghanem	シリア	同上	同上	7月23日～8月6日
16	José Luiz Pedersoli Júnior	イタリア 国籍 (ブラジル)	文化遺産国際協力センター(イクロム)	ICCROM国際研修「紙の保存と修復」参加のため。	9月21日～9月28日
17	Paolo Cremonesi	イタリア	フリーランス	「クリーニング材料・方法のワークショップ」参加のため。	10月5日～10月12日
18	Manijeh Hadian Dehkordi	イラン	文化遺産観光研究所	「博物館の環境管理に関するイラン人専門家研修」参加のため。	11月24日～11月30日
19	Parastou Naeimi Taraei	イラン	同上	同上	同上
20	Fereshteh Zokaei	イラン	イラン国立博物館	同上	同上
21	Maryam Ahmadi	イラン	同上	同上	同上
22	Giovanni Boccardi	フランス	ユネスコパリ文化局 防災担当主任	化遺産国際協カコンソーシアム研究会「文化遺産とSDGs 11—世界では、いま何が語られているのか—」での講演のため。	1月29日～2月1日

【奈良文化財研究所】 延べ 148人

※部分について…E U一般データ保護規則により氏名・役職は非公開とする(対象E E A加盟国)

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
1	※	イギリス	セインズベリー日本藝術研究所 ※	共同研究打合せ	4月2日

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
2	※	イギリス	Queen's College ※	シンポジウム発表、研究打合せ	4月3日～4月10日
3	※	イギリス	ヨーク大学 ※	シンポジウム発表、研究打合せ	4月3日～4月13日
4	李匡梯	台湾	中央研究院・研究員	シンポジウム発表、研究打合せ	4月4日～4月9日
5	趙志軍	中国	中国社会科学院考古研究所科技考古中心・副主査	共同研究	4月5日～4月9日
6	※	イギリス	ケンブリッジ大学 ※	シンポジウム発表、研究打合せ	4月5日～4月9日
7	Surat Lertlum	タイ	CRMAリサーチセンター・所長	奈文研訪問、ワークショップ	5月14日
8	※	フランス	College de France ※	奈文研訪問、木簡見学	5月15日
9～14	Sodbaatar Yangug ほか5人	モンゴル	ハラホリン市議	平城地区、飛鳥・藤原地区視察及び所長面談	5月19日～5月21日
15	王金華	中国	復旦大学文物与博物館学系・教授	共同研究	5月30日～6月5日
16	陳嘉琦	中国	復旦大学文物与博物館学系・博士課程・学生	共同研究	5月30日～6月5日
17	黄銀順	韓国	国立慶州博物館・學藝研究官	平城宮跡、周辺見学	6月19日
18	メルセデス・オクムラ	ブラジル	サンパウロ大学・講師	国際遺跡研究セミナー参加	6月24日
19～22	※ 4人	イギリス	セインズベリー日本藝術研究所 ※	セミナー開催、斑鳩地区・飛鳥地区視察	6月25日～6月26日
23	※	イギリス	ケンブリッジ大学 ※	資料調査	7月8日～7月19日
24	Joshua D. Englehardt	メキシコ	考古学研究センター・教授	木簡見学、打ち合わせ	7月9日
25～27	Fadjar I. Thufail、Marsis Sutopo、Isnri Wahyuningsih 3人	インドネシア	インドネシア科学院・研究員	国際遺跡研究セミナー参加	7月10日
28～32	段清波 ほか4人	中国	西北大学 文化遺産学院・院長	保存修復科学研究室訪問	7月18日
33、34	ハイルロ・イバイドゥラエフ ほか1人	キルギス	スライマントー国立歴史考古博物館科学課歴史室・副課長	ACCU個別テーマ研修2019「博物館収蔵品の記録と保存活用」	7月25日、26、31～8/2
35、36	ボボムロ・ボボムロエフ ほか1人	タジキスタン	タジキスタン国立考古博物館考古室・研究員	ACCU個別テーマ研修2019「博物館収蔵品の記録と保存活用」	7月25日、26、31～8/2
37、38	パフティヤール・コドジャエフ ほか1人	ウズベキスタン	ウズベキスタン国立歴史博物館貨幣調査室・貨幣コレクション担当学芸員	ACCU個別テーマ研修2019「博物館収蔵品の記録と保存活用」	7月25日、26、31～8/2
39	※	イギリス	ケンブリッジ大学 ※	打合せ、資料調査	7月29日～7月31日
40	Bryan D.	アメリカ	プリンストン大学・助教授	表敬訪問、研究交流	7月31日
41～89	※ 49人	イタリア	ICOM-CC、事務局ほか	ICOM-CCオフサイトミーティング、施設見学	9月5日
90～92	Nguyen Thanh Quang ほか2人	ベトナム	タンロン・ハノイ文化財保存センター・副センター長	所長表敬・施設見学	9月5日
93	馬宝杰	中国	遼寧省文物考古研究院・院長	共同研究	9月6日～9月11日
94	郭明	中国	遼寧省文物考古研究院・副研究館員	共同研究	9月6日～9月11日
95	柏芝萌	中国	遼寧省文物考古研究院・副研究館員	共同研究	9月6日～9月11日
96	陈建立	中国	北京大学考古文博学院・教授	共同研究	9月6日～9月11日
97	カズイム・アブドゥラエフ	トルコ	イスタンブール大学芸術学部・上級研究員	壁画の保存修復事業に関する研究会で講演、及び報告書作成の打ち合わせ	10月26日～11月3日
98	周振宇	中国	中国社会科学院考古研究所・副研究員	共同研究	11月1日～12月1日
99	唐錦琼	中国	中国社会科学院考古研究所・副研究員	共同研究	11月1日～12月1日
100～119	潘蓉 ほか19人	中国	杭州市都市計画設計研究院・副総技師	奈良の文化財の保存、遺跡の保護について視察	11月26日
120～125	丁焄 ほか5人	中国	天津大学・副教授	平城宮・京における建築史研究に関する意見交換	12月6日
126、127	金武重 ほか1人	韓国	元中原文化財研究院長	研究発表、古代官衙研究会に参加	12月12日～12月14日
128	魏興濤	中国	河南省文物考古研究院・研究員	共同研究	12月16日～12月20日
129	趙文軍	中国	河南省文物考古研究院・研究員	共同研究	12月16日～12月20日
130	慕俊紅	中国	河南省文物考古研究院・副主任	共同研究	12月16日～12月20日
131	閔海濤	中国	河南省文物考古研究院・助理館員	共同研究	12月16日～12月20日
132	郭子樺	中国	河南省文物局・副主任科員	共同研究	12月16日～12月20日
133	※	イギリス	ヨーク大学 ※	日本学術振興会外国人招へい研究者(短期)	1月5日～4月4日
134	ONGGAR AKAN	カザフスタン	カザフスタン国立博物館民族遺産研究所・所長	考古遺物の調査・記録・保存方法に関するセミナー	1月17日～1月26日
135	ASSYLBEKOV KALIBEK	カザフスタン	カザフスタン国立博物館民族遺産研究所・上級研究員	考古遺物の調査・記録・保存方法に関するセミナー	1月17日～1月26日
136	KAIRMAGAMBEV ARKHAT	カザフスタン	カザフスタン国立博物館考古資料応急処置室・室長	考古遺物の調査・記録・保存方法に関するセミナー	1月17日～1月26日
137	RAKHIMZHANOVA SAULE	カザフスタン	カザフスタン国立博物館考古資料応急処置室・研究員	考古遺物の調査・記録・保存方法に関するセミナー	1月17日～1月26日
138	DOSSAYEVA DANA	カザフスタン	カザフスタン国立博物館保存修復室・室長	考古遺物の調査・記録・保存方法に関するセミナー	1月17日～1月26日
139	ALIMGAZYEVA ZHANSAYA	カザフスタン	カザフスタン国立博物館保存修復室・修復家	考古遺物の調査・記録・保存方法に関するセミナー	1月17日～1月26日
140	李在暎	韓国	中央大学校人文大学歴史学科・助教授	施設・資料見学、研究交流	1月22日

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
141	※	リトアニア	ヴィリニウス大学 ※	アドバイザー・ミーティング	1月22日～1月27日
142	※	ドイツ	マックス・プランク人類学研究所 ※	アドバイザー・ミーティング	1月22日～1月27日
143	Paula Dupuy	カザフスタン	ナザルバエフ大学文化人類学(考古学)科・准教授	アドバイザー・ミーティング	1月22日～1月27日
144	韓志仙	韓国	国立文化財研究所・学藝研究士	施設・研究交流	2月3日～2月7日
145	鄭修鈺	韓国	国立完州文化財研究所・学藝研究士	施設・研究交流	2月3日～2月7日
146	姜素英	韓国	国立文化財研究所・学藝研究士	施設・研究交流	2月3日～2月7日
147、148	孫戦偉 ほか1人	中国	陝西省考古研究院	整理室見学	2月12日

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】延べ 89人

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
1	Ritthirong Jiwakanon	タイ	Director, The Institute of Thai Studies, Chulalongkorn University, Thailand	IRCI訪問、意見交換	5月22日
2	Arthit Thongtak	同上	Deputy Director, The Institute of Thai Studies, Chulalongkorn University, Thailand	同上	同上
3	Suebpong Changboonchu	同上	同上	同上	同上
4	Pram Sounsamut	同上	同上	同上	同上
5	Sergio Ribeiro	ブラジル	Director General, International Centre on Water and Transdisciplinarity (CIRAT)	IRCI訪問、意見交換	6月4日
6	Hanafi Bin Hussin	マレーシア	Deputy Dean, Department of Social Advancement and Happiness, University of Malaya	研究機関との組織的連携による研究情報の持続的収集事業 2019年度第一回ワーキンググループ 会合出席	6月26日～27日
7	Aye Aye Thinn	ミャンマー	Director, National Museum (Nay Pyi Taw), Department of Archaeology and National Museum, Ministry of Religious Affairs and Culture	同上	同上
8	Mahirta	インドネシア	Head of Programme, Post Graduate Study Programme in Archaeology, Gadjah Mada University	同上	同上
9	Bui Hoai Son	ベトナム	Director, Vietnam National Institute of Culture and Arts Studies (VICAS)	同上	同上
10	Nguyen Thi Thu Trang	同上	Chief, Intangible Cultural Heritage Management Division, Department of Cultural Heritage, Ministry of Culture, Sports and Tourism	同上	同上
11	Ana Maria Theresa P. Labrador	フィリピン	Assistant Director, National Museum of the Philippines	同上	同上
12	Tiamsoon Sirisrisak	タイ	Director, Thammasat University Museum of Anthropology, Faculty of Sociology and Anthropology	同上	同上
13	Susan McIntyre-Tamwoy	オーストラリア	Associate Director, Navin Officer Heritage Consultants Pty Ltd	IRCI研究データベース改善のためのワーキンググループ会合出席	7月22日～23日
14	Mya Mya Khin	ミャンマー	Professor and Head of Anthropology Department, University of Yangon	同上	同上
15	Hlaing Hlaing Gyi	同上	Head Librarian, University of Yangon	同上	同上
16		アフガニスタン		Working Group Session for Study of Emergency Protection of Intangible Cultural Heritage in Conflict-Affected Countries in Asia 出席	7月31日～8月3日
17		同上		同上	同上
18		同上		同上	同上
19		同上		同上	同上
20		同上		同上	同上
21	Chang Hwee Nee	シンガポール	CEO, National Heritage Board (NHB)	今後の事業協力についての打ち合わせ	9月4日
22	Gerald Wee	同上	Director of Museums and International Affairs, National Heritage Board (NHB)	同上	同上
23	Ong Jia Jing	同上	Assistant Manager, National Heritage Board (NHB)	同上	同上
24	Bulent Bankaci	トルコ	Secretary General, Sabanci Museum	AVICOM関係者としてIRCI訪問、意見交換	9月5日
25	Muumh Iznlr	コスタリカ	UNAM CR	同上	同上
26	Sergei Mikhailov	ロシア	CTO, INTMEDIA	同上	同上
27	Denise Tonella	スイス	CURATOR, SWISS NATIONAL MUSEUM	同上	同上

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
28	Futaba Ueki	フランス	Producer, U&A	同上	同上
29	TaAiona Fialkova	ロシア	Dy director, Intmedia (Institute medit)	同上	同上
30	Sevtap Aytug	トルコ	Assoc.Prof., Head of New media department Uşak University	同上	9月5日
31	Paula Amaral	ブラジル	Museum of Modern Art of São Paulo	同上	同上
32	Himalchuli Gurung	中国	Programme Specialist for Culture, UNESCO Beijing Office	第八回アジア太平洋無形文化遺産研究センター運営理事会出席	11月11日
33	Ling Zhang	中国	Director, Division of International Organizations, Bureau for International Exchanges and Cooperation, Ministry of Culture and Tourism of the People' s Republic of China	同上	11月11日
34	Dong-dae Kim	韓国	Director of the Department of World Heritage Team, Cultural Heritage Administration of the Republic of Korea	同上	同上
35	Olympia Esel Morei	パラオ	Director, Belau National Museum, Republic of Palau	同上	同上
36	Chen Hu	中国	Division of International Organizations, Bureau for International Exchanges and Cooperation, Ministry of Culture and Tourism of the People' s Republic of China	第八回アジア太平洋無形文化遺産研究センター運営理事会出席	11月11日
37	Hyung-bin Park	韓国	Senior Researcher, World Heritage Division, Cultural Heritage Administration of the Republic of Korea	同上	同上
38	Yajuan Chen	中国	Director of the General Office, International Training Center for Intangible Cultural Heritage in the Asia-Pacific Region (CRIHAP)	同上	同上
39	Huan Yang	同上	Administrative Specialist, General Office, International Training Center for Intangible Cultural Heritage in the Asia-Pacific Region (CRIHAP)	同上	同上
40	Xuan Shi	同上	Training programme Specialist, General Office, International Training Center for Intangible Cultural Heritage in the Asia-Pacific Region (CRIHAP)	同上	同上
41	Boyoung Cha	韓国	Director, Office of Planning and Management, International Information and Networking Center for Intangible Cultural Heritage in the Asia-Pacific Region (ICHCAP)	同上	同上
42	Soyoung Min	同上	Assistant Programme Specialist, Office of Planning and Management, International Information and Networking Center for Intangible Cultural Heritage in the Asia-Pacific Region (ICHCAP)	同上	同上
43	Sebeen Hwang	同上	Project Consultant, Office of Planning and Management, International Information and Networking Center for Intangible Cultural Heritage in the Asia-Pacific Region (ICHCAP)	同上	同上
44	Pham Thi Thuy Chung	ベトナム	Researcher, Vietnam Museum of Ethnology (VME)	「無形文化遺産の持続可能な開発への貢献に関する複合領域的研究 - 教育を題材として」事業国際ワークショップ出席	11月28日～29日
45	Vu Hong Nhi	同上	Researcher/Deputy Head of Education Department, Vietnam Museum of Ethnology (VME)	「無形文化遺産の持続可能な開発への貢献に関する複合領域的研究 - 教育を題材として」事業国際ワークショップ出席	11月28日～29日
46	Vu Phuong Nga	同上	Researcher/Deputy Head of the Audio-visual Department, Vietnam Museum of Ethnology (VME)	同上	同上
47	Nguyen Thi Hong Van	同上	Deputy Director, Scientific Research Management, Training and International Cooperation, Vietnam Institute of Educational Sciences (VNIES)	同上	同上
48	Luong Viet Thai	同上	Deputy Director, Research Management, International Relations and Training Department, Vietnam Institute of Educational Sciences (VNIES)	同上	同上

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
49	Bui Thanh Xuan	同上	Deputy Director, Research Division for Continuing Education, Vietnam Institute of Educational Sciences (VNIES)	同上	同上
50	Renee Talavera	フィリピン	Head, Cultural Communities and Traditional Arts Section, National Commission for Culture and the Arts (NCCA)	同上	同上
51	Nilda Mangilay	同上	Subanen Cultural Master, National Commission for Culture and the Arts (NCCA)	同上	同上
52	Renefe Tremedal	同上	SLT Learning Guide Local Project Coordinator, National Commission for Culture and the Arts (NCCA)	同上	同上
53	Duong Bich Hanh	タイ	Programme Specialist for Culture, UNESCO Bangkok	同上	同上
54	Ehsanur Rahman	バングラデシュ	Executive Director, Dhaka Ahsania Mission (DAM)	「無形文化遺産の持続可能な開発への貢献に関する複合領域的研究 - 教育を題材として」事業国際ワークショップ陪席	11月28日～29日
55	Kristian Apriyanta	インドネシア	Representative, Indonesia: Dewi Fortuna Community Learning Center	同上	同上
56	Almagul Osmonova	キルギス共和国	Director, Taalim-Forum public foundation	同上	同上
57	Ming Chee Ang	マレーシア	General Manager, George Town World Heritage Incorporated	同上	同上
58	Duong Bich Hanh	タイ	Culture Program Officer, UNESCO Bangkok Office, Thailand	国際研究者フォーラム「無形文化遺産研究の展望—持続可能な社会にむけて」出席	12月17日～18日
59	Lourdes Zorilla-Hinampas	フィリピン	Chief Language Researcher, Speech and Grammar Division, Commission on the Filipino Language, Philippines	同上	同上
60	Li Fei	中国	Associate Professor, Sichuan University, China	同上	同上
61	Vicente Miguel Diaz	アメリカ合衆国	Associate Professor, Department American Indian Studies, University of Minnesota Twin-Cities, USA	同上	同上
62	Kai U. P. Weise	ネパール	President, ICOMOS (International Council on Monuments and Sites) Nepal, Nepal	同上	同上
63	Norma Absing Respicio	フィリピン	Professor Emeritus, Faculty of Art Studies, College of Arts and Letters, University of Philippines Diliman, Philippines	同上	同上
64	Sandra Lee Morrison	ニュージーランド	Associate Professor, Faculty of Māori & Indigenous Studies, University of Waikato, New Zealand	同上	同上
65	Laretna Trisnantari Adishakti	インドネシア	Lecturer, Center for Heritage Conservation, Department of Architecture and Planning, Gadjah Mada University, Indonesia	同上	同上
66	Munirah Binti Ghazali	マレーシア	Professor, School of Educational Studies, University of Science-Malaysia, Malaysia	同上	同上
67	Jeslie del Ayre	フィリピン	Language Researcher, Speech and Grammar Division, Commission on the Filipino Language, Philippines	国際研究者フォーラム「無形文化遺産研究の展望—持続可能な社会にむけて」陪席	同上
68	Ge Yuqing	中国	Director of Training Division, International Training Center for Intangible Cultural Heritage in the Asia-Pacific Region (CRIHAP), China	同上	同上
69	Liu Guozheng	同上	Training Programme Specialist, CRIHAP, China	同上	同上
70	Shi Xuan	同上	同上	同上	同上
71	Seo Jin Young	韓国	Assistant Programme Specialist, Office of Cooperation and Networking, International Information and Networking Centre for Intangible Cultural Heritage in the Asia-Pacific Region (ICHCAP), Republic of Korea	国際研究者フォーラム「無形文化遺産研究の展望—持続可能な社会にむけて」陪席	12月17日～18日
72		アフガニスタン		IRCI Discussion on the Study of Emergency Protection of Intangible Cultural Heritage in Afghanistan出席	12月24日～25日

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
73		同上		同上	同上
74	Akhan Onggaruly	カザフスタン	The head of the Research Institute of the National heritage	カザフスタン国立博物館 民族遺産研究所長Akhan Onggaruly氏との打ち合わせ	1月21日
75	Nguyen Thi Hien	ベトナム	Deputy Director, Vietnam National Institute of Culture and Arts Studies (VICAS)	「アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する調査研究」研究機関との組織的連携による研究情報の持続的収集事業 2019年度第二回ワーキンググループ 会合出席	2月4日～5日
76	Mahirta	インドネシア	Professor, Gadjah Mada University, Department of Archeology	同上	同上
77	Hanafi Hussin	マレーシア	Deputy Dean, Department of South East Asian Studies, Faculty of Arts and Social Sciences, University of Malaya	同上	同上
78	Nerupama Y. Modwel	同上	Principal Director of ICH Division (INTACH), INTACH	「アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する調査研究」研究機関との組織的連携による研究情報の持続的収集事業 2019年度第二回ワーキンググループ 会合出席	同上
79	Ms Saera Habib	バングラデシュ	Assistant Director, Bangla Academy	同上	同上
80	Mr S.M Shamim Akter	バングラデシュ	Assistant Director, Bangladesh Shilpakala Academy	同上	同上
81		アフガニスタン		IRCI Working Group Session for Study of Emergency Protection of Intangible Cultural Heritage in Conflict-Affected Countries in Asia (Bamiyan, Afghanistan) 出席	3月10日～13日
82		同上		同上	同上
83		同上		同上	同上
84		同上		同上	同上
85		同上		同上	同上
86		同上		同上	同上
87		同上		同上	同上
88		同上		同上	同上
89		同上		同上	同上

【文化財防災ネットワーク推進本部】0人

2) 他機関の共同研究への参画実績

科学研究費助成事業の研究分担者等として参画（延べ人数）

令和2年3月31日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
120人	55人	18人	10人	14人	13人
	文化財研究所計	東京文化財研究所		奈良文化財研究所	
	65人	27人		38人	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター	0人			

【東京国立博物館】延べ 18人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	東京藝術大学美術学部	基盤研究(C)美術解剖学教育の交流と展開—独、UK、USA、NZの教育・研究の比較を通して	東京藝術大学美術学部助教 宮永美知代	学芸企画部上席研究員 木下史青
2	京都国立博物館	河内地域の仏教文化と歴史に関する総合的研究	京都国立博物館長 佐々木丞平	企画課長 浅見龍介
3	大阪大学	3次元データに基づく人工知能による仏顔の様式研究	大阪大学教授 藤岡穰	企画課長 浅見龍介
4	東京大学	西洋中世における境界地域の統治システムに関する比較史的研究	東京大学大学院人文社会系研究科文学部教授 高山博	企画課特別展室アソシエイトフェロ— 村松綾
5	慶應義塾大学	「博物館の新たな在り方を模索するための体験学習・ワークショップ評価の構築」	慶應義塾大学特任講師 烏谷真佐子	博物館情報課情報管理室主任研究員 阿児雄之
6	国立歴史民俗博物館	「総合資料学の創成と日本歴史文化に関する研究資源の共同利用基盤構築」	国立歴史民俗博物館長 久留島浩	博物館情報課情報管理室主任研究員 阿児雄之
7	東京大学史料編纂所	撰関家伝来史料群の研究資源化と伝統的公家文化の総合的研究	東京大学史料編纂所教授 尾上陽介	東京国立博物館百五十年史編纂室長 恵美千鶴子
8	東京大学史料編纂所	東博所蔵写真史料（高精細データ）の解析	東京大学史料編纂所 所長 保谷徹	東京国立博物館百五十年史編纂室主任研究員 遠藤菜子
9	奈良国立博物館	明治時代の文化財保護法制と帝国博物館の成立に関する総合的研究	奈良国立博物館学芸部資料室長 宮崎幹子	学芸研究部特任研究員 田良島 哲
10	東京女子大学	平安時代における「国風」的文化現象についての学際的研究	東京女子大学教授 佐藤全敏	列品管理課平常展調整室長 皿井舞
11	大阪大学	3次元データに基づく人工知能による仏顔の様式研究	大阪大学教授 藤岡穰	列品管理課平常展調整室長 皿井舞
12	天理大学	基盤研究B「地中海東岸地域における青銅器・鉄器時代移行期の再検討」	天理大学教授 桑原久男	列品管理課平常展調整室研究員 小野塚拓造
13	上智大学	基盤研究B「古代西アジアにおける宗教と福祉の相互関係をめぐる総合的実証研究」	上智大学特任教授 月本昭男	列品管理課平常展調整室研究員 小野塚拓造
14	立教大学、Tel Aviv University	日本学術振興会二国間交流事業（共同研究・セミナー）「王国から行政州へ—鉄器時代からペルシア時代のイスラエル北部の考古学的研究」	立教大学教授 長谷川修一、Tel Aviv University Prof. Yuval Gadot	列品管理課平常展調整室研究員 小野塚拓造
15	九州国立博物館	アジアの文化財の伝統的製作・修理技法の詳細調査と国際修理プロジェクトへの応用	町田市立博物館長、愛知県陶磁美術館総長 伊藤嘉章	調査研究課長 河野一隆
16	九州国立博物館	平成31年度基盤研究(B)「公武の信仰を統合した足利将軍家の宗教政策からみる室町時代の宗教絵画の包括的研究」(19113559、2019年度～2021年度)	九州国立博物館主任研究員 畑靖紀	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員 鷲頭桂
17	筑波大学	平成31年度基盤研究(B)「『儒教美術史』構築のための発展的研究—東アジア文化圏の構造解釈と研究資源化」(19090313、2019年度～2023年度)	筑波大学芸術学系助教 水野裕史	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員 鷲頭桂、東洋室長 勝木言一郎
18	奈良国立博物館	高雄曼荼羅の復元と空海の造形観の研究	奈良国立博物館長 松本伸之	保存修復課環境保存室長 和田浩

【京都国立博物館】延べ 10人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	北海道大学	ミュージアムの新たな評価手法構築に関する実践研究—社会価値と事業改善に着目して	文学研究科教授 佐々木亨	総務課専門職員 関谷泰弘
2	奈良大学	富山・本法寺蔵「法華経曼荼羅図」の総合的研究	文学部教授 原口志津子	学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊
3	奈良国立博物館	高雄曼荼羅の復元と空海の造形観の研究	館長 松本伸之	学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊
4	京都大学	東アジア美術における伝説の表象	人文科学研究科教授 稲本泰生	学芸部保存修理指導室長 大原嘉豊
5	奈良県立橿原考古学研究所	三次元デジタル・アーカイブを活用した青銅器製作技術解明の総合的研究	企画部資料課係長 水野敏典	学芸部考古室主任研究員 古谷毅
6	東京文化財研究所	対外交流史の視点によるアジア螺鈿の総合的研究—大航海時代を中心に—	文化財情報資料部広領域研究室長 小林公治	学芸部列品管理室主任研究員 末兼俊彦

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
7	東京国立博物館	近世狩野派を中心とした図様継承と絵画制作システムに関する研究	学芸研究部部長 田沢裕賀	学芸部美術室研究員 福士雄也
8	東京国立博物館	失われた古代・中世絵巻の復元的研究-作品伝来情報の検討から-	学芸企画部主任研究員 土屋貴裕	学芸部企画室研究員 井並林太郎
9	大阪大谷大学	新義真言系聖教の形成と教学的交流に関する基礎的研究	文学部教授 宇都宮啓吾	学芸部美術室長 羽田聡
10	早稲田大学	中世仏教美術における霊性の発生と継承に関する基礎的研究	文学学術院教授 山本聡美	学芸部企画室研究員 井並林太郎

【奈良国立博物館】 延べ 14人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	九州大学	唐絵の中の朝鮮絵画—半島由来絵画の越境移動と受容史に関する包括的研究—	教授 井手誠之輔	教育室長 谷口耕生
2	九州大学	唐絵の中の朝鮮絵画—半島由来絵画の越境移動と受容史に関する包括的研究—	教授 井手誠之輔	情報サービス室主任研究員 北澤菜月
3	京都大学	東アジア美術における仏伝の表象	教授 稲本泰生	教育室長 谷口耕生
4	京都大学	東アジア美術における仏伝の表象	教授 稲本泰生	情報サービス室長 岩井共二
5	北海道博物館	X線CTを核としたアイヌ民族資料の保存修復に関する研究	学芸員 杉山智昭	保存修理指導室長 鳥越俊行
6	高野山大学	海洋交易路における仏教流伝形態の研究	名誉教授 松長有慶	学芸部長 内藤栄
7	東京国立博物館	文化財情報資源の探索と発見のためのデータ連携に関する研究	学芸企画部博物館情報課情報管理室長 村田良二	資料室長 宮崎幹子
8	大阪大学	3次元データに基づく人工知能による仏顔の様式研究	教授 藤岡謙	美術室長 岩田茂樹
9	大阪大学	3次元データに基づく人工知能による仏顔の様式研究	教授 藤岡謙	保存修理指導室長 鳥越俊行
10	大阪大学	3次元データに基づく人工知能による仏顔の様式研究	教授 藤岡謙	企画室主任研究員 山口隆介
11	奈良大学	X線CTを核にした3Dデータの活用に基づく文化財の新研究基盤創設	教授 今津節生	保存修理指導室長 鳥越俊行
12	奈良大学	古代～中世の「鍮石」と「真鍮」の研究—金に等しい価値があったころ—	名誉教授 西山要一	企画室長 野尻忠
13	東京文化財研究所	対外交流史の視点によるアジア螺鈿の総合的研究-大航海時代を中心に-	室長 小林公治	保存修理指導室長 鳥越俊行
14	島根大学	器物の「伝世・長期保存」・「復古再生」の実証的研究と倭における王権の形成・維持	准教授 岩本崇	列品室長 吉澤 悟

【九州国立博物館】 延べ 13人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	奈良大学	古代～中世の「鍮石」と「真鍮」の研究—金に等しい価値があったころ—	名誉教授 西山要一	学芸部企画課特別展室研究員 望月規史
2	東京大学史料編纂所	撰閣家伝来史料群の研究資源化と伝統的公家文化の総合的研究	教授 尾上陽介	館長 島谷弘幸
3	京都府立大学	対馬に所在する中国・朝鮮伝来経典の総合的研究	文学部教授 横内裕人	学芸部文化財課資料登録室研究員 松浦晃佑
4	奈良国立博物館	高雄曼荼羅の復元と空海の造形観の研究	館長 松本伸之	学芸部長 小泉惠英
5	東京国立博物館	文化財情報資源の探索と発見のためのデータ連携に関する研究	学芸企画部博物館情報課情報管理室長 村田良二	本部文化財活用センターデジタル資源担当専門職(併)学芸部文化財課 竹内俊貴
6	東京国立博物館	近世狩野派を中心とした図様継承と絵画制作システムに関する研究	学芸研究部長 田沢裕賀	学芸部文化財課主任研究員 山下善也
7	同上	同上	同上	学芸部文化財課資料管理室主任研究員 畑靖紀
8	国立民族学博物館	博物館における持続可能な資料管理および環境整備—保存科学の視点から	人類基礎理論研究部教授 園田直子	学芸部博物館科学課長兼環境保全室長 木川りか
9	大阪大学	地方基幹寺院に於ける文献資料調査と経蔵ネットワークの研究	文学研究科招へい研究員 中山一磨	学芸部文化財課資料登録室主任研究員 森實久美子
10	九州大学	唐絵の中の朝鮮絵画—半島由来絵画の越境移動と受容史にかんする包括的研究—	人文科学研究院教授 井手誠之輔	学芸部文化財課資料管理室主任研究員 畑靖紀
11	同上	同上	同上	学芸部文化財課資料登録室主任研究員 森實久美子
12	東京外国語大学	東南アジア「古代史」の下限としての14・15世紀に関する地域・分野横断的研究	総合国際学研究院教授 青山亨	学芸部文化財課長 原田あゆみ
13	東京文化財研究所	浮世絵版画の染料同定と摺り技術の解明	保存科学研究センター客員研究員 貴田啓子	学芸部博物館科学課環境保全室主任研究員 秋山純子

【東京文化財研究所】 延べ 27人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	早稲田大学	エジプト、ルクソール西岸の新王国時代岩窟墓の形成と発展に関する調査研究	文学学術院 教授 近藤 二郎	文化遺産国際協力センター 研究員 前川 佳文
2	東京藝術大学	光に脆弱な文化財材料の光劣化機構の研究—低酸素環境での劣化挙動と波長依存性—	大学院美術研究科 准教授 塚田 全彦	保存科学研究センター センター長 佐野 千絵

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
3	法政大学	能楽及び能楽研究の国際的的定位と新たな参照標準確立のための基盤研究	能楽研究所 教授 山中 玲子	特任研究員 高桑 いづみ
4	筑波大学	アンコール遺跡群における石材劣化の新展開とその集学的研究	芸術系 教授 松井 敏也	保存科学研究センター 客員研究員 片山 葉子
5	東京国立博物館	平等院鳳凰堂空間の荘厳と機能に関する総合的研究	学芸研究部 調査研究課 絵 画・彫刻室 主任研究員 皿井 舞	保存科学研究センター 副センター 長 早川 泰弘
6	東京国立博物館	平等院鳳凰堂空間の荘厳と機能に関する総合的研究	学芸研究部 調査研究課 絵 画・彫刻室 主任研究員 皿井 舞	文化財情報資料部 専門職員 城野 誠治
7	京都大学	歴史的組積造建物及び遺跡の塩類風化メカニズム解明と予防的保存対策の開発	工学研究科 教授 小椋 大輔	保存科学研究センター 研究員 水 谷 悦子
8	千葉大学	デザイン実装を目的とした歴史的人工物に集積されるアイデア・工夫のモジュール化	大学院工学研究院 教授 久保 光徳	無形文化遺産部 主任研究員 今石 みぎわ
9	奈良大学	古代～中世の「鍬石」と「真鍬」の研究—金に等しい価値があったころ—	名誉教授 西山 要一	保存科学研究センター 副センター 長 早川 泰弘
10	九州国立博物館	アジアの文化財の伝統的製作・修理技法の詳細調査と国際修理プロジェクトへの応用	客員研究員 伊藤 嘉章	保存科学研究センター 修復材料研 究室長 早川 典子
11	徳島大学	伊能図の成立過程に関する学際的研究—忠敬没後200年目の地図学史的検証—	大学院社会産業理工学研究部 非常勤講師 平井 松午	保存科学研究センター 副センター 長 早川 泰弘
12	大阪大学	美術市場とその国際化に関する制度論的、交流史的研究。西洋から日本・アジアへの展開	文学研究科 教授 園府寺 司	文化財情報資料部 研究員 安永 拓世
13	東海大学	天文学との連携にもとづく考古学・古代史学研究法の構築	文学部 教授 北條 芳隆	無形文化遺産部 音声映像記録研 究室長 石村 智
14	愛知県立芸術大学	膠を中心とする伝統的材料の持続性に関する調査研究および研究ネットワーク形成	美術学部 教授 北田 克己	保存科学研究センター 修復材料研 究室長 早川 典子
15	愛知県立芸術大学	膠を中心とする伝統的材料の持続性に関する調査研究および研究ネットワーク形成	美術学部 教授 北田 克己	保存科学研究センター 客員研究員 宇高 健太郎
16	早稲田大学	デジタル・アーカイブを活用した最盛期義太夫節浄瑠璃作品の総合的研究	坪内博士記念演劇博物館 名誉 教授 鳥越 文蔵	無形文化遺産部 特任研究員 飯島 満
17	大谷大学	モンゴルの世界遺産ブルカン・カルドウン山に関する歴史文献学及び文化遺産学的研究	社会学部 教授 松川 節	文化財情報資料部 文化財情報研 究室長 二神 葉子
18	龍谷大学	文化財建造物の伝統的塗装彩色材料・技術の系譜解明と修理施工・資料活用に関する研究	文学部 教授 北野 信彦	保存科学研究センター 保存担当室 長 吉田直人
19	東京国立博物館	失われた古代・中世絵巻の復原的研究—作品伝来情報の検討から—	学芸企画部企画課 主任研究員 土屋 貴裕	文化財情報資料部 日本東洋美術史 研究室長 小林 達朗
20	東京国立博物館	失われた古代・中世絵巻の復原的研究—作品伝来情報の検討から—	学芸企画部企画課 主任研究員 土屋 貴裕	文化財情報資料部研究員 安永 拓 世
21	東海大学	「模する」技術の発展と伝統的習俗の変容についての学際的研究	工学部 助教 野口 直人	無形文化遺産部 主任研究員 今石 みぎわ
22	金沢大学	中東部族社会の起源:アラビア半島先原史遊牧文化の包括的研究	名誉教授 藤井 純夫	文化遺産国際協力センター 研究員 安倍 雅史
23	岡山大学	心・身体・社会をつなぐアート/技術	社会文化科学研究科 教授 松 本 直子	無形文化遺産部 音声映像記録研 究室長 石村 智
24	日本女子大学	長唄の旋律形成に関する学際的研究	文学部 学術研究員 配川 美 加	特任研究員 高桑 いづみ

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
25	日本女子大学	長唄の旋律形成に関する学際的研究	文学部 学術研究員 配川 美加	無形文化遺産部 客員研究員 星野厚子
26	茨城大学	内生細菌共生維持機構を利用して微生物に潜在機能を付与する技術の開発	農学部 准教授 西澤 智康	保存科学研究センター 主任研究員 佐藤 嘉則
27	東京農工大学	真菌類が硫化カルボニル代謝により気体状硫黄を固定する生理的意義と代謝経路の解明	(連合)農学研究科(研究院) 教授 吉田 誠	保存科学研究センター 客員研究員 片山 葉子

【奈良文化財研究所】延べ 38人

○科学研究費補助金 延べ 31人

	機関名	研究課題	代表者名	分担者名
1	東京大学	天皇家・公家文庫収蔵資料の高度利用化と日本目録学の進展— 知の体系の構造伝来の解明	教授 田島 公	都城発掘調査部史料研究室長 馬場 基
2	琉球大学	蒙古襲来沈没船の保存・活用に関する学際研究	教授 池田 栄史	埋蔵文化財センター長 高妻 洋成
3	琉球大学	蒙古襲来沈没船の保存・活用に関する学際研究	教授 池田 栄史	埋蔵文化財センター保存修復科学 研究室研究員 柳田 明進
4	京都大学	古代「仏都圈」の社会と文化に関する地域史的・比較的研究	教授 吉川 真司	都城発掘調査部上席研究員 山本 崇
5	駒澤大学	前近代人物情報論の構築にむけた花押・筆跡の網羅的収集と汎 用的利用に関する研究	教授 林 謙	企画調整部文化財情報研究室 研究員 高田 祐一
6	駒澤大学	前近代人物情報論の構築にむけた花押・筆跡の網羅的収集と汎 用的利用に関する研究	教授 林 謙	都城発掘調査部史料研究室研究員 山本 祥隆
7	福岡大学	新・日韓交渉の考古学—弥生時代—	教授 武末 純一	企画調整部国際遺跡研究室長 庄田 慎矢
8	愛媛大学	4カ国アルタイ地域を対象とした初期鉄器時代の鉄器生産に関 する実証的研究	教授 村上 恭通	都城発掘調査部主任研究員 丹羽 崇史
9	東京大学	統合史資料画像データの生成と駆動方式の確立による人文科学 研究基盤の創出	助教 山田 太造	都城発掘調査部史料研究室長 馬場 基
10	国立歴史民俗博物 館	考古学・人類学・文化財科学の学際的研究による縄文社会論の 再構築	教授 山田 康弘	埋蔵文化財センター 環境考古学研究室長 山崎 健
11	国立科学博物館	ホモ・サピエンス躍進の初源史：東アジアにおける海洋進出の はじまりを探る総合的研究	グループ長 海部 陽介	都城発掘調査部考古第一研究室 研究員 芝 康次郎
12	京都大学	古代・中世東西回廊—東南アジア大陸部交流網の歴史的動態	研究員 柴山 守	企画調整部国際遺跡研究室専門職 佐藤 由似
13	東北大学	年輪幅・酸素安定同位体比標準年輪曲線ネットワーク構築とそ れに基づく木材産地推定	助教 大山 幹成	埋蔵文化財センター 年代学研究室長 星野 安治
14	名古屋大学	古代における谷底平野および周辺丘陵部の開発と宗教施設の 展開に関する研究	准教授 梶原 義実	都城発掘調査部考古第二研究室長 尾野 善裕
15	東京医療保健大学	古代食の総合的復元による食生活と疾病の関係解明	准教授 三舟 隆之	都城発掘調査部史料研究室長 馬場 基
16	東京医療保健大学	古代食の総合的復元による食生活と疾病の関係解明	准教授 三舟 隆之	都城発掘調査部考古第二研究室 研究員 小田 裕樹
17	東京医療保健大学	古代食の総合的復元による食生活と疾病の関係解明	准教授 三舟 隆之	埋蔵文化財センター 環境考古学研究室長 山崎 健
18	鳴門教育大学	中南米熱帯収束帯の年輪気候学と14C Bombシリーズの構築	教授 米延 仁志	埋蔵文化財センター 年代学研究室長 星野 安治
19	帝京大学	牛馬文化の渡来と変容過程の解明による新たな列島史像の構 築	准教授 植月 学	企画調整部国際遺跡研究室長 庄田 慎矢
20	埼玉大学	初期遊牧社会における社会複雑化とユーラシア東西交易路の 復原に関する包括的研究	准教授 中村 大介	都城発掘調査部考古第一研究室 研究員 田村 朋美
21	京都大学	歴史的組積建造物及び遺跡の塩類風化メカニズム解明と予防 的保存対策の開発	教授 小椋 大輔	埋蔵文化財センター主任研究員 脇谷 草一郎
22	鹿児島大学	小規模島嶼群における文化適応と潜在性の考古学的研究	助教 新里 貴之	企画調整部国際遺跡研究室長 庄田 慎矢
23	東京大学	古代東アジアにおける建築技術体系・技術伝播の解明と日本建 築の特質	准教授 海野 聡	都城発掘調査部遺構研究室 アソシエイトフェロー 李 暉
24	岩手大学	複数遺跡関連性調査のための石器接合資料生成自動化と接合 手順可視化手法の確立	教授 今野 晃市	埋蔵文化財センター客員研究員 野口 淳
25	大谷大学	モンゴルの世界遺産ブルカン・カルドゥン山に関する歴史文献 学及び文化遺産学的研究	教授 松川 節	埋蔵文化財センター遺跡・調査技 術研究室研究員 山口 啓志
26	京都大学	「消滅」首長墳の再評価による古墳時代研究資料の基盤整備	助教 阪口 英毅	都城発掘調査部主任研究員 廣瀬 覚
27	東海大学	東南アジア港市の船体考古資料調査と保存研究	講師 木村 淳	埋蔵文化財センター長 高妻 洋成
28	近畿大学	X線CTを用いた多孔質材料内部の歪の分布測定と熱&水分移 動・応力・歪連成解析	准教授 安福 勝	埋蔵文化財センター主任研究員 脇谷 草一郎
29	北陸学院大学	民族考古学と化学分析からさぐる生業活動の諸相	教授 小林 正史	企画調整部国際遺跡研究室長 庄田 慎矢
30	東京大学	アジアにおけるホモ・サピエンス定着プロセスの地理的編年的 枠組み構築	教授 西秋 良宏	企画調整部長 加藤 真二
31	南山大学	三次元データベースと数理解析・モデル構築による分野統合的 研究の促進	教授 中尾 央	埋蔵文化財センター遺跡・調査技 術研究室長 金田 明大

○学術研究助成基金助成金 延べ 7人

	機関名	研究課題	代表者名	分担者名
1	大阪大学	東部モンゴル新発見の突厥・ウイグル期の定住遺跡に関する歴史・考古学的調査研究	教授 大澤 孝	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室研究員 山口 欧志
2	早稲田大学	衛星画像のGIS分析による隋唐都城とシルクロード都市の空間構造の比較考古学的研究	教授 城倉 正祥	都城発掘調査部考古第二研究室研究員 山藤 正敏
3	奈良女子大学	玉類の流通からみた威信財システム脱却過程に関する考古学的研究	特任講師 大賀 克彦	都城発掘調査部考古第一研究室研究員 田村 朋美
4	慶應義塾大学	博物館の新たな在り方を模索するための体験学習・ワークショップ評価の構築	特任講師 鳥谷 真佐子	埋蔵文化財センター客員研究員 野口 淳
5	島根大学	化学分析と数理統計解析に基づく高精度かつ簡便な考古学石材の原産地推定法の確立	教授 亀井 淳志	都城発掘調査部考古第一研究室研究員 芝 康次郎
6	大阪市立自然史博物館	自然史系文化財を社会の中で維持・保全できるか？次世代ネットワーク管理の模索	課長代理 佐久間 大輔	埋蔵文化財センター環境考古研究室アソシエイトフェロー 松崎 哲也
7	帝塚山学院大学	災害伝承を活用した災害復興と持続可能性に関する研究	教授 安田 政彦	埋蔵文化財センター客員研究員 上相 英之

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】0人

3) 研究者海外派遣実績（延べ人数）

令和2年3月31日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
447人	160人	78人	18人	33人	31人
	文化財研究所計	東京文化財研究所		奈良文化財研究所	
	248人	115人		133人	
	本部文化財活用センター	アジア太平洋無形文化遺産研究センター	文化財防災ネットワーク推進本部		
10人	14人		15人		

【本部文化財活用センター】

○職員旅費：延べ 9人

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
1	小林 牧	韓国	5月15日～5月17日	博物館教育国際シンポジウム出席のため	招へい共通事業費	
2	樋口 理央	中国	8月20日～8月25日	2019年中国留学経験者訪中団に参加のため	文化財活用センター事務部門運営費	
3	松嶋 雅人	オーストリア	2年1月14日～1月19日	デジタルコンテ事業視察	文化財活用センター企画部門運営費	
4	高木 結美	オーストリア	2年1月14日～1月20日	デジタルコンテ事業視察	同上	
5	松沼 穂積	オーストリア	2年1月14日～1月20日	デジタルコンテ事業視察	同上	
6	小林 牧	イギリス	2年2月22日～2月28日	貸与促進事業調査	文化財活用センター事務部門運営費	
7	救仁郷 秀明	イギリス	2年2月22日～3月1日	貸与促進事業調査	文化財活用センター調査研究事業費	
8	高橋 美奈子	イギリス	2年2月22日～3月1日	貸与促進事業調査	文化財活用センター企画部門運営費	
9	曾田 めぐみ	イギリス	2年2月22日～3月1日	貸与促進事業調査	同上	

○その他：延べ1人

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
1	吉田 直人	台湾	10月29日～11月1日	国際フォーラムでの発表及び意見交換	先方負担（人間文化研究機構）	

【東京国立博物館】延べ 78人（科学研究費助成事業を除く）

（参考：科学研究費助成事業を含む合計人数は89人）

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
1	ミウオシュ・ヴ オズニ	スペイン	4月3日～4月8日	IEO（国際展覧会マネージャー・コーディネーター）の会議、美術館の視察	自己収入	
2	銭谷 眞美	中国	4月10日～4月13日	中国国家博物館「シルクロード国立博物館館蔵精品展」開会式出席、国際博物館長フォーラム出席	同上	
3	富田 淳	中国	4月10日～4月13日	中国国家博物館「シルクロード国立博物館館蔵精品展」の開会式に出席する銭谷館長の随行のため	同上	
4	楊 銳	中国	4月10日～4月13日	中国国家博物館「シルクロード国立博物館館蔵精品展」の開会式に出席する銭谷館長の随行のため	同上	
5	ミウオシュ・ヴ オズニ	イギリス	4月21日～4月27日	展覧会準備のための調査・打ち合わせ	同上	
6	今井 敦	イギリス	4月21日～4月27日	展覧会準備のための調査・打ち合わせ	同上	
7	楊 銳	中国	4月23日～4月25日	浙江省博物館に作品貸与のための事前環境調査	同上	
8	小野塚 拓造	イギリス	4月21日～4月27日	展覧会準備のための調査・打ち合わせ	同上	
9	銭谷 眞美	中国	5月27日～5月29日	「15世紀中期景徳鎮展磁器大展」開会式出席	同上	
10	猪熊 兼樹	韓国	6月7日～6月11日	館蔵の東洋民族資料の研究のため	同上	
11	和田 浩	イタリア	6月30日～7月4日	本館13室展示ケース製作の打合せおよび製作工場視察	運営費交付金	
12	矢野 賀一	イタリア	6月30日～7月4日	本館13室展示ケース製作の打合せおよび製作工場視察	同上	
13	白澤 利紀	イタリア	6月30日～7月4日	本館13室展示ケース製作の打合せおよび製作工場視察	同上	
14	齋藤 薫	イタリア	6月30日～7月4日	本館13室展示ケース製作の打合せおよび製作工場視察	同上	
15	楊 銳	中国	7月9日～7月12日	「世界の龍泉：龍泉青磁とグローバリゼーション」展示作業のため	自己収入	
16	勝木 言一郎	マレーシア	7月23日～7月27日	特別企画「モノでみるイスラーム世界（仮称）」開催に向けた文化財調査	文化財保存活用基金	
17	猪熊 兼樹	マレーシア	7月23日～7月27日	特別企画「モノでみるイスラーム世界（仮称）」開催に向けた文化財調査	同上	
18	田沢 裕賀	タイ	7月31日～8月3日	バンコク国立博物館の展示の安全対策に関する調査	補助金	
19	和田 浩	タイ	7月31日～8月3日	バンコク国立博物館の展示の安全対策に関する調査	同上	
20	黄川田 翔	タイ	7月31日～8月3日	バンコク国立博物館の展示の安全対策に関する調査	同上	
21	矢野 賀一	タイ	7月31日～8月3日	バンコク国立博物館の展示の安全対策に関する調査	同上	
22	富田 淳	中国	8月2日～8月11日	「中国書跡コレクションの調査研究」のため	自己収入	
23	鷺頭 桂	台湾	9月4日～9月8日	鹿島美術研究助成金にかかる作品調査	助成金	
24	丸山 士郎	ベトナム	9月22日～9月25日	特別企画「文化財よ、永遠に」借出・梱包等作業のため	同上	
25	荒木 臣紀	ドイツ	10月17日～10月21日	デジタルエックス線撮影システムの受光部品選定試験のため	運営費交付金	
26	矢野 賀一	イタリア	10月20日～10月25日	本館13室展示ケース製作の打合せおよび製作工場視察	同上	
27	勝木 言一郎	マレーシア	10月28日～11月2日	ANMA会議出席およびイスラーム美術館展の打ち合わせのため	自己収入	
28	井上 洋一	マレーシア	10月28日～11月2日	ANMA会議出席およびイスラーム美術館展の打ち合わせのため	同上	
29	富田 淳	マレーシア	10月28日～11月2日	ANMA会議出席およびイスラーム美術館展の打ち合わせのため	同上	
30	楊 銳	マレーシア	10月28日～11月2日	ANMA会議出席およびイスラーム美術館展の打ち合わせのため	同上	
31	君波 妙子	マレーシア	10月28日～11月2日	ANMA会議出席およびイスラーム美術館展の打ち合わせのため	同上	

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
32	ハーモン レベッカ	マレーシア	10月28日～11月2日	ANMA会議出席およびイスラム美術館展の打ち合わせのため	同上	
33	銭谷 眞美	マレーシア	10月29日～11月2日	ANMA会議出席およびイスラム美術館展の打ち合わせのため	同上	
34	松岡 広樹	マレーシア	10月29日～11月2日	ANMA会議出席およびイスラム美術館展の打ち合わせのため	同上	
35	和田 浩	アメリカ	11月5日～11月7日	Materials Testing Symposiumへの参加	受託研究費収入	
36	福島 修	オランダ・ドイツ・ポルトガル	11月5日～11月15日	特別展ジバング展の作品調査並びに出陳交渉のため	運営費交付金	
37	矢野 賀一	イタリア	11月10日～11月16日	本館防水他改修工事に伴う展示ケース工場視察	同上	
38	瀬谷 愛	イギリス	11月11日～11月12日	展示設備の調査研究	同上	
39	品川 欣也	イタリア	11月11日～11月16日	本館防水他改修工事に伴う展示ケース工場視察	同上	
40	佐藤 寛介	イタリア	11月11日～11月16日	本館防水他改修工事に伴う展示ケース工場視察	運営費交付金	
41	福島 修	中国	11月18日～11月25日	中国・上海博物館と当館との2019年度学術交流のため	自己収入	
42	市元 壘	韓国	11月19日～11月26日	韓国・国立中央博物館と当館との2019年度学術交流のため	同上	
43	丸山 士郎	ベトナム	11月26日～11月29日	特別企画「文化財よ、永遠に」返却作業のため	助成金	
44	内 誠	中国	11月27日～11月29日	2022年故宮展関係の表敬訪問	運営費交付金	
45	富田 淳	中国	11月27日～11月29日	2022年故宮展関係の表敬訪問	同上	
46	楊 銳	中国	11月27日～11月29日	2022年故宮展関係の表敬訪問	同上	
47	銭谷 眞美	中国	11月27日～11月29日	2022年故宮展関係の表敬訪問	同上	
48	大橋 美織	アメリカ	11月30日～12月7日	着物展にかかる調査・打ち合わせ	受託研究費収入	
49	ミウオシュ・ヴオズニ	アメリカ	11月30日～12月8日	着物展にかかる調査・打ち合わせ	同上	
50	河野 一隆	アメリカ	12月3日～12月6日	「北米欧州ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業」に係る作品調査	補助金	
51	河野 正訓	アメリカ	12月3日～12月7日	「北米欧州ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業」に係る作品調査	同上	
52	山本 亮	アメリカ	12月3日～12月8日	「北米欧州ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業」に係る作品調査	同上	
53	韓 知延	イギリス	12月3日～12月9日	イギリスの博物館における多言語化調査	自己収入	
54	三笠 景子	韓国	12月6日～12月13日	韓国・国立中央博物館と当館との2019年度学術交流のため	同上	
55	和田 浩	ハンガリー	2年1月5日～1月10日	ハンガリー国立博物館他展示安全対策調査	補助金	
56	黄川田 翔	ハンガリー	2年1月5日～1月10日	ハンガリー国立博物館他展示安全対策調査	同上	
57	六人部 克典	ハンガリー	2年1月5日～1月10日	ハンガリー国立博物館他展示安全対策調査	同上	
58	矢野 賀一	ハンガリー	2年1月5日～1月10日	ハンガリー国立博物館他展示安全対策調査	同上	
59	野中 昭美	イギリス	2年1月8日～1月12日	管理棟修理室に導入予定のレーザークリーナー購入に伴う製品確認のため	自己収入	
60	相川 悠	イギリス	2年1月8日～1月12日	管理棟修理室に導入予定のレーザークリーナー購入に伴う製品確認のため	同上	
61	丸山 士郎	中国	2年1月12日～1月18日	四川省所在の仏教彫刻調査のため	同上	
62	増田 政史	中国	2年1月13日～1月18日	四川省所在の仏教彫刻調査のため	同上	
63	小野塚 拓造	エジプト・キプロス	2年1月17日～1月25日	イスラム関係の史跡、博物館の視察	文化財保存活用基金	
64	和田 浩	ベルギー・オランダ	2年1月26日～1月30日	メイヴァート社視察及びアムステルダム展示調査	運営費交付金	
65	矢野 賀一	ベルギー・オランダ	2年1月26日～1月30日	メイヴァート社視察及びアムステルダム展示調査	同上	
66	鷲頭 桂	アメリカ	2年1月26日～2月2日	鹿島美術研究助成金にかかる作品調査	助成金	
67	三笠 景子	ドイツ	2年1月29日～2月2日	展示ケース製作検査及び展示調査	運営費交付金	
68	皿井 舞	ドイツ	2年1月29日～2月2日	展示ケース製作検査及び展示調査	運営費交付金	
69	神辺 知加	マレーシア	2年2月3日～2月5日	イスラム美術館展の打ち合わせのため	文化財保存活用基金	
70	勝木 言一郎	マレーシア	2年2月3日～2月5日	イスラム美術館展の打ち合わせのため	文化財保存活用基金	
71	和田 浩	ポルトガル	2年2月4日～2月8日	ICOM-GC Joint Interim Meeting への参加	受託研究費収入	
72	黄川田 翔	フランス	2年2月8日～2月14日	収蔵の安全対策に関する調査	補助金	
73	六人部 克典	フランス	2年2月9日～2月14日	収蔵の安全対策に関する調査	補助金	
74	猪熊 兼樹	韓国	2年2月12日～2月16日	館蔵の東洋民族資料の研究のため	自己収入	
75	六人部 克典	台湾	2年2月17日～2月20日	収蔵の安全対策に関する調査	補助金	
76	黄川田 翔	台湾	2年2月17日～2月20日	収蔵の安全対策に関する調査	同上	
77	飯田 茂雄	アメリカ	2年2月18日～2月22日	「北米欧州ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業」に係る作品調査	補助金	
78	市元 壘	アメリカ	2年2月18日～2月22日	「北米欧州ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業」に係る作品調査	補助金	

○科学研究費助成事業：延べ11人

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
1	瀬谷 愛	アメリカ	5月26日～6月1日	「Prince Shōtoku: The Secrets Within」Study Dayにおける口頭発表・科研にかかる調査研究のため	科学研究費	
2	中村 麻友美	韓国	6月26日～6月30日	中村科研(若手: 展示解説の研究)にかかる調査のため	同上	
3	金 玄歌	韓国	6月26日～6月30日	中村科研(若手: 展示解説の研究)にかかる調査のため	同上	
4	小野塚 拓造	イスラエル	8月8日～8月31日	小野塚科研(若手B:フェニキ人の「出現」)にかかる調査のため	同上	
5	猪熊 兼樹	ベトナム	8月13日～8月19日	猪熊科研(基盤C: 東アジア礼制)にかかる調査のため	同上	
6	河野 一隆	インドネシア	8月18日～8月25日	河野(一隆)分担金_伊藤科研及び河野(一隆)科研基(基盤C: ハマ高原の装飾古墳)にかかる調査のため	同上	
7	大橋 美織	韓国	9月18日～9月20日	大橋科研(若手: 江戸時代後期_風景表現)にかかる調査のため	同上	
8	小山 弓弦葉	オランダ	10月27日～11月4日	小山科研(基盤A: 日本染織コレクション)にかかる調査のため	同上	
9	瀬谷 愛	フランス	11月12日～11月15日	瀬谷科研(基盤C: 中世律宗絵画)にかかる調査のため	同上	
10	大橋 美織	アメリカ	2年1月23日～1月28日	大橋科研(若手: 江戸時代後期_風景表現)にかかる調査研究	同上	
11	河野 正訓	韓国	2年2月11日～2月13日	河野(正訓)科研基(若手: 農耕具_古代東アジア)にかかる調査のため	同上	

【京都国立博物館】延べ 18人

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
1	栗原 祐司	韓国、中国	5月16日～5月20日	韓国博物館協会第13回国際会議（韓国）、湖南省博物館の日記念国際フォーラム（中国）	先方負担（韓国博物館協会、湖南省博物館）	
2	栗原 祐司	フランス	6月9日～6月14日	ICOM本部打合せ	先方負担（ICOM日本委員会）	
3	関谷 泰弘	フランス	6月9日～6月15日	ICOM本部打合せ	先方負担（ICOM日本委員会）	
4	呉 孟晋	台湾	6月28日～7月1日	シンポジウム「日殖時期現代文藝の共時與差異論壇」での発表	先方負担（国立台湾美術館）	
5	呉 孟晋	台湾	7月25日～7月30日	“Research and Exchange for International Curation on East Asian Painting with a Workshop”への参加・発表	先方負担（国立故宮博物院）	
6	降幡 順子	スペイン	9月13日～9月20日	“European Meeting on Ancient Ceramic 2019”への参加・発表	科研費	
7	リンネ マリサ	オランダ	10月27日～11月4日	「日本染織コレクションの形成とその美術価値の確立に関する研究」にかかる研究協力・通訳のため	先方負担（東博）	
8	栗原 祐司	韓国	10月24日～10月27日	第7回ANMA（アジア国立博物館長会議）参加のため	先方負担（ICHCAP）	
9	栗原 祐司	マレーシア	10月28日～11月3日	第7回ANMA（アジア国立博物館長会議）参加のため	先方負担（ICOM京都大会組織委員会）	
10	末兼 俊彦	ギリシャ	11月17日～11月23日	「在欧日本仏教の包括的調査・デジタル化とそれぞれに基づくジャポニズムの総合研究」にかかる協力	先方負担（九博）	
11	岡田 愛	ギリシャ	11月17日～11月23日	「在欧日本仏教の包括的調査・デジタル化とそれぞれに基づくジャポニズムの総合研究」にかかる協力	先方負担（九博）	
12	栗原 祐司	カンボジア	11月24日～11月27日	アセアン10カ国における文化遺産の継承と博物館の新しい役割のための拠点交流事業	先方負担（上智大学）	
13	呉 孟晋	中国	11月26日～12月2日	嶺南画派記念館「先声：高剣父芸術研究国際学術検討会」広州美術学院画像と歴史高等研究院・芸術と人文学院「社会変動中の現代芸術と視覚文化」での発表	先方負担（広州美術学院）	
14	リンネ マリサ	アメリカ	12月8日～12月19日	「日本染織コレクションの形成とその美術価値の確立に関する研究」にかかる通訳及びサンフランシスコ・アジア美術館との打合せ	先方負担（東博）、運営費交付金	
15	栗原 祐司	中国	2年1月13日～1月15日	中国C2センター（ORIHAP）運営理事会	先方負担（CRIHAP）	
16	呉 孟晋	アメリカ	2年1月27日～2月1日	“Where the Truth Lies: The Art of Qiu Ying” 展出品作品輸送のため	先方負担（ロサンゼルス・カウンティ美術館）	
17	呉 孟晋	台湾	2年2月6日～2月9日	「線条至網路：陳澄波与他的書画收藏」特展関連講座での発表	先方負担（国立国父紀念館）	
18	栗原 祐司	オーストラリア	2年3月6日～3月12日	多文化共生・移民博物館に関する調査	先方負担（日本博物館協会）	

【奈良国立博物館】延べ 33人

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
1	鳥越 俊行	韓国	7月17日～7月31日	国立慶州博物館との協定に基づく学術交流	他機関負担	国立慶州博物館他（韓国）
2	渡部 珠代	中国	7月25日～8月4日	上海博物館との協定に基づく学術交流	同上	上海博物館他（中国）
3	佐藤 稜介	同上	同上	同上	同上	同上
4	松木 悠	同上	同上	同上	同上	同上
5	翁 みほり	韓国	11月30日～12月23日	国立慶州博物館との協定に基づく学術交流	同上	国立慶州博物館他（韓国）

・その他の調査等のための海外渡航実績

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
1	松本 伸之	アメリカ	4月7日～4月11日	クリーブランド美術館神道展レセプション	職員旅費	クリーブランド美術館
2	堀内 しきぶ	同上	同上	同上	職員旅費	同上
3	山口 隆介	同上	5月8日～5月27日	クリーブランド美術館神道展にかかる集荷・輸送随行・現地での展示作業立会等	他機関負担	同上
4	三本 周作	同上	5月14日～5月27日	クリーブランド美術館神道展にかかる作品輸送随行・展示替え作業立ち会い等	同上	同上
5	谷口 耕生	同上	5月16日～5月26日	クリーブランド美術館神道展展示替え作業等	同上	同上
6	北澤 菜月	同上	5月20日～5月26日	仏教絵画の調査及び撮影	他機関負担	クリーブランド美術館、メトロポリタン美術館
7	萩谷 みどり	同上	同上	同上	同上	同上
9	吉澤 悟	中国	6月9日～7月1日	「大シルクロード展」（仮）の出陳作品選定と出陳交渉およびシルクロード現地調査	職員旅費	国家博物館 中国社会科学院考古研究所 他
8	内藤 栄	中国	6月20日～6月24日	染織技法による仏像調査、シンポジウム参加	科学研究費	南京博物館、南京市博物館、杭州シルクロード博物館
9	岩井 共二	中国	6月23日～7月1日	「大シルクロード展」（仮）の出陳作品選定	職員旅費	伊犁州博物館 他

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
				と出陳交渉およびシルクロード現地調査		
10	野尻 忠	中国	6月26日～6月28日	上海博物館特別展 東山魁夷唐招提寺御影堂障壁画展」の打ち合わせ	他機関負担	上海博物館
11	岩田 茂樹	アメリカ	6月28日～7月16日	クリーブランド美術館神道展作品撤収・輸送立会、仏教美術調査	他機関負担／職員旅費	クリーブランド美術館、シカゴ美術館
12	三本 周作	アメリカ	7月4日～7月17日	クリーブランド美術館神道展にかかる撤収作業立ち会い・作品輸送随行	他機関負担	クリーブランド美術館
13	谷口 耕生	アメリカ	7月4日～7月13日	クリーブランド美術館神道展にかかる撤収作業立ち会い・作品輸送随行	他機関負担	クリーブランド美術館
14	内藤 栄	中国	7月26日～8月1日	染織技法による仏像調査	科学研究費	ウルムチ州立博物館 他
15	谷口 耕生	イギリス	8月5日～8月10日	ロイヤルコレクショントラスト蔵古写真に関する調査	科学研究費	ウィンザー城 他
16	宮崎 幹子	同上	同上	同上	同上	同上
17	山口 隆介	同上	同上	同上	同上	同上
18	内藤 栄	中国	8月16日～8月18日	刺繍作品調査	科学研究費	保利芸術博物館、中国国家博物館、首都博物館
19	谷口 耕生	中国	8月31日～9月4日	文化財調査	他機関負担	木井寺 他
20	吉澤 悟	オランダ	9月8日～9月14日	科研の調査	科学研究費	ライデン民族学博物館 他
21	北澤 菜月	アメリカ	9月18日～9月23日	科研「唐画のなかの朝鮮絵画」にかかる文化財調査	科学研究費	フリアギャラリー
22	野尻 忠	中国	12月6日～12月10日	上海博物館「鑑真和上と唐招提寺東山魁夷作品展」の展示作業補助	他機関負担	上海博物館
23	清水 健	中国	12月9日～12月11日	「鑑真和上と唐招提寺東山魁夷作品展」に係る展示作業	他機関負担	上海博物館
24	松本 伸之	中国	12月14日～12月17日	講演会・「鑑真和上と唐招提寺東山魁夷作品展」に出席	他機関負担	上海博物館
25	内藤 栄	中国	12月14日～12月22日	科研「染織技法による仏像」調査、上海博物館特別展「鑑真和上と唐招提寺東山魁夷作品展」開幕式参加・講演会	科学研究費／他機関負担	上海博物館、成都市博物館
26	野尻 忠	中国	1月11日～1月14日	上海博物館「鑑真和上と唐招提寺東山魁夷作品展」展の展示作業補助	他機関負担	上海博物館
27	北澤 菜月	台湾	2月9日～2月11日	科研「唐画のなかの朝鮮絵画」にかかる文化財調査	科学研究費	台北故宫博物院
28	山口 隆介	アメリカ	2月11日～2月16日	科研にかかる文化財調査及び資料調査	科学研究費	Asian Art Museum

【九州国立博物館】延べ 31人

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
1	佐々木 蘭貞	韓国	4月23日～4月26日	国際会議「水中遺跡の保存処理」に参加するため	他機関負担	
2	佐々木 蘭貞	ベトナム	5月3日～5月11日	ベトナム・ハティン省及びケアン省ラム川河口部における水中考古学調査	他機関負担	
3	木川 りか	スウェーデン	5月19日～5月26日	科研【基盤(C)】「ガラス外壁を有する博物館建造物における衝突野鳥の傾向分析と適合する対策の検討」に係る学会参加・情報収集・協議	科学研究費助成事業	
4	渡辺 祐基	スウェーデン	同上	【科研(若手研究)】「博物館における文化財害虫管理への個体群動態モデルの応用」に係る学会参加・情報収集・協議	科学研究費助成事業	
5	島谷 弘幸	アメリカ	6月2日～6月6日	カルコン・シンポジウム及び関連施設等視察	他機関負担	
6	佐々木 蘭貞	フランス	6月16日～6月23日	ユネスコ会議出席のため	受託費	
7	川村 佳男	中国	6月18日～6月23日	特別展「三国志」展示物の集荷・点検	他機関負担	
8	畑 靖紀	台湾	7月25日～7月31日	東アジア絵画に関する国際学術研究交流とワークショップへの出席	他機関負担	
9	原田 あゆみ	インドネシア	8月18日～8月24日	【科研(基盤A)】「東南アジア「古代史」の下限としての14・15世紀に関する地域・分野横断的研究」に係る調査	科学研究費助成事業	
10	秋山 純子	韓国	8月27日～9月1日	【科研(基盤C)】「様々な文化財に使用された彩色材料への赤外線画像による面的調査の検討」に係る打ち合わせ、学会発表および情報収集	科学研究費助成事業	
11	畑 靖紀	アメリカ	9月12日～9月26日	【科研(基盤A)】「唐絵の中の朝鮮絵画—半島由来絵画の越境移動と受容史に關する包括的研究—」に係る中国・朝鮮絵画の作品調査	自己収入、科学研究費助成事業	

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
12	桑原 有寿子	中国	9月15日～9月20日	【科研（基盤A）】「アジアの文化財の伝統的製作・修理技法の詳細調査と国際修理プロジェクトへの応用」に係る調査研究および保存環境調査/内蒙古博物院における打ち合わせおよび内蒙古文物考古研究所における調査	科学研究費助成事業	
13	大橋 有佳	韓国	10月7日～10月13日	日韓学術文化交流協定に基づき、大韓民国の博物館等施設において、学術研究および博物館活動に関する情報収集・交換を行う	自己収入、他機関負担	

14	齋部 麻耶	韓国	同上	同上	他機関負担	アジア文化交流センター負担
15	志賀 智史	ベトナム	10月13日～10月19日	【科研（基盤A）】「アジアの文化財の伝統的製作・修理技法の詳細調査と国際修理プロジェクトへの応用」に関する調査・情報収集	科学研究費助成事業	
16	西島 亜木子	台湾	11月4日～11月8日	2019 First International Conference on Cultural Accessibility and Social Inclusion参加及び教育普及事業調査	他機関負担	
17	島谷 弘幸	韓国	12月2日～12月3日	国立中央博物館特別展「加耶」開幕式出席および視察	自己収入	
18	大澤 信	韓国	同上	同上	運営費交付金	
19	白井 克也	韓国	12月9日～12月14日	海外交流展に関する協議と事前調査	自己収入	
20	佐々木 蘭貞	バーレーン	2年1月5日～1月12日	ワーディ・アッ＝サイル考古学プロジェクト参加	他機関負担	
21	秋山 純子	フランス	2年1月11日～1月18日	学振 国際交流事業（二国間交流日仏共同研究SAKURAプロジェクト）の調査・研究事業に係る日仏各チームの研究報告とまとめの打合せ、設備見学	他機関負担	
22	川村 佳男	中国	2年1月14日～1月21日	特別展「三国志」展示物の返却、点検	他機関負担	
23	畑 靖紀	台湾	2年1月30日～2月1日	【科研（基盤A）】「唐絵の中の朝鮮絵画―半島由来絵画の越境移動と受容史に関する包括的研究―」に係る中国・朝鮮絵画の作品調査	科学研究費助成事業	
24	小泉 惠英	韓国	2年2月8日～2月9日	特別展「瀋陽故宮(仮)」展にかかる情報収集	自己収入	
25	川村 佳男	同上	同上	同上	自己収入	
26	西島 亜木子	韓国	2年2月20日～2月21日	特別展「加耶」教育普及事業にかかる調査	自己収入	
27	小泉 惠英	タイ	2年2月21日～2月26日	タイとの国際交流展のための事前調査	運営費交付金	
28	原田 あゆみ	同上	同上	同上	同上	
29	渡辺 祐基	同上	同上	同上	同上	
30	桑原 有寿子	同上	同上	同上	同上	
31	島谷 弘幸	ロシア	2年2月25日～3月2日	在欧日本仏教美術の包括的調査・デジタル化とそれに基づくジャポニズムの総合研究の調査-	科学研究費助成事業	

【東京文化財研究所】延べ 115人

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
1	浅田 なつみ	カンボジア	5月19日～6月3日	タネイ寺院遺跡における建築調査	運営費交付金	
2	浅田 なつみ	ネパール	7月14日～7月26日	カトマンズ・ハヌマンドカ王宮内での現地調査	受託	
3	浅田 なつみ	ブータン	8月20日～8月28日	ブータンにおける伝統的集落・民家に関する調査	受託	
4	浅田 なつみ	カンボジア、ネパール	9月7日～9月26日	タネイ寺院遺跡における建築調査(カンボジア)、カトマンズハヌマンドカ王宮内での現地調査およびネパール集落保全支援事業に関するワークショップへの出席(ネパール)	運営費交付金、受託	
5	浅田 なつみ	ネパール	11月29日～12月6日	歴史的集落保全に関するワークショップ運営	受託	
6	浅田 なつみ	ネパール	1月2日～1月8日	ネパール集落保全に関する第5回市長会議への出席	受託	
7	浅田 なつみ	カンボジア、ネパール	2月25日～3月8日	タネイ寺院遺跡における建築調査、パナウティの民家調査他	運営費交付金、受託	
8	安倍 雅史	イラン	6月1日～6月10日	カレ・クブ遺跡の出土資料の整理と分析	科学研究費	

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
9	安倍 雅史	オランダ	7月9日～7月15日	Seminar for Arabian Studiesへの出席及び口頭発表	科学研究費	
10	安倍 雅史	カンボジア	12月9日～12月21日	タネイ遺跡東門基礎部の発掘調査	運営費交付金	
11	安倍 雅史	バーレーン	1月5日～1月29日	ワーディー・アッ=サイル古墳群の発掘調査	科学研究費	
12	安倍 雅史	バーレーン	2月3日～2月11日	ワーディー・アッ=サイル古墳群の発掘調査	科学研究費	
13	アレハンドロ マルティネス	カンボジア	5月27日～6月13日	タネイ寺院遺跡における建築調査	運営費交付金	
14	アレハンドロ マルティネス	ブータン	8月20日～8月28日	ブータンにおける伝統的集落・民家に関する調査	受託	
15	石村 智	ミクロネシア 連邦	8月8日～8月18日	スカイスケープ科研の調査	他機関負担	
16	石村 智	ネパール	10月20日～10月25日	無形文化遺産ワークショップへの参加	受託	
17	石村 智	コロンビア	12月8日～12月15日	ユネスコ無形文化遺産政府間委員会出席	運営費交付金	
18	石村 智	トンガ	11月18日～11月23日	世界無形文化遺産フェスティバルの事前打合せ	他機関負担	
19	石村 智	ドイツ	12月24日～12月31日	ドイツ所在のオセアニア資料の調査	科学研究費	
20	石村 智	ニュージーラ ンド	2月4日～3月1日	先住民マオリの文化遺産に関する調査	先方負担	
21	ヴァル エリフ ベルナ	カンボジア	9月13日～9月21日	タネイ寺院遺跡における建築調査	運営費交付金	
22	ヴァル エリフ ベルナ	インド	9月24日～9月29日	Revisiting Sir Rattrick Geddes国際会議への論文発表	他機関負担	
23	ヴァル エリフ ベルナ	カンボジア	10月6日～10月26日	タネイ遺跡における測量調査	運営費交付金	
24	ヴァル エリフ ベルナ	カンボジア	12月9日～12月12日	アンコール遺跡調整委員会への出席及び口頭発表	運営費交付金	
25	ヴァル エリフ ベルナ	ブータン	1月12日～11月18日	ブータンにおける民家の保存活用に関するワークショップへの参加	受託	
26	ヴァル エリフ ベルナ	カンボジア	3月3日～3月19日	タネイ寺院遺跡における建築調査	運営費交付金	
27	牛窪 彩絢	ミャンマー	1月15日～1月26日	ミャンマー・バガン寺院壁画の保存修復に係る現地調査	運営費交付金	
28	牛窪 彩絢	ミャンマー	7月10日～7月18日	ミャンマー・バガン寺院壁画の保存に係る現地調査	運営費交付金	
29	江村 知子	ドイツ、イギ リス	10月21日～12月20日	講義および研究交流	他機関負担、運営 費交付金	
30	小田 桃子	ポーランド	7月26日～8月2日	国際集会「日本絵画の修復」開催	基金	
31	小田 桃子	中国	10月22日～10月27日	中国竹紙抄造調査・撮影	他機関負担	
32	片淵 奈美香	ドイツ	2月16日～3月1日	ドイツ技術博物館、ケルン東洋美術館に保管していた資料の 梱包・日本への輸送	基金	
33	加藤 雅人	カナダ	6月10日～6月14日	在外日本古美術品保存修復協力事業における現地作品調査	運営費交付金	
34	加藤 雅人	台湾	8月12日～8月15日	ワークショップ「染織品の保存と修復」の開催	基金	
35	加藤 雅人	台湾	8月19日～8月23日	ワークショップ「染織品の保存と修復」の開催	基金	
36	加藤 雅人	ポーランド	7月26日～8月1日	在外日本古美術品保存修復協力事業における成果報告にかか る国際会議の開催	運営費交付金	
37	金井 健	カンボジア	6月1日～6月13日	タネイ寺院遺跡における建築調査	運営費交付金	
38	金井 健	ブータン	8月20日～8月28日	ブータンにおける伝統的集落・民家に関する調査	受託	
39	金井 健	カンボジア	8月10日～8月17日	アンコール・タネイ寺院跡東門の修復工事にかかる準備	受託	
40	金井 健	ネパール	9月20日～9月25日	ネパール集落保全支援事業に関するワークショップへの出席	受託	
41	金井 健	アルメニア	10月14日～10月19日	国際研修「染色文化遺産のドキュメンテーションおよび保存 修復に関する技術実習」	運営費交付金	
42	金井 健	カンボジア	10月24日～11月5日	タネイ遺跡における解体作業立会	運営費交付金	
43	金井 健	ブータン	1月14日～11月18日	ブータンにおける民家の保存活用に関するワークショップへの 参加	受託	
44	金井 健	ネパール	1月4日～1月8日	ネパール集落保全に関する第4回市長会議への出席	受託	
45	金井 健	台湾	2月11日～2月14日	旧佐世保無線電信所（針尾送信所）施設保存修理にかかる台 湾視察	先方負担	
46	川野邊 渉	イタリア	10月27日～11月2日	ICCROMの理事会と総会への参加	他機関負担	
47	間舎 裕生	カンボジア	6月19日～6月29日	タネイ遺跡の調査・打ち合わせ	運営費交付金	
48	間舎 裕生	イスラエル	8月8日～8月31日	テル・ヘレシユ遺跡の発掘調査	他機関負担	
49	間舎 裕生	アルメニア	10月1日～10月19日	国際研修「染色文化遺産のドキュメンテーションおよび保存 修復に関する技術実習」	運営費交付金	
50	間舎 裕生	バーレーン	10月28日～11月5日	バハレーン・マカバ古墳群の発掘調査に参加	他機関負担	
51	間舎 裕生	カンボジア	12月1日～12月12日	タネイ寺院遺跡における同門基礎部の発掘調査	運営費交付金	
52	間舎 裕生	パレスチナ	1月11日～11月24日	国際協力機構の依頼による、ヒシャム宮殿遺跡展示施設公開 に先立つサイトマネジメントプラン策定のための事前調査	他機関負担	
53	間舎 裕生	バーレーン	1月25日～2月11日	ワーディー・アッ=サイル古墳群の発掘調査	科学研究費	
54	菊池 理予	台湾	8月13日～8月16日	ワークショップ「染織品の保存と修復」の講師	基金	

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
55	貴田 啓子	フランス	1月12日～1月18日	日仏各チームの研究報告会、ナノセルロース研究の情報収集	受託	
56	橘川 英規	アメリカ	2月5日～2月10日	International Terminology Working Group (ITWG) meetingへの参加	運営費交付金	
57	久保田 裕道	ネパール	8月9日～8月15日	コカナ無形文化遺産調査	受託	
58	久保田 裕道	ブータン	8月26日～9月7日	招聘芸能調査	他機関負担	
59	久保田 裕道	ネパール	10月20日～10月25日	無形文化遺産ワークショップへの参加	受託	
60	久保田 裕道	インドネシア	1月19日～1月24日	インドネシア国際協力調査	受託	
61	五木田 まきは	ポーランド	7月26日～8月2日	国際集会「日本絵画の修復」開催	受託	
62	五木田 まきは	メキシコ	10月28日～11月8日	国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」の開催	運営費交付金	
63	五木田 まきは	ドイツ	2月16日～3月1日	ドイツ技術博物館、ケルン東洋美術館に保管していた資料の梱包・日本への輸送	基金	
64	後藤 里架	ポーランド	7月26日～8月2日	国際集会「日本絵画の修復」開催	基金	
65	後藤 里架	台湾	8月12日～8月23日	ワークショップ「染織品の保存と修復」の開催	基金	
66	後藤 里架	ドイツ	11月30日～12月9日	ワークショップ「漆工品の保存と修復」の講師	基金	
67	後藤 里架	ドイツ	2月16日～3月1日	ドイツ技術博物館、ケルン東洋美術館に保管していた資料の梱包・日本への輸送	基金	
68	小林 公治	韓国	4月21日～4月24日	韓国国内での調査および打ち合わせ	科学研究費	
69	小林 公治	カタール、オランダ、ポルトガル、スペイン	7月15日～8月6日	カタール、ヨーロッパでの螺鈿器等の調査	科学研究費	
70	小峰 幸夫	ミャンマー	1月26日～11月31日	ミャンマー・バガン寺院壁画の保存修復に係る虫害調査	運営費交付金	
71	齊藤 孝正	台湾	8月21日～8月24日	ワークショップ「染織品の保存と修復」、市内文化施設等視察	運営費交付金	
72	齊藤 孝正	アルメニア	10月14日～10月19日	国際研修「染色文化遺産のドキュメンテーションおよび保存修復に関する技術実習」視察	運営費交付金	
73	齊藤 孝正	メキシコ	10月28日～11月4日	国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」視察	運営費交付金	
74	齊藤 孝正	カンボジア、ドイツ	11月30日～12月9日	タネイ遺跡保存整備事業に関する協議および奈文研カンボジア事業25周年記念式典参加、ワークショップ「漆工品の保存と修復」の視察	運営費交付金	
75	境野 飛鳥	アゼルバイジャン	6月28日～7月11日	第43回世界遺産委員会への参加	運営費交付金	
76	境野 飛鳥	イタリア	10月27日～11月3日	ICROMの理事会と総会への参加	運営費交付金	
77	境野 飛鳥	中国	10月10日～10月11日	HIAに係る国際研修の実施についての打ち合わせ	運営費交付金	
78	三本松 俊徳	カンボジア	11月30日～12月4日	タネイ遺跡保存整備事業に関する協議および奈文研カンボジア事業25周年記念式典参加	運営費交付金	
79	城野 誠治	タイ	1月12日～11月18日	タイ所在日本製伏彩色螺鈿に関する調査	運営費交付金	
80	友田 正彦	カンボジア、ネパール	5月19日～5月29日	タネイ寺院遺跡における建築調査、ハヌマンドカ王宮修復事業に関する会議ほか	運営費交付金、受託	
81	友田 正彦	カンボジア	6月1日～6月3日	タネイ寺院遺跡における打ち合わせ及びICC専門家視察対応	運営費交付金	
82	友田 正彦	ポーランド	7月28日～8月2日	国際集会開催	受託	
83	友田 正彦	ネパール	7月5日～7月10日	ハヌマンドカ王宮内における現地調査	受託	
84	友田 正彦	ブータン	8月20日～8月28日	ブータンにおける伝統的集落・民家に関する調査	受託	
85	友田 正彦	ネパール	9月20日～9月24日	ハヌマンドカ王宮内での現地調査	受託	
86	友田 正彦	スペイン	10月1日～10月7日	ICOMOS木の委員会木造遺産保存研修コースにおける講師	他機関負担	
87	友田 正彦	カンボジア、ベトナム	10月13日～10月19日	タネイ遺跡における解体作業立会／ハノイにおける社会科学院都城研究所主催セミナー参加	運営費交付金、他機関負担	
88	友田 正彦	カンボジア、ドイツ	11月30日～12月8日	タネイ遺跡保存整備事業に関する協議および奈文研カンボジア事業25周年記念式典参加、ワークショップ「漆工品の保存と修復」の開催	運営費交付金、基金	
89	友田 正彦	カンボジア、ブータン	1月13日～11月18日	アンコール・タネイ遺跡東門修復作業進捗確認／ブータンにおける民家の保存活用に関するワークショップへの参加	運営費交付金、受託	
90	友田 正彦	ネパール	1月4日～1月7日	ネパール集落保全に関する第3回市長会議への出席	受託	
91	友田 正彦	カンボジア	3月16日～3月19日	タネイ寺院遺跡における建築調査	運営費交付金	
92	西 和彦	アゼルバイジャン	6月28日～7月11日	第43回世界遺産委員会への参加	運営費交付金	
93	西 和彦	ブータン	8月20日～8月28日	ブータンにおける伝統的集落・民家に関する調査	受託	
94	西 和彦	ドイツ	9月22日～9月26日	世界遺産「ル・コルビュジエの建築遺産」にかかる第5回国際常設会議への出席	他機関負担	
95	西 和彦	イタリア	10月27日～11月3日	ICROMの理事会と総会への参加	他機関負担	
96	西 和彦	中国	10月10日～10月11日	HIAに係る国際研修の実施についての打ち合わせ	運営費交付金	
97	早川 典子	ドイツ	12月1日～12月7日	ワークショップ「漆工品の保存と修復」の講師	基金	
98	林 美木子	韓国	8月28日～8月31日	東アジア文化遺産保存国際シンポジウム出席	他機関負担	
99	林 美木子	イタリア	11月8日～12月8日	ICROMの海外研修参加のため	他機関負担	

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
100	二神 葉子	アゼルバイジャン	6月28日～7月11日	第43回世界遺産委員会への参加	運営費交付金	
101	二神 葉子	コロンビア	12月8日～12月16日	ユネスコ無形文化遺産政府間委員会出席	運営費交付金	
102	二神 葉子	タイ	1月12日～11月18日	タイ所在日本製伏彩色螺鈿に関する調査	運営費交付金	
103	堀 まなみ	ポーランド	7月26日～8月2日	国際集会「日本絵画の修復」開催	基金	
104	米沢 玲	中国	9月19日～9月26日	江南地域における羅漢信仰の現地調査	科学研究費	
105	米沢 玲	イギリス	11月18日～11月25日	共同研究の協議・作品調査	運営費交付金	
106	前川 佳文	イタリア	5月11日～5月23日	ボンベイにおける壁画の調査研究	科学研究費	
107	前川 佳文	トルコ	6月8日～6月18日	カッパドキアにおける壁画の保存管理に関する研修の実施	運営費交付金	
108	前川 佳文	ミャンマー	7月10日～7月30日	ミャンマー・バガン寺院壁画の保存に係る現地調査	運営費交付金	
109	前川 佳文	イタリア	10月9日～10月27日	イタリア考古遺跡・地震被災地での視察調査、ミャンマー共同研究打ち合わせ	運営費交付金	
110	前川 佳文	エジプト	12月22日～1月8日	新王国時代石窟墓内に描かれた壁画の保存修復事前調査および壁画損傷個所の応急処置	科学研究費	
111	前川 佳文	ミャンマー	1月15日～1月31日	ミャンマー・バガン寺院壁画の保存修復に係る現地調査	運営費交付金	
112	前原 恵美	韓国	7月1日～7月19日	韓・日研究交流・研修	運営費交付金	
113	松保 小夜子	インドネシア	1月18日～1月26日	インドネシア国際協力調査	受託	
114	水谷 悦子	トルコ	12月24日～12月30日	保存環境の調査	科学研究費、他機関負担	
115	山梨 絵美子	韓国	7月17日～7月20日	韓・日研究交流・研修	運営費交付金	

【奈良文化財研究所】延べ 133人

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
1	丹羽 崇史	アメリカ	4月6日～4月16日	第84回アメリカ考古学会 (SAA 84th Annual Meeting) での発表、関連資料の調査	科学研究費	
2	杉山 洋	カンボジア	4月7日～4月11日	西トップ遺跡の調査と修復	助成金	
3	芝 康次郎	韓国	4月17日～4月20日	科学研究費による出土遺物の調査	科学研究費	
4	杉山 洋	カンボジア	4月22日～4月26日	西トップ遺跡の調査と修復	運営費交付金	
5	金田 明大	ポーランド	4月22日～4月29日	CAA 2019 in クラクフへの参加	運営費交付金	
6	山口 欧志	ポーランド	4月22日～4月29日	CAA 2019 in クラクフへの参加	運営費交付金	
7	高田 祐一	ポーランド	4月22日～4月29日	アリアドネプラスに関する協議及びCAAでの発表	科学研究費	
8	丹羽 崇史	韓国	4月27日～5月5日	韓国出土施釉陶器・中国陶磁の調査	助成金	
9	佐藤 由似	カンボジア	5月1日～5月11日	ポスト・アンコール期の調査	科学研究費	
10	清野 陽一	韓国	5月15日～6月30日	国立慶州文化財研究所との発掘交流	渡航費：運営費交付金、滞在費：先方負担	
11	中村 一郎	カンボジア	5月19日～5月24日	ACCUユネスコ・アジア文化センター主催ワークショップ事前調査	先方負担	
12	佐藤 由似	カンボジア	5月19日～6月2日	ポスト・アンコール期の調査	科学研究費	
13	杉山 洋	カンボジア	5月20日～5月24日	西トップ遺跡の調査と修復	運営費交付金	
14	大林 潤	カンボジア	5月20日～5月24日	西トップ遺跡及びアンコール地域内遺跡の建築調査	科学研究費	
15	脇谷 草一郎	中国	5月24日～5月26日	故宮博物院文華殿の劣化状態調査に参加	運営費交付金	
16	内田 和伸	韓国	5月26日～5月30日	韓国国立文化財研究所との共同研究	渡航費：運営費交付金、滞在費：先方負担	
17	中島 義晴	韓国	5月26日～5月30日	韓国国立文化財研究所との共同研究	渡航費：運営費交付金、滞在費：先方負担	
18	鈴木 智大	韓国	5月31日～6月2日	揚州市・捨巖寺シンポジウムへの出席	先方負担	
19	国武 貞克	タジキスタン	6月4日～6月29日	発掘調査	科学研究費	
20	田村 朋美	タイ	6月7日～6月20日	国際会議 (3rd SEMEO SPAFA International Congerence on Southerast Asian Archaeology) に出席、研究発表	科学研究費	
21	田村 朋美	ウズベキスタン	6月9日～6月13日	出土ガラスの調査	科学研究費	
22	影山 悦子	ウズベキスタン	6月9日～6月15日	ファヤズテパ遺跡出土壁画の調査、修復	助成金	
23	杉山 洋	カンボジア	6月10日～6月14日	西トップ遺跡の調査と修復	運営費交付金	
24	庄田 慎矢	カンボジア	6月10日～6月16日	アンコール国際調整委員会出席、西トップ遺跡の調査と修復	運営費交付金	
25	佐藤 由似	カンボジア・タイ	6月10日～6月22日	西トップ遺跡の調査、SPAFA学会	運営費交付金	

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
26	高妻 洋成	中国	6月14日～6月16日	The 3rd International Symposium on Architectural Heritage Protection Technology.	先方負担	
27	清野 孝之	フランス	6月16日～6月23日	ユネスコ水中文化遺産国際会議およびユネスコ水中文化遺産条約締約国会議への出席	文化庁受託	
28	杉山 洋	カンボジア	7月1日～7月5日	西トップ遺跡の調査と修復	運営費交付金	
29	庄田 慎矢	韓国	7月2日～7月6日	日韓共同研究にかかる調査研究	渡航費：運営費交付金、滞在費：先方負担	
30	国武 貞克	カザフスタン	7月9日～8月7日	発掘調査	科学研究費	
31	杉山 洋	カンボジア	7月15日～7月19日	西トップ遺跡の調査と修復	助成金	
32	加藤 真二	中国	7月20日～7月27日	河北省陽原での旧石器遺跡調査	科学研究費分担金	
33	山藤 正敏	イスラエル	7月23日～8月9日	テル・エラニ遺跡における発掘調査及び同遺跡出土土器の共同研究	渡航費：委託費、滞在費：先方負担	
34	箱崎 和久	中国	7月25日～8月3日	古代・中世寺院建築に関する資料収集	科学研究費	
35	庄田 慎矢	オーストラリア	8月1日～8月9日	Workshop "Archaeologies of Tradition"、研究打合せ	渡航費：先方負担、滞在費：先方負担(3泊分ホテル代)+科学研究費	
36	佐藤 由似	カンボジア	8月8日～8月21日	西トップ遺跡の調査	助成金	
37	丹羽 崇史	中国	8月23日～8月26日	アジア鑄造技術史学会2019西安大会への参加・発表	科学研究費	
38	国武 貞克	カザフスタン	8月23日～9月21日	発掘調査	科学研究費	
39	杉山 洋	カンボジア	8月25日～9月1日	西トップ遺跡の調査と修復	助成金	
40	高妻 洋成	韓国	8月27日～9月1日	東アジア文化遺産保存シンポジウム	運営費交付金	
41	金田 明大	アイルランド	8月27日～9月3日	ICAP2019への参加	科学研究費	
42	田村 朋美	韓国	8月28日～9月2日	2019大田東アジア文化遺産保存国際シンポジウムに参加及び韓国出土ガラス玉の調査	科学研究費	
43	柳 成煜	韓国	8月28日～9月2日	東アジア文化遺産保存シンポジウム参加及び資料調査	運営費交付金	
44	柳田 明進	スイス	8月31日～9月9日	ICOM-CC METAL2019における学術発表及び情報交換	運営費交付金	
45	渡邊 晃宏	中国	9月5日～9月8日	首届中日韓出土簡牘研究国際論壇への参加ほか	科学研究費	
46	畑野 吉則	中国	9月5日～9月9日	首届中日韓出土簡牘研究国際論壇への参加	科学研究費	
47	馬場 基	中国	9月6日～9月9日	首届中日韓出土簡牘研究国際論壇への参加	科学研究費	
48	浦 蓉子	中国	9月10日～9月16日	中国良渚遺跡の木製品調査	他機関科学研究費	
49	李 暉	中国	9月11日～9月16日	中国浙江省寧波地区大工道具調査実施	科学研究費	
50	加藤 真二	カザフスタン	9月14日～9月20日	研修事業の事前打合せ	受託	
51	庄田 慎矢	カザフスタン	9月14日～9月20日	研修事業の事前打合せ	受託	
52	田村 朋美	カザフスタン	9月14日～9月20日	研修事業の事前打合せ	受託	
53	影山 悦子	カザフスタン	9月14日～9月20日	研修事業の事前打合せ	受託	
54	佐藤 由似	カンボジア	9月18日～10月1日	西トップ遺跡の調査	助成金	
55	島田 敏男	カンボジア	9月19日～9月23日	西トップ遺跡及びアンコール地域内遺跡の建築調査	科学研究費	
56	大林 潤	カンボジア	9月19日～9月24日	西トップ遺跡及びアンコール地域内遺跡の建築調査	科学研究費	
57	杉山 洋	カンボジア	9月19日～9月25日	西トップ遺跡の調査と修復	運営費交付金	
58	小田 裕樹	中国	9月20日～9月23日	東北アジア古代都城国際検討会での研究発表	渡航費：運営費交付金、滞在費：先方負担	
59	山藤 正敏	キルギス	9月29日～10月13日	チュウ・溪谷西部の考古学調査	科学研究費	
60	国武 貞克	タジキスタン	10月8日～11月9日	タジキスタンにおける発掘調査	科学研究費	
61	石田 由紀子	中国	10月8日～11月15日	中国社会科学院考古研究所との協定書にもとづく日中学术交流への参加	先方負担	
62	庄田 慎矢	ポルトガル	10月9日～10月18日	打合せ、Wenner-Gren 基金 シンポジウム "Culture of Fermentation"	渡航費：先方負担、滞在費：先方負担、運営費交付金(10日宿泊費と11日日当のみ)	
63	廣瀬 覚	韓国	10月10日～10月14日	国立歴史民俗博物館共同研究「古墳時代・三国時代の日韓関係における交渉経路と寄港地に関する日韓共同研究」第2回への参加	他機関負担	
64	山口 欧志	インドネシア	10月15日～10月27日	ポロブドゥール寺院遺跡の三次元計測等	他機関負担	
65	丹羽 崇史	中国	10月17日～10月22日	第二屆世界古都論壇暨紀念二里頭遺址科学発掘60周年学術研討会への参加・発表、資料調査	科学研究費	
66	李 暉	中国	10月19日～10月22日	古代東アジアの重層建築に関する学術会議へ出席	科学研究費分担金	
67	杉山 洋	カンボジア	10月21日～10月28日	西トップ遺跡の調査と修復	助成金	

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
68	佐藤 由似	オーストラリア	10月22日～10月28日	フリンダース大学ワークショップでの発表、遺物調査	先方負担	
69	田村 朋美	ウズベキスタン	10月26日～11月4日	ウズベキスタンにおける釉薬製造工程の調査及び出土ガラスの科学分析	科学研究費分担金	
70	庄田 慎矢	中国	10月27日～10月30日	研究発表、打合せ	科学研究費	
71	佐藤 由似	カンボジア	11月2日～11月7日	西トップ遺跡の調査	運営費交付金	
72	渡邊 晃宏	韓国	11月8日～11月10日	韓国木簡学会・成均館大学校東アジア学院主催2019年国際学術会議「出土資料からみた東アジアの数量詞と量制」への参加と報告	先方負担	
73	田村 朋美	中国	11月8日～11月10日	ワークショップ「Silk Roads: archaeology, museums and heritage science」に参加、講義	先方負担	
74	島田 敏男	ベトナム	11月9日～11月13日	ベトナム国ティエンザン省知事表彰出席	運営費交付金	
75	福嶋 啓人	ベトナム	11月9日～11月13日	ベトナム国ティエンザン省知事表彰出席	運営費交付金	
76	杉山 洋	カンボジア	11月10日～11月15日	西トップ遺跡の調査と修復	助成金	
77	小池 伸彦	中国	11月11日～11月18日	遼寧省文物考古研究院との国際共同研究「三燕文化出土遺物の研究」	渡航費：運営費交付金、滞在費：先方負担	
78	廣瀬 覚	中国	11月11日～11月18日	遼寧省文物考古研究院との国際共同研究「三燕文化出土遺物の研究」	渡航費：運営費交付金、滞在費：先方負担	
79	田村 朋美	中国	11月11日～11月18日	遼寧省文物考古研究院との国際共同研究「三燕文化出土遺物の研究」	渡航費：運営費交付金、滞在費：先方負担	
80	栗山 雅夫	中国	11月11日～11月18日	遼寧省文物考古研究院との国際共同研究「三燕文化出土遺物の研究」	渡航費：運営費交付金、滞在費：先方負担	
81	松永 悦枝	中国	11月11日～11月18日	遼寧省文物考古研究院との国際共同研究「三燕文化出土遺物の研究」	渡航費：運営費交付金、滞在費：先方負担	
82	大澤 正吾	中国	11月11日～11月18日	遼寧省文物考古研究院との国際共同研究「三燕文化出土遺物の研究」	渡航費：運営費交付金、滞在費：先方負担	
83	丹羽 崇史	中国	11月12日～11月14日	講演・学会発表	科学研究費	
84	加藤 真二	中国	11月13日～11月18日	中国社会科学院考古研究所への訪問・発掘現場の視察	運営費交付金	
85	松村 恵司	中国	11月14日～11月18日	中国社会科学院考古研究所への訪問・発掘現場の視察	運営費交付金	
86	玉田 芳英	中国	11月14日～11月19日	中国社会科学院考古研究所への訪問・発掘現場の視察	他機関負担	
87	箱崎 和久	中国	11月15日～11月18日	中国科学技術学会委員会における講演	先方負担	
88	中村 一郎	カンボジア	11月16日～11月21日	ACCUユネスコ・アジア文化センター主催ワークショップ	先方負担	
89	庄田 慎矢	カザフスタン	11月18日～11月25日	現地ワークショップの開催	受託	
90	影山 悦子	カザフスタン	11月16日～11月25日	現地ワークショップの開催	受託	
91	佐藤 由似	カンボジア	11月19日～11月25日	ACCU文化遺産ワークショップ	先方負担	
92	丹羽 崇史	韓国	11月23日～11月27日	資料調査	科学研究費	
93	田村 朋美	韓国	11月26日～11月28日	International Symposium of 'World of Ancient Glass'に参加、研究発表	先方負担	
94	石橋 茂登	韓国	11月26日～11月29日	古墳採取資料等の展示活用事例調査	受託	
95	中田 愛乃	韓国	11月26日～11月29日	古墳採取資料等の展示活用事例調査	受託	
96	加藤 真二	中国	11月28日～12月5日	資料調査並びに International Symposium on Paleanthropology in Commemoration of the 90th Anniversary of the Discovery of the First Skullcap of Peking Man への出席、発表	科学研究費分担金	
97	佐藤 由似	カンボジア	11月29日～12月13日	西トップ遺跡の調査、式典、国際会議	運営費交付金	
98	杉山 洋	カンボジア	11月30日～12月6日	西トップ遺跡の調査と修復	助成金	
99	松村 恵司	カンボジア	12月1日～12月4日	25周年記念式典の出席、準備、運営	運営費交付金	
100	影山 悦子	カンボジア	12月1日～12月4日	25周年記念式典の準備、運営	運営費交付金	
101	庄田 慎矢	カンボジア	12月1日～12月5日	25周年記念式典の準備、運営	運営費交付金	
102	脇谷 草一郎	中国	12月1日～12月7日	2019 International Symposium on Dazhu Studies and the 20th Anniversary Celebration of the Dazhu Rock Carvings inscribed into the World Heritage List にて研究発表	運営費交付金	
103	大澤 正吾	アメリカ	12月3日～12月8日	「北米・欧州ミュージアム日本美術専門家連携交流事業」に係る在外日本美術作品の調査（日本考古（原史）の埴輪・金属製品・土器等）	他機関負担	
104	石橋 茂登	イギリス	12月11日～12月18日	古墳採取資料等の展示活用事例調査	受託	
105	荻山 琴美	イギリス	12月11日～12月18日	古墳採取資料等の展示活用事例調査	受託	

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
106	庄田 慎矢	中国	12月13日～12月16日	研究発表	先方負担	
107	杉山 洋	カンボジア	12月13日～12月19日	西トップ遺跡の調査と修復	助成金	
108	庄田 慎矢	中国	12月15日～12月17日	研究発表	先方負担	
109	佐藤 由似	カンボジア	12月22日～12月31日	西トップ遺跡の調査	運営費交付金	
110	脇谷 草一郎	トルコ	12月24日～12月29日	ハギヤ・ソフィア大聖堂ほかにおける塩害調査	科学研究費分担金	
111	浦 蓉子	中国	12月25日～12月28日	京大大学生存圏研究所アジアリサーチノード国際シンポジウムへの参加	他機関負担	
112	田村 朋美	中国	1月11日～1月13日	中国出土ガラス製遺物の調査	科学研究費分担金	
113	李 暉	中国	1月11日～1月14日	シンポジウム講演および古建築調査	科学研究費	
114	杉山 洋	カンボジア・タイ	1月14日～1月21日	西トップ遺跡の調査と修復	助成金	
115	山口 欧志	インドネシア	1月20日～1月24日	ポロブドゥール遺跡の三次元計測等	他機関負担	
116	佐藤 由似	カンボジア	1月30日～2月13日	ポスト・アンコール期の調査	先方負担	
117	西田 紀子	韓国	1月31日～2月4日	古代日韓交流関係の資料調査	助成金	
118	小沼 美結	韓国	1月31日～2月4日	古代日韓交流関係の資料調査	助成金	
119	山藤 正敏	イスラエル	2月8日～2月21日	イスラエル国テル・エラニ遺跡出土時の共同研究	渡航費：二国間交流事業協同研究・セミナー委託費、滞在費：先方負担	
120	飯田 ゆりあ	ウズベキスタン	2月9日～2月15日	ファヤズテバ遺跡出土壁画の撮影	科学研究費	
121	影山 悦子	ウズベキスタン	2月9日～2月15日	ファヤズテバ遺跡出土壁画の調査、修復	助税金	
122	芝 康次郎	韓国	2月11日～2月15日	出土物の調査	科学研究費	
123	吉田 万智	台湾	2月12日～2月14日	土層やはざとり等の資料調査	受託	
124	小沼 美結	台湾	2月12日～2月15日	古墳採取資料等の展示活用事例調査	受託	
125	廣瀬 覚	韓国	2月17日～2月21日	日韓共同研究にかかる調査	渡航費：運営費交付金、滞在費：先方負担	
126	高田 祐一	韓国	2月18日～2月21日	日韓共同研究にかかる調査	渡航費：運営費交付金、滞在費：先方負担	
127	石橋 茂登	韓国	2月23日～2月26日	古代日韓関係に関わる考古資料調査	助成金	
128	庄田 慎矢	韓国	2月23日～2月26日	協議、資料調査	渡航費：先方負担、滞在費：24日先方負担・他科学研究費分担金	
129	杉山 洋	カンボジア、タイ	2月23日～2月28日	西トップ遺跡の調査と修復	科学研究費分担金	
130	佐藤 由似	カンボジア	2月24日～2月29日	アンコール遺跡群現地調査派遣	先方負担	
131	玉田 芳英	イタリア	2月24日～3月1日	古墳壁画の調査研究に関わる事例調査	受託	
132	栗山 雅夫	イタリア	2月24日～3月1日	古墳壁画の調査研究に関わる事例調査	受託	
133	中田 愛乃	イタリア	2月24日～3月1日	古墳壁画の調査研究に関わる事例調査	受託	

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】延べ 14人

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
1	岩本 涉	フランス	5月21日～22日	the expert meeting on intangible cultural heritage in emergencies出席	運営費交付金	
2	大貫 美佐子	同上	同上	同上	文化財活用基金	
3	岩本 涉	ベトナム	7月2日～3日	UNESCO 2019 Forum on Education for Sustainable Development and Global Citizenship出席	運営費交付金	
4	児玉茂昭	韓国	8月28日～30日	Regional Meeting for Strengthening the Use of ICH in Education出席	運営費交付金	
5	岩本涉	アルジェリア	9月2日～3日	Seventh Annual Coordination Meeting of Category 2 Centres Active in the Field of Intangible Cultural Heritage出席	文化庁受託経費	
6	大貫美佐子	フィリピン	10月7日～8日	Monitoring for Multi-disciplinary study on intangible cultural heritage' s contribution to sustainable development: Focusing on education The Philippines	運営費交付金	
7	佐々木一恵	同上	同上	同上	文部科学省補助金	

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
8	児玉茂昭	中国	10月16日～19日	The Review on CRIHAP Capacity Building Workshops (2012-2018) and Recommendations on Future Activities, organized by International Training Centre for Intangible Cultural Heritage in the Asia-Pacific Region under the auspices of UNESCO (CRIHAP)出席	先方負担	
9	岩本渉	ベトナム	10月24日～25日	Monitoring for Multi-disciplinary study on intangible cultural heritage' s contribution to sustainable development: Focusing on education Viet Nam	文部科学省補助金	
10	佐々木一恵	同上	同上	同上	文部科学省補助金	
11	大貫美佐子	ベトナム	11月1日～2日	The Safeguarding an Promotiton of Dong Ho Woodblock Paintings in Contemporary Life	運営費交付金	
12	佐々木一恵	コロンビア	12月9日～14日	Convention for the Safeguarding of the Intangible Cultural Heritage Intergovernmental Committee for the Safeguarding of the Intangible Cultural Heritage Fourteenth session出席	文化庁受託経費	
13	岩本 渉	中国	1月14日	CRIHAP理事会 陪席	文化庁受託経費	
14	三好友夏	同上	同上	同上	文化庁受託経費	

【文化財防災ネットワーク推進本部】延べ 15人

	氏名	用務先	期間	用務	経費	備考
1	岡田 健	中国	7月30日～8月2日	国際研修及び教育プログラム作成打合せ	平成31年度文化芸術振興費補助金	
2	田沢 裕賀	タイ	7月31日～8月3日	バンコク国立博物館の展示の安全対策に関する調査	同上	
3	和田 浩	同上	同上	同上	同上	
4	矢野 賀一	同上	同上	同上	同上	
5	黄川田 翔	同上	同上	同上	同上	
6	林 美木子	韓国	8月28日～8月31日	東アジア文化遺産保存 国際シンポジウム出席	同上	
7	林 美木子	イタリア	11月8日～12月8日	文化財保存修復研究国際センター(ICCRROM)の海外研修参加	同上	
8	六人部 克典	ハンガリー	1月5日～1月10日	ハンガリー国立博物館他展示安全対策調査	同上	
9	和田 浩	同上	同上	同上	同上	
10	矢野 賀一	同上	同上	同上	同上	
11	黄川田 翔	同上	同上	同上	同上	
12	六人部 克典	フランス	2月8日～2月14日	収蔵の安全対策に関する調査	同上	
13	黄川田 翔	同上	同上	同上	同上	
14	六人部 克典	台湾	2月17日～2月20日	収蔵の安全対策に関する調査	同上	
15	黄川田 翔	同上	同上	同上	同上	

c-② 調査研究テーマ一覧

令和2年3月31日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
157 件	83 件	36 件	11 件	18 件	18 件
	文化財研究所計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	共同研究（東京・奈良文化財研究所）	
	72 件	22 件	50 件	0 件	
	本部文化財活用センター・東京国立博物館	アジア太平洋無形文化遺産研究センター			
	1 件		1 件		

【本部文化財活用センター・東京国立博物館】 1件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する研究 1件

調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者（役職・名前）
1 レプリカやVR等先端技術を使った、文化財の活用についての調査・研究	文化財活用センター	副センター長 小林牧

【東京国立博物館】 36件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する研究 32件

調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者（役職・名前）
1 特別調査「法隆寺献納宝物」（第41次）	学芸研究部	調査研究課長 河野一隆
2 特別調査「書跡」第17回	学芸研究部	調査研究課書跡・歴史室長（保存修復課長）富坂賢
3 特別調査「工芸」第11回	学芸研究部	調査研究課工芸室長 小山弓弦葉
4 特別調査「彫刻」第9回	学芸研究部	企画課長 浅見龍介
5 特別調査「絵画」第4回	学芸研究部	調査研究課絵画・彫刻室長 沖松健次郎
6 関東地域の社寺所蔵文化財に関する調査研究	学芸研究部	調査研究課長 河野一隆
7 油彩画の材料・技法に関する共同調査	学芸研究部	保存修復課保存修復室長 瀬谷愛
8 仏教美術等の光学的手法による共同研究	学芸研究部	調査研究課絵画・彫刻室長 沖松健次郎
9 美術工芸品に用いられた画絹及び染織品の組成にかかる共同研究	学芸研究部	調査研究課絵画・彫刻室長 沖松健次郎
10 東洋民族資料に関する調査研究	学芸研究部	企画課特別展室長 猪熊兼樹
11 特集「天皇と宮中儀礼」に関する調査研究	学芸研究部	企画課特別展室主任研究員 土屋貴裕
12 特集「やちむん—沖繩のやきもの」に関する調査研究	学芸研究部	企画課特別展室主任研究員 三笠景子
13 特集「伝説の面打ちたち」に関する調査研究	学芸研究部	企画課長 浅見龍介
14 特集「法隆寺と聖徳太子—法隆寺研究の近代」に関する調査研究	学芸研究部	調査研究課絵画・彫刻室長 沖松健次郎
15 特集「平家納経模本の世界—益田本と大倉本—」に関する調査研究	学芸研究部	東京国立博物館百五十年史編集室長 惠美千鶴子
16 特集「近世日本と外国文化」に関する調査研究	学芸研究部	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員 鷲頭桂
17 特集「朝鮮王朝の宮廷文化」に関する調査研究	学芸研究部	企画課特別展室長 猪熊兼樹
18 特集「東京国立博物館コレクションの保存と修理」に関する調査研究	学芸研究部	保存修復課長（書跡・歴史室長）富坂賢
19 特別展「出雲と大和」に関する調査研究	学芸企画部	調査研究課考古室長 品川欣也
20 特別企画「奈良大和四寺のみほとけ」に関する調査研究	学芸企画部	企画課長 浅見龍介
21 住友財団修復助成30年記念 特別企画「文化財よ、永遠に」に関する調査研究	学芸企画部	広報室長 丸山士郎
22 御即位記念特別展「正倉院の世界—皇室がまもり伝えた美—」に関する調査研究	学芸企画部	企画課長 浅見龍介
23 特別展「人、神、自然 —アール・サーニ コレクションの名品が語る古代世界—」に関する調査研究	学芸企画部	博物館情報課長 今井敦
24 特別展「法隆寺金堂壁画と百済観音」に関する調査研究	学芸企画部	保存修復課保存修復室長 瀬谷愛
25 特別展「きもの KIMONO」に関する調査研究	学芸企画部	調査研究課工芸室長 小山弓弦葉
26 「スポーツ・武道の歴史と文化展」に関する調査研究	学芸企画部	調査研究課工芸室研究員 佐藤寛介
27 特別展「国宝 鳥獣戯画のすべて」に関する調査研究	学芸企画部	企画課特別展室主任研究員 土屋貴裕
28 特別展「桃山 天下人の100年」に関する調査研究	学芸企画部	学芸研究部長 田沢裕賢
29 博物館環境デザインに関する調査研究	学芸企画部	企画課デザイン室長 矢野賀一
30 博物館教育に関する調査研究	学芸企画部	博物館教育課長 伊藤信二
31 凸版印刷と共同で実施するミュージアムシアターにおけるコンテンツの開発に関する調査研究	学芸企画部	博物館情報課長 今井敦
32 ICTを利用した博物館見学ガイドの開発に関する調査研究	学芸企画部	博物館教育課長 伊藤信二

○その他の有形文化財に関連する調査研究 4件

調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者（役職・名前）
1 博物館の環境保存に関する調査研究	学芸研究部	保存修復課長（書跡・歴史室長）富坂賢
2 美術品・輸送機関・梱包資材の振動特性情報を集積した安全輸送のためのシステム構築	学芸研究部	保存修復課環境保存室長 和田浩
3 博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究	学芸企画部	博物館情報課情報管理室長 村田良二
4 創立150年へ向けた館史編纂のための基礎的な資料整理と調査研究	学芸企画部	東京国立博物館百五十年史編集室長 惠美千鶴子

【京都国立博物館】 11件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する研究 8件

調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者（役職・名前）
1 京都周辺出土の考古遺物に関する調査研究	学芸部	上席研究員 宮川禎一

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者（役職・名前）
2	訓点資料としての典籍に関する調査研究	学芸部	美術室長 羽田聡
3	旧家伝来の工芸品に関する調査研究	学芸部	工芸室長 山川暁
4	近畿地区社寺文化財の調査研究	学芸部	連携協力室長 浅瀬毅
5	特集展示「雛まつりと人形」に関する調査研究	学芸部	工芸室長 山川暁
6	特別展「流転100年 佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」に関する調査研究	学芸部	企画室研究員 井並林太郎
7	特別展「聖地をたずねて-西国三十三所の信仰と至宝-」に関する調査研究	学芸部	美術室長 羽田聡
8	博物館教育及びボランティアに関する調査研究	学芸部	教育室長 永島明子

○その他有形文化財に関連する調査研究 3件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者（役職・名前）
1	修復文化財に関する資料収集及び調査研究	学芸部	保存修理指導室長 大原嘉豊
2	文化財の製作・技法等に関わる材質構造調査・研究	学芸部	保存修理指導室長 大原嘉豊 保存科学室長 降幡順子
3	文化財情報に関する調査研究	学芸部/総務課	美術室長 羽田聡 事業推進係主任 滋谷完滋

【奈良国立博物館】 18件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する研究 14件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者（役職・名前）
1	復元模写制作に伴う仏教絵画の調査研究	学芸部	教育室長 谷口耕生
2	古代の写経と聖教に関する基礎的研究	学芸部	企画室長 野尻忠
3	仏教工芸・上代工芸の総合的調査	学芸部	工芸考古室長 清水健
4	墳墓出土品の調査と研究	学芸部	列品室長 吉澤悟
5	南都の古代・中世の彫刻に関する調査研究	学芸部	上席研究員 岩田茂樹
6	東京文化財研究所との共同による仏教美術の光学的調査研究	学芸部	教育室長 谷口耕生
7	わくわくびじゅつギャラリー「いのりの世界のどうぶつえん」に関する調査研究	学芸部	主任研究員 中川あや
8	特別陳列「法徳寺の仏像—近代を旅した仏たち—」に関する調査研究	学芸部	主任研究員 山口隆介
9	特別陳列「おん祭と春日信仰の美術 〔特集〕春日大社にまつわる絵師たち」に関する調査研究	学芸部	主任研究員 北澤菜月
10	特別陳列「重要文化財 法隆寺金堂壁画写真ガラス原板—文化財写真の軌跡—」に関する調査研究	学芸部	資料室長 宮崎幹子
11	特別展「御即位記念 第71回正倉院展」に関する調査研究	学芸部	工芸考古室員 三本周作
12	特別展「毘沙門天—北方鎮護のカミ—」に関する調査研究	学芸部	上席研究員 岩田茂樹
13	御大典記念特別展「よみがえる正倉院宝物—再現模造にみる天平の技—」に関する調査研究	学芸部	主任研究員 中川あや
14	歴史、伝統文化の教育普及に資するための調査研究	学芸部	教育室長 谷口耕生 主任研究員 斎木涼子

○その他有形文化財に関連する調査研究 4件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者（役職・名前）
1	収蔵庫・展示室・ケース内部等における環境が文化財に与える影響などに関する調査研究	学芸部	保存修理指導室長 鳥越俊行
2	文化財修理の観点からの収蔵品・寄託品等の調査研究	学芸部	保存修理指導室長 鳥越俊行
3	保存科学の観点からの収蔵品・寄託品等の調査研究	学芸部	保存修理指導室長 鳥越俊行
4	文化財アーカイブズの形成に関する理論的・実践的研究	学芸部	資料室長 宮崎幹子

【九州国立博物館】 18件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する研究 14件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者（役職・名前）
1	X線CTスキャナ等による文化財の構造技法解析に関する調査研究	学芸部博物館科学課	課長兼環境保全室長 木川りか
2	近世キリスト教に関する研究	学芸部文化財課	資料登録室研究員 松浦晃佑
3	高等学校が所蔵する歴史資料に関する研究	展示課	主任研究員 今井涼子
4	「山梨・釈迦遺跡の縄文文化（仮）」に関する調査研究	学芸部博物館科学課	保存修復室長 志賀智史
5	水中遺跡の保存活用に関する調査研究	学芸部	学芸部長 小泉恵英
6	特集展示 館蔵名品展「更紗 生命の花咲く布」特集展示に関する調査研究	学芸部文化財課	課長 原田あゆみ
7	特集展示 住友財団修復助成30年記念「文化財よ、永遠に」特集展示に関する調査研究	学芸部文化財課	資料登録室主任研究員 森實久美子
8	特集展示「版経東漸～対馬がつなぐ仏の教え～」に関する調査研究	学芸部文化財課	資料登録室研究員 松浦晃佑
9	特別展「室町將軍—戦乱と美の足利十五代—」に関する調査研究	展示課	主任研究員 一瀬 智
10	日中文化交流協定締結40周年記念 特別展「三国志」に関する調査研究	学芸部企画課	特別展室主任研究員 川村佳男
11	NHKと共同で実施する高精細画像を活用したスーパーハイビジョンシアターにおけるコンテンツの開発に関する調査研究	学芸部企画課	課長兼文化交流展室長・特別展室長 白井克也
12	特別展のテーマに則した解説パネル・冊子・ワークショップ等、観覧者の理解促進のための教育普及プログラムに関する調査研究	学芸部企画課	特別展室研究員 西島亜希子
13	身体障がい者向けの展示解説プログラムに関する調査研究	展示課	主任研究員 加藤小夜子
14	特集展示「刀剣とはじめ—一刃剣ワールド財団と九博の名刀—」における観覧者の理解促進のための教育普及プログラムに関する調査研究	学芸部企画課	特別展室研究員 望月規史

○その他有形文化財に関連する調査研究 4件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者（役職・名前）
1	文化財の材質・構造等に関する共同研究	学芸部博物館科学課	課長兼環境保全室長 木川りか
2	博物館における国内・アジア地域の文化財保存修復に関する研究	学芸部博物館科学課	保存修復室長 志賀智史
3	博物館危機管理としての持続的IPMシステムの研究	学芸部博物館科学課	環境保全室主任研究員 秋山純子
4	展示ケース内の環境に関する調査研究	学芸部博物館科学課	課長兼環境保全室長 木川りか

【東京文化財研究所】 22件

(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究 7件

○有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究 4件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者（役職・名前）
1	文化財に関する調査研究成果および研究情報の共有に関する総合的研究	文化財情報資料部	文化財アーカイブズ研究室長 江村知子
2	日本東洋美術史の資料学的研究	文化財情報資料部	日本東洋美術史研究室長 小林達朗
3	近・現代美術に関する調査研究と資料集成	文化財情報資料部	近・現代視覚芸術研究室長 塩谷純
4	美術作品の様式表現・制作技術・素材に関する複合的研究と公開	文化財情報資料部	広領域研究室長 小林公治

○無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査及び研究 3件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者（役職・名前）
1	無形文化財の保存・継承に関する調査研究及び無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化	無形文化遺産部	無形文化財研究室長 前原恵美
2	無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究	無形文化遺産部	無形民俗文化財研究室長 久保田裕道
3	無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集	無形文化遺産部	無形文化遺産部長 山梨絵美子

(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究 8件

○文化財の調査手法に関する研究開発の推進 1件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者（役職・名前）
1	文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究	文化財情報資料部	文化財情報研究室長 二神葉子

○文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究 7件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者（役職・名前）
1	文化財の生物劣化の現象解明と対策に関する研究	保存科学研究センター	生物科学研究室長 佐藤嘉則
2	保存と活用のための展示環境の研究	保存科学研究センター	保存科学研究センター長 佐野千絵
3	文化財の材質・構造・状態調査に関する研究	保存科学研究センター	分析科学研究室長 犬塚将英
4	屋外文化財の劣化要因と保存対策に関する調査研究	保存科学研究センター	修復計画研究室長 朽津信明
5	文化財修復材料と伝統技法に関する調査研究	保存科学研究センター	修復材料研究室長 早川典子
6	近代の文化遺産の保存修復に関する調査研究	保存科学研究センター	近代文化遺産研究室長 早川泰弘
7	高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究	保存科学研究センター	保存科学研究センター長 佐野千絵

(3) 文化遺産保護に関する国際協働 5件

○文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進 5件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者（役職・名前）
1	文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信	文化遺産国際協力センター	国際情報研究室長 西 和彦
2	アジア諸国等文化遺産保存修復協力	文化遺産国際協力センター	保存計画研究室長 金井健
3	保存修復技術の国際的応用に関する研究	文化遺産国際協力センター	技術支援研究室長 加藤雅人
4	在外日本古美術品保存修復協力事業	文化遺産国際協力センター	技術支援研究室長 加藤雅人
5	国際研修	文化遺産国際協力センター	技術支援研究室長 加藤雅人

(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用 2件

○文化財情報基盤の整備・充実 2件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者（役職・名前）
1	専門的アーカイブと総合的レファレンスの拡充	文化財情報資料部	文化財アーカイブズ研究室長 江村知子
2	文化財情報基盤の整備・充実	文化財情報資料部	文化財情報研究室長 二神葉子

【奈良文化財研究所】 50件

(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究 20件

○有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究 2件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者（役職・名前）
1	歴史的建造物および伝統的建造物群の保存・修復・活用の実践的研究	文化遺産部	建造物研究室長 島田敏男
2	近畿を中心とする古寺社等所蔵の歴史資料等に関する調査研究	文化遺産部	歴史研究室長 吉川 聡

○記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 18件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者（役職・名前）
1	我が国の記念物に関する調査研究（遺跡等整備）	文化遺産部	遺跡整備研究室長 内田和伸
2	我が国の記念物に関する調査研究（庭園）	文化遺産部	遺跡整備研究室長 内田和伸
3	平城宮東方官衙地区の調査	都城発掘調査部 平城地区	副部長 渡邊晃宏
4	東大寺東塔院跡の発掘調査	都城発掘調査部 平城地区	副部長 渡邊晃宏
5	平城京左京二条二坊十一坪の発掘調査（611次）	都城発掘調査部 平城地区	副部長 渡邊晃宏
6	藤原宮大極殿院地区の発掘調査	都城発掘調査部 飛鳥・藤原地区	部長 玉田芳英
7	飛鳥地域等の発掘調査	都城発掘調査部 飛鳥・藤原地区	部長 玉田芳英
8	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	都城発掘調査部 飛鳥・藤原地区	部長 玉田芳英
9	平城宮・京跡出土遺物・遺構の調査・研究	都城発掘調査部 平城地区	副部長 渡邊晃宏
10	3Dプロジェクト	埋蔵文化財センター	センター長 高妻洋成
11	東アジアにおける工芸技術及び飛鳥時代の建築遺物等の研究	飛鳥資料館	学芸室長 石橋茂登
12	中国との共同研究	都城発掘調査部 平城地区	副所長 渡邊晃宏
13	韓国との共同研究	都城発掘調査部 平城地区	副所長 渡邊晃宏
14	文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究	文化遺産部	景観研究室長 中島義晴

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者（役職・名前）
15	全国の埋蔵文化財に関する基盤的な調査研究	埋蔵文化財センター 企画調整部 都城発掘調査部	埋蔵文化財センター 遺跡・調査技術研究室長 金田明大
16	古代瓦に関する研究集会の実施、報告書の刊行	都城発掘調査部 平城地区	考古第三研究室長 清野孝之
17	古代官衙、集落遺跡に関する研究集会の開催及び報告書の刊行	都城発掘調査部	部長 玉田芳英
18	水中文化遺産に関する調査研究	埋蔵文化財センター 都城発掘調査部	センター長 高妻洋成

(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究 8件

○文化財の調査手法に関する研究開発の推進 3件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者（役職・名前）
1	埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発	埋蔵文化財センター	遺跡・調査技術研究室長 金田明大
2	年輪年代学研究	埋蔵文化財センター	年代学研究室長 星野安治
3	動植物遺体の分析方法の研究開発	埋蔵文化財センター	環境考古学研究室長 山崎健

○文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究 5件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者（役職・名前）
1	考古遺物の保存処理法に関する調査研究	埋蔵文化財センター	センター長兼保存修復科学研究室長 高妻洋成
2	遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究	埋蔵文化財センター	センター長 高妻洋成
3	建造物の彩色に関する調査研究	埋蔵文化財センター	センター長 高妻洋成
4	高松塚古墳、キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究	埋蔵文化財センター	センター長 高妻洋成
5	古墳壁画の恒久的保存に関する調査研究	埋蔵文化財センター	センター長 高妻洋成

(3) 文化遺産保護に関する国際協働 6件

○文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進 6件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者（役職・名前）
1	文化遺産の保存・修復に関する人材育成（ユネスコ等）	企画調整部	国際遺跡研究室長 庄田慎矢
2	文化遺産の保存・修復に関する人材育成（イギリス等）	企画調整部	都城発掘調査部長 玉田芳英
3	文化財保護に関する国際協力の推進	企画調整部	国際遺跡研究室長 庄田慎矢
4	西アジア・中央アジア諸国等における文化財修復保存協力事業	企画調整部	国際遺跡研究室長 庄田慎矢
5	文化遺産保護に関する国際情報の収集・研究・発信	企画調整部	国際遺跡研究室長 庄田慎矢
6	ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）等が行う研修への協力	企画調整部	国際遺跡研究室長 庄田慎矢

(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用 5件

○文化財情報基盤の整備・充実 2件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者（役職・名前）
1	文化財に関するデータベースの充実	企画調整部	文化財情報研究室長 渡邊晃宏
2	図書の収集・整理・公開・提供	研究支援推進部	研究支援推進部連携推進課長 貴村好隆

○調査研究成果の発信 1件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者（役職・名前）
1	定期刊行物の刊行、公開講演会・現地説明会等の開催、ウェブサイトの充実	研究支援推進部 企画調整部	研究支援推進部連携推進課長 貴村好隆

○展示公開施設の充実 2件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者（役職・名前）
1	平城宮跡資料館・飛鳥資料館・藤原宮跡資料室における展示公開	企画調整部・飛鳥資料館・ 都城発掘調査部 飛鳥・藤原地区	企画調整部部長 加藤 真二 飛鳥資料館学芸室長 石橋 茂登
2	平城宮跡解説ボランティアの研修内容の充実及び運用改善	研究支援推進部	研究支援推進部連携推進課長 貴村好隆

(5) 地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等 11件

○文化財に関する研修の実施 1件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者（役職・名前）
1	文化財担当者研修	企画調整部 研究支援推進部	企画調整部長 加藤 真二

○文化財に関する協力・助言等 5件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者（役職・名前）
1	地方公共団体が行う平城地区の発掘調査等への援助・助言	都城発掘調査部 平城地区	副部長 渡邊晃宏
2	地方公共団体が行う飛鳥・藤原地区の発掘調査への指導・助言	都城発掘調査部 飛鳥・藤原地区	部長 玉田芳英
3	地方公共団体等が行う史跡の整備、復原事業等に関する技術的助言	奈良文化財研究所	所長 松村恵司
4	他機関等との共同研究及び受託研究	研究支援推進部	所長 松村恵司
5	地震・水害等により被災した文化財の復旧に関する調査研究	埋蔵文化財センター	センター長 高妻洋成

○平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力 4件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者（役職・名前）
1	文化庁、国土交通省が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡の整備・管理等への協力	研究支援推進部	研究支援課長 菊本恵二

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者（役職・名前）
2	国土交通省が行う平城宮いざない館での公開・活用事業への協力	企画調整部	展示企画室長 加藤真二
3	文化庁が行うキトラ古墳壁画保存管理施設の管理・運営と古墳壁画の公開事業への協力	飛鳥資料館	学芸室長 石橋茂登
4	NPO法人平城宮跡サポートネットワーク及び周辺自治会等が行う各種ボランティア活動への協力	研究支援推進部	研究支援推進部連携推進課長 貴村好隆

○連携大学院教育の推進 1件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者（役職・名前）
1	京都大学・奈良女子大学との間での連携大学院教育の推進	研究支援推進部	所長 松村恵司

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】 1件

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者（役職・名前）
	アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する基礎的な調査・研究の推進	アジア太平洋無形文化遺産研究センター	所長 岩本 渉

（参考）受託研究一覧

合計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	アジア太平洋無形文化遺産研究センター
59 件	10 件	48 件	1 件

【東京文化財研究所】 10件

	調査研究テーマ名	担当部課
1	美術工芸品保存修理用具・原材料調査事業	保存科学研究センター
2	国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する調査等業務	保存科学研究センター
3	特別史跡キトラ古墳保存対策等調査業務	保存科学研究センター
4	被災資料有害物質発生状況調査業務	保存科学研究センター
5	文化遺産国際協力コンソーシアム事業	文化遺産国際協力センター
6	平成31年度文化遺産国際協力拠点交流事業「ブータン王国の歴史的建造物保存活用に関する拠点交流事業」	文化遺産国際協力センター
7	ポーランド・クラクフにおける文化財保存技術発信・交流事業	文化遺産国際協力センター
8	文化遺産国際協力拠点交流事業「ネパールの被災文化遺産保護に関する技術的支援事業」	文化遺産国際協力センター
9	遺産影響評価のための世界遺産と開発事業等の関係に関する基礎調査	文化遺産国際協力センター
10	シルクロードが結ぶ友情プロジェクト「シリア人専門家研修（紙資料）」	文化遺産国際協力センター

【奈良文化財研究所】 48件

	調査研究テーマ名	担当部課
1	平城宮いざない館詳覧ゾーンにかかる学芸業務および解説案内等業務	企画調整部
2	2019年度文化遺産保護貢献事業実施委託業務（カザフスタンにおける考古遺物の調査・記録・保存に関する技術移転を目的とした拠点交流事業）	企画調整部
3	古墳等の発掘調査による採取資料等を用いた展示活用に関する情報収集・分析業務	企画調整部
4	湯浅町重要建造物調査研究業務	文化遺産部
5	重要文化財綿業会館保存活用計画調査研究業務	文化遺産部
6	高野町文化財保存活用地域計画調査	文化遺産部
7	京都市の文化的景観保存計画策定調査	文化遺産部
8	智頭の林業景観整備計画策定調査	文化遺産部
9	「あわの至宝」調査・発信事業における建造物の調査	文化遺産部
10	湯浅町内歴史的建造物悉皆調査	文化遺産部
11	高山市料亭洲さき建造物調査	文化遺産部
12	名古屋鉄道株式会社所蔵貴重図面電子化の調査研究業務	文化遺産部
13	第一次大極殿院南門復原にともなう管理施設予定地の発掘調査	都城発掘調査部 平城地区
14	第一次大極殿院建造物復原整備他にかかる調査委託	都城発掘調査部 平城地区
15	東大寺東塔復元案作成にかかる調査研究業務	都城発掘調査部 平城地区
16	長登銅山跡出土木簡の保存処理等総合的研究	都城発掘調査部 平城地区
17	平城京左京二条二坊十四坪・十五坪・二条条間路の発掘調査	都城発掘調査部 平城地区
18	史跡 法華寺旧境内および名勝 法華寺庭園の発掘調査	都城発掘調査部 平城地区
19	重点地区平城宮周辺の発掘調査	都城発掘調査部 平城地区
20	史跡 法華寺旧境内の発掘調査	都城発掘調査部 平城地区
21	興福寺旧境内の発掘調査（614）	都城発掘調査部 平城地区
22	藤原京右京九条二・三坊、瀬田遺跡発掘調査による出土文化財の調査・研究及び報告書作成業務	都城発掘調査部 飛鳥・藤原地区
23	平成31年度（2019年度）二国間交流事業共同研究 物質文化に見る前期青銅器時代1期南西力カンにおけるエジプト人居留地	都城発掘調査部 飛鳥・藤原地区
24	明日香村西橋遺跡出土木簡の保存処理等を経ての総合的研究	都城発掘調査部 飛鳥・藤原地区
25	特別史跡藤原宮跡（高殿町個人住宅建築）発掘調査	都城発掘調査部 飛鳥・藤原地区
26	特別史跡藤原宮跡（水路付替）発掘調査	都城発掘調査部 飛鳥・藤原地区
27	特別史跡藤原宮跡（別所町水路改修）発掘調査	都城発掘調査部 飛鳥・藤原地区
28	藤原京跡（南浦町道路改良）発掘調査	都城発掘調査部 飛鳥・藤原地区
29	考古・文献史料からみた歴史災害情報の収集とデータベース構築・公開ならびにその地質考古学的解析	埋蔵文化財センター
30	特別史跡キトラ古墳の保存・活用及びキトラ古墳壁画保存管理施設の管理・運営業務	埋蔵文化財センター
31	国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する研究等業務	埋蔵文化財センター
32	古墳の石室及び横穴墓等の被災状況及び防災措置の調査研究委託業務	埋蔵文化財センター
33	船原古墳出土遺物の構造調査	埋蔵文化財センター
34	木造源実朝坐像解体修理にともなう年輪年代調査	埋蔵文化財センター
35	波怒薬館遺跡および台の下貝塚出土の動物遺存体の分析	埋蔵文化財センター
36	松帆銅鐸・舌の調査研究	埋蔵文化財センター

37	元町石仏の塩害を抑制する覆屋運用手法及び石仏からの脱塩手法に関する検討業務	埋蔵文化財センター
38	令和元年度 紀伊風土記の丘出土玉類自然科学分析業務委託	埋蔵文化財センター
39	X線CTを用いた金井下新田遺跡出土ウマ頭骨の撮像と立体構造データ作成	埋蔵文化財センター
40	鳥取県における弥生時代青銅器の調査研究	埋蔵文化財センター
41	史跡鬮鷄山古墳の調査保存に資する基礎的調査研究	埋蔵文化財センター
42	「中世・近世石づくりのまち」調査研究事業	埋蔵文化財センター
43	特別史跡平城宮跡及び藤原宮跡地内における歴史的環境維持業務	研究支援推進部
44	名勝 法華寺庭園（第618次）発掘調査	都城発掘調査部 平城地区
45	特別史跡藤原宮跡（醍醐町個人住宅建築）発掘調査	都城発掘調査部 飛鳥・藤原地区
46	X線CTを用いた金井下新田遺跡出土臼玉一連資料の撮像と立体構造データ作成	埋蔵文化財センター
47	八日市地方遺跡出土遺物の非破壊による内部構造調査	埋蔵文化財センター
48	日南市飫肥歴史的建造物活用ガイドライン作成のための調査研究	文化遺産部

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】 1件

	調査研究テーマ名	担当部課
1	令和元年度 無形文化遺産保護パートナーシッププログラム（受託）	アジア太平洋無形文化遺産研究センター

c-③ 学会、研究会等発表実績一覧

令和2年3月31日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
477件	285件	94件	70件	79件	42件
	文化財研究所計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	共同研究（東京・奈良文化財研究所）	
	167件	64件	103件	0件	
	本部文化財活用センター	アジア太平洋無形文化遺産研究センター		文化財防災ネットワーク推進本部	
	16件	0件		9件	

【本部文化財活用センター】 16件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究 6件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究	「デジタルデータを用いた複製の制作と活用—教育などの活用目的に応じた複製制作の指針」	文化財活用センター副センター長 小林牧	5月16日	韓国国立中央博物館 博物館教育国際シンポジウム「デジタル化時代、博物館教育の方向と課題」
2	同上	「文化財の活用」で私たちは何を指すのか？」	文化財活用センター副センター長 小林牧	5月28日	静岡県博物館協会50周年記念講演会「観光と文化財の活用は博物館の新たな指針か」
3	同上	「文化財複製の制作と活用—新しい鑑賞体験をデザインする」	文化財活用センター副センター長 小林牧	7月19日	一般財団法人デジタル文化財創出機構 シンポジウム「進化する複製の未来」
4	同上	「複製がひらく文化財の未来」パネルディスカッション モデレーター	文化財活用センター副センター長 小林牧	11月23日	文化財活用センター公開シンポジウム「複製がひらく文化財の未来」
5	同上	「デジタルアーカイブ運用の技術的課題」	文化財活用センター デジタル資源担当室長 村田良二	2年2月20日	デジタルアーカイブ学会公開セミナー「ミュージアムとジャパンサーチ」
6	同上	「明治34年集古会にみる呉服商「大彦」の小袖コレクション」	文化財活用センター 企画担当専門員 高木結美	2年1月26日	シンポジウム「美術品としての日本染織コレクションはいかに形成されていったのか」

○その他有形文化財に関連する調査研究 10件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	展示・収蔵環境の管理と改善に関する調査研究	展示室内の空気環境	本部文化財活用センター 保存担当室長 吉田直人	6月5日	高知文化財団 第2回学芸員専門研修会
2	同上	文化財施設における保存環境の把握について	本部文化財活用センター 保存担当室長 吉田直人	6月20日	文化庁 公開承認施設会議
3	同上	保存・展示環境の科学	本部文化財活用センター 保存担当室長 吉田直人	6月24日	文化庁 指定文化財（美術工芸品）企画・展示セミナー
4	同上	保存科学 - 環境制御（保存環境管理）	本部文化財活用センター 保存担当室長 吉田直人	9月10日	令和元年度 国文学研究資料館アーカイブズカレッジ
5	同上	文化財活用センターの役割について	本部文化財活用センター 保存担当室長 吉田直人	10月10日	文化財虫菌害研究所第39回文化財防虫防菌処理実務講習会
6	同上	文化財活用センターの発足とその役割	本部文化財活用センター 保存担当室長 吉田直人	10月30日	国際フォーラム「地域文化を活用する—地域振興、地域活性に果たす役割」（台湾・蘭陽博物館）
7	同上	資料保存の観点からの展示照明管理	本部文化財活用センター 保存担当室長 吉田直人	11月21日	高知文化財団 第3回学芸員専門研修会
8	文化財の防災に関する調査研究	災害対策調査部会の活動について—2018年度報告—	本部文化財活用センター 保存担当研究員 間瀬創	6月22日	文化財保存修復学会 第41回大会
9	展示・収蔵環境の管理と改善に関する調査研究	文化財活用センターの設立と保存担当部門の役割について	本部文化財活用センター 保存担当研究員 間瀬創	6月22日	文化財保存修復学会 第41回大会
10	同上	文化財公開施設のゾーニングと虫菌害対策の方法・留意点について	本部文化財活用センター 保存担当研究員 間瀬創	10月10日	第39回文化財防虫防菌処理実務者講習会

【東京国立博物館】 94件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究 77件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究	璽印と皇帝コレクション	学芸企画部長 富田淳	4月7日	全日本篆刻連盟
2	同上	山田正平の魅力 日中書法交流史点描	学芸企画部長 富田淳	5月31日	新潟市会津八一記念館 文芸講演会
3	同上	中国絲綢博物館	学芸企画部長 富田淳	8月4日	中国絲綢博物館
4	同上	王羲之から顔真卿へ	学芸企画部長 富田淳	10月6日	日本書道院

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
5	同上	禅宗の彫刻	企画課長 浅見龍介	5月11日	三井記念美術館
6	同上	慶派仏師と三十三間堂	企画課長 浅見龍介	9月15日	京都 妙法院
7	同上	歌仙絵の成立と展開—佐竹本への道のり—	企画課特別展室主任研究員 土屋貴裕	10月9日	京都国立博物館特別展「流転100年 佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」記念講演会
8	同上	桜井市三輪山麓における弥生・古墳祭祀の問題	企画課特別展室研究員 山本亮、奈良文化財研究所埋蔵文化財センター主任研究員 金田明大	5月19日	日本考古学協会第85回総会
9	同上	文物が語るリアル三国志	企画課特別展室研究員 山本亮	8月9日	特別展関連自治体講演会（東京都小平市・羽村市）
10	同上	近畿から見た東日本の古墳と土器	企画課特別展室研究員 山本亮	10月19日	考古学研究会第51回東京例会
11	同上	奈良盆地以西の円形周溝墓	企画課特別展室研究員 山本亮	11月23日	絵画文シャーマンと2世紀墳丘墓
12	同上	特別展「出雲と大和」を楽しむ	企画課特別展室研究員 山本亮	2年2月6日	NHK自治体講演会（東京都青梅市）
13	同上	港区 芝丸山第8号墳	企画課特別展室研究員 山本亮、調査研究課考古室研究員河野正訓、ほか外部研究者	2年2月15日	東京都遺跡調査・研究発表会45
14	同上	瀟湘八景受容の観点からみる大仙院室中障壁画と庭園	企画課国際交流室アソシエイトフェロー 武瀟瀟	5月18日	第64回国際東方学会会議
15	同上	縄文の美を楽しむ—海辺の縄文文化—	物館教育課教育講座室長 井出浩正	10月26日	松戸市立博物館・歴史を語る（第3回）講演会
16	同上	明早期青花瓷の兩種流派—以雲堂手流派為例	博物館情報課長 今井敦	6月28日	灼爍重現 十五世紀中期景德鎮瓷器国際学術研討会（於上海博物館）
17	同上	中国陶磁と中国文化—日本と比較して	博物館情報課長 今井敦	2年1月27日	文化服装学院
18	同上	平安時代の書之美～空海から行成まで～	東京国立博物館百五十年史編集室長 恵美千鶴子	6月29日	貞香会展講演会
19	同上	東京国立博物館所蔵 蘇州潘氏関連書画について	列品管理課登録室研究員 六人部克典	12月21日	清代藏家学術研討会暨蘇州博物館建館60周年会議
20	同上	「地獄極楽めぐり図」に描かれた絵師と歌舞伎役者	列品管理課登録室アソシエイトフェロー 曾田めぐみ	5月3日	蕨市制60周年記念事業 暁斎連続講演会Part.2「暁斎が仏画に込めた想い」於蕨市民会館コンクレレホール
21	同上	「東京国立博物館所蔵 松方浮世絵コレクションの中の暁斎旧蔵品について」	列品管理課登録室アソシエイトフェロー 曾田めぐみ	7月28日	第45回河鍋暁斎研究発表会 於蕨眼科
22	同上	「河鍋暁斎筆《地獄極楽めぐり図》について（12）—勝田家の奉納記録と描かれた神仏との関係性を中心に—」	列品管理課登録室アソシエイトフェロー 曾田めぐみ	2年1月26日	第46回河鍋暁斎研究発表会 於蕨眼科
23	同上	「国宝 東寺—空海と仏像曼荼羅」—展覧会を楽しむために—	列品管理課貸与特別観覧室研究員 西木政統	4月10日	NHK自治体講演会（中央区日本橋公会堂ホール）
24	同上	「国宝 東寺—空海と仏像曼荼羅」—展覧会を楽しむために—	列品管理課貸与特別観覧室研究員 西木政統	4月14日	NHK自治体講演会（足立区生涯学習センター4階講堂）
25	同上	「国宝 東寺—空海と仏像曼荼羅」—展覧会を楽しむために—	列品管理課貸与特別観覧室研究員 西木政統	4月19日	NHK自治体講演会（江東区森下文化センター2階多目的ホール）
26	同上	「国宝 東寺—空海と仏像曼荼羅」—展覧会を楽しむために—	列品管理課貸与特別観覧室研究員 西木政統	5月11日	NHK自治体講演会（町田市中央図書館6階ホール）
27	同上	「第5回 観音堂の千手観音と二十八部衆—観音堂の仏像のみどころ—」	列品管理課貸与特別観覧室研究員 西木政統	12月22日	仁和寺に学ぶ文化の継承（於仁和寺）
28	同上	大報恩寺のみほとけ 運慶次世代の仏師と京都	列品管理課平常展調整室長 皿井舞	4月27日	九州国立博物館特別展記念講演会
29	同上	中世興福寺における彫刻の復古とオリジナル	列品管理課平常展調整室長 皿井舞	5月8日	日本建築学会の若手研究会「復古とオリジナル」
30	同上	Breaking a Negative Cycle: Ancient Egyptian Collections in Japan and their Future	列品管理課平常展調整室研究員 小野塚拓造	9月3日	CIPEG Annual Meeting as part of the 25th ICOM General Conference, Kyoto
31	同上	Tel Rekhes during the Late Bronze and the Early Iron Ages and its Historical Context	列品管理課平常展調整室研究員 小野塚拓造、ほか外部研究者	12月29日	Symposium "The Jezreel Valley in the LB-Iron IIA in context," Institute of Archaeology, Tel Aviv University
32	同上	南レヴァントから見た3.2kaイベントと古代地中海世界の転換期	列品管理課平常展調整室研究員 小野塚拓造	2年2月1日	日本西アジア考古学会 公開シンポジウム「気候変動と古代西アジア—古気候から探る文化・文明の興亡」
33	同上	古墳に学ぶ技術と儀礼 パネルディスカッション	調査研究課長 河野一隆	7月21日	東京シンポジウム2019—文化遺産を考える—

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
34	同上	先史壁画のデジタルアーカイブと公開活用	調査研究課長 河野一隆	10月24日	新潟国際情報大学
35	同上	「特別展 国宝 東寺—空海と仏像曼荼羅—」	調査研究課絵画・彫刻室長 沖松健次郎	4月12日	NHK自治体講演会（調布市）
36	同上	「特別展 国宝 東寺—空海と仏像曼荼羅—」	調査研究課絵画・彫刻室長 沖松健次郎	4月16日	NHK自治体講演会（板橋区）
37	同上	「特別展 国宝 東寺—空海と仏像曼荼羅—」	調査研究課絵画・彫刻室長 沖松健次郎	4月19日	NHK自治体講演会（あきる野市）
38	同上	「特別展 「国宝 東寺—空海と仏像曼荼羅—」を鑑賞する」	調査研究課絵画・彫刻室長 沖松健次郎	4月23日	聖心女子学院生涯学習センター文化講座
39	同上	「集められた扇絵—九州国立博物館所蔵「扇面画帖」の修理報告」	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員 鷲頭桂	12月15日	第5回源氏絵データベース研究会シンポジウム「室町時代源氏絵研究の最前線」（基盤研究(B)オントロジーに基づく源氏絵データベースを共有、活用した源氏絵の総合研究（研究代表者：稲本万里子））
40	同上	東京国立博物館所蔵 木挽町狩野家模本について	調査研究課絵画・彫刻室研究員 大橋美織	8月27日	狩野派與中國／台日聯合工作坊（台湾中央研究院）
41	同上	「特別展 国宝 東寺—空海と仏像曼荼羅—」鑑賞の手引き	調査研究課絵画・彫刻室研究員 高橋真作	4月13日	NHK自治体講演会（新宿区立新宿歴史博物館）
42	同上	狩野元信様式の再検討	調査研究課絵画・彫刻室研究員 高橋真作	8月27日	狩野派與中國／台日聯合工作坊（台湾中央研究院）
43	同上	建長寺の禅宗美術（建長寺宝物風入特別講座）	調査研究課工芸室長 小山弓弦葉	11月2日	第14回鎌倉芸術祭／建長まつり（建長寺）
44	同上	New Discoveries among Textiles in the Siebold Collection	調査研究課工芸室長 小山弓弦葉	11月2日	12th Siebold Conference, Leiden
45	同上	山中商会の初期の売買に見る日本染織の動向	調査研究課工芸室長 小山弓弦葉	2年1月26日	公開シンポジウム「美術品としての日本染織コレクションはいかに形成されていったのか」
46	同上	縄文の美を探る	調査研究課考古室長 品川欣也	4月16日	午餐会講演会（尚友倶楽部）
47	同上	縄文の美を捉える	調査研究課考古室長 品川欣也	6月1日	国宝指定20周年記念講演会（新潟県十日町市）
48	同上	縄文の美を楽しむ	調査研究課考古室長 品川欣也	6月21日	2019年第1回国際理解講演会（港ユネスコ協会）
49	同上	考古学者の考える美	調査研究課考古室長 品川欣也	6月30日	特別講演会（大和文華館）
50	同上	縄文文化の魅力紹介	調査研究課考古室長 品川欣也	10月9日	第101期一橋フォーラム21（如水会）
51	同上	「縄文展」をふりかえる	調査研究課考古室長 品川欣也	11月2日	オープンカレッジ第3回（宮畑遺跡史跡公園・じょーもびあ宮畑）
52	同上	「縄文文化へのまなざし—世界から見た縄文—」	調査研究課考古室長・品川欣也	2年2月11日	シンポジウム「世界遺産と縄文—大森勝山遺跡の世界遺産登録に必要なものとは？—」（青森県弘前市）
53	同上	港区 芝丸山第8号墳	企画課特別展室研究員 山本亮、調査研究課考古室研究員 河野正訓、ほか外部研究者	2年2月15日	東京都遺跡調査・研究発表会45
54	同上	北海道常呂郡置戸町置戸山2遺跡の第3次発掘調査概要報告	調査研究課考古室研究員 飯田茂雄 ほか外部研究者	5月19日	第85回 日本考古学協会
55	同上	砂川遺跡とはどんな遺跡であったのか	調査研究課考古室研究員 飯田茂雄	11月9日	シンポジウム「砂川遺跡—旧石器時代研究の過去・現在・未来—」
56	同上	Towards a Better Understanding of Asian Cultures: Challenges Faced by the Tokyo National Museum's Asian Gallery	調査研究課東洋室長 勝木言一郎	10月29日	7th Asian National Museums Association (ANMA) Meeting and Conference
57	同上	「曹操高陵最新研究報告—『特別展 三国志』に関連して—」	調査研究課東洋室主任研究員 市元壘	7月14日	三国志学会
58	同上	「策展工作中的理想与现实—以日本三国展为例」	調査研究課東洋室主任研究員 市元壘	4月24日	国家文物局2019年全国展览策划与实施培训班
59	同上	「皇帝陵の考古学—三国から隋まで」	調査研究課東洋室主任研究員 市元壘	11月27日	学習院大学東洋文化研究所 第102回東洋文化講座
60	同上	Passage to the Pure Land: The Sedgwick Shotoku and the Cult of the Dancing Priest Ippen (1239-1289)	保存修復課保存修復室長 瀬谷愛	5月28日	アメリカ・ハーバード大学美術館 Study Day
61	同上	東京国立博物館所蔵資料の保存と活用	保存修復室長・瀬谷愛	10月27日	日本ミュージアム・マネジメント学会
62	同上	津波に被災した掛軸「切り絵曼荼羅」の応急修理における一考察	保存修復課保存修復室アシエイトフェロー 大山龍顕	6月23日	第41回文化財保存修復学会
63	特集「やちむん—沖縄のやきもの」に関する調査研究	「東京国立博物館所蔵の琉球資料に含まれる陶磁器について」	企画課特別展室主任研究員 三笠景子	9月7日	東洋陶磁学会第2回研究会

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
64	特集「平家納経模本の世界—益田本と大倉本—」に関する調査研究	明治宮殿の室内装飾に関する一考察	東京国立博物館百五十年史編集室長 恵美千鶴子	6月30日	家具道具室内史学会
65	特別展「出雲と大和」に関する調査研究	出雲と大和へのいざない	調査研究課考古室研究員 河野正剛	2年2月23日	日本書紀成立1300年 特別展「出雲と大和」関連文化講演会（町田市立図書館）
66	特別企画「奈良大和四寺のみほとけ」に関する調査研究	奈良大和四寺のみほとけ	列品管理課平常展調整室長 皿井舞	9月15日	クラブツーリズム主催講演会
67	御即位記念特別展「正倉院の世界—皇室がまもり伝えた美—」に関する調査研究	御即位記念特別展「正倉院の世界」	調査研究課工芸室研究員 三田覚之	9月29日	正倉院フォーラム、よみうり大手町ホール
68	同上	正倉院と螺鈿紫檀五絃琵琶	調査研究課工芸室研究員 三田覚之	11月09日	雅楽アジアの響き、国立劇場
69	特別展「法隆寺金堂壁画と百済観音」に関する調査研究	法隆寺金堂壁画と百済観音	保存修復課保存修復室長 瀬谷愛	2年1月20日	東京大学仏教青年会
70	同上	百済観音と聖徳太子のこころ	保存修復課保存修復室長 瀬谷愛	2年2月23日	法隆寺シンポジウム
71	特別展「きものKIMONO」に関する調査研究	Textile & Costume galleries in Tokyo National Museum	調査研究課工芸室長 小山弓弦葉	9月3日	ICOM京都大会コスチューム委員会（於：京都国立近代美術館）
72	同上	Kimono: Fashioning Identities	調査研究課工芸室長 小山弓弦葉	9月3日	ICOM京都大会ICDAD委員会（於：稲森記念会館）
73	博物館環境デザインに関する調査研究	夏季華道総合講座「気配をデザインする—東京国立博物館の展示」	学芸企画部上席研究員 木下史青	7月21日	未生流
74	同上	谷口吉郎・吉生記念金沢建築館開館記念「トーハクとMOMATにまつわる、建築と展示の話」	学芸企画部上席研究員 木下史青、ほか外部研究者	8月7日	銀座蔦屋書店 建築
75	同上	どくろ茶会「どくろ茶会」とは博物館の〈負の象徴構造〉である	木下史青（東京国立博物館上席研究員・デザイン）	12月9日～18日	東京藝術大学大学院美術研究科博士課程
76	博物館教育に関する調査研究	デジタルメディア・複製を用いた体験型鑑賞：ファミリー向け特集展示「親と子のギャラリー」を例に	博物館教育課教育普及室長 藤田千織、文化財活用センター副センター長 小林牧	5月16日	2019年韓中日博物館教育国際シンポジウム（韓国・国立中央博物館）
77	博物館教育に関する調査研究、ICTを利用した博物館見学ガイドの開発に関する調査研究	モノを見る体験を豊かにするICT技術	博物館教育課教育普及室長 藤田千織	8月22日	第15回教育旅行シンポジウム「ICTを活用した教育旅行～新学習指導要領にいう『深い学び』につなげるために～」

○その他有形文化財に関連する調査研究 17件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	博物館の環境保存に関する調査研究	展示用支持具の効果および機能と課題	企画課デザイン室長 矢野賀一、保存修復課環境保存室長 和田浩、同アソシエイトフェロー 黄川田翔	6月30日	第38回日本展示学会大阪大会
2	同上	博物館・美術館の収蔵庫における照明計画の現状—安全対策としての視点から—	企画課デザイン室長 矢野賀一、保存修復課環境保存室長 和田浩、同アソシエイトフェロー 黄川田翔	9月12日	2019年度（第52回）照明学会全国大会
3	同上	関東甲信越地域における文化財防災ネットワークの構築に向けた取り組み	列品管理課登録室研究員 六人部克典、保存修復課環境保存室長 和田浩、同アソシエイトフェロー 黄川田翔	6月23日	文化財保存修復学会第41回大会
4	同上	災害対策調査部会の活動について—2018年度報告—	保存修復課環境保存室長 和田浩	6月23日	文化財保存修復学会第41回大会
5	同上	法隆寺金堂焼損部収蔵庫における壁画の保存・公開に関する研究—数値解析による小屋裏の送風ファンによる環境調整方法の検討—	保存修復課環境保存室長 和田浩	6月1日	日本文化財科学会第36回大会
6	同上	文書保存の基礎知識～書庫環境管理と生物被害対策	保存修復課環境保存室長 和田浩	8月29日	第9回公益財団法人特別区協議会・東京都公文書館共催セミナー「地方公共団体の記録資料を未来に遺す—公文書等の保存をめぐる」
7	美術品・輸送機関・梱包資材の振動特性情報を集積した安全輸送のためのシステム構築	博物館内輸送用防振機能付台車の開発	保存修復課環境保存室長 和田浩	11月27日	日本機械学会第28回交通・物流部門大会

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
8	同上	博物館内の作品輸送で生じる振動レベルの評価とその対策	保存修復課環境保存室長 和田浩	11月21日	第57回全日本包装技術研究大会
9	同上	文化財輸送環境の保全	保存修復課環境保存室長 和田浩	2年2月27日	全国美術館会議保存研究部会第54回会合
10	博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究	企業・NPOが参加するオープンサイエンスのこれまでとこれから 2019年版	博物館情報課情報管理室 主任研究員 阿児雄之	5月28日	ジャパン・オープンサイエンス・サミット2019
11	同上	Information Logisticsを基底に学術資料や文化資源を見つめ続ける	博物館情報課情報管理室 主任研究員 阿児雄之	7月26日	学術野営2019
12	同上	地図 アーカイブ の利活用と社会実践	博物館情報課情報管理室 主任研究員 阿児雄之 ほか外部研究者	10月20日	第28回地理情報システム学会研究発表大会
13	同上	地域資料の“逐次公開”に関する考察	博物館情報課情報管理室 主任研究員 阿児雄之 ほか外部研究者	11月23日	第24回情報知識学フォーラム
14	同上	学校教育・生涯学習（一般利用）に向けた文化財・文化資源情報の在り方とは	博物館情報課情報管理室 主任研究員 阿児雄之	2年2月21日	歴博共同研究「総合資料学の創成」地域連携・教育ユニット研究会
15	同上	キュレーション-リアルとデジタルの間-	学芸研究部特任研究員 田良島哲	11月30日	国立国会図書館「NDLデジタルライブラリーカフェ」
16	同上	文化財画像活用の課題	学芸研究部特任研究員 田良島哲	12月23日	アートコンテンツ活用シンポジウム「デジタルアーカイブで拓くアートの未来」
17	同上	デジタルアーカイブ運用の制度的課題	学芸研究部特任研究員 田良島哲	2年2月20日	公開セミナー「ミュージアムとジャパンサーチャーその可能性と課題」

【京都国立博物館】57件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究 57件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	幕末・維新史に関する調査研究	寺田屋登勢と坂本龍馬—登勢の手紙の真意—	上席研究員 宮川 禎一	5月25日	高知県立坂本龍馬記念館「現代龍馬学会」総会基調講演
2	同上	福沢諭吉と坂本龍馬	同上	8月17日	大分県中津市城南公民館歴史講座
3	同上	坂本龍馬と剣術道場	同上	11月3日	高知県アクトランド講演会
4	収蔵品・寄託品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究	染織品にみる大航海時代—龍光院所蔵品から—	企画室長 山川 暁	4月14日	MIHO MUSEUM 春期特別展講演会
5	同上	Japanese Warriors' Surcoats (<i>Jinbaori</i>) in the Age of Exploration	同上	9月4日	ICOM KYOTO ICOM COSTUME国際委員会
6	同上	仏像入門	連携協力室長 浅湫 毅	5月16日	『智積院研修会』智積院
7	同上	木のほとけ	同上	7月26日	『京都国立博物館夏期講座』京都国立博物館
8	同上	美しい仏像に出会う	同上	9月24日	『高槻市北清水公民館講座 仏像へのいざない』高槻市北清水公民館
9	同上	平安時代の仏像 —一定朝から運慶まで—	同上	11月16日	『大津市歴史博物館講座』大津市歴史博物館
10	『国宝—遍聖絵と時宗の名宝』展に関する調査研究	国宝—遍聖絵と時宗の名宝展のみどころ	同上	5月15日	『NHKカルチャーセンター』大阪教室
11	同上	時宗のみほとけ	同上	5月18日	『京都国立博物館夏期講座』京都国立博物館
12	収蔵品・寄託品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究	An Exotic Three-Centuries-Old Mirror: Traditions of Archival Practice and Cross-Cultural Curiosity in Japan	教育室長 永島 明子	9月4日	ICOM ICDAD Kyoto 2019: The Future of Tradition in the Arts, East and West.
13	同上	古墳時代における山の祭祀と河内平野	考古室主任研究員 古谷 毅	8月2日	大阪府羽曳野市民大学「百舌鳥・古市古墳群をより深く知るための世界遺産講座」Ⅹ 第11講義
14	同上	西宮山古墳の出土遺物 —古墳時代後期における播磨の首長墓—	同上	9月21日	令和元年度 考古資料相互貸借活用促進事業 たつの市龍野歴史文化資料館 企画展「はじめての里帰り 西宮山古墳の御宝」関連ミュージアムトーク
15	同上	埴輪と古墳時代の人々 —古代国家成立前夜の社会像—	同上	10月5日	公益財団法人京都鴨沂会 第49回教養講座
16	同上	平常展示の重層化 —構造と再来性—	同上	10月8日	文化庁 第11回指定文化財(美術工芸品) 企画・展示セミナー

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
17	同上	古墳時代の空間構造－居住・生産と古墳・祭祀－	同上	10月26日	國學院大學博物館 百舌鳥・古市古墳群世界文化遺産登録記念 特集展示「王権と古墳－倭国統合の象徴－」関連ミュージアムトーク
18	同上	近代中国におけるデザインの展開—陳之仏を例に—	企画室主任研究員 呉 孟晋	5月18日	美術史学会第72回全国大会（於京都工芸繊維大学）
19	同上	李仲生的“超現実主義”	同上	6月30日	「日殖時期現代文藝の共時差異論壇」（於国立台湾美術館）
20	同上	コレクションをひもとく—最近の中国絵画史研究について—	同上	7月6日	第83回大阪市立大学中国学会（於大阪市立大学）
21	同上	展出「典藏」—簡介京都国立博物館近十年来的中国絵画展覧會—	同上	7月27日	Research and Exchange for International Curation on East Asian Painting with a Workshop（於国立故宫博物院（台湾台北））
22	同上	寄託制度と博物館	同上	8月24日	特別企画「ICOM京都大会開催記念 京博寄託の名宝—美を守り、美を伝える—」展土曜講座（於京都国立博物館）
23	同上	外交官須磨弥吉郎所看到の高剣父	同上	11月26日	「先声：高剣父芸術研究国際学術研討会」（於嶺南画派紀念館（中国広州））
24	同上	土方定一眼中的中国現代美術	同上	11月30日	「社会變動中的現代藝術与視覚文化」（於広州美術学院図像与歴史高等研究院・芸術与人文学院）
25	同上	陳澄波在東京：關於1920年代日本美術的動向	同上	2年2月7日	「陳澄波書畫收藏展」學術推廣活動論壇（於國父紀念館（台湾台北））
26	同上	中国山水畫の射程—臥遊と臨摸—	同上	2年2月15日	「それぞれの山水」展ギャラリートーク（於駒込倉庫（東京））
27	収藏品・寄託品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究	美麗を極める中国陶磁—松井コレクションの概要—	連携協力室研究員 降矢 哲男	5月18日	東洋陶磁学会研究会、京都国立博物館
28	特別展「佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」に関する調査研究	佐竹本三十六歌仙絵にみる近代数寄者と文化財保護	同上	6月29日	茶の湯文化学会東海例会、昭和美術館
29	収藏品・寄託品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究	茶碗—種類と美意識—	同上	7月17日	特別講義、多治見市陶磁器意匠研究所
30	同上	朝鮮時代の陶磁器の流れと茶碗にみる名称について	同上	7月27日	第13回 近世貿易陶磁研究調査G 勉強会、東京都埋蔵文化財センター
31	特別展「佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」に関する調査研究	近代数寄者が憧れた名品—佐竹本三十六歌仙—	同上	9月25日	京都政経文化懇話会、ANAクラウンプラザホテル京都
32	同上	佐竹本三十六歌仙絵の魅力に迫る	同上	10月9日	日経アカデミア「流転100年 佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」、日本経済新聞社SPACE NIO
33	同上	佐竹本の所蔵者とその想い	同上	10月10日	連続講演会「佐竹本と近代数寄者をめぐる物語」、薫習館 KARANI HALL
34	同上	佐竹本三十六歌仙絵の魅力	同上	10月21日	佛教大学・京都新聞総合研究所提携講座 もっと知りたい！ 関西のミュージアム、佛教大学四条センター
35	同上	佐竹本三十六歌仙絵の魅力	同上	10月23日	日経新聞社ロータリークラブ観覧ツアー講座、京都国立博物館
36	同上	佐竹本三十六歌仙絵と近代数寄者の美意識	同上	10月24日	NHK公開講演会「特別展 流転100年 佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」、宇治市生涯学習センター
37	同上	佐竹本三十六歌仙絵と近代数寄者の美意識	同上	10月29日	大阪美術商協同組合講演会、京都国立博物館
38	同上	佐竹本三十六歌仙絵と近代数寄者の美意識	同上	10月30日	NHK公開講演会「特別展 流転100年 佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」、豊中市千里文化センター
39	同上	佐竹本三十六歌仙絵への想い	同上	11月16日	特別展「佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」記念講演会、京都国立博物館
40	同上	佐竹本三十六歌仙絵と近代数寄者の美意識	同上	11月22日	京都美術倶楽部講演会、京都国立博物館
41	収藏品・寄託品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究	知恩院の障壁画	保存修理指導室研究員 福士 雄也	5月26日	知恩院和順会館 清風会見学会講座
42	同上	俵屋宗達筆 風神雷神図屏風	同上	6月19日	京都国立博物館文化財ソムリエ講座

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
43	同上	海を渡った扇絵—橋本雅邦最後の大作—	同上	8月3日	京都国立博物館土曜講座
44	同上	近世の画家のスケッチ	同上	2年2月22日	京都国立博物館土曜講座
45	収藏品・寄託品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究	国宝 後鳥羽上皇像と鎌倉時代の肖像画	企画室研究員 井並 林太郎	6月2日	島本町立歴史文化資料館 「水無瀬神宮の社宝 国宝複製完成展示」講演会
46	同上	京都国立博物館の歴史 ～今年の展覧会紹介を兼ねて～	同上	6月13日	MKタクシー講演会
47	特別展「国宝 一遍聖絵と時宗の名宝」に関する調査研究	『遊行上人縁起絵』の転写とその背景	同上	4月20日	研究発表と座談会 「一遍聖絵と遊行上人縁起絵」（仏教美術研究上野記念財団助成研究会）
48	特別展「流転100年 佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」に関する調査研究	歌仙絵の最高峰～佐竹本三十六歌仙絵の魅力～	同上	9月25日	京都政経文化懇話会
49	同上	佐竹本三十六歌仙絵の美と情緒	同上	10月17日	京都新聞「佐竹本と近代数寄者をめぐる物語」連続講演会
50	同上	流転 100 年 佐竹本三十六歌仙絵の魅力と真実	同上	10月18日	NHK文化センター京都教室
51	同上	流転100年 佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美	同上	10月21日	一般社団法人清風会記念講演会
52	同上	特別展「流転 100 年 佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」の見方・楽しみ方	同上	10月23日	日経カルチャー講演（於京東東急ホテル）
53	同上	「切断」された絵巻と100年の流転—佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美—	同上	10月24日	NHK公開講演会（於豊能町立ユーベルホール）
54	同上	「切断」された絵巻と100年の流転—佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美—	同上	10月25日	NHK公開講演会（於高槻市 生涯学習センター）
55	同上	流転100年 佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美	同上	10月29日	京都マーケティング・フォーラム
56	同上	特別展「流転 100 年 佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」	同上	10月31日	NHK文化センター梅田教室
57	同上	佐竹本三十六歌仙絵の諸問題—画風・復元・伝来—	同上	12月26日	研究会「絵画の再生—改装・復元・復元根拠」（於早稲田大学）

○その他有形文化財に関連する調査研究 13件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	その他有形文化財に関連する調査研究	埋蔵環境による軟質胎土の汚染に関する研究-鉄に着目して-	保存科学室長 降幡 順子	6月1日	日本文化財科学会第36回大会
2	同上	博多遺跡群出土ガラス容器片の科学調査-吹きガラスに着目して-	同上	6月22日	文化財保存修復学会第41回大会
3	同上	Disaster Mitigation Approaches in Kyoto National Museum	同上	8月30日	ICOM-DRMC ワークショップ
4	同上	Conservation Science and Explorations of Cultural Exchange-the blue color agents used to decorate ceramics	同上	9月3日	ICOM Kyoto 2019
5	同上	Early domestic production of lead-glazed earthenware in Japan: Analytical studies of excavated ceramics from the 7th and 8th centuries	同上	9月16日	EMAC 2019 Barcelona
6	同上	弥生のガラスと青谷上寺地遺跡	同上	11月30日	第4回青谷かみじち遺跡特別講演会
7	同上	京博におけるリスクマネジメント	同上	11月26日	イラン国立博物館等国際研修
8	同上	近世陶磁器の彩色材料	同上	2年2月15日	京都国立博物館土曜講座
9	同上	若沖と京坂の画家たち	保存修理指導室研究員 福士 雄也	4月14日	天慶院 山上宗二の遺徳を偲ぶ会
10	同上	屏風絵を楽しむために	同上	5月18日	くろちく百千足館 DNP文化プログラム事業
11	同上	若沖と京の画家たち	同上	5月31日	城陽プラネタリウム講座
12	同上	屏風絵が語る江戸初期の京都	同上	7月15日	くろちく百千足館 DNP文化プログラム事業
13	同上	研究発表に関する総合討論・コメンテーター	連携協力室研究員 上杉 智英	11月26日	ワークショップ「漢文佛教大蔵経版本概述—以大蔵経同版比較為例」（於 国際仏教学大学院大学）

【奈良国立博物館】 79件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究 66件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館藏品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	奈良国立博物館の歩み 仏教美術と正倉院宝物	館長 松本伸之	4月30日	改元記念講演
2	同上	奈良とは何か？ 国立博物館設置の意義	同上	7月6日	4機関協定締結記念シンポジウム
3	同上	金銅仏の系譜	同上	7月28日	第六十九回法隆寺夏季大学
4	同上	博物館のこれから	同上	8月24日	社会教育研究全国集会
5	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	必見 正倉院展	同上	8月25日	桜井市夏季大学
6	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館藏品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	The History and Future of Nara National Museum	同上	8月28日	COMCOL基調講演
7	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	皇室ゆかりの宝物と唐文化	同上	9月23日	正倉院フォーラム大阪
8	同上	正倉院宝物（パネルディスカッション）	同上	9月29日	正倉院フォーラム東京
9	同上	正倉院宝物—世界の至宝を見る—	同上	10月4日	奈良経済同友会例会
10	同上	正倉院展をめぐって	同上	10月10日	関西総領事懇談会
11	同上	シルクロード文化の結晶 奈良	同上	10月19日	奈良シルクロードシンポジウム基調講演
12	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館藏品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	聖徳太子と法隆寺（パネルディスカッション）	同上	11月2日	法隆寺フォーラム
13	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館藏品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	宮廷と正倉院宝物—唐文化との関わり—	同上	11月3日	正倉院学術シンポジウム2019「即位と正倉院宝物」
14	同上	唐招提寺と奈良の寺院	同上	12月15日	上海博物館展覧会記念講演
15	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	正倉院展とシルクロード文化	学芸部長 内藤栄	6月22日	シンポジウム「絲綢之路博物館策展人論壇 主題と合作」
16	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館藏品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	インドネシアの三昧耶鈴について	同上	7月13日	密教研究会学術大会
17	同上	當麻寺西塔発見の舍利容器の保存・活用と複製	同上	7月19日	シンポジウム「進化する複製の未来」—複製、復元の歴史、宗教、工芸、科学の4つの視点からの発見とその未来—
18	同上	再び、空海の舍利信仰の源流について—スリランカから東寺まで—	同上	7月21日	奈良国立博物館サンデートーク

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
19	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	正倉院宝物成立の謎に迫る—なぜ聖武天皇の四十九日に宝物と薬が大仏に献納されたのか—	同上	8月23日	薬師寺まほろば塾講演会
20	同上	正倉院宝物の魅力と歴史、そして今年の正倉院展から	同上	9月27日	アスニーセミナー
21	同上	正倉院宝物の歴史と特徴	同上	10月1日	京都美術工芸大学出前授業
22	同上	せいぶ正倉院講座	同上	10月30日	奈良市西部公民館
23	同上	「即位と正倉院宝物」パネルディスカッション（司会進行）	同上	11月3日	正倉院学術シンポジウム2019「即位と正倉院宝物」
24	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館藏品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	鑑真和上と唐招提寺	同上	12月21日	「滄海之虹—唐招提寺鑑真文物と東山魁夷隔扇画展」講座
25	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	正倉院宝物とシルクロードの動物意匠	列品室長 吉澤悟	8月21日	第48回奈良国立博物館夏季講座「仏教美術にみる動物のすがた」
26	同上	正倉院ガラス器の来た道	列品室長 吉澤悟	9月21日	「奈良の文化と交通を考える会」9月例会講演
27	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館藏品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	第7回 茶室・八窓庵をのぞいてみませんか	同上	10月13日	奈良国立博物館サンデートーク
28	同上	行基墓誌断片からみた行基集団	同上	11月23日、24日	第十八回 ザ・グレートブッダ・シンポジウム「東大寺と行基菩薩」
29	同上	藤田美術館と仏教美術	情報サービス室長 岩井共二	5月8日、9日	「国宝の殿堂 藤田美術館展」NHK公開講演会（レイクアルスタープラザ・カワサキ生涯学習センター／芦屋文化センタールナホール）
30	同上	藤田美術館の仏教美術コレクション	同上	5月25日	特別展「国宝の殿堂 藤田美術館展 曜変天目茶碗と仏教美術のきらめき」公開講座
31	同上	佛从何出生／ブッダはどこから出生したか—ブッダイメージの中国化をめぐって	同上	7月27日	科研基盤研究(B)「東アジア美術における仏伝の表象」第5回ワークショップ
32	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	文化遺産としての正倉院宝物	工芸考古室長 清水健	5月26日	龍谷大学文化遺産学研究会・2019年度講演会
33	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館藏品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	古神宝の世界	同上	6月16日	奈良国立博物館サンデートーク
34	同上	神使の信仰と造形	同上	8月23日	第48回奈良国立博物館夏季講座「仏教美術にみる動物のすがた」
35	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	正倉院宝物の成り立ちと伝承	同上	10月5日	正倉院展フォーラム名古屋～宝物の魅力語る～
36	同上	正倉院展親子鑑賞会	同上	10月27日	特別展「御即位記念 第71回正倉院展」親子鑑賞会
37	同上	正倉院に伝わる作り物をめぐって—仮山残欠を中心に—	同上	11月1日	特別展「御即位記念 第71回正倉院展」公開講座
38	同上	達磨寺本仏涅槃図をめぐって—図像の問題を中心に	教育室長 谷口耕生	7月27日	科研基盤研究(B)「東アジア美術における仏伝の表象」第5回ワークショップ

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
39	同上	東大寺戒壇院厨子扉絵をめぐって—追憶の天平仏画	同上	11月24日	奈良国立博物館サンデートーク
40	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館藏品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	奈良時代の写経の奥深い世界	企画室長 野尻忠	10月13日	白鶴美術館秋季展「文字を語る」講演会
41	同上	蛸川式胤と奈良の古器旧物	資料室長 宮崎幹子	6月30日	奈良学セミナー
42	同上	奈良国立博物館列品台帳の整理—現状報告—（共同発表）	同上	12月14日	科学研究費助成事業 基盤研究（B）「明治時代の文化財保護法制と帝国博物館の成立に関する総合的研究」第一回研究会
43	同上	イギリス王室所有（ロイヤル・コレクション・トラスト保管）の文化財写真—概要と歴史的意義—（共同発表）	同上	12月14日	同上
44	同上	文化財写真の軌跡—150年のあゆみ—	同上	2年1月11日	特別陳列「重要文化財 法隆寺金堂壁画写真ガラス原板—文化財写真の軌跡—」公開講座
45	同上	春日大社にまつわる絵師たち	情報サービス室主任研究員 北澤菜月	12月21日	特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」公開講座
46	同上	平安時代の寺社参詣	美術室主任研究員 斎木涼子	9月15日	奈良国立博物館サンデートーク
47	同上	どうぶつえんのわくわくガイド	教育室主任研究員 中川あや	7月27日	わくわくびじゅつギャラリー「いのりの世界のどうぶつえん」親子講座
48	同上	「博物館の実例Ⅲ 国立博物館の展示技法と教育活動」	同上	8月5日	文化遺産の保護に資する研修2019（文化庁、（公財）ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）、奈良文化財研究所主催）
49	同上	展覧会紹介	同上	8月17日	奈良女子大学「博物館情報・メディア論」講座
50	同上	原始・古代の祈りと動物造形	同上	8月21日	第48回奈良国立博物館夏季講座「仏教美術にみる動物のすがた」
51	同上	唐鏡寸話—近年の研究成果から—	同上	12月7日	兵庫県立考古博物館加西分館（古代鏡展示館）秋季企画展講演会
52	同上	鏡を楽しむ	同上	2月16日	奈良国立博物館サンデートーク
53	同上	近代を旅した仏たち —奈良ゆかりの仏像を中心に—	企画室主任研究員 山口隆介	8月24日	特別陳列「法徳寺の仏像—近代を旅した仏たち—」公開講座
54	同上	古写真と仏像研究 —奈良ゆかりの仏像を中心に—	同上	11月2日	霊山寺
55	同上	大行寺本尊阿彌陀如来像のX線CTスキャン調査報告	同上	12月1日	大行寺
56	同上	イギリス王室所有（ロイヤル・コレクション・トラスト保管）の文化財写真 —奈良博覧会・奈良博覧会社関係資料の可能性をめぐって—	同上	12月14日	科研費基盤研究（B）「明治時代の文化財保護法制と帝国博物館の成立に関する総合的研究」第1回研究会
57	同上	古写真と仏像研究	同上	12月15日	奈良国立博物館サンデートーク
58	同上	仏像の「かざり」をめぐって	工芸考古室研究員 三本周作	4月21日	奈良国立博物館サンデートーク
59	教育普及活動に関する調査研究	奈良国立博物館の概要とボランティア活動についての紹介	ボランティア室アソシエイトフェロー 翁みほり	8月28日	文部科学省委託青少年国際交流推進事業 令和元年度「日独学生青年リーダー交流事業」
60	同上	子ども向け展覧会の可能性について—わくわくびじゅつギャラリー『いのりの世界のどうぶつえん』を事例として—	同上	12月20日	大韓民国・国立慶州博物館
61	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館藏品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	今川義元：公家大名の実像	保存修理指導室アソシエイトフェロー 佐藤稜介	6月6日	大阪府高齢者大学校 戦国武将の生き方に学ぶ科
62	同上	室町時代の“公務員”？—幕府官僚の実態に迫る	同上	1月19日	奈良国立博物館サンデートーク
63	同上	石田三成：なぜ関ヶ原の戦いが起こったのか	同上	12月19日	大阪府高齢者大学校 戦国武将の生き方に学ぶ科
64	同上	古代寺院の堂内荘厳	美術室アソシエイトフェロー 萩谷みどり	5月19日	奈良国立博物館サンデートーク
65	同上	国宝八角円堂内装飾画について	同上	11月23日	榮山寺創建一三〇〇年記念 藤原武智麻呂公を偲ぶ会
66	同上	日本历史文化紹介	企画室アソシエイトフェロー 堀内しきぶ	12月31日	中国・貴州岑巩第一中学

○その他有形文化財に関連する調査研究 13件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
--	-------	-------	------------	-----	------

1	館藏品・寄託品等の調査研究を文化財の保存・修理の観点から実施し、文化財の活用及び後世への継承に資する。	X線CTスキャナを用いたアイヌ民族資料製作技術の可視化	保存修理指導室長 鳥越俊行 ほか外部研究者	6月1日	日本文化財科学会
2	同上	石見銀山遺跡から出土した金属製錬に伴う廃棄資料のX線CT調査	同上	6月2日	日本文化財科学会
3	同上	X線CTによる金銅製杏葉の構造技法に関する比較検討—鳳凰文を有する福岡県船原古墳と奈良県珠城山三号墳出土杏葉を事例として—	同上	同上	同上
4	同上	特別展「快慶」に伴うX線CTによる快慶作品の新知見	保存修理指導室長 鳥越俊行、上席研究員 岩田茂樹、情報サービス室長 岩井共二、企画室主任研究員 山口隆介	6月22日	文化財保存修復学会
5	同上	文化財の保存と活用—CTによる調査を例に—	保存修理指導室長 鳥越俊行	7月5日	第三回 X線・CTテクニカルセミナー
6	同上	日本の文化財の調査と修理—奈良国立博物館を例に—	同上	7月29日	韓国国立慶州博物館学術交流セミナー
7	同上	文化財を科学するVI	同上	8月18日	奈良国立博物館サンデートーク
8	同上	文化財の防災について	同上	11月14日	令和元年度第二十回愛知県文化財建造物担当者課題研修会
9	同上	災害時の文化財レスキューについて	同上	11月27日	令和元年度第三十七回三重県文化財講習会
10	その他有形文化財に関連する調査研究	博物館情報・メディア論 資料のドキュメンテーションとデータベース	資料室長 宮崎幹子	6月4日・11月22日	同志社大学
11	同上	博物館情報・メディア論	同上	12月21日・26日・2年1月12日	京都府立大学
12	有形文化財の収集に関する調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	Community Involvement in Collection from Far Away in Time: Case of Kō	企画室アソシエイトフェロー 堀内しきぶ	9月3日	第25回ICOM(国際博物館会議)京都大会2019 COMCOL-CIPEG合同セッション
13	同上	Archaeological Collections of National Museums: The Project to Use Them with Communities Close to Their Original Place	企画室員 松木悠	9月3日	第25回ICOM(国際博物館会議)京都大会2019 COMCOL-CIPEG合同セッション

【九州国立博物館】 42件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究 20件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者(職名・名前)	実施日	学会等名
1	有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究	Inclusive Programs in Kyushu National Museum	学芸部企画課特別展室研究員 西島亜木子	11月5日	2019 International Conference on Cultural Accessibility and Social Inclusion(会場:Chang Yung-Fa Foundation International Convention Center、台北)
2	同上	「古墳時代の赤色顔料」	学芸部博物館科学課保存修復室長 志賀智史	2年2月11日	関連講演会(会場:出雲弥生の森博物館)
3	特集展示「館藏品名展 更紗 生命の花咲く布」に関する調査研究	「更紗 生命の花咲く布」	学芸部文化財課長 原田あゆみ	8月31日	九州国立博物館が貴賓館にやって来る!歴史講座(会場:旧福岡県公会堂貴賓館)
4	日中文化交流協定締結40周年記念 特別展「三国志」に関する調査研究	三国志がいざなう旅	学芸部企画課特別展室主任研究員 川村佳男	10月9日	たびコト塾スピノフ(会場:電気ビル共創館)
5	同上	特別展「三国志」応援セミナー	学芸部企画課特別展室主任研究員 川村佳男	10月19日	Bizcolli(会場:九州化経済調査協会)
6	同上	ここまで分かった“リアル三国志”-新発見の考古資料から読み解く-	学芸部企画課特別展室主任研究員 川村佳男	10月20日	特別展「三国志」記念講演会(会場:九州国立博物館内)
7	同上	特別展解説講座「三国志」	学芸部企画課特別展室主任研究員 川村佳男	11月7日	しっとこ九博(会場:筑紫野市歴史博物館)
8	同上	特別展「三国志」の見どころ	学芸部企画課特別展室主任研究員 川村佳男	11月19日	ピーボート甘木文化趣味講座(会場:朝倉市総合文化センター)
9	同上	特別展「三国志」ハイライト	学芸部企画課特別展室主任研究員 川村佳男	11月29日	福岡市商工会議所(会場:九州国立博物館内)
10	同上	考古学から見た三国志	学芸部企画課特別展室主任研究員 川村佳男	11月29日	世界史研究会(会場:九州国立博物館内)
11	同上	発掘された三国志	学芸部企画課特別展室主任研究員 川村佳男	12月18日	大野城市シニア大学(会場:九州国立博物館内)

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
12	特集展示「版経東漸～対馬がつなぐ仏の教え～」に関する調査研究	九州国立博物館展覧会「版経東漸～対馬がつなぐ仏の教え～」の見どころ	学芸部文化財課資料登録室研究員 松浦晃佑	11月9日	特集展示「版経東漸～対馬がつなぐ仏の教え～」開催記念講演会（会場：対馬市峰地区公民館）
13	同上	対馬のさまざまな版経 —渡来の地・継承の地—	学芸部博物館科学課保存修復室アソシエイトフェロー 瓜生翠	11月9日	特集展示「版経東漸～対馬がつなぐ仏の教え～」開催記念講演会（会場：対馬市峰地区公民館）
14	同上	九州国立博物館展覧会「版経東漸～対馬がつなぐ仏の教え～」の見どころ	学芸部文化財課資料登録室研究員 松浦晃佑	11月10日	特集展示「版経東漸～対馬がつなぐ仏の教え～」開催記念講演会（会場：対馬市交流センター）
15	同上	対馬のさまざまな版経 —渡来の地・継承の地—	学芸部博物館科学課保存修復室アソシエイトフェロー 瓜生翠	11月10日	特集展示「版経東漸～対馬がつなぐ仏の教え～」開催記念講演会（会場：対馬市交流センター）
16	同上	反響当然！？「版経東漸～対馬がつなぐ仏の教え～」の魅力と楽しみ方	学芸部文化財課資料登録室研究員 松浦晃佑	11月17日	特集展示「版経東漸～対馬がつなぐ仏の教え～」開催記念講演会（会場：当館ミュージアムホール）
17	特集展示 住友財団修復助成30年記念「文化財よ、永遠に」特集展示に関する調査研究	「文化財よ、永遠に」—展示の見どころと、赤色顔料から探る吹上遺跡—	学芸部博物館科学課保存修復室長 志賀智史	11月1日	日田市教育委員会令和元年度考古学講座（会場：当館ミュージアムホール）
18	特別展「ルネ・ユイグのまなざし フランス絵画の精華 大様式の形成と変容」	ルネ・ユイグのまなざし フランス絵画の精華 大様式の形成と変容	学芸部特任研究員 臺信祐爾	2年2月20日	しつとこ九博（会場：筑紫野市歴史博物館）
19	同上	ルネ・ユイグのまなざし フランス絵画の精華 大様式の形成と変容	学芸部特任研究員 臺信祐爾	2年2月21日	Bizcolli（会場：九州化経済調査協会）
20	同上	ルネ・ユイグのまなざし フランス絵画の精華 大様式の形成と変容	学芸部特任研究員 臺信祐爾	中止	大野城市 シニア大学（会場：九州国立博物館内）

○その他有形文化財に関連する調査研究 22件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	その他有形文化財に関連する調査研究	Visualization of feeding process of larvae of the wood-boring beetles using X-ray computer tomography	京都大学大学院農学研究科准教授 築瀬佳之、学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー 渡辺祐基、京都大学生存圏研究所研究員 藤本いずみ、京都大学生存圏研究所教授 吉村 剛、京都大学大学院農学研究科教授 藤井義久	5月12日～16日	The 50th Annual Meeting of the International Research Group on Wood Protection
2	同上	Nondestructive evaluation of development, feeding, and oviposition of the bamboo powderpost beetle, <i>Dinoderus minutus</i>	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー 渡辺祐基、京都大学大学院農学研究科准教授 築瀬佳之、京都大学大学院農学研究科教授 藤井義久	5月21日～23日	The 4th International Conference for Integrated Pest Management (IPM) for Cultural Heritage
3	同上	Analysis of ten years data and countermeasures to reduce significant bird strikes on the large glass walls of a museum building by lighting design	学芸部博物館科学課長兼環境保全室長 木川りか、学芸部博物館科学課環境保全室主任研究員 秋山純子、学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー 渡辺祐基、富松志帆、松尾実香、（一財）九州環境管理協会 岡部海都、柿本大典、大城戸博文	5月21日～23日	Integrated Pest Management for Cultural Heritage 4 th international conference, Stockholm
4	同上	Application of humidified warm-air treatment to entire historic wooden buildings at Nikko World Heritage site to control insect attack	京都大学大学院 藤井義久、（公財）日光社寺文化財保存会 原田正彦、トータルシステム研究所 北原博幸、京都大学大学院 藤原裕子、学芸部博物館科学課長兼環境保全室長 木川りか、東京文化財研究所 佐藤嘉則、小峰幸夫、犬塚将英、古田嶋智子、国立民族学博物館 日高真吾、千葉県立中央博物館 齊藤明子、（公財）文化財建造物保存技術協会 福岡憲	5月23日	Integrated Pest Management for Cultural Heritage 4 th international conference, Stockholm
5	同上	阿蘇産ベンガラの終焉	学芸部博物館科学課保存修復室長 志賀智史	6月1日、2日	日本文化財科学会36回大会

6	同上	赤外線画像を使った彩色材料の検討—顔料と染料を混合した場合—	学芸部博物館科学課環境保全室主任研究員 秋山純子、香川県立ミュージアム 上野進、鹿間里奈	6月1日・2日	日本文化財科学会36回大会
7	同上	被災文書等の修復処置における灰汁の利用に関する基礎的検討：灰汁の成分分析と酸性紙文書に対する影響	学芸部博物館科学課長兼環境保全室長 木川りか、長崎県歴史文化博物館 富川敦子、久保憲司、東京文化財研究所 早川典子、高知県立紙産業技術センター 有吉正明	6月2日	日本文化財科学会第36回大会
8	同上	湿度制御した温風処理による甲虫類の駆除—社寺建築における効果の検証・続報—	京都大学大学院 藤井義久、(公財)日光社寺文化財保存会 原田正彦、トータルシステム研究所 北原博幸、京都大学大学院 藤原裕子、学芸部博物館科学課長兼環境保全室長 木川りか、東京文化財研究所 佐藤嘉則、小峰幸夫、犬塚将英、古田嶋智子、国立民族学博物館 日高真吾、千葉県立中央博物館 斉藤明子、(公財)文化財建造物保存技術協会 福岡憲	6月23日	文化財保存修復学会41回大会
9	同上	湿度制御温風処理における殺虫効果の検証	東京文化財研究所 小峰幸夫、佐藤嘉則、(公財)日光社寺文化財保存会 原田正彦、学芸部博物館科学課長兼環境保全室長 木川りか、京都大学大学院 藤井義久	6月23日	文化財保存修復学会41回大会
10	同上	高松塚・キトラ両古墳壁画の微生物汚れを除去する酵素	東京文化財研究所 佐藤嘉則、学芸部博物館科学課長兼環境保全室長 木川りか、東京藝術大学 貴田啓子、東京文化財研究所 川野辺涉、早川典子	6月23日	文化財保存修復学会41回大会
11	同上	ガラス外壁を有する博物館建造物の衝突野鳥の対策：建物の俯瞰的外観の調査と照明・音声を利用した対策について	学芸部博物館科学課長兼環境保全室長 木川りか、学芸部博物館科学課環境保全室主任研究員 秋山純子、学芸部博物館科学課アシリエイトフェロー 渡辺祐基、富松志帆、松尾実香、(一財)九州環境管理協会 岡部海都、柿本大典、大城戸博文	6月23日	文化財保存修復学会41回大会
12	同上	夜間開館開始にともなう昆虫類の侵入調査について	学芸部博物館科学課環境保全室主任研究員 秋山純子、環境文化創造研究所 山崎久美子、石橋陽見子、学芸部博物館科学課アシリエイトフェロー 渡辺祐基、富松志帆、松尾実香、環境文化創造研究所 川越和四、学芸部博物館科学課長兼環境保全室長 木川りか	6月23日	文化財保存修復学会41回大会
13	同上	「資料保存」	学芸部博物館科学課長兼環境保全室長 木川りか	8月26日	2019年度文化庁「大学における文化芸術推進事業」博物館マネジメント人材育成研修会、くまもと文学・歴史館
14	同上	「彩色材料に関する面的調査法の検討」	学芸部博物館科学課環境保全室主任研究員 秋山純子	8月28日～30日	東アジア文化遺産保存学会大田大会(韓国)
15	同上	考古学から見た朝鮮半島と九州の関係	学芸部企画課長兼文化交流展室長兼特別展室長 白井克也	11月5日	福岡歴史観光市民大学第18回
16	同上	「漆器の魅力 五十嵐蒔絵を中心に(長沢鼎所用漆器について)」	学芸部文化財課資料登録室長 川畑憲子	11月2日	鹿児島国際大学主催講演会「漆の世界からみえること—長沢鼎と漆器の文化—」(会場：鹿児島国際大学博物館実習施設(鹿児島国際大学ミュージアム))

17	同上	X線CTによるオオナガシバムシ幼虫の行動および成長の評価	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー 渡辺祐基、学芸部博物館科学課長 兼環境保全室長 木川りか、京都大学大学院農学研究科研究員 藤原裕子、京都大学大学院農学研究科教授 藤井義久	11月30日	第31回日本環境動物昆虫学会年次大会
18	同上	文化財の生物被害と加害生物およびレベルコントロールについて	学芸部博物館科学課長環境保全室長 木川りか	12月5日	IPMコーディネータ研修、(公財)文化財虫菌害研究所
19	同上	「更紗をめぐる交流史」	学芸部文化財課長 原田あゆみ	2年2月8日	「東南アジア「古代史」の下限としての14・15世紀に関する地域・分野横断的研究」第4回研究会 (会場：早稲田大学戸山キャンパス)
20	水中遺跡の保存活用に関する調査研究	近年の水中文化遺産保護に対する取り組みの動向	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー 佐々木蘭貞	7月5日	文化遺産国際協力コンソーシアム・西アジア分科会 東京文化財研究所
21	同上	昇平丸の調査：水中考古学の可能性	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー 佐々木蘭貞	8月10日	照国講演会 照国神社 鹿児島市
22	同上	浅海底探査の新技術：ドローン搭載グリーンレーザーによる調査(仮称)	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー 佐々木蘭貞	2年2月13日	研究会「水中遺跡保護行政の実態Ⅱ」(水中遺跡保護体制の整備充実に関する調査研究事業) 滋賀県大津市

【東京文化財研究所】 64件

(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究 16件

○有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究 11件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者(職名・名前)	実施日	学会等名
1	文化財に関する調査研究成果および研究情報の共有に関する総合的研究	資料紹介 東京文化財研究所架蔵 平子鐸嶺 自筆ノート類について—その収載内容とノート類のもつ意義—	文化財情報資料部客員研究員 津田徹英	5月31日	文化財情報資料部研究会
2	同上	河原の風景—ライブツィヒ民族学博物館所蔵「四条河原遊楽図屏風」について—	文化財情報資料部文化財アーカイブズ研究室長 江村知子	10月6日	美術史学会東支部例会
3	同上	日本絵画にみる四季の表現	文化財情報資料部文化財アーカイブズ研究室長 江村知子	11月21日	イギリス・セインズベリー日本藝術研究所 Third Thursday Lecture
4	同上	至高の気品—土佐光起撰『本朝画法大伝』の意義、そして意図するもの—	文化財情報資料部主任研究員 小野真由美	11月23日	美術史学会東支部例会
5	同上	東京文化財研究所のパブリックドメイン資料—文化財を知り、守り伝えるための資料蓄積と研究支援	文化財情報資料部研究員 橘川英規ほか	2年1月17日	パブリックドメイン資料の利用条件についてのシンポジウム
6	近・現代美術に関する調査研究と資料集成	The Minakuchi Rapier, European Sword produced in Japan	文化財情報資料部広領域研究室長 小林公治	9月3日	ICOM京都大会ICFA委員会
7	同上	南蛮漆器成立の経緯とその年代—キリスト教聖籙を中心とする検討—	文化財情報資料部広領域研究室長 小林公治	9月24日	文化財情報資料部研究会
8	同上	日本唯一の伝世洋剣、水口レイピアの調査と研究	文化財情報資料部広領域研究室長 小林公治	11月1日	第53回オープンレクチャー
9	同上	水口レイピア、日本で造られたヨーロッパの剣	文化財情報資料部広領域研究室長 小林公治	11月9日	水口町郷土史会創立60周年記念講演会
10	同上	日本中世のガラスを探る—2018・2019年度の調査をもとに—	東海大学非常勤講師 林佳美	12月24日	文化財情報資料部研究会
11	文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究	文化財情報の記録—文化財の写真について—	文化財情報資料部専門職員 城野誠治	12月2日	文化財の記録作成とデータベース化に関するセミナー

○無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査及び研究 5件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者(職名・名前)	実施日	学会等名
1	無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集	「国際研究者フォーラム 無形文化遺産研究の展望—持続可能な社会にむけて」Session 1, 2においてチェアをつとめた	無形文化遺産部音声映像記録研究室長 石村智	12月17日	アジア太平洋無形文化遺産研究センター主催「国際研究者フォーラム 無形文化遺産研究の展望—持続可能な社会にむけて」
2	無形文化財の保存・継承に関する調査研究及び無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化	講演「芸能を支えるもう一つの技—楽器製作をめぐって」	無形文化遺産部無形文化財研究室長 前原恵美	7月25日	武蔵野大学能楽資料センター主催 関連講座

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
3	同上	「もう一つの及川コレクション—及川尊雄氏収集紙媒体資料—について」	無形文化遺産部無形文化財研究室長 前原恵美	2年2月1日	一般社団法人 東洋音楽学会
4	無形民俗文化財の保存・継承に関する調査研究	モノが語る人、自然、社会—箕をめぐる民俗学的研究	無形文化遺産部 主任研究員 今石みぎわ	10月13日	日本民俗学会第71回年会
5	同上	「儀礼文化」の保護と活用について	無形文化遺産部無形民俗文化財研究室長 久保田裕道	2年3月8日	儀礼文化学会

(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究 25件

○文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究 1件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究	光学的調査の方法と成果—科学写真からわかること	文化財情報資料部専門職員 城野誠治	12月8日	那智参宮曼荼羅絵巻本の仕立てを 探る 國學院大學

○文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究 24件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化財の生物劣化の現象解明と対策に関する研究	Application of humidified warm-air treatment to entire historic wooden buildings at Nikko World Heritage site to control insect attack	客員研究員 藤井義久、生物科学研究室長 佐藤嘉則他	5月23日	Integrated Pest Management for Cultural Heritage 4th international conference
2	同上	湿度制御温風処理における殺虫効果の検証	アソシエイトフェロー・小峰幸夫 生物科学研究室長・佐藤嘉則他	同上	文化財保存修復学会第41回大会
3	同上	湿度制御した温風処理による甲虫類の駆除—社寺建築における効果の検証・続報—	客員研究員 藤井義久、生物科学研究室長 佐藤嘉則他	6月23日	同上
4	同上	リアルタイム浮遊菌数測定と生態解析によって室内浮遊菌の実態に迫る	生物科学研究室長 佐藤嘉則他	9月10日	日本微生物生態学会第33回大会
5	保存と活用のための展示環境の研究	有機酸発生源探索のための簡易調査法の試案	保存科学研究センター長 佐野千絵他	6月23日	文化財保存修復学会第41回大会
6	文化財の材質・構造・状態調査に関する研究	国宝 日月四季山水図の蛍光X線分析	保存科学研究センター副センター長・早川泰弘	6月1日	日本文化財科学会第36回大会
7	同上	煉瓦造窯の保存と活用に関する調査—愛知県常滑市の事例—	分析科学研究室長 犬塚将英他	同上	同上
8	同上	桐箱やキリ材からの有機酸の放散と金属に及ぼす影響	客員研究員 古田嶋智子、分析科学研究室長 犬塚将英	6月23日	文化財保存修復学会第41回大会
9	屋外文化財の劣化要因と保存対策に関する調査研究	新宮市万歳の一遍上人名号碑と江戸時代に行われたその補修について	修復計画研究室長 朽津信明他	6月1日	日本文化財科学会第36回大会
10	同上	天草市アンモナイト館における緑色生物の制御	修復計画研究室長 朽津信明他	6月23日	文化財保存修復学会第41回大会
11	同上	過去の写真と現状の三次元計測に基づく荒島石の侵蝕速度の検証	修復計画研究室長 朽津信明他	10月24日	日本応用地質学会2019年度研究発表会
12	文化財修復材料と伝統技法に関する調査研究	ミャンマー産漆塗膜の硬度試験	研究員 倉島玲央他	6月1日	日本文化財科学会第36回大会
13	同上	五島列島産マフノリの抽出条件に対する粘度変化	明治大学大学院 相澤真凜 保存科学研究センター 早川典子 明治大学 本多貴之	6月22日	文化財保存修復学会第41回大会
14	同上	文化財保存修復に用いられる促進劣化試験後のバインダー17の構造解析	明治大学大学院 渡邊祐利乃 保存科学研究センター客員研究員 本多貴之	同上	同上
15	同上	有機溶媒を含んだゲルの文化財クリーニングへの適用	アソシエイトフェロー藤井佑果他	同上	同上
16	同上	古典的膠の製造方法と各用途的性の体系化	客員研究員宇高健太郎、早川典子、藤井佑果、大場詩野子、岡部迪子他	同上	同上
17	同上	画絹の物性に及ぼす断面形状・殺蟻方法の影響—大和文華館所蔵作品調査データ含めて—	修復材料研究室長 早川典子他	同上	同上
18	同上	まめのりの脂質、タンパク質、糖質成分の反応熱分解GC/MSによる検討	修復材料研究室長 早川典子他	同上	同上
19	同上	真鍮泥が紙の劣化に及ぼす影響	保存科学研究センター客員研究員・貴田啓子、保存科学研究センター修復材料研究室長・早川典子他	6月23日	同上

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
20	同上	琉球漆器朱漆閣山水人物箔絵盆の科学的調査	研究員 倉島玲央他	6月22日	同上
21	同上	文化財修復に有用なポリビニルアルコール分解酵素の性質の検討	大阪産業技術総合研究所研究主任 山中勇人、客員研究員 酒井清文他	9月25日	日本防菌防霉学会第46回年次大会
22	近代の文化遺産の保存修復に関する調査研究	近代文化遺産としての森林軌道	アソシエイトフェロー石田真弥	6月5日	林野庁屋久島森林生態系保全センター
23	同上	煉瓦建造物の補修方法に関する一考察 煉瓦転用補修の可能性	アソシエイトフェロー石田真弥、特任研究員 中山俊介	11月9日	産業考古学会
24	高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究	高松塚・キトラ両古墳壁画の微生物汚れを除去する酵素	生物科学研究室長 佐藤嘉則他	6月23日	文化財保存修復学会第41回大会

(3) 文化遺産保護に関する国際協働 17件

○文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進 17件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	アジア諸国等文化遺産保存修復協力	Conservation and Sustainable Development Plan of TaNei Temple: Conservation of the East Gate	文化遺産国際協力センターアソシエイトフェロー マルティネス・アレハンドロ、アンコール地域保存管理機構遺跡保存課 セア・ソピアルン	6月11日	The 32nd Technical Session of ICC-Angkor
2	同上	Conservation and Sustainable Development Plan of TaNei Temple: Restoration Works on the East Gate	文化遺産国際協力センターアソシエイトフェロー ヴァル・エリフ・ベルナ、アンコール地域保存管理機構遺跡保存課 セア・ソピアルン	12月10日	The 33rd Technical Session of ICC-Angkor
3	同上	Towards the Conservation and Sustainable Development of TaNei Temple: Restoration of the East Gate	文化遺産国際協力センターアソシエイトフェロー ヴァル・エリフ・ベルナ、同保存計画研究室長 金井健、同研究員 安倍雅史、同アソシエイトフェロー 間倉裕生、京都工芸繊維大学助教 アレハンドロ・マルティネス、文化遺産国際協力センターアソシエイトフェロー 浅田なつみ、同センター長 友田正彦	1月22日～1月23日	早稲田大学文化財総合調査研究所主催国際シンポジウム「文化遺産を知りそして伝えるーメコンがつなぐ文化多様性ー」
4	同上	南アジアにおける東京文化財研究所の文化遺産国際協力	文化遺産国際協力センター長 友田正彦	1月24日	同上
5	保存修復技術の国際的応用に関する研究	The field course - Challenges and Issues to Wall Painting Conservation	文化遺産国際協力センター研究員・前川佳文	6月8日	The Ministry of Culture and Tourism of Turkey
6	同上	ミャンマー・バガン考古遺跡群における壁画保存修復に向けた調査研究ーバガン王朝と復興期における壁画の比較研究ー	保存科学研究センターアソシエイトフェロー・嶋原由美 文化遺産国際協力センター研究員・前川佳文	6月22日	文化財保存修復学会第41回大会
7	同上	Lokahteikpan Wall Painting Project, pagoda 1580	文化遺産国際協力センター研究員・前川佳文、ダニエラ・マーフィ（文化協会バスティオーニ）、ステファニア・フランチェスキーニ（文化協会バスティオーニ）、チーリン（ミャンマー宗教文化省考古国立博物館局）	7月26日	The Ministry of Religious Affairs and Culture of Myanmar, Archaeology, National Museum and Library
8	同上	Me-taw-ya Pagoda Project, Capacity Building; a Conservation Project for the Repair, Strengthening and Recovery of Archaeological Area and Monuments of Pagàn, Burma	文化遺産国際協力センター研究員・前川佳文、ダニエレ・アンジェロット（文化協会バスティオーニ）、チーリン（ミャンマー宗教文化省考古国立博物館局）	同上	同上
9	在外日本古美術品保存修復協力事業	ナショナル・ギャラリー・オブ・ビクトリア所蔵 佐々木泉玄筆『般若図』（絹本着色 掛軸装）修復事例報告	文化遺産国際協力センターアソシエイトフェロー 小田桃子、東北芸術工科大学文化財保存修復センター講師 元喜載、文化遺産国際協力センター技術支援研究室長 加藤雅人、株式会社修護 君嶋隆幸、株式会社修護 白井啓太	6月22日	文化財保存修復学会第41回大会

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
11	ブータン王国の歴史的建造物保存活用に関する拠点交流事業	Practical Measures of Conservation of Vernacular Dwellings in Japan	文化遺産国際協力センター保存計画研究室長 金井健	6月24日	事業専門家会議
12	同上	Proposal for Practical Restoration Method of Lham Pelzom House	同上	2年1月16日	Workshop on Conservation of Traditional Houses
13	文化遺産国際協力拠点交流事業「ネパールの被災文化遺産保護に関する技術的支援事業」	カトマンズ盆地内ネパール集落の無形文化要素分析による集落の位置づけに関する研究 - 2015年ネパール地震後の世界遺産暫定リスト・コカナにおける震災状況調査報告 その12-	東京大学大学院・工学系研究科都市工学専攻・修士課程・原 洪太 東京大学大学院・工学系研究科都市工学専攻・修士課程・永門 航 札幌市立大学デザイン学部・准教授・森 朋子	9月5日	日本建築学会2019年大会（北陸）
14	同上	コカナにおける被災した伝統的民家の再建実態（被災後4年）、2015年ネパール地震後の世界遺産暫定リスト・コカナにおける被災状況調査報告 その11	札幌市立大学デザイン学部・准教授・森 朋子	同上	同上
15	同上	コカナの震災復興から見たネパール集落の民家再建の実態と課題、ネパール地震後の文化遺産保護国際協力事業調査報告	札幌市立大学デザイン学部・准教授・森 朋子	11月9日	日本都市計画学会 2019年度全国大会（第54回学術研究論文発表会）
16	同上	Effective Integration between Methods of Urban Planning and Preservation of Historic Settlements	神戸芸術工科大学芸術工学部教授 西村幸夫	2年1月5日	The Third Mayors' Forum on Conservation of Historic Settlements in Kathmandu and Kavre Valleys
17	同上	Conservation Plan and Administrative Incentive for Protection of Historic District	保存計画研究室長 金井健	同上	同上

(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用 6件

○文化財情報基盤の整備・充実 2件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	専門的アーカイブと総合的レファレンスの拡充	日本美術の記録と評価についての研究―「田中一松資料」の保存活用	文化財情報資料部文化財アーカイブズ研究室長 江村知子	2年1月7日	東京文化財研究所総合研究会
2	同上	「売立目録デジタルアーカイブの公開と今後の展望―売立目録の新たな活用を目指して―」	文化財情報資料部研究員 安永拓世ほか	2年2月25日	文化財情報資料部研究会

○調査研究成果の発信 4件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化財情報基盤の整備・充実	Linked Dataを用いた地域文化遺産情報の集約	文化財情報資料部アソシエイトフェロー 三島大暉	6月25日	文化財情報資料部研究会
2	同上	Two solutions for orthographical variants problem	文化財情報資料部研究員 小山田智寛他	9月3日	2019 CIDOC annual conference
3	同上	文化財の記録作成、データベース化の意義	文化財情報資料部文化財情報研究室長 二神葉子	12月2日	文化財の記録作成とデータベース化に関するセミナー
4	同上	文化財情報のデータベース化およびその活用について	文化財情報資料部研究員 小山田智寛	12月2日	文化財の記録作成とデータベース化に関するセミナー

【奈良文化財研究所】 103件

(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究 22件

○記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 22件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	我が国の記念物に関する調査研究（庭園）	日本庭園の特質と歴史	文化遺産部研究員 高橋知奈津	7月31日	令和元年度鳥取県文化財庭園技術者講習会基礎コース
2	同上	文化財庭園の保存管理	同上	9月3日	令和元年度鳥取県文化財庭園技術者講習会基礎コース
3	同上	歴史的庭園の調査	同上	9月28日	令和元年度鳥取県文化財庭園技術者講習会基礎コース
4	同上	伯耆地方の民家の庭園	同上	11月24日	令和元年度庭園の歴史に関する研究会
5	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	古代畿内の集落と官衙の成立過程に関する一考察	都城発掘調査部アソシエイトフェロー 道上祥武	5月18日	大阪市立大学日本史学会
6	同上	参河三嶋贄荷札の年代	都城発掘調査部上席研究員 山本崇	6月10日	日本史研究会古代史部会
7	同上	飛鳥時代宮都土器編年の再編に向けて―飛鳥・藤原地域を中心に―	都城発掘調査部室長 尾野善裕	7月13日	奈良文化財研究所・歴史土器研究会共催シンポジウム 飛鳥時代の土器編年再考
8	同上	飛鳥時代における須恵器食器の法量変化	都城発掘調査部主任研究員 森川実	7月13日	奈良文化財研究所・歴史土器研究会共催シンポジウム 飛鳥時代の土器編年再考

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
9	同上	飛鳥時代における土師器杯C・杯Aの変遷とその区分	都城発掘調査部研究員 大澤正吾	7月13日	奈良文化財研究所・歴史土器研究会共催シンポジウム 飛鳥時代の土器編年再考
10	同上	2019年全国出土の木簡	都城発掘調査部上席研究員 山本崇	12月8日	木簡学会第41回研究集会
11	同上	藤原宮出土瓦の年代と生産体制	都城発掘調査部主任研究員 石田由紀子	11月12日	中国社会科学院考古研究所2019年度考古研究系列学術講座（第15講）
12	同上	本薬師寺と薬師寺—同范瓦からの検討—	都城発掘調査部主任研究員 石田由紀子	11月30日	仏教芸術学会シンポジウム
13	同上	奈良県の鷓尾	都城発掘調査部アソシエイトフェロー 道上祥武	2年2月1日	第20回古代瓦研究会シンポジウム 鷓尾・鬼瓦の展開 I
14	文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究	文化的景観からみた京の輪郭	文化遺産部研究員 惠谷浩子	5月27日	2019年度龍谷史学会定期総会学術講演会
15	同上	世界遺産と文化的景観	文化遺産部研究員 惠谷浩子	6月7日	はびきの市民大学・世界遺産講座Ⅹ
16	同上	水がもたらす景観とその保全	文化遺産部研究員 惠谷浩子	9月28日	令和元年度歴史文化セミナー簡修館
17	同上	産業が生んだ景観と暮らし	文化遺産部研究員 惠谷浩子	11月23日	近畿産業考古学会2019年度年次大会
18	同上	京都北山杉の里・中川の文化的景観と京都	文化遺産部研究員 惠谷浩子	11月27日	第1回テリトリーオ研究会
19	同上	当たり前前の風景の語り方	文化遺産部研究員 惠谷浩子	2年2月24日	横浜市歴史文化基本構想中間報告会
20	同上	日本庭園の飛石における切石の利用について	景観研究室長 中島義晴	10月26日	日本造園学会関西支部大会
21	同上	「勢州稻生村三社絵図」および「神宮寺古図絵巻」に描かれた伊奈富神社庭園（七島池）の植生	景観研究室長 中島義晴	11月10日	日本造園学会関西支部大会
22	水中文化遺産に関する調査研究	水中遺跡出土遺物の保存処理法 - 鷹島海底遺跡出土遺物を中心に -	埋蔵文化財センター長・保存修復科学研究室長 高妻洋成 ほか7名	6月14日	水中考古学公開セミナー

(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究 71件

○文化財の調査手法に関する研究開発の推進 29件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	動植物遺存体の分析方法の研究開発	古代房総における貝類利用の実態	環境考古学研究室長 山崎健	6月15日	日本動物考古学会第7回大会
2	同上	動物の骨から見た縄文人の食料	環境考古学研究室長 山崎健	6月29日	新潟県考古学講演会「縄文時代の食べ物」
3	同上	動物遺存体からみたサケ	環境考古学研究室長 山崎健	9月8日	海洋考古学会第10回研究会
4	同上	朝日遺跡の動物利用	環境考古学研究室長 山崎健	11月23日	朝日遺跡考古学講座「動物の骨角から道具を作る」
5	同上	波怒薬館遺跡出土の石器の刺さったマグロ属椎骨の分析	環境考古学研究室客員研究員 松崎哲也	6月15日	日本動物考古学会第7回大会
6	同上	人と動物の関わりからみた東北の縄文文化	環境考古学研究室客員研究員 松崎哲也	8月20日	泉北教養講座「古代史講座」
7	同上	キカシグサ属（ミソハギ科）の花粉形態	環境考古学研究室客員研究員 上中央子	12月8日	日本植生史学会第34回大会
8	年輪年代学研究	年輪年代学的手法による参河贅荷札の同一材推定	年代学研究室長 星野安治、都城発掘調査部上席研究員 山本崇	6月1日	日本文化財科学会第36回大会
9	同上	'Stable' hydroclimate is specific to a narrow temperature window: observations from Guatemalan varves, 1413±4 to 2015±0 CE	員数22(3番目) 年代学研究室長 星野安治	7月27日	20th Congress of the International Union for Quaternary Research (INQUA)
10	同上	滋賀県草津市・鞭崎神社本殿の建築的特徴	員数4(3番目) 年代学研究室長 星野安治	9月3日	2019年度日本建築学会大会
11	同上	年輪年代学的手法による木簡の同一材推定（第2報）	年代学研究室長 星野安治、都城発掘調査部主任研究員 桑田訓也、史料研究室研究員 山本祥隆	2年3月16日	第70回日本木材学会大会
12	埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発	Where am I in the Forest? - Application of SLAM/LiDAR Technology to Measurement and Geophysical Survey of Archaeological Sites in Forest	金田 明大・山口 欧志	4月25日	47th Computer Applications and Quantitative Methods in Archaeology
13	同上	桜井市三輪山麓における弥生・古墳祭祀の問題	小林青樹・金田明大・山本亮・萱原朋奈・新里 遥・中島愛理	5月18日	日本考古学協会第85回大会
14	同上	文化財の調査研究における三次元計測データの質	山口 欧志	5月19日	日本考古学協会第85回大会

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
15	同上	渤海上京龍泉府遺跡出土紋様磚の復元－破片資料の三次元計測データを用いた試み－	中村 亜希子	5月24日	京都・朝鮮古代研究会
16	同上	廉価型GPSの遺跡探査への利用	金田 明大・山口 欧志	6月1日	日本文化財科学会第36回大会
17	同上	文化財のデジタル記録と可視化：遺跡・遺物を残し伝える	山口 欧志	6月1日	日本文化財科学会第36回大会
18	同上	SfM-MVS技術による土中の柱と木製部材の位置関係の復元	中村 亜希子、浦蓉子、金田明大、山口欧志	6月1日	日本文化財科学会第36回大会
19	同上	GPR機材の成果の比較：より良好な成果を目指して	金田 明大・山口 欧志	6月1日	日本文化財科学会第36回大会
20	同上	新たな可視化方法の試行：文化財の特徴を捉えるために	山口 欧志	6月23日	第4回文化財方法論研究会
21	同上	国史跡黒川遺跡群を中心とした立山信仰関連文化遺産のデジタル記録とその活用	山口 欧志	6月15日	2018年度日本海学研究グループ支援事業 研究成果発表会
22	同上	文化財のための三次元計測（中級編）	山口 欧志	6月22日	第4回文化財方法論研究会
23	同上	現場の写真から出土遺物の立体的位置関係を復元する	中村 亜希子	6月22日	第4回文化財方法論研究会
24	同上	デジタル技術で結ぶ人と未来と文化財	山口 欧志		奈良文化財研究所 第125回公開講演会
25	同上	史跡上市黒川遺跡群の三次元計測とその活用	山口 欧志	11月10日	第19回黒川フェスティバル－中世の里、黒川郷を行く－ 歴史講演会
26	同上	SfM-MVSと深度合成を組み合わせた種子丘痕等の非破壊三次元計測	山口 欧志	11月16日	山梨県考古学協会2019 設立40周年記念・臨時企画 技術で拓く文化財研究
27	同上	Metashapeによる3Dモデルの作成－中級編－（遺物）	山口 欧志	11月16日	山梨県考古学協会2019 設立40周年記念・臨時企画 技術で拓く文化財研究
28	同上	渤海国上京城遺跡出土磚の復元研究	中村 亜希子	12月1日	日本中国考古学会2019年度大会
29	同上	七里壁と安波賀街道の記録と調査	阿部 来・藤本 康司・山口欧志	12月8日	日本遺産調査研究講演会「石から読み解く中世・近世のまちづくり：笏谷石編」

○文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究 42件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	建造物の彩色に関する調査研究	モンゴル匈奴時代Chikhertyn zoo遺跡出土顔料の調査(Ⅰ)	保存修復科学研究室アソシエイトフェロー 柳成煜 ほか4名	6月1日	日本文化財科学会第36回大会
2	同上	モンゴルの壁画に用いられた顔料の分析について	埋蔵文化財センター長・保存修復科学研究室長 高妻洋成 ほか3名	6月2日	日本文化財科学会第36回大会
3	同上	モンゴル9世紀ウイグル帝国遺跡出土顔料の研究(Ⅰ)	保存修復科学研究室アソシエイトフェロー 柳成煜 ほか2名	8月29日	2019 Daejeon International Symposium on Conservation of Cultural Heritage in East Asia
4	同上	テラヘルツ波イメージング技術を用いた彩色文化財の界面調査(Ⅱ) - 知恩寺所蔵紙本金地着色天橋立図屏風の事例調査 -	保存修復科学研究室客員研究員 金旻貞	8月29日	2019 Daejeon International Symposium on Conservation of Cultural Heritage in East Asia
5	同上	テラヘルツ波イメージング技術を用いた彩色文化財の海面調査(Ⅲ) - 大覚寺所蔵重要文化財障壁画事例調査 -	保存修復科学研究室客員研究員 金旻貞 埋蔵文化財センター長・保存修復科学研究室長 高妻洋成 ほか2名	8月29日	2019 Daejeon International Symposium on Conservation of Cultural Heritage in East Asia
6	考古遺物の保存処理法に関する調査研究	カラム実験による埋蔵時の鉄製遺物の腐食機構に関する検討	保存修復科学研究室研究員 柳田明進 埋蔵文化財センター主任研究員 脇谷草一郎 埋蔵文化財センター長・保存修復科学研究室長 高妻洋成	6月1日	日本文化財科学会第36回大会
7	同上	溶媒蒸発速度の制御による水浸出土木製遺物の保存処理における薬剤含浸の効率化(その1)	保存修復科学研究室研究員 松田和貴 埋蔵文化財センター主任研究員 脇谷草一郎 埋蔵文化財センター長・保存修復科学研究室長 高妻洋成	6月1日	日本文化財科学会第36回大会
8	同上	イメージ・プロセッシングソフトウェアを用いた木簡情報分析(Ⅰ)	保存修復科学研究室アソシエイトフェロー 柳成煜 ほか1名	6月1日	日本文化財科学会第36回大会
9	同上	ポータブルXRFによる丹後地域における碧玉製管玉の産地分析	考古第一研究室研究員(保存修復科学研究室兼任) 田村朋美 ほか5名	6月1日	日本文化財科学会第36回大会

	研究テーマ	発表テーマ	発表者(職名・名前)	実施日	学会等名
10	同上	古代末～中世における境界領域のガラス玉ー北海道および鹿児島県喜界島出土ガラス玉の産地と鉛同位体比分析ー	考古第一研究室研究員(保存修復科学研究室兼任) 田村朋美 ほか1名	6月1日	日本文化財科学会第36回大会
11	同上	ー乗谷朝倉氏遺跡出土焼損文書の保存処理Ⅰ-焼損温度と変形挙動の推定-	埋蔵文化財センター長・保存修復科学研究室長 高妻洋成 ほか4名	6月2日	日本文化財科学会第36回大会
12	同上	ー乗谷朝倉氏遺跡出土焼損文書の保存処理Ⅱ-医書写本『湯液本草』の安定化処理-	埋蔵文化財センター長・保存修復科学研究室長 高妻洋成	6月2日	日本文化財科学会第36回大会
13	同上	水中遺跡出土遺物の保存処理法 ー鷹島海底遺跡出土遺物を中心に-	埋蔵文化財センター長・保存修復科学研究室長 高妻洋成 ほか7名	6月14日	水中考古学公開セミナー
14	同上	出土木製品の恒久的な保存と一時的な保管	保存修復科学研究室研究員 松田和貴	6月15日	奈良文化財研究所第124回公開講演会
15	同上	Distribution of products and transfer of bead-making technology of potash glass	考古第一研究室研究員(保存修復科学研究室兼任) 田村朋美 保存修復科学研究室客員研究員 大賀克彦	6月18日	The 3rd SEAMEO SPAFA International Conference on Southeast Asian Archaeology (SPAFACON2019) Bangkok, Thailand
16	同上	木簡の定量的解析を用いたデジタルコンテンツ化の基礎研究	保存修復科学研究室アソシエイトフェロー 柳成煜 ほか1名	8月29日	2020 Daejeon International Symposium on Conservation of Cultural Heritage in East Asia
17	同上	モンゴル匈奴墓出土ガラス玉類の考古学的研究	考古第一研究室研究員(保存修復科学研究室兼任) 田村朋美 ほか4名	8月30日	2019東アジア文化遺産保存国際シンポジウムin大田
18	同上	未定C群製管玉からみた朝鮮半島と日本列島	考古第一研究室研究員(保存修復科学研究室兼任) 田村朋美 保存修復科学研究室客員研究員 大賀克彦 ほか3名	8月30日	2019東アジア文化遺産保存国際シンポジウムin大田
19	同上	Effect of reburial conditions on the corrosion of marine iron artifacts	保存修復科学研究室研究員 柳田明進 保存修復科学研究室研究員 松田和貴 埋蔵文化財センター主任研究員 脇谷草一郎 埋蔵文化財センター長・保存修復科学研究室長 高妻洋成 ほか1名	9月2日	The interim meeting of the ICOM-CC Metal working group 2019
20	同上	海底遺跡における銅製文化財の腐食が抑制される埋め戻し法の検討	保存修復科学研究室研究員 柳田明進 保存修復科学研究室研究員 松田和貴 埋蔵文化財センター主任研究員 脇谷草一郎 埋蔵文化財センター長・保存修復科学研究室長 高妻洋成 ほか1名	10月19日	日本銅学会第59回講演大会
21	同上	Ancient glass beads excavated in Japan and along the Silk Road	考古第一研究室研究員(保存修復科学研究室兼任) 田村朋美	11月9日	Silk Roads: Archaeology, Museums and Heritage science, University of Nottingham, Ningbo, China
22	同上	日本出土ガラス玉類の起源と交易ルート	考古第一研究室研究員(保存修復科学研究室兼任) 田村朋美	11月27日	International Symposium of 'World of Ancient Glass'
23	遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究	X線照射による大分市高瀬石仏で採取された凝灰岩の水分拡散係数の測定	保存修復科学研究室客員研究員 小椋大輔 埋蔵文化財センター主任研究員 脇谷草一郎 ほか3名	6月1日	日本文化財科学会第36回大会
24	同上	乾湿風化による軟岩性石造文化財の劣化メカニズムの検討	埋蔵文化財センター主任研究員 脇谷草一郎 埋蔵文化財センター長・保存修復科学研究室長 高妻洋成 ほか1名	6月1日	日本文化財科学会第36回大会
25	同上	元町石仏における脱塩を用いた塩類風化抑制手法に関する研究 ーセロファンで遮られたNaCl溶液の半透性と浸透性の測定ー	埋蔵文化財センター主任研究員 脇谷草一郎 保存修復科学研究室客員研究員 小椋大輔 埋蔵文化財センター長・保存修復科学研究室長 高妻洋成 ほか3名	6月1日	日本文化財科学会第36回大会
26	同上	日本における文化遺産の防災 Disaster Mitigation System for Cultural Heritages in Japan	埋蔵文化財センター長・保存修復科学研究室長 高妻洋成 保存修復科学研究室アソシエイトフェロー 中島志保	6月15日	第三屆建築遺産保護技術国際検討会

	研究テーマ	発表テーマ	発表者(職名・名前)	実施日	学会等名
27	同上	大分市高瀬石仏の保存環境分析と対策の評価 その3) X線照射による凝灰岩の吸水速度の測定	保存修復科学研究室客員研究員 小椋大輔 埋蔵文化財センター主任研究員 脇谷草一郎 ほか3名	6月23日	日本建築学会近畿支部発表会
28	同上	浸透現象の物理的メカニズムと建築材料中の溶液移動に及ぼす影響に関する考察	保存修復科学研究室客員研究員 小椋大輔 埋蔵文化財センター主任研究員 脇谷草一郎 ほか1名	6月23日	日本建築学会近畿支部発表会
29	同上	大分市高瀬石仏の保存環境分析と対策の評価 その3) X線照射による凝灰岩の吸水速度の測定	保存修復科学研究室客員研究員 小椋大輔 埋蔵文化財センター主任研究員 脇谷草一郎 ほか3名	9月3日	2019年日本建築学会大会
30	同上	浸透現象の物理的メカニズムと建築材料中の溶液移動に及ぼす影響に関する考察	保存修復科学研究室客員研究員 小椋大輔 埋蔵文化財センター主任研究員 脇谷草一郎 ほか1名	9月3日	2019年日本建築学会大会
31	同上	模擬古墳から検討した埋蔵環境下における遺物保存に関する研究 (その6) 石室及び周辺地盤内酸素、二酸化炭素濃度変動の把握と数値解析	保存修復科学研究室客員研究員 小椋大輔 埋蔵文化財センター主任研究員 脇谷草一郎 保存修復科学研究室研究員 柳田明進 ほか2名	9月3日	2019年日本建築学会大会
32	同上	一軸圧縮下における凝灰岩のX線CTとDigital Volume Correlation	埋蔵文化財センター主任研究員 脇谷草一郎 ほか4名	9月3日	2019年日本建築学会大会
33	同上	熊本地震における被災歴史的建造物復旧支援の取り組み -建築工会の活動を通じて-	埋蔵文化財センター長・保存修復科学研究室長 高妻洋成	11月19日	文化財防災ネットワーク推進事業セミナー
34	同上	Conservation of Takase stone Buddhas, Oita, Japan - evaluation of countermeasures based on field survey and numerical approach	保存修復科学研究室客員研究員 小椋大輔 埋蔵文化財センター主任研究員 脇谷草一郎 ほか3名	12月3日	2019 international symposium on Dazu Studies and the 20th anniversary celebration of the Dazu Rock Carvings inscribed into the World Heritage List
35	高松塚古墳、キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究	モンゴルのショロン・ボンバガル古墳の環境調査、モニタリングについて	埋蔵文化財センター長・保存修復科学研究室長 高妻洋成 ほか2名	6月1日	日本文化財科学会第36回大会
36	古墳壁画の恒久的保存に関する調査研究	モンゴルのショロン・ボンバガル古墳の環境調査、モニタリングについて	埋蔵文化財センター長・保存修復科学研究室長 高妻洋成 ほか2名	6月1日	日本文化財科学会第36回大会
37	同上	模擬古墳から検討した埋蔵環境下における遺物保存に関する研究 (その6) 石室及び周辺地盤内酸素、二酸化炭素濃度を数値解析による再現	保存修復科学研究室客員研究員 小椋大輔 埋蔵文化財センター主任研究員 脇谷草一郎 保存修復科学研究室研究員 柳田明進 埋蔵文化財センター長・保存修復科学研究室長 高妻洋成 ほか3名	6月1日	日本文化財科学会第36回大会
38	同上	慶陵東陵の西壁面人物図のイメージング分析法による劣化損傷の評価	保存修復科学研究室客員研究員 金旻貞 埋蔵文化財センター長・保存修復科学研究室長 高妻洋成 ほか3名	6月2日	日本文化財科学会第36回大会
39	同上	模擬古墳から検討した埋蔵環境下における遺物保存に関する研究 (その6) 石室及び周辺地盤内酸素、二酸化炭素濃度を数値解析による再現	保存修復科学研究室客員研究員 小椋大輔 埋蔵文化財センター主任研究員 脇谷草一郎 保存修復科学研究室研究員 柳田明進 ほか3名	6月22日	日本建築学会近畿支部発表会
40	同上	模擬古墳から検討した埋蔵環境下における遺物保存に関する研究 (その5) 4年間の測定結果による石室内環境の把握と数値解析による石室内温湿度の再現	保存修復科学研究室客員研究員 小椋大輔 埋蔵文化財センター主任研究員 脇谷草一郎 保存修復科学研究室研究員 柳田明進 ほか3名	9月4日	2019年日本建築学会大会
41	同上	文化財の調査・保存・活用に関する取り組み	保存修復科学研究室アソシエイトフェロー 中田愛乃	11月23日	東京都市大学 キャリアデザイン
42	同上	Environmental design of protection facility of decorated ancient tombs for condensation control	埋蔵文化財センター主任研究員 脇谷草一郎 保存修復科学研究室客員研究員 小椋大輔 埋蔵文化財センター長・保存修復科学研究室長 高妻洋成	12月3日	2019 international symposium on Dazu Studies and the 20th anniversary celebration of the Dazu Rock Carvings inscribed into the World Heritage List

(3) 文化遺産保護に関する国際協働 6件

○文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進 6件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	西アジア・中央アジア諸国等における文化財修復保存協力事業	北朝期の葬具から見た6世紀のソグド人	国際遺跡研究室アソシエイトフェロー 影山悦子	5月18日	第64回国際東方学者会議
2	文化財保護に関する国際協力の推進	14世紀－16世紀王都に関する調査報告	国際遺跡研究室専門職 佐藤由似	7月27日	東南アジア古代史研究会
3	同上	The first Theravada Buddhist temple at Angkor? Restoration of Western Prasat Top	国際遺跡研究室専門職 佐藤由似	10月24日	フリンダース大学考古学研究セミナー
4	同上	Preliminary Report of the Research and Restoration Project of Western Prasat Top	国際遺跡研究室専門職 佐藤由似	12月10日	第33回アンコール国際技術調整委員会
5	同上	Emerging Archaeo-chemical Evidences of Pottery Use from Terminal Pleistocene to Early Holocene East Asia	国際遺跡研究室長 庄田慎矢	8月9日	ラ・トローブ大学考古学セミナー
6	同上	Biomarker and Isotopic Approach for the Detection of Cereal Cooking	国際遺跡研究室長 庄田慎矢	12月17日	International Symposium of Palaeoethnobotanical Discoveries and Studies on the Tibetan Plateau and Surrounding Areas

(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用 4件

○文化財情報基盤の整備・充実 4件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化財に関するデータベースの充実	Prospects and Potential for the National Digital Repository of Archaeological Site Reports	企画調整部研究員 高田 祐一	4月26日	46th annual conference of Computer Application and Quantitative Methods in Archaeology
2	同上	デジタル技術を活用した発掘調査報告書のアクセシビリティ向上の試行	企画調整部研究員 高田 祐一	5月19日	日本考古学協会第85回（2019年度）総会
3	同上	発掘調査報告書のデータ量を推計する	企画調整部研究員 高田 祐一	6月22日	文化財方法論研究会
4	同上	考古学デジタルデータの課題と可能性	企画調整部研究員 高田 祐一	9月10日	考古学・文化財データサイエンス研究集会「考古学ビッグデータの可能性と世界的潮流」

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】 0件

【文化財防災ネットワーク推進本部】 9件

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化財等の防災・救援等への寄与	展示用支持具の効果および機能と課題	文化財防災ネットワーク推進室員（東京国立博物館 学芸研究部保存修復課環境保存室長） 和田浩	6月30日	日本展示学会第38回研究大会
2	同上	文化遺産の防災について	文化財防災ネットワーク推進室長 岡田健	8月25日	JIA文化財修復塾 近畿支部 現地講習1
3	同上	中国・四国地方における地域文化財防災体制と文化財防災ネットワーク推進事業との連携について	文化財防災ネットワーク推進室長 岡田健 文化財防災ネットワーク推進室アソシエイトフェロー 中島志保	8月30日	平成31年度全文協中国・四国ブロック文化行政主管課長会議
4	同上	歴史的建造物に付属する動産文化遺産の価値	文化財防災ネットワーク推進室長 岡田健	9月11日	立命館大学ユネスコ・チェア「文化遺産と危機管理」国際研修
5	同上	博物館・美術館の収蔵庫における照明計画の現状-安全対策としての視点から-	文化財防災ネットワーク推進室アソシエイトフェロー 黄川田翔	9月12日	第52回照明学会全国大会
6	同上	京都国立博物館の防災	文化財防災ネットワーク推進室アソシエイトフェロー 中屋菜緒	9月16日	立命館大学ユネスコ・チェア「文化遺産と危機管理」国際研修
7	同上	文化財建造物及び美術工芸品保存施設の防災について	文化財防災ネットワーク推進室員（奈良国立博物館 学芸部保存修理指導室長） 鳥越俊行	11月14日	愛知県文化財建造物担当者課題研修会

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
8	同上	災害時の文化財レスキューについて	文化財防災ネットワーク推進 室員（奈良国立博物館 学芸 部保存修理指導室長） 鳥越俊行	11月27日	三重県文化財講習会
9	同上	文化財防災ネットワーク推進事業について	文化財防災ネットワーク推進 室アソシエイトフェロー 黄川田翔	12月18日	令和元年度茨城県博物館協会研 修会

c-④ シンポジウム開催実績一覧

令和2年3月31日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
13件	7件	1件	2件	1件	3件
	文化財研究所計	東京文化財研究所		奈良文化財研究所	
	2件	2件		0件	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター		文化財防災ネットワーク推進本部		
	2件		2件		

【東京国立博物館】 1件

- 国際シンポジウム 展示室で語る「日本美術」
 - 開催日 令和2年2月1日
 - 開催場所 東京国立博物館 平成館大講堂
 - 主催 ミュージアム日本美術専門家連携・交流事業実行委員会2019
 - 参加人数 314人
 - 事業内容 欧米のミュージアムの日本美術専門家とともに、博物館においてどのように日本美術を語るべきかを議論した。

【京都国立博物館】 2件

- 研究発表と座談会 「一遍聖絵と遊行上人縁起絵」
 - 開催日 4月20日
 - 開催場所 京都国立博物館 平成知新館講堂
 - 主催 公益財団法人仏教美術研究上野記念財団
 - 共催 京都国立博物館
 - 参加人数 121人
 - 事業内容 テーマに基づき3名の講師による発表とパネルディスカッションを行った。
- シンポジウム ICOM京都大会2019開催記念シンポジウム 日本のミュージアムの未来 ICOM京都大会を振り返る-成果と課題-
 - 開催日 2年2月11日
 - 開催場所 京都国立博物館 平成知新館講堂
 - 主催 文化庁、ICOM京都大会2019組織委員会、ICOM日本委員会、日本博物館協会、京都国立博物館、東京国立博物館
 - 参加人数 183人
 - 事業内容 ICOM（国際博物館会議）京都大会を振り返り、ミュージアムが抱える課題と今後の展望についてディスカッションを行った。
- シンポジウム ICOM京都大会2019開催記念シンポジウム 日本のミュージアムの未来 ICOM京都大会の成果を生かす-今後の博物館制度-
 - 開催日 2年2月23日
 - 開催場所 東京国立博物館 講堂
 - 主催 文化庁、ICOM京都大会2019組織委員会、ICOM日本委員会、日本博物館協会、京都国立博物館、東京国立博物館
 - ※開催予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大予防・拡散防止のため中止となった。

【奈良国立博物館】 1件

- 正倉院学術シンポジウム2019「即位と正倉院宝物」
 - 開催日 11月3日
 - 開催場所 東大寺総合文化センター 金鐘ホール
 - 主催 奈良国立博物館
 - 後援 読売新聞社
 - 参加人数 214名
 - 事業内容 テーマに基づき3名の研究者による研究発表とパネルディスカッションを行った。
第1部：研究発表「正倉院宝物と御即位関係品」、「赤漆文欄木御厨子をめぐって」、「宮廷と正倉院宝物-唐文化との関わり-」
第2部：パネルディスカッション

【九州国立博物館】 3件

- 公開シンポジウム 全国高等学校歴史学フォーラム2019
 - 開催日 8月4日
 - 開催場所 ミュージアムホール
 - 主催 九州国立博物館
 - 共催 公益財団法人九州国立博物館振興財団
 - 参加者数 300人
 - 事業内容 高校生が、歴史学研究に関する活動内容や成果をポスターセッション及びワークショップにて発表。
「近代以降の紙幣の変遷とその背景を探る」福岡県立糸島高等学校（歴史部）、「鴨沂高校とその周辺から考える歴史～モノから史料に～」京都府立鴨沂高等学校（京都文化コース）、「長崎県壱岐市大久保遺跡の研究～縄文時代晩期貝殻混和土器に関する一考察～」長崎県立壱岐高等学校（東アジア歴史中国語コース）、「雑誌『ひだびと』で江馬修は何をめざしたのか」岐阜県立関高等学校（地域研究部・文芸部）、「土器の文様について～この線描けるかな～」奈良県立橿原高等学校（考古学研究部）、「目には見えない、人々の「祈り」を明らかにする～桐生市における文献調査とフィールドワーク～」群馬県立桐生高等学校（地歴部）、「野馬土手～相馬の「万里の長城」～」福島県立相馬高等学校（郷土部）
- 公開シンポジウム 特別展「室町將軍-戦乱と美の足利十五代-」開催記念 シンポジウム「京都・等持院 歴代足利將軍像の謎に迫る」
 - 開催日 8月12日
 - 開催場所 ミュージアムホール
 - 主催 九州国立博物館
 - 参加者数 254人
 - 事業内容 歴代將軍坐像について、近年の研究や調査など新たな成果をまじえ、さまざまな観点から將軍坐像の真相に迫った。
- 国際シンポジウム 特別展「三国志」記念特別講演会、鉄鏡検討会
 - 開催日 12月14日、16日
 - 開催場所 ミュージアムホール
 - 主催 九州国立博物館
 - 参加者数 306人
 - 事業内容 特別展「三国志」関連文化財に係る研究の進展を目的に、中国より潘偉斌氏を招聘し講演会並びに鉄鏡検討会を行った。

【東京文化財研究所】 2件

○国際シンポジウム「メソポタミア文明の遺産を未来へ伝えるために－歴史教育を通じた戦後イラクの復興への挑戦－」

開催日 31年4月13日
開催場所 東京文化財研究所
主催 メソポタミア考古学教育研究所、東京文化財研究所
参加者数 87人
事業内容 戦後イラクの復興に対する国際協力を紹介する国際シンポジウムを開催した。

○国際シンポジウム「日本絵画の修復」

開催日 令和元年7月29日（月）～30日（火）
開催場所 日本美術技術博物館マンガ
主催 文化庁、独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所、日本美術技術博物館
参加者数 350人
事業内容 実際に修復された絵画とその修復工程とともに、そこで使用された伝統技術や材料等について紹介する国際シンポジウムを開催した。

【奈良文化財研究所】 0件

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】 2件

○「無形文化遺産の持続可能な開発への貢献に関する複合領域的研究 - 教育を題材として」事業のための国際ワークショップ

開催日 元年11月28日～29日
開催場所 東京国立博物館平成館3階第2会議室
主催 アジア太平洋無形文化遺産研究センター（IRCI）
参加者数 22人
事業内容

無形文化遺産の、持続可能な開発目標（SDGs）への教育的観点からの貢献を目指して、フィリピン、ベトナムにて作成した教材作成手順書の内容についての議論および実際の教育現場でそれを使用した効果について検証し、参加者とともにSDGsの目標4（ターゲット4.7）に記載されている質の高い教育の推進と今後の課題について検討した。

○国際研究者フォーラム 無形文化遺産研究の展望－持続可能な社会にむけて

開催日 元年12月17日～18日
開催場所 東京文化財研究所セミナー室
主催 アジア太平洋無形文化遺産研究センター（IRCI）、文化庁
共催 東京文化財研究所
参加者数 64人
事業内容

アジア太平洋地域の無形文化遺産と地域振興、地域環境、教育に関する専門家を招き、各地域における具体的な事例の紹介を通して現状と課題を把握し、無形文化遺産を通じた「持続可能な社会」への貢献について、どのような研究が今後求められ進められるべきかを議論した。

【文化財防災ネットワーク推進本部】 2件

○シンポジウム「文化財を守り伝える2 東日本大震災から8年の今、これから」

開催日 10月26日
開催場所 けいはんなオープンイノベーションセンター（KICK）2階 ミュージアムホール
主催 京都国立博物館
後援 京都府、木津川市、精華町
参加者数 30人
事業内容

東日本大震災の現地で行われた文化財レスキュー活動と被災した文化財の修理についての紹介、また、8年経過した被災地の現状と今後に向けた取り組みについて宮城県からの報告が行われた。

○文化財防災ネットワーク推進事業シンポジウム「地域社会と文化財－身近にある文化財、それをまもり伝える意味」

開催日 12月7日
開催場所 東京国立博物館 平成館 大講堂
主催 独立行政法人国立文化財機構
後援 朝日新聞社
参加者数 134人
事業内容

地域の過疎化・少子高齢化などの社会状況の変化による文化財保護の在り方、地域のかけがえのない文化財を地域の人々の力でまもり、次世代に伝えることで地域の活性化や復興に役立てていくこと、などを講演テーマとしてシンポジウムを開催した。

c-⑤ 論文等発表実績一覧

令和2年3月31日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	
427件	257件	108件	59件	50件	40件	
	文化財研究所計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	共同研究（東京・奈良文化財研究所）		
	166件	40件	126件	0件		
	本部文化財活用センター			アジア太平洋無形文化遺産研究センター		
	4件			0件		

【本部文化財活用センター】4件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究 3件

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	査読有無
1	有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究	本部文化財活用センター 企画担当課長 松嶋雅人	東京国立博物館の原三溪コレクション — 近代日本画の購入経緯とその意義	「原三溪の美術 伝説の大コレクション」展図録	横浜美術館	7月13日	無
2	同上	本部文化財活用センター 企画担当課長 松嶋雅人	「マルセル・デュシャンと日本美術」展開催の目的とその成果	ZENBI 全国美術館会議機関誌 vol. 16	全国美術館会議	9月1日	無
3	同上	本部文化財活用センター 企画担当課長 松嶋雅人	美を紡ぐ 緑影 中村岳陵筆	『月刊経団連』2020年3月	日本経済団体連合会	2年3月1日	無

○その他有形文化財に関連する調査研究 1件

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	査読有無
1	展示・収蔵環境の管理と改善に関する調査研究	本部文化財活用センター 保存担当室長 吉田直人	保存環境管理に関する人材育成の課題について	化学物質と環境 No. 155 (2019. 5)	エコケミストリー研究会	5月20日	無

【東京国立博物館】108件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究 96件

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	査読有無
1	有形文化財の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究	学芸企画部長 富田淳	文徵明と師友たち	文徵明とその時代	公益財団法人台東区芸術文化財団	2年1月2日	無
2	同上	学芸企画部長 富田淳	文徵明と代筆・贋作	文徵明とその時代	公益財団法人台東区芸術文化財団	2年1月2日	無
3	同上	学芸企画部長 富田淳	明清篆刻小史 文彭から呉昌碩まで	謙慎書道会特別企画 印人書画篆刻展	謙慎書道会	2年1月14日	無
4	同上	企画課長 浅見龍介	浄光明寺 阿弥陀如来および両脇侍坐像	『日本彫刻史基礎資料集成 鎌倉時代造像銘記編』十六	中央公論美術出版	2年3月18日	無
5	同上	企画課長 浅見龍介	在欧美術館・博物館所蔵の仏教美術を訪ねて(4)	『法政史学』第92号	法政大学	9月	無
6	同上	企画課長 浅見龍介	在欧美術館・博物館所蔵の仏教美術を訪ねて(5)	『法政史学』第93号	法政大学	3月	無
7	同上	企画課特別展室主任研究員 土屋貴裕	美を紡ぐ 源氏物語図扇面	『月刊経団連』2019年8月号	日本経済団体連合会	8月1日	無
8	同上	企画課特別展室主任研究員 土屋貴裕	三十六歌仙絵の成立と「時代不同歌合絵」	『大和文華』135号	大和文華館	8月9日	無
9	同上	企画課特別展室主任研究員 土屋貴裕	明恵上人と高山寺の美術	高山寺監修・土屋貴裕編 『高山寺の美術 明恵上人と鳥獸戯画ゆかりの寺』	吉川弘文館	2年3月10日	無
10	同上	企画課特別展室主任研究員 土屋貴裕	謎だらけの国宝絵巻—鳥獸戯画—	高山寺監修・土屋貴裕編 『高山寺の美術 明恵上人と鳥獸戯画ゆかりの寺』	吉川弘文館	2年3月10日	無
11	同上	企画課特別展室主任研究員 土屋貴裕	柿本人麻呂像と歌仙絵の系譜	『出光美術館報』190号	出光美術館	2年3月	無
12	同上	企画課特別展室研究員 山本亮	弥生時代	史学雑誌 128(5)	史学研究会	5月15日	有
13	同上	企画課特別展室研究員 山本亮	奈良県明日香村上ノ井手遺跡の新知見	古墳出現期土器研究(6)	古墳出現期土器研究会	8月31日	有

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
14	同上	企画課特別展室研究員 山本亮、調査研究課長 河野一隆、同考古室研究員 河野正訓、保存修復 課調査分析室長 荒木臣 紀、同専門職 宮田将寛	奈良県松山古墳出土鉄鏡の再検 討	『MUSEUM』683号	東京国立博物 館	12月15日	有
15	同上	企画課特別展室研究員 山本亮、調査研究課考古 室研究員 河野正訓、ほ か外部研究者	港区 芝丸山第8号墳	東京都遺跡調査・研究発 表会45 発表要旨	東京都教育委 員会	2年2月15日	無
16	同上	企画課特別展室研究員 山本亮	円形周溝墓 SZ4500 の発見とそ の意義	藤原京右京九条二坊・三 坊、瀬田遺跡発掘調査報 告	奈良文化財研 究所	2年2月28日	無
17	同上	企画課特別展室研究員 山本亮	五塚原古墳の土器と乙訓地域	向日市埋蔵文化財調査報 告第117集	公益財団法人 向日市埋蔵文 化財センター	2年3月27日	無
18	同上	企画課特別展室アソシ エイトフェロー 村松綾	カルティエの歩みー創業から 1970年頃まで	展覧会カタログ『カルテ イエ、時の結晶』	日本経済新聞 社	10月	無
19	同上	企画課デザイン室主任研 究員 神辺知加	帝室博物館の国立移管および国 立博物館設立について—GHQ資 料に基づいた一考察	紀要55号	東京国立博物 館	2年3月31日	無
20	同上	企画課出版企画室研究員 植松瑞希	作品解説「孔明出山図」「故事 人物図」「後赤壁図巻」「三国故 事図」	特別展「三国志」図録	美術出版社	6月25日	無
21	同上	企画課出版企画室研究員 植松瑞希	「異形の竹」絵画化の系譜—文 同を中心に	宋代史研究会研究報告第 11集 宋代史料への回帰 と展開	汲古書院	7月26日	無
22	同上	企画課出版企画室研究員 植松瑞希	「文氏一族の繁栄」「蘇州職業 画家による詩意図」	「生誕550年記念 文徴 明とその時代」図録	台東区立書道 博物館	2年1月4日	無
23	同上	博物館教育課長 伊藤信 二	舍利によせる祈りの造形—輪宝 羯磨時絵舍利厨子の表現するも の—	高山寺の美術 明恵上人 と鳥獣戯画ゆかりの寺	吉川弘文館	2年3月10日	無
24	同上	博物館情報課長 今井敦	唐物茶陶の研究実況とは	『淡交別冊愛蔵版 数 寄・日本の心とかたち』 通巻第75号	淡交社	4月10日	無
25	同上	博物館情報課長 今井敦	明代前期の青花磁器の二つの流 れ—いわゆる雲堂手をてがかり に	『灼燦重現 十五世紀中 期景德鎮瓷器国際学術研 討会論文稿』	上海博物館	6月27日	無
26	同上	博物館情報課長 今井敦	横河民輔の「中国陶磁」蒐集	『アジア・インパクト 日本近代美術の「東洋憧 憬」』	東京美術	10月11日	無
27	同上	東京国立博物館百五十年史 編纂室長 恵美千鶴子	円珍書状	ピオ・シティ78号	ブックエンド	4月1日	無
28	同上	東京国立博物館百五十年史 編纂室長 恵美千鶴子	聖武天皇宸翰「雑集」	ピオ・シティ79号	ブックエンド	7月1日	無
29	同上	東京国立博物館百五十年史 編纂室長 恵美千鶴子	東京国立博物館の蜷川式胤関係 資料	三倉院宝物に学ぶ3	思文閣出版	10月25日	無
30	同上	東京国立博物館百五十年史 編纂室長・恵美千鶴子	法隆寺献物帳	ピオ・シティ80号	ブックエンド	2年1月6日	無
31	同上	東京国立博物館百五十年史 編纂室主任研究員 遠藤榮 子	ICOM国際委員会セッション報告 「ICOMAM 武器・軍事史博物館 国際委員会」	第25回 ICOM (国際博物館 会議) 京都大会2019 報告 書	ICOM日本委員 会	2年3月	無
32	同上	学芸研究部長 田沢裕賀	亙理町・江戸家の文化財レスキ ュー	救い出された文学コレ クション	新宿区立漱石 山房記念館	9月18日	無
33	同上	列品管理課登録室長 丸 山猶計	特別展での書の教育普及事例に ついて —書跡の三次元モデルを中心と して—	『ニューサポート』	東京書籍	4月1日	無
34	同上	列品管理課登録室長 丸 山猶計	特別展「王羲之と日本の書」余 録	『デアルテ』	九州芸術学会	6月28日	無
35	同上	列品管理課登録室長 丸 山猶計	卷子本の太巻軸の改良	『書学書道史学会 会報』 37号	書学書道史学 会	5月20日	無
36	同上	列品管理課登録室長 丸 山猶計	表紙解説「墨蹟「平常道」至道 無難筆」	季刊『禅文化』255号	(公財) 禅文 化研究所	2年1月25日	無
37	同上	列品管理課登録室研究員 六人部克典	文徴明の生涯と書	『生誕550年記念 文徴 明とその時代』	公益財団法人 台東区芸術文 化財団	2年1月2日	無
38	同上	列品管理課登録室アソシ エイトフェロー 曾田め ぐみ	上方浮世絵師 浅山芦国の墓石 と修復保存活動について	『大阪春秋』174号	新風書房	5月31日	無
39	同上	列品管理課登録室アソシ エイトフェロー 曾田め ぐみ	浅山芦国の自画像について	国際浮世絵学会会誌『浮 世絵芸術』178号	国際浮世絵学 会	7月31日	有
40	同上	列品管理課登録室アソシ エイトフェロー 曾田め ぐみ	河鍋暁斎筆《地獄極楽めぐり 図》について(11)第三六図「田 鶴遺愛の品々」に描かれた茨木 の鬼女と渡辺綱について	河鍋暁斎研究誌『暁斎』 第128号	河鍋暁斎記念 美術館	8月31日	無

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
41	同上	列品管理課登録室アソシエイトフェロー 曾田めぐみ	東京国立博物館所蔵 松方浮世絵コレクションの中の暁斎旧蔵品について	河鍋暁斎研究誌『暁斎』第129号	河鍋暁斎記念美術館	11月10日	無
42	同上	列品管理課登録室アソシエイトフェロー 曾田めぐみ	小論「三代歌川広重の生涯と作品」、コラム「博覧会の華—明治の高岡銅器」、小論「おわりに」、解説作品50点、	『はたらく浮世絵 大日本物産図会』	青幻舎	12月19日	無
43	同上	列品管理課貸与特別観覧室 研究員 西木政統	「東京国立博物館所蔵の木造菩薩立像と飛鳥時代の木彫像」	肥田路美編『古代寺院の芸術世界』(古代文学と隣接諸学6)	竹林舎	5月10日	無
44	同上	列品管理課貸与特別観覧室 研究員 西木政統	「≪研究ノート≫東京国立博物館所蔵の如意輪観音菩薩坐像と檀像表現」	『MUSEUM』683号	東京国立博物館	12月15日	有
45	同上	列品管理課平常展調整室長 皿井舞	蓮乗院阿弥陀如来像及び両脇侍立像	『日本彫刻史基礎資料集成 鎌倉時代造像銘記編』十六	中央公論美術出版	2年3月18日	無
46	同上	列品管理課平常展調整室長 皿井舞	静嘉堂文庫美術館・東京国立博物館十二神将立像	『日本彫刻史基礎資料集成 鎌倉時代造像銘記編』十六	中央公論美術出版	2年3月18日	無
47	同上	列品管理課平常展調整室 研究員 小野塚拓造、ほか外部研究者	The Excavations at Tel Rekhes, Israel: The results of 2013-2017 seasons	Proceedings of the International Congress on the Archaeology of the Ancient Near East Proceedings of the 10th ICAANE	Otto Harrassowitz	2年3月	有
48	同上	調査研究課長 河野一隆	インドネシアのジャワ島、スマトラ島における文化財調査ノート	東風西声 第15号	九州国立博物館	2年3月	無
49	同上	調査研究課絵画・彫刻室長 沖松健次郎	コラム: 妙安寺本聖徳太子絵伝について	『四天王寺亀井堂石造物調査報告書』	元興寺文化財研究所編	4月	無
50	同上	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員 鷲頭桂	「水車のある西洋風俗図屏風」	『國華』1482号	國華社	4月20日	無
51	同上	調査研究課絵画・彫刻室主任研究員 鷲頭桂	Envisioning the West: European-style Paintings in Late 16-17th century Japan	Toward the Future: Museums and Art History in East Asia, Proceedings of the 2019 CIHA Colloquium in Tokyo	CIHA 日本委員会および大塚国際美術館	2年3月31日	無
52	同上	調査研究課絵画・彫刻室 研究員 大橋美織	美を紡ぐ 富嶽三十六景・神奈川沖浪裏	『月刊経団連』2019年6月号	日本経済団体連合会	6月1日	無
53	同上	調査研究課絵画・彫刻室 研究員 高橋真作	白衣観音図	『國華』1485号	國華社	7月20日	有
54	同上	調査研究課工芸室長 小山弓弦葉	The 'Nippon Kimono' Voyages to Europe	KIMONO: Kyoto to Catwalk	V & A Publishing	2年2月29日	無
55	同上	調査研究課工芸室研究員 佐藤寛介	横山上野大椽藤原祐定の研究	『刀剣美術』751号	日本美術刀剣保存協会	8月1日	有
56	同上	調査研究課工芸室研究員 佐藤寛介	平成31年「鏡開き」参加記	『甲冑武具研究』206号	日本甲冑武具研究保存会	6月10日	無
57	同上	調査研究課工芸室研究員 福島修	「漆芸のトランジション — 深まるワザと行きかうデザイン」	『美意識のトランジション—十六から十七世紀にかけての東アジアの書画工芸』	公益財団法人五島美術館	10月25日	無
58	同上	調査研究課考古室長 品川欣也	東京国立博物館所蔵遮光器土偶解説	史跡亀ヶ岡石器時代遺跡総括報告書	つがる市教育委員会	6月28日	無
59	同上	調査研究課考古室研究員 河野正訓		古墳のなぞがわかる本	岩崎書店	9月30日	無
60	同上	調査研究課東洋室長 勝木言一郎	用語解説	特別展「三国志」図録	美術出版社	6月19日	無
61	同上	調査研究課東洋室長 勝木言一郎	用語解説	「博物館でアジアの旅 LOVE ラブ・アジア」図録	東京国立博物館	9月10日	無
62	同上	調査研究課東洋室長 勝木言一郎	Towards a Better Understanding of Asian Cultures: Challenges Faced by the Tokyo National Museum's Asian Gallery	Proceedings 7th Asian National Museums Association (ANMA) Meeting and Conference 'Social Unity through Culture, Art and History: The Museums Challenges'	Asian National Museums Association (ANMA)	10月	無
63	同上	調査研究課東洋室主任研究員 市元壘	「展覧会開催までの軌跡 三国志展の現場から」	『時空旅人』2019.7 VOL.50	三栄	5月25日	無
64	同上	調査研究課東洋室主任研究員 市元壘	「考古遺物が切り開く三国志の新時代」	『ユリイカ』2019年6月号	青土社	5月27日	無
65	同上	調査研究課東洋室主任研究員 市元壘	総論／章解説／節解説3-5, 4-3, 5-1・2／入門講座3, 7, 8, 12／作品解説6他／諸葛亮「出師の表」、「三都賦」、曹丕と曹植	特別展「三国志」図録	東京国立博物館	6月19日	無

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
66	同上	調査研究課東洋室主任研究員 市元壘	作品解説 99	特別展「正倉院の世界」図録	東京国立博物館	10月14日	無
67	同上	調査研究課東洋室主任研究員 市元壘	共著「日本における中国考古学関係文献目録(2018年)」	『中国考古学』第19号	日本中国考古学会	11月30日	無
68	同上	調査研究課東洋室主任研究員 市元壘	「孤高の東洋美術 金銀錯狩猟文鏡と金彩鳥獸雲文銅盤」	『季刊永青文庫』109号	永青文庫	2年2月15日	無
69	同上	調査研究課東洋室主任研究員 市元壘	「皇帝陵の考古学 三国から隋まで」	『東洋文化研究』第22号	学習院大学東洋文化研究所	2年3月31日	無
70	同上	保存修復課調査分析室長 荒木臣紀	旧江戸城写真帖に用いられている彩色材料について	東京国立博物館 紀要	東京国立博物館	2年3月31日	無
71	同上	保存修復課保存修復室長 瀬谷愛	社寺参詣曼荼羅としての一遍聖絵	五味文彦編『一遍聖絵の全貌』	高志書院	4月15日	無
72	同上	保存修復課保存修復室長 瀬谷愛	法隆寺東院舎利殿の美術と中世律宗	『日本仏教の展開とその造形』	法蔵館	2年2月28日	無
73	同上	学芸研究部保存修復課研究員 横山梓	表紙解説「播鉢形水指 丹波」	『MUSEUM』681号	東京国立博物館	8月15日	無
74	a. 特別調査「法隆寺献納宝物」(第41次)	保存修復課保存修復室長 瀬谷愛	法隆寺舎利殿障子絵の制作背景	『法隆寺献納宝物特別調査概報XL 文王呂尚・商山四皓図屏風2』	東京国立博物館	2年3月30日	無
75	特集「やちむん—沖繩のやきもの」に関する調査研究	企画課特別展室主任研究員 三笠景子	作品紹介 蓋マカイ	『MUSEUM』680号	東京国立博物館	6月15日	有
76	同上	企画課特別展室主任研究員 三笠景子	理想の茶碗—「利休形」とは	利休のかたち 好み道具と「利休形」	淡交社	2年1月12日	無
77	特集「伝説の面打ち」に関する調査研究	企画課長 浅見龍介、博物館教育課教育普及室研究員 川岸瀬里	面裏の特徴から考える伝説の面打ち	『伝説の面打ち』	東京国立博物館	2年1月8日	無
78	特集「平家納経模本の世界—益田本と大倉本—」に関する調査研究	東京国立博物館百五十年史編集室長 恵美千鶴子	明治宮殿の室内装飾に関する一考察	家具道具室内史学会誌11号	家具道具室内史学会	6月30日	有
79	同上	東京国立博物館百五十年史編集室長 恵美千鶴子	平家納経模本の世界—益田本と大倉本—	特集「平家納経模本の世界—益田本と大倉本—」図録	東京国立博物館	10月15日	無
80	同上	東京国立博物館百五十年史編集室長 恵美千鶴子	藤原定家詠草「泊瀬山」	陽明文庫講座 図録I	東京大学史料編纂所	2年2月15日	無
81	特集「朝鮮王朝の宮廷文化」に関する調査研究	企画課特別展室長 猪熊兼樹	『朝鮮王朝の宮廷文化』	パンフレット	東京国立博物館	2年2月4日	無
82	特別展「出雲と大和」に関する調査研究	列品管理課平常展調整室長 皿井舞	奈良時代の神仏習合	特別展「出雲と大和」図録	島根県・奈良県	2年1月9日	無
83	同上	調査研究課考古室研究員 河野正訓	出雲と大和	『うえの』729号	上野のれん会	2年1月1日	無
84	特別企画「奈良大和四寺のみほとけ」に関する調査研究	列品管理課平常展調整室長 皿井舞	奈良大和四寺のみほとけ	特別企画「奈良大和四寺のみほとけ」図録	東京国立博物館	6月18日	無
85	住友財団修復助成30年記念 特別企画「文化財よ、永遠に」に関する調査研究	調査研究課絵画・彫刻室研究員 増田政史 (調査研究課平常展調整室長 皿井舞と共著)	コラム 七十六年ぶりに日本に里帰り—ベトナム国立歴史博物館所蔵 阿弥陀如来立像	特別企画「文化財よ、永遠に」図録	住友財団、東京国立博物館	10月1日	無
86	同上	調査研究課絵画・彫刻室研究員 増田政史	住友財団修復助成30年記念 特別企画 文化財よ、永遠に	『うえの』726号	上野のれん会	10月1日	無
87	御即位記念特別展「正倉院の世界—皇室がまもり伝えた美—」に関する調査研究	企画課特別展室主任研究員 土屋貴裕	『国家珍宝帳』記載の三つの書屏風	御即位記念特別展「正倉院の世界—皇室がまもり伝えた美—」図録	東京国立博物館	10月14日	無
88	同上	列品管理課登録室アシリエイトフェロー 田邊留美子	天平の香り	御即位記念特別展「正倉院の世界—皇室がまもり伝えた美—」図録	東京国立博物館	10月14日	無
89	同上	列品管理課平常展調整室研究員 小野塚拓造	正倉院の白瑠璃碗はどこから来たのか—これまでの研究とこれからの研究	御即位記念特別展「正倉院の世界—皇室がまもり伝えた美—」図録	東京国立博物館	10月14日	無
90	同上	調査研究課工芸室研究員 三田覚之	二人の聖—聖徳太子と聖武天皇ゆかりの宝物	御即位記念特別展「正倉院の世界—皇室がまもり伝えた美—」図録	東京国立博物館	10月14日	無
91	同上	調査研究課工芸室研究員 三田覚之	今明かされる正倉院の世界	図書館教育ニュース	少年写真新聞社	10月28日	無
92	同上	調査研究課工芸室研究員 三田覚之	正倉院と螺鈿紫檀五絃琵琶	雅楽アジアの響き	国立劇場	11月9日	無
93	特別展「法隆寺金堂壁画と百済観音」に関する調査研究	保存修復課保存修復室長 瀬谷愛	法隆寺金堂壁画と文化財保護	特別展「法隆寺金堂壁画と百済観音」図録	東京国立博物館	2年3月13日	無

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
94	博物館環境デザインに関する調査研究	学芸企画部 上席研究員 木下史青	死の近さ 一茶の湯の美学と博物館が出会うとき	2019 年度東京藝術大学博士論文	東京藝術大学	12 月	有
95	同上	学芸企画部 上席研究員 木下史青	世界につながる博物館の展示デザイン—LED 照明の標準化と東京国立博物館	電気設備学会誌	電気設備学会	2 年 1 月	無
96	レプリカや VR 等先端技術を使った、文化財の活用についての調査・研究	調査研究課 工芸室 研究員 三田覚之	法隆寺献納宝物 伎楽面の復元模造制作について	『MUSEUM』682 号	東京国立博物館	10 月 15 日	有

○その他有形文化財に関連する調査研究 12件

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	博物館の環境保存に関する調査研究	企画課デザイン室長 矢野賀一、保存修復課環境保存室長 和田浩、同アソシエイトフェロー 黄川田翔	展示用支持具の効果および機能と課題	展示学、58 号	日本展示学会	10 月 15 日	無
2	同上	保存修復課環境保存室長 和田浩	災害対策調査部会の活動について—2018 年度報告—	文化財保存修復学会第 41 回大会研究発表要旨集	文化財保存修復学会	6 月 23 日	無
3	同上	列品管理課貸与特別観覧室研究員 六人部克典、保存修復課環境保存室長 和田浩、同アソシエイトフェロー 黄川田翔	関東甲信越地域における文化財防災ネットワークの構築に向けた取り組み	文化財保存修復学会第 41 回大会研究発表要旨集	文化財保存修復学会	6 月 23 日	無
4	同上	保存修復課環境保存室長 和田浩	法隆寺金堂焼損部収蔵庫における壁画の保存・公開に関する研究 —数値解析による小屋裏の送風ファンによる環境調整方法の検討—	日本文化財科学会第 36 回大会研究発表要旨集	日本文化財科学会	6 月 1 日	無
5	同上	企画課デザイン室長 矢野賀一、保存修復課環境保存室長 和田浩、同アソシエイトフェロー 黄川田翔	博物館・美術館の収蔵庫における照明計画の現状 —安全対策としての視点から—	2019 年度照明学会全国大会講演論文集	照明学会	8 月 31 日	無
6	美術品・輸送機関・梱包資材の振動特性情報を集積した安全輸送のためのシステム構築	保存修復課環境保存室長 和田浩	文化財の海上輸送中に生じる振動レベルの評価	『MUSEUM』680 号	東京国立博物館	6 月 1 日	有
7	同上	保存修復課環境保存室長 和田浩	博物館内輸送用防振機能付台車の開発	日本機械学会 第 28 回交通・物流部門大会 講演論文集	日本機械学会	11 月 27 日	無
8	同上	保存修復課環境保存室長 和田浩	博物館内の作品輸送で生じる振動レベルの評価とその対策	第 57 回全日本包装技術研究大会大会予稿集	日本包装技術協会	11 月 21 日	無
9	博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究	博物館情報課情報資料室 専門職 山崎美和	「守り伝える」を支える：東京国立博物館 資料館の役割	現代の図書館	日本図書館協会	9 月 1 日	無
10	同上	博物館情報課情報資料室 専門職 山崎美和	書評『専門図書館探訪 あなたの「知りたい」に応えるガイドブック』青柳英治・長谷川昭子共著	情報の科学と技術	情報科学技術協会	2 年 3 月 1 日	無
11	同上	学芸研究部 特任研究員 田良島哲	明治期の書籍における「題辞」の様態：美術書を事例として	アート・ドキュメンテーション研究 26	アート・ドキュメンテーション学会	5 月	有
12	同上	学芸研究部 特任研究員 田良島哲	文化財写真の資料的意義 —明治時代の奈良の調査を中心に—	ザ・グレイトブッダ・シンポジウム論集 17 明治時代の東大寺 —近代化がもたらした光と影—	GBS 実行委員会・東大寺	11 月	無

【京都国立博物館】59件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関する調査研究 59件

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	収蔵品・寄託品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究	企画室長 山川 暁	「菊棕櫚文様帷子」(名品に咲く華)	『華道』79	日本華道社	9 月	無
2	同上	同上	「雪持ち橘文様小袖」(名品に咲く華)	『華道』81 52~53 頁	日本華道社	11 月	無
3	収蔵品・寄託品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究	連携協力室長 浅瀬 毅	「京都国立博物館の屋外展示」	『教育美術』6 月号	教育美術振興会	6 月	無
4	同上	同上	「作品解説(10 件)」	『京都国立博物館寄託の名宝 美を守り、美を伝える』	京都国立博物館	8 月	無

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
5	『国宝一遍聖絵と時宗の名宝』展に関する調査研究同上	同上	「時宗のみほとけ—遊行上人の肖像と阿弥陀—」 「扉解説(二・四・五章)」 「作品解説(22件)」	『国宝一遍聖絵と時宗の名宝』	京都国立博物館・朝日新聞社	4月	無
6	同上	同上	「聞名寺 阿弥陀如来及び観音・勢至菩薩立像」	『日本彫刻史基礎資料集成 鎌倉時代 造像銘記篇』一六	中央公論美術出版	2年2月	無
7	同上	保存科学室長 降幡 順子	「群馬県白山古墳出土品の研究2」	『鹿園雑集』第21号	奈良国立博物館	4月30日	無
8	同上	同上	「北野廃寺跡出土多口瓶の化学的特徴について」	『平安京右京一条二坊十六町遺跡』第2019-1号	京都市埋蔵文化財研究所	9月30日	無
9	同上	同上	「6a層等から出土したガラス製遺物の化学分析調査」	『青谷上寺地遺跡第17次発掘調査報告書』	鳥取県埋蔵文化財調査ター	1月31日	無
10	同上	同上	緑釉陶器釉薬の分析	『平安期緑釉陶器・緑釉瓦生産の他分野協働型研究』	古代学協会	2年3月20日	無
11	同上	同上	藤原宮等出土瓦と生産地遺跡出土瓦の胎土分析成果 1. 蛍光X線分析の成果	蛍光X線分析と鉱物組成分析による飛鳥藤原地域出土古代瓦の生産・供給体制の研究	奈良文化財研究所	2年3月31日	無
12	収藏品・寄託品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究	教育室長 永島 明子	蒔絵と螺鈿の聖餅箱—新出作品の紹介と研究ノート—	『漆工史』第41号	漆工史学会	31年3月	有
13	同上	同上	「重要文化財 花鳥蒔絵螺鈿角徳利及び櫃」 京都国立博物館 名品に咲く華	『華道』第81巻[第6月号]	日本華道社	5月15日	無
14	同上	同上	「菊蒔絵筆筒」 京都国立博物館 名品に咲く華	『華道』第81巻[第11月号]	日本華道社	10月15日	無
15	同上	同上	「端燭に鼠根付 銘岡友」(美術館だより 329 京都国立博物館 55)	『なにわ』12月号	大阪府警察	11月28日	無
16	同上	保存修理指導室長 大原 義豊	「平等院浄土院所蔵阿弥陀三尊像(伝釈迦三尊像)に関する考察」	『鳳翔学叢』第15輯	平等院	31年3月	無
17	同上	同上	「愛知県美術館所蔵木村定三コレクション《黒漆厨子》内部千体観音に関する考察」	『愛知県美術館 研究紀要 第25号 木村定三コレクション編』	愛知県美術館	31年3月	無
18	同上	同上	「国宝 明恵上人像(樹上座禅像)をめぐる一試論」	『学叢』41	京都国立博物館	5月	無
19	同上	考古室主任研究員 古谷 毅	「『埴輪集成図鑑』の研究(二)」	『学叢』第42号	京都国立博物館	5月25日	無
20	同上	同上	「解説」・「本文補注」	『日本古代の窯業と社会』(吉田恵二先生著作集第2冊)、吉田恵二先生著作集刊行会	六一書房	8月11日	無
21	同上	同上	「埴輪の母子像—原始・古代における子供の社会的地位—」	『古墳と国家形成期の諸問題』(白石太一郎先生傘寿記念論文集編集委員会)	山川出版社	10月20日	無
22	同上	同上	「文化財保護法以前—考古・民俗資料の収集・研究と保護—」	『文化財の活用とは何か』(國學院大學 学術資料センター編)	六一書房	2年3月15日	無
23	同上	企画室主任研究員 呉 孟晋	漢学与中国学のはざま—長尾雨山と近代日本の中国書画コレクション—	SGRA レポート第84号 「第11回 SGRA チャイナ・フォーラム論文集: 東アジアからみた中国美術史学」	関口グローバル研究会	5月	無
24	同上	同上	『良友』画報にみる中国の渡欧画家たち(要旨)	『日仏美術学会会報』第38号	日仏美術学会	5月	無
25	同上	同上	(動向) 美術	『中国年鑑2019』	中国研究所	5月	無
26	同上	同上	山本竟山と長尾雨山の交友—「長尾雨山関係資料」にある山本竟山資料について—	陶徳民・中谷伸生編著 『山本竟山の書と学問—湖南・雨山・鉄斎・南岳との文人交流ネットワーク』	関西大学東西学術研究所	6月	無
27	同上	同上	中国絵画の「お値段」	『清風会々報』第196号	一般社団法人清風会	10月	無
28	同上	同上	「長尾雨山関係資料」のこれまでとこれから	『書論』第45号	書論研究会	11月	無
29	同上	同上	口絵解説	『書論』第45号	書論研究会	11月	無
30	収藏品・寄託品等及び各博物館の特色に応じた歴史・伝統文化に関連する調査研究	連携協力室研究員 降矢 哲男	「中近世の対馬」	『考古学ジャーナル』第725号	ニュー・サイエンス社	4月20日	無
31	同上	同上	「天野山金剛寺開山堂出土の高麗青磁」	『葬送・墓・石塔: 論集: 狭川真一さん還暦記念論文集』	狭川真一さん還暦記念会	5月11日	無

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
32	同上	同上	「尾形光琳画・尾形乾山作 鏝 絵寒山拾得図角皿」	『国華』第1483号	国華社	5月20日	無
33	同上	同上	「名品に咲く華 重要文化財 「色絵蓮華香炉」伝野々村仁清 作」	『華道』第81巻8号	日本華道社	7月15日	無
34	同上	同上	「美術館だより326 重要文化財 色絵蓮華香炉 伝野々村仁清作 一合」	『なにわ』771号	大阪府警察職 員互助会	8月22日	無
35	特別展「佐竹本三十六 歌仙絵と王朝の 美」に関する調査研 究	同上	「佐竹本の流転と所蔵者の想 い」	『淡交』第911号	淡交社	9月1日	無
36	同上	同上	「佐竹本からみえる数寄者の想 い」	『茶道雑誌』第38巻第 10号	河原書店	10月1日	無
37	収蔵品・寄託品等及 び各博物館の特色に 応じた歴史・伝統文 化に関連する調査研 究	保存修理指導室研究員 福士 雄也	「墨花争奇図巻 大岡春卜筆」	『華道』7月号	日本華道社	6月	無
38	同上	同上	「池大雅筆 鸚鵡岩山水図」	『国華』1484号	国華社	6月20日	有
39	同上	同上	「風神雷神図屏風 俵屋宗達 筆」	『なにわ』8月号	大阪府警	7月	無
40	同上	同上	「第1章 都の絵画」	『トラりんと学ぶ日本美 術1』	淡交社	11月	無
41	特別展「一遍聖絵と 時宗の名宝」に係る 調査研究	同上	作品解説	『特別展 一遍聖絵と時 宗の名宝』	朝日新聞社	4月	無
42	特別展「佐竹本三十六 歌仙と王朝の美」に係 る調査研究	同上	作品解説	『特別展 佐竹本三十六 歌仙と王朝の美』	日本経済新聞 社、NHK	10月	無
43	特集展示「京都御所障 壁画 紫宸殿」に係る 調査研究	同上	「賢聖障子 住吉広行筆」	『なにわ』1月号	大阪府警	12月	無
44	同上	同上	「京都御所の障壁画—紫宸殿 —」	『博物館 Dictionary』 218号	京都国立博物 館	2年1月	無
45	その他有形文化財に 係る調査研究	同上	作品解説	令和2年度カレンダー	西新井大師	11月	無
46	同上	企画室研究員 井並 林太郎	作品解説	『京博寄託の名宝』図録	京都国立博物 館	8月	無
47	同上	同上	「六字名号・一遍上人僧尼踊躍 念仏図（金蓮寺蔵）について」	『文化学年報』69号	同志社大学文 化学会	3月	無
48	同上	同上	「敬によりて愛を成ず一華嚴宗 祖師絵伝一」	『高山寺の美術 明恵上 人と鳥獸戯画ゆかりの 寺』	吉川弘文館	3月	無
49	特別展「国宝 一遍 聖絵と時宗の名宝」 に関する調査研究	同上	「一遍聖絵 巻二」	『なにわ』767号	大阪府警察本 部警務部教養 課 一般財団法人 大阪府警察職 員互助会	5月	無
50	同上	同上	「一遍聖絵と遊行上人縁起絵」	『国宝 一遍聖絵と時宗 の名宝』（展覧会図録）	京都国立博物 館、朝日新聞 社、時宗、時 宗総本山清浄 光寺（遊行 寺）	4月	無
51	同上	同上	作品解説	同上	同上	同上	無
52	同上	同上	「遊行上人縁起絵の転写につい て—最古紙断簡三図の検討を中心 に—」	公益財団法人仏教美術研 究上野記念財団研究報告 書第四十四冊『研究発表 と座談会 一遍聖絵と遊 行上人縁起絵』	公益財団法人 仏教美術研 究上野記念財 団	2年3月	無
53	特別展「流転100年 佐竹本三十六歌仙絵 と王朝の美」に関す る調査研究	同上	「総論 佐竹本三十六歌仙絵」	『流転100年 佐竹本三 十六歌仙絵と王朝の美』 (展覧会図録)	京都国立博物 館、日本経済 新聞社、NHK 京都放送局、 NHK プラネッ ト近畿、京都 新聞	10月	無
54	同上	同上	作品解説	同上	同上	同上	無
55	同上	同上	「秘宝 佐竹本三十六歌仙絵— 歌と肖像の情緒—」	『淡交』9月号	淡交社	9月	無
56	同上	同上	「佐竹本三十六歌仙絵の魅力— 和歌を味わう歌仙絵と茶の湯 —」	『茶道雑誌』10月号	河原書店	10月	無

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
57	同上	同上	「佐竹本三十六歌仙絵 在原業平」	『なにわ』772号	大阪府警察本部警務部教養課 一般財団法人大阪府警察職員互助会	5月26日	無
58	同上	同上	「佐竹本三十六歌仙絵 小大君」	『なにわ』773号	同上	10月30日	無
59	同上	連携協力室研究員 上杉 智英	書誌解題	『京都国立博物館蔵 国宝 漢書楊雄伝第五十七』	勉誠出版	11月20日	無

【奈良国立博物館】50件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究 47件

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	学芸部長 内藤栄	仏舍利三千粒と戒律—鑑真から覚盛へ—	覚盛上人御忌記念『唐招提寺の伝統と戒律』	一般財団法人律宗戒学院	5月	無
2	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	同上	正倉院宝物の成立—聖武天皇の宝物・薬物の献納と戒律—(概説)	『特別展 御即位記念 第71回正倉院展』展覧会図録	奈良国立博物館	10月26日	無
3	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	同上	鑑真和上と唐招提寺	『滄海之虹—唐招提寺鑑真文物与東山魁夷隔扇画展』展覧会図録	上海博物館	12月	無
4	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館蔵品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	上席研究員 岩田茂樹	神像の成立とその姿 <i>Shinzo: Their Emergence and Forms</i>	『Shinto: Discovery of the Devine in Japanese Art』展覧会図録	クレーブランド美術館	4月8日	無
5	同上	同上	調査報告 静岡・乗光寺 観音菩薩遊戯坐像	『鹿園雑集』21	奈良国立博物館	4月30日	無
6	同上	同上	兵庫・網敷天満宮の伎楽面(研究ノート)	『MUSEUM』680	東京国立博物館	6月22日	有
7	同上	同上	日本における毘沙門天像の展開	『特別展 毘沙門天—北方鎮護のカミ—』展覧会図録	奈良国立博物館・朝日新聞社・NHK 奈良放送局・NHK ブラネット近畿・文化庁・独立行政法人日本芸術振興会	2年2月4日	無
8	同上	列品室長 吉澤悟	行基墓誌断片を考える—東大寺二月堂本尊光背断片との比較から—	『鹿園雑集』21	奈良国立博物館	4月30日	無
9	同上	同上	調査報告 群馬県白山古墳出土品の研究2(分担執筆)	同上	同上	同上	無
10	同上	同上	石田茂作の石塔供養と大茶会	『論集 葬送・墓・石塔』	狭川真一さん還暦記念会	5月11日	無
11	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	同上	正倉院宝物にみる「使用痕」	『古墳と国家形成期の諸問題』	白石太一郎先生傘寿記念論文集編集委員会編 山川出版社発行	10月25日	無
12	同上	情報サービス室長 岩井共二	国宝の殿堂 藤田美術館〜コレクションの形成と継承〜(総論)	『特別展 国宝の殿堂 藤田美術館展 曜変天目茶碗と仏教美術のきらめき』展覧会図録	奈良国立博物館・朝日新聞社・NHK 奈良放送局・NHK ブラネット近畿	4月13日	無
13	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	同上	袈裟付木欄染羅衣と偏衫(宝物寸描)	『特別展 御即位記念 第71回正倉院展』展覧会図録	奈良国立博物館	10月26日	無

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
14	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館藏品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	同上	厨子入押出阿弥陀五尊像	『聖徳』241	聖徳宗教学部	7月	無
15	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館藏品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	工芸考古室長 清水健	<i>The World of Shrine Treasures and Former Shrine Treasures</i>	『Shinto: Discovery of the Devine in Japanese Art』展覧会図録	クリーブランド美術館	4月8日	無
16	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	同上	文化遺産としての正倉院宝物	『文化遺産研究』2	龍谷大学文化遺産学研究会	5月	無
17	同上	同上	正倉院宝物にみる東大寺大仏開眼供養の荘厳	『古代文学と隣接諸学⑥ 古代寺院の芸術世界』	竹林舎	5月10日	無
18	同上	同上	コラム 金銀平脱皮箱模造	『正倉院宝物に学ぶ』3	思文閣出版	10月	無
19	同上	同上	山形・洲浜の系譜—仮山残欠をめぐる(宝物寸描)	『特別展 御即位記念 第71回正倉院展』展覧会図録	奈良国立博物館	10月26日	無
20	同上	同上	従天平迎向令和 正倉院展的變遷及『御即位記念 第71回正倉院展』的組成概要(翻譯 顔雪雪)	『典藏・古美術』326		11月	無
21	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館藏品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	教育室長 谷口耕生	<i>Kami-Buddhist Combinatory Thought and Religious Art in Japan</i>	『Shinto: Discovery of the Devine in Japanese Art』展覧会図録	クリーブランド美術館	4月8日	無
22	同上	同上	奈良ゆかりの藤田美術館仏教絵画コレクション(コラム)	『特別展 国宝の殿堂 藤田美術館展 曜変天目茶碗と仏教美術のきらめき』展覧会図録	奈良国立博物館・朝日新聞社・NHK 奈良放送局・NHK ブラネット近畿	4月13日	無
23	同上	同上	法華堂根本曼陀羅再考—天竺之真本としての霊山変相図—	『古代文学と隣接諸学⑥ 古代寺院の芸術世界』	竹林舎	5月10日	無
24	同上	同上	慈母のまなざしに抱かれた修練の日々—仏眼仏母像	『高山寺の美術』	吉川弘文館	2年2月28日	無
25	同上	同上	日本中世の仏画の表装	『日本の表装と修理』	勉誠出版	2年3月25日	無
26	同上	同上	「信貴山縁起絵巻」研究序説	『信貴山 朝護孫子寺蔵 国宝 信貴山縁起絵巻 調査研究報告書—研究・資料編—』	奈良国立博物館・東京文化財研究所	2年3月31日	無
27	同上	企画室長 野尻忠	藤田美術館の奈良ゆかりの写経コレクション(コラム)	『特別展 国宝の殿堂 藤田美術館展 曜変天目茶碗と仏教美術のきらめき』展覧会図録	奈良国立博物館・朝日新聞社・NHK 奈良放送局・NHK ブラネット近畿	4月13日	無
28	同上	資料室長 宮崎幹子	グラビア解説 法隆寺金堂壁画写真ガラス原板(三百六十三枚)のうち 第六号壁 第二列の二	『聖徳』240	法隆寺	5月	無
29	収蔵品写真・資料等の活用についての研究成果を公表する。	同上	博物館・美術館における画像公開—オープンデータ、オープンアクセスと文化財写真の意義	『アート・ドキュメンテーション通信』123	アート・ドキュメンテーション学会	10月	無
30	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館藏品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	同上	文化財写真の軌跡—百五十年のあゆみとその成果—(総論)	『特別陳列 重要文化財 法隆寺金堂壁画写真ガラス原板—文化財写真の軌跡—』展覧会図録	奈良国立博物館	12月7日	無
31	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	情報サービス室主任研究員 北澤菜月	狩猟宴楽図(紫檀木画槽琵琶第二号捍撥圖)の図様と表現について	『正倉院宝物の研究Ⅰ』	ライブ・アート・ブックス	10月1日	無
32	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館藏品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	同上	おん祭と春日信仰の美術 [特集]春日大社にまつわる絵師たち(概説)	『特別陳列 おん祭と春日信仰の美術 [特集]春日大社にまつわる絵師たち』展覧会図録	仏教美術協会	12月7日	無

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
33	同上	同上	「信貴山縁起絵巻」の伝来をめぐって—近世におけるその評価と住吉模本の意義—	『信貴山 朝護孫子寺蔵国宝 信貴山縁起絵巻 調査研究報告書—研究・資料編—』	奈良国立博物館・東京文化財研究所	2年3月31日	無
34	同上	教育室主任研究員 中川あや	調査報告 春日東西塔院跡出土の文字叩き平瓦	『鹿園雑集』21	奈良国立博物館	4月30日	無
35	同上	同上	飛鳥寺塔心礎出土銅製品の鉛同位体比分析	『奈良文化財研究所紀要2019』	奈良文化財研究所	6月	無
36	同上	企画室主任研究員 山口隆介	藤田美術館所蔵「安阿弥様」二作品のX線CTスキャン調査報告(コラム)	『国宝の殿堂 藤田美術館展—曜変天目茶碗と仏教美術のきらめき—』展覧会図録	奈良国立博物館・朝日新聞社・NHK 奈良放送局・NHK プラネット近畿	4月13日	無
37	同上	同上	地藏菩薩像が旅した—世紀— 「法徳寺の仏像」に寄せて—	『特別陳列 法徳寺の仏像—近代を旅した仏たち—』展覧会図録	奈良国立博物館	7月13日	無
38	同上	同上	地藏菩薩像が旅した—世紀—	『美術の窓』	生活の友社	7月	無
39	同上	同上	三重・安楽寺所蔵「安阿弥様」二作品のX線CTスキャン調査報告(特論)	『三重の仏像 ~白鳳仏から円空まで~』展覧会図録	三重県総合博物館	10月	無
40	同上	同上	イギリス王室所有(ロイヤル・コレクション・トラスト保管)の文化財写真—奈良博覧会・奈良博覧会社関係資料の可能性をめぐって—(各論)	『特別陳列 重要文化財法隆寺金堂壁画写真ガラス原板—文化財写真の軌跡—』展覧会図録	奈良国立博物館	12月7日	無
41	正倉院宝物や奈良の出土遺物・伝世品・伝統工芸・芸能など、当該地域に密着した文化財に関する調査研究を実施し、展覧会等に反映させる。	工芸考古室研究員 三本周作	大仏開眼会における天皇・皇后の冠と礼服御冠残欠(宝物寸描)	『特別展 御即位記念 第71回正倉院展』展覧会図録	奈良国立博物館	10月26日	無
42	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館藏品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	同上	グラビア解説 胡面水瓶	『聖徳』242	聖徳宗教学部	12月	無
43	教育普及活動に関する調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	ボランティア室アソシエイトフェロー 翁みほり	奈良国立博物館の学校向けプログラムについて	『教育美術』924	公益財団法人教育美術振興会	6月	無
44	歴史学・考古学・美術史学などの人文諸学の見地から館藏品・寄託品等の調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	保存修理指導室アソシエイトフェロー 佐藤隼介	戦国期における幕府奉行人家の分裂	『古文書研究』88	日本古文書学会	4月	有
45	同上	美術室アソシエイトフェロー 萩谷みどり	榮山寺八角堂内陣装飾画の性格—古代寺院の建築彩色の一例—	『古代文学と隣接諸学⑥ 古代寺院の芸術世界』	竹林舎	5月10日	無
46	同上	同上	「信貴山縁起絵巻」尼公巻に描かれた東大寺大仏について	『信貴山 朝護孫子寺蔵国宝 信貴山縁起絵巻 調査研究報告書—研究・資料編—』	奈良国立博物館・東京文化財研究所	2年3月31日	無
47	教育普及活動に関する調査研究を行い、その成果を積極的に公表する。	企画室アソシエイトフェロー 堀内しきぶ	奈良国立博物館の展覧会パネル・題箋における多言語対応の現状と課題	『鹿園雑集』21	奈良国立博物館	4月30日	無

○その他有形文化財に関連する調査研究 3件

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	保存科学の観点からの収藏品・寄託品等の調査研究	保存修理指導室長 鳥越俊行 ほか外部研究者	X線CTによる金銅製杏葉の構造技法に関する比較検討	日本文化財科学会第36回大会研究発表要旨集	日本文化財科学会	6月2日	無
2	同上	保存修理指導室長 鳥越俊行、上席研究員 岩田茂樹、情報サービス室長 岩井共二、企画室主任研究員 山口隆介	特別展「快慶」に伴うX線CTによる快慶作品の新知見	文化財保存修復学会第41回大会研究発表要旨集	文化財保存修復学会	6月22日	無
3	同上	保存修理指導室長 鳥越俊行	奈良国立博物館におけるX線CTを使った文化財の保存活用研究	X線CTがもたらす文化財研究の可能性	日本文化財科学会	3月7日	無

【九州国立博物館】 40件

○有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究 16件

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	有形文化財の展覧事業・教育活動等に関連する調査研究	筑紫女学園大学文学部教授 田村史子、日本大学生産工学部教授 塩川博義、日本大学生産工学部専任講師 中川一人、学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー 渡辺祐基	中部ジャワのガムランにおける『ゴング』類の分類1 肩高水平置き『ゴング』〈Kenong クノン〉と〈Bonang ボナン〉の形と音の特性	筑紫女学園大学人間文化研究所年報第30号	筑紫女学園大学人間文化研究所	8月31日	無
2	同上	大西漆芸修復スタジオ 大西智洋、元興寺文化財研究所 大橋有佳、学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー 渡辺祐基、浦添市美術館 當山綾乃	黒漆山水楼閣葡萄沈金中央卓の保存修復と光学分析調査	浦添市美術館紀要 第15号	浦添市教育委員会 教育部 浦添市美術館	2年3月	無
3	同上	学芸部特任研究員 臺信祐爾	偉大で華やかな300年	『九州王国』No.151	イー・アール・ティ株式会社	2年2月15日	無
4	同上	学芸部特任研究員 臺信祐爾	空っぽのルーヴル美術館	紀要『東風西声』15号	九州国立博物館	2年3月	無
5	「山梨・釈迦堂遺跡の縄文文化(仮)」に関する調査研究	学芸部博物館科学課保存修復室長 志賀智史	作品解説	『縄文王国やまなし』(展覧会図録)	株式会社求龍堂	10月29日	無
6	同上	学芸部博物館科学課保存修復室長 志賀智史	「弥生銀座」で見る「縄文銀座」の名品	『九州王国』12月号	イー・アール・ティ株式会社	11月15日	無
7	日中文化交流協定締結40周年記念 特別展「三国志」に関する調査研究	学芸部企画課特別展室主任研究員 川村佳男	金銀に輝く青銅器—武威市雷台墓出土の酒樽をめぐって	『三国志』(展覧会図録)	東京国立博物館・九州国立博物館・NHK・NHKプロモーション・朝日新聞社	6月19日	無
8	同上	学芸部企画課特別展室主任研究員 川村佳男	なぜ関羽は神になったのか	『三国志』(展覧会図録)	東京国立博物館・九州国立博物館・NHK・NHKプロモーション・朝日新聞社	6月19日	無
9	同上	学芸部企画課特別展室主任研究員 川村佳男	士燮一海のシルクロードの覇者	『三国志』(展覧会図録)	東京国立博物館・九州国立博物館・NHK・NHKプロモーション・朝日新聞社	6月19日	無
10	同上	学芸部企画課特別展室主任研究員 川村佳男	王羲之の邸宅と貴族の墓	『三国志』(展覧会図録)	東京国立博物館・九州国立博物館・NHK・NHKプロモーション・朝日新聞社	6月19日	無
11	同上	学芸部企画課特別展室主任研究員 川村佳男、学芸部展示課長 楠井隆志	作品解説	『三国志』(展覧会図録)	東京国立博物館・九州国立博物館・NHK・NHKプロモーション・朝日新聞社	6月19日	無
12	特集展示「版経東漸～対馬がつなぐ仏の教え～」に関する調査研究	学芸部文化財課資料登録室研究員 松浦晃佑	作品解説	『版経東漸～対馬がつなぐ仏の教え～』(展覧会図録)	九州国立博物館	10月29日	無
13	同上	学芸部文化財課資料登録室研究員 松浦晃佑	渡来版経入門編その1「渡来版経キホンのキ」	『版経東漸～対馬がつなぐ仏の教え～』(展覧会図録)	九州国立博物館	10月29日	無
14	同上	学芸部文化財課資料登録室研究員 松浦晃佑	渡来版経入門編その2「版経の調査って何するの？」	『版経東漸～対馬がつなぐ仏の教え～』(展覧会図録)	九州国立博物館	10月29日	無
15	同上	学芸部博物館科学課保存修復室アソシエイトフェロー 瓜生翠	作品解説	『版経東漸～対馬がつなぐ仏の教え～』(展覧会図録)	九州国立博物館	10月29日	無
16	同上	学芸部博物館科学課保存修復室アソシエイトフェロー 瓜生翠	豆蔻における文化財調査史	『版経東漸～対馬がつなぐ仏の教え～』(展覧会図録)	九州国立博物館	10月29日	無

○その他有形文化財に関連する調査研究 24件

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	その他有形文化財に 関連する調査研究	学芸部博物館科学課長兼 環境保全室長 木川りか	博物館、美術館等における生物被 害防止と化学物質の使用の歴史と 現状	『化学物質と環境』No. 155	エコケミスト リー研究会	5月	無
2	同上	京都大学大学院農学研究 科准教授 築瀬佳之、学 芸部博物館科学課アシ ェントフェロー 渡辺祐 基、京都大学生存圏研究 所研究員 藤本いずみ、 京都大学生存圏研究所教 授 吉村 剛、京都大学 大学院農学研究科教授 藤井義久	Visualization of feeding process of larvae of the wood- boring beetles using X-ray computer tomography	Proceedings IRG Annual Meeting 2019	Internationa l Research Group on Wood Protection	5月	無
3	同上	学芸部文化財課長 原田 あゆみ、学芸部文化財課 資料登録室長 川畑憲 子、学芸部文化財課主任 研究員 山下義也、学芸 部文化財課資料登録室 森貫久美子、学芸部文化 財課資料管理室畑靖紀	作品解説	『室町將軍』 (展覧会図録)	西日本新聞 社、TVQ九州 放送、テレ ビ西日本	7月13日	無
4	同上	カナダ保存研究所 トム ストラング、スミソニア ン自然史博物館 ジェレ ミーヤコフ、学芸部博物 館科学課長兼環境保全室 長 木川りか	Chapter 18: Integrated Pest Management for Museum Collections	Preventive conservation: Collection storage, pp. 375-406	The society for the preservatio n on natural history collections (SPNHC)	9月	有
5	同上	学芸部博物館科学課長兼 環境保全室長 木川りか (共同執筆)	・『国宝高松塚古墳壁画恒久保存 対策事業報告書2 特別史跡高松 塚古墳生物調査報告』		文化庁、東京 文化財研究 所 同成社	9月	無
6	同上	学芸部文化財課主任研究 員 山下義也、学芸部文 化財課資料登録室 森貫 久美子	作品解説	『住友財団修復助成30年 記念 文化財よ、永遠に』 (展覧会図録)	住友財団、九 州国立博物 館	9月10日	無
7	同上	学芸部文化財課資料登録 室長 川畑憲子	菊蔭絵手箱	『國華』1491号	國華社	2年1月20日	無
8	同上	学芸部文化財課主任研究 員 山下善也	狩野山雪筆 山水花鳥図屏風	『國華』1492号	國華社	2年2月20日	無
9	同上	東京文化財研究所 小峰 幸夫、佐藤嘉則、(公 財)日光社寺文化財保存 会 原田正彦、北原博 幸、学芸部博物館科学課 長兼環境保全室長 木川 りか、国立民族学博物館 河村友佳子、日高真吾、 園田直子、京都大学 藤 井義久	湿度制御した温風処理における殺 虫効果の検証-続報-	保存科学 59号	東京文化財研 究所	2年3月	有
10	同上	学芸部企画課特別展室主 任研究員 川村佳男、京 都大学総合博物館研究員 坂川幸祐、学芸部博物館 科学課保存修復室長 志 賀智史	総合博物館コレクション研究<8> 銀象嵌青銅環頭刀の調査	『京都大学総合博物館ニュ ースレター』No. 48	京都大学総合 博物館	2年3月	無
11	同上	学芸部博物館科学課長兼 環境保全室長 木川り か、学芸部博物館科学課 環境保全室主任研究員 秋山純子、学芸部文化財 課長 原田あゆみ	タイ文化省芸術局における文化財 修理の取り組みについて	紀要『東風西声』15号	九州国立博物 館	2年3月	無
12	同上	学芸部企画課長兼文化交 流展室長兼特別展室長 白井克也	新たに寄託された方格規矩日月四 神鏡	紀要『東風西声』15号	九州国立博物 館	2年3月	無
13	同上	学芸部企画課特別展室主 任研究員 川村佳男	漢代温酒樽の展開と製作集団につ いて(下)	紀要『東風西声』15号	九州国立博物 館	2年3月	無
14	同上	学芸部文化財課資料登録 室研究員 松浦晃佑	寛永十七年マカオ使節の嘆願書に 関する一考察(上)	紀要『東風西声』15号	九州国立博物 館	2年3月	無
15	同上	学芸部文化財課資料登録 室研究員 松浦晃佑	所蔵品紹介「細川忠興書状」	紀要『東風西声』15号	九州国立博物 館	2年3月	無
16	文化財の材質・構造 等に関する研究	学芸部博物館科学課環境 保全室主任研究員 秋山純子	コラム「高松松平家博物図譜の科 学調査」	「江戸の超グラフィック 自然に挑む」展覧会図録	香川県立ミュ ージアム	4月	無

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
17	同上	学芸部博物館科学課保存修復室長 志賀智史	阿蘇産ベンガラを終焉	日本文化財科学会 36 回大会発表要旨集	日本文化財科学会	6 月	無
18	同上	学芸部博物館科学課保存修復室長 志賀智史	玉名市から出土した赤色顔料について	大原遺跡発掘調査報告書	玉名市教育委員会	2 年 3 月	無
19	同上	学芸部博物館科学課保存修復室長 志賀智史	津倉古墳から出土した赤色顔料について	津倉古墳発掘調査報告書	岡山大学文学部学芸員課程・考古学研究室	2 年 3 月	無
20	同上	学芸部博物館科学課保存修復室長 志賀智史	四戸の古墳群から出土した赤色顔料について	四戸の古墳群発掘調査報告書	群馬県埋蔵文化財調査事業団	2 年 3 月	無
21	水中文化に関する調査研究	琉球大学国際地域創造学部 教授 池田栄史、東海大学海洋学部 特任講師 木村淳、学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー 佐々木蘭貞	Recent Investigations at Takashima Underwater Site: Searching for the Lost Fleet of the Mongol Empire	Current Science 117 vol 10	Indian Academy of Science	12 月	有
22	同上	奈良文化財研究所 考古第三研究室長 清野孝之、学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー 佐々木蘭貞、文化庁第 2 課文化財調査官 藤井幸司	展望：日本と海外における水中遺跡保護の取組の現状	『考古学研究』	考古学研究会	2 年 1 月	有
23	同上	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー 佐々木蘭貞	水中考古学とデジタル技術の利用	文化情報学辞典（仮称）	勉誠出版	2 年 3 月予定	有
24	同上	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー 佐々木蘭貞	The Greatest Discovery: The Lost Fleet of the Mongol Invasion of Japan	Our Blue Planet: An Introduction to Maritime and Underwater Archaeology	Oxford University Press	2 年 3 月以降 (In Press)	有

【東京文化財研究所】40件

(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究 16件

○有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究 9件

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	日本東洋美術史の資料学的研究	筑波大学助経 水野裕史	雪村周繼と臨濟宗幻住派	美術研究 428 号	東京文化財研究所	9 月	有
2	同上	文化財情報資料部研究員 安永拓世	伝祇園南海筆「山水図巻」（東京国立博物館蔵）について	同上	同上	同上	有
3	同上	成城大学教授 相澤正彦	静嘉堂文庫美術館本「春日宮曼荼羅」の画風をめぐって	美術研究 429 号	同上	2 年 1 月	有
4	同上	文化財情報資料部研究員 米沢玲	研究ノート 二幅の不動明王画像—禅林寺本と高貴寺本—	美術研究 430 号	同上	2 年 3 月	有
5	同上	早稲田大学大学教授 山本聡美	研究資料 「妙法蓮華経変相図」（静嘉堂文庫蔵）にみる南宋時代寧波の信仰と社会	同上	同上	同上	有
6	近・現代美術に関する調査研究と資料集成	文化財情報資料部研究員 橋川英規	日本戦後美術に関する「アーカイブズ」の整理・活用の方—UCLA 図書館所蔵ヨシダ・ヨシエ旧蔵資料を例に	同上	東京文化財研究所	同上	有
7	美術作品の様式表現・制作技術・素材に関する複合的研究と公開	文化財情報資料部広領域研究室長 小林公治	東アジア螺鈿史の観点から見た高麗螺鈿の成立	美術資料 95 号	韓国国立中央博物館	6 月	有
8	同上	金沢大学人間社会研究域 附属国際文化資源学研究中心 センター 神谷嘉美	南蛮漆器を中心とした平蒔絵技法と材料に関する検討	美術研究 429 号	東京文化財研究所	2 年 1 月	有
9	同上	文化財情報資料部広領域研究室長 小林公治	日本螺鈿史試論（韓国語）	書名未確認	韓国国立中央博物館	12 月	無

○無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査及び研究 7件

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集	文化財情報資料部文化財情報研究室長 二神葉子	無形文化遺産の保護に関する第 14 回政府間委員会における議論の概要と今後の課題	無形文化遺産研究報告 第 14 号	東京文化財研究所	2 年 3 月 31 日	有
2	無形文化財の保存・継承に関する調査研究及び無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化	無形文化遺産部無形文化財研究室長 前原恵美、同 客員研究員 橋本かおる	楽器を中心とした文化財保存技術調査報告 3	同上	同上	同上	有
3	同上	無形文化遺産部無形文化財研究室長 前原恵美	「実演記録」の記録 1	同上	同上	同上	有

4	同上	無形文化遺産部 主任研究員 菊池理予	染織技術の技術伝播に関する調査報告	同上	同上	同上	有
5	無形民俗文化財の保存・継承に関する調査研究	無形文化遺産部 主任研究員 今石みぎわ	近現代における阿波の発酵茶—生産のあゆみと利用の広がり	記録等の措置を講ずべき無形の民俗文化財—阿波の発酵茶	徳島県教育委員会	同上	無
6	同上	無形文化遺産部無形民俗文化財研究室長 久保田裕道	民俗芸能を記録する—映像記録の可能性	文化財の保存と活用 これからを考える—民俗文化財の視点から	NPO 法人 Knit-K	同上	無
7	無形民俗文化財の保存・継承に関する調査研究	同上	仙石原湯立獅子舞の芸態	箱根湯立獅子舞調査報告書	箱根町教育委員会	同上	無

(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究 17件

○文化財の調査手法に関する研究開発の推進 5件

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	査読有無
1	文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究	副所長 山梨絵美子	春日権現験記絵の光学的調査	春日権現験記絵巻七・巻八 光学調査報告書	東京文化財研究所	2年2月10日	無
2	同上	ハーバード大学教授 ユキオ・リビット	「春日権現験記絵」巻七・巻八の概要	同上	同上	同上	無
3	同上	文化財情報資料部客員研究員 田中潤	春日権現験記絵 巻七・巻八にみられる装束表現 一東帯を中心に—	同上	同上	同上	無
4	同上	保存科学研究センター副センター長 早川泰弘他	春日権現験記絵の彩色材料調査 (巻七・巻八) (巻七)	同上	同上	同上	無
5	同上	同上	春日権現験記絵の彩色材料調査 (巻七・巻八) (巻八)	同上	同上	同上	無

○文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究 12件

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	査読有無
1	文化財の生物劣化の現象解明と対策に関する研究	生物科学研究室長・佐藤嘉則	文化財の微生物被害	かびと生活	NPO 法人カビ相談センター	6月	無
2	同上	同上	第2節第12項屋外環境にある文化財の微生物制御	最新の抗菌・防臭・空気質制御技術	テクノシステム	7月	無
3	同上	アソシエイトフェロー・小峰幸夫	第4章建材・家具・額縁から発生する害虫、第5章書籍や紙資料を加害する害虫	アレルギー害虫のはなし—アレルギーを引き起こす虫たち—	朝倉書店	12月	無
4	同上	生物科学研究室長・佐藤嘉則	文化財 IPM とカビの制御	文化財の虫菌害	公益財団法人文化財虫菌害研究所	同上	無
5	同上	同上	虎塚古墳の壁画剥落片の微生物群集構造解析	『保存科学』第59号	東京文化財研究所	2年3月	有
6	同上	アソシエイトフェロー・小峰幸夫 生物科学研究室長・佐藤嘉則他	湿度制御した温風処理の殺虫効果の検証—続報—	同上	同上	同上	有
7	同上	研究補佐員・相馬静乃 生物科学研究室長・佐藤嘉則他	油絵具に使用される材質のカビ抵抗性試験	同上	同上	同上	有
8	文化財の材質・構造・状態調査に関する研究	保存科学研究センター副センター長・早川泰弘	仁和寺所蔵国宝孔雀明王像の蛍光X線分析	同上	同上	同上	有
9	同上	客員研究員・古田嶋智子 分析科学研究室長・犬塚将英	文化財分野で用いる放散試験に向けたサンプリングバッグ洗浄効果の検討	同上	同上	同上	有
10	屋外文化財の劣化要因と保存対策に関する調査研究	修復計画研究室長・朽津信明他	新宮市万歳の一遍上人名号碑の補修史に関する三次元計測に基づく検討	同上	同上	同上	有
11	同上	同上	資料保存施設としての経塚の保存科学的評価	同上	同上	同上	有
12	高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究	分析科学研究室 犬塚将英他	X線透過撮影による泥に覆われたキトラ古墳壁画の調査	同上	同上	同上	有

(3) 文化遺産保護に関する国際協働 6件

○文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進 6件

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	アジア諸国等文化遺産保存修復協力	文化遺産国際協力センター長 友田正彦、奈良文化財研究所特任研究員 杉山洋、同専門職員 佐藤由似、文化遺産国際協力センター研究員 安倍雅史、同アシエイトフェロー 間舎裕生	カンボジア、アンコール遺跡群タネイ寺院正面参道関連遺構発掘調査(2017~2018)の速報	『東南アジア考古学』39号(2019)	東南アジア考古学会	12月	有
2	アジア諸国等文化遺産保存修復協力	ヴァル エリフ ベルナ	Towards the Conservation and Sustainable Development of Ta Nei Temple: Restoration of the East Gate	Mekong cultural diversity beyond borders - Proceedings for the International Seminar & Symposium on Southeast Asian cultural heritage studies today -	Institute for Cultural Heritage, Waseda University	2年3月	無
3	アジア諸国等文化遺産保存修復協力	間舎裕生	アルメニア共和国における染織文化財保護の国際協力	文化財保存修復学会誌63号	文化財保存修復学会	2年3月	有
4	文化遺産国際協力拠点交流事業「ネパールの被災文化遺産保護に関する技術的支援事業」	東京大学大学院・工学系研究科都市工学専攻・修士課程・原 洪太 エム・アール・アイ リサーチアシエイツ株式会社・永門 航 札幌市立大学デザイン学部・准教授・森 朋子	カトマンズ盆地内ネワール集落の無形文化要素分析による集落の位置づけに関する研究 - 2015年ネパール地震後の世界遺産暫定リスト・コカナにおける震災状況調査報告 その12-	日本建築学会大会学術講演梗概集	日本建築学会	9月	無
5	同上	札幌市立大学デザイン学部・准教授・森 朋子	コカナにおける被災した伝統的民家の再建実態(被災後4年)、2015年ネパール地震後の世界遺産暫定リスト・コカナにおける被災状況調査報告 その11	日本建築学会大会学術講演梗概集	日本建築学会	同上	無
6	同上	同上	コカナの震災復興から見たネワール集落の民家再建の実態と課題、ネパール地震後の文化遺産保護国際協力事業調査報告	日本都市計画学会都市計画論文集	日本都市計画学会	10月	有

(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用 1件

○調査研究成果の発信 1件

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	文化財情報基盤の整備・充実	文化財情報資料部研究員 小山田智寛	文化財データベースの作成とその意義について	美術研究429号	東京文化財研究所	2年3月31日	有

【奈良文化財研究所】126件

(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究 81件

○有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究 9件

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	歴史的建造物および伝統的建造物群の保存・修復・活用の実践的研究	都城発掘調査部主席研究員 大林潤・都城発掘調査部主任研究員 鈴木智大	岡寺本堂内陣の建地割板図について	仏教技術 第三号(2019)	中央公論美術出版	10月	無
2	同上	都城発掘調査部主席研究員 大林潤	大和高田市藤森十二社神社本殿の建築について	奈文研論叢1	奈良文化財研究所	2年1月	有
3	同上	文化遺産部部長 島田敏男	舟知家住宅と金峯山寺周辺の吉野建民家	奈文研論叢1	奈良文化財研究所	2年1月	有
4	同上	都城発掘調査部主席研究員 大林潤	西トップ遺跡中央祠堂の建築調査	奈良文化財研究所紀要2019	奈良文化財研究所	6月	無
5	同上	文化遺産部部長 島田敏男	津山市城西伝統的建造物調査2	奈良文化財研究所紀要2019	奈良文化財研究所	6月	無
6	同上	都城発掘調査部研究員 福嶋啓人	近世宿場町の伝統的町家における建築的特質	奈良文化財研究所紀要2019	奈良文化財研究所	6月	無
7	同上	都城発掘調査部主任研究員 鈴木智大	和歌山県湯浅町湯浅における醸造家主屋の平面形式	奈良文化財研究所紀要2019	奈良文化財研究所	6月	無
8	近畿を中心とする古寺社等所蔵の歴史資料等に関する調査研究	文化遺産部歴史研究室長 吉川聡	唐招提寺宝蔵の「諸人忌日料田畠施入目録」をめぐって	覚盛上人御忌記念 唐招提寺の伝統と戒律	律宗戒学院	5月19日	無
9	同上	文化遺産部歴史研究室長 吉川聡	三徳山三佛寺の近代行場絵図	奈文研論叢1	奈良文化財研究所	2年3月	無

○記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 72件

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	我が国の記念物に関する調査研究(遺跡整備)	遺跡整備研究室長 内田和伸	史跡等の保存活用計画—歴史の重層性と価値の多様性—	平成30年度遺跡整備活用研究会報告書	奈良文化財研究所	2年3月16日	無
2	同上	遺跡整備研究室長 内田和伸	史跡等の保存活用計画について	史跡等の保存活用計画	奈良文化財研究所	2年3月16日	無
3	同上	遺跡整備研究室長 内田和伸	明治前期における名所旧跡の官有地化による保存	遺跡整備研究室長 内田和伸	奈良文化財研究所	2年3月16日	無
4	同上	遺跡整備研究室長 内田和伸	史跡等の特殊な構成要素について	遺跡整備研究室長 内田和伸	奈良文化財研究所	2年3月16日	無
5	我が国の記念物に関する調査研究(庭園)	遺跡整備研究室研究員 高橋知奈津	伯耆地方の民家の庭園	令和元年度庭園の歴史に関する研究会報告書	奈良文化財研究所	2年3月31日	無
6	同上	遺跡整備研究室研究員 高橋知奈津	名勝法華寺庭園の保存活用計画	平成30年度遺跡整備活用研究会報告書	奈良文化財研究所	2年3月22日	無
7	同上	遺跡整備研究室研究員 高橋知奈津	森蘊の奈文研時代	森蘊研究報告	科研費課題番号(17K18447)助成事業報告書	2年3月31日	無
8	東大寺東塔院の発掘調査	小田裕樹ほか	東大寺東塔院の調査—第617次	奈良文化財研究所研究紀要2020	奈良文化財研究所	2年6月予定	無
9	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	都城発掘調査部主任研究員 森川実	序言	藤原京右京九条二坊・三坊、瀬田遺跡発掘調査報告	奈良文化財研究所	2年3月予定	無
10	同上	都城発掘調査部上席研究員 山本崇	既往の調査と地理的・歴史的環境	藤原京右京九条二坊・三坊、瀬田遺跡発掘調査報告	奈良文化財研究所	2年3月予定	無
11	同上	都城発掘調査部主任研究員 森川実	調査日誌抄	藤原京右京九条二坊・三坊、瀬田遺跡発掘調査報告	奈良文化財研究所	2年3月予定	無
12	同上	都城発掘調査部主任研究員 森川実	基本層序と遺構検出面	藤原京右京九条二坊・三坊、瀬田遺跡発掘調査報告	奈良文化財研究所	2年3月予定	無
13	同上	都城発掘調査部主任研究員 鈴木智大	古代の遺構	藤原京右京九条二坊・三坊、瀬田遺跡発掘調査報告	奈良文化財研究所	2年3月予定	無
14	同上	都城発掘調査部主任研究員 鈴木智大	古墳時代の遺構	藤原京右京九条二坊・三坊、瀬田遺跡発掘調査報告	奈良文化財研究所	2年3月予定	無
15	同上	都城発掘調査部主任研究員 森川実	弥生時代の遺構	藤原京右京九条二坊・三坊、瀬田遺跡発掘調査報告	奈良文化財研究所	2年3月予定	無
16	同上	都城発掘調査部主任研究員 森川実	縄文時代包含層の調査	藤原京右京九条二坊・三坊、瀬田遺跡発掘調査報告	奈良文化財研究所	2年3月予定	無
17	同上	都城発掘調査部研究員 清野陽一	瓦磚類	藤原京右京九条二坊・三坊、瀬田遺跡発掘調査報告	奈良文化財研究所	2年3月予定	無
18	同上	都城発掘調査部主任研究員 森川実	飛鳥時代・平安時代の土器	藤原京右京九条二坊・三坊、瀬田遺跡発掘調査報告	奈良文化財研究所	2年3月予定	無
19	同上	都城発掘調査部主任研究員 石田由紀子	縄文土器	藤原京右京九条二坊・三坊、瀬田遺跡発掘調査報告	奈良文化財研究所	2年3月予定	無
20	同上	都城発掘調査部主任研究員 森川実	縄文時代の石器・石製品	藤原京右京九条二坊・三坊、瀬田遺跡発掘調査報告	奈良文化財研究所	2年3月予定	無
21	同上	都城発掘調査部主任研究員 森川実	弥生時代の石器	藤原京右京九条二坊・三坊、瀬田遺跡発掘調査報告	奈良文化財研究所	2年3月予定	無
22	同上	都城発掘調査部主任研究員 和田一之輔	木器	藤原京右京九条二坊・三坊、瀬田遺跡発掘調査報告	奈良文化財研究所	2年3月予定	無
23	同上	都城発掘調査部主任研究員 和田一之輔ほか	井戸枠・柱材	藤原京右京九条二坊・三坊、瀬田遺跡発掘調査報告	奈良文化財研究所	2年3月予定	無
24	同上	都城発掘調査部主任研究員 和田一之輔	編組製品	藤原京右京九条二坊・三坊、瀬田遺跡発掘調査報告	奈良文化財研究所	2年3月予定	無
25	同上	都城発掘調査部主任研究員 森川実ほか	S Z4500の14C年代	藤原京右京九条二坊・三坊、瀬田遺跡発掘調査報告	奈良文化財研究所	2年3月予定	無
26	同上	都城発掘調査部主任研究員 村田泰輔ほか	大型植物遺体	藤原京右京九条二坊・三坊、瀬田遺跡発掘調査報告	奈良文化財研究所	2年3月予定	無
27	同上	都城発掘調査部主任研究員 鈴木智大	藤原京期	藤原京右京九条二坊・三坊、瀬田遺跡発掘調査報告	奈良文化財研究所	2年3月予定	無
28	同上	都城発掘調査部主任研究員 森川実	結語	藤原京右京九条二坊・三坊、瀬田遺跡発掘調査報告	奈良文化財研究所	2年3月予定	無
29	同上	都城発掘調査部主任研究員 和田一之輔	発掘調査の概要藤原京左京八坊三坊東南坪(飛鳥藤原第202次)	奈文研ニュース No. 77	奈良文化財研究所	2年3月予定	無
30	同上	都城発掘調査部主任研究員 石田由紀子	発掘調査の概要藤原京左京八坊三坊東南坪(飛鳥藤原第202次)	奈文研ニュース No. 78	奈良文化財研究所	2年6月予定	無
31	同上	都城発掘調査部長 玉田芳英	藤原宮の礎石建物	奈良文化財研究所紀要2020	奈良文化財研究所	2年6月予定	無
32	同上	都城発掘調査部アシリエイトフェロー 土橋明梨紗ほか	飛鳥寺旧境内の調査—第197-6次	奈良文化財研究所紀要2020	奈良文化財研究所	2年6月予定	無
33	同上	都城発掘調査部研究員 松永悦枝ほか	藤原宮大極殿院の調査—第200次	奈良文化財研究所紀要2020	奈良文化財研究所	2年6月予定	無
34	同上	都城発掘調査部主任研究員 大林潤ほか	藤原宮外周帯の調査—第201-3次	奈良文化財研究所紀要2020	奈良文化財研究所	2年6月予定	無

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
35	同上	都城発掘調査部アソシエイトフェロー 土橋明梨 紗ほか	藤原宮東南官衙地区の調査―第201-5次	奈良文化財研究所紀要 2020	奈良文化財研究所	2年6月予定	無
36	同上	都城発掘調査部室長 清野孝之ほか	藤原宮式軒平瓦 6643E の産地	奈良文化財研究所紀要 2020	奈良文化財研究所	2年6月予定	無
37	同上	都城発掘調査部室長 清野孝之ほか	讃岐仲村庵寺の川原寺式軒丸瓦	奈良文化財研究所紀要 2020	奈良文化財研究所	2年6月予定	無
38	同上	都城発掘調査部アソシエイトフェロー 片山健太郎ほか	飛鳥・藤原地域出土風鐸の鉛同位体比分析	奈良文化財研究所紀要 2020	奈良文化財研究所	2年6月予定	無
39	同上	都城発掘調査部アソシエイトフェロー 土橋明梨 紗	石神遺跡出土の黒色土器	奈良文化財研究所紀要 2020	奈良文化財研究所	2年6月予定	無
40	同上	都城発掘調査部室長 尾野善裕	藤原宮内裏北官衙地区の調査―第201-9次	奈良文化財研究所紀要 2021	奈良文化財研究所	3年6月予定	無
41	同上	都城発掘調査部主任研究員 廣瀬寛	古代採石加工技術の諸相	中世石工の考古学	高志書院	4月1日	無
42	同上	都城発掘調査部室長 尾野善裕	飛鳥時代宮都土器編年の再編に向けて	飛鳥時代の土器編年再考	奈良文化財研究所	7月	無
43	同上	都城発掘調査部研究員 大澤正吾	飛鳥時代における須恵器食器の法量変化	飛鳥時代の土器編年再考	奈良文化財研究所	7月	無
44	同上	都城発掘調査部主任研究員 森川実	飛鳥時代における土師器杯C・杯Aの変遷とその区分	飛鳥時代の土器編年再考	奈良文化財研究所	7月	無
45	同上	都城発掘調査部上席研究員 山本崇	古代史料にみる飛鳥川	飛鳥―自然と人と	奈良文化財研究所	10月	無
46	同上	都城発掘調査部上席研究員 山本崇	二〇一八年出土の木簡 奈良・藤原宮跡	木簡研究第 41 号	木簡学会	11月	無
47	同上	都城発掘調査部長 玉田芳英	古代都市 藤原京の実態	藤原から平城へ 平城遷都の謎を解く	奈良文化財研究所	9月	無
48	同上	都城発掘調査部アソシエイトフェロー 道上祥武	藤原宮大極殿院東面回廊の調査(飛鳥藤原第 200 次調査)	奈文研ニュース No. 74	奈良文化財研究所	9月	無
49	同上	都城発掘調査部研究員 松永悦枝	藤原宮大極殿院の調査(飛鳥藤原第 200 次調査)	奈文研ニュース No. 75	奈良文化財研究所	12月	無
50	同上	都城発掘調査部アソシエイトフェロー 道上祥武	奈良県の鷗尾	第 20 回古代瓦研究会シンポジウム 鷗尾・鬼瓦の展開 I - 鷗尾 - 発表要旨	奈良文化財研究所	2年2月	無
51	同上	都城発掘調査部上席研究員 山本崇	参河三嶋薨荷札の年代	奈良文化財研究所論叢	奈良文化財研究所	2年3月	有
52	飛鳥地域等の発掘調査	都城発掘調査部アソシエイトフェロー 片山健太郎	発掘調査の概要 大官大寺南方の調査(飛鳥・藤原 203 次)	奈文研ニュース No. 78	奈良文化財研究所	2年6月予定	無
53	同上	都城発掘調査部アソシエイトフェロー 片山健太郎	大官大寺南方の調査―第 203 次調査の概要	奈良文化財研究所紀要 2020	奈良文化財研究所	2年6月予定	無
54	藤原宮大極殿院地区の発掘調査	都城発掘調査部研究員 松永悦枝ほか	藤原宮大極殿院の調査(飛鳥藤原第 200 次調査)	奈文研ニュース No. 75	奈良文化財研究所	12月	無
55	同上	都城発掘調査部研究員 清野陽一ほか	藤原宮朝堂院西地区の調査―第201-1次	奈良文化財研究所紀要 2020	奈良文化財研究所	2年6月予定	無
56	地方公共団体が行う飛鳥・藤原地区の発掘調査への指導・助言	都城発掘調査部研究員 清野陽一ほか	藤原宮朝堂院西地区の調査―第201-1次	奈良文化財研究所紀要 2020	奈良文化財研究所	2年6月予定	無
57	同上	都城発掘調査部主任研究員 大林潤ほか	藤原宮外周帯の調査―第 201-3 次	奈良文化財研究所紀要 2020	奈良文化財研究所	2年6月予定	無
58	同上	都城発掘調査部アソシエイトフェロー 土橋明梨 紗ほか	藤原宮東南官衙地区の調査―第201-5次	奈良文化財研究所紀要 2020	奈良文化財研究所	2年6月予定	無
59	同上	都城発掘調査部主任研究員 石田由紀子	藤原宮左京八坊三坊東南坪の調査―第 202 次	奈良文化財研究所紀要 2020	奈良文化財研究所	2年6月予定	無
60	東アジアにおける工芸技術及び飛鳥時代の建築遺物等の研究	飛鳥資料館学芸室長 石橋茂登・京都国立博物館保存科学室長 降幡順子・奈良国立博物館主任研究員 中川あや	飛鳥寺塔心礎出土銅製品の鉛同位体比分析	奈良文化財研究所紀要 2019	奈良文化財研究所	6月30日	無
61	文化的景観及びその保存・活用に関する調査研究	景観研究室研究員 恵谷浩子	碩学に学ぶ(Vol. 14) 静岡での遺跡保存と整備	遺跡学研究 16	日本遺跡学会	11月15日	無
62	同上	景観研究室研究員 恵谷浩子	KOFUNSCAPE01 吉備路	遺跡学研究 16	日本遺跡学会	11月15日	無
63	同上	景観研究室研究員 恵谷浩子	文化的景観のめざすもの ―「図」としての地域―	ランドスケープ研究 83 (4)	日本造園学会	2年1月1日	無

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
64	同上	景観研究室長 中島義晴	近年の日本における歴史的庭園の保存と活用の動向	中・韓・日の伝統庭園の保存管理のための専門家シンポジウム	韓国国立文化財研究所	5月27日	無
65	同上	景観研究室研究員 恵谷浩子	「文化的景観」の概念形成と制度運用の充実に資する貢献	造園学論集 21	東京農業大学	5月1日	無
66	同上	景観研究室研究員 恵谷浩子	京都中川の北山林業景観における民家の庭の特性	奈良文化財研究所紀要 2019	奈良文化財研究所	6月1日	無
67	3D プロジェクト	金田 明大・山口 欧志	Where am I in the Forest?—Application of SLAM/LiDAR Technology to Measurement and Geophysical Survey of Archaeological Sites in Forest	Book of Abstracts 47th Computer Applications and Quantitative Methods in Archaeology	CAA2019	4月	有
68	同上	山口 欧志	新たな可視化方法の試行：文化財の特徴を捉えるために	文化財の壺 (7)	文化財方法論研究会	6月22日	無
69	韓国との共同研究	廣瀬寛・高田祐一	古代朝鮮半島の矢穴技法	奈良文化財研究所紀要 2019	奈良文化財研究所	6月	無
70	同上	清野陽一	日韓発掘交流に参加して	奈文研ニュース No. 74	奈良文化財研究所	9月	無
71	平城宮東方官衙地区の発掘調査	都城発掘調査部研究員 前川歩他	東方官衙地区の調査—第 615 次	奈良文化財研究所紀要 2020	奈良文化財研究所	2年6月30日	無
72	平城京左京二条二坊十一坪の発掘調査 (611 次)	都城発掘調査部主任研究員 林正憲他	左京二条二坊十一坪の調査—第 611 次	奈良文化財研究所紀要 2020	奈良文化財研究所	2年6月30日	無

(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究 38 件

○文化財の調査手法に関する研究開発の推進 19 件

	研究テーマ	発表者 (職名・名前)	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	査読 有無
1	動植物遺存体の分析方法の研究開発	環境考古学研究室長 山崎健	藤原宮造営と馬	馬の考古学	雄山閣	11月25日	無
2	同上	環境考古学研究室長 山崎健 (9名中7番) ほか	Sedentism, pottery and inland fishing in Late Glacial Japan: a reassessment of the Maedakochi site	Antiquity 93(372)	Cambridge University Press	12月1日	有
3	同上	環境考古学研究室長 山崎健	平城宮跡から出土したウニの殻	日本歴史 856	吉川弘文館	9月1日	無
4	同上	環境考古学研究室長 山崎健	方法論の模索	農耕開始期の動物考古学	六一書房	4月30日	無
5	同上	環境考古学研究室客員研究員 菊地大樹	中国古代家馬再考	南方文物 2019年第1期	江西省文物考古研究所	7月1日	無
6	同上	環境考古学研究室客員研究員 丸山真史ほか1名	動物考古学による古墳時代のウマ研究	馬の考古学	雄山閣	11月25日	無
7	年輪年代学研究	年代学研究室長 星野安治、都城発掘調査部上席研究員 山本崇	年輪年代学的手法による参河贅荷札の検討	奈良文化財研究所紀要 2019	奈良文化財研究所	6月30日	無
8	同上	都城発掘調査部上席研究員 山本崇、年代学研究室長 星野安治	藤原宮木簡の樹種 3—藤原宮第 58-1 次調査ほか	奈良文化財研究所紀要 2019	奈良文化財研究所	6月30日	無
9	同上	都城発掘調査部主任研究員 石田由紀子、鈴木智大、年代学研究室長 星野安治	藤原宮外周帯の調査	奈良文化財研究所紀要 2019	奈良文化財研究所	6月30日	無
10	同上	員数 8(7番目) 年代学研究室長 星野安治	Eruption age of the Haruna Futatsudake Pumice (Hr-FP), central Japan, by radiocarbon wiggle matching with special reference to a 14C dataset developed from a Japanese tree	Quaternary International 527	Elsevier Ltd and INQUA	8月30日	有
11	同上	員数 18(3番目) 年代学研究室長 星野安治	マヤ低地に眠る奇跡の地層—刻まれた気候変動の足跡	古代アメリカの比較文明論	京都大学学術出版会	9月10日	無
12	同上	員数 4(3番目) 年代学研究室長 星野安治	南米の年代を測る—放射性炭素年代測定とナスカ産材の年輪解析	古代アメリカの比較文明論	京都大学学術出版会	9月10日	無
13	同上	埋蔵文化財センター客員研究員 上中央子、年代学研究室長 星野安治	飛鳥の森を探る	飛鳥—自然と人と—	飛鳥資料館	10月11日	無
14	同上	年代学研究室長 星野安治	木簡と年輪年代学との出会い・年輪から木材の産地に迫る	木簡—古代からの便り	岩波書店	2年2月26日	無
15	同上	年代学研究室長 星野安治	鳥取県・青谷横木遺跡出土遺物の樹種同定	鳥取県埋蔵文化財センター調査研究紀要 11	鳥取県埋蔵文化財センター	2年3月25日	無
16	同上	京都大学大学院 前田仁暉、年代学研究室長 星野安治	岡田国遺跡出土井戸枠部材及び柱根の樹種同定・年輪年代調査	京都府遺跡調査報告集 180	京都府埋蔵文化財調査研究センター	2年3月31日	無

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	査読有無
17	埋蔵文化財の探査・計測方法の研究開発	山口 欧志	文化財の調査研究における三次元計測データの質	日本考古学協会第85回大会研究発表要旨	日本考古学協会	5月18日	無
18	同上	金田 明大・山口 欧志	Restoring burial mounds damaged by disasters—Contribution of archaeological prospection to collect information at the Idera burial mound, Japan	New global perspectives on archaeological prospection	ISAP2019	8月	有
19	同上	金田 明大	埋蔵文化財のための遺跡探査—実態と展望—	計測と制御 58 (11)	計測自動制御学会	11月	有

○文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究 19件

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	査読有無
1	考古遺物の保存処理法に関する調査研究	考古第一研究室研究員（保存修復科学研究室兼任）田村朋美 ほか1名	宮ノ前遺跡出土の和同開珎百文鐔の調査	『出土銭貨』第40号	出土銭貨研究会	12月	無
2	同上	保存修復科学研究室研究員 柳田明進 埋蔵文化財センター主任研究員 脇谷草一郎 埋蔵文化財センター長・保存修復科学研究室長 高妻洋成	水蒸気移動による出土鉄製遺物の新規脱塩法の開発（その1）新規脱塩法の効果と最適条件の検討	『文化財科学』第80号	日本文化財科学会	2年2月3日	有
3	同上	考古第一研究室研究員（保存修復科学研究室兼任）田村朋美 ほか1名	擦文末期～アイヌ文化期初期におけるガラス玉の起源と流入経路	『北海道考古学』	北海道考古学会	2年3月	有
4	同上	保存修復科学研究室研究員 松田和貴 埋蔵文化財センター主任研究員 脇谷草一郎 埋蔵文化財センター長・保存修復科学研究室長 高妻洋成	水浸出土木製遺物の保存処理における溶媒蒸発を用いた薬剤含浸の効率化の可能性	『保存科学』第59号	東京文化財研究所	2年3月	有
5	水中文化遺産に関する調査研究	保存修復科学研究室研究員 柳田明進 保存修復科学研究室研究員 松田和貴 埋蔵文化財センター主任研究員 脇谷草一郎 埋蔵文化財センター長・保存修復科学研究室長 高妻洋成 ほか1名	Effect of Reburial Conditions on the Corrosion of Marine Iron Artifacts	Proceedings of the interim meeting of the ICOM-CC Metal working group	ICOM-CC Metal	9月	有
6	同上	保存修復科学研究室研究員 柳田明進	水中遺跡における沈没船の現地保存法に関する検討	考古学ジャーナル	ニューサイエンス社	12月20日	無
7	同上	考古第一研究室研究員（保存修復科学研究室兼任）田村朋美	Chemical Analysis of Ancient Glass Beads in and around Mainland Southeast Asia	"The Ancient East-West Corridor of Mainland Southeast Asia" edited by Mamoru Sibayama	Pathumthani, Thailand : Geoinformatics International	6月	有
8	遺構の安定した保存のための維持管理方法に関する調査研究	保存修復科学研究室客員研究員 小椋大輔 埋蔵文化財センター主任研究員 脇谷草一郎 保存修復科学研究室研究員 柳田明進 ほか2名	模擬古墳から検討した埋蔵環境下における遺物保存に関する研究（その6）石室及び周辺地盤内酸素、二酸化炭素濃度変動の把握と数値解析	日本建築学会近畿支部研究発表会梗概 2019	日本建築学会近畿支部	6月23日	無
9	同上	保存修復科学研究室客員研究員 小椋大輔 埋蔵文化財センター主任研究員 脇谷草一郎 ほか3名	大分市高瀬石仏の保存環境分析と対策の評価 その3）X線照射による凝灰岩の吸水速度の測定	日本建築学会大会（北陸）梗概	日本建築学会	9月3日	無
10	同上	保存修復科学研究室客員研究員 小椋大輔 埋蔵文化財センター主任研究員 脇谷草一郎 ほか1名	浸透現象の物理的メカニズムと建築材料中の溶液移動に及ぼす影響に関する考察	日本建築学会大会（北陸）梗概	日本建築学会	9月3日	無
11	同上	保存修復科学研究室客員研究員 小椋大輔 埋蔵文化財センター主任研究員 脇谷草一郎 保存修復科学研究室研究員 柳田明進 ほか2名	模擬古墳から検討した埋蔵環境下における遺物保存に関する研究（その6）石室及び周辺地盤内酸素、二酸化炭素濃度変動の把握と数値解析	日本建築学会大会（北陸）梗概	日本建築学会	9月3日	無
12	同上	埋蔵文化財センター主任研究員 脇谷草一郎 ほか4名	一軸圧縮下における凝灰岩のX線CTとDigital Volume Correlation	日本建築学会大会（北陸）梗概	日本建築学会	9月3日	無
13	同上	埋蔵文化財センター主任研究員 脇谷草一郎 ほか	遺跡保存施設的环境設計	考古学ジャーナル	ニューサイエンス社	2年2月29日	無

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	査読有無
		か1名					
14	同上	保存修復科学研究室客員 研究員 小椋大輔 埋蔵文化財センター主任 研究員 脇谷草一郎 ほか 3名	覆屋の改修が石仏の塩類風化に与える影響の熱水分移動解析による評価 - 元町石仏の保存に関する研究 その2 -	日本建築学会環境系論文集	日本建築学会	2年2月	有
15	同上	保存修復科学研究室客員 研究員 小椋大輔 埋蔵文化財センター主任 研究員 脇谷草一郎 ほか 3名	Conservation of Takase stone Buddhas, Oita, Japan - evaluation of countermeasures based on field survey and numerical approach	proceedings of 2019 international symposium on Dazū Studies and the 20th anniversary celebration of the Dazū Rock Carvings inscribed into the World Heritage List	Academy of Dazū Rock Carvings	12月3日	無
16	建造物の彩色に関する調査研究	保存修復科学研究室アソシエイトフェロー 柳成焔	古代韓国三国時代の顔料について - 古墳壁画の顔料を中心に -	『奈良文化財研究所 論叢』第1号	奈良文化財研究所	2年3月19日	有
17	同上	埋蔵文化財センター長・保存修復科学研究室長 高妻洋成 ほか1名	An investigation of the pigments and materials used in some mural paintings of Mongolia	『保存科学』第59号	東京文化財研究所	2年3月	有
18	古墳壁画の恒久的保存に関する調査研究	埋蔵文化財センター主任 研究員 脇谷草一郎 保存修復科学研究室客員 研究員 小椋大輔 埋蔵文化財センター長・保存修復科学研究室長 高妻洋成	Environmental design of protection facility of decorated ancient tombs for condensation control	proceedings of 2019 international symposium on Dazū Studies and the 20th anniversary celebration of the Dazū Rock Carvings inscribed into the World Heritage List	Academy of Dazū Rock Carvings	12月	無
19	同上	埋蔵文化財センター長・保存修復科学研究室長 高妻洋成	壁画の保存科学と活用	考古学ジャーナル	ニューサイエンス社	2年2月29日	無

(3) 文化遺産保護に関する国際協働 2件

○文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進 2件

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	査読有無
4	文化財保護に関する国際協力の推進	都城発掘調査部主席研究員 大林潤	西トップ遺跡中央祠堂の建築調査	奈良文化財研究所紀要2019	奈良文化財研究所	6月	無
5	同上	佐藤由似、杉山洋	西トップ遺跡中央祠堂の解体調査と修復 - 2018年度の成果 -	奈良文化財研究所紀要2019	奈良文化財研究所	6月30日	無

(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用 5件

○文化財情報基盤の整備・充実 5件

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	査読有無
1	文化財に関するデータベースの充実	都城発掘調査部長 馬場基・企画調整部研究員 高田祐一・都城発掘調査部主任研究員 桑田訓也	IIIFの導入による木簡画像データベースの連携強化	奈良文化財研究所紀要2019	奈良文化財研究所	6月30日	無
2	同上	企画調整部研究員 高田祐一	文化財ビッグデータと情報検索の可能性	奈良文化財研究所紀要2019	奈良文化財研究所	6月30日	無
3	同上	企画調整部特別研究員 野口 淳・企画調整部研究員 高田 祐一	考古学ビッグデータの可能性と世界的潮流	デジタル技術による文化財情報の記録と利活用2	奈良文化財研究所	2年3月30日	無
4	同上	企画調整部アソシエイトフェロー ヤナセ・ペテル	文化財の多言語化における機能主義的翻訳の可能性	デジタル技術による文化財情報の記録と利活用2	奈良文化財研究所	2年3月30日	無
6	同上	企画調整部研究員 高田祐一・埋蔵文化財センター室長 金田明大・Dessislava Veltcheva	Prospects and potential for the comprehensive database of archaeological site reports in Japan	The ARIADNE Impact	ARCHAEOLOGICAL FOUNDATION	10月7日	有

【東京文化財研究所と奈良文化財研究所との共同研究】 0件

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】 0件

c-⑥ 調査研究刊行物一覧

令和2年3月31日現在

【東京国立博物館】

○調査研究刊行物 4件

	刊行物名	発行部数	配布先
1	「MUSEUM」679号～684号	各1,900	美術館・博物館・大学・研究所等 2,988件 (各498件×6)
2	「東京国立博物館紀要」55号	700	美術館・博物館・大学・研究所等 352件
3	「東京国立博物館文化財修理報告」XX	600	美術館・博物館・大学・研究所等 152件
4	「法隆寺献納宝物特別調査概報」XL 文王呂尚・商山四皓図屏風 2	600	美術館・博物館・大学・研究所等 95件

○展覧会図録等 23件

	刊行物名	発行部数	配布先	
1	特別展図録	特別展『美を紡ぐ 日本美術の名品—雪舟、永徳から光琳、北斎まで—』	—	
2		特別企画『奈良大和四寺のみほとけ』	—	
3		日中文化交流協定締結40周年記念 特別展『三国志』	—	
4		住友財団修復助成30周年記念 特別企画『文化財よ、永遠に—』	—	
5		御即位記念特別展『正倉院の世界—皇室がまもり伝えた美—』	—	
6		特別展『人、神、自然 —ザ・アール・サーニ・コレクションの名品が語る古代世界—』	—	
7		日本書紀成立1300年 特別展『出雲と大和』	—	
8		特別展『法隆寺金堂壁画と百済観音』	—	
9		特別公開『高御座と御帳台』(東京国立博物館版、京都御所版)	—	
10	特集陳列	『博物館でアジアの旅 LOVEラブアジア』	2,000	美術館・博物館・大学・研究所等
11	特集陳列 そのほか	『平家納経模本の世界—益田本と大倉本—』	2,000	美術館・博物館・大学・研究所等
12		『伝説の面打ちたち』	2,000	美術館・博物館・大学・研究所等
13		『朝鮮王朝の宮廷文化』	2,000	美術館・博物館・大学・研究所等
14		「親子のギャラリー—ツノのある動物」リーフレット	5,000	
15		「やちむん—沖縄のやきもの」リーフレット	5,000	
16		「文化財よ、永遠に 仏像修復の現場から」リーフレット	55,000	
17		「近世日本と外国文化」リーフレット	5,000	
18		「天皇陛下と宮中儀礼」リーフレット	5,000	
19		「物館に初もうで 子・鼠・ねずみ」リーフレット	10,000	
20		「前川家伝来の雛飾り—華麗なる江戸の極小雛道具」リーフレット	3,000	
21		「東京国立博物館コレクションの保存と修理」リーフレット	8,000	
22		『東京国立博物館セレクション 小袖』日本語、英語	日本語版4,000 英語版2,000	美術館・博物館・大学・研究所等
23	そのほか	『東京国立博物館ハンドブック』日本語、英語(改訂版)	日本語版2,000 英語版2,000	

※東京国立博物館ニュースの発行数については「1-(3)-②-6 広報刊行物一覧」参照

【京都国立博物館】

○調査研究刊行物 4件

	刊行物名	発行部数	配布先
1	研究紀要『学叢』第41号	800	美術館・博物館・大学等
2	『文化財保存修理所 修理報告書』17	450	美術館・博物館・図書館・大学・研究機関・教育委員会等
3	科学研究費補助金[基盤研究(A)]報告書『河内地域の仏教文化と歴史に関する総合的研究<金剛寺編>』	600	大学・図書館・研究機関等
4	科学研究費補助金[基盤研究(A)]報告書『河内地域の仏教文化と歴史に関する総合的研究<歓心寺編>』	600	大学・図書館・研究機関等

○展覧会図録等 3件

	刊行物名	発行部数	配布先
1	『時宗二祖上人七百年御遠忌記念 特別展「国宝 一遍聖絵と時宗の名宝」』	—	美術館・博物館・大学等
2	『特別展「流転100年 佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」』	—	同上
3	『京都国立博物館寄託の名宝—美を守り、美を伝える—』	8,000	同上

※博物館だより、Newsletterの発行数については「1-(3)-②-6 広報刊行物一覧」参照

【奈良国立博物館】

○調査研究刊行物 3件

	刊行物名	発行部数	配布先
1	奈良国立博物館研究紀要「鹿園雑集」第21号	700	美術館・博物館・大学・研究機関等
2	奈良国立博物館 文化財保存修理所 修理報告書 第1号	600	美術館・博物館・大学・研究機関等・教育委員会等
3	信貴山朝護孫子寺蔵 国宝 信貴山縁起絵巻 調査研究報告書—研究・資料編—	500	美術館・博物館・大学・研究機関等

○展覧会図録 9件

	刊行物名	発行部数	配布先
1	特別展 特別展『国宝の殿堂 藤田美術館展 曜変天目茶碗と仏教美術のきらめき』	11,460	美術館・博物館・大学・研究機関等
2		4,500	美術館・博物館・大学・研究機関等
3		2,900	美術館・博物館・大学・研究機関等
4		6,200	美術館・博物館・大学・研究機関等
5	特別陳列 わくわくびじゅつギャラリー『いのりの世界のどうぶつえん』	2,800	美術館・博物館・大学・研究機関等
6		2,300	美術館・博物館・大学・研究機関等
7		1,350	美術館・博物館・大学・研究機関等
8		2,500	美術館・博物館・大学・研究機関等
9		5,000	美術館・博物館・大学・研究機関等

※博物館だよりの発行数については「1-(3)-②-6 広報刊行物一覧」参照

【九州国立博物館】

調査研究刊行物 2件

	刊行物名	発行部数	配布先
1	九州国立博物館紀要『東風西声』第15号	950	美術館・博物館・大学・研究機関等
2	九州国立博物館 文化財修復報告 第2号(平成18年度～平成20年度)	750	文化財所有者・博物館・行政機関・研究機関等

○展覧会図録等 9件

	刊行物名	発行部数	配布先
1	特別展 京都 大報恩寺 快慶・定慶のみほとけ	1,347	美術館・博物館・大学・研究機関等
2		1,577	美術館・博物館・大学・研究機関等
3		1,378	美術館・博物館・大学・研究機関等
4		1,290	美術館・博物館・大学・研究機関等
5	特集展示等 館蔵名品展「更紗 生命の花咲く布」	1,400	美術館・博物館・大学・研究機関等
6		1,600	美術館・博物館・大学・研究機関等
7		1,500	美術館・博物館・大学・研究機関等
8		4,000	美術館・博物館・大学・研究機関等
9		15,000	展示室内で配布

※アジアージュの発行数については「1-(3)-②-6 広報刊行物一覧」参照

【東京文化財研究所】

○調査研究刊行物

(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究 3件

・有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究 0件

・無形文化財、無形民俗文化財等に関する調査及び研究 3件

	刊行物名	発行部数	配布先
1	パンフレット「日本の芸能を支える技V調べ緒 山下雄治」	300	実演家、楽器製作者、大学・研究機関・教育委員会・図書館等
2	目録「もう一つの及川コレクション—及川尊雄氏収集紙媒体資料—」	300	大学・研究機関・図書館等
3	船大工那須清一と鵜舟を造る	300	大学・研究機関・図書館等

(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究 6件

・文化財の調査手法に関する研究開発の推進 1件

	刊行物名	発行部数	配布先
1	『春日権現験記絵巻七・巻八 光学調査報告書』	500	大学・研究機関・図書館等

・文化財の保存修復及び保存技術等に関する調査研究 5件

	刊行物名	発行部数	配布先
1	『国宝日月四季山水図 光学調査報告書』	400	博物館・美術館・県立図書館他
2	『国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策事業報告書2 特別史跡高松塚古墳生物調査報告—高松塚古墳石室解体事業にともなう生物調査—』、598p、同成社、19.9.30		
3	「文化財修復の現状と諸問題に関する研究会」報告書	500	博物館・美術館、大学図書館他
4	『コンクリート構造物の保存と修復』	600	博物館・美術館、大学図書館他
5	『国際シンポジウム「台湾における近代文化遺産活用の最前線」報告書』	600	博物館・美術館、大学図書館他

(3)文化遺産保護に関する国際協働 24件

・文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進 24件

	刊行物名	発行部数	配布先
1	『各国の文化財保護法例シリーズ[24]中国』	300	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
2	『世界遺産研究協議会 遺産影響評価とは何か』	200	大学・研究機関・教育委員会等
3	『遺産影響評価のための世界遺産と開発事案等の関係に関する基礎調査』	—	委託者に提出
4	アルメニアにおける染織文化遺産保存修復ワークショップ2017-2019	110	関係団体(国内、アルメニア)等
5	『東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力 令和元年度成果報告書』	50	外部評価委員会、所内
6	『Technical Cooperation Project for the Conservation and Sustainable Development of Ta Nei Temple, Angkor -Progress Report of 2019-』	260	大学、研究機関、関係団体(国内、カンボジア)等
7	『大陸部東南アジアにおける木造建築技術の発達と相互関係』	20	外部評価委員会
8	The Silk Road Friendship Project: Training Workshop for the Research Planning for Reconstruction of Damaged Historic Cities and Buildings, 2019	10	関係団体(国内、シリア)
9	Capacity Development Project Improvement for the Conservation and Management Systems of Wall Paintings in the Republic of Turkey	30	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
10	Capacity Building Report -Mission N°5-; study, risk assessment and intervention proposal of the wall paintings decorating the southern wall of Lokahteikpan	30	同上
11	旧和宇慶家墓の保存に向けた調査研究令和元年度成果報告書	60	同上
12	平成27年度 在外日本古美術品保存修復協力事業 般若図 No.2015-5 修復報告	300	博物館・大学・研究機関・図書館等
13	『シンポジウム「文化遺産の意図的な破壊—人はなぜ本を焼くのか—」報告書』	300	大学・研究機関・図書館等
14	『第25回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会「文化遺産保護の国際動向—世界文化遺産・無形文化遺産・水中文化遺産—」報告書』	300	大学・研究機関・図書館等
15	『第26回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会「文化遺産とSDGs II—世界では、いま何が語られているのか—」報告書』	300	大学・研究機関・図書館等
16	『文化遺産国際協力コンソーシアム令和元年度国際協力調査(インドネシア)報告書』	300	大学・研究機関・図書館等
17	ブータン王国の歴史的建造物保存活用に関する拠点交流事業—保存候補民家の修理計画及び保存活用計画検討—文化遺産としての民家の価値評価手法の検討—	100	研究機関、関係団体(国内)
18	Networking Core Centres for International Cooperation on Conservation of Cultural Heritage Project: Conservation and Utilisation of Historic Buildings in Bhutan—Examination of Restoration Plan and Utilisation Plan of Farmhouses—Examination of Value Evaluation of Farmhouses as Cultural Heritage—	100	関係団体(ブータン)
19	ネパールの被災文化遺産保護に関する技術的支援事業総括報告書	150	大学・研究機関・図書館等
20	Investigation Report and Proposal of Rehabilitation Plan for the Aganchen Temple and Associated Buildings, Hanumandhoka Durbar Square, Kathmandu	100	関係機関、関係団体(国内、ネパール)
21	Rehabilitation Plan for the Southwest Corner of the Mohan Chok, Hanumandhoka Durbar Square, Kathmandu	30	関係団体(国内、ネパール)
22	Khokana, the vernacular village and its mustard-oil seed industrial heritage, Survey Report	100	関係機関、関係団体(国内、ネパール)
23	Proceedings, The Second Mayors' Forum on Conservation of Historic Settlements in Kathmandu and Kavre Valleys	500	大学・研究機関・図書館等
24	Proceedings, The Third Mayors' Forum on Conservation of Historic Settlements in Kathmandu and Kavre Valleys	300	大学・研究機関・図書館等

(4)文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用 12件

・調査研究成果の発信 12件

	刊行物名	発行部数	配布先
1	『東京文化財研究所年報』2018年度版	400	博物館・美術館・大学・研究機関等
2	『東京文化財研究所概要』2019年度版	2,700	博物館・美術館・大学・研究機関等
3	『東文研ニュース』70号	1,600	博物館・美術館・大学・研究機関等
4	『東文研ニュース』71号	1,600	博物館・美術館・大学・研究機関等
5	『東文研ニュース』72号	1,600	博物館・美術館・大学・研究機関等
6	『平成30年版 日本美術年鑑』	600	大学・研究機関、図書館等
7	『美術研究』428号	400	大学・研究機関、図書館等
8	『美術研究』429号	400	大学・研究機関、図書館等
9	『美術研究』430号	400	大学・研究機関、図書館等
10	『無形文化遺産研究報告』第14号	500	博物館・美術館・大学・研究機関等
11	『第14回無形民俗文化財研究協議会報告書』	500	博物館・美術館・大学・研究機関等
12	『保存科学』59号	650	博物館・美術館・図書館・大学・研究機関等

【奈良文化財研究所】

○調査研究刊行物

(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究 11件

・有形文化財、伝統的建造物群に関する調査研究 2件

	刊行物名	発行部数	配布先
1	仁和寺史料 古文書編2	600	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
2	湯浅町重要建造物調査報告書	300	大学・研究機関・教育委員会・図書館等

・記念物、文化的景観、埋蔵文化財に関する調査研究 9件

	刊行物名	発行部数	配布先
1	『風景の足跡—考古学からの文化的景観再考』文化的景観研究会（第10回）報告書	500	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
2	庭園文化の近世的展開 令和元年度庭園の歴史に関する研究会 報告書	300	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
3	史跡等の保存活用計画	300	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
4	「皿平城宮跡等の調査概要」『奈良文化財研究所紀要2019』	3000	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
5	『東アジア考古学論叢Ⅱ—遼西地域の東晋十六国期都城文化の研究—』（奈良文化財研究所学報第98冊）	700	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
6	『第22回古代官衙・集落研究会報告書 官衙・集落と大甕』（奈良文化財研究所研究報告23）	600	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
7	『第23回古代官衙・集落研究会 灯明皿と官衙・集落・寺院 研究報告資料』	250	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
8	『第20回シンポジウム 鷗尾・鬼瓦の展開Ⅰ—鷗尾—』	400	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
9	「古代瓦研究区 一本づくり・一枚づくりの展開 東日本編」	850	大学・研究機関・教育委員会・図書館等

(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究 0件

(3) 文化遺産保護に関する国際協働 1件

・文化遺産保護に関する国際協働の総合的な推進調査研究 1件

	刊行物名	発行部数	配布先
1	『平成28-30年度文化庁委託文化遺産国際協力拠点交流事業：ミャンマーにおける発掘調査法・遺物研究法等の考古技術移転を目的とした拠点交流事業報告書』	400	文化庁・大学・研究機関・教育委員会・図書館等

(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用 20件

・文化財情報基盤の整備・充実 0件

・調査研究成果の発信 10件

	刊行物名	発行部数	配布先
1	『奈良文化財研究所概要』2019	3000	大学・研究機関・図書館等
2	『奈良文化財研究所紀要』2019	3000	大学・研究機関・図書館等
3	『奈文研ニュース』No.73~76	各3000	大学・研究機関
4	『埋蔵文化財ニュース』No.178~181	各3000	大学・研究機関・博物館等

・展示公開施設の充実 10件

	刊行物名	発行部数	配布先
1	夏期企画展リーフレット『ならのみやこのしよくぶつえん』（日本語版）	5000	平城宮跡資料館参観者
2	夏期企画展リーフレット『ならのみやこのしよくぶつえん』（英語版）	100	平城宮跡資料館参観者
3	夏期企画展リーフレット『ならのみやこのしよくぶつえん』（中国語版）	100	平城宮跡資料館参観者
4	夏期企画展リーフレット『ならのみやこのしよくぶつえん』（韓国語版）	100	平城宮跡資料館参観者
5	秋期特別展リーフレット『地下の正倉院展—年号と木簡—』	8000	販売
6	冬期企画展リーフレット『発掘された平城 2019』	4000	平城宮跡資料館参観者
7	飛鳥資料館図録第71冊『骨ものがたり—環境考古学研究室のおしごと』	2800	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
8	飛鳥資料館図録第72冊『飛鳥—自然と人と—』	2000	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
9	飛鳥資料館カタログ第36冊『飛鳥の考古学2019』	1800	大学・研究機関・教育委員会・図書館等
10	飛鳥資料館図録第23冊『骨ものがたり—環境考古学研究室のおしごと 展覧会報告』	1200	大学・研究機関・教育委員会・図書館等

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】

○調査研究刊行物 8件

	刊行物名	発行部数	配布先
1	『IRCI概要2019(日本語版)』	600 データ版でも公開	ユネスコ関係、研究協力依頼機関等
2	『IRCI概要2019(英語版)』	1000 データ版でも公開	ユネスコ関係、研究協力依頼機関等
3	『Multi-Disciplinary Study on Intangible Cultural Heritage's Contribution to Sustainable Development Focusing on Education』	350 データ版でも公開	フィリピンのSLT(ノンフォーマル教育施設)
4	『Guidelines for Intangible Cultural Heritage Education in Vietnamese Schools Towards Sustainable Development Goals(Vietnamese)』	155 データ版でも公開	ベトナムの教育施設
5	『アジアのカテゴリー2センター(IRCI、ICHCAP、CRIHAP)共同リーフレット』	600	第14回無形文化遺産保護条約政府間委員会参加者
6	国際研究者フォーラム「無形文化遺産研究の展望—持続可能な社会にむけて」プロシーディングス	500 データ版でも公開	ユネスコ関係、研究協力依頼機関等
7	「無形文化遺産のSDGsへの貢献」事業におけるフィリピンのノンフォーマル教育向けガイドライン(英語)(第二版)	450	フィリピンのSLT(ノンフォーマル教育施設)
8	「無形文化遺産のSDGsへの貢献」事業におけるベトナムのフォーマル教育向けガイドライン(ベトナム語)(第二版)	160	ベトナムの教育施設

【文化財防災ネットワーク推進本部】

○調査研究刊行物 8件

	刊行物名	発行部数	配布先
1	『都道府県および指定都市地域防災計画における文化財等の保全に関する記載一覧および抜粋』	80	47都道府県・政令指定都市文化財所管部局など関係機関
2	文化財防災ネットワーク推進事業パンフレット(英語版) 更新版	1,000	推進会議参画団体、有識者会議、47都道府県など関係機関
3	2018年度 文化財防災ネットワーク推進事業シンポジウム 報告書	1,000	講演者、推進会議参画団体、有識者会議、47都道府県など関係機関
4	2019年度 文化遺産防災ネットワーク有識者会議 記録集	500	推進会議参画団体、有識者会議など関係機関
5	文化財防災マニュアル 被災自然史標本の処置例と減災対策(DVD)	500	未配布
6	文化財防災マニュアル 被災自然史標本の処置例と減災対策(ハンドブック)	1,000	未配布
7	「長板中形ー松原伸夫の技ー」パンフレット	1,000	自宅待機のため未確認(東文研)
8	阿波ばん茶 徳島県 上勝町 那賀町(DVD)	500	自宅待機のため未確認(東文研)

c-⑦ 科学研究費助成事業による調査研究

令和2年3月31日現在

件数	国立文化財機構計	博物館					文化財研究所			アジア太平洋無形文化遺産研究センター
		計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	
合計	129	43	25	6	6	6	86	26	60	0
科学研究費補助金のみ	39	15	9	1	2	3	24	5	19	0
学術研究助成基金助成金のみ	90	28	16	5	4	3	62	21	41	0
科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※各施設に所属する研究員が研究代表者として交付された研究課題のみ記載している。（日本学術振興会特別研究員を除く）

※科学研究費助成事業の研究分担者等として参画しているものについてはc①2) 他機関の共同研究への参画実績参照

※科学研究費の交付決定額には間接経費を含む。

【東京国立博物館】

1) 科学研究費補助金のみ 9件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額 (千円)
1	日本染織コレクションの形成とその美術史的価値観の確立に関する研究	小山 弓弦葉	学芸研究部調査研究課工芸室長	基盤研究(A)	8,710
2	美術品・輸送機関・梱包資材の振動特性情報を集積した安全輸送のためのシステム構築	和田 浩	学芸研究部保存修復課環境保存室長	基盤研究(B)	2,210
3	近世狩野派を中心とした図様継承と絵画制作システムに関する研究	田沢 裕賀	学芸研究部長	基盤研究(A)	7,410
4	文化財情報資源の探索と発見のためのデータ連携に関する研究	村田 良二	学芸企画部博物館情報課情報管理室長	基盤研究(B)【平成30年度繰越】	5,200
5	文化財情報資源の探索と発見のためのデータ連携に関する研究	村田 良二	学芸企画部博物館情報課情報管理室長	基盤研究(B)	3,770
6	アイヌ民族の衣文化交流—博物館資料から北東アジア史を見直す	佐々木 史郎	東京国立博物館付部長	基盤研究(B)	4,680
7	平等院鳳凰堂空間の荘厳と機能に関する総合的研究	皿井 舞	学芸研究部平常展調整室長	基盤研究(B)	3,250
8	能狂言面の制作年代および作者に関する総合的研究	浅見龍介	学芸企画部企画課長	基盤研究(B)	4,420
9	失われた古代・中世絵巻の復元的研究—作品伝来情報の検討から—	土屋貴裕	学芸企画部企画課特別展室主任研究員	基盤研究(B)	4,290

2) 学術研究助成基金助成金のみ 16件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額 (採択時) (千円)	全研究期間での交付決定額 (千円) (研究期間)
1	模本制作の第一人者・田中親美を中心とした近現代の書の受容に関する基礎的研究	恵美 千鶴子	学芸企画部百五十年史編集室長	基盤研究(C)	1,560	4,160 (平成29～令和1年度)
2	東アジア礼制に基づく物質文化研究—日・中・韓・越・琉の宮廷工芸を対象として—	猪熊 兼樹	学芸企画部企画課特別展室長	基盤研究(C)	1,040	4,550 (平成29～令和1年度)
3	インドネシア・パセマ高原の装飾古墳の基礎的研究	河野 一隆	学芸研究部調査研究課長	基盤研究(C)	2,210	4,290 (平成29～令和1年度)
4	中世律宗絵画の基礎的研究	瀬谷 愛	学芸研究部保存修復課保存修復室長	基盤研究(C)	1,430	4,420 (平成30～令和2年度)
5	金属製幡の基礎的研究—特に密教における灌頂道具としての用途と機能	伊藤 信二	学芸企画部博物館教育課長	基盤研究(C)	1,560	2,860 (令和1～3年度)
6	文書・典籍料紙における繊維の再利用に関する基礎的研究	高橋 裕次	客員研究員	基盤研究(C)	650	2,210 (令和1～4年度)
7	縄文時代の地域間交流の研究—CADを用いた土器容量の比較—	井出 浩正	学芸企画部博物館教育課教育講座室長	基盤研究(C)	2,340	4,160 (令和1～3年度)
8	16・17世紀中国江南地域における旅行と絵画の関係についての事例研究	植松 瑞希	学芸企画部企画課出版企画室研究員	若手研究(B)	650	3,250 (平成29～令和3年度)
9	日本刀における連続と変容の表現に着目した歴史的展開の考察	酒井 元樹	学芸企画部博物館教育課教育普及室主任研究員	若手研究(B)	650	4,160 (平成29～令和2年度)

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額 (採択時) (千円)	全研究期間での 交付決定額 (千円) (研究期間)
10	フェニキア人の「出現」ー考古資料から見た初期の交易活動と対外進出	小野塚 拓造	学芸研究部列品管理課平常展調整室研究員	若手研究 (B)	1,040	3,640 (平成29～令和1年度)
11	江戸時代後期における風景表現に関する研究	大橋 美織	学芸研究部調査研究課絵画・彫刻室研究員	若手研究	1,040	4,030 (平成30～令和2年度)
12	農具からみた古代東アジアにおける技術交流の研究	河野 正訓	学芸研究部調査研究課考古室研究員	若手研究	520	2,080 (平成30～令和2年度)
13	日本陶磁における金銀彩の特殊性について	三笠 景子	学芸企画部企画課特別展室主任研究員	若手研究	390	2,080 (令和1～3年度)
14	ICT技術を用いた個人的コンテクストに応じた展示解説の研究	中村 麻友美	学芸企画部博物館教育課アソシエイトフェロー	若手研究	2,600	3,900 (令和1～3年度)
15	鎌倉時代における文殊菩薩造像の伝播に関する調査研究	増田 政史	学芸研究部調査研究課絵画・彫刻室研究員	研究活動スタート支援	1,430	1,430 (令和1年度)
16	人類遺産としての先史壁画の保存と公開活用にむけた研究基盤の確立	河野 一隆	学芸研究部調査研究課課長	国際共同研究強化 (B)	9,230	18,330 (令和1～5年度)

3) 科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究 0件

【京都国立博物館】

1) 科学研究費補助金のみ 1件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額(千円)
1	河内地域の仏教文化と歴史に関する総合的研究	佐々木 丞平	館長	基盤研究 (A)	6,370

2) 学術研究助成基金助成金のみ 5件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額 (採択時) (千円)	全研究期間での 交付決定額 (千円) (研究期間)
1	対話とハンズ・オン教材を組み合わせた博物館教育の実践と研究	水谷 亜希	学芸部教育室主任研究員	若手研究 (B)	1,040	3,900 (平成28～3年度)
2	近世期に作成された、書画の「極書」に関する基礎的研究	福士 雄也	学芸部美術室研究員	若手研究 (B)	650	3,770 (平成28～元年度)
3	鉛釉陶器の鉛同位体比値と金属元素の価数から考察する生産地と焼成技術の特徴	降幡 順子	学芸部保存科学室長	基盤研究 (C)	910	3,770 (平成28～元年度)
4	思溪版大蔵経刊行実態の解明ー目録と遺例による実証的研究ー	上杉 智英	学芸部美術室研究員	若手研究 (B)	780	3,900 (平成28～元年度)
5	西日本を中心とした来船清人の書画交流に関する基礎的調査研究	呉 孟晋	学芸部美術室主任研究員	基盤研究 (C)	1,560	4,290 (平成30～2年度)

3) 科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究 0件

【奈良国立博物館】

1) 科学研究費補助金のみ 2件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額(千円)
1	高雄曼荼羅の復元と空海の造形観の研究	松本 伸之	館長	基盤研究 (A)	4,810
2	明治時代の文化財保護法制と帝国博物館の成立に関する総合的研究	宮崎 幹子	学芸部資料室長	基盤研究 (B)	4,810

2) 学術研究助成基金助成金のみ 4件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額 (採択時) (千円)	全研究期間での 交付決定額 (千円) (研究期間)
1	染織技法による仏像の研究	内藤 栄	学芸部長	基盤研究 (C)	130	4,420 (平成29～令和1年度)
2	叡尊・忍性による中世の救済ネットワークの研究	吉澤 悟	学芸部列品室長	基盤研究 (C)	520	2,990 (平成29～令和1年度)
3	密教聖教に基づく護国修法の基礎的研究	斎木 涼子	学芸部美術室主任研究員	若手研究 (B)	520	1,560 (平成29～令和2年度)
4	仏師快慶の工房制作と分業体制に関する基礎的研究-三尺阿弥陀を中心に-	山口 隆介	学芸部列品室主任研究員	若手研究	1,300	4,030 (平成30～令和2年度)

3) 科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究 0件

【九州国立博物館】

1) 科学研究費補助金のみ 3件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額(千円)
1	在欧日本仏教美術の包括的調査・デジタル化とそれに基づくジャポニズムの総合研究	島谷 弘幸	館長	基盤研究 (B)	3,250
2	アジアの文化財の伝統的製作・修理技法の詳細調査と国際修理プロジェクトへの応用	伊藤 嘉章	客員研究員	基盤研究 (A)	11,050
3	在欧日本仏教美術の包括的調査・デジタル化とそれに基づくジャポニズムの総合研究	畑 靖紀	学芸部文化財課資料管理室主任研究員	基盤研究 (B)	3,380

2) 学術研究助成基金助成金のみ 3件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額(採択時) (千円)	全研究期間での交付決定額 (千円) (研究期間)
1	ガラス外壁を有する博物館建造物における衝突野鳥の傾向分析と適合する対策の検討	木川 りか	学芸部博物館科学課長兼環境保全室長	基盤研究 (C)	1,560	4,420 <平成30~令和2年度>
2	様々な文化財に使用された彩色材料への赤外線画像による面的調査の検討	秋山 純子	学芸部博物館科学課環境保全室主任研究員	基盤研究 (C)	780	4,290 <令和1~5年度>
3	博物館における文化財害虫管理への個体群動態モデルの応用	渡辺 祐基	学芸部博物館科学課アソシエイトフェロー	若手研究	1,690	4,160 <令和1~3年度>

3) 科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究 0件

【東京文化財研究所】

1) 科学研究費補助金のみ 5件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額(千円)
1	対外交流史の視点によるアジア螺鈿の総合的研究ー大航海時代を中心にー	小林 公治	文化財情報資料部 室長	基盤研究(B)	2,730
2	ポンペイ及びエルコラーノ遺跡壁画保存修復新技法開発と遺跡保存管理体制の確立	前川 佳文	文化遺産国際協力センター研究員	基盤研究(B)海外	3,120
3	日本美術の記録と評価についての研究ー美術作品調書の保存活用	江村 知子	文化財情報資料部 室長	基盤研究(B)	8,840
4	絵画に使用された絹・自然布の非破壊分析方法の開発と製法・修復に関する総合的調査	早川 典子	保存科学研究センター 室長	基盤研究(B)	10,270
5	SAT大正新脩大藏經 画像データベース	津田 撤英	文化財情報資料部 客員研究員	研究成果公開促進費	4,500

2) 学術研究助成基金助成金のみ 21件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額(採択時) (千円)	全研究期間での交付決定額 (千円) (研究期間)
1	黒髪白肌の系譜ー上村松園の技法と表現ー	大河原 典子	文化遺産国際協力センター客員研究員	基盤研究(C)	0	4,680 (平成28~平成31)
2	徳川将軍家の御物形成と御用絵師の役割に関する研究	小野 真由美	文化財情報資料部 主任研究員	基盤研究(C)	0	4,420 (平成28~平成31)
3	ザグロス地域における農耕・牧畜の起源に関する考古学的研究	安倍 雅史	文化遺産国際協力センター研究員	基盤研究(C)	1,430	4,550 (平成29~平成31)
4	常磐津節の音楽分析のための基盤研究	前原 恵美	無形文化遺産部 室長	基盤研究(C)	1,170	4,290 (平成30~令和2)
5	江戸時代の絵画における基底材に関する基礎的研究	安永 拓世	文化財情報資料部 研究員	基盤研究(C)	1,300	4,420 (平成30~令和2)
6	ポスト1968年表現共同体の研究:松澤宥アーカイブズを基軸として	橘川 英規	文化財情報資料部 研究員	基盤研究(C)	1,690	4,420 (平成30~令和2)
7	DNA塩基配列情報に基づく文化財害虫の新規データベース構築	佐藤 嘉則	保存科学研究センター 室長	基盤研究(C)	1,170	4,030 (平成30~令和2)
8	博物館IPMへのATP拭き取り検査活用に向けた基礎的な研究	間瀬 創	保存科学研究センター 客員研究員	基盤研究(C)	1,300	3,770 (平成30~令和2)
9	白色LED光照射に伴う蛍光性有機染料の変退色挙動とその抑制	吉田 直人	保存科学研究センター 保存環境研究室付	基盤研究(C)	650	2,860 (平成30~令和2)
10	鍾乳洞における照明植生を軽減する光環境に関する実験的研究	朽津 信明	保存科学研究センター 室長	基盤研究(C)	1,950	4,290 (平成31~令和3)
11	紙質文化財にみられる緑青焼けに対する修復処置方法の開発	貴田 啓子	保存科学研究センター 客員研究員	若手研究(B)	0	3,900 (平成28~平成31)
12	イラン歴史的都市景観保護のための計画指標に関する研究	山田 大樹	文化遺産国際協力センター客員研究員	若手研究(B)	0	4,160 (平成28~平成31)

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額 (採択時) (千円)	全研究期間での 交付決定額 (千円) (研究期間)
13	マヤ地域の博物館における文化遺産保全と地域発展に向けた文化資源マネジメントの研究	五木田 まきは	文化遺産国際協カセンター アソシエイトフェロー	若手研究	1,040	4,160 (平成30～令和3)
14	伝統的木造建築技術の保存継承に関する日欧比較研究	マルティネス アレハンドロ	文化遺産国際協カセンター アソシエイトフェロー	若手研究	910	3,900 (平成30～令和3)
15	中世日本における中国美術の受容と羅漢の作例に関する調査研究	米沢 玲	文化財情報資料部 研究員	若手研究	780	1,560 (平成31～令和2)
16	セルロースナノファイバーによる紙質文化財クリーニング手法の開発	貴田 啓子	保存科学研究センター 客員研究員	若手研究	2,470	4,160 (平成31～令和3)
17	木材からの化学物質放散挙動の解明と博物館における選定指標の提案	古田嶋 智子	保存科学研究センター 客員研究員	若手研究	1,950	4,160 (平成31～令和3)
18	古典的膠の製造方法と各用途適性の体系化	宇高 健太郎	保存科学研究センター 客員研究員	若手研究	1,560	4,160 (平成31～令和4)
19	近現代建造物に適応した文化財保存理念の展開に向けた基礎的研究	金井 健	文化遺産国際協カセンター 室長	研究活動スタート支援	1,040	2470 (平成31～令和2)
20	歴史的煉瓦建造物の保存に資する、煉瓦の電気的特性が塩類風化に及ぼす影響の解明	水谷 悦子	保存科学研究センター 研究員	研究活動スタート支援	1,430	2,860 (平成31～令和2)
21	紙屏風の規格と表現・技法の研究	江村 知子	文化財情報資料部 室長	挑戦的研究 (萌芽)	1,430	4,992 (平成29～平成31)

3) 科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究 0件

【奈良文化財研究所】

1) 科学研究費補助金のみ 19件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額(千円)
1	木簡等の研究資源オープンデータ化を通じた参加誘発型研究スキーム確立による知の展開	馬場 基	都城発掘調査部史料研究室長	基盤研究 (S)	24,960
2	発掘遺構による古代寺院建築史の構築	箱崎 和久	都城発掘調査部遺構研究室長	基盤研究 (A)	11,180
3	平城宮・京跡出土木簡とその歴史環境のグローバル資源化	渡邊 晃宏	副所長	基盤研究 (A)	11,700
4	木簡の年輪年代学：同一材推定による再解釈と荷札木簡を用いた地域標準年輪曲線の構築	星野 安治	埋蔵文化財センター年代学研究室長	基盤研究 (B)	3,510
5	南都の未整理文書聖教にもとづく寺社とその周辺社会の調査研究	吉川 聡	文化遺産部歴史研究室長	基盤研究 (B)	2,990
6	松帆銅鐸発見を契機とする銅鐸論の再構築	難波 洋三	埋蔵文化財センター客員研究員	基盤研究 (B)	3,250
7	和同開珎の生産と流通をめぐる総合的研究	松村 恵司	所長	基盤研究 (B)	4,160
8	中央アジア 天山-パミール地域における後期旧石器文化成立過程の研究	国武 貞克	都城発掘調査部主任研究員	基盤研究 (B)	3,770
9	3次元データによる瓦の同范認識技術の基礎的研究	林 正憲	都城発掘調査部主任研究員	基盤研究 (B)	3,770
10	災害碑アーカイブ構築を目的とした市民参加型調査の実践	上相 英之	埋蔵文化財センター客員研究員	基盤研究 (B)	670
11	先端技術による未発見遺跡の探査・研究および保護手法の開発	金田 明大	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室長	挑戦的研究 (開拓)	3,250
12	歴史災害の実像解明への考古・歴史・地質学的複合解析による災害履歴検索地図の開発	村田 泰輔	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室研究員	挑戦的研究 (開拓)	3,770
13	日本考古学国際化のための考古学関係用語シソーラス構築と自動英語化の研究	高田 祐一	企画調整部文化財情報研究室研究員	若手研究 (A)	3,900
14	対照実験を主軸とした東アジア鑄造技術史解明のための実験考古学的研究	丹羽 崇史	都城発掘調査部主任研究員	若手研究 (A)	2,860
15	中近世日本と東アジアにおける木造建築の変革に関する比較研究	鈴木 智大	都城発掘調査部遺構研究室主任研究員	若手研究 (A)	2,730
16	土器残存脂質分析を用いた縄文-弥生移行期における土器利用と食性変化の追跡	庄田 慎矢	企画調整部国際遺跡研究室長	若手研究 (A)	5,590
17	中央アジアにおける後期旧石器時代初頭 (IUP) 石器群の探求	国武 貞克	都城発掘調査部主任研究員	新学術領域研究 (研究領域提案型)	3,900
18	植物遺体群調査解析システムの新構築による古代都城の植物資源利用と集落生態系の解明	上中 央子	埋蔵文化財センター特別研究員 (PD)	特別研究員奨励費	910

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	交付決定額(千円)
19	奈良の都の木簡に会いに行こう！2019	渡邊 晃宏	副所長	研究成果公開促進費（研究成果公开发表（B）（ひらめき☆ときめきサイエンス））	330

2) 学術研究助成基金助成金のみ 41件

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額 (採択時) (千円)	全研究期間での 交付決定額 (千円) (研究期間)
1	律令制下の土器生産—須恵器・土師器群別分類の再構築	神野 恵	都城発掘調査部 上席研究員	基盤研究 (C)	650	4,420 (平成27～令和元年度)
2	古代の灯火—先史時代から近世にいたる灯明具に関する研究	深澤 芳樹	都城発掘調査部 客員研究員	基盤研究 (C)	910	4,810 (平成27～令和元年度)
3	蛍光X線分析と鉍物組成分析による飛鳥藤原地域出土古代瓦の生産・供給体制の研究	清野 孝之	都城発掘調査部 考古第三研究室長	基盤研究 (C)	-	4,680 (平成28～令和元年度)
4	6世紀の埴輪生産からみた「部民制」の実証的研究—奈良盆地を中心に—	廣瀬 覚	都城発掘調査部 主任研究員	基盤研究 (C)	1,170	4,680 (平成28～令和元年度)
5	明治～戦前期の木造建築に使われた良材の産地とその年輪データに関する基礎的研究	藤井 裕之	埋蔵文化財センター 客員研究員	基盤研究 (C)	780	4,160 (平成28～令和元年度)
6	財政関係木簡による古代地方社会の実態解明	山本 祥隆	都城発掘調査部 史料研究室研究員	若手研究 (B)	-	1,950 (平成28～令和元年度)
7	古代都城における木器生産に関する基礎的研究	浦 蓉子	都城発掘調査部 考古第一研究室研究員	若手研究 (B)	-	4,030 (平成28～令和元年度)
8	二階建ての御殿にみる近世武家住宅の実体と空間の構成	大橋 正浩	都城発掘調査部 客員研究員	若手研究 (B)	-	4,160 (平成28～令和元年度)
9	風化金石文復元の為の用例辞書及び文字予測データベースの開発	上相 英之	埋蔵文化財センター 客員研究員	若手研究 (B)	-	3,900 (平成28～令和元年度)
10	地理情報システムを用いた古代日本における移動コスト算出の基礎的研究	清野 陽一	都城発掘調査部 考古第三研究室研究員	若手研究 (B)	650	3,770 (平成28～令和元年度)
11	古代における食生活の復元に関する環境考古学的研究	山崎 健	埋蔵文化財センター 環境考古学研究室長	基盤研究 (C)	1,040	4,420 (平成29～令和3年度)
12	Sr同位体比分析による日本出土「ナトロンガラス」の産地に関する考古学的研究	田村 朋美	都城発掘調査部 考古第一研究室研究員	基盤研究 (C)	1,430	4,550 (平成29～令和元年度)
13	展示施設を拠点とする地域住民参加型の歴史的建造物の調査	西田 紀子	飛鳥資料館学芸室主任研究員	基盤研究 (C)	650	4,550 (平成29～令和3年度)
14	中央アジア西部ポスト・クシャーン朝期(4～7世紀)壁画の基礎的研究	影山 悦子	企画調整部国際遺跡研究室アソシエイトフェロー	基盤研究 (C)	1,300	3,900 (平成29～令和元年度)
15	呪符木簡の時代的地域的特質からみた「木に文字を記す文化」の史的考究	山本 崇	都城発掘調査部 上席研究員	基盤研究 (C)	1,040	4,550 (平成29～令和2年度)
16	3D石器形態研究の確立による日本列島後期旧石器時代の生活・技術・文化の解明	野口 淳	埋蔵文化財センター 客員研究員	基盤研究 (C)	1,690	4,420 (平成29～令和元年度)
17	出土木製遺物の水中保管時における劣化を効果的に抑制する手法の開発	松田 和貴	埋蔵文化財センター 保存修復科学研究室研究員	若手研究 (B)	650	3,900 (平成29～令和元年度)
18	彩色文化財のTHz Imaging及びμFocusX線CTを用いた非破壊界面調査	金 晃貞	埋蔵文化財センター 客員研究員	若手研究 (B)	650	2,860 (平成29～令和元年度)
19	地震痕跡を残す災害遺構の保存と公開活用に関する研究	小沼 美結	飛鳥資料館学芸室アソシエイトフェロー	若手研究 (B)	650	1,950 (平成29～令和元年度)
20	古墳時代中期王権中枢部における埴輪生産体制の実証的研究—奈良市佐紀古墳群を中心に—	大澤 正吾	都城発掘調査部 考古第二研究室研究員	若手研究 (B)	1,170	4,160 (平成29～令和2年度)
21	渤海遺跡出土建築部材の基礎的研究—三次元計測データの活用—	中村 亜希子	埋蔵文化財センター 客員研究員	若手研究 (B)	780	4,030 (平成29～令和元年度)

	研究テーマ	名前	役職	研究種目	当年度の交付決定額 (採択時) (千円)	全研究期間での 交付決定額 (千円) (研究期間)
22	奈良時代に用いられた色材・素材の ナノ構造解明	杉岡 奈穂子	埋蔵文化財センター客員 研究員	若手研究 (B)	1,300	4,160 (平成29～令和元年度)
23	初期官衙における空間構造の成立と 展開に関する実証的研究	小田 裕樹	都城発掘調査部考古第二 研究室研究員	基盤研究 (C)	650	4,420 (平成30～令和3年度)
24	黒曜石資源の獲得と消費からみた先 史時代九州の社会変化に関する基礎 的研究	芝 康次郎	都城発掘調査部考古第一 研究室研究員	基盤研究 (C)	910	4,290 (平成30～令和3年度)
25	飛鳥時代・奈良時代の土器様式から みた日本古代の食具様式および食事 法の復元的研究	森川 実	都城発掘調査部主任研究 員	基盤研究 (C)	1,560	4,420 (平成30～令和2年度)
26	藤原宮造営に伴う造瓦の新技术とそ の導入経路に関する総合的研究	石田 由紀子	都城発掘調査部考古第三 研究室主任研究員	基盤研究 (C)	1,040	4,550 (平成30～令和3年度)
27	近世における北前船と東北産木材の 流通に関する年輪年代学的研究	光谷 拓実	埋蔵文化財センター客員 研究員	基盤研究 (C)	1,170	4,420 (平成30～令和2年度)
28	近世末期から近代に生じた日本庭園 の意匠の地域性と現代への継承―出 雲地方を中心に	中島 義晴	文化遺産部景観研究室長	基盤研究 (C)	650	3,250 (平成30～令和3年度)
29	シルクロード天山北路の形成過程に 関する考古学的研究	山藤 正敏	都城発掘調査部考古第二 研究室研究員	若手研究	1,300	4,160 (平成30～令和3年度)
30	アンコール王朝の終焉と陶磁器需要 の変容に関する考古学的研究	佐藤 由似	企画調整部国際遺跡研究 室専門職	若手研究	1,430	3,770 (平成30～令和2年度)
31	発掘後の劣化特性の予測技術に基づ く出土鉄製文化財の新たな保存管理 システムの構築	柳田 明進	埋蔵文化財センター保存 修復科学研究室研究員	若手研究	1,560	4,030 (平成30～令和2年度)
32	昭和初期における歴史的建造物保存 修理の構造補強体系の構築	前川 歩	都城発掘調査部遺構研究 室研究員	若手研究	1,040	4,030 (平成30～令和3年度)
33	カザフスタンにおける現生人類北回 り拡散ルートの解明に関する国際共 同研究の基盤強化	国武 貞克	都城発掘調査部主任研究 員	国際共同研究加速 基金(国際共同研 究強化(B))	3,640	18,200 (平成30～令和4年度)
34	塩類風化が進行する遺跡構成材料か らの効果的な脱塩方法の開発	脇谷 草一郎	埋蔵文化財センター主任 研究員	基盤研究 (C)	1,560	3,250 (令和元～3年度)
35	ポスト・バイヨン期のクメール建築 の建築的特徴に関する研究	大林 潤	都城発掘調査部主任研究 員	基盤研究 (C)	1,430	3,510 (令和元～3年度)
36	日本と中国における大工道具の比較 による東アジア木造建築技術史の基 盤構築	李 暉	都城発掘調査部遺構研究 室アソシエイトフェロー	基盤研究 (C)	1,300	4,420 (令和元～5年度)
37	機械学習による画像自動分類を活用 した考古学ビッグデータの構造化と 情報探索への適用	高田 祐一	企画調整部文化財情報研 究室研究員	挑戦的研究(萌 芽)	2,730	5,720 (令和元～2年度)
38	墨書木製品の分類を手がかりとした 日本における木簡利用全史の解明	藤間 温子	都城発掘調査部史料研究 室アソシエイトフェロー	若手研究	780	2,860 (令和元～4年度)
39	古代壁画の制作技法の伝習に関する 研究-シルクロード近隣地域と日本 の壁画を中心に	中田 愛乃	埋蔵文化財センター保存 修復科学研究室アソシエ イトフェロー	若手研究	780	2,600 (令和元～4年度)
40	文化的景観における棚田集落の相対 的価値の解明にむけた比較研究	恵谷 浩子	文化遺産部景観研究室 研究員	若手研究	1,430	3,900 (令和元～3年度)
41	セツト論・生産流通論からみた古代 国家成立期の馬装体系の変化に関す る研究	片山 健太郎	都城発掘調査部考古第一 研究室アソシエイトフェ ロー	研究活動スタート 支援	1,170	1,170 (令和元～元年度)

3) 科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究 0件

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】

1) 科学研究費補助金のみ 0件

2) 学術研究助成基金助成金のみ 0件

3) 科学研究費補助金と学術研究助成基金助成金の両方からの交付を受けた調査研究 0件

c-⑧ 客員研究員一覧

令和2年3月31日現在

国立文化財機構合計	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
151人	43人	32人	3人	6人	2人
	文化財研究所計	東京文化財研究所		奈良文化財研究所	
	108人	51人		57人	
	アジア太平洋無形文化遺産研究センター	0人			

【東京国立博物館】 32人

	氏名(所属)	研究課題
1	松原 茂 (公益財団法人根津美術館理事・学芸部長)	絵画に関する研究
2	岩崎 均史 (静岡県東海道広重美術館長)	大小絵巻に関する研究
3	宮永 美知代 (東京藝術大学美術学部助教)	解剖学・美術解剖学および医学関係の館史資料に関する調査研究
4	東野 治之 (元奈良大学文学部教授)	法隆寺献納宝物の資料の研究
5	田辺 龍太 (一般財団法人切手の博物館主任)	切手に関する調査研究
6	水上 嘉代子 (元公益財団法人遠山記念館学芸員)	小袖形を中心とする日本近世染織の調査・研究
7	小笠原 小枝 (日本女子大学家政学部名誉教授)	インド更紗に関する研究
9	金子 浩昌 (日本考古学協会)	原始・古代骨角製品に関する研究
10	湊 信幸 (元東京国立博物館副館長)	絵画に関する研究
11	鍋島 稲子 (台東区立書道博物館主任研究員)	中国書跡の調査研究
12	西岡 康宏 (元東京国立博物館副館長)	東洋漆工に関する研究
14	田中 淑江 (共立女子大学家政学部教授)	江戸時代を中心とする小袖に関する研究
15	佐々木 利和	アイヌ・琉球民族資料に関する調査研究
16	望月 幹夫 (松戸市立博物館長)	考古資料(原史・有史)に関する調査研究
17	歌田 眞介 (東京藝術大学名誉教授)	油彩画の材料・技法および保存状態についての調査・研究
19	澤田 むつ代 (元東京国立博物館上席研究員)	法隆寺献納宝物のうち法隆寺裂などの上代切れの保存と修理に関する調査研究
20	松井 敏也 (筑波大学大学院人間総合科学研究科教授)	文化財の保存環境に関する調査研究
22	佐藤 サアラ (公益財団法人常盤山文庫主任学芸員)	東洋陶磁(宋・元代)に関する研究
23	高濱 秀	中央ユーラシア青銅器に関する研究
24	加藤 雅久 (居住技術研究所主宰)	帝室博物館・復興本館建設における技術史的考察
26	池田 宏 (元東京国立博物館上席研究員)	工芸品、歴史資料に関する調査研究
27	後藤 健 (元東京国立博物館上席研究員)	古代文化研究
28	長谷 高志 (愛知県立芸術大学名誉教授/長谷高史デザイン事務所代表)	情報デザイン、インフォメーションデザインの将来像の研究
29	田中 公明 (公益財団法人中村元東方研究所専任研究員)	チベット・ネパール仏教美術の調査研究
31	日高 慎 (東京学芸大学教育学部文化財科学分野(考古学)教授)	埴輪 挂甲の武人 についての調査と修理における助言
26	石松 日奈子 (清泉女子大学非常勤講師、文化庁文化審議会専門委員)	日本所在の中国彫刻に関する調査研究
27	田澤 恵子 (公益財団法人古代オリエント博物館研究部主任研究員)	エジプト・コレクションの整理と基礎的研究
28	赤沼 多佳 (三井記念美術館参事)	茶陶の調査
29	西脇 康 (東京大学史料編纂所学術支援専門職員)	埋蔵文化財としての金銀貨鑑別・完全非破壊品位測定
30	高橋 裕次 (公益財団法人大倉文化財団大倉集古館学芸部長)	東京国立博物館百五十年史に関わる研究
31	石川 岳彦 (東京大学大学院人文社会系研究科助教)	漢代土器の調査研究
32	藤田 晴啓 (新潟国際情報大学経営情報学部経営学科教授)	考古資料からみた日本と東南アジアの文化交流の研究

【京都国立博物館】 3人

	氏名(所属)	研究課題
1	井上 一稔 (同志社大学文学部教授)	彫刻に関する調査研究
2	宇都宮 啓吾 (大阪大谷大学文学部教授)	訓点資料としての典籍に関する調査研究
3	後藤 真 (国立歴史民俗博物館准教授)	文化財情報に関する調査研究

【奈良国立博物館】 6人

	氏名(所属)	研究課題
1	井出誠之輔 (九州大学大学院人文科学研究科教授)	仏教絵画の調査及び整理
2	木村法光 (元宮内庁正倉院事務所保存課長)	漆工品の調査及び研究
3	清水昭博 (帝塚山大学文学部教授)	飛鳥・奈良時代の仏教考古、斑鳩地区出土瓦の調査及び整理
4	根立研介 (京都大学大学院文学研究科教授)	仏教彫刻の調査と整理
5	板倉聖哲 (東京大学東洋文化研究所教授)	中国・朝鮮絵画の調査及び整理
6	橋詰 文之 (和泉市久保惣記念美術館副館長)	金工品の調査及び研究

【九州国立博物館】 2人

	氏名(所属)	研究課題
1	今津節生 (奈良大学文学部教授)	水中遺跡の保存活用に関する調査研究
2	伊藤嘉章 (愛知県陶磁美術館総長/町田市立博物館館長)	アジアの文化財の伝統的製作・修理技法に関する調査研究

【東京文化財研究所】 51人

	氏名(所属)	研究課題
1	三上 豊 (和光大学表現学部教授)	近現代美術資料の収集・整理・公開に関する調査研究

	氏名(所属)	研究課題
2	丸川雄三(国立民族学博物館先端人類科学研究部准教授)	近現代美術資料の収集・整理・公開に関する調査研究
3	中野照男	美術の表現・技法・材料に関する多角的研究
4	田中 淳	近現代美術資料の収集・整理・公開に関する調査研究
5	片山まび(東京藝術大学美術学部藝術学科教授)	『売立目録』工芸部門の調査研究
6	齋藤達也	黒田清輝をはじめとするフランスで学んだ美術家の調査研究、および当研究所のアーカイブ構築
7	永崎研宣(一般財団法人人情報学研究所所長)	刊行物アーカイブズシステムの運用・評価に関する調査研究
8	津田徹英(青山学院大学文学部比較芸術学科 教授)	日本東洋古美術に関する資料整理とウェブ公開
9	田所 泰	研究プロジェクト「近・現代美術に関する調査研究と資料集成」、とくに近代の女性画家に関する調査研究
10	田中 潤	古文書の解読や絵画等に見られる服飾の解析
11	星野厚子(東京大学文学館技術支援職員)	無形文化財(芸能)に関する調査研究
12	永井美和子	無形文化財の記録作成
13	今岡謙太郎(武蔵野美術大学造形学部教授)	無形文化財の記録作成
14	原田一敏	無形文化財の保存・継承に関する調査研究
15	荒川正明(学習院大学文学部哲学科(美術史専攻)教授)	無形文化財の保存・継承に関する調査研究
16	山崎 剛(金沢美術工芸大学長)	無形文化財の保存・継承に関する調査研究
17	俵木 悟(成城大学文芸学部准教授)	無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究
18	大西秀紀	音声映像記録に関する調査研究
19	松山直子	無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集
20	菊池健策	無形民俗文化財の調査
21	鎌田紗弓(東京大学総合文化研究科博士研究員)	無形文化遺産部所蔵写真資料の整理
22	齊藤裕嗣	無形民俗文化財の調査
23	宮澤京子(有限会社海工房取締役)	無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集
24	森下愛子(公益財団法人泉屋博古館分館学芸課学芸員)	工芸技術(主に陶芸分野)に関する調査研究
25	宮田繁幸(東京福祉大学大学院特任講師)	ユネスコ無形文化遺産条約に関わる調査研究および情報収集
26	神野知恵	無形文化遺産保護に関する研究交流・情報収集
27	赤井紀美	無形文化財(近現代演劇)に関する調査研究
28	谷垣内和子(日本芸能実演家団体協議会実演芸術振興部企画室長)	伝統芸能に関わる選定保存技術の調査研究および情報収集
29	伊藤 純(川村学園女子大学講師)	無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究
30	橋本かおる(東京藝術大学音楽学部楽理科教育研究助手)	無形文化財の保存・活用に関する調査研究
31	吉澤 望(東京理科大学理工学部建築学科教授)	新世代光源の展示照明への適用条件検討
32	山内泰樹(山形大学大学院理工学研究科教授)	有機EL光源の展示照明への導入条件の検討
33	酒井清文	文化財の伝統的修復に関する調査研究
34	大場詩野子	絵画修復を中心とした新規修復手法に関する調査研究
35	藤井義久(京都大学大学院農学研究科教授)	木造建造物の生物被害対策の研究
36	小堀信幸	近代文化遺産の保存修復に関する調査研究
37	本多貴之(明治大学理工学部准教授)	伝統的修復材料に関する分析調査研究
38	堤 一郎(茨城大学教育学部技術教育教室特任教授)	近代文化遺産(特に鉄道関連)の保存修復に関する調査・研究
39	北原博幸	湿度制御温風殺虫処理の処理システムに関するプロジェクト研究を進める上での工学技術的な指導・助言および基礎研究
40	山本記子(一般社団法人国宝修理装飾師連盟代表理事)	日本画修復に使用される材料および技法の研究
41	貴田啓子	日本における絵画の劣化要因に関する研究
42	岡田 健(独立行政法人国立文化財機構文化財防災ネットワーク推進本部推進室長)	法隆寺金堂壁画をはじめとする文化財の化学分析調査
43	片山葉子	高松塚・キトラ古墳壁画および他の装飾古墳等における微生物生態学的調査研究
44	苅田重賀(日本航空協会専任課長)	近代文化遺産(特に航空関連)の保存修復に関する調査・研究
45	古田嶋智子	文化財を取り巻く空気環境の成分分析
46	宇高健太郎	文化財構成材料としての墨、煤、膠ならびに修理材料としての膠の研究と、修理用膠の製造あるいは関連技術供与等
47	簡 佑丞(中原大学文化資産研究センター研究員)	台湾の近代文化遺産の保存活用に関する調査・研究
48	石井美恵(佐賀大学芸術地域デザイン学部准教授)	在外日本古美術品保存修復協力事業、国際研修等に関わる文化財修復技術の研究
49	大河原典子(鎌倉女子大学児童学部児童学科准教授)	在外日本古美術品保存修復協力事業の修復研究および技術移転の手法研究
50	杉山恵助(東北芸術工科大学芸術学部文化財保存修復学准教授)	在外日本古美術品保存修復協力事業における修復手法研究、国際研修での技術移転方法に関する研究
51	山田大樹(株式会社都市環境研究所計画グループ研究員)	ネパールをはじめとする南アジア・西アジア地域等における歴史的都市・集落保存に関する研究

【奈良文化財研究所】 57人

	氏名(所属)	研究課題
1	山田 徹(同志社大学文学部助教)	近畿を中心とする古寺社等が所蔵する古文書・古典籍等の釈読・内容分析作業
2	林 良彦	受託調査等の調査・研究業務
3	EDWARDS Walter Drew(中国科学院心理学研究所嘱託)	研究所刊行物等、国内外への研究論文の発信に関する指導
4	難波 洋三	考古遺物の調査研究
5	浜田 拓志	文化遺産防災総合シミュレーション調査
6	中村 亜希子	遺跡探査のための三次元計測による位置決定及び計測技術と成果の連携に関する研究及び山内考古資料の整理
7	渡辺 伸行(神戸市立大日丘児童館館長)	大規模災害の復興調査支援等への指導助言
8	羽生 淳子	研究所の研究活動へ国際的な視野と新たな研究課題の点から指導助言
9	小林 謙一	遺跡及びその調査技術、文化財情報の蓄積に関する指導助言
10	Shaun Ian Mackey	東アジアの文化財や多言語化に関する専門的な助言

	氏名(所属)	研究課題
11	森本 晋(公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事務所長)	文化財保護に関する国際協力についての助言、海外調査資料の整理
12	綾村 宏	歴史研究室所蔵の調書・写真類の調査
13	小野 健吉(和歌山大学観光学部教授)	庭園史研究・遺跡整備研究についての指導・助言
14	Emmanuel MARES(京都産業大学文化学部文化学科准教授)	森羅旧蔵資料・村岡正旧蔵資料の整理に際する助言
15	青木 敬(國學院大学文学部准教授)	薬師寺東塔の発掘調査報告書作成業務に関わる指導・助言
16	黒田 洋子(奈良女子大学古代学・聖地学研究センター協力研究員)	正倉院文書の文字画像データベース構築における研究協力及び助言
17	杉本 一樹(宮内庁正倉院事務所調査員)	都城発掘調査部史料研究室における木簡の整理・解読などに対する指導・助言
18	館野 和己(奈良女子大学名誉教授/大阪府立近つ飛鳥博物館長)	木簡の整理・釈読等に関する指導・助言
19	方 国花(慶北大学人文学術院研究教授)	主として木簡に見える古代日本の漢字の字形に関する研究
20	大橋 正浩(佐賀県教育委員会文化財課主事)	古代建築の飾金具について意匠・製作技術に関する研究
21	諫早 直人(京都府立大学文学部歴史学科准教授)	中国遼寧省文物考古研究所との共同研究「3-6世紀日中古代遺跡出土遺物の比較研究」に参加
22	上原 真人(公益財団法人辰馬考古資料館長)	都城発掘調査部考古第一研究室の出土木器整理、研究及び出土木器の資料集作成にむけた指導・助言
23	巽 淳一郎	中国河南省文物考古研究所との共同研究「東アジアにおける生産遺跡の調査研究協力」に参加
24	深澤 芳樹	学報の編集作業に携わり、歴史考古学の観点からの助言
25	黒羽 亮太(京都大学非常勤講師)	飛鳥地域出土木簡の整理研究に関する専門的知識の供与及び助言
26	竹内 亮(立命館大学経営学部非常勤講師)	連携研究において、古代但馬地域出土文字資料集作成のための専門的知識を供与
27	青木 政幸(公益財団法人辰馬考古資料館学芸員)	考古遺物の調査
28	大賀 克彦	古代における玉類の生産と流通に関する調査研究
29	小椋 大輔(京都大学大学院工学研究科教授)	文化財の保存展示環境の研究
30	北田 正弘	考古遺物等の調査分析
31	金 旻貞(株式会社修美)	彩色文化財の材料調査業務
32	肥塚 隆保	古墳壁画の保存修理業務
33	澤田 正昭(東北芸術工科大学文化財保存修復研究センター長)	考古遺物及び遺跡の保存科学に関する調査研究
34	杉岡 奈穂子	壁画等の材料調査業務
35	辻本 與志一(株式会社文化財保存)	古墳壁画の保存修理業務
36	中島 志保	文化財防災ネットワーク推進事業に係る業務
37	中村 力也(宮内庁正倉院事務所保存課整理室長)	奈良時代の遺物および古代壁画等の材料調査業務
38	福永 香(国立研究開発法人情報通信研究機構電磁波研究所電磁波応用総合研究室長)	文化財の非破壊診断調査
39	三村 衛(京都大学大学院工学研究科教授)	文化財の保存環境の研究
40	上中 央子	微化石の調査研究、花粉分析
41	大江 文雄	遺跡出土資料の指導助言や調査研究
42	菊地 大樹(総合研究大学院大学特別研究員)	遺跡出土資料の分析、骨格標本の収集と公開
43	茂原 信生(京都大学名誉教授)	遺跡出土人骨の指導助言と調査分析
44	中橋 孝博(九州大学名誉教授)	遺跡出土人骨の指導助言
45	松崎 哲也	現生標本の整理・管理
46	丸山 真史(東海大学海洋学部特任講師)	遺跡出土資料の指導助言・調査分析
47	伊東 隆夫(京都大学名誉教授)	木造文化財の樹木組織学的研究
48	児島 大輔(大阪市立美術館学芸課学芸員)	美術工芸品の年輪年代学的研究
49	藤井 裕之	木造文化財の年輪年代学的研究
50	光谷 拓実	木造文化財の年輪年代学的研究
51	赤司 善彦(大野城心のふるさと館長)	水中遺跡調査における専門的技術の指導とてびき作成への協力
52	上楯 英之(独立行政法人国立文化財機構文化財防災ネットワーク推進室アシエイトフェロー)	文化財防災ネットワーク推進事業に関する業務ならびに三次元プロジェクトに関する業務
53	小澤 毅(三重大学文学部教授)	遺跡及びその調査技術に関する研究
54	狭川 真一(公益財団法人元興寺文化財研究所副所長)	遺跡及びその調査技術に関する研究
55	西口 和彦	遺跡探査の研究
56	西村 康	遺跡探査及び測量
57	野口 淳(NPO法人南アジア文化遺産センター事務局長)	遺跡の三次元計測技術と成果の連携に関する研究

【アジア太平洋無形文化遺産研究センター】 0人

d ウェブサイトアクセス件数

令和2年3月31日現在

	H27	H28	H29	H30	R1
国立博物館計	13,226,289 (※1)	13,053,220	15,795,489	15,131,386	16,937,495
東京国立博物館	6,724,460 (※1)7,427,419	6,433,867	7,014,006	7,679,851	8,235,810
京都国立博物館	3,172,381	3,334,335	5,788,678	4,382,078	4,948,829
奈良国立博物館	1,112,057	1,167,926	1,385,404	1,316,654	1,704,901
九州国立博物館	2,217,391	2,117,092	1,607,401	1,752,803	2,047,955
文化財研究所計	2,546,715 (※1)3,707,015	7,558,441	14,224,921	18,425,847	20,594,179
東京文化財研究所	1,941,504	2,567,780	3,337,734	4,494,214	2,989,314
奈良文化財研究所	605,211 (※1)1,765,511	4,990,661	10,887,187	13,931,633	17,604,865
アジア太平洋無形文化遺産研究センター	7,504	7,856	9,469	10,779	13,261
機構本部	292,721	220,638	272,228	336,016	362,356
e国宝	1,788,265	2,854,622	3,605,534	3,471,727	4,247,236
国立博物館所蔵品統合検索システム (ColBase)	—	6,452	26,914	54,338	76,875
文化財活用センター	—	—	—	29,320	42,733
文化財防災ネットワーク	102,574	62,004	75,375	93,817	182,485

・アクセス件数の単位は、ユーザーセッション数である。

・文化財防災ネットワークは平成27年3月にサイトを開設、同年4月よりアクセス件数のカウントを開始した。

・文化財活用センターは平成30年7月にサイトを開設し、アクセス件数のカウントを開始した。

・28年度より、東京国立博物館及び奈良文化財研究所の数値には、データベースのアクセス件数を含めている。

27年度以前の下段※1の数値は、上段の本体サイトアクセス件数にデータベースアクセス件数を含めた数値。(他施設は、27年度以前からデータベースのアクセス件数を含む。)

平常展（総合文化展） アンケート集計結果

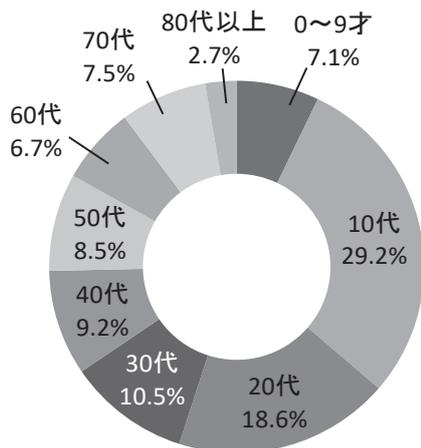
開催期間：平成31年4月1日（月）～令和2年2月26日（水）開館日数：280日間

回答者数：994人

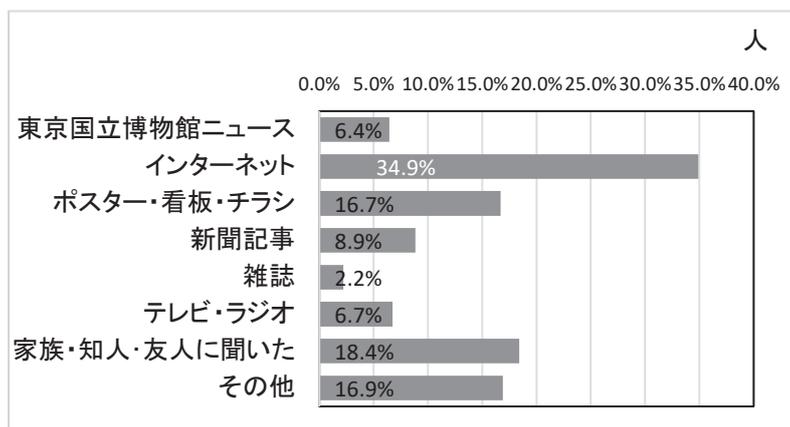
来館者数：1,030,652人

アンケート回収率：0.096%

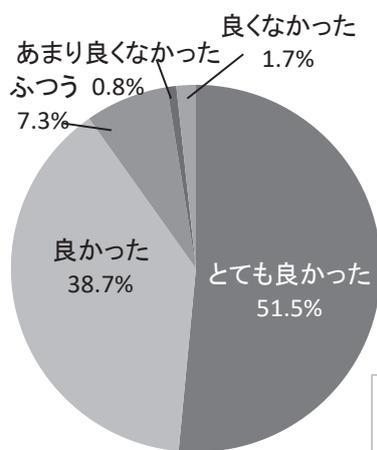
①アンケート回答年齢層



②認知経路（複数回答）

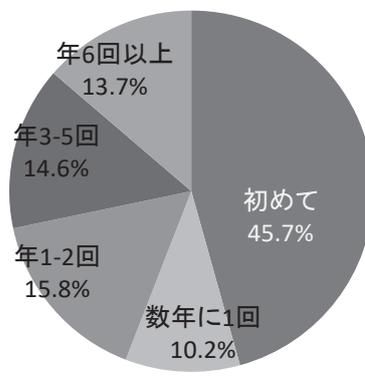


③展示に関する満足度



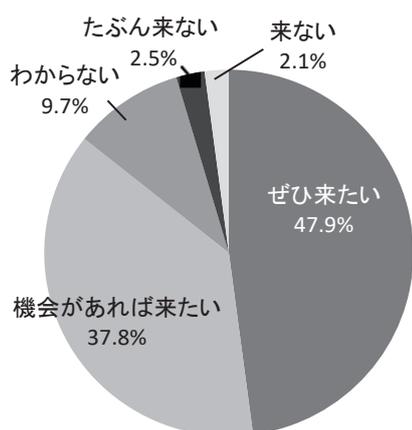
上位合計
90.2%

④来館頻度



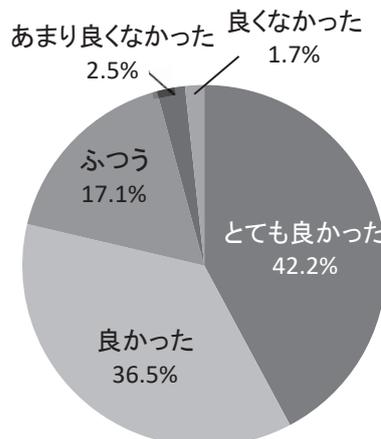
上位合計
55.9%

⑤再来館希望率



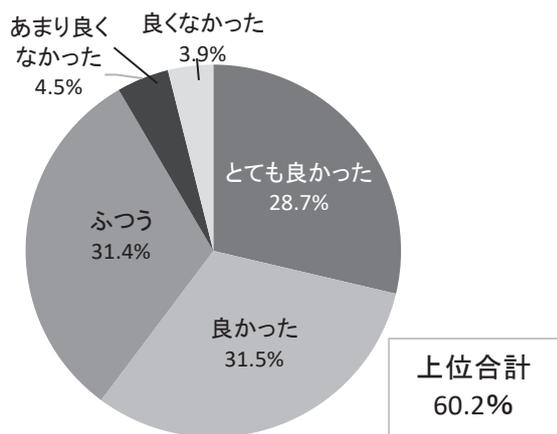
上位合計
85.7%

⑥ミュージアムショップに対する満足度

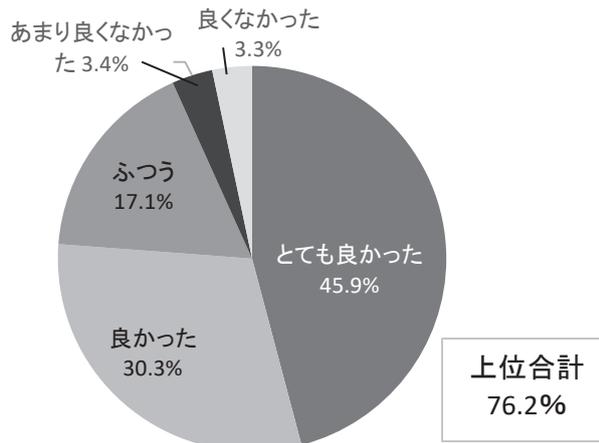


上位合計
78.7%

⑦ レストランに対する満足度



⑧ 館内スタッフの対応について



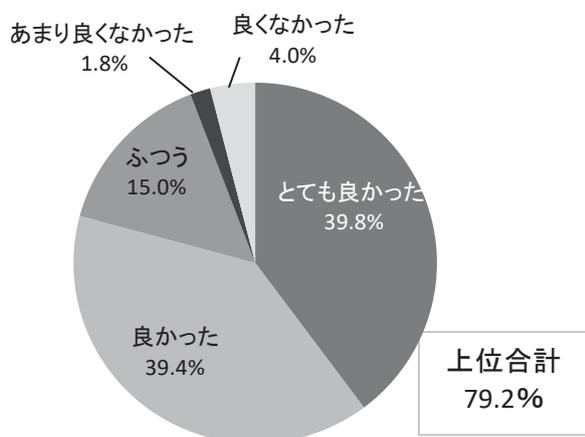
主な意見・感想

- ・展示が充実しており、特別展レベルの展示を見ることができる。
- ・刀剣、絵巻物などの保存の難しい物を良い状態で展示している。
- ・解説や翻刻が充実し、展示を見やすく、深く知ることができるようになった。
- ・会場内の案内が丁寧で分かりやすい。
- ・企画展示に魅力のあるものが多い。
- ・海外の博物館に比べ、館内にレストランやカフェが少なすぎる。
- ・写真が撮影できる場所での観覧環境が悪い
- ・説明文の字が小さく、部屋が暗いので見にくい。AR、VRなどの利活用も考えてほしい。

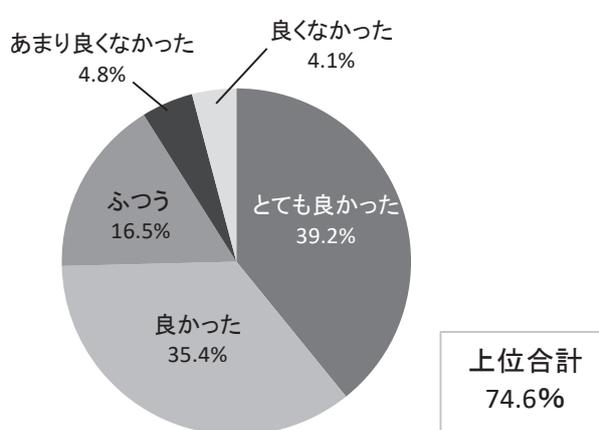
《外国人アンケート集計結果》

回答者数:291人

1. (外国人アンケート)施設の案内・説明・看板



2. (外国人アンケート)展示のパネル、キャプション



主な意見・感想

- ・展示が大変充実しており、環境に満足した。
- ・英語での解説をもう少し長く、充実させてほしい
- ・展示方法は素晴らしいが、展示の解説もより詳しいものが欲しい
- ・日本の歴史がわかるような展示をして欲しい
- ・展示解説に誤植がある

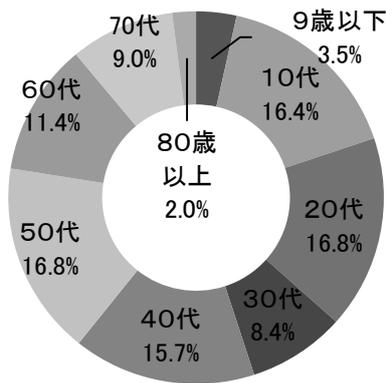
平常展（名品ギャラリー） アンケート集計結果

開催期間：令和元年7月2日（火）～令和元年9月16日（月・祝）、令和2年1月3日（金）～令和2年2月26日（水） 開館日数：115日間

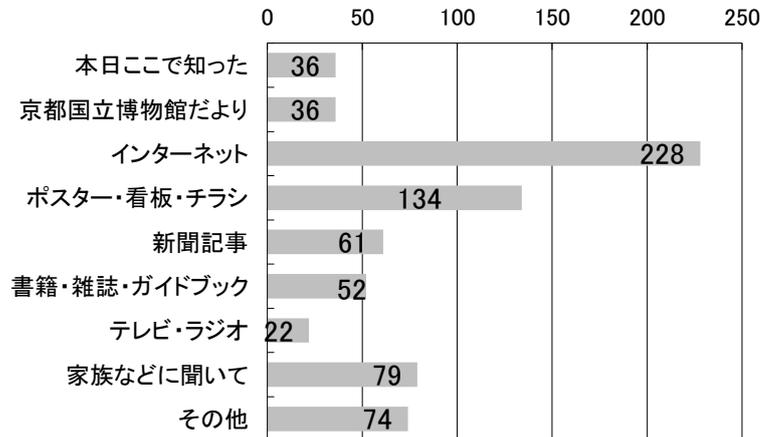
回答者数：546人

来館者数：158,533人（平常展開催期間のみ）

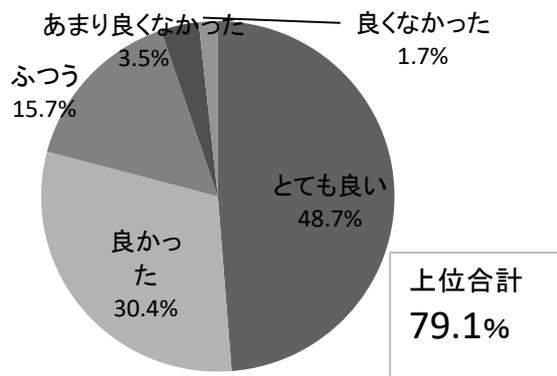
①アンケート回答年齢層



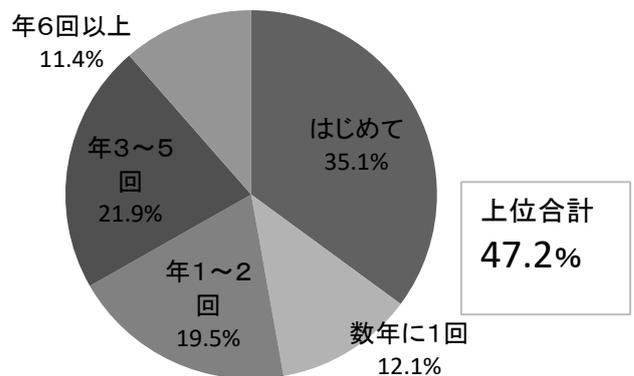
②認知経路（複数回答）



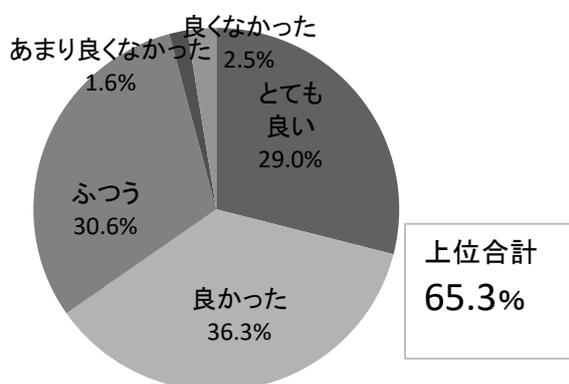
③展示に関する満足度



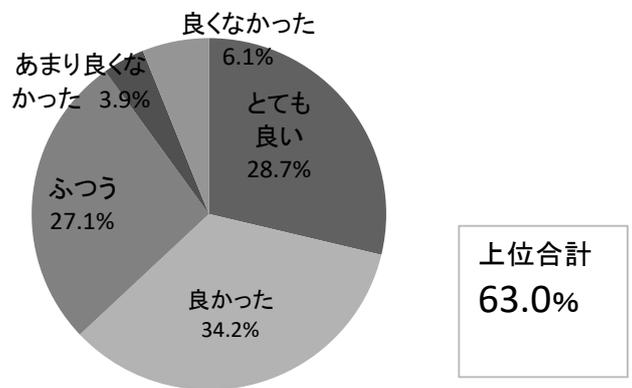
④来館頻度



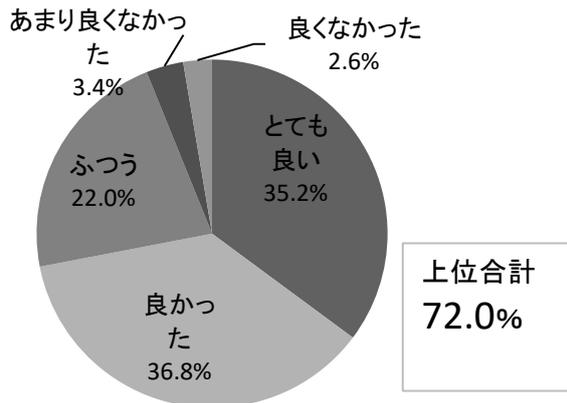
⑤ミュージアムショップに対する満足度（元年度）



⑥レストランに対する満足度（元年度）



⑦館内スタッフの対応について(元年度)



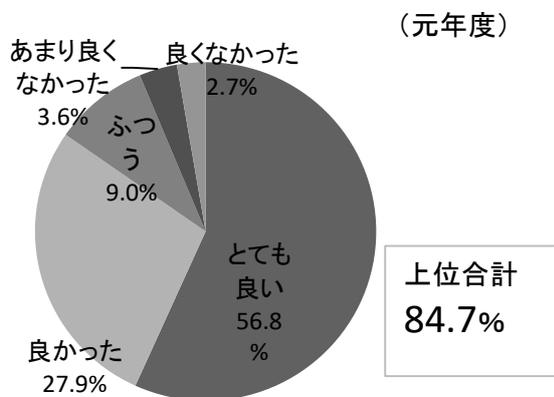
主な意見・感想

- ・これからも色々見てみたいと意欲が湧いた
- ・夜間開館はありがたい
- ・展示数が丁度良い
- ・トラリんの対応がよかった
- ・人が多くゆっくり見られなかった
- ・写真撮影が出来ない事をもっと明記してほしい

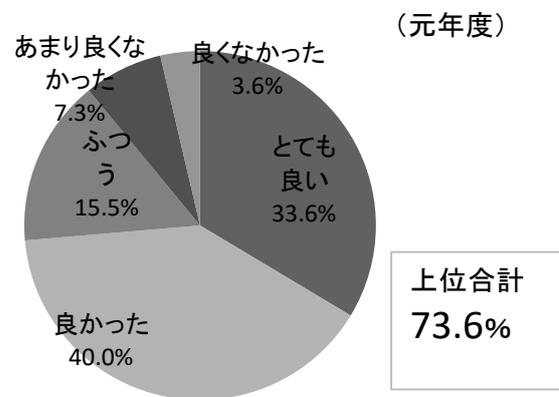
《外国人アンケート集計結果》

回答者数：113人

1. 平常展示の全体的な印象について



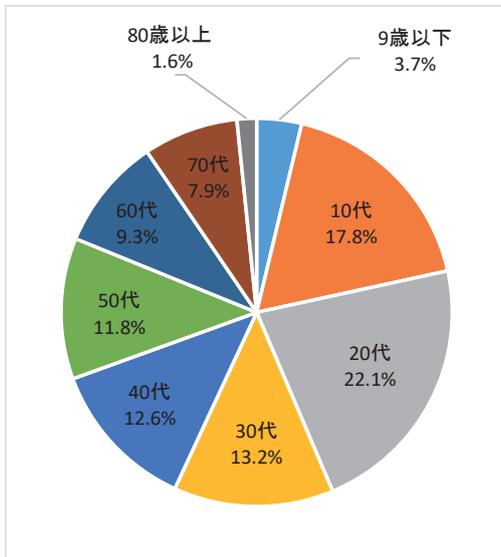
2. 解説について



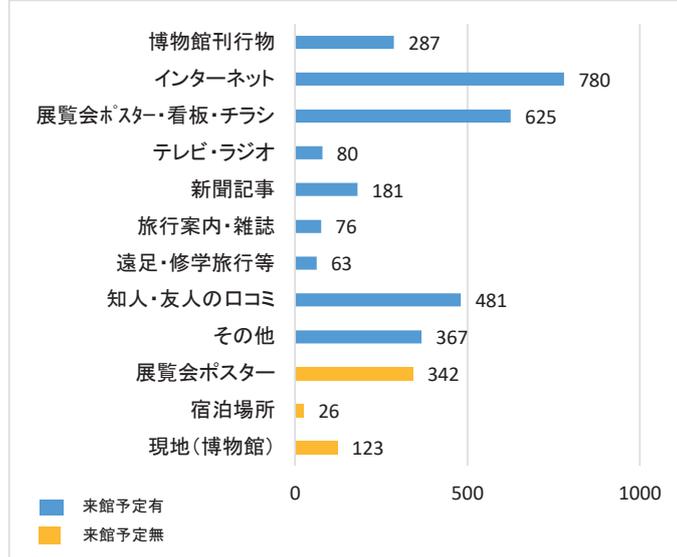
平常展（名品展） アンケート集計結果

開催期間：平成31年4月1日（月）～令和2年2月26日（水） 開館日数：290日間
 回答者数：2,234人（来館者数：612,755人 アンケート回収率：0.36%）

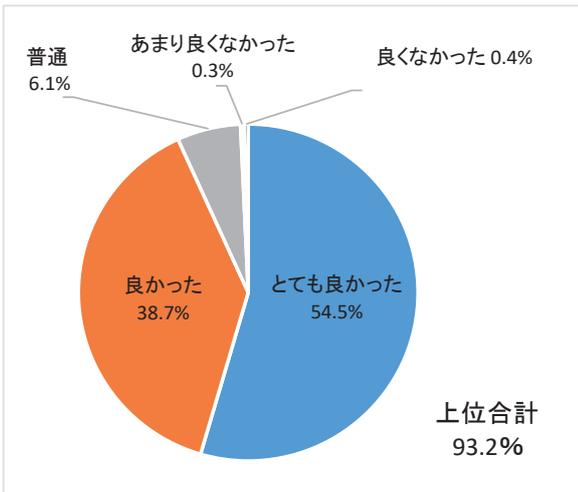
①年齢層



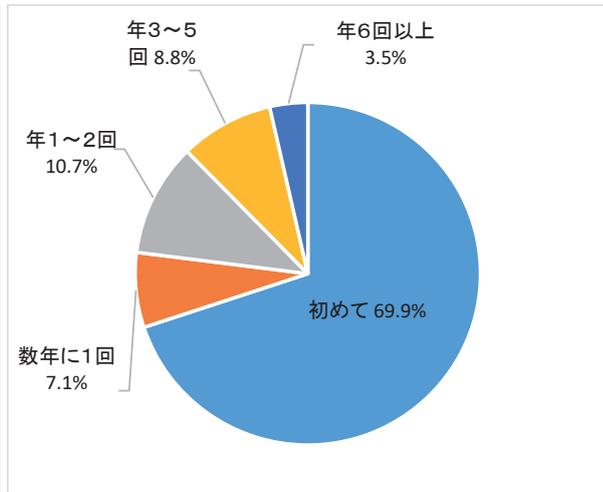
②認知経路（複数回答）



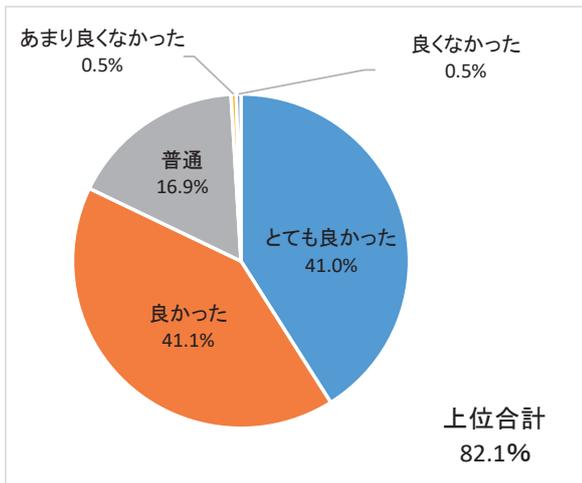
③展示に関する満足度



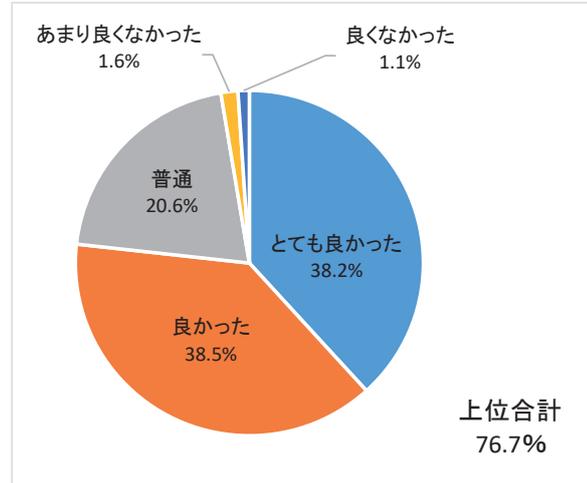
④来館頻度



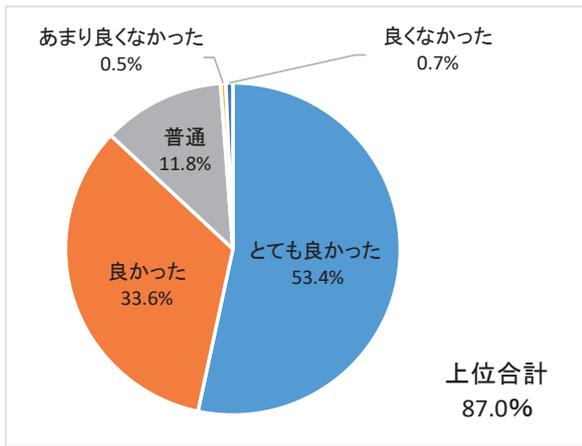
⑤ミュージアムショップに対する満足度



⑥レストランに対する満足度



⑦スタッフ対応に関する満足度



⑧主な意見・感想

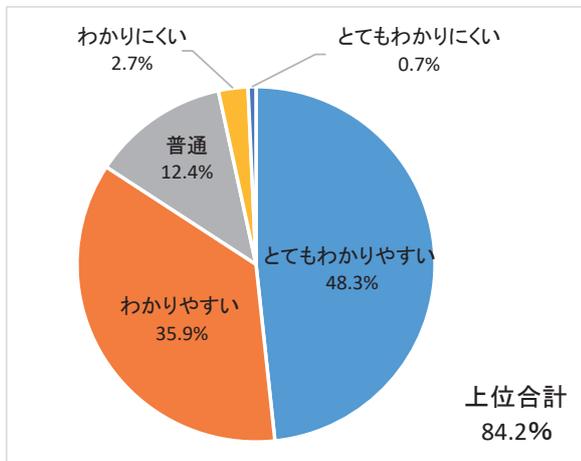
- ・いろんな種類の仏像を見ることが良かった。
- ・照明の明るさが良い。
- ・仏像館の順序が少し分かりにくかったです。
- ・かわいかった。
- ・上手にまとまっていたから。
- ・解説が1つ1つ丁寧に為されており、作品も豊富にあったため。

《外国人アンケート集計結果》

回答者数: 265人

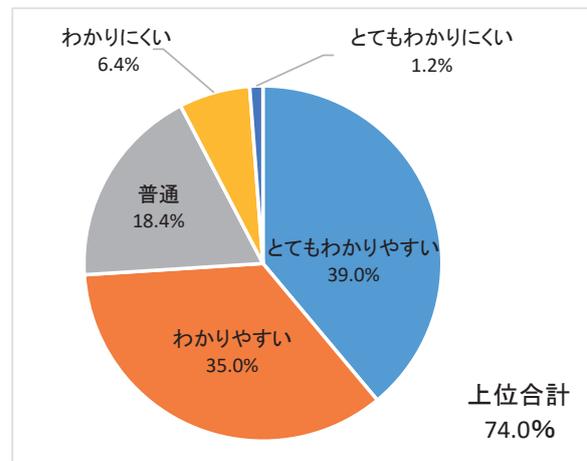
1. (外国人アンケート)

施設の案内・説明・看板について



2. (外国人アンケート)

展示のパネル・キャプションについて



主な意見・感想

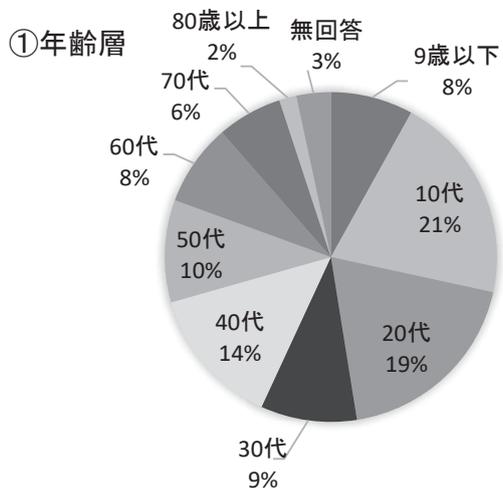
- ・展示を気に入りました。ありがとう。
- ・長い歴史を持つとても興味深い古美術品でした。
- ・素晴らしい展示でした。子供にとっても、とても面白かったです。
- ・展示品が多ければより良くなると思います。
- ・もっと展示品に関する説明をお願いします。
- ・照明と展示は素晴らしかったです。英語の説明文に関しては短く、内容も薄いと思います。

文化交流展 アンケート集計結果

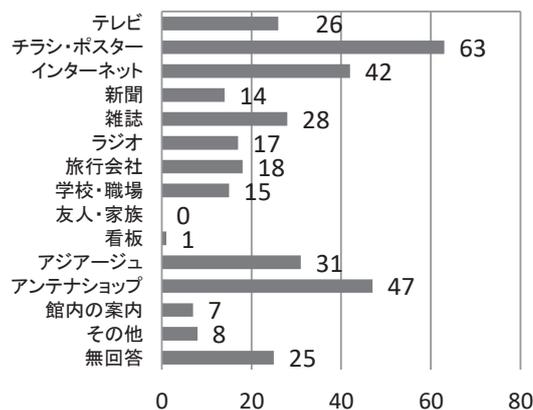
開催期間：平成31年4月1日(月)～令和2年3月31日(火) 開館日数：279日間

※2年2月27日～3月31日までコロナウイルス感染拡大防止対策のため閉館。

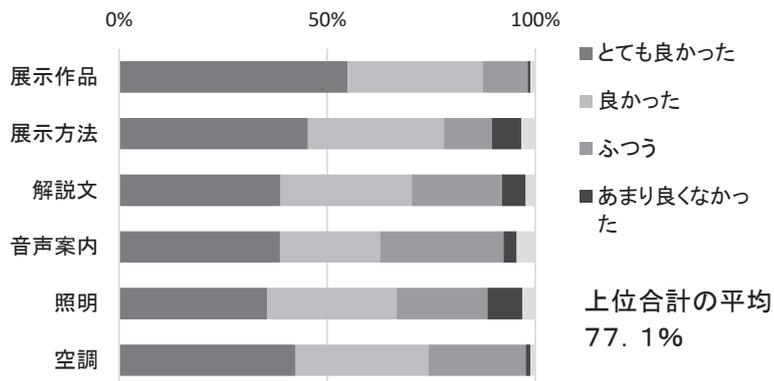
回答者数：299人 来館者数：348,563人 アンケート回収率：0.09%



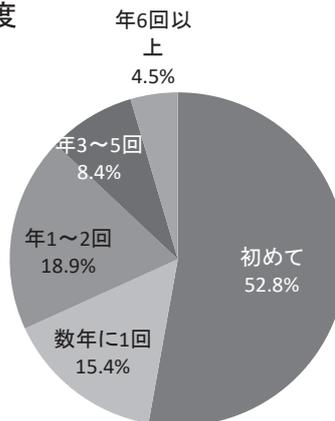
②認知経路(複数回答)



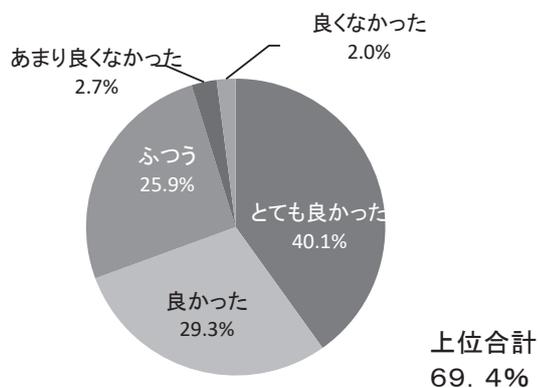
③展示に関する満足度



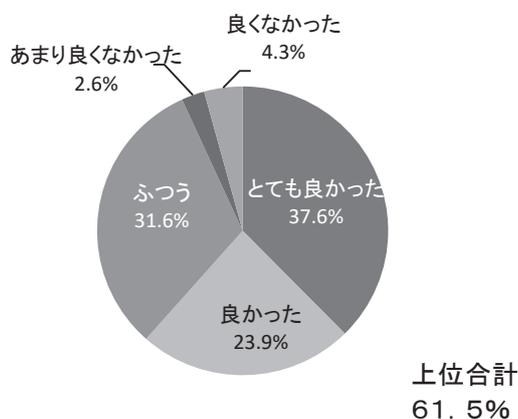
④来館頻度



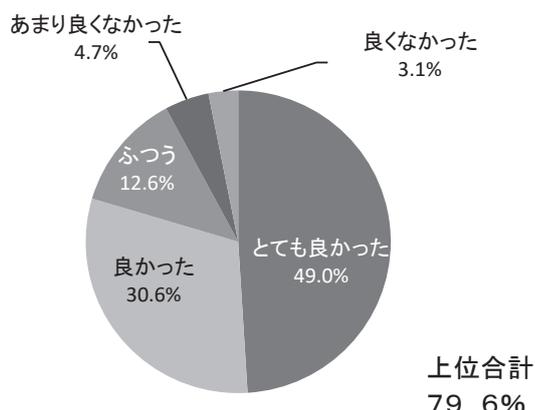
⑤ミュージアムショップに対する満足度



⑥レストランに対する満足度



⑦館内スタッフの対応について



主な意見・感想

江戸期までの文化財が時代ごとに分けられていてわかりやすかった。

びじゅチューンとのコラボが大人でも楽しめる。

スタッフの声掛けや案内がとても丁寧で笑顔で対応してくれた。

手話通訳が付いたので良く理解できた。他にはないので正直おどろいた。駐車場に入る時から障がい者に対する理解があってビックリした。

写真を撮れるようにしてほしい。

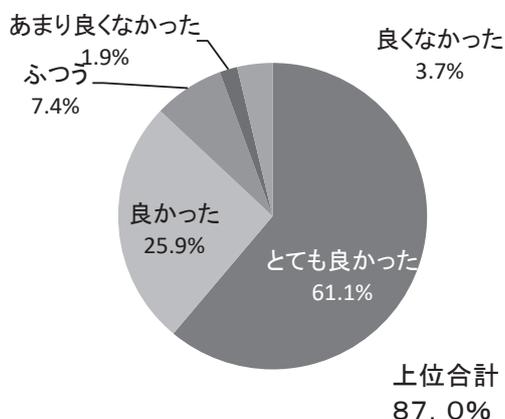
コースが明示されていないので展示品を見づらい。

もう少し部屋が明るい方がいい。

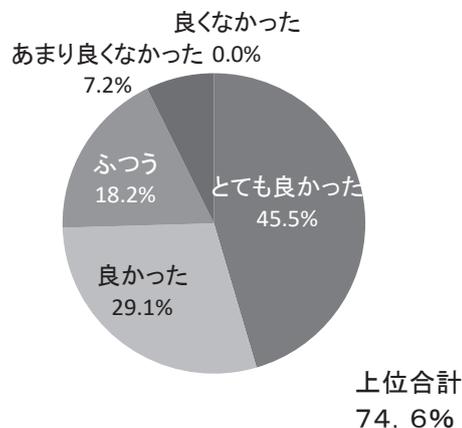
《外国人アンケート集計結果》

回答者数: 50人

1. (外国人アンケート) 施設の案内・説明・看板について



2. (外国人アンケート) 展示のパネル・キャプションについて



主な意見・感想

英語を話すスタッフが丁寧に案内してくれ、とても素晴らしかった。

この展示が見られたことを本当にうれしく思う。

韓国語の無料オーディオガイドがあって良かった。ただ、番号や案内が鑑賞の流れと繋がっていないように感じた。

中国語の詳しい作品解説があることに、非常に感謝する。

九州国立博物館と中国の博物館との交流がより盛んになれることを期待している。

解説文は、外国語でも日本語と同じくらい詳しく説明してほしい。

日本の歴史の基本的な流れの解説があると、展示を見るうえで役に立ったと思う。

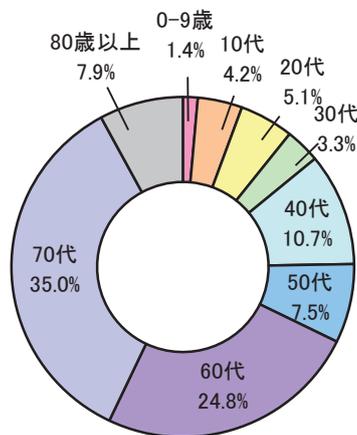
特別展 御即位30年記念「両陛下と文化交流—日本美を伝える—」

アンケート集計結果

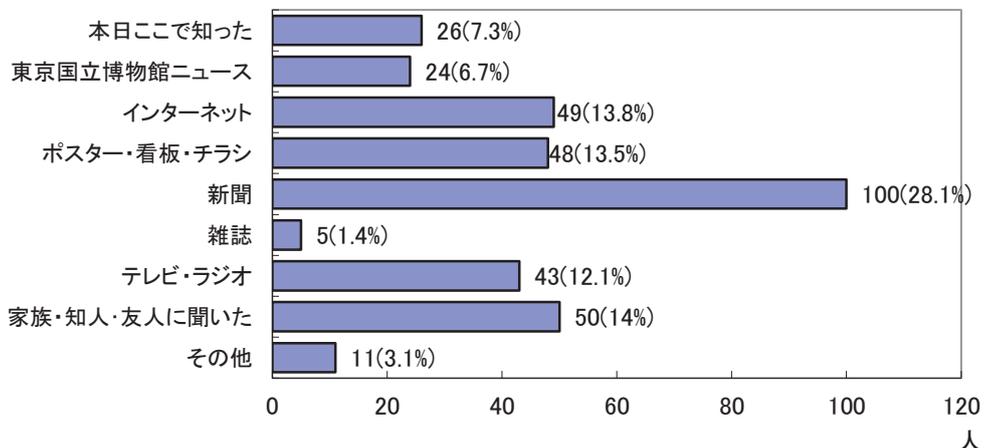
開催期間：平成31年3月5日（火）～平成31年4月29日（月）（50日間）

回答者数：235人（総入館者数：122,764人 アンケート回収率：0.19%）

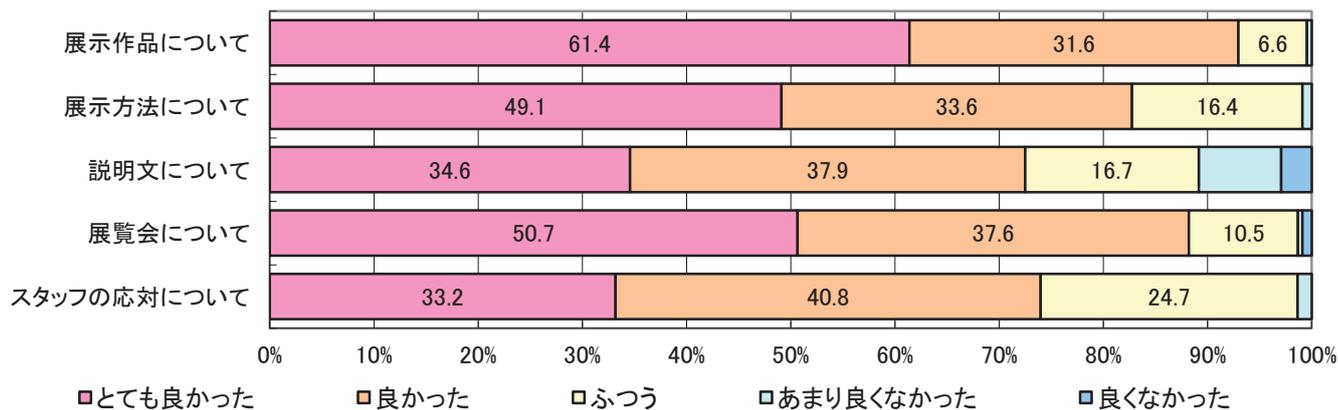
①アンケート回答年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



注：上記数字は以下の通り

	あまり良くなかった	良くなかった
展示作品	0.4	0.0
展示方法	0.9	0.0
説明文	7.9	2.9
展覧会	0.4	0.9
スタッフの対応	1.3	0.0

(%)

④主な意見・感想

- ・天皇の退位に際し改めて皇室の歴史資料の豊富なこと、日本人のルーツを知る機会を得た。
- ・音声ガイドが聞き取りやすく、説明がわかりやすかった。
- ・特別展が本館で開催されたことに感謝する。
- ・展示室内に休憩の出来る椅子が欲しい。

本展は、「日本美を守り伝える『紡ぐプロジェクト』—皇室の至宝・国宝プロジェクト—」の一環として開催された特別展です。宮内庁が所管する皇室ゆかりの作品の中から、天皇陛下御即位の儀式に際して東山魁夷、高山辰雄が平成2年(1990)に制作した「悠紀・主基地方風俗歌屏風」や、天皇皇后両陛下が外国御訪問の際にお持ちになって紹介された作品などを展示したものです。

両陛下がお伝えになった日本文化を通して、海外の様々な人々が、わが国への理解と交流を深めてきました。御即位30年という記念すべき年に、両陛下が担われた文化交流についてご紹介した本展覧会には、12万人を超える方々に御覧いただきました。

アンケートの結果、展覧会に対して88.3%の方から「とても良かった」「良かった」との好意的な意見をいただくことができました。その一方で、「展示室内に休憩する場所がほしい」「展示が少ない」とのご意見もいただきました。

今後も来館者の皆様よりお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めて参ります。

特別展「東寺」アンケート集計結果

本展のアンケート集計につきまして、機材トラブルにより、タッチパネルによるデータを集計することが出来ませんでした。そのため、自由記載によるご意見を基に集計したものを公表いたします。ご協力をいただきました皆様には大変申し訳ございませんでした。

開催期間 平成31年3月26日（火）～令和元年6月2日（日）62日間

回答者数 505人（総入館者数463,991人、回収率0.1%）

1. アンケート結果分類

① 好評とされた意見（計410人）	② 不評・要望とされた意見（計95人）
展示・作品 386人	説明文・キャプション 27人
音声ガイド 14人	展示・作品 23人
説明文・キャプション 7人	観覧者のマナー 15人
照明 1人	照明 6人
待遇 1人	観覧料 5人
その他 1人	待遇 5人
	グッズ販売 2人
	その他 12人

2. 主な意見・感想

- ・立体曼荼羅を中心に貴重な文化財を一堂に見ることが出来た。
- ・仏像の背後まで見ることが出来て感激した。
- ・解説文がわかりやすかった。
- ・写真撮影の音が煩くて集中出来なかった。
- ・混雑していて、ゆっくり鑑賞することが出来なかった。
- ・展示室が暗くキャプションが見え難かった。

3. 総括

本展は、空海にまつわる数々の名宝をはじめ、東寺に伝わる文化財の全貌を紹介したものです。空海が作り上げた曼荼羅の世界を体感できる講堂安置の21体の仏像からなる立体曼荼羅のうち、史上最多となる国宝11体、重文4体、合計15体が出品し、ほか彫刻、絵画、書跡、工芸など密教美術の最高峰が一堂に会しました。東寺が1200年にわたり、空海の教えとともに守り伝えてきた至宝をご堪能いただいた当展覧会は、46万人を超える方に御覧いただきました。

アンケートの結果、展覧会に対して81%の方から好意的な意見をいただくことができました。その一方で、撮影に対する運営方法や来館者のマナーに対するご意見もいただきました。

今回は、アンケートの集計にあたり機材トラブルが発生したことで、ご協力を頂きました皆様には大変申し訳ございませんでした。今後は、同様のトラブルへの対策を講じると共に、来館者の皆様よりお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めて参ります。

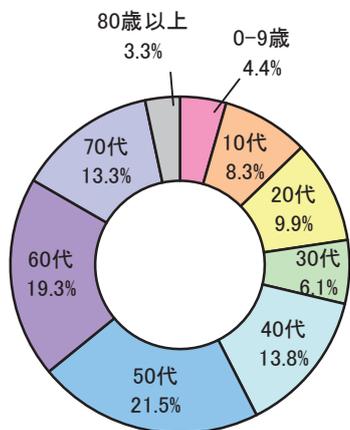
特別展「美を紡ぐ 日本美術の名品 —雪舟、永徳から光琳、北斎まで—」

アンケート集計結果

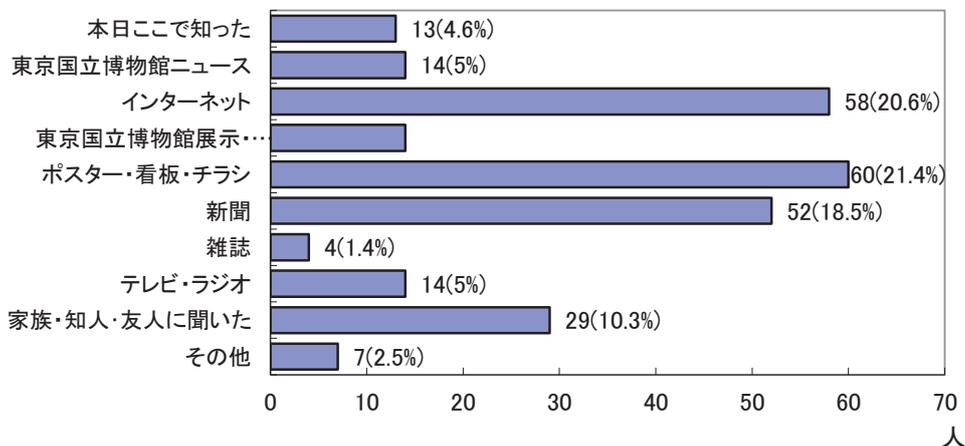
開催期間：令和元年5月3日（金）～令和元年6月2日（日）（27日間）

回答者数：194人（総入館者数：106,593人 アンケート回収率：0.18%）

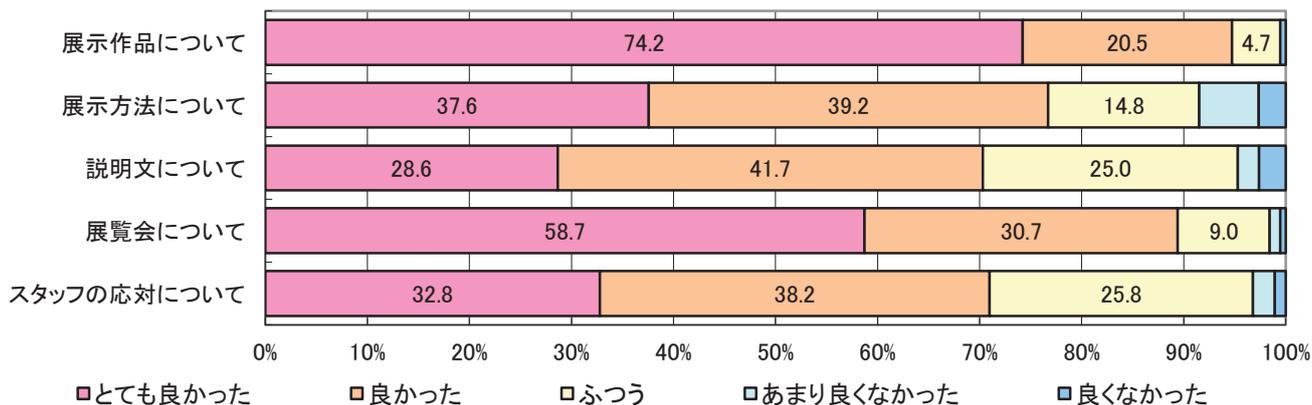
①アンケート回答年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

- ・思っていた以上に素晴らしい作品が多く、再度鑑賞できたものもありよかった。特に唐獅子図屏風の観覧ができよかった。
- ・日本美術を総合的に見ることができ、興味を持てる分野を探せて良かった。
- ・展示室が狭く、空調も他の展示室に比べ適温ではなかった。
- ・展示室の観覧の順番、作品の観覧の順番がわかりにくい。
- ・観覧料金が高い。

注：上記数字は以下の通り

	あまり良くなかった	良くなかった
展示作品	0.0	0.5
展示方法	5.8	2.6
説明文	2.1	2.6
展覧会	1.1	0.5
スタッフの対応	2.2	1.1

(%)

本展は、「日本美を守り伝える『紡ぐプロジェクト』—皇室の至宝・国宝プロジェクト—」の一環として開催された特別展です。皇室ゆかりの名品である狩野永徳筆「唐獅子図屏風」と、永徳最晩年の作である国宝「檜図屏風」を、同時公開するのに加えて、雪舟、尾形光琳、葛飾北斎らの名品を一堂に紹介した当展覧会には、27日の短い会期中に10万人を超える方に御覧いただきました。

アンケートの結果、展覧会に対して89.4%の方から「とても良かった」「良かった」との好意的な意見をいただくことができました。また、当初予定前期後期で展示替えを予定していた展示品を通期で展示することになり、日本美術の名品を総合的にみることができてよかったなどの好意的なご意見をいただくこともできました。

その一方で、本展覧会は本館1、2階を変則的に使用したことから、「観覧の順番がわかりにくい」「1階と2階の移動が大変」とのご意見もいただきました。

今後も来館者の皆様よりお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めて参ります。

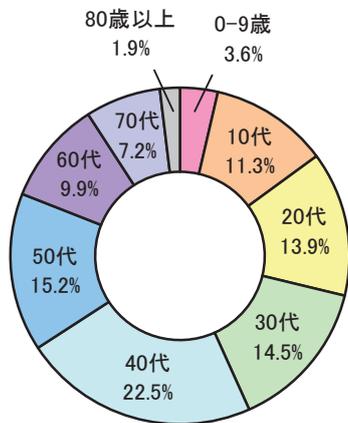
日中文化交流協定締結40周年記念 特別展「三国志」

アンケート集計結果

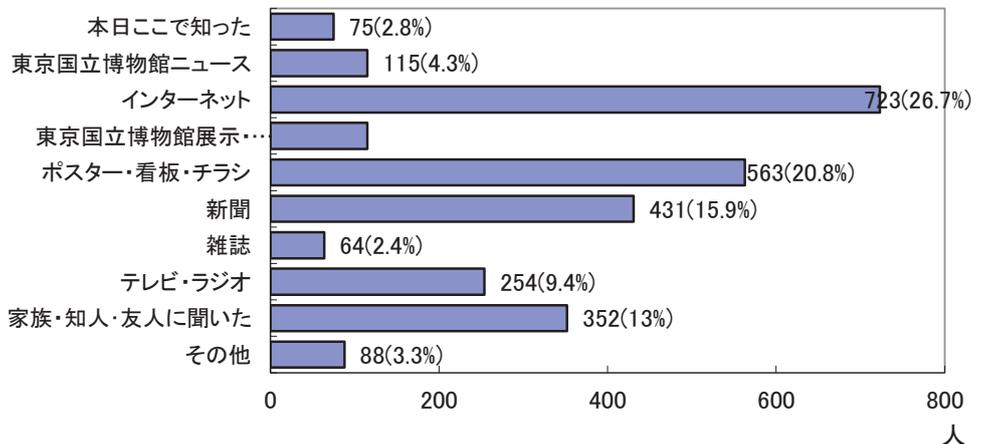
開催期間：令和元年7月9日（火）～令和元年9月16日（日）（62日間）

回答者数：1,823人（総入館者数：3,377,639人 アンケート回収率：0.54%）

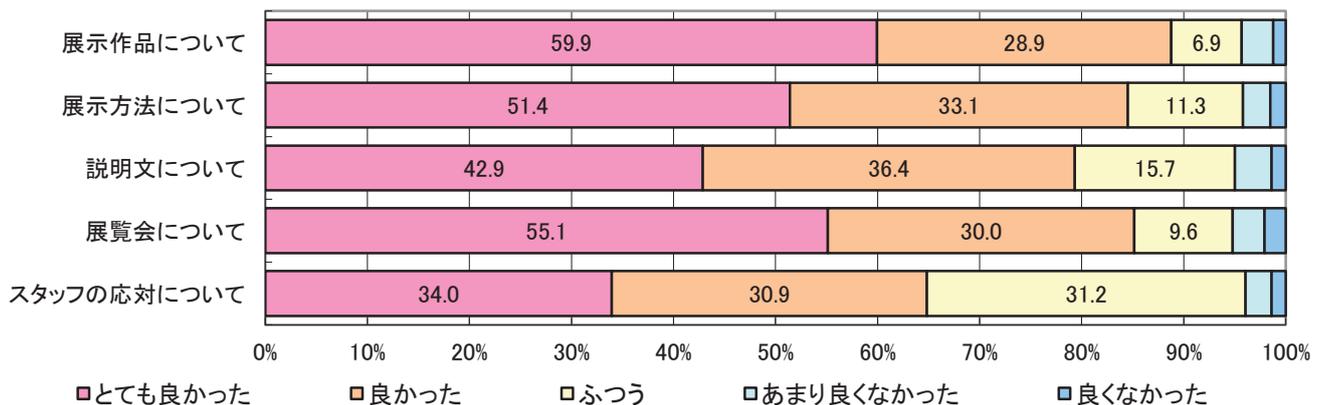
①アンケート回答年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

- ・空間演出、実物展示双方の迫力があり、素晴らしい展覧会だった。
- ・特定の分野への偏りが少なく、演義、考古学研究の成果、関帝信仰等バランスのとれた展示品、解説で大変満足した。
- ・現地でも観覧がし辛い曹操高陵の文物を見ることができ、大変良かった。
- ・音声ガイドの内容を、CDなどで販売してはどうか。

注：上記数字は以下の通り

	あまり良くなかった	良くなかった
展示作品	3.1	1.2
展示方法	2.7	1.5
説明文	3.6	1.4
展覧会	3.1	2.1
スタッフの対応	2.6	1.4

(%)

本展は、「リアル三国志」を合言葉に、漢から三国の時代の文物を最新の成果によって読み解きました。2世紀末、漢王朝の権威がかげりをみせるなか、各地の有力武将が次々に歴史の表舞台へと躍り出ました。そうして魏、蜀、呉の三国が天下を分かち、新時代へと向かう大きなうねりとなりました。近年、三国志をめぐる研究は曹操高陵（そうそうこうりょう）の発掘など空前の活況を呈しています。それらは実物ならではの説得力と、歴史書や物語をしのご迫力があります。こうした考古資料を多く展示した今回の特別展では、当展覧会には、30万人を超える方に御覧いただきました。

アンケートの結果、展覧会に対して85.1%の方から「とても良かった」「良かった」との好意的な意見をいただくことができました。

その一方で、撮影可能な範囲が多いことによる音や滞留を抑えてほしいという意見や、館内の空調が効きすぎて寒いのご意見もいただきました。また、図録の電子書籍化、音声ガイドの販売を求めのご意見もいただきました。

今後も来館者の皆様よりお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めて参ります。

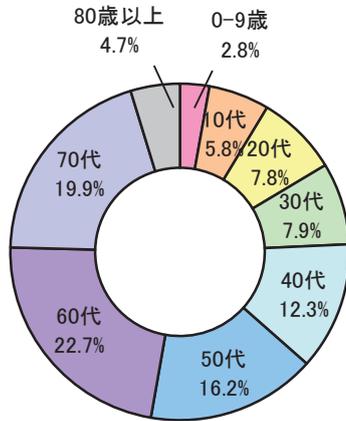
正倉院の世界-皇室がまもり伝えた美-

アンケート集計結果

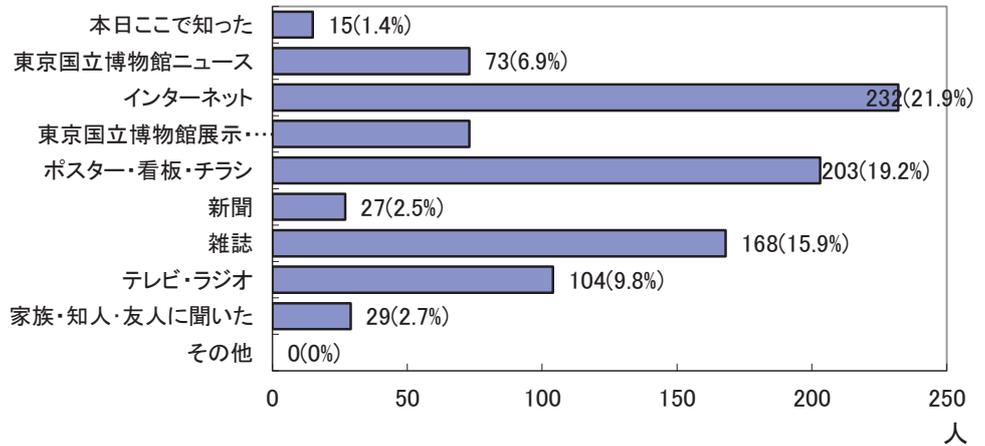
開催期間：令和元年10月13日（日）～令和元年11月24日（日）（37日間）

回答者数：662人（総入館者数：362,076人 アンケート回収率：0.18%）

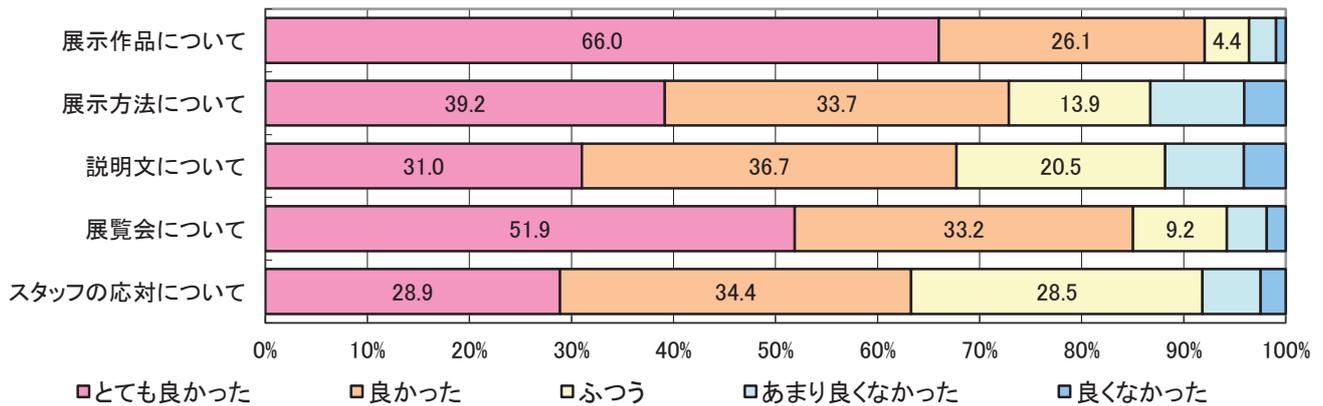
①アンケート回答年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

- ・展示の構成、流れが考えられていて素晴らしかった。
- ・模造品、修復の様子展示、琵琶の音の公開がよかった。
- ・展示物を周囲から観覧できるのがよかった。
- ・音声ガイドの声や内容が大変よかった。
- ・お香の香りを体験できるスペースがあるとよかった。
- ・展示室がやや暗く、説明文が読みづらかった。
- ・写真撮影禁止の案内が見難い。

注：上記数字は以下の通り

	あまり良くなかった	良くなかった
展示作品	2.7	0.9
展示方法	9.2	4.1
説明文	7.7	4.1
展覧会	3.9	1.9
スタッフの対応	5.7	2.4

(%)

本展は、天皇陛下の御即位を記念し、正倉院宝物と法隆寺献納宝物という、飛鳥・奈良時代の国際色豊かな造形文化に焦点を当てた展覧会でした。また、令和元年の本年にこそふさわしい、日本文化を世界に発信する展覧会でした。皇室が守り伝えたかけがえのない日本の美を多く展示した当展覧会は、30万人を超える方に御覧いただきました。

アンケートの結果、展覧会に対して85.1%の方から「とても良かった」「良かった」との好意的な意見をいただくことができました。

その一方で、展示室がやや暗く、説明文が読み難い、写真撮影禁止の案内がわかり難い、展示品の香りが体験できるスペースがあるとよかったなどのご意見をいただきました。

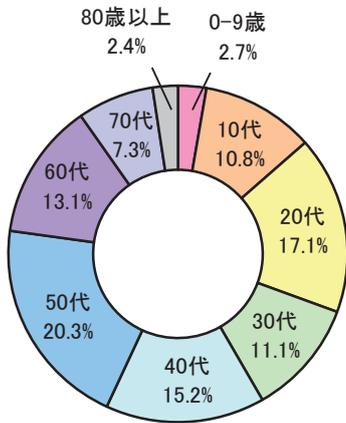
今後とも来館者の皆様よりお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めて参ります。

人、神、自然ーザ・アール・サーニ・コレクションの名品が語る古代世界ー

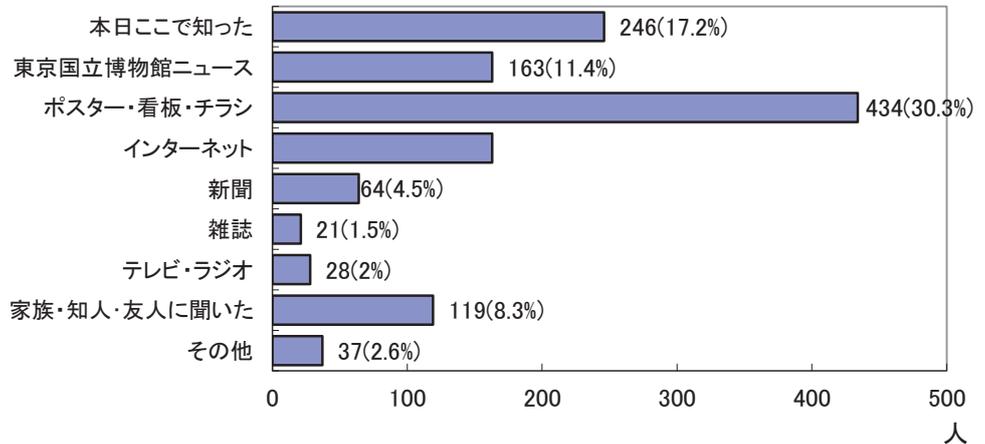
アンケート集計結果

開催期間：令和元年11月6日（水）～令和2年2月9日（日）（77日間）
 回答者数：1,087人（総入館者数：139,737人 アンケート回収率：0.78%）

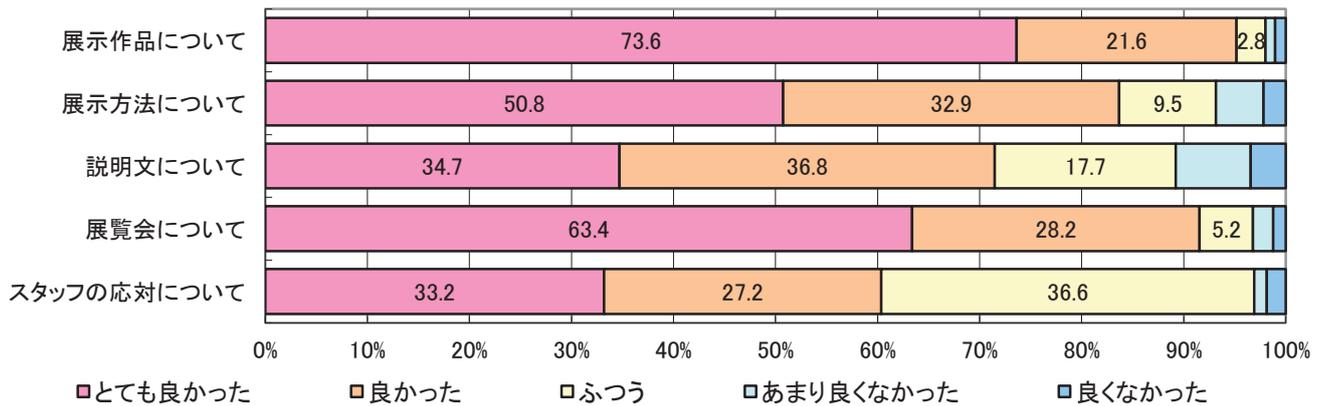
①アンケート回答年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

- ・ライティングがとても良く、展示を際立たせていた
- ・ゆったりした展示空間で鑑賞することができよかった
- ・様々な時代、文明の展示品が同じ空間に陳列されており大変興味深かった
- ・普段見ることのできないギリシャ系の展示品が多く陳列されておりよかった
- ・興味深い作品ばかりなので、写真撮影を許可してほしい

注：上記数字は以下の通り

	あまり良くなかった	良くなかった
展示作品	0.9	1.0
展示方法	4.6	2.2
説明文	7.3	3.4
展覧会	2.0	1.2
スタッフの対応	1.2	1.8

(%)

本展覧会は、カタール国の王族であるシェイク・ハマド・ビン・アブドラ・アール・サーニ殿下が収集されたザ・アール・サーニ・コレクションの中から、「人」「神」「自然」の3つの展示テーマに沿い、世界各地の古代文化が生み出した工芸品117件を厳選してご紹介いたしました。本展覧会は13万人を超える方々にご観覧いただきました。

アンケートの結果、展覧会に対して91.6%の方から「とても良かった」「良かった」との好意的な意見をいただくことができました。「様々な時代、文明の展示品が同じ空間に陳列されており大変興味深かった」「ゆったりとした展示空間で鑑賞することができよかった」「普段見ることのできない地域の展示品が多かった」といったご好評の声を多く賜りました。

一方で「照明が暗く、キャプションの文字が小さいため解説がわかりにくく見づらい」「展示品の陳列のまとまりがわかりにくい」「写真を撮影される方のマナーが悪い」といったご意見も頂戴いたしました。

今後来館者の皆様よりお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めて参ります。

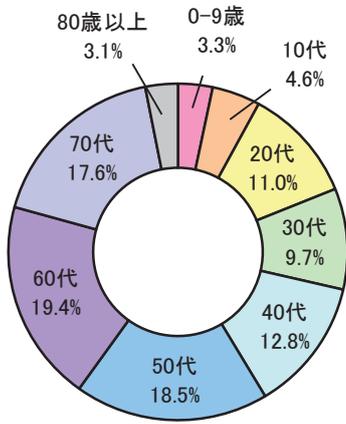
日本書紀成立1300年 特別展「出雲と大和」

アンケート集計結果

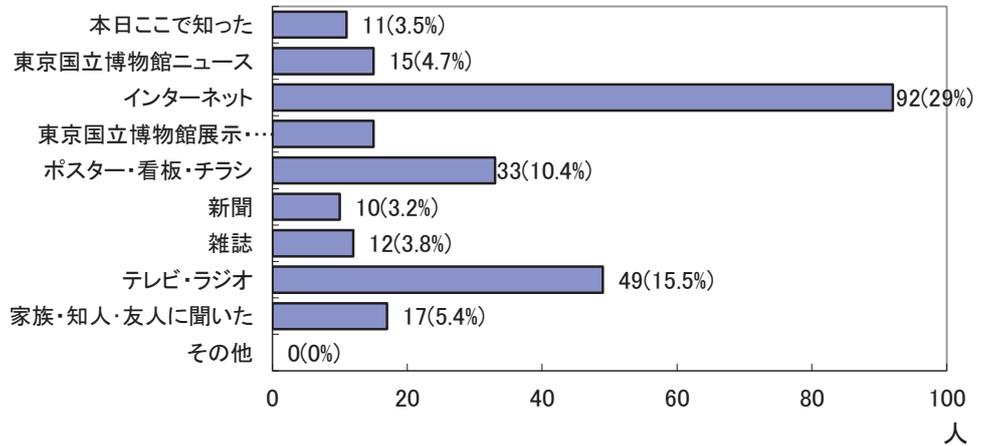
開催期間：令和元年1月15日（火）～令和2年2月26日（日）（37日間）

回答者数：476人（総入館者数：136,054人 アンケート回収率：0.35%）

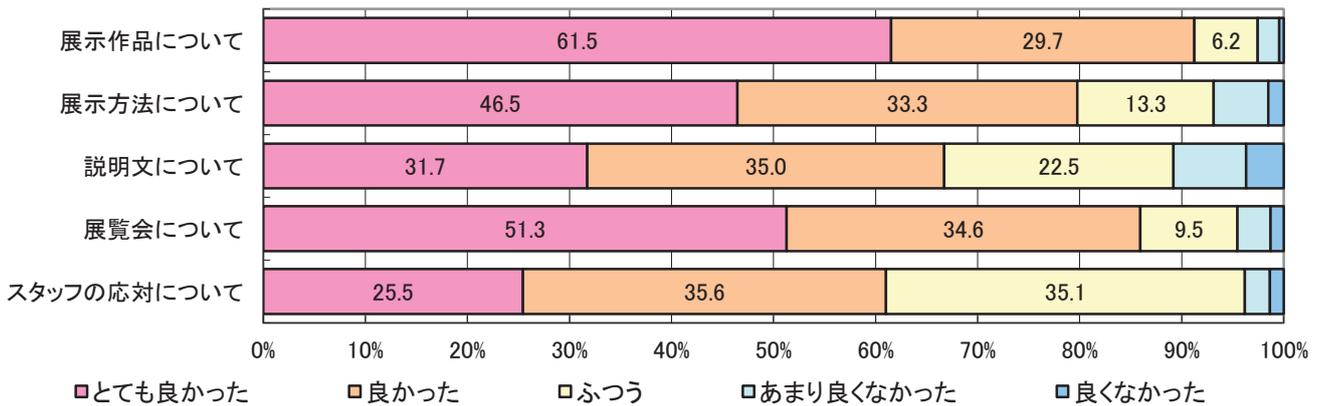
①アンケート回答年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

- ・説明文の冒頭に研究員さんの一言コメントがあるが、とてもいい試みだと思う。大いに参考にさせていただき、楽しめた。
- ・後半の方は椅子が多く、助かった
- ・出雲の展示物と大和の展示物の区別が、キャプションによってつきやすかった。
- ・神話などの物語の側面からの説明が欲しかった
- ・展示品と説明文が離れすぎている

注：上記数字は以下の通り

	あまり良くなかった	良くなかった
展示作品	2.1	0.4
展示方法	5.4	1.5
説明文	7.1	3.7
展覧会	3.2	1.3
スタッフの対応	2.5	1.4

(%)

令和2年(2020)は、我が国最古の正史『日本書紀』が編纂された養老4年(720)から1300年という記念すべき年です。「幽」と「顕」を象徴する地、島根県と奈良県が当館と共同で展覧会を開催し、出雲と大和の名品を一堂に集めて、古代日本の成立やその特質に迫った本展覧会は、13万人以上の方にご来館いただきました。

アンケートの結果、展覧会に対して85.9%の方から「とても良かった」「良かった」との好意的な意見をいただくことができました。

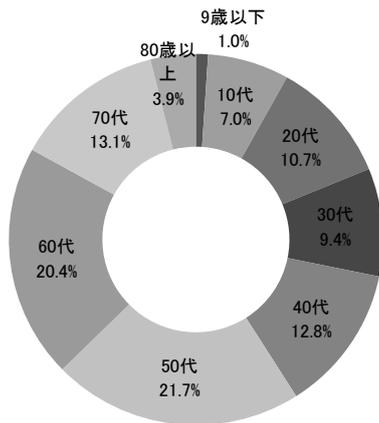
その一方で、展示品と説明文が離れている、照明が暗いなどの理由で文字が見にくいというご意見や、記紀の内容をより説明してほしいというご意見もいただきました。

本展覧会は、政府の要請により、コロナウイルス感染拡大防止のため会期を縮小いたしました。お楽しみにしていた皆様にお詫び申し上げます。今後も来館者の皆様よりお寄せいただきましたご意見・ご感想を参考に、観覧環境のより一層の充実に努めて参ります。

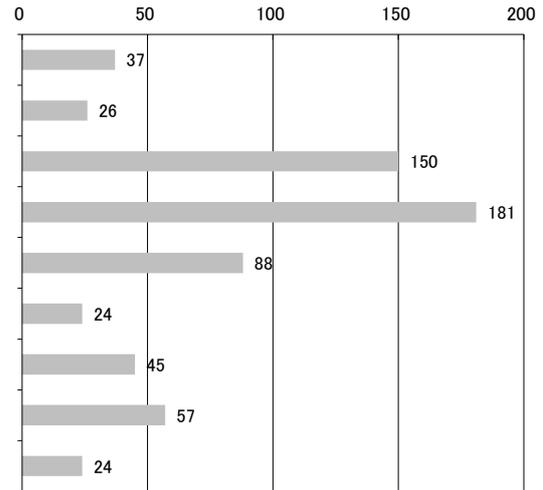
特別展「国宝一遍聖絵と時宗の名宝」 アンケート集計結果

開催期間：平成31年4月13日（土）～ 令和元年6月9日（日）（51日間）
回答者数：477人（総来館者数 66,678人 アンケート回収 0.7%）

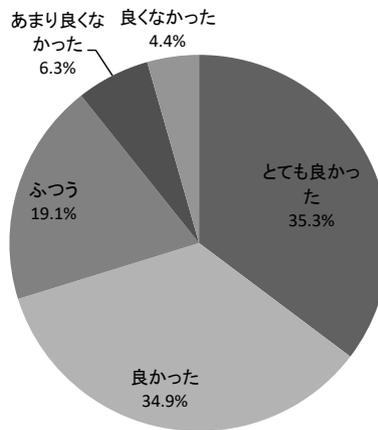
①年齢層



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



アンケート結果の上位合計
(とても良かった+良かった)
70.2%

④主な意見・感想

- ・解説が良い。
- ・もっと勉強したいと思う内容だった。
- ・満足感がある。
- ・詳しく記載してほしい。
- ・平易な言葉で記載してほしい。

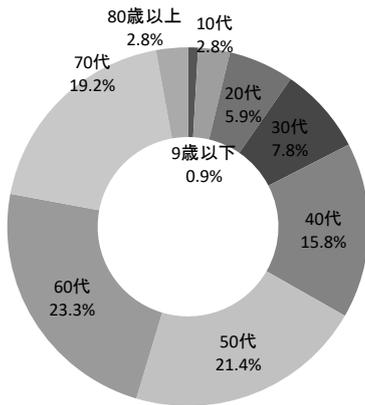
特別展「流転100年 三十六歌仙絵と王朝の美」

アンケート集計結果

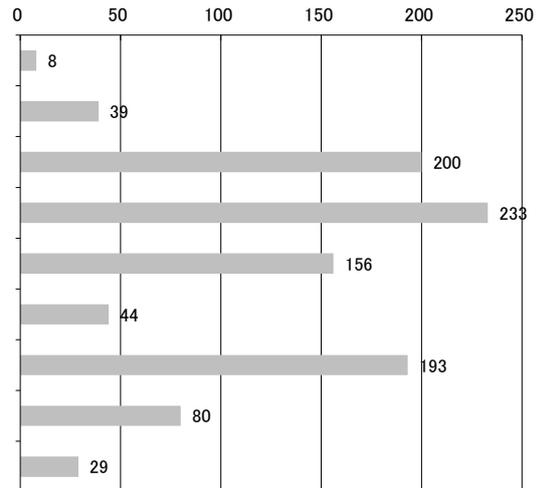
開催期間：令和元年10月12日（土）～ 11月24日（日）（38日間）

回答者数：622人（総来館者数 134,162人 アンケート回収率 0.4%）

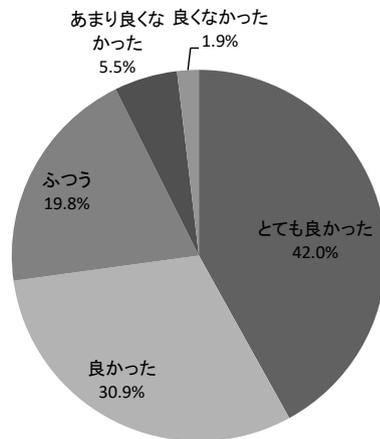
①年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



アンケート結果の上位合計
 （とても良かった+良かった）
72.9%

④主な意見・感想

- ・よかった。
- ・ガラス面の解説が見やすい。
- ・和歌の拡大展示が親切だと思う。
- ・詳しく記載してほしい。
- ・位置が高い。
- ・面白かった。
- ・床の間風の展示が良かった。
- ・展示替えをしないでほしい。

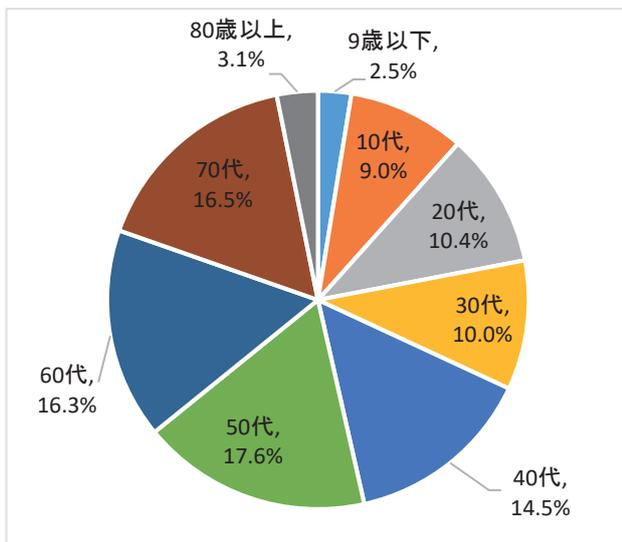
特別展「国宝の殿堂 藤田美術館展」

アンケート集計結果

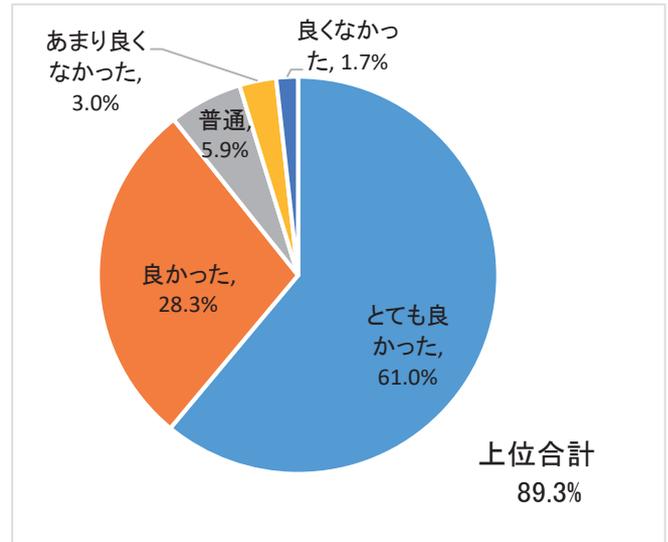
開催期間：平成31年4月13日(土)～令和元年6月9日(日)(51日間)

回答者数：604人 入場者数：158,078人 回収率：0.38%

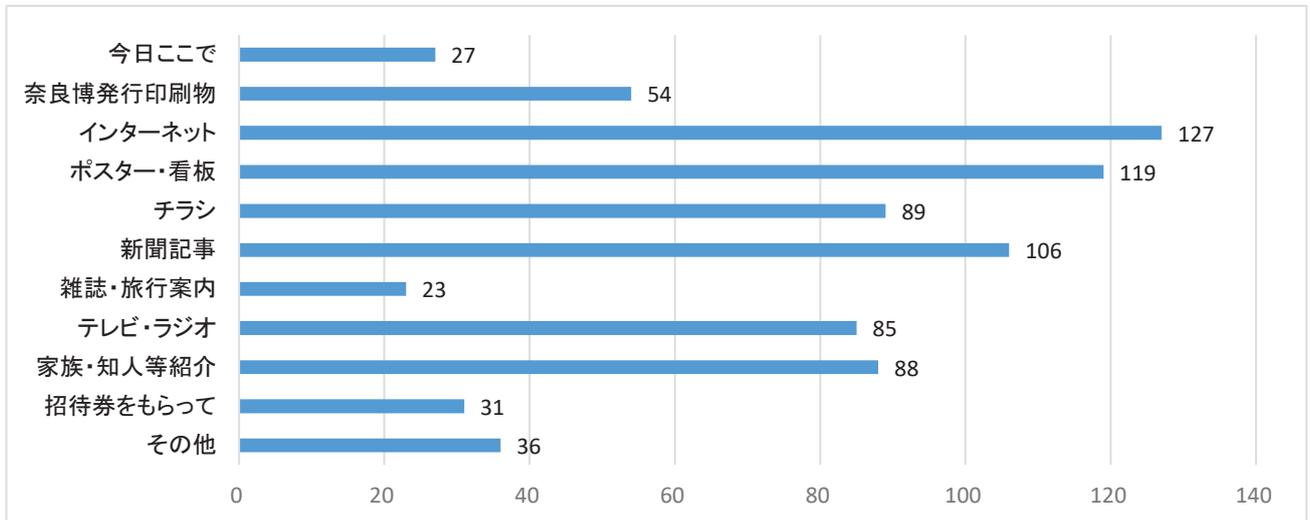
①年齢層



②展示に関する満足度



③認知経路(複数回答あり)



④主な意見・感想

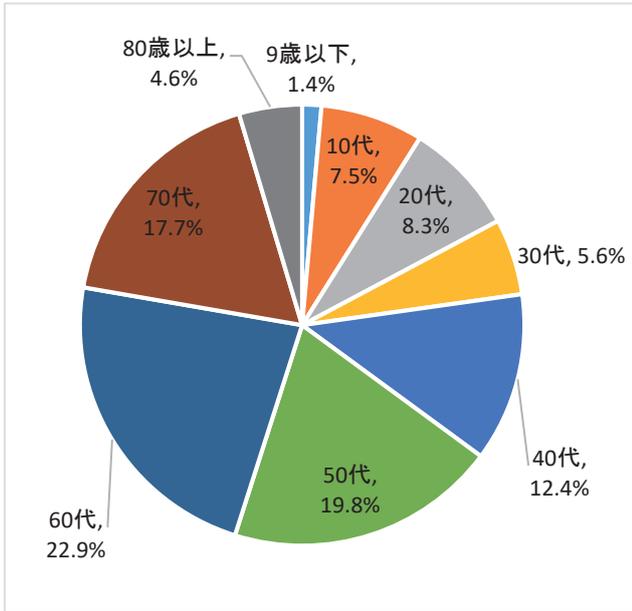
- ・曜変天目茶碗すばらしかった。
- ・天目茶碗の展示の仕方が中側は良いのですが、外側の色が暗くて見えなかった。鏡、明るさを工夫してほしい。
- ・非常に見やすい展示と解説でした。パネルと音声ガイドの内容のバランスも良い様に思えます。
- ・曜変天目の展示室の世界観が美しかったです。絵巻物もストーリーが追いやいやすい場面で良かった。
- ・名品・優品がたくさんあった。文化財として価値の高い物を見る事が出来た。
- ・待ち時間が長い。
- ・全体的に暗い、もっと明るくすべし。

御即位記念 第71回正倉院展

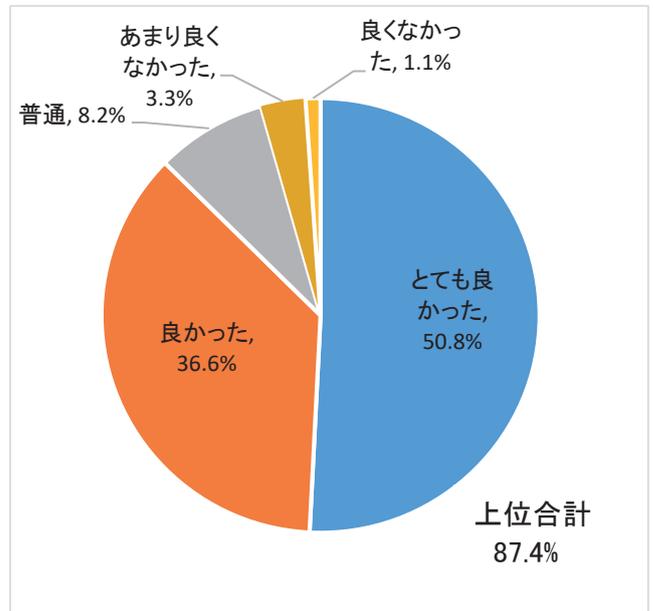
アンケート集計結果

開催期間: 令和元年10月26日(土)～令和元年11月14日(木)(20日間)
回答者数: 1,378人 入場者数: 277,133人 回収率: 0.50%

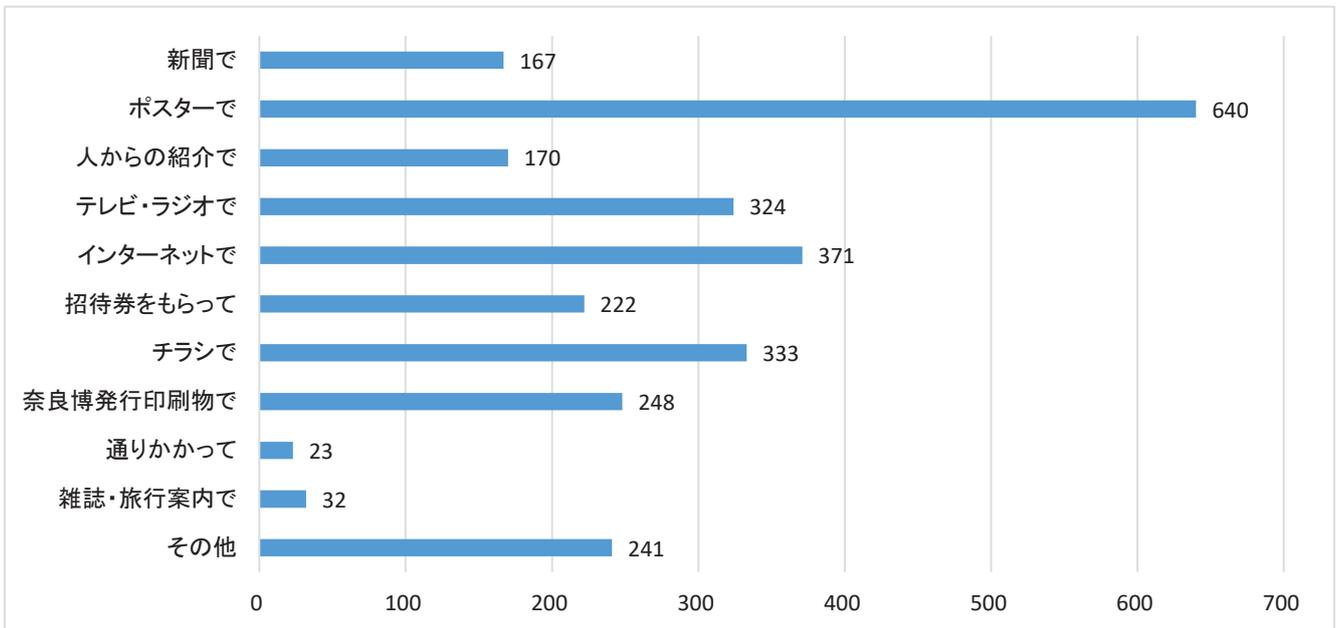
①年齢層



②展示に関する満足度



③認知経路(複数回答あり)



④主な意見・感想

- ・きれいに展示してあり、分かりやすかった。バランスが良い。
- ・近年で一番見応えがありました。
- ・解説文が分かりやすくなった。
- ・写真展示があつて見やすかった。
- ・即位にちなんだ品が素晴らしかった。
- ・人が多すぎる。

特別展「毘沙門天 —北方鎮護のカミ—」

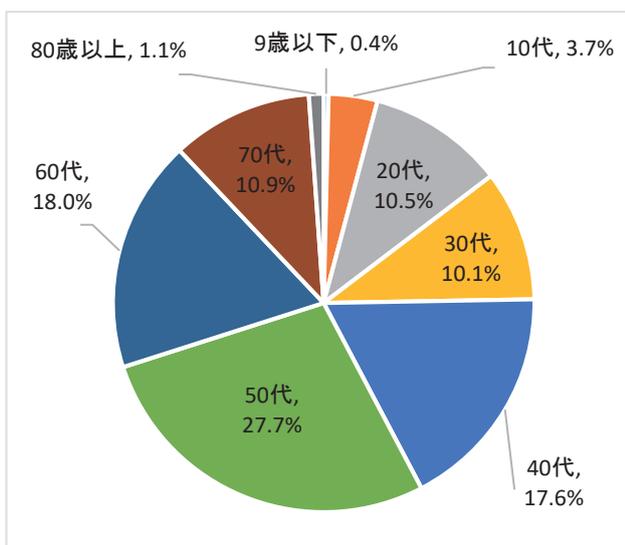
アンケート集計結果

開催期間：令和2年2月4日（火）～令和2年2月26日（水）（20日間）

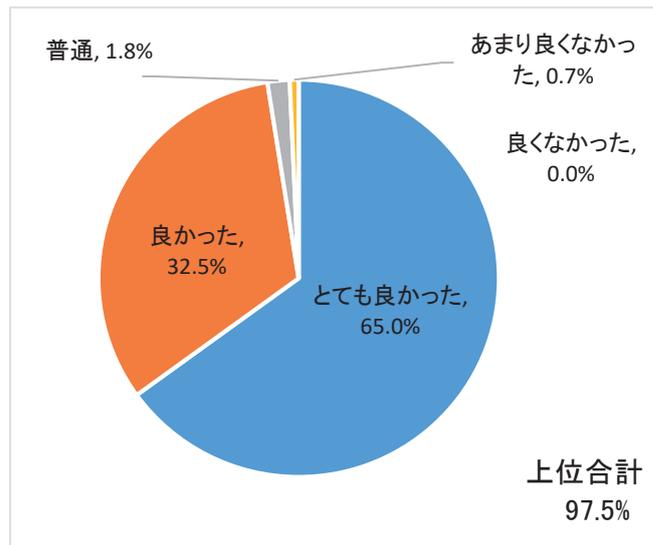
回答者数：311人 入場者数：16,675人 回収率：1.87%

※本来の開催期間は令和2年2月4日（火）～令和2年3月22日（日）であったが、臨時休館のため予定よりも開催期間が短縮された。

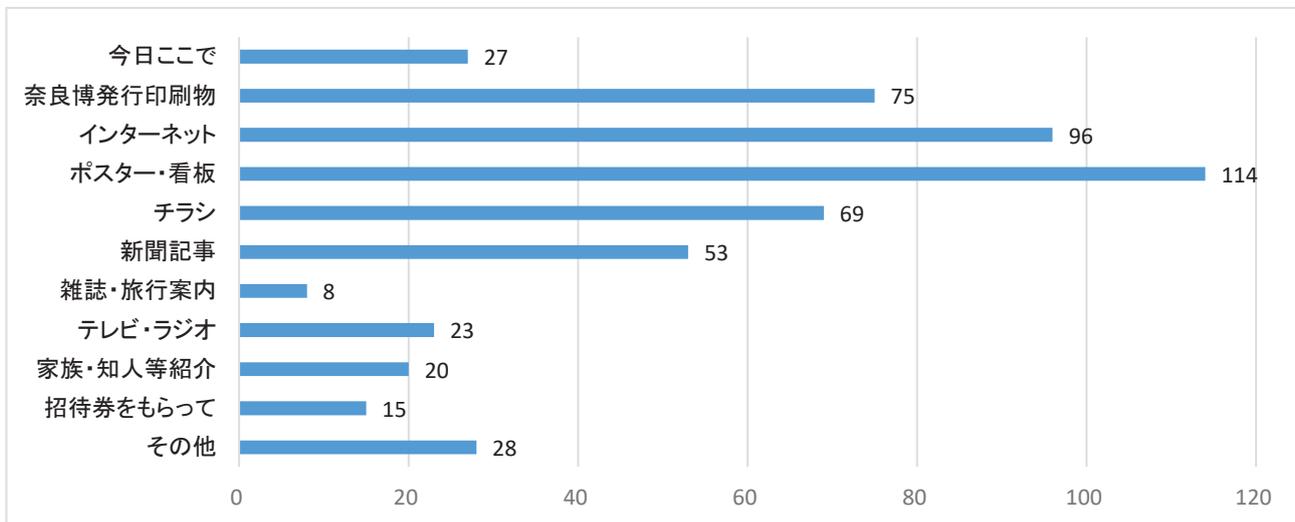
①年齢層



②展示に関する満足度



③認知経路（複数回答あり）



④主な意見・感想

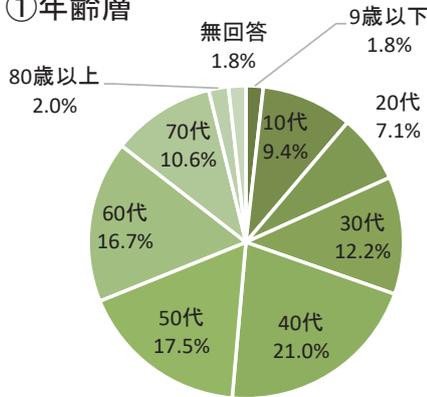
- ・毘沙門天が一度に展示してあるので色々な表情がありよくわかりました。
- ・毘沙門天という特集がとてもおもしろいと思います。
また日本の各地の独特の像を見れるのも新たな発見でおもしろかったです。
- ・みごたえのある企画で良かったと思います。
- ・ひとつのテーマで全国からあつめられた像を見て時代制作者の違いがわかり勉強になった。
- ・四天王の中の毘沙門天との違いや中国からの影響などをもう少し詳しく知りたかった。展示品は良かった。
- ・像の詳細をもっと欲しい。
- ・もうすこし明るくしてほしい。

特別展「京都 大報恩寺 快慶・定慶のみほとけ」 アンケート集計結果

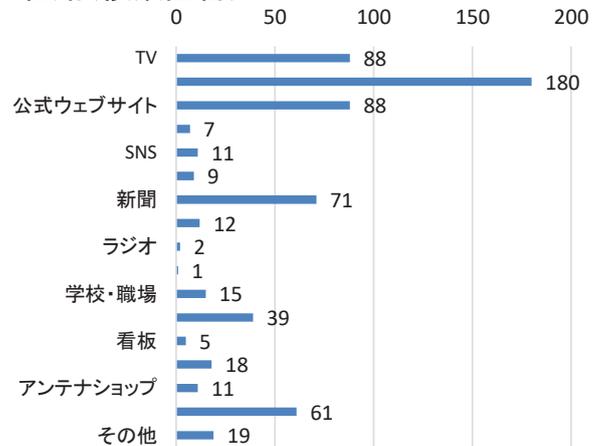
開催期間：4月23日(火)～6月16日(日) (49日間)

総回答者数：406人 (総来館者数：53,524人 アンケート回収率：0.76%)

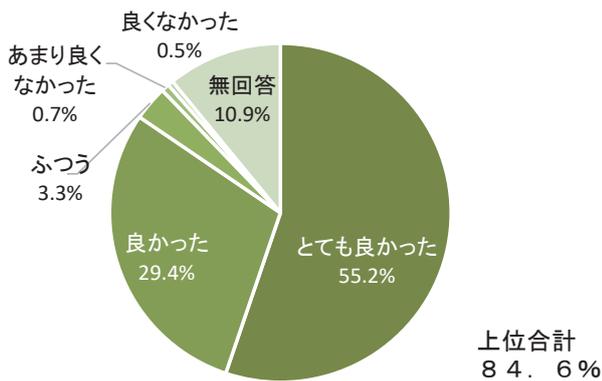
①年齢層



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

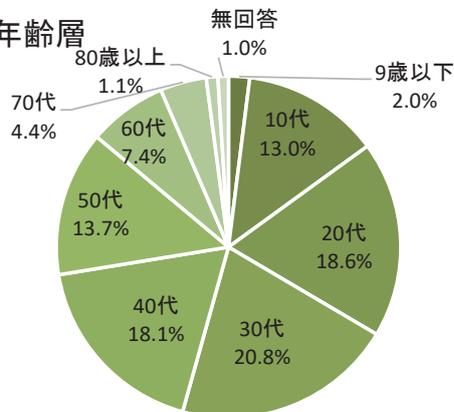
- ・これだけの仏像を一度に見る機会にめぐまれて、大変良かった。京都にもぜひ行きたい。
- ・解説が分かりやすく良かった。普通は仏像を見上げることが多いが、この展覧会では同じ高さで観ることができたのが新鮮で印象。
- ・写真が撮れることに感動しました。今までの展示では考えられないことです。素晴らしい。
- ・仏像に使われている技術を紹介する動画がとても良かったです。展示物にどの技術が使われているのか、一目で分かるアイコン。
- ・解説文の字をもう少し大きくしてほしいです。
- ・父はあまり目が見えないので、もう少し明るければよかったと言っていました。

特別展「室町将軍—戦乱と美の足利十五代—」 アンケート集計結果

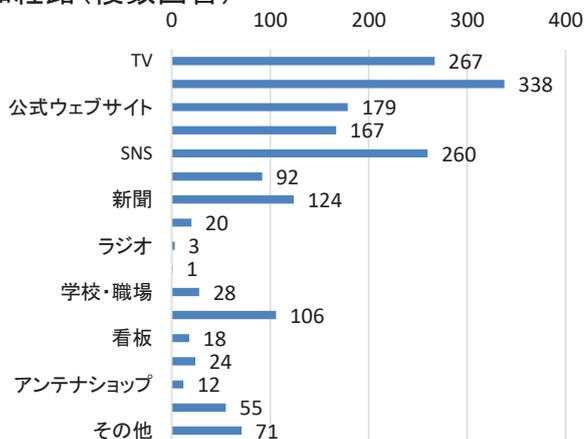
開催期間：7月13日(土)～9月1日(月) (45日間)

総回答者数：1,024人 (総来館者数：86,399人 アンケート回収率：1.19%)

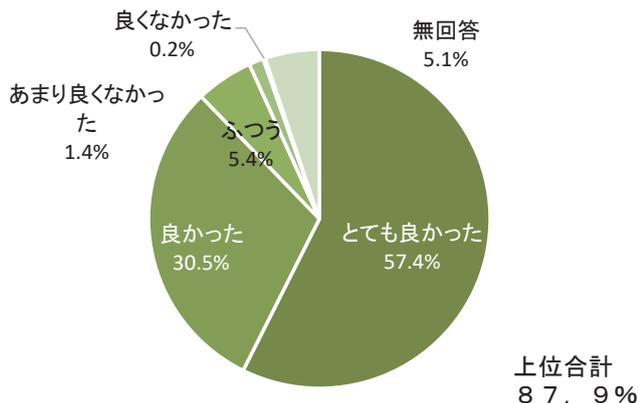
①年齢層



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



(4)主な意見・感想

・とても充実した内容で2時間かけてじっくり楽しむことができました。内容、展示物、音声ガイド、展覧の流れも室町時代の流れに沿っていて改めて室町時代を学ぶことができました。充実した企画展をありがとうございました。

・今回の特別展にくるまで室町時代には「全く」と言っていていい程興味がありませんでした。ですが、将軍たちのそれぞれのユニークなドラマに非常に魅了され、壮絶な時代背景にため息と手汗をにぎりました。本当におどろきの連続です。こんなにも引き込まれる室町時代、そして将軍たちの事を体験させて頂き、教えてくださりありがとうございました。

・刀剣乱舞とのコラボで音声ガイドの人をもってきてくれたのがとてもよかった。そのキャラクターがガイドをしてくれているようで、イベントのコラボとして素晴らしいと思いました。

・最初に将軍全員をイラストで紹介していたのが良かった。面白かったし、子どももたのしんでました。

・視覚障害を持つ方に対して、点字だけでなく、触って絵がわかるような展示があるのが素晴らしい。

・展示物への照明が明るくなり、説明文も文字の大きさなど見やすくなった。

・解説文で分からない言葉があって残念な気持ちになることがある。

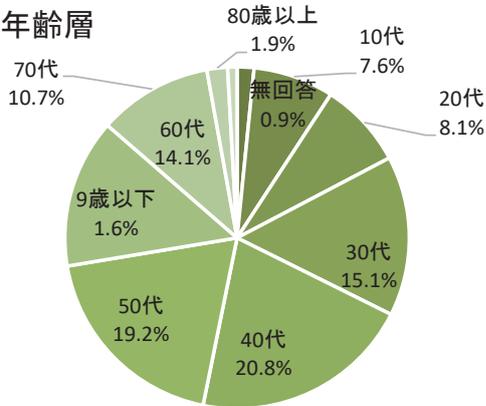
・充実した内容で疲れてくるが、展示品多く休憩スペースが少なかった。

日中文化交流協定締結40周年記念 特別展「三国志」 アンケート集計結果

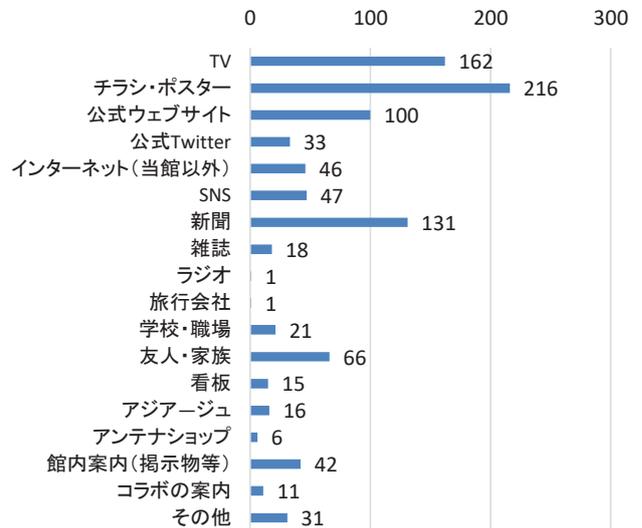
開催期間：10月1日(火)～2年1月5日(日)(77日間)

総回答者数：576人(総来館者数：140,155人 アンケート回収率：0.41%)

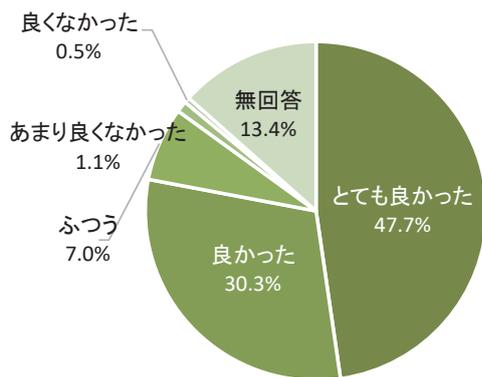
①年齢層



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



上位合計
78.0%

④主な意見・感想

東博でも見たが、文物との距離、展示の高さ、照明など、九博ならではの工夫と愛が感じられて良かった。

三国志の漫画は知っていたが、史実としてはあまり知らなかったので、知れて嬉しい。

中国へ行っても見る事が出来ないような物や、中国が広すぎて周ることができないものを見ることができ、とても良かった。

解説文がわかりやすく、量もちょうど読みやすくて良かった。

コラボでコーエー・NHK人形劇・横山光輝がそろっているのは、メインの展示とは別に貴重で素晴らしい。

「真・三國無双」コラボの音声ガイドが良かった。

スタッフが、ちょっとしたことでも親切に対応してくれた。

写真撮影ができたのでよい思い出になった。

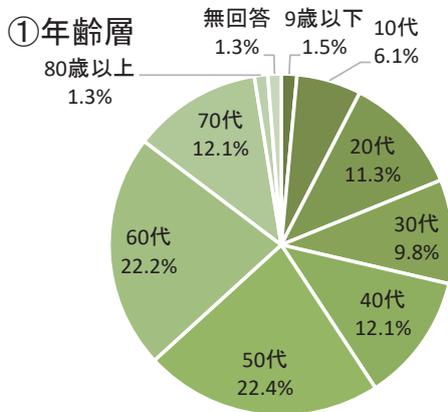
写真可のため、展示物が見づらく、シャッター音がわずらわしかった。

特別展「ルネ・ユイグのまなざし フランス絵画の精華 大様式の形成と変容」 アンケート集計結果

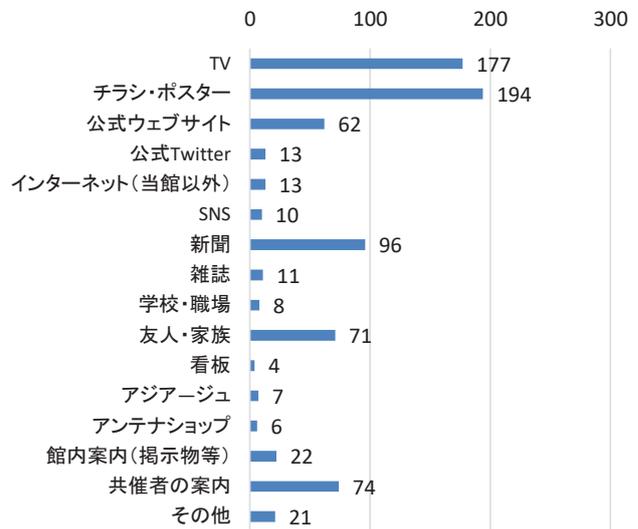
開催期間：2年2月4日(火)～3月29日(日)(20日間)

※2年2月27日～3月29日までコロナウイルス感染拡大防止対策のため閉館。

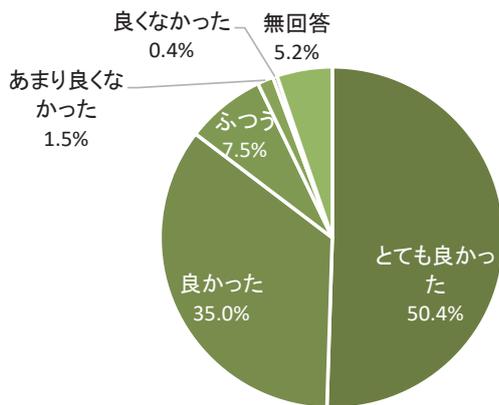
総回答者数：478人(総来館者数：45,636人 アンケート回収率：1.05%)



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

作品はどれもすばらしく、よくこれだけのものを集められたなと感激しました。今まで最高の九博の展示だと思いました。400～500年も前の油絵が大切に保存されている事に感動しました。尽力されたルネ・ユイグ氏に敬意を表します。比較的ゆったりと展示されていて、車いす来場者の方も見やすいようでした。展示文章がシンプルで、長くないのが良い。わかりやすい。説明過多になっていない。写真をとって良い作品があったのは初めてでした。私はとてもうれしかったです。夜間開館は旅行者にとって時間を有効に使えてとても良かったです。宝塚とのコラボ衣装がすてきだった。作品によっては、照明の当て方で光の反射があり、見づらいものがあった。できれば解説文と作品名の文字を大きくしてほしい。混んでいて人が多いときは見えない。